

**令和7年度**  
**静岡市「こどもの生活実態調査」**  
**【調査結果報告書】**

**静岡市**



## 【目次】

I	アンケート調査の概要.....	1
	1. 調査目的.....	2
	2. 市民アンケート調査等.....	2
	3. 支援者ヒアリング・アンケート調査.....	4
II	市民アンケート調査結果.....	5
	集計結果 子ども.....	6
	1. あなたのこと.....	6
	2. 普段の生活のこと.....	9
	3. 学校や勉強のこと.....	35
	4. 普段考えていること.....	51
	5. 静岡市の取組について.....	96
	集計結果 保護者.....	103
	1. 回答者のこと.....	103
	2. 世帯員のこと.....	106
	3. 世帯の家計のこと.....	129
	4. こどものこと.....	148
	5. 回答者と回答者の配偶者の状況.....	194
	6. 静岡市の取組について.....	217
III	支援者ヒアリング・アンケート調査結果.....	237
	1. ヒアリング実施結果.....	238
	2. アンケート実施結果.....	249
IV	参考資料.....	257
	1. 一般調査依頼票（子ども）.....	258
	2. 一般調査票（子ども）.....	259
	3. 一般調査依頼票（保護者）.....	265
	4. 一般調査票（保護者）.....	266



# I アンケート調査の概要

---

---

# I アンケート調査の概要

## 1. 調査目的

本市におけるこどものいる世帯の状況を把握することを目的に、本年度「こどもの生活実態調査」を実施しました。調査の概要は下記のとおりです。

## 2. 市民アンケート調査等

### (1) 調査対象者

#### ①一般調査

ア	5歳のこども（年中相当）の保護者	1,500世帯
イ	10歳のこども（小学5年）とその保護者	1,869世帯
ウ	13歳のこども（中学2年）とその保護者	1,495世帯
エ	16歳のこども（高2相当）とその保護者	1,500世帯

5歳及び16歳のこどもは、住民基本台帳より無作為抽出。10歳のこどもは全小学校の5年1組、13歳のこどもは全中学校の2年1組（ただし、全校生徒500人以上の中学校においては2年2組まで）の児童・生徒に学校を通じて調査票を配付。

#### ②制度利用者

生活保護受給世帯、児童扶養手当受給世帯、就学援助受給世帯のうち、0歳から17歳（令和7年4月1日現在）のこどもとその保護者2,000世帯  
（こどもの回答は、小学校5年生以上に依頼。）

### (2) 調査期間

- ①一般調査 令和7年11月19日から令和7年12月12日まで
- ②制度利用者 令和7年11月26日から令和7年12月19日まで

### (3) 調査方法

上記（1）ア、エ、制度利用者は郵送配付・インターネット回答により回収  
イ、ウは学校配付・インターネット回答により回収

### (4) 回収状況

調査票		配布数	有効回答数	有効回答率	
一般	5歳	保護者	1,500	763	50.9%
	10歳	保護者	1,869	940	50.3%
		こども	1,869	830	44.4%
	13歳	保護者	1,495	635	42.5%
		こども	1,495	504	33.7%
	16歳	保護者	1,500	390	26.0%
	こども	1,500	325	21.7%	
制度利用者		保護者	2,000	523	26.2%
		こども	1,267	188	14.8%
合計		保護者	8,364	3,251	38.9%
		こども	6,131	1,847	30.1%
		計	14,495	5,098	35.2%

## (5) 集計結果の見方

- ・回答は各設問の回答者数（N）を基数とした百分率で（％）で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならないことがあります。
- ・グラフ内で回答者数がない場合の「0」表示については、省略しています。
- ・「あてはまるものすべて」（複数回答）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を除いています。なお、クロス集計とは、複数の項目を組み合わせで分類した集計のことで、複数の設問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

### 【階層区分について】

- ・保護者からの回答（世帯員の数・世帯の可処分所得）をもとに、等価可処分所得（※）を算出し、これをもとに困窮の程度を4つの階層に分類し、比較分析を行いました。

#### ※等価可処分所得

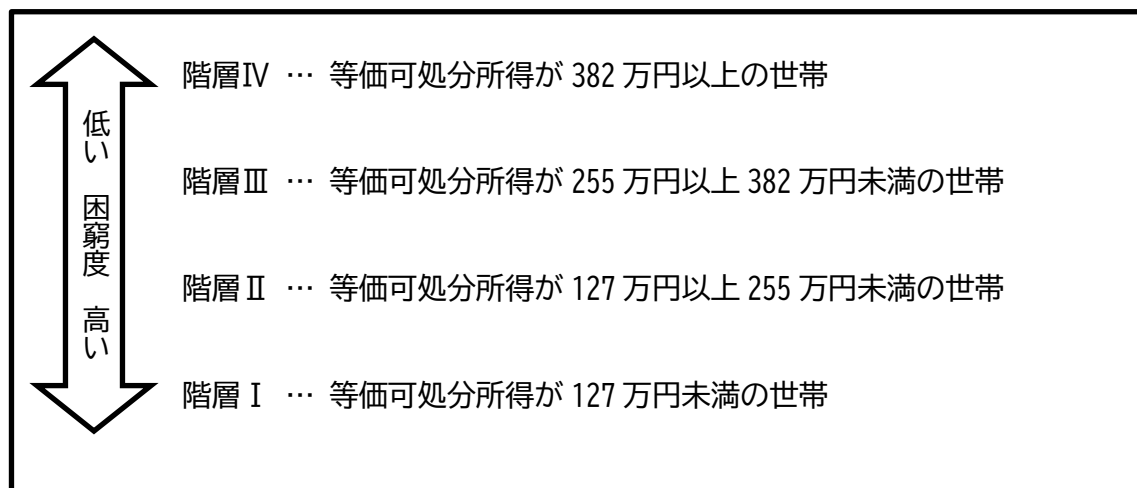
世帯の可処分所得（収入から税金や社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得のことをいい、この算出方法は、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づいています。

なお、本市で実施した「こどもの生活実態調査」では、世帯の所得額について、回答者の負担を考慮し、50～100万円の幅を持たせた選択肢で回答を求めています。

そのため、選択肢の上限値と下限値の平均値を世帯人員の平方根で割って調整した値を当てはめています。

※厚生労働省が令和3年度に実施した国民生活基礎調査では、等価可処分所得の中央値の半分の額（貧困線）が127万円であり、これを下回る世帯を相対的貧困と位置付けています。

本市では、この中央値を基準とし、以下の4階層に分類しています。



### 3. 支援者ヒアリング・アンケート調査

#### (1) 調査対象者

ヒアリング (11 か所)	児童養護施設 (1 か所)、母子生活支援施設 (1 か所)、母子寡婦福祉会 (1 か所)、民生委員・主任児童委員 (3 区)、学習支援・生活支援施設を行う団体 (2 か所)、子育て支援課 (3 区)
アンケート (497 か所)	生活支援課 (3 区)、保健福祉センター (9 か所)、こども若者相談センター (1 か所)、児童相談所 (1 か所)、こども園、保育園、幼稚園、市立小学校・中学校・高等学校、市内特別支援学校、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、児童館、放課後児童クラブ、学習支援を行う団体、中央子育て支援センター (2 か所)、静岡市里親会、静岡県立こども病院、静岡済生会総合病院 (対象 497 か所中 268 か所が回答 (回収率 53.9%))

#### (2) 調査期間

##### ①支援者ヒアリング

令和7年12月9日～12月23日

##### ②支援者アンケート

令和7年11月28日～令和7年12月19日

#### (3) 調査方法

①支援者ヒアリング：上記11か所に対し、対面による聞き取り調査を実施

②支援者アンケート：上記497か所に対し、調査票をメールまたは郵送にて配付・インターネット回答により回収

#### (4) 調査項目

①生活や健康、学習面等で困難を抱えやすい、あるいは抱えているこどもの特徴・課題等

②生活や健康等で困難を抱えやすい、あるいは抱えている保護者の特徴・課題等

③支援にあたっての課題等

④困難を抱えているこどもやその保護者の状況が改善に向かった好事例

⑤今後必要となる支援（市に望む支援・施策）

## Ⅱ 市民アンケート調査結果

---

---

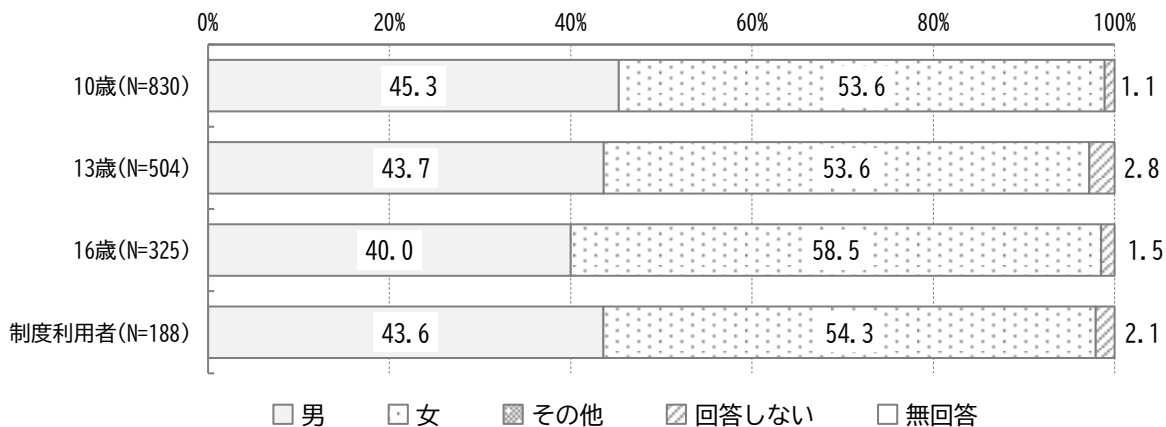
## II 市民アンケート調査結果

### 集計結果 こども

#### 1. あなたのこと

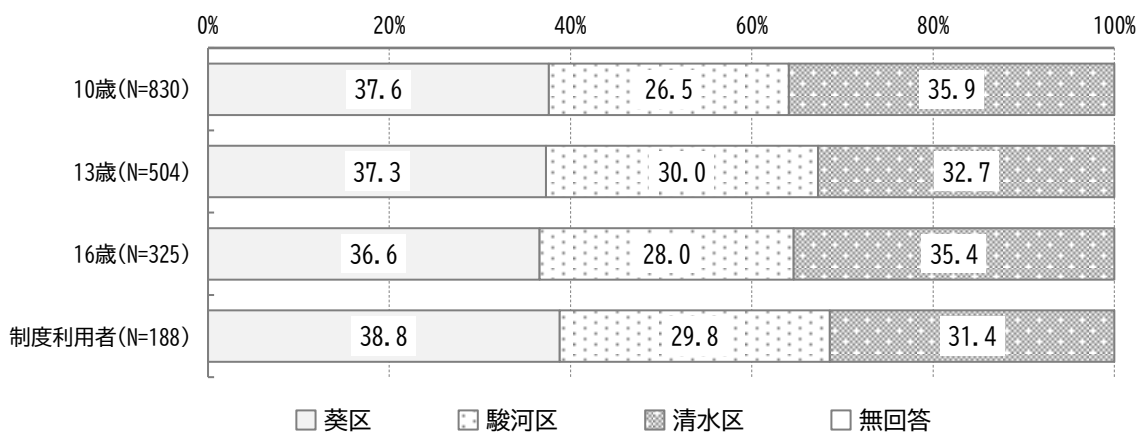
問1 あなたの性別を教えてください。(あてはまるもの1つ)

各年齢、制度利用者とも「女性」が半数以上となっています。



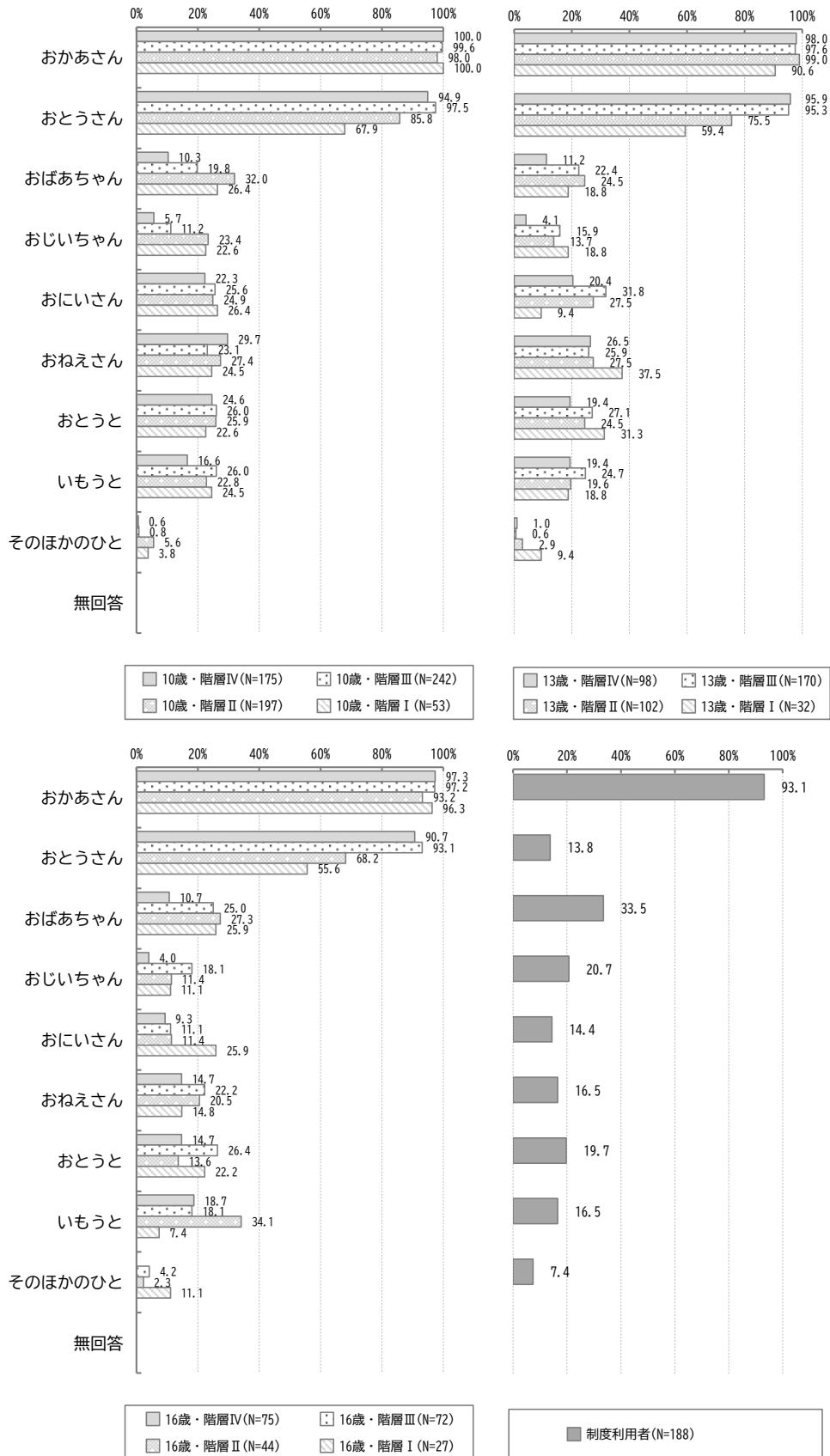
問2 あなたの住んでいる区を教えてください。(あてはまるもの1つ)

各年齢、制度利用者とも「葵区」が最も高く、次いで「清水区」、「駿河区」となっています。  
 なお、これらの割合は実際の静岡市の区別人口割合と概ね同じです。



問3 あなたと一緒に住んでいる人を教えてください。(あてはまるものすべて)

各年齢・階層、制度利用者とも、「おかあさん」が最も高くなっています。10歳、13歳、16歳の階層I及び制度利用者は、「おとうさん」がいない割合が高くなっています。

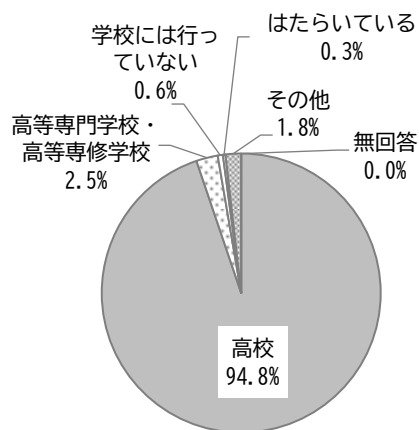


問4 あなたが今通っている学校や仕事の状況を教えてください。(あてはまるもの1つ)

※10歳、13歳については、「小学校」「中学校」が100%。

16歳では、「高校」94.8%、「高等専門学校・高等専修学校」2.5%、「学校には行っていない」が0.6%、「はたらいている」0.3%、「その他」1.8%となっています。

16児歳(N=325)



問5 令和7年4月1日のときのあなたの年を教えてください。(あてはまるもの1つ)

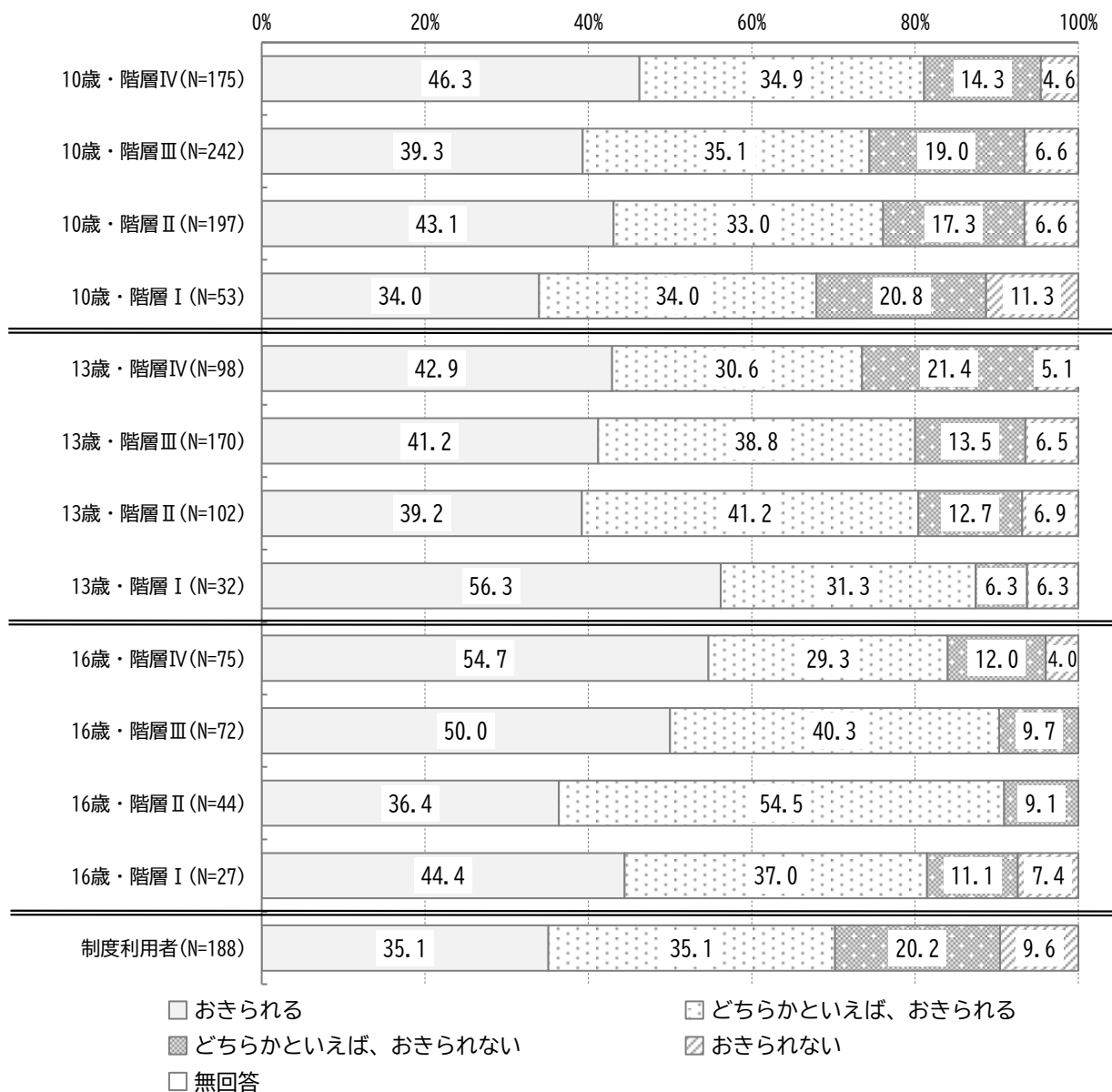
回答者の年齢を把握する質問のため、掲載は省略します。

## 2. 普段の生活のこと

問6 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）、朝決まった時間に起きられますか。（あてはまるもの1つ）

各年齢・階層、制度利用者において、「おきられる」（「おきられる」「どちらかといえばおきられる」の合計）の割合が高くなっています。

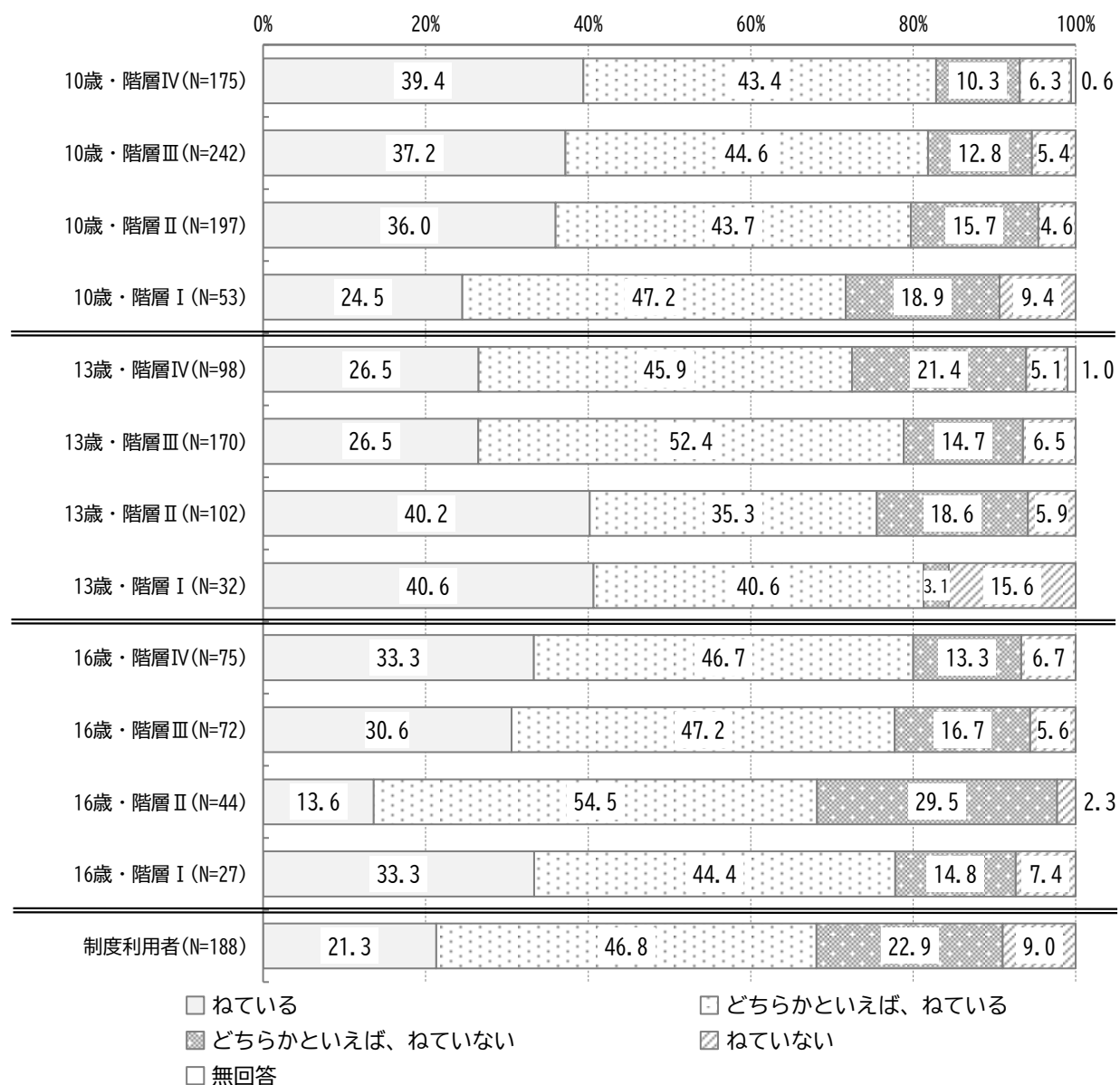
10歳では、階層が低くなるにしたがって、おきられない（「どちらかといえばおきられない」「おきられない」）の割合が高くなる傾向がみられます。



問7 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）、ほぼ同じ時間に寝ていますか。（あてはまるもの1つ）

各年齢・階層、制度利用者において、「ねている」（「ねている」「どちらかといえば、ねている」の合計）の割合が高くなっています。

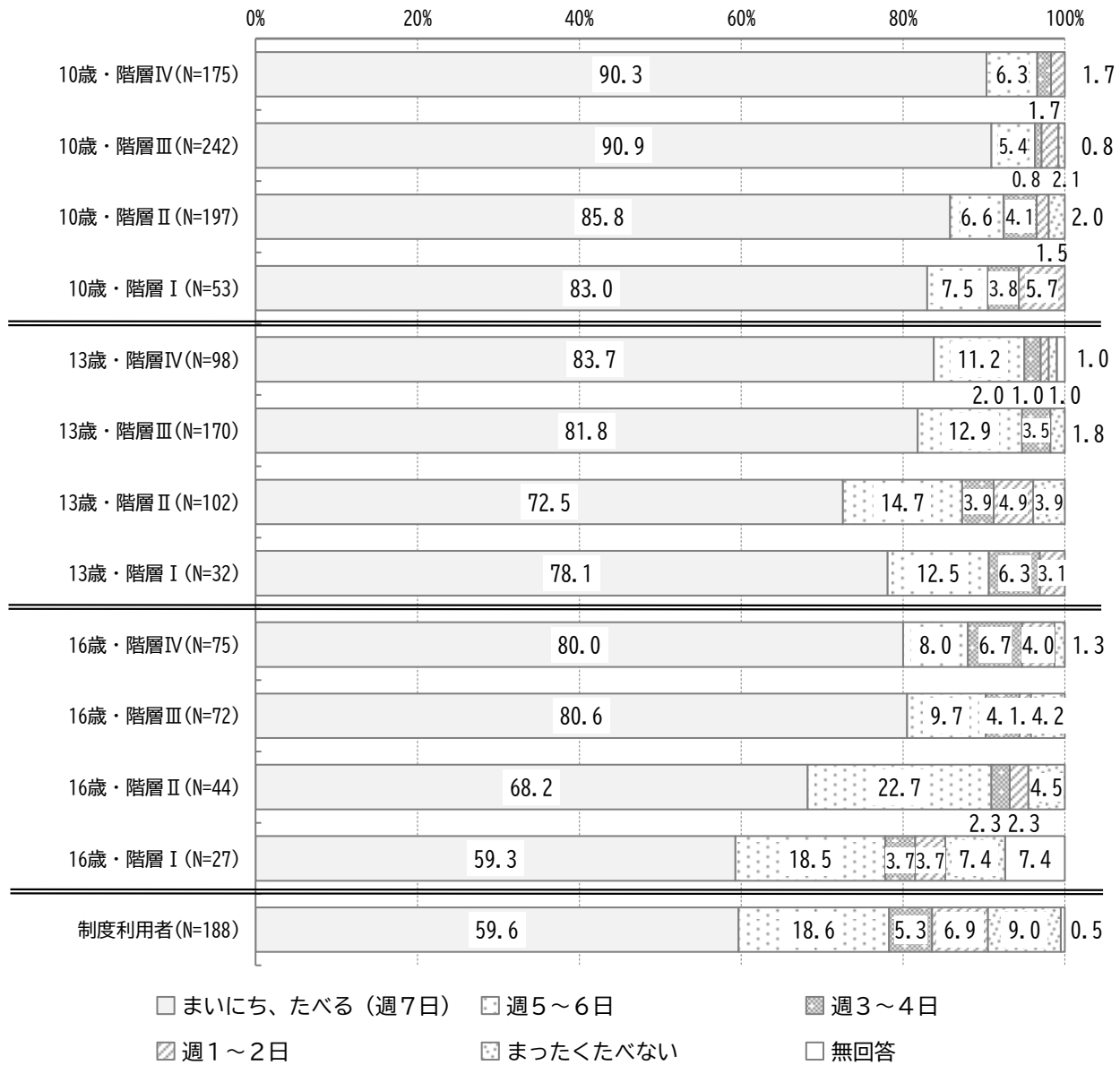
10歳では、階層が低くなるにしたがって、ねていない（「どちらかといえばねていない」「ねていない」）の割合が高くなる傾向がみられます。



問8 あなたは週にどのくらい、食事をとっていますか。(それぞれあてはまるもの1つ)

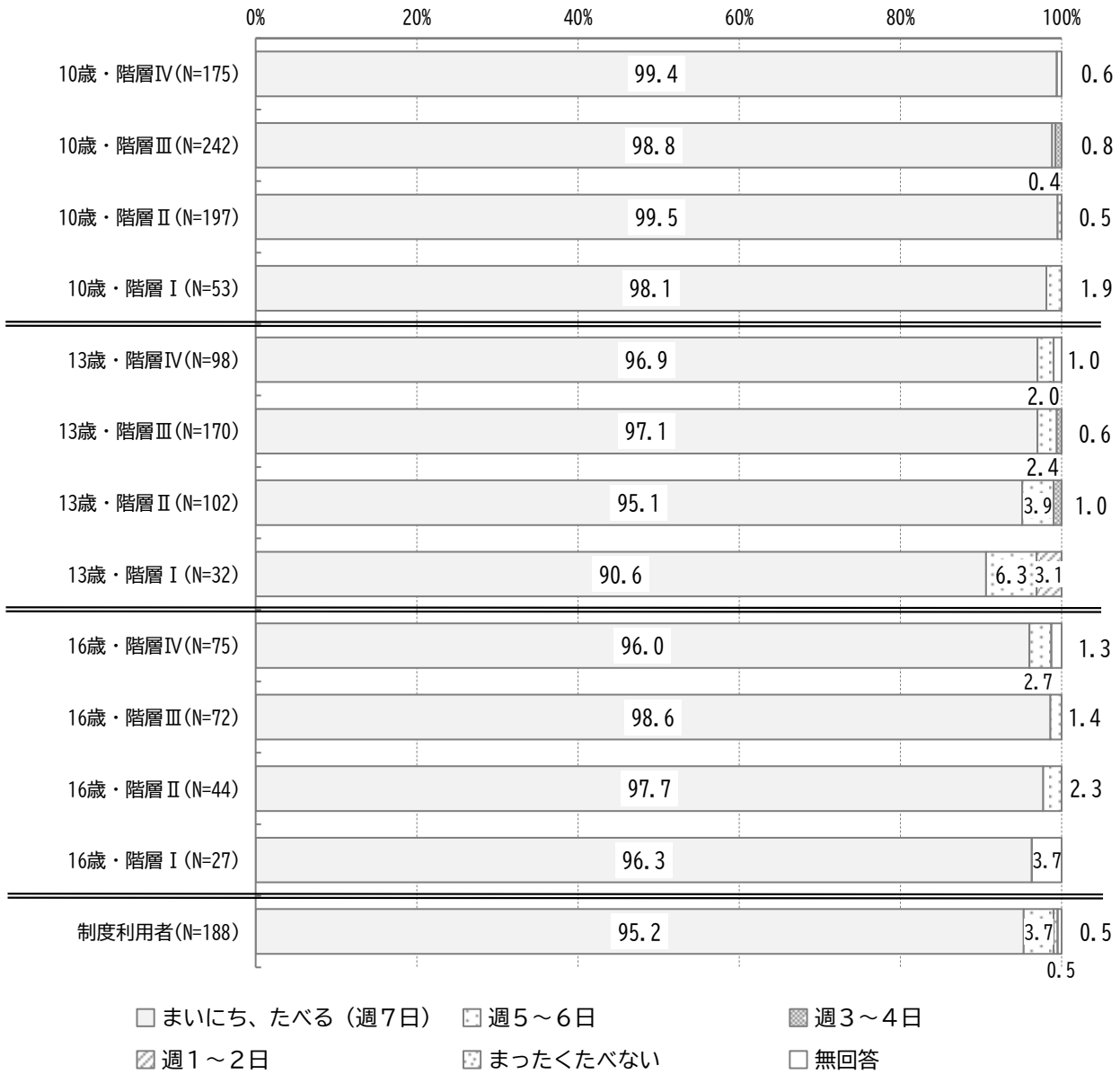
【問8-a 朝食】

各年齢・階層、制度利用者において「まいにち、たべる（週7日）」の割合が高くなっています。10歳、16歳では、階層が低い方が「まいにち、たべる（週7日）」の割合が低い傾向にあります。



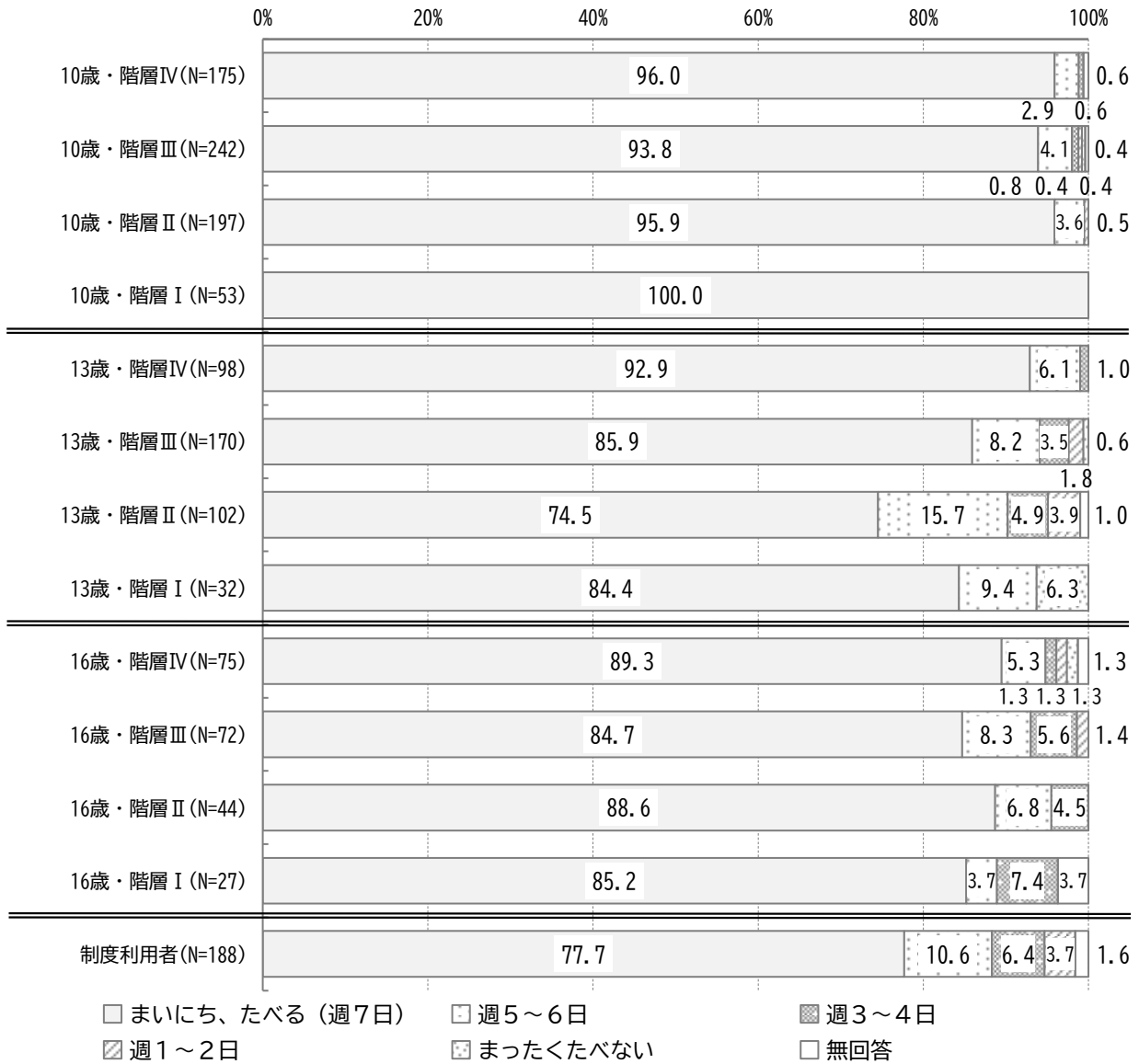
【問8-b 夕食】

各年齢・階層、制度利用者において「まいにち、たべる（週7日）」の割合が高くなっています。一方、13歳では、階層が低くなるにつれ、「まいにち、たべる（週7日）」の割合が低くなっています。



【問8-c 夏休みや冬休みなどの期間の昼食】

各年齢・階層、制度利用者において「まいにち、たべる（週7日）」の割合が高くなっています。13歳・階層Ⅱと制度利用者では、「まいにち、たべる（週7日）」が8割未満となっています。

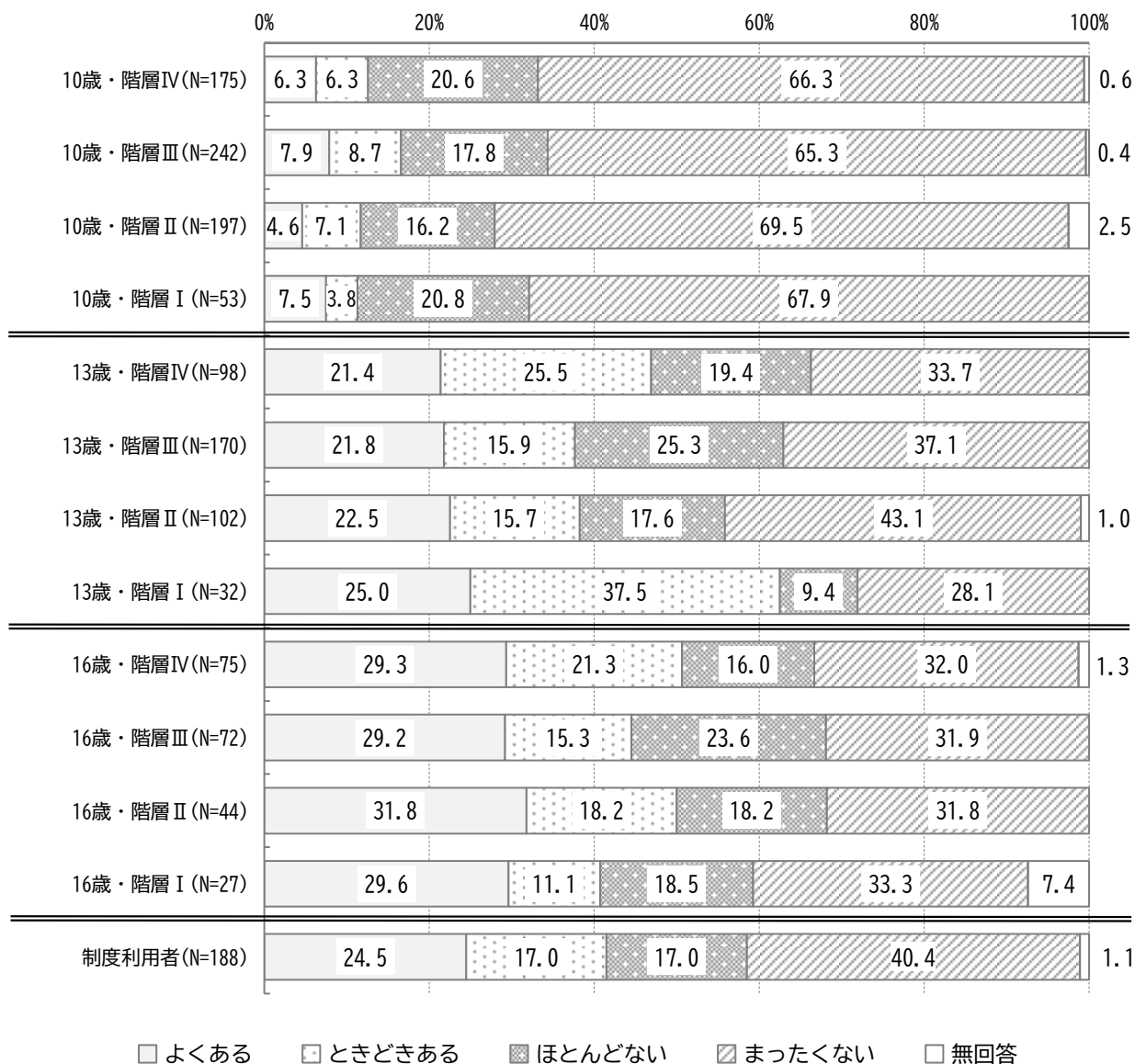


問9-1 あなたは家でひとりで食事をとることがありますか。(それぞれあてはまるもの1つ)

【問9-1-a 朝食】

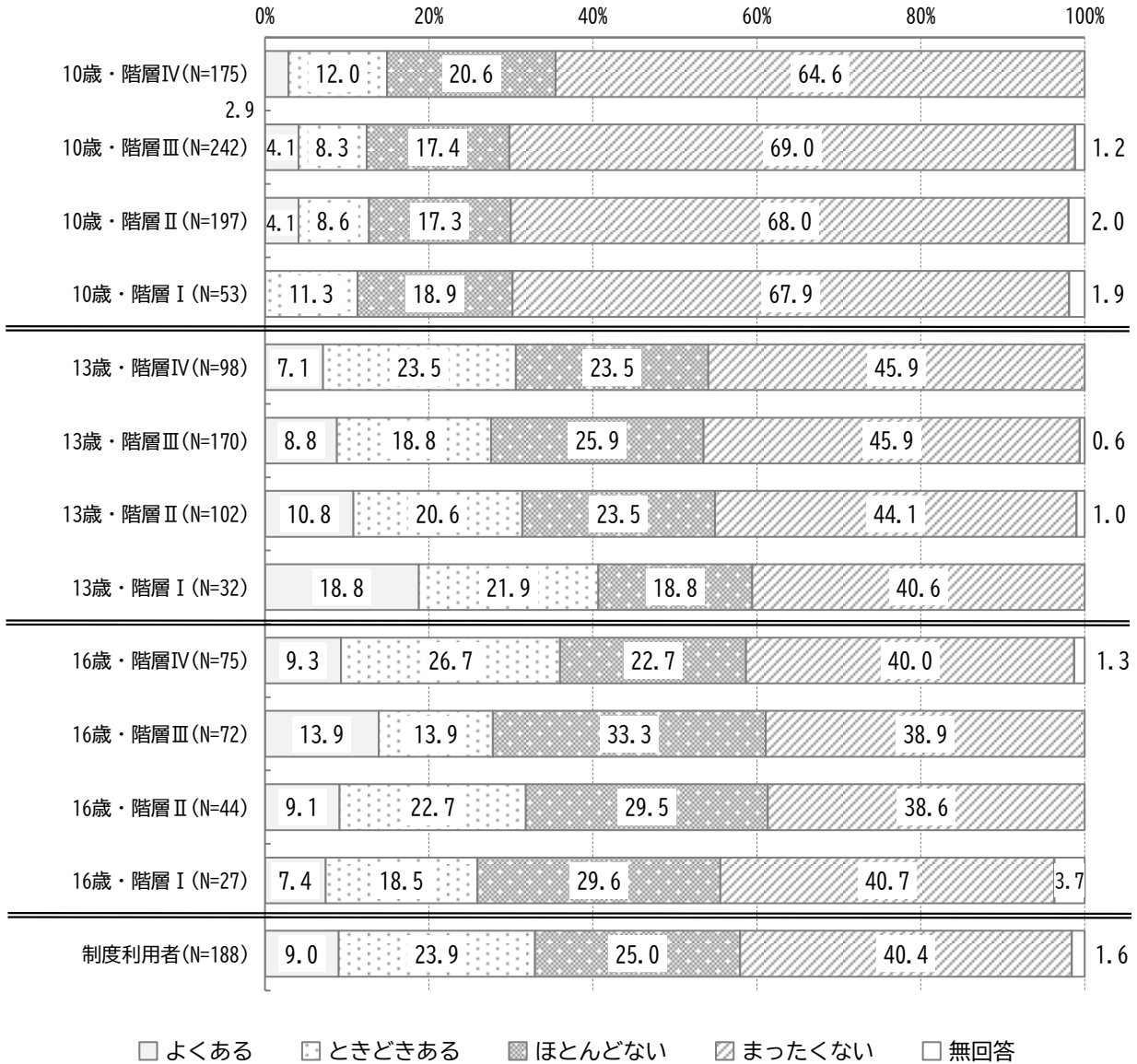
各年齢・階層において、年齢が上がるにつれて、「よくある」「ときどきある」の割合が高くなる傾向がみられます。

10歳と比べて13歳、16歳において、「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が高くなっています。16歳では、すべての階層で「よくある」が3割前後になっています。



【問9-1-b 夕食】

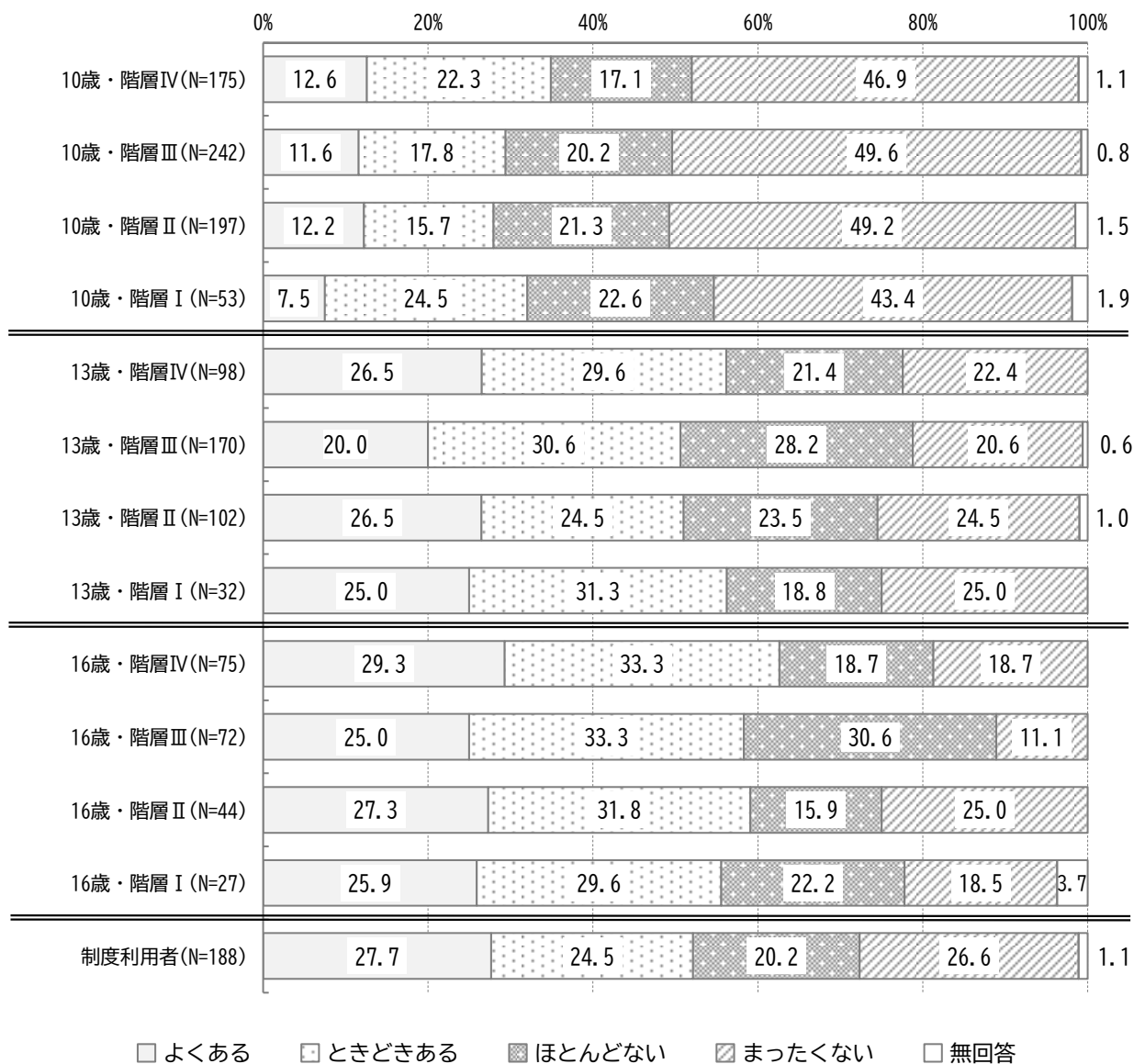
10歳と比べて13歳、16歳において、「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が高くなっています。13歳、16歳では、すべての階層で「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が25%を超えています。



### 【問9-1-c 夏休みや冬休みなどの期間の昼食】

各年齢・階層において、年齢が上がるにつれて、「よくある」「ときどきある」の割合が高くなる傾向がみられます。

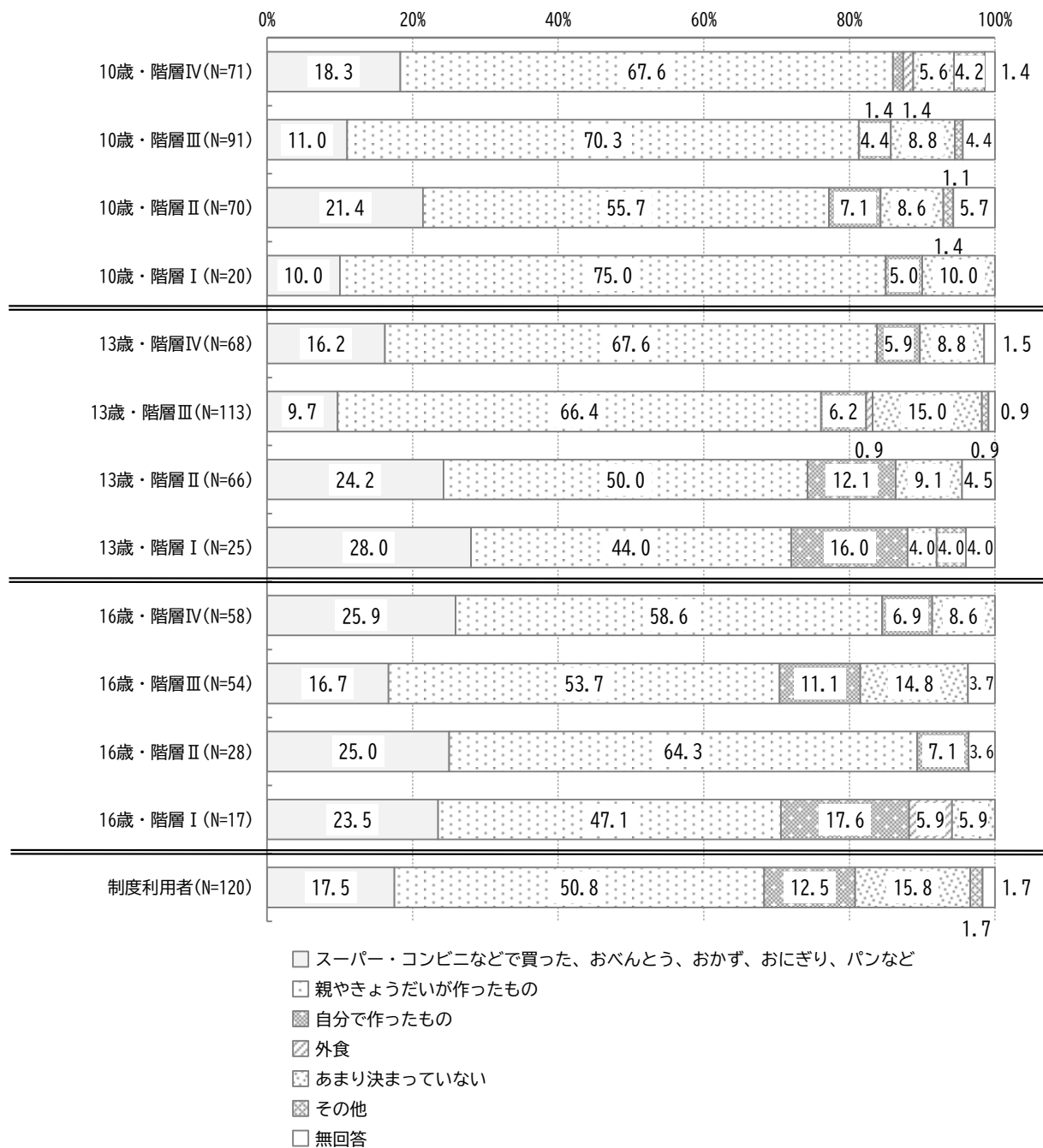
10歳と比べて13歳、16歳において、「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が高くなっています。13歳、16歳では、すべての階層で「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が半数以上となっています。



問9-1で「よくある」、「ときどきある」と答えた方にききます。

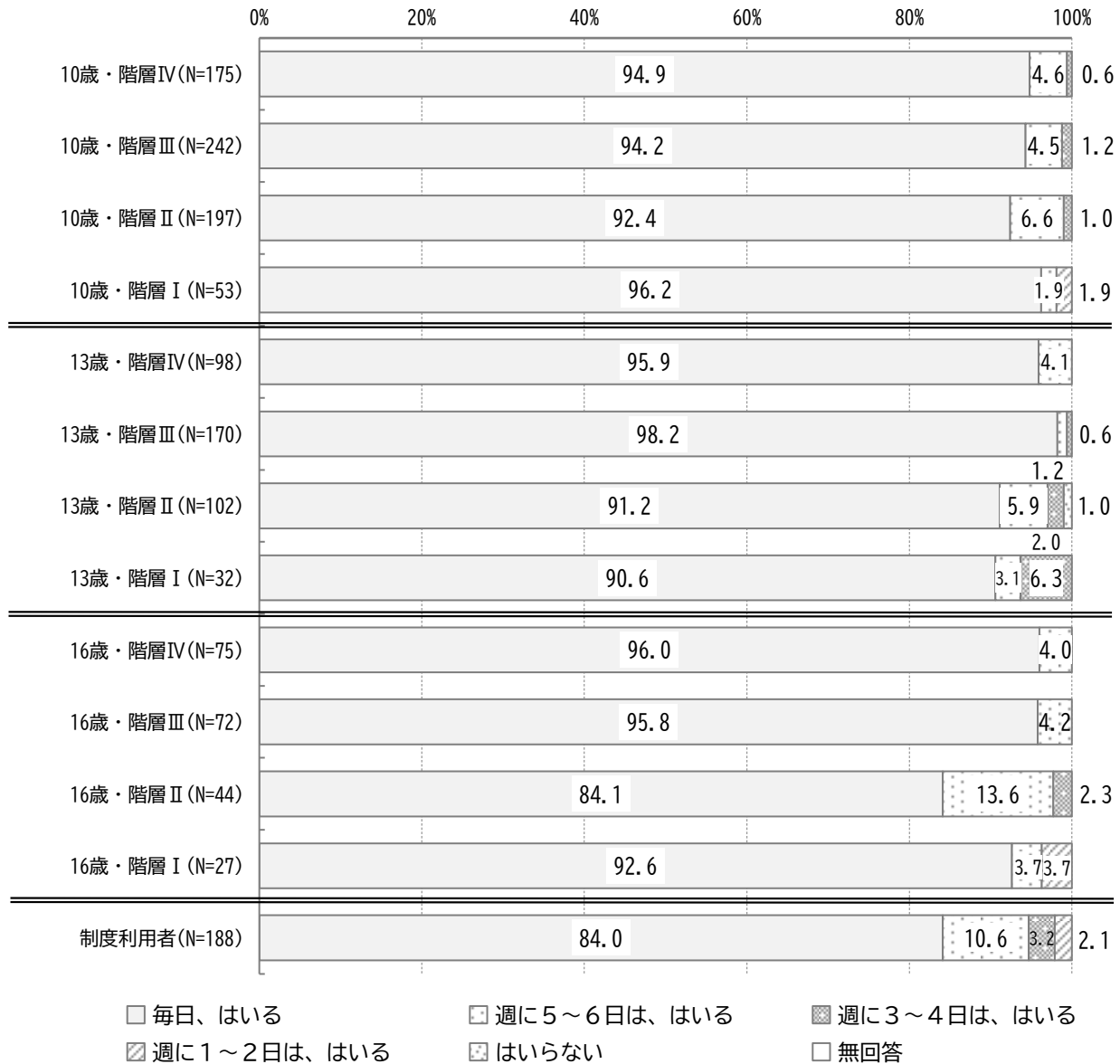
問9-2 ひとりでごはんを食べるとき、特によく食べているものを教えてください。  
(あてはまるもの1つ)

各年齢・階層、制度利用者において、「親やきょうだい作ったもの」の割合が最も高くなっています。



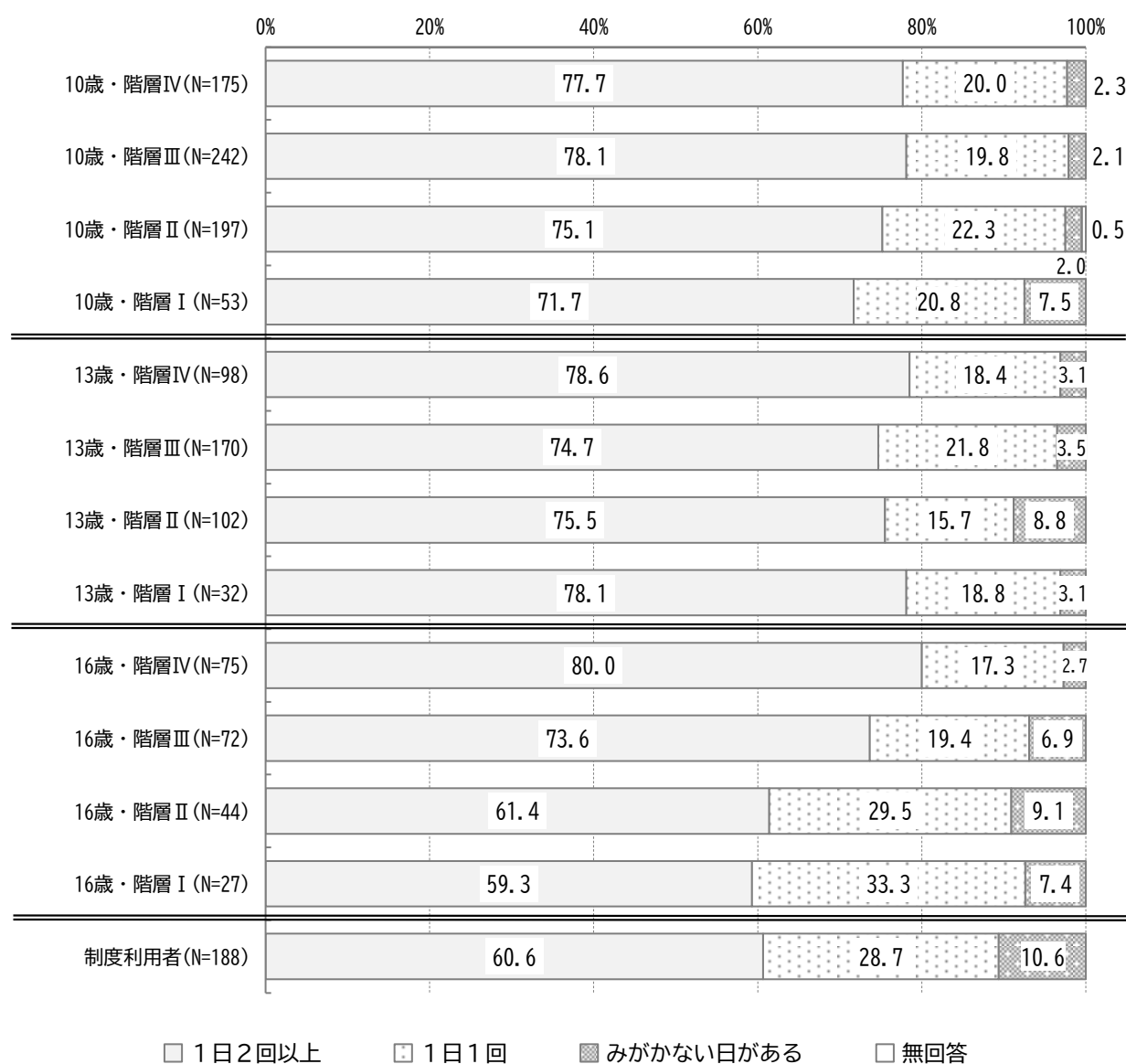
問 10-1 あなたは、週にどのくらい、お風呂（シャワーのみも含む）に入りますか。  
 （あてはまるもの1つ）

各年齢・階層、制度利用者において、「毎日、はいる」の割合が最も高くなっています。16歳・階層Ⅱと制度利用者では、「毎日、はいる」の割合が9割未満になっています。



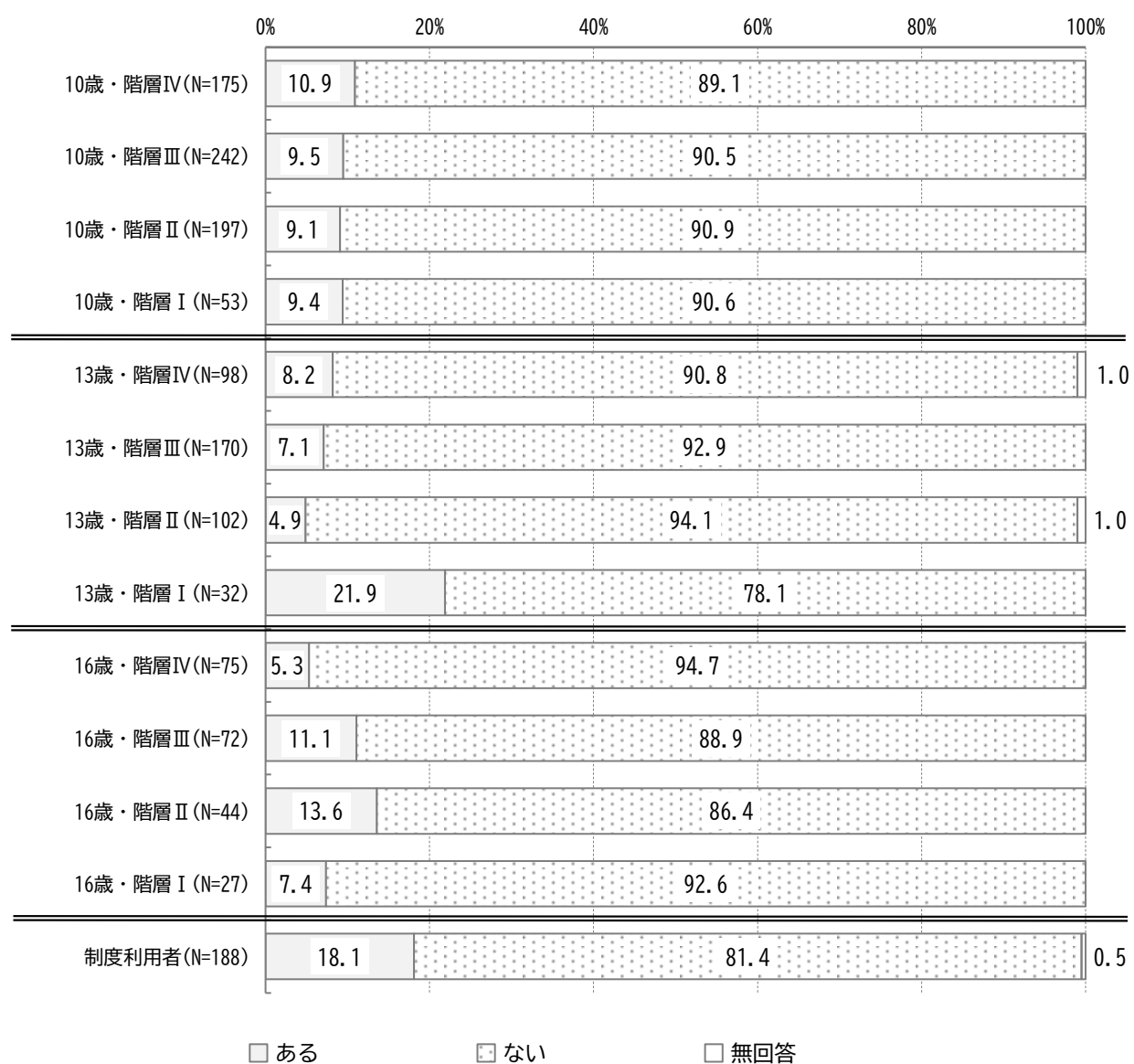
問 10-2 あなたは、1日にどのくらい歯みがきをしていますか。(あてはまるもの1つ)

各年齢・階層、制度利用者において、「1日2回以上」の割合が最も高くなっています。10歳、16歳では、階層が低くなるにつれて「1日2回以上」の割合が低くなっています。



問 11-1 あなたは、今、むし歯がありますか。(あてはまるもの1つ)

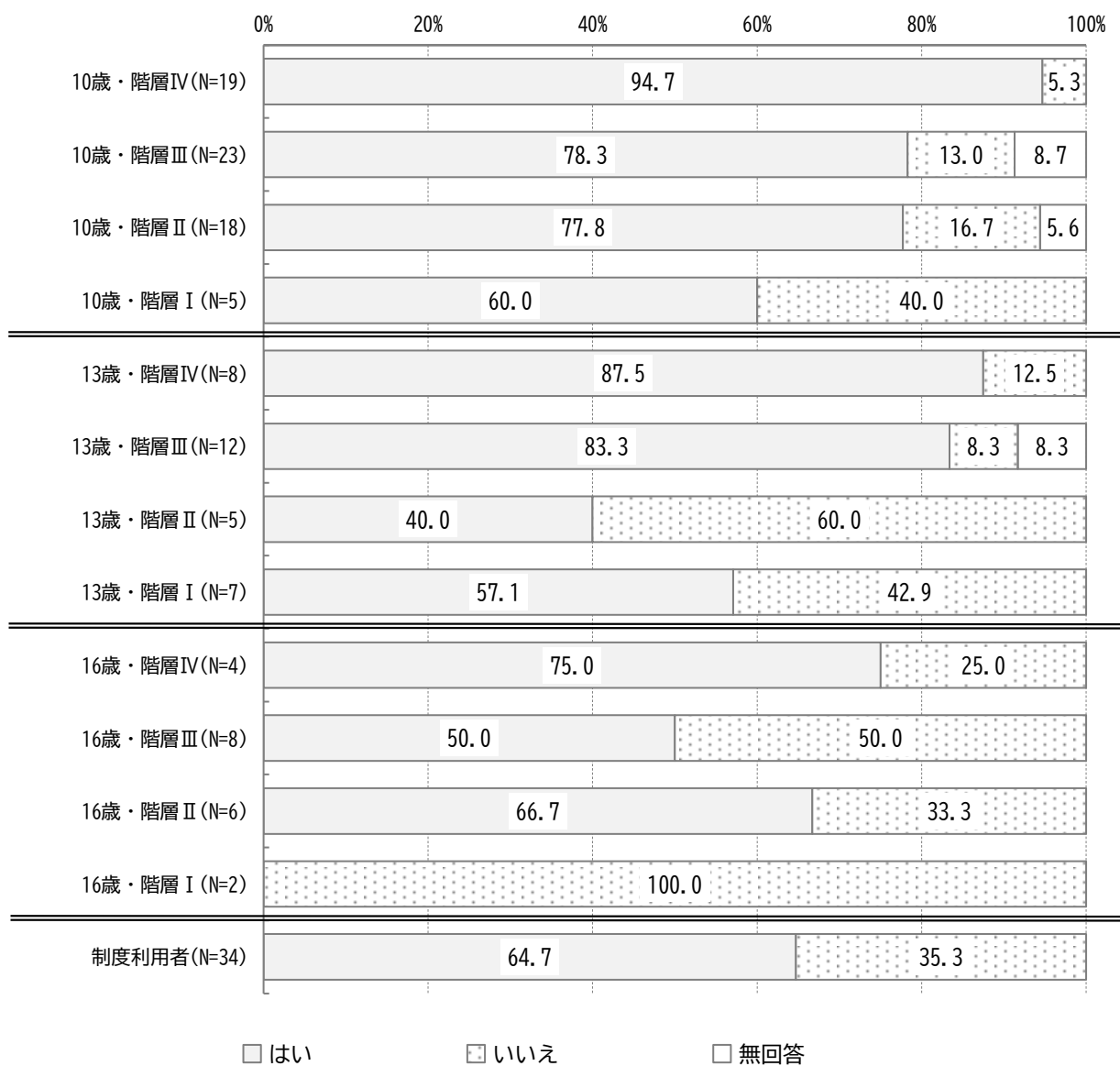
各年齢・階層、制度利用者において、「ない」の割合が最も高くなっています。しかし、特に13歳・階層Iと制度利用者では、「ある」の割合が高くなっています。



問 11-1 で「ある」と答えた方にききます。

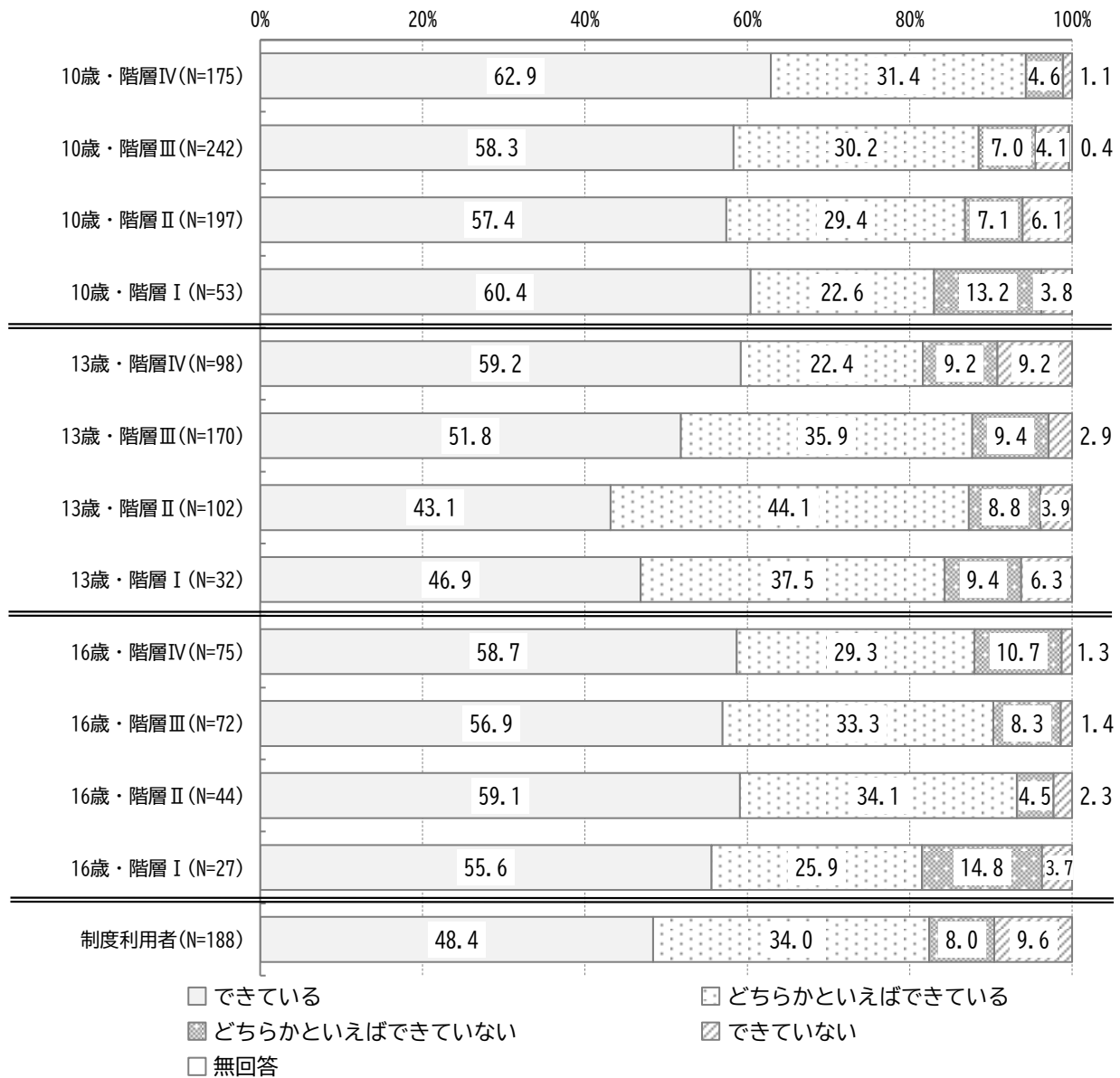
問 11-2 むし歯を治すために歯医者に行っていますか。

(回答者数が少ないため参考値) 階層が低くなるにつれ、「はい」が少なくなる傾向がうかがえます。



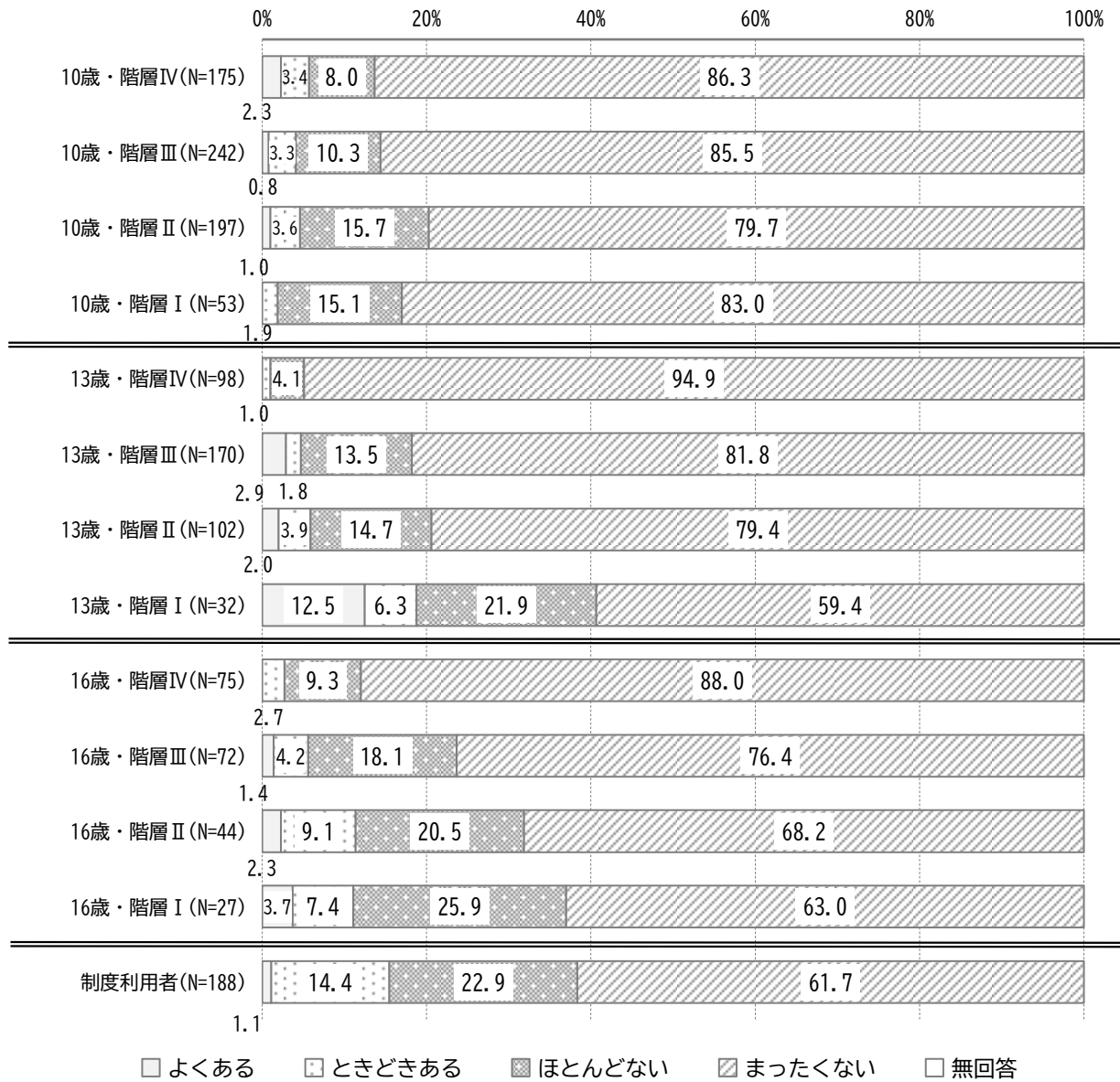
問 12 あなたは、困りごとなく学校生活や日常生活を送ることができていると思いますか。  
(あてはまるもの1つ)

各年齢・階層、制度利用者において、「できている」「できている」「どちらかといえばできている」の割合が高くなっています。10歳では、階層が低くなるにつれて「できている」「できている」「どちらかといえばできている」の割合が低くなっており、10歳と16歳では、階層Iで「できている」「できている」「どちらかといえばできている」の割合が最も低い傾向にあります。



問 13 あなたは普段の生活の中で、お金が足りなくて、必要な文具や教材が買えないことはありますか。(あてはまるもの1つ)

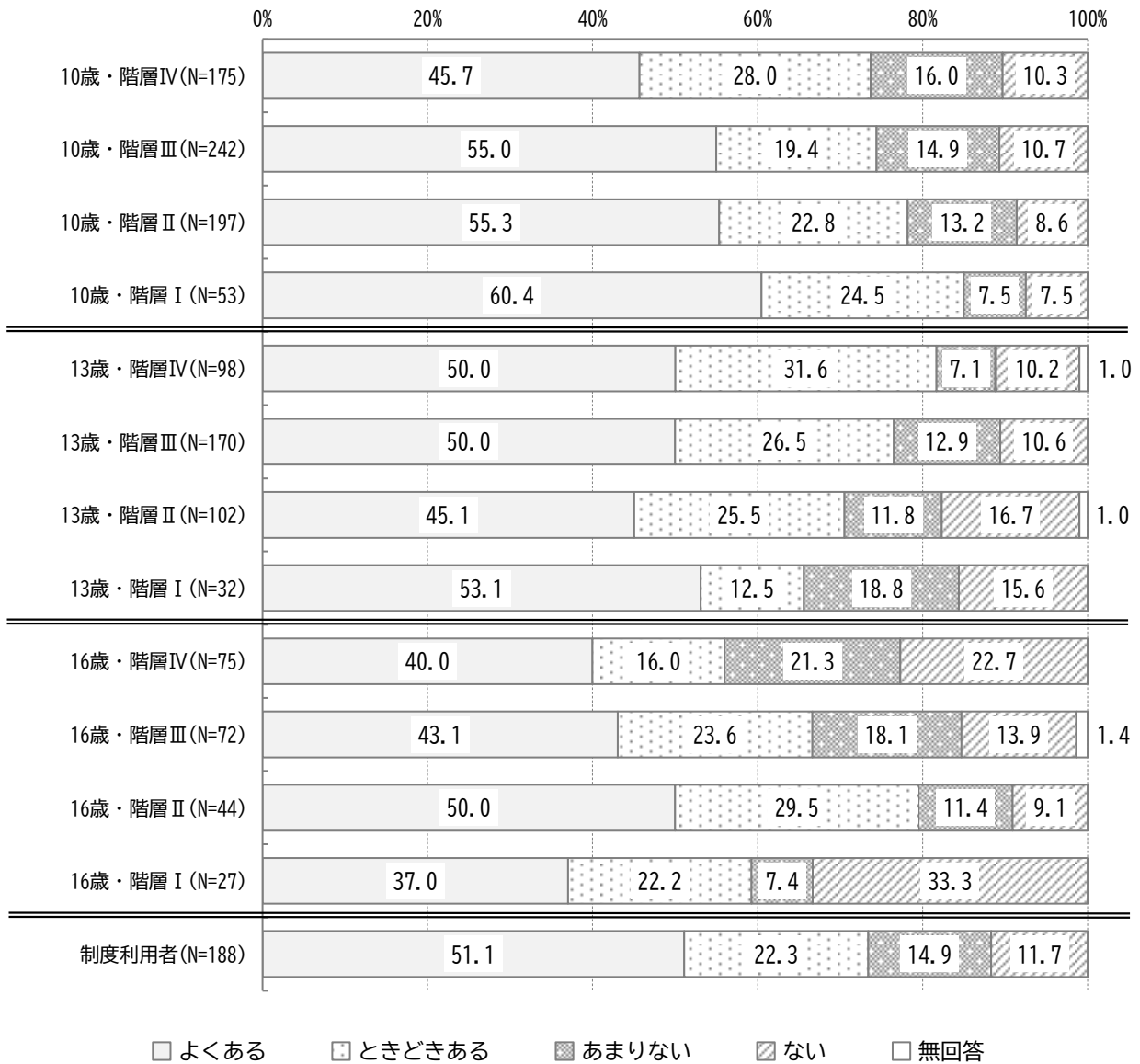
各年齢・階層、制度利用者において、「まったくない」の割合が高くなっています。13歳、16歳では階層が低くなるにつれて「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が高くなっており、制度利用者では最も割合が高くなっています。



問 14 あなたは、次の①～⑦のようなことをどのくらいしていますか。(それぞれあてはまるもの1つ)

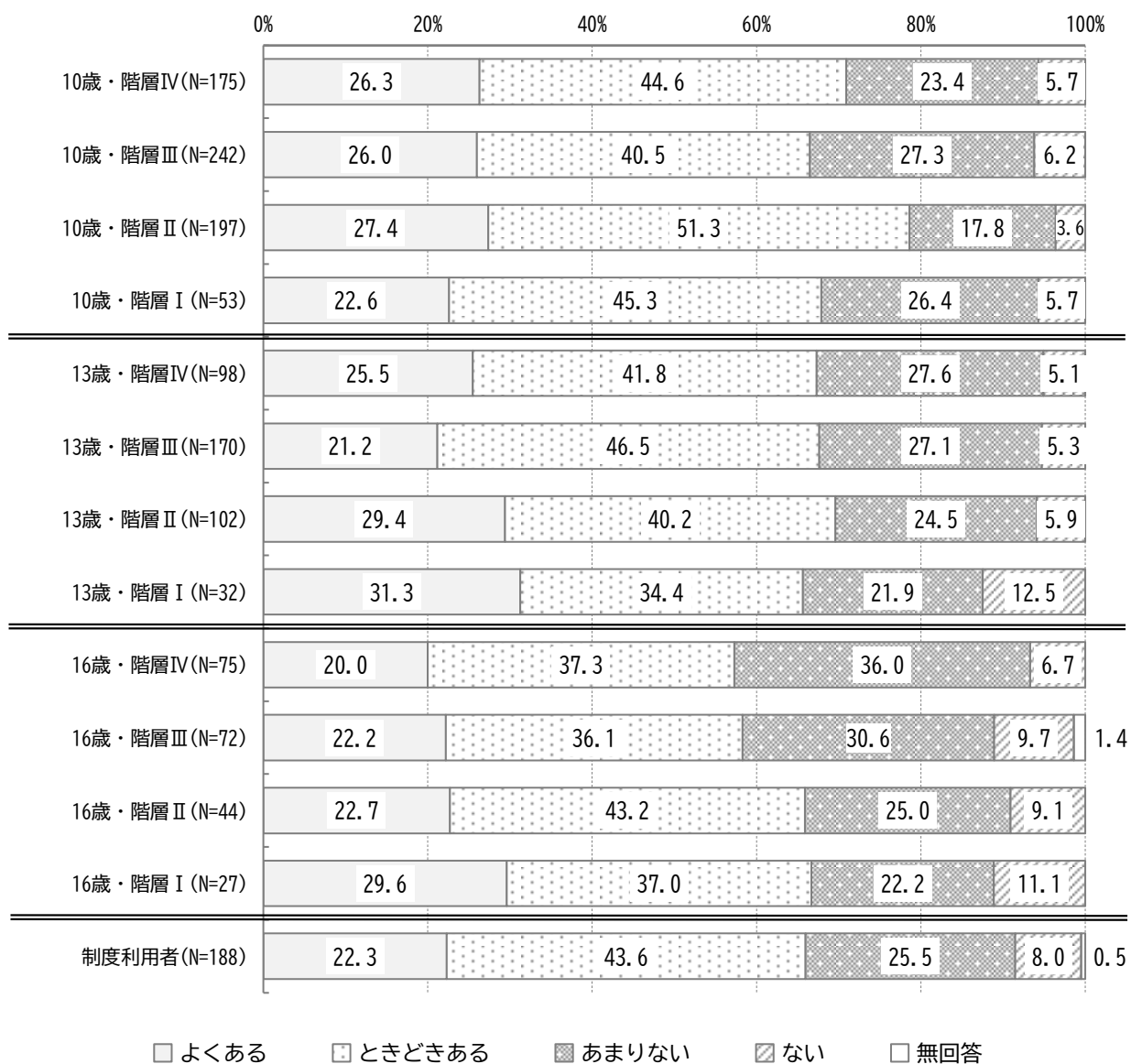
【問 14-① 家族の大人の人に朝、起こしてもらう】

各年齢・階層、制度利用者において、「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が半数以上となっています。10歳では、階層が低くなるにつれて「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が高くなっている一方で、13歳では、階層が低くなるにつれて割合が低くなっています。



【問 14-② 家族のお手伝いをする】

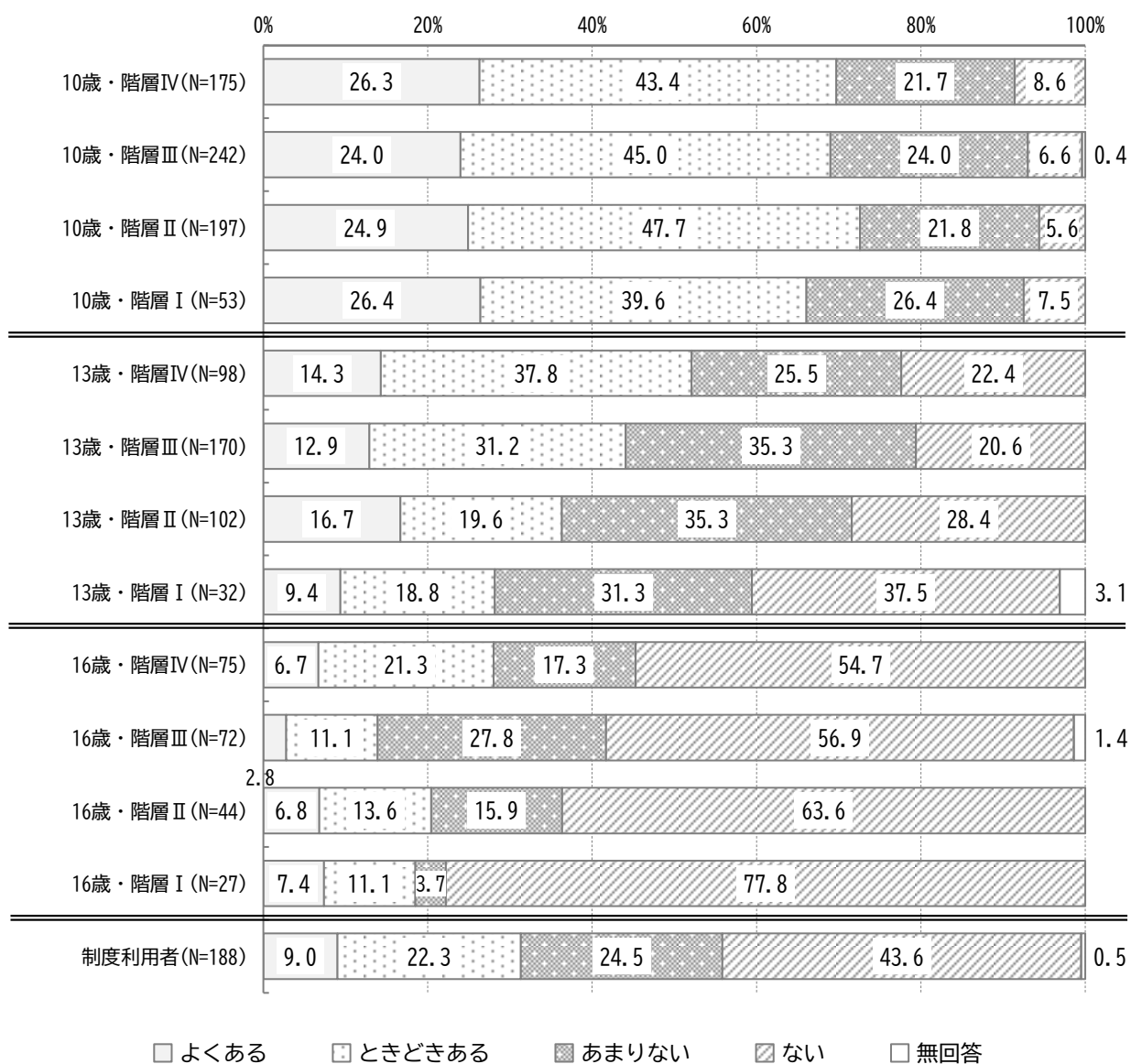
各年齢・階層、制度利用者において、「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が半数以上となっています。16歳では、階層が低くなるにつれて「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が高くなっています。



【問 14-③ 家族の大人の人に勉強を教えてもらう】

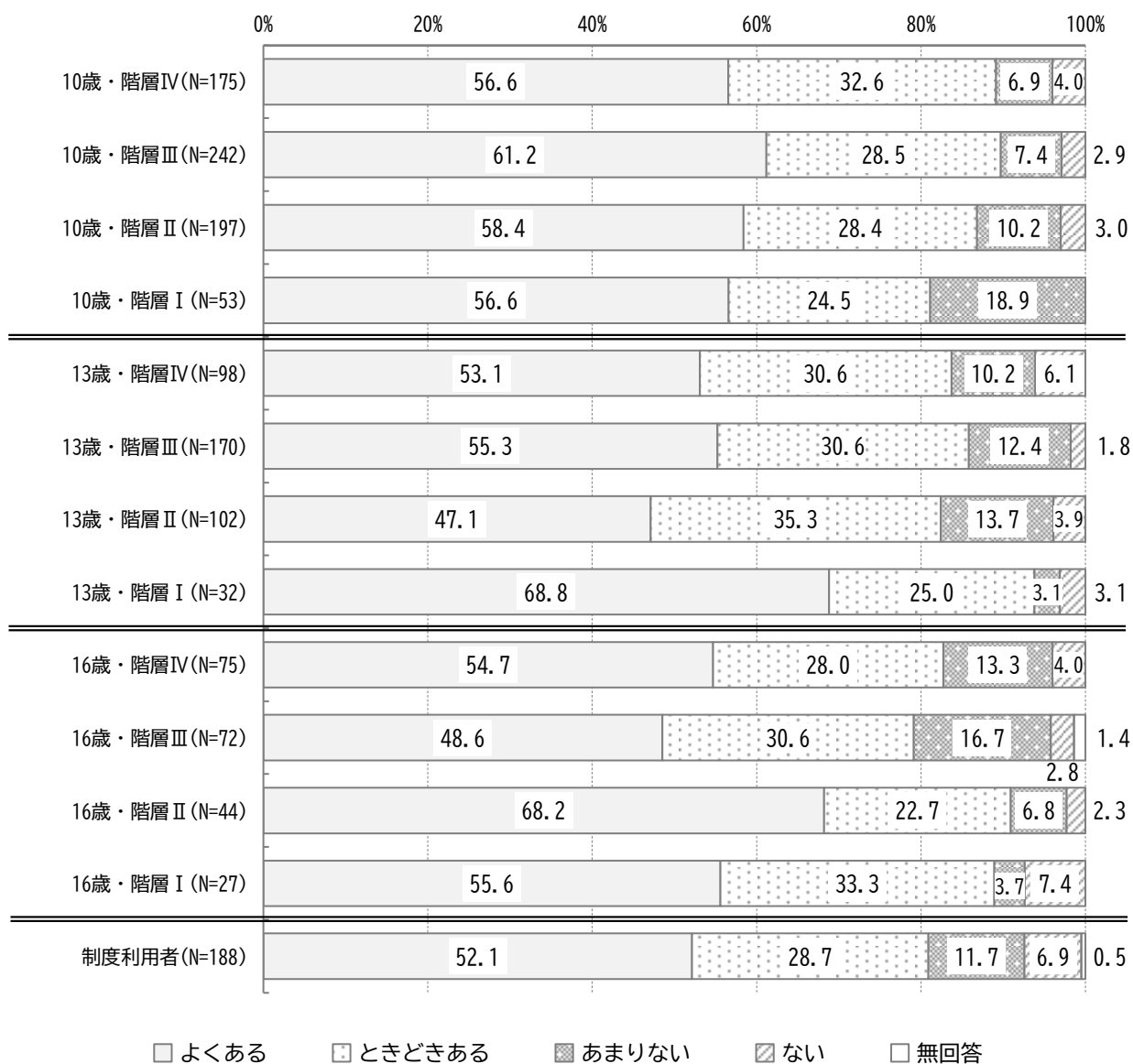
10歳では、いずれの階層においても「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が半数以上となっています。13歳では、階層が低くなるにつれて「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が低くなっています。16歳では、いずれの階層においても「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合は、10歳、13歳よりも低くなっています。

全体として、年齢が上がるにつれて、「ある」の割合は低下する傾向がみられます。



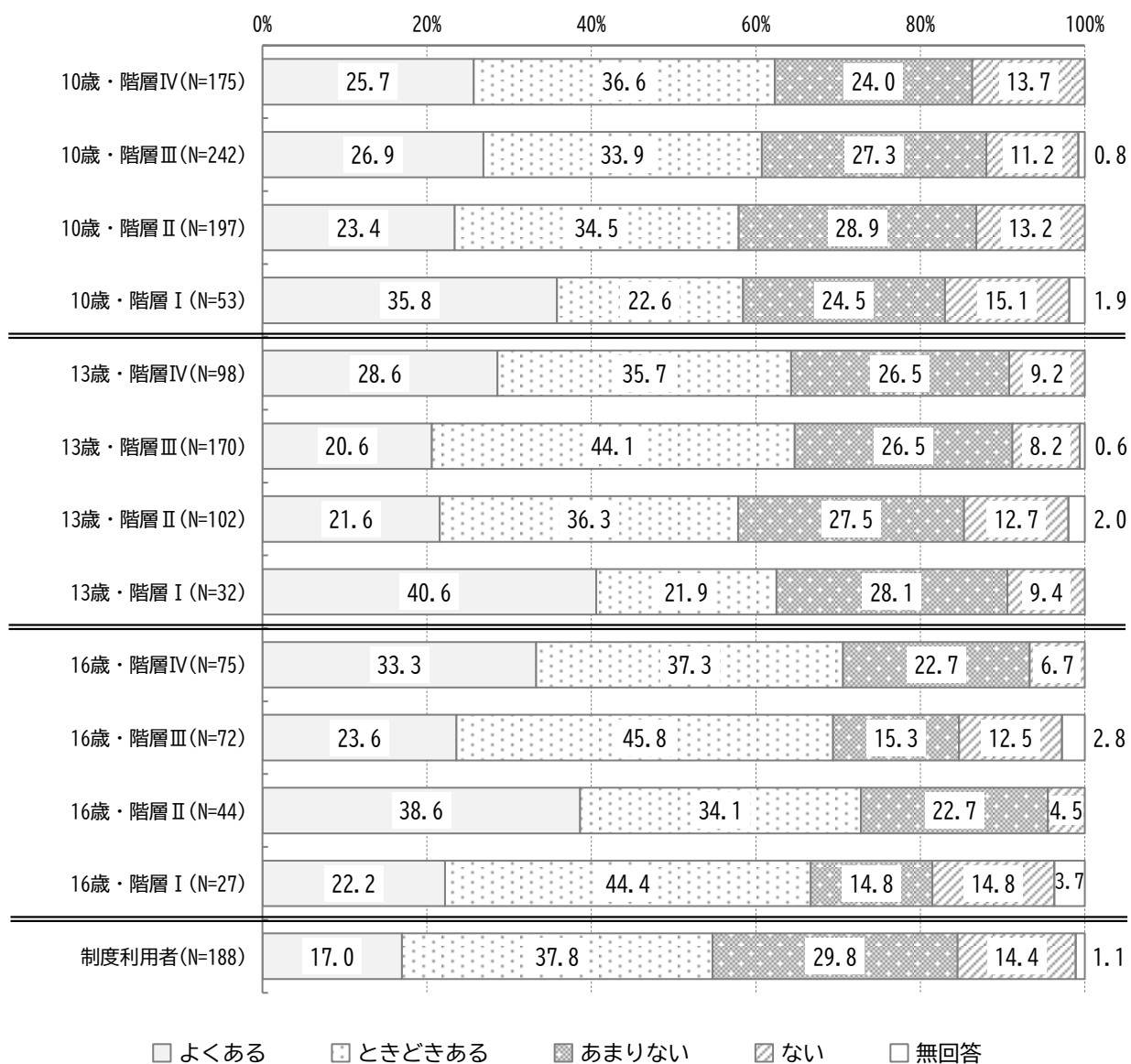
【問 14-④ 家族の大人の人と学校などでのできごとについて話をする】

各年齢・階層、制度利用者において、「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が半数以上となっています。10歳では、階層が低くなるにつれて「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が低くなる傾向にあります。



【問 14-⑤ 家族の大人の人とニュースなど社会のできごとについて話をする】

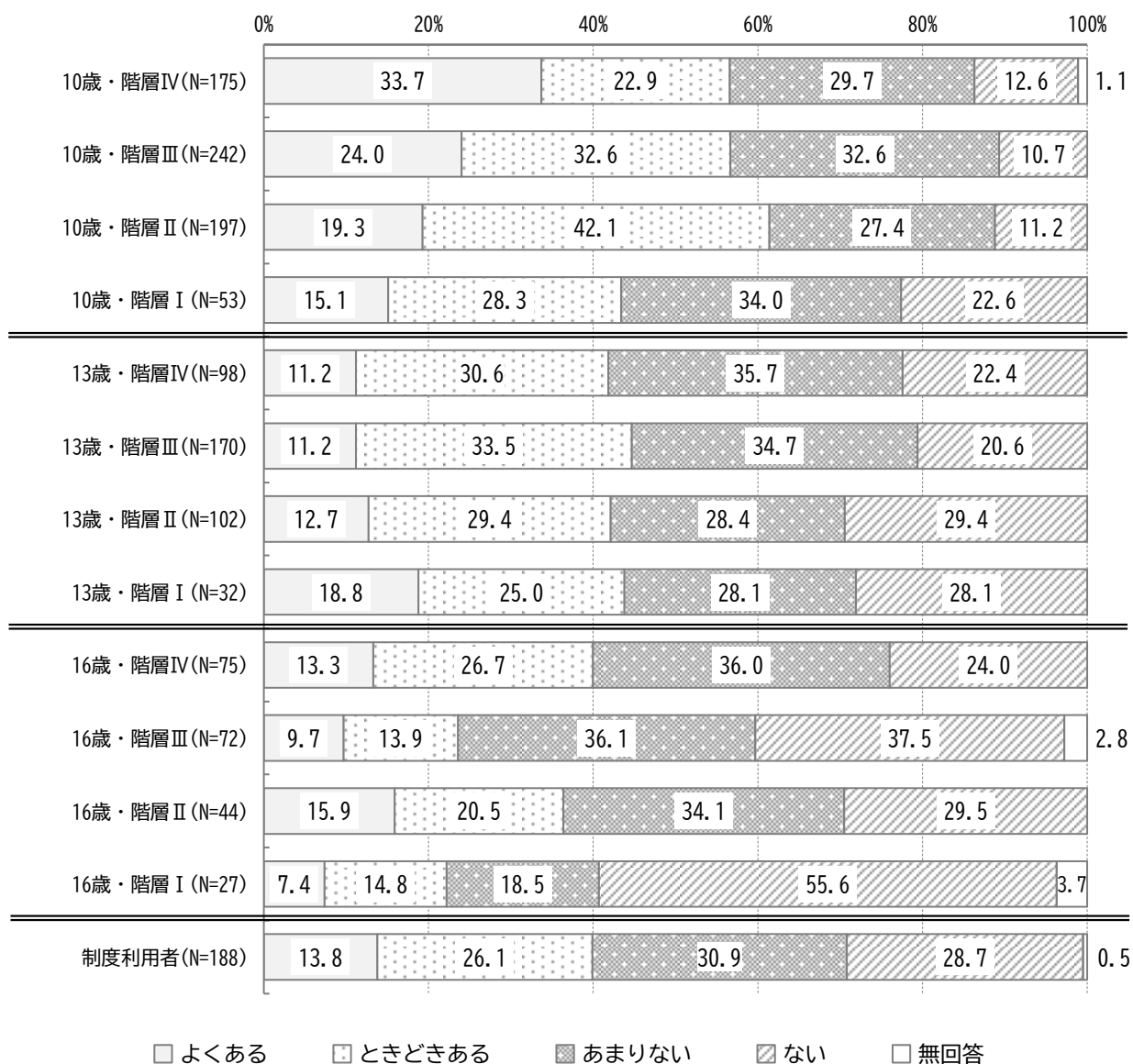
各年齢・階層、制度利用者において、「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が半数以上となっています。10歳では、階層が低くなるにつれて「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が低くなっています。



【問 14-⑥ 家族の大人の人と図書館や美術館、音楽が聞ける場所やイベントに行く】

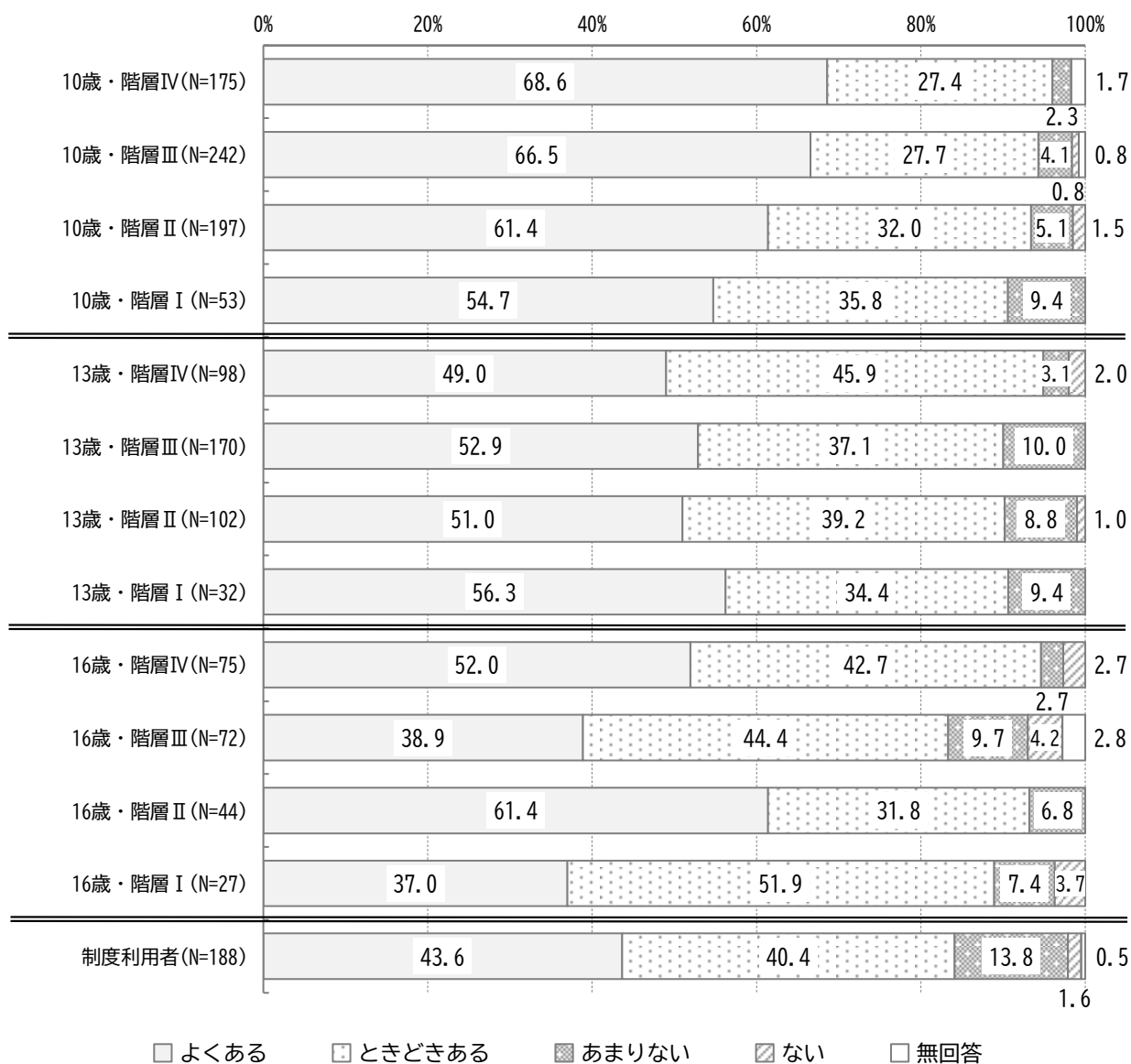
10歳では、階層が下がるにつれて「よくある」が減少する傾向がみられます。年齢が上がるにつれてある（「よくある」「ときどきある」の合計）が減少する傾向がみられます。

10歳、16歳の階層Ⅰでは、いずれの年齢においても「ある」の割合が他の階層と比べて低くなっています。



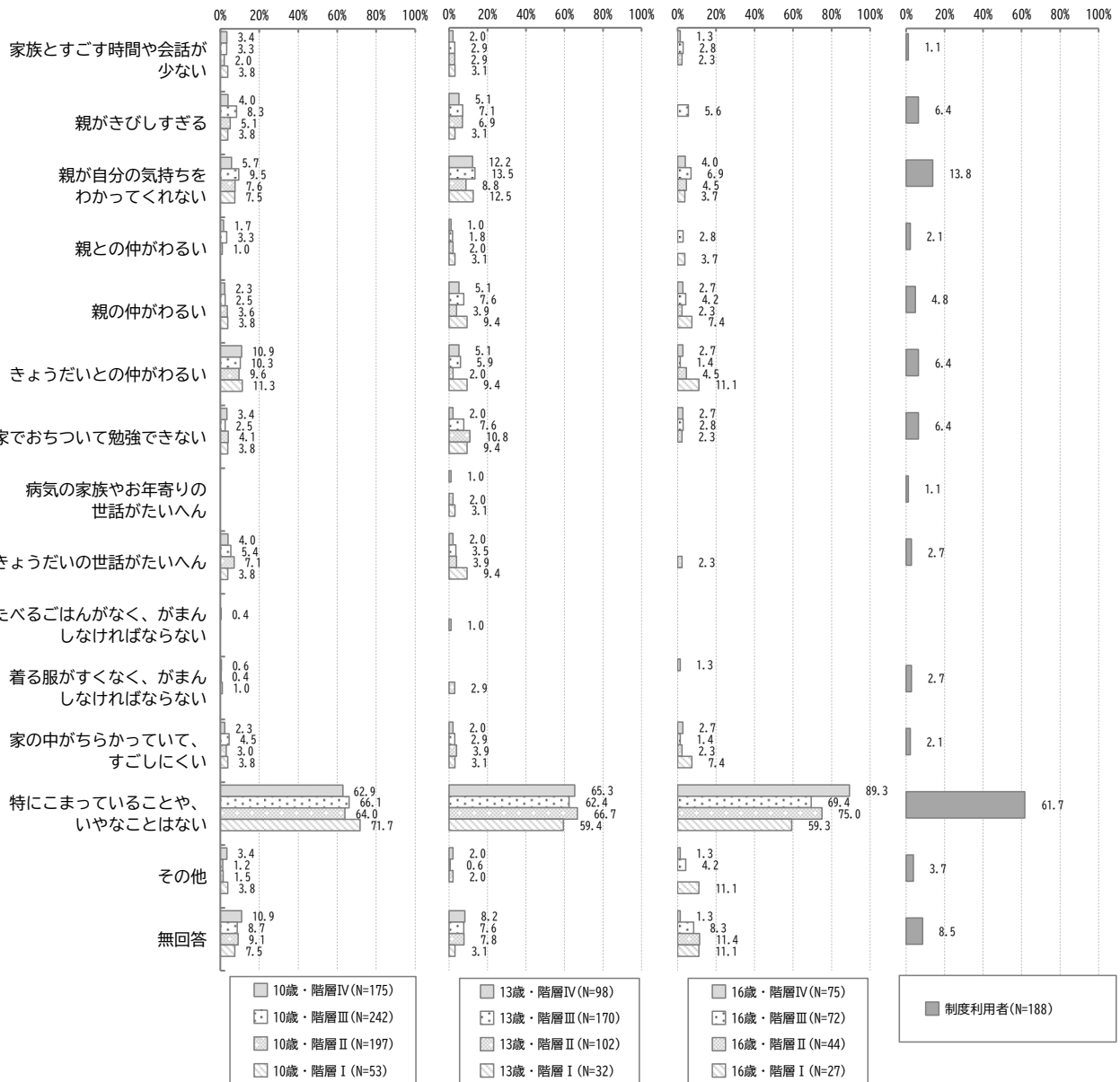
【問 14-⑦ 家族の大人の人と外出（買い物、外食など）をする】

各年齢・階層、制度利用者において、「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が半数以上となっています。10歳では、階層が低くなるにつれて「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）の割合が低くなっています。



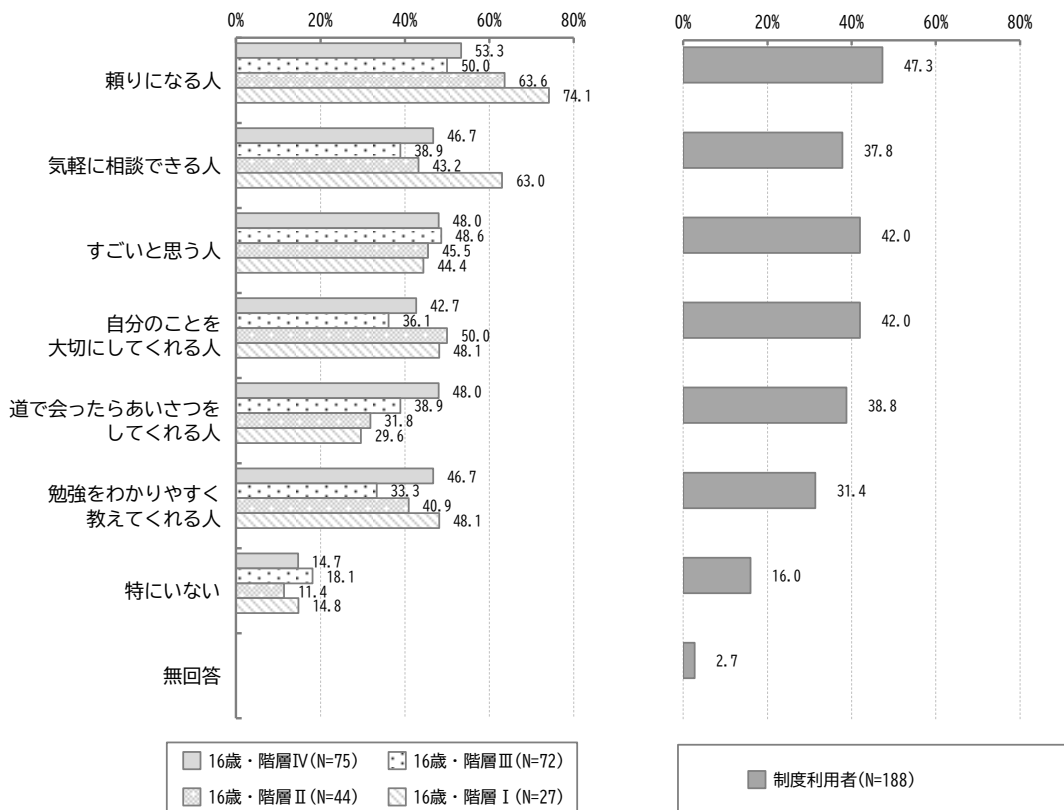
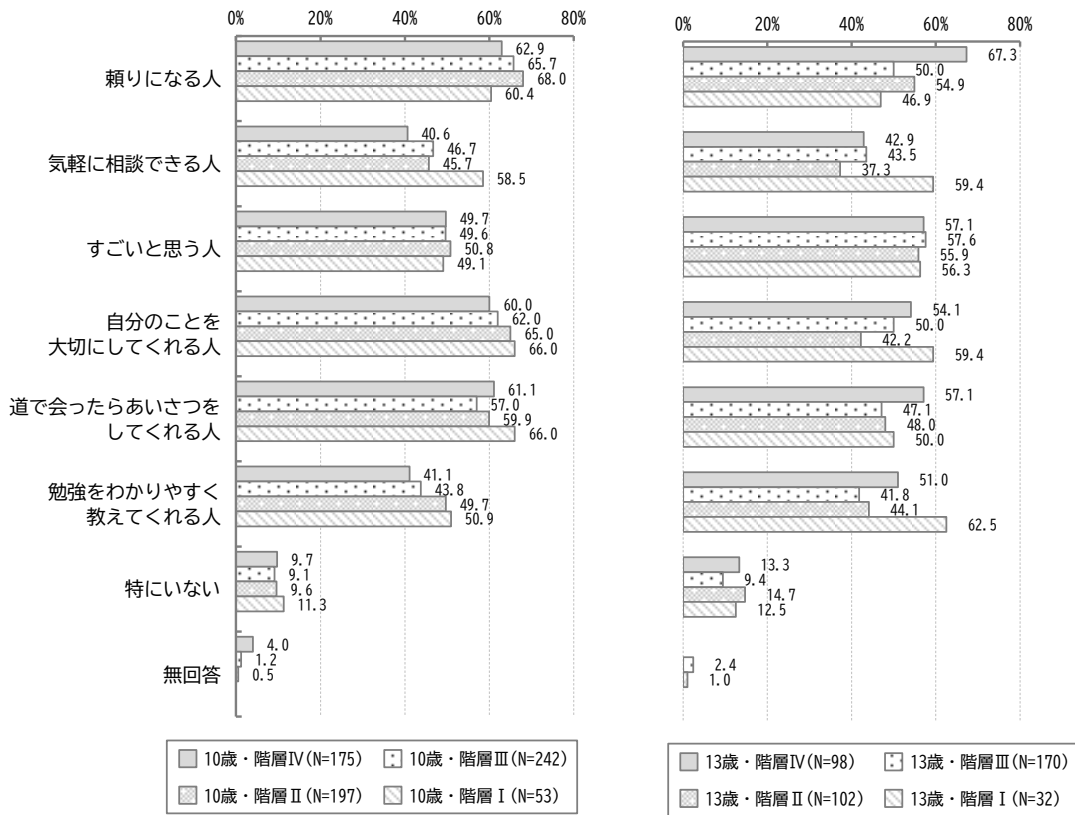
問 15 あなたは、家族のことなどで、何か困っていることや嫌なことはありますか。  
(あてはまるものすべて)

各年齢・階層、制度利用者において、「特にこまっていることや、いやなことはない」が最も高くなっています。「特にこまっていることや、いやなことはない」を除いてみると、10歳では「きょうだいとの仲がわるい」、13歳、制度利用者では「親が自分の気持ちをわかってくれない」が高い傾向にあります。



問 16 あなたのまわりには、親以外で、次のような大人はいますか。(あてはまるものすべて)

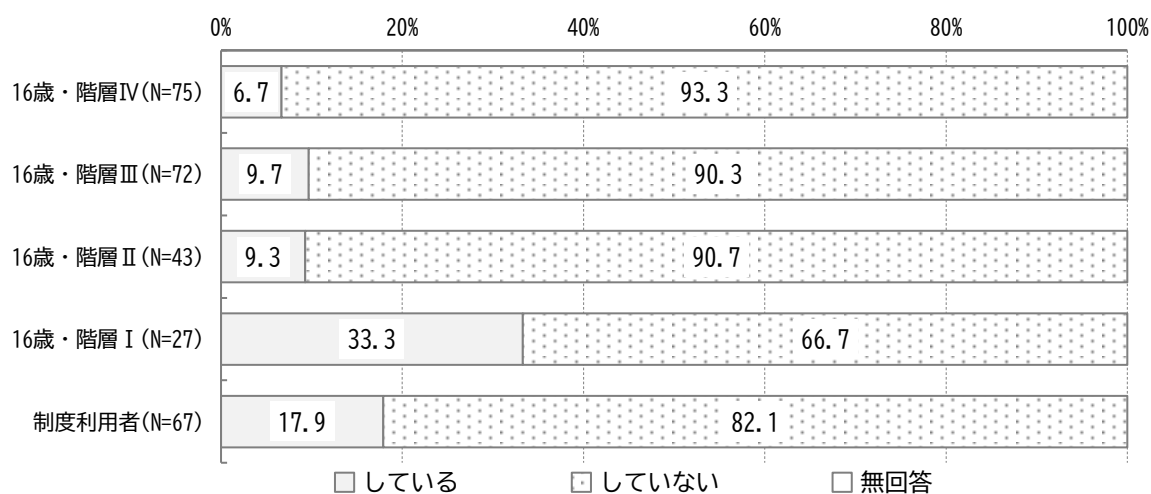
10歳では、階層が低くなるにつれて「自分のことを大切にしてくれる人」「勉強をわかりやすく教えてくれる人」の割合が高くなっています。16歳では、階層が低くなるにつれて「道で会ったらあいさつをしてくれる人」の割合が低くなっています。



令和7年4月1日時点で15才以上の方にききます。

問 17-1 今、アルバイトをしていますか。

16歳では、階層が低くなるにつれて「している」の割合が高くなる傾向にあります。

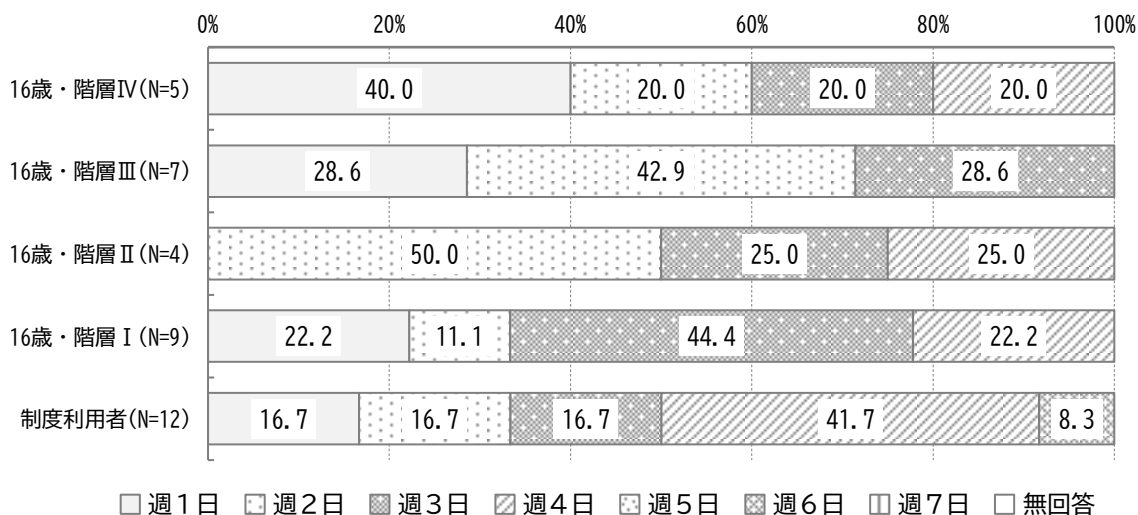


問 17-1 で「1. している」に○をつけた方は、次の①、②について教えてください。

問 17-2 アルバイトの勤務時間・使いみち

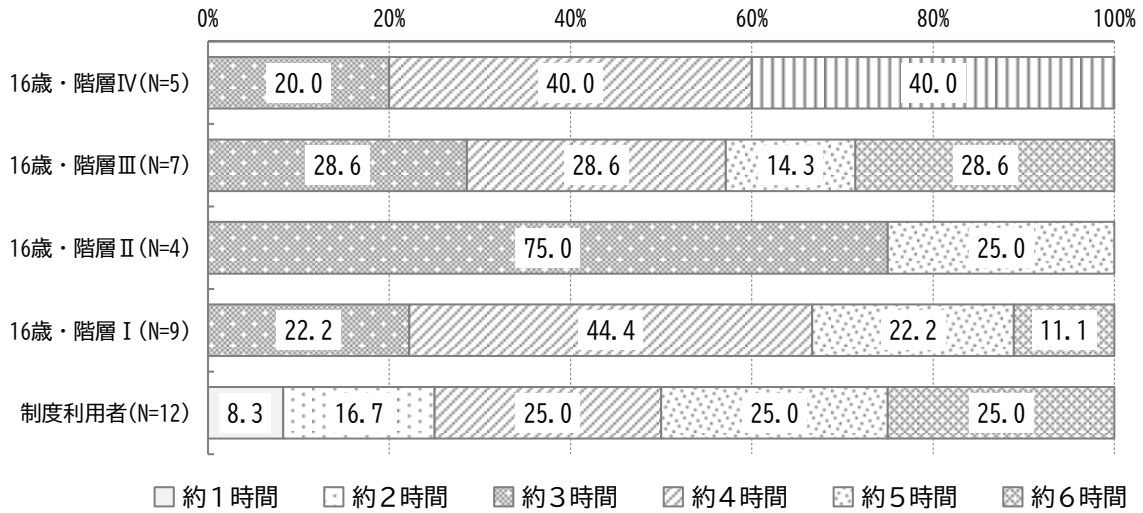
【問 17-2-① 1週間当たりの勤務日数】

(回答者数が少ないため参考値)



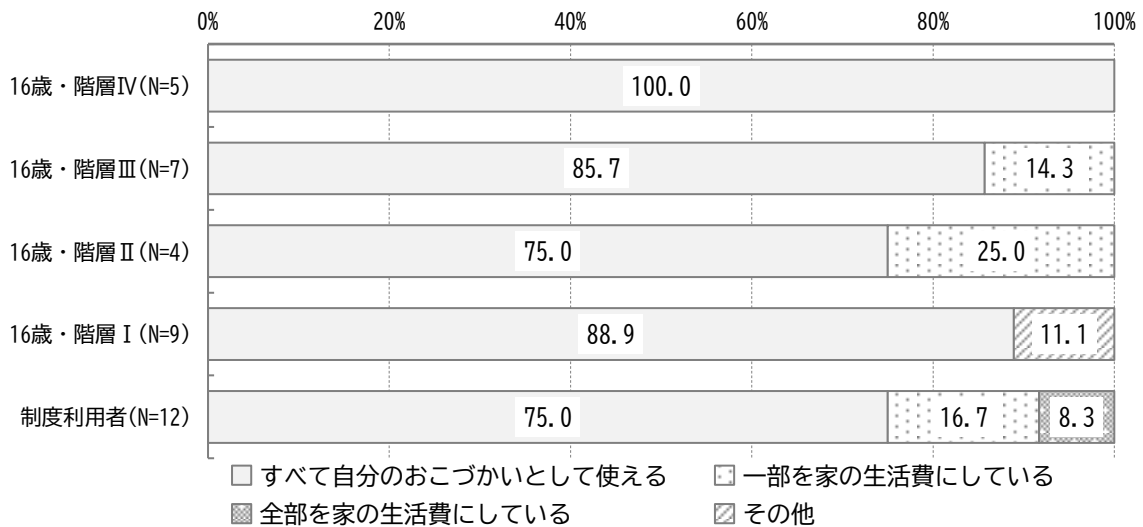
【問 17-2-① 1日当たりの勤務時間】

(回答者数が少ないため参考値)



【問 17-2-② アルバイト代の使いみち (あてはまるもの1つ)】

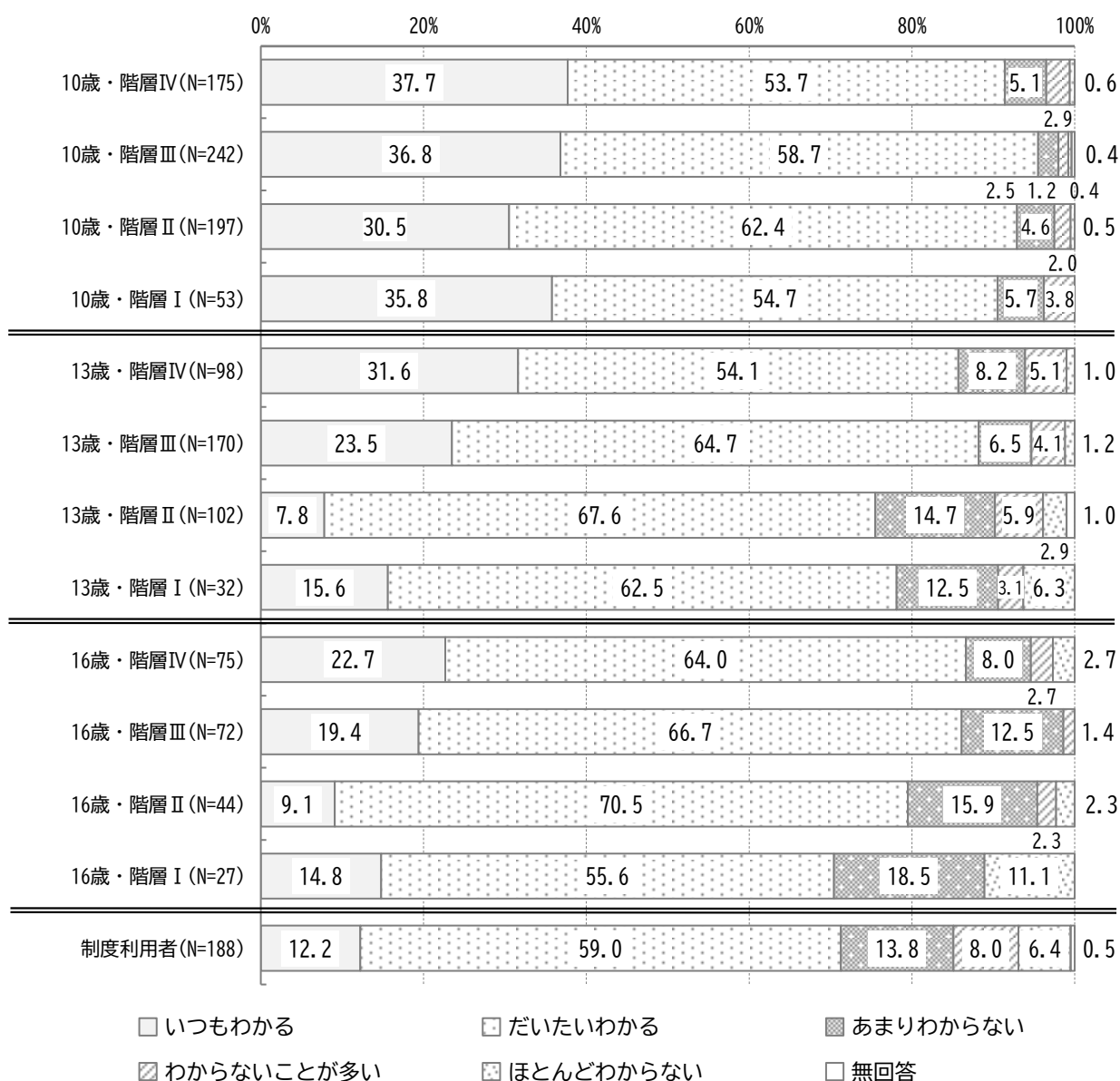
(回答者が少ないため参考値) 16歳・階層IVでは、「すべて自分のおこづかいとして使える」が100%となっている一方で、16歳・階層III～I、制度利用者では「一部を家の生活費にしている」「その他」の回答もあります。制度利用者においては、「全部を家の生活費にしている」の回答もあります。



### 3. 学校や勉強のこと

問 18-1 あなたは、学校の授業がわかりますか。(あてはまるもの1つ)

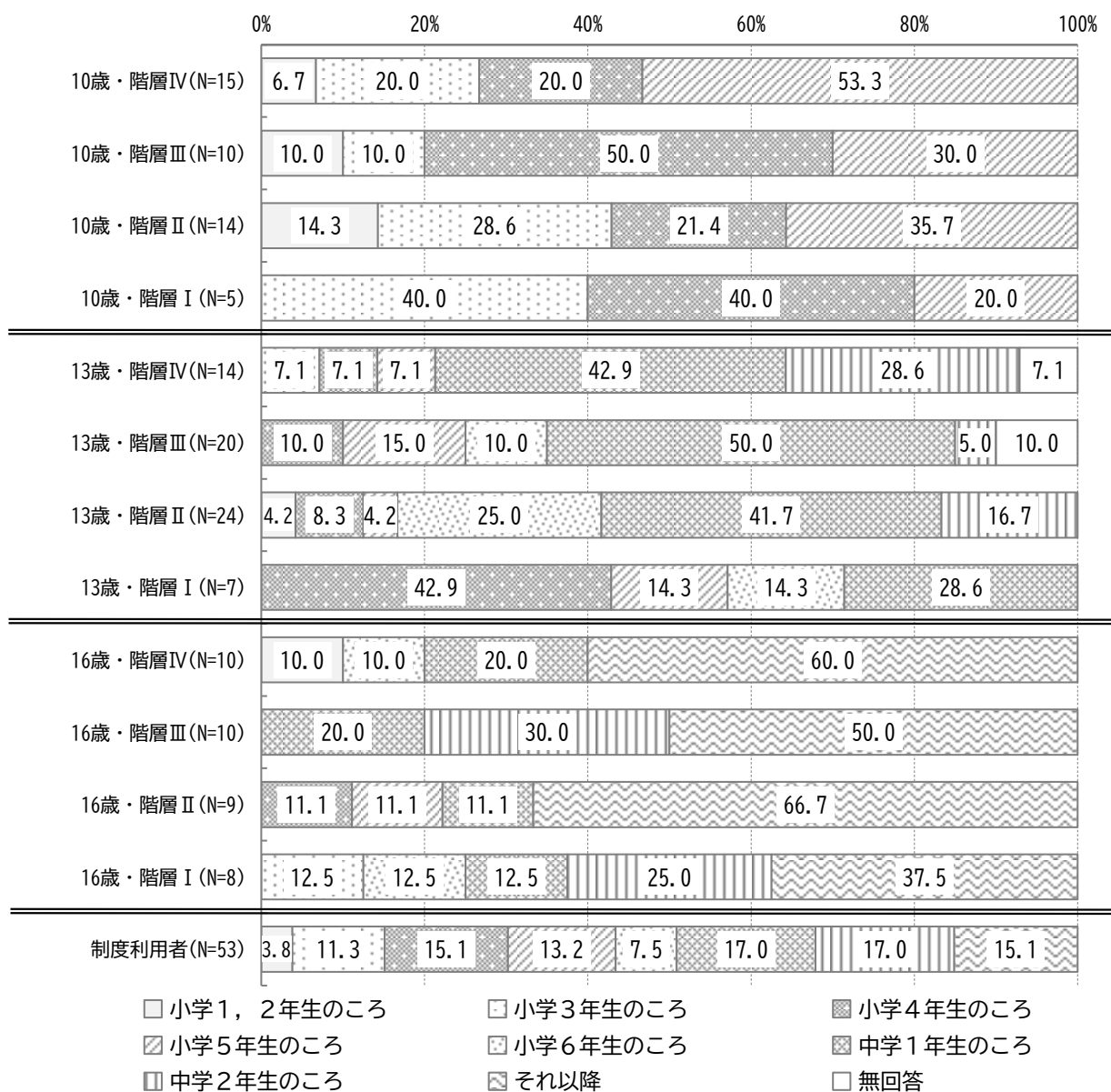
各年齢・階層、制度利用者において、「わかる」(「いつもわかる」「だいたいわかる」の合計)の割合が7割以上となっています。13歳、16歳では、階層Ⅳ、Ⅲと比べて階層Ⅱ・Ⅰにおいて「わかる」(「いつもわかる」「だいたいわかる」の合計)の割合が低くなっています。また、16歳では、階層が低くなるにつれて「わからない」(「あまりわからない」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」)の割合が高くなっています。



問 18-1 で「あまりわからない」、「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と答えた方にききます。

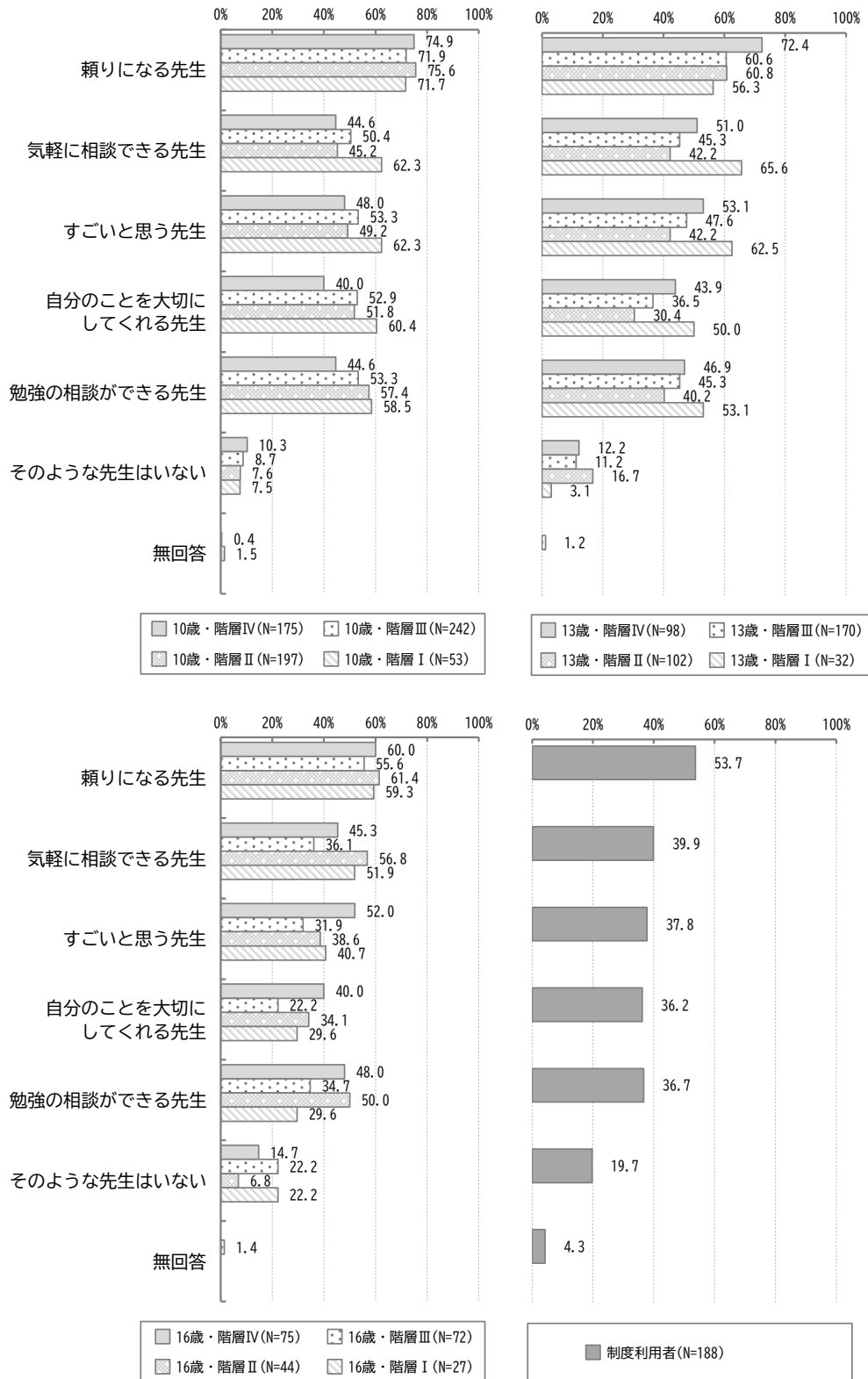
問 18-2 izzgozoraから、授業がわからなくなりましたか。(あてはまるもの1つ)

(回答者が少ないため参考値)



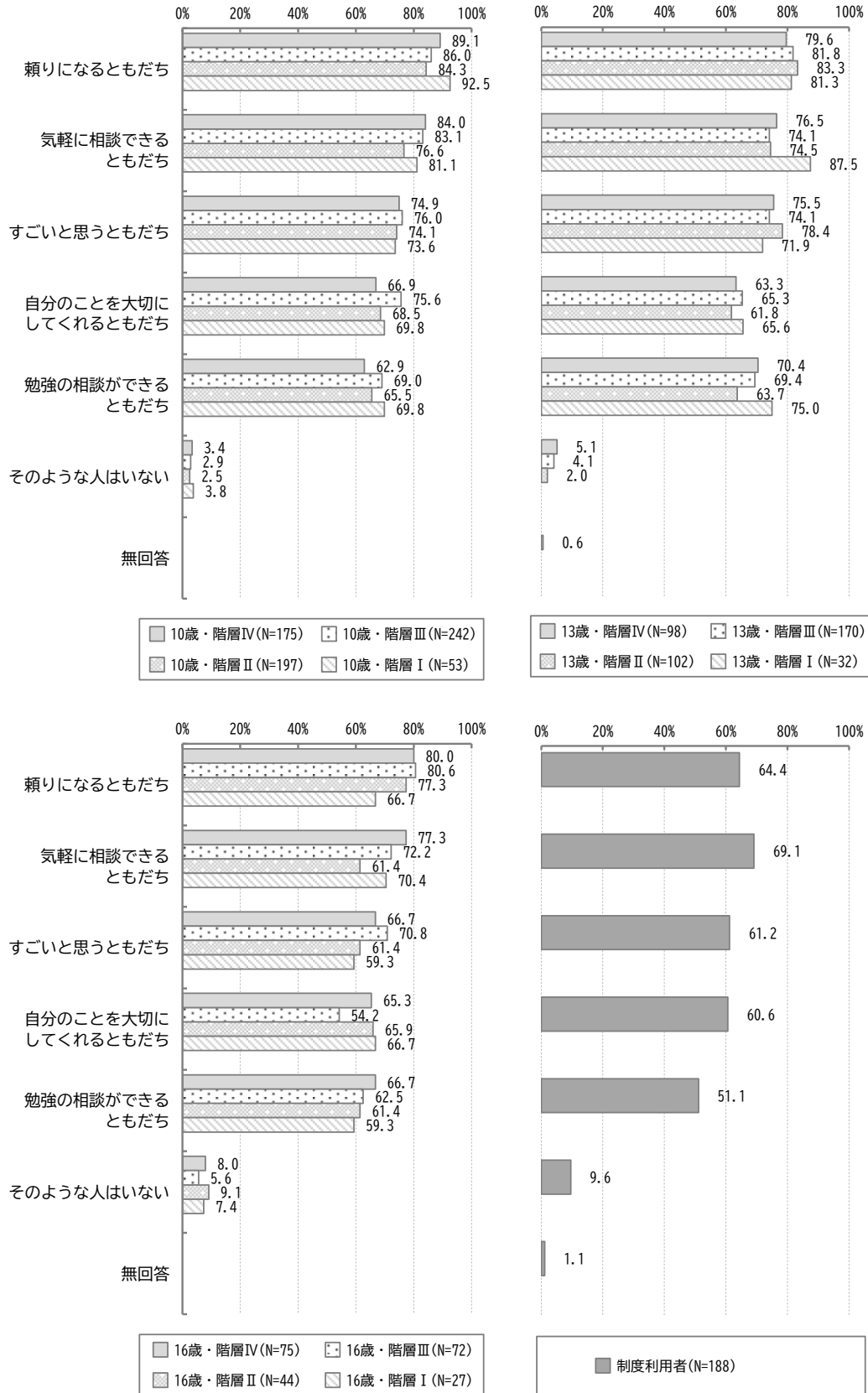
問 19 あなたの周りには、次のような先生がいますか。(あてはまるものすべて)

10歳では、いずれの階層においても「頼りになる先生」の割合が7割以上となっており、他の年齢に比べて高くなっています。「そのような先生はいない」について、16歳・階層Ⅲと階層Ⅰで2割を超えており、他の年齢・階層よりも割合が高くなっています。



問 20 あなたの周りには、次のような友だちがいますか。(あてはまるものすべて)

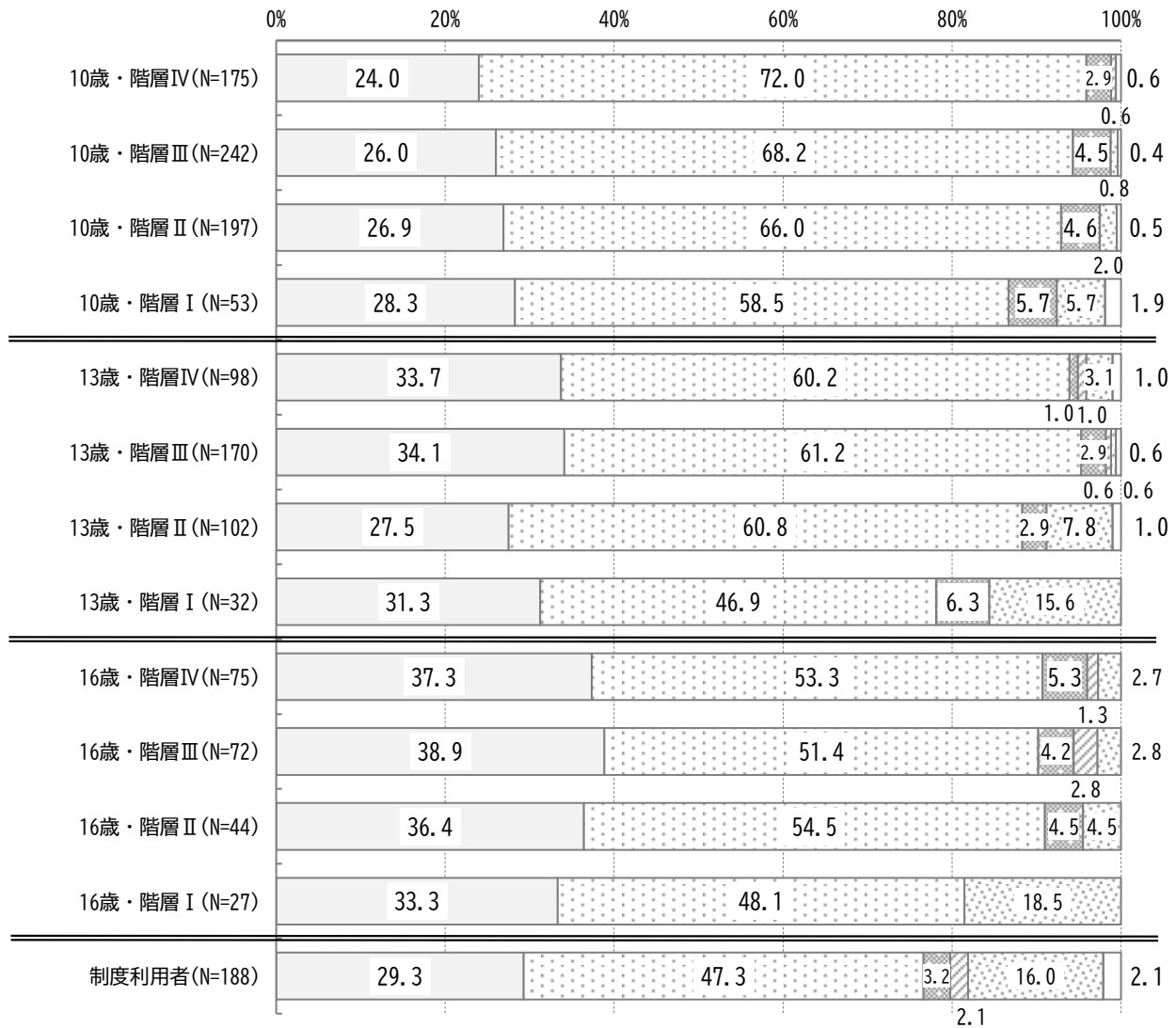
各年齢、各階層ともに「そのような人はいない」の割合は他の選択肢と比べて低くなっています。その中でも、16歳では「そのような人はいない」の割合が10歳、13歳と比べて高くなっています。



問 21 あなたは、前の学年のときに、夏休みなどの長い休み以外で、学校を休んだことがありますか。  
 (あてはまるもの1つ) ※入院による休みは、いれないで教えてください。

各年齢・階層、制度利用者において、「1～10日休んだ」が最も多くなっています。

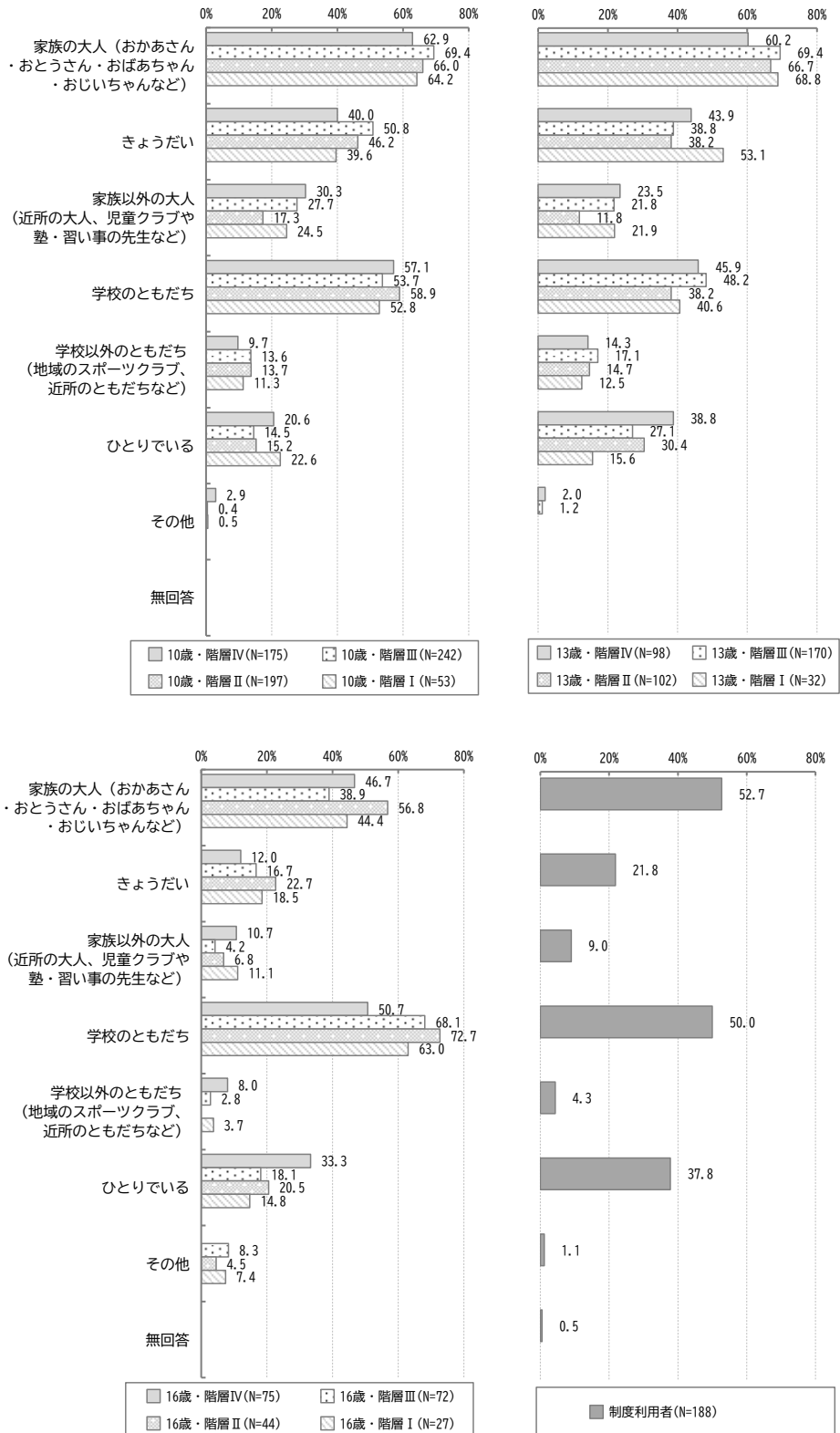
一方で、各年齢において、階層が低くなるにつれて、「11～20日休んだ」「21～30日以上休んだ」「31日以上休んだ」など、長く学校を休んだ人の割合が高くなる傾向がみられます。



□ ない    ▨ 1～10日休んだ    ▩ 11～20日休んだ    ▪ 21～30日休んだ    ▫ 31日以上休んだ    □ 無回答

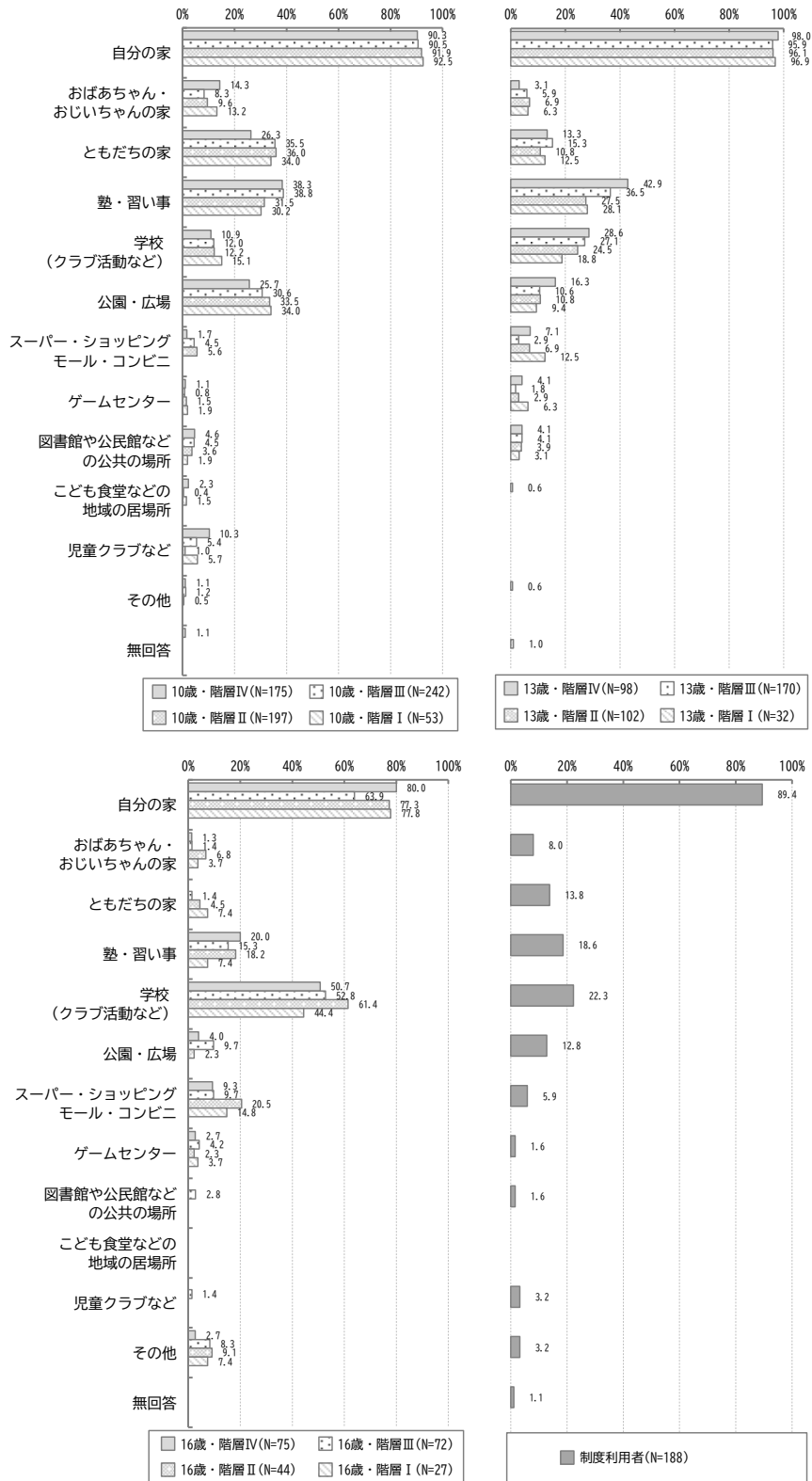
問 22-1 あなたは、放課後、だれと過ごすことが多いですか。(あてはまるものすべて)

10 歳、13 歳では「家族の大人」が高く、16 歳では「学校のともだち」が高くなっています。階層による大きな差はみられません。



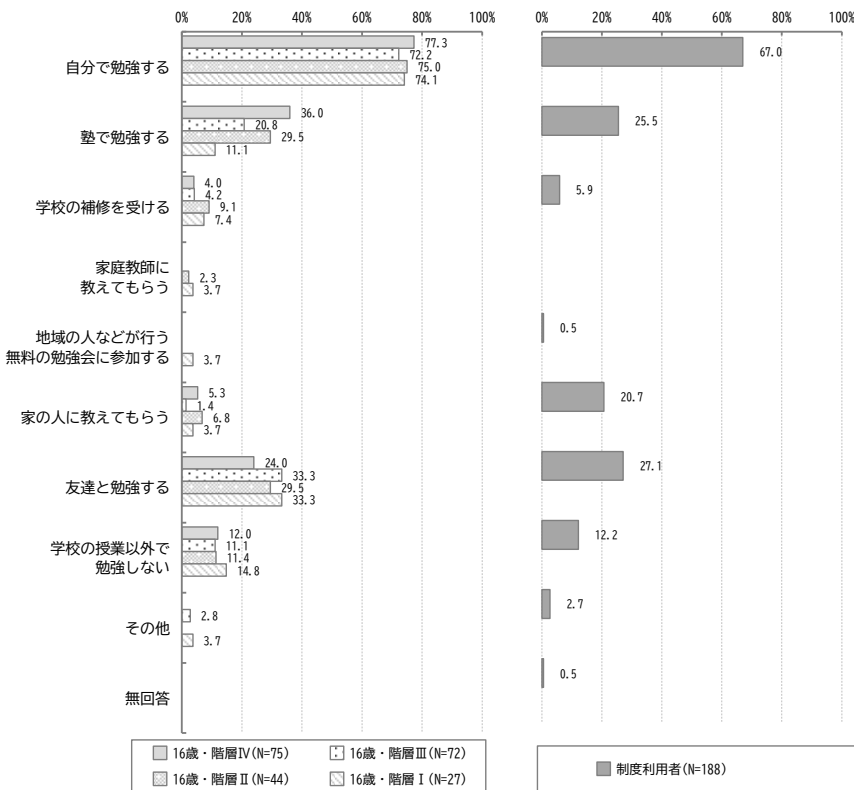
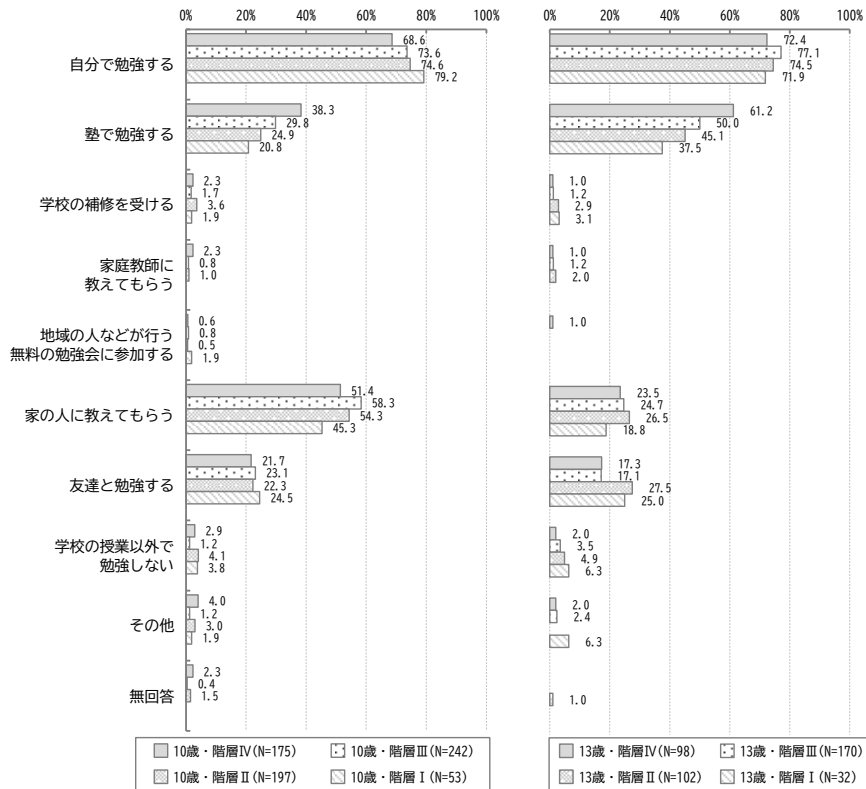
問 22-2 あなたは、放課後、どこで過ごすことが多いですか。(あてはまるものすべて)

各年齢、制度利用者とも「自分の家」が最も高くなっています。階層が高くなると「塾・習い事」が高くなる傾向がみられます。



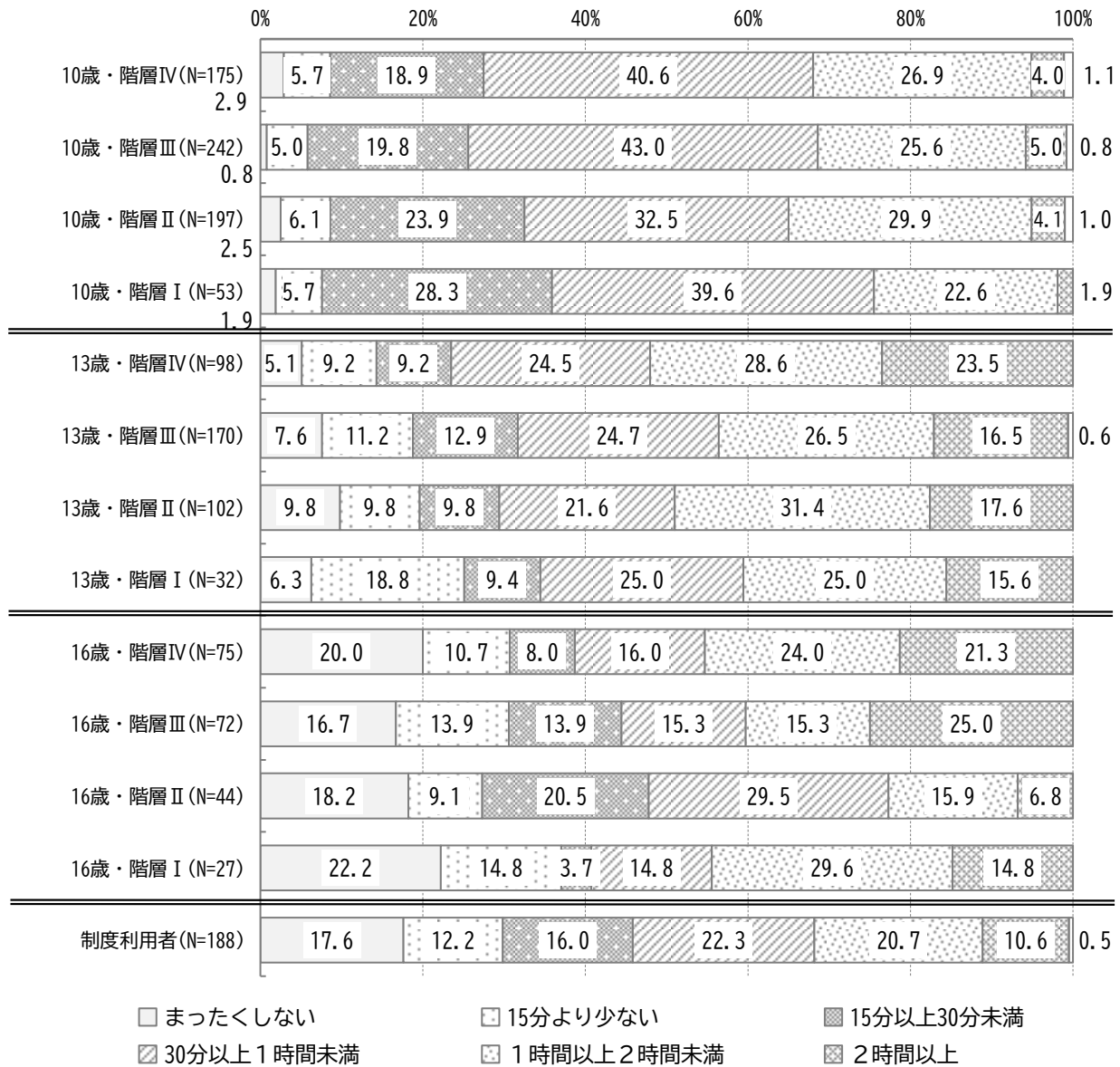
問 23-1 あなたは、授業以外でどのように勉強することが多いですか。(あてはまるものすべて)

階層が上がるにつれて「塾で勉強する」が高くなっています。



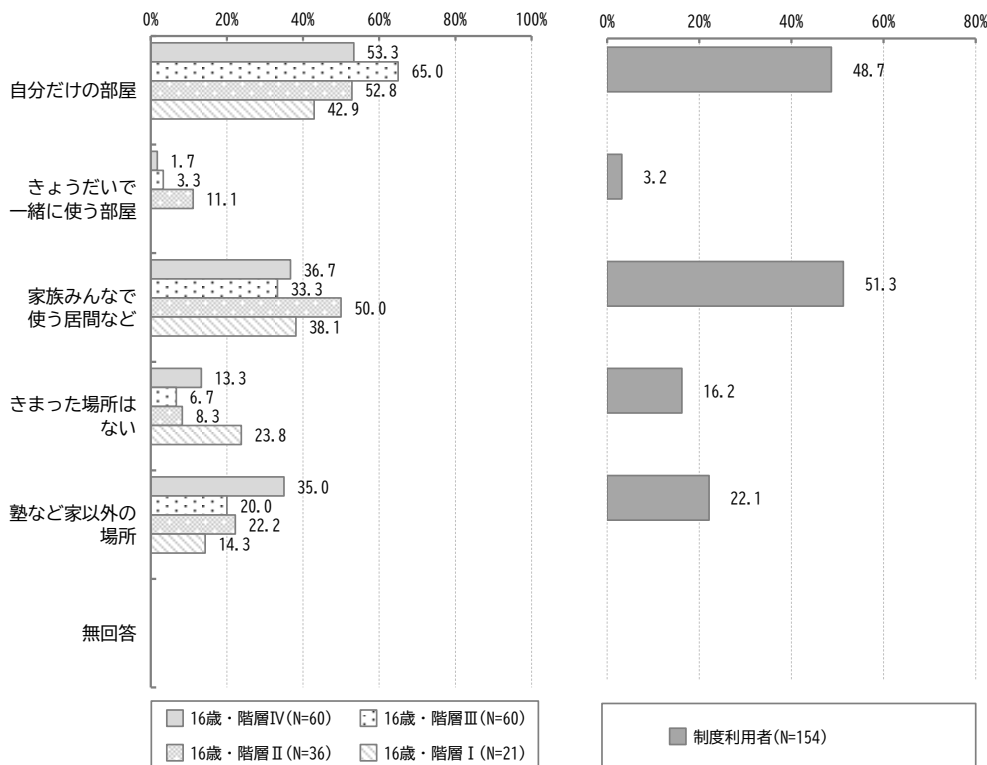
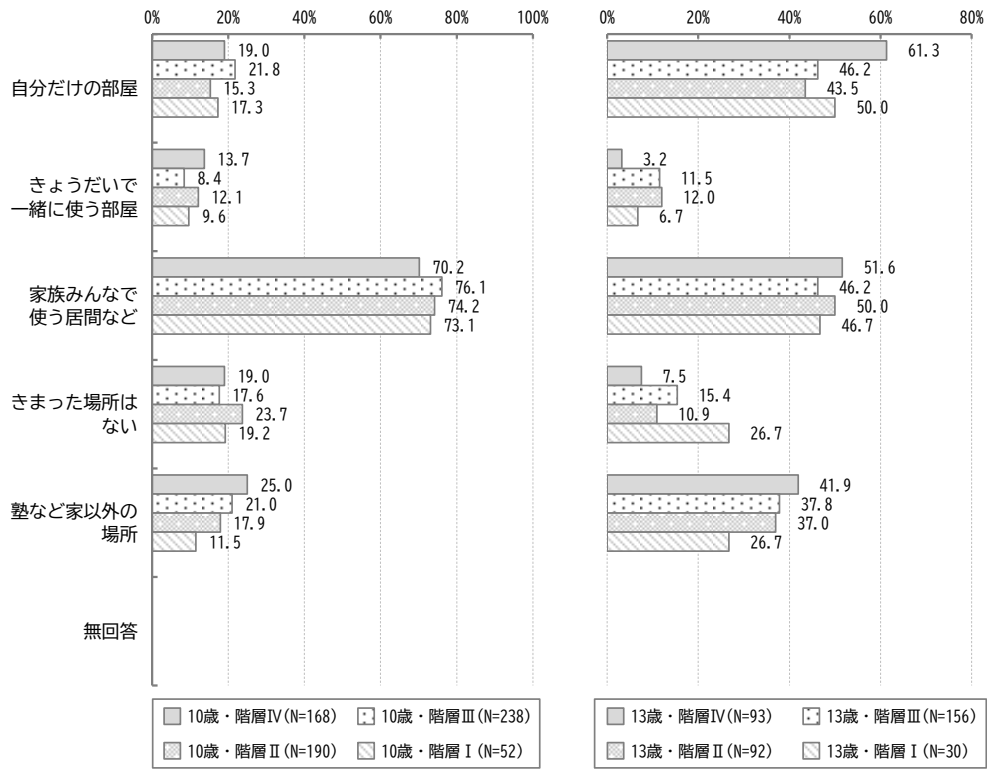
問 23-2 あなたは、ふだんの授業時間以外に、ふだん（月曜日～金曜日）、1日あたりどれくらい勉強をしますか。塾などの時間も含まれます。（あてはまるもの1つ）

10歳では「15分以上30分未満」「30分以上1時間未満」「1時間以上2時間未満」で8割以上を占めていますが、年齢が高くなると、「1時間以上2時間未満」「2時間以上」が高くなる一方で、「まったくしない」が増加する傾向がみられます。



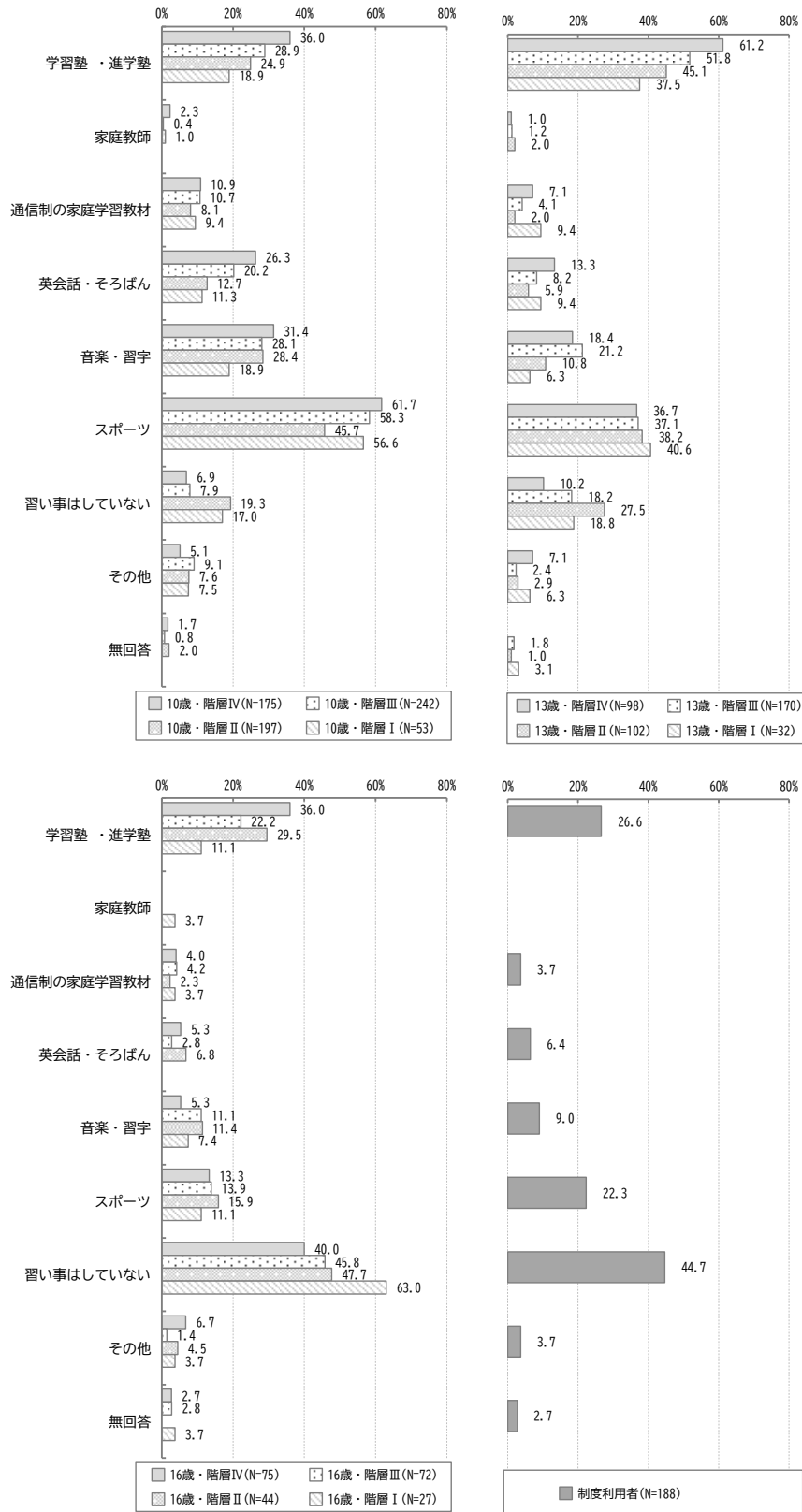
問 23-2 また、どこで勉強していますか。(あてはまるものすべて)

10歳では「家族みんなで使う居間など」が階層を問わず7割を超えています。13歳、15歳になると「自分だけの部屋」が高くなっています。階層が上がるにつれて「自分だけの部屋」「塾など家以外の場所」が増加する傾向がみられます。



問 24-1 あなたは、放課後に学習塾や家庭教師、文化・スポーツ教室などに通っていますか。  
(あてはまるものすべて)

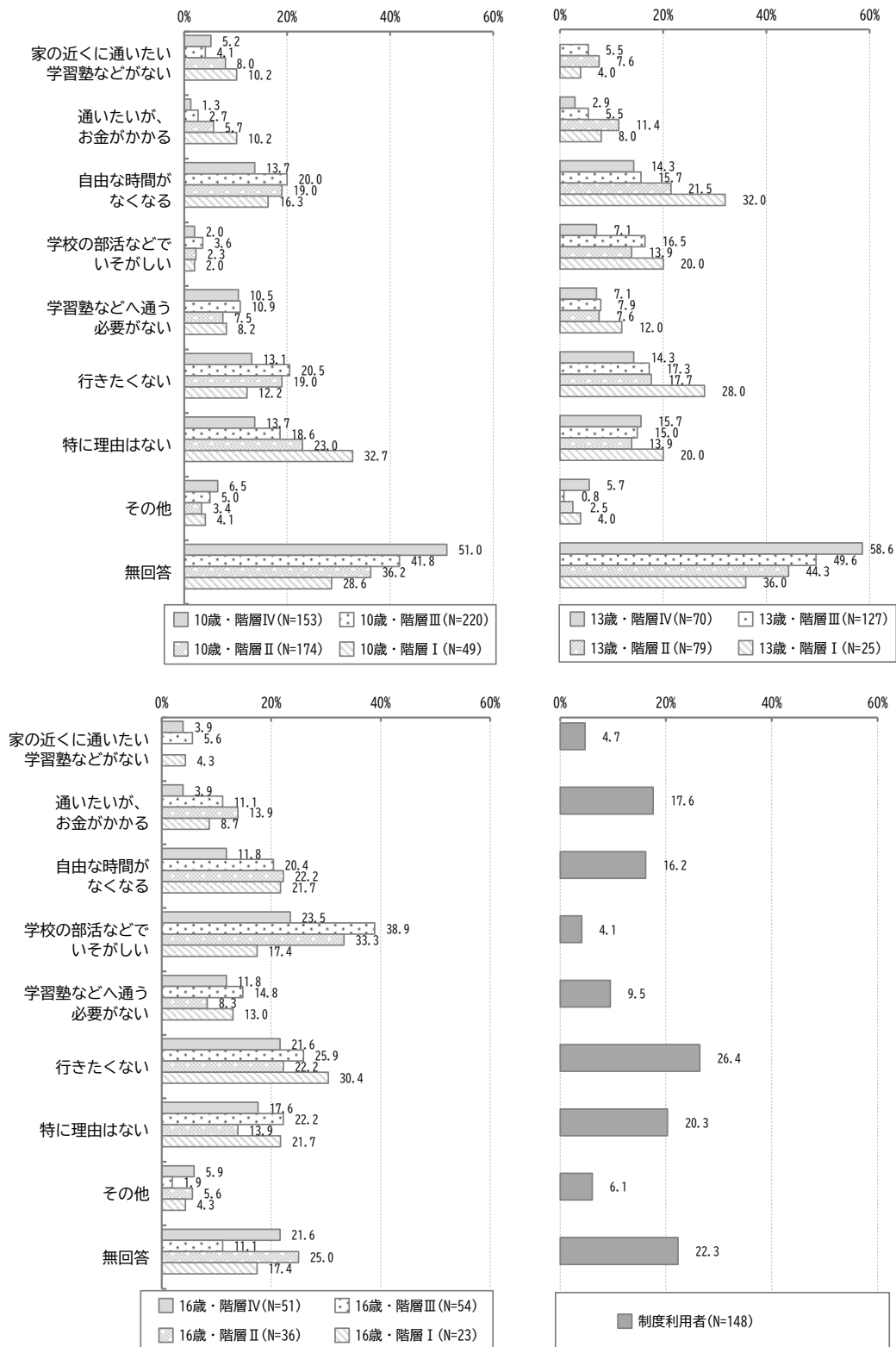
10歳では、いずれの階層も「スポーツ」が最も高くなっています。13歳では「学習塾・進学塾」「スポーツ」が高くなっています。16歳では、いずれの階層も「習い事はしていない」の割合が最も高くなっています。また、制度利用者では「習い事はしていない」の割合が高くなっています。



問 24-1 で「1. 学習塾・進学塾」～「3. 通信制の家庭学習教材」を選択しなかった方にききます。

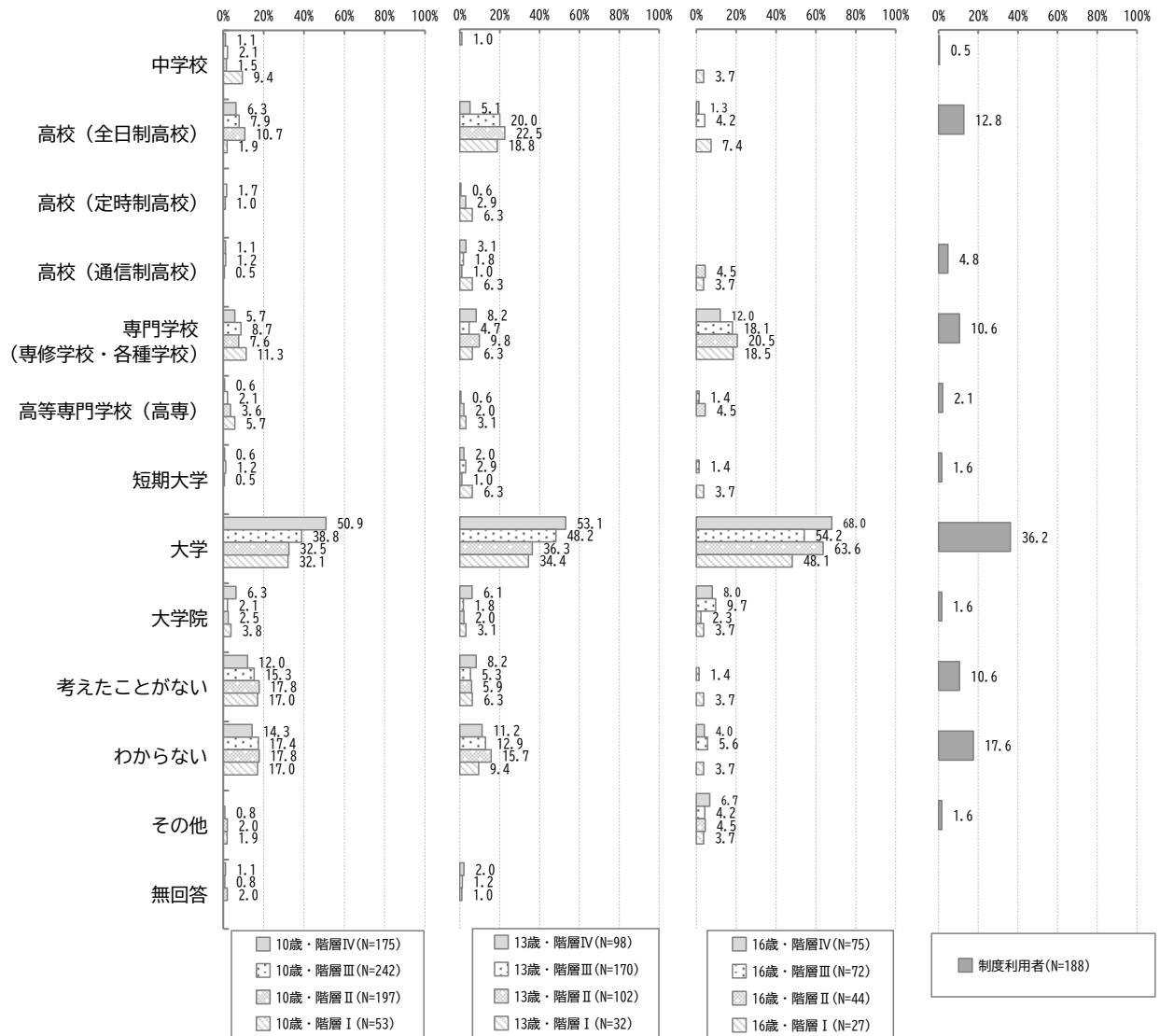
問 24-2 学習塾などに通っていない理由はなんですか。(あてはまるものすべて)

各年齢、各階層ともに、回答の傾向にはばらつきがみられます。



問 25-1 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。(あてはまるもの1つ)

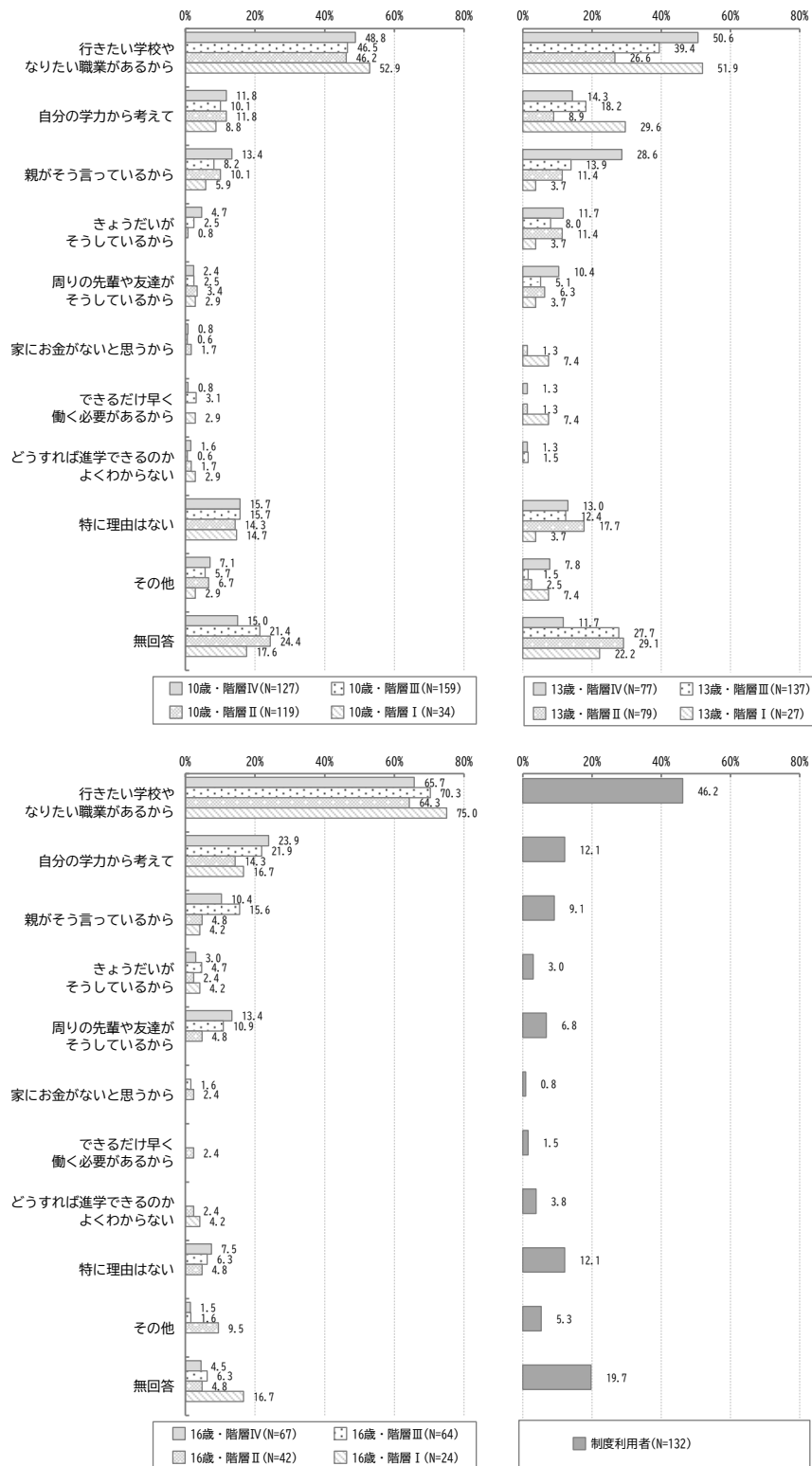
各年齢・階層、制度利用者において、「大学」が最も多くなっています。「大学」を回答したものをみると、10歳、13歳では、階層が低くなるにつれて、割合が低くなっています。



問 25-1 で「1. 中学校」～「9. 大学院」と回答した方にききます。

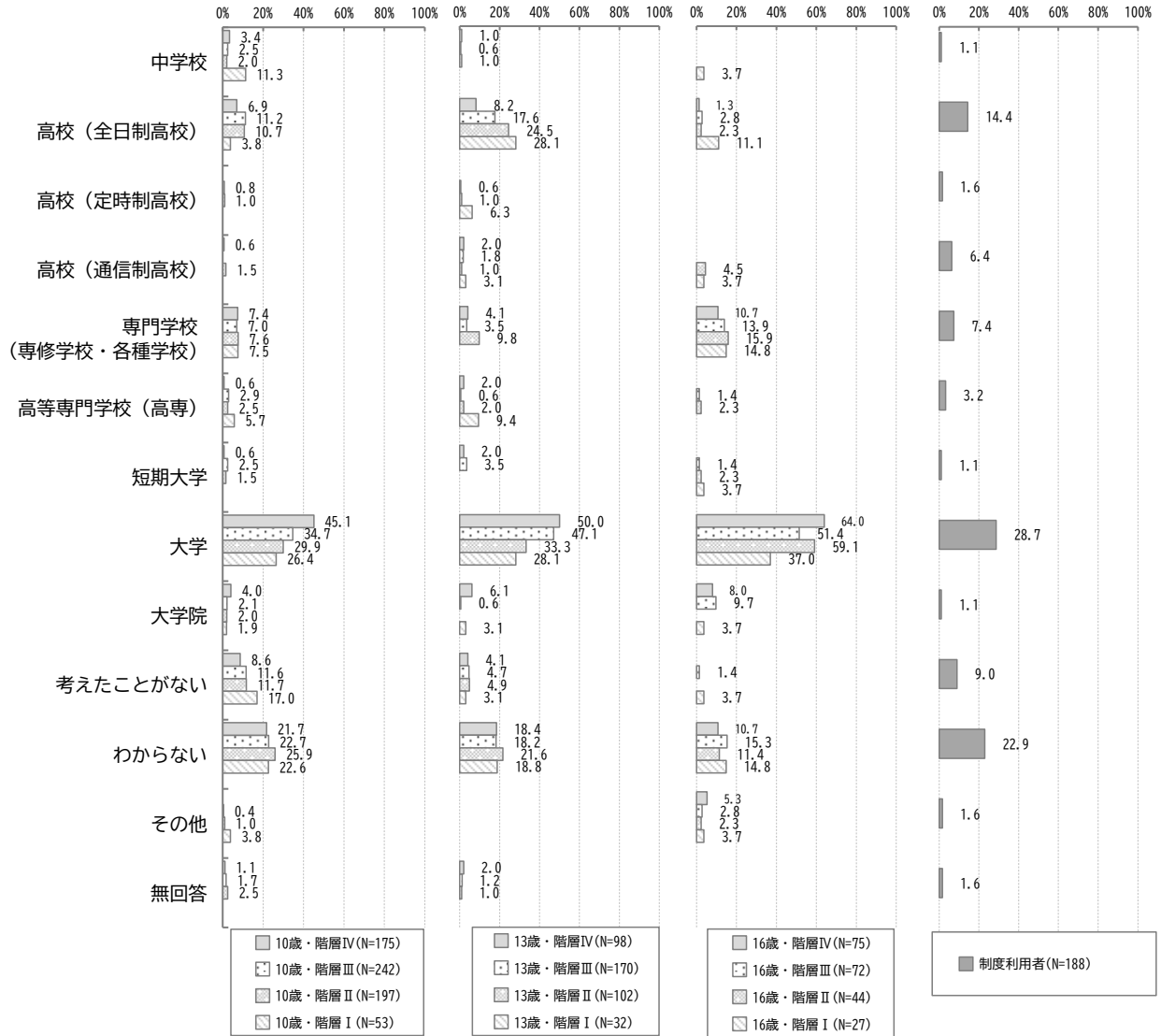
問 25-2 その理由を教えてください。(あてはまるものすべて)

各年齢、階層、制度利用者において「行きたい学校やなりたい職業があるから」が高くなっています。



問 26 あなたは、将来どの学校まで行くことになると思いますか。(あてはまるもの1つ)

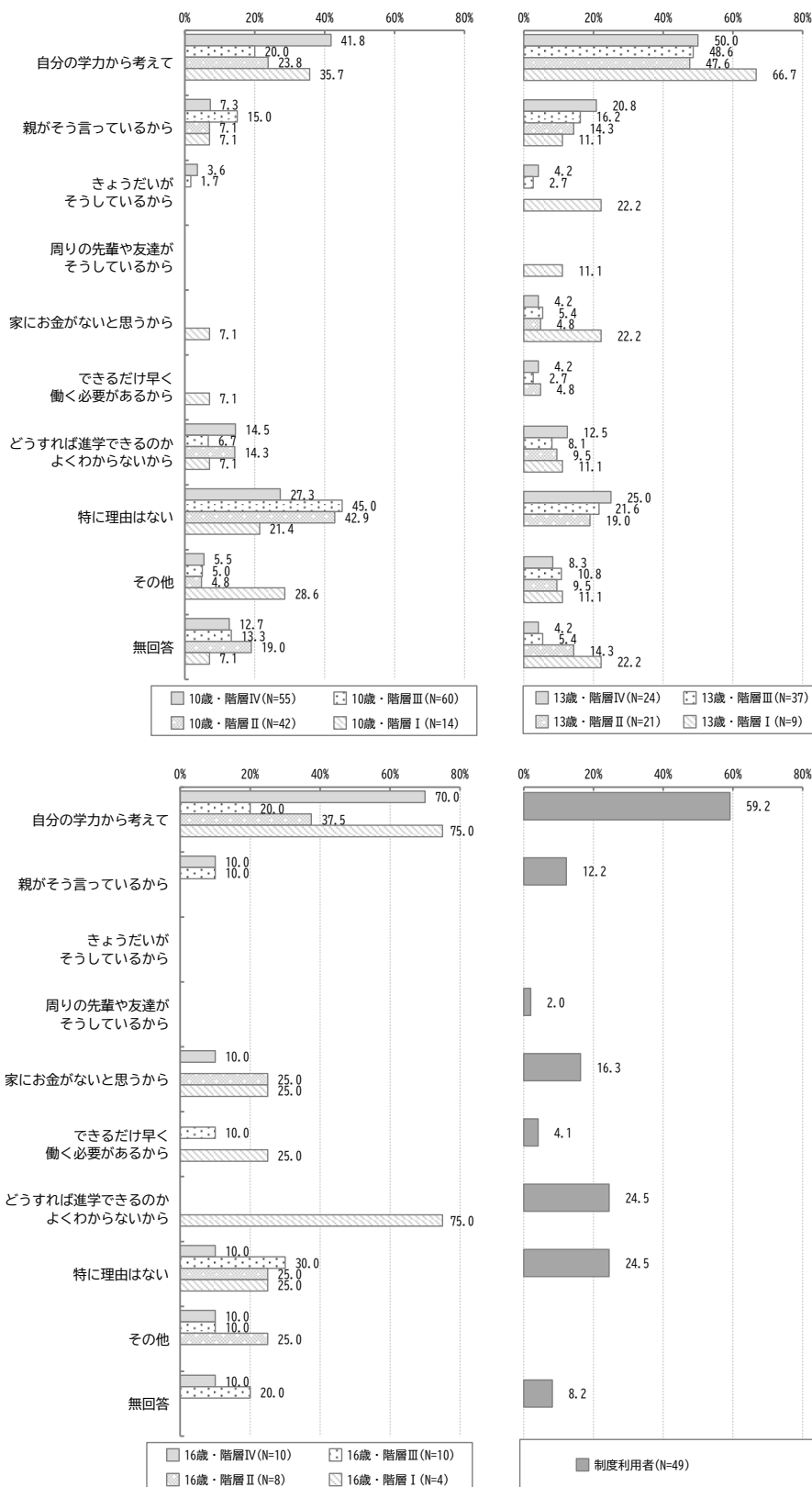
各年齢・階層、制度利用者において、「大学」が最も多くなっています。10歳では、階層Ⅰにおいて「中学生」の割合が高くなっています。13歳では、階層が低くなるにつれて「高校（全日制高校）」の割合が高くなっています。16歳では、階層が低い方が「専門学校（専修学校・各種学校）」の割合が高い傾向にあります。



問 25-1 と問 26 の答えが同じではない方にききます。

問 27 答えが同じではない理由を教えてください。(あてはまるものすべて)

(回答者数が少ないため参考値) 各年齢・階層、制度利用者において「自分の学力から考えて」が高くなっています。

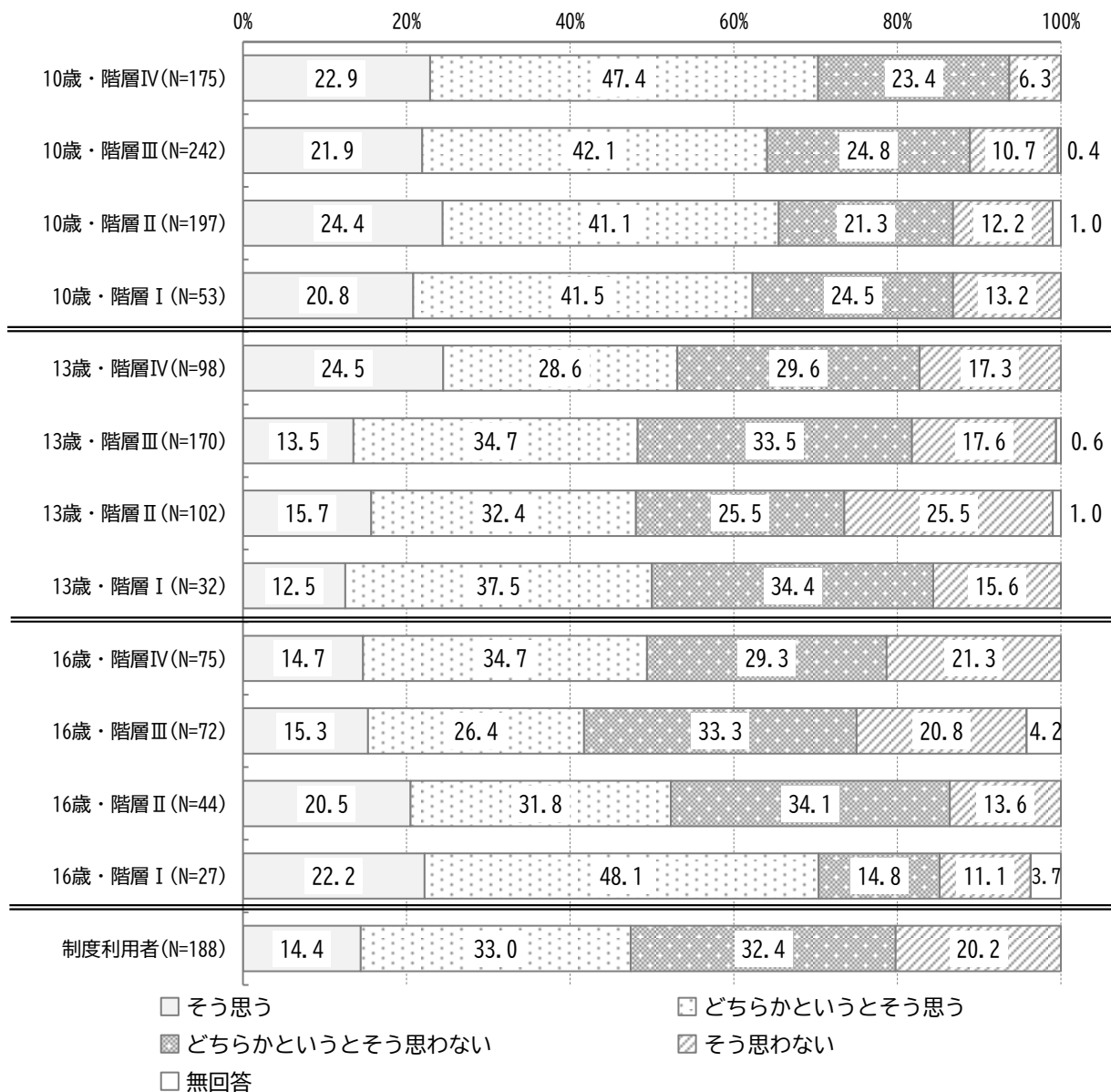


#### 4. 普段考えていること

問 28 あなたは、次の①～⑦についてどのように考えますか。(それぞれあてはまるもの1つ)

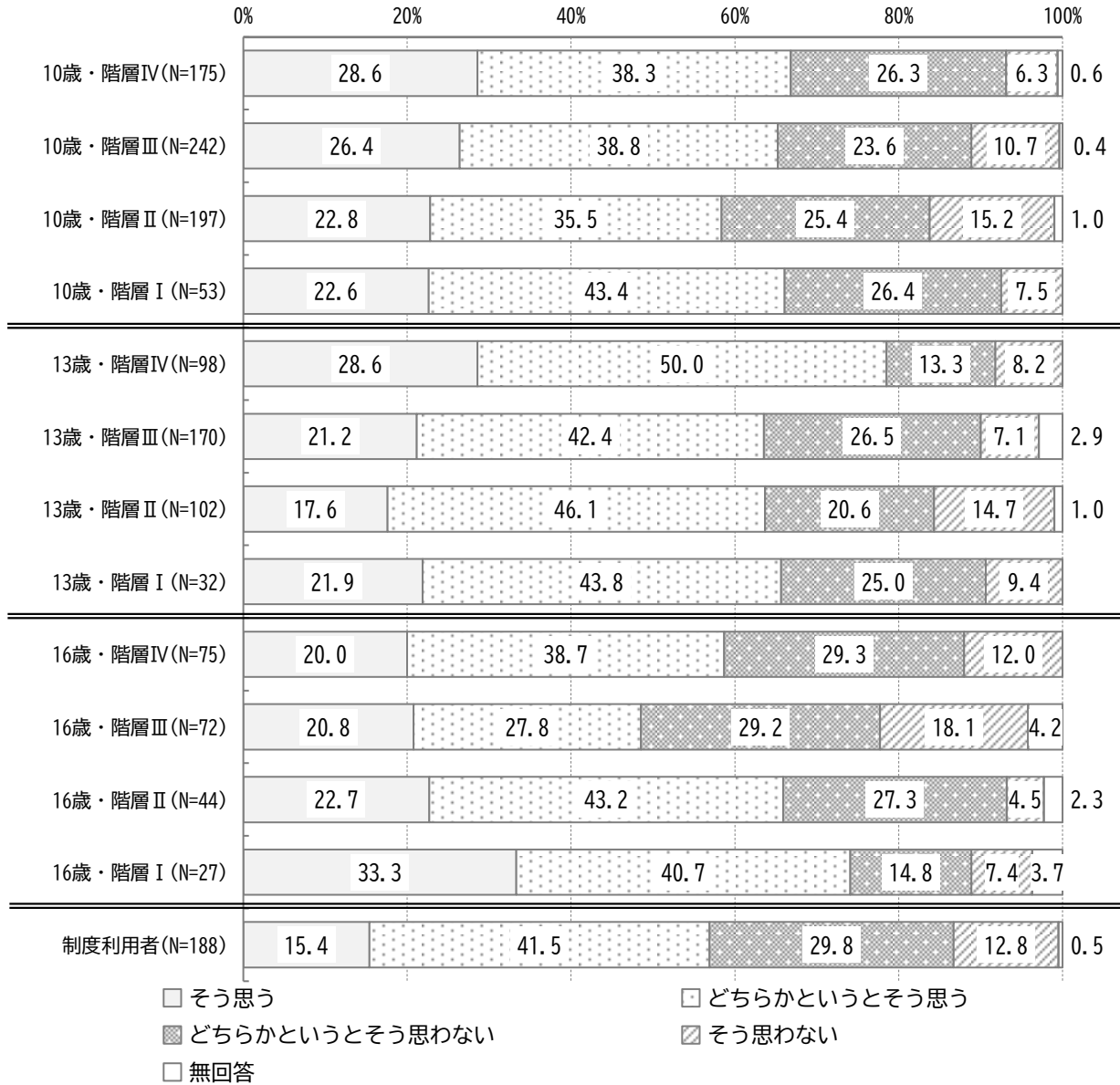
【問 28-① 自分に自信がある】

10歳では、いずれの層においても「思う」(「そう思う」「どちらかというと思う」の合計)の割合が6割以上となっています。13歳では、「思う」(「そう思う」「どちらかというと思う」の合計)の割合が5割前後となっています。16歳では、階層が低くなるにつれて「そう思う」の割合が高くなっています。



【問 28-② 自分の考えをはっきり相手に伝えられる】

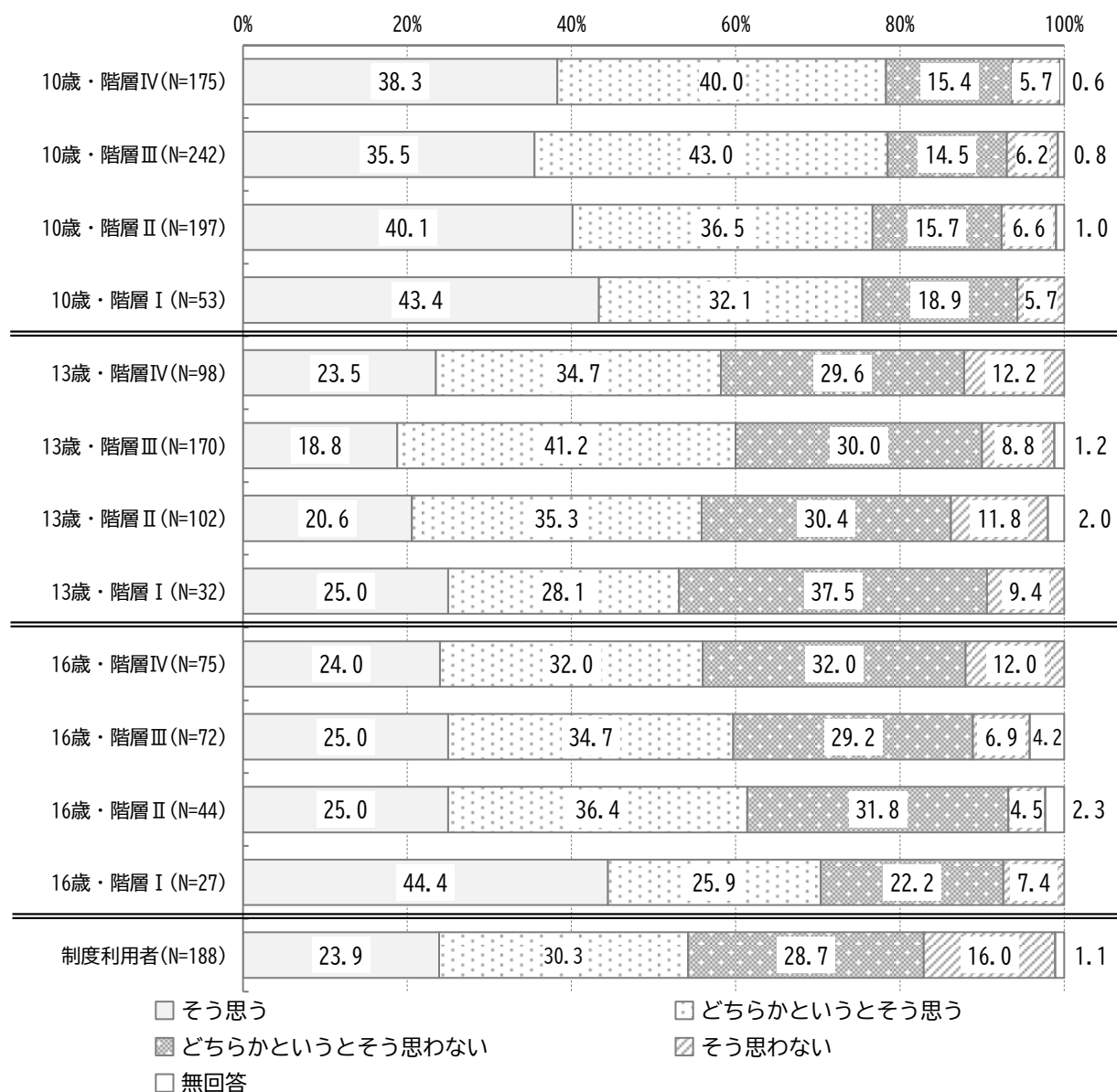
「そう思う」の割合について、10歳では階層が低くなるにつれて割合が低くなっている一方で、16歳では階層が低くなるにつれて割合が高くなっています。13歳は、いずれの階層においても「思う」（「そう思う」「どちらかというと思う」の合計）の割合が7割以上となっています。





【問 28-④ 自分の将来に明るい希望を持っている】

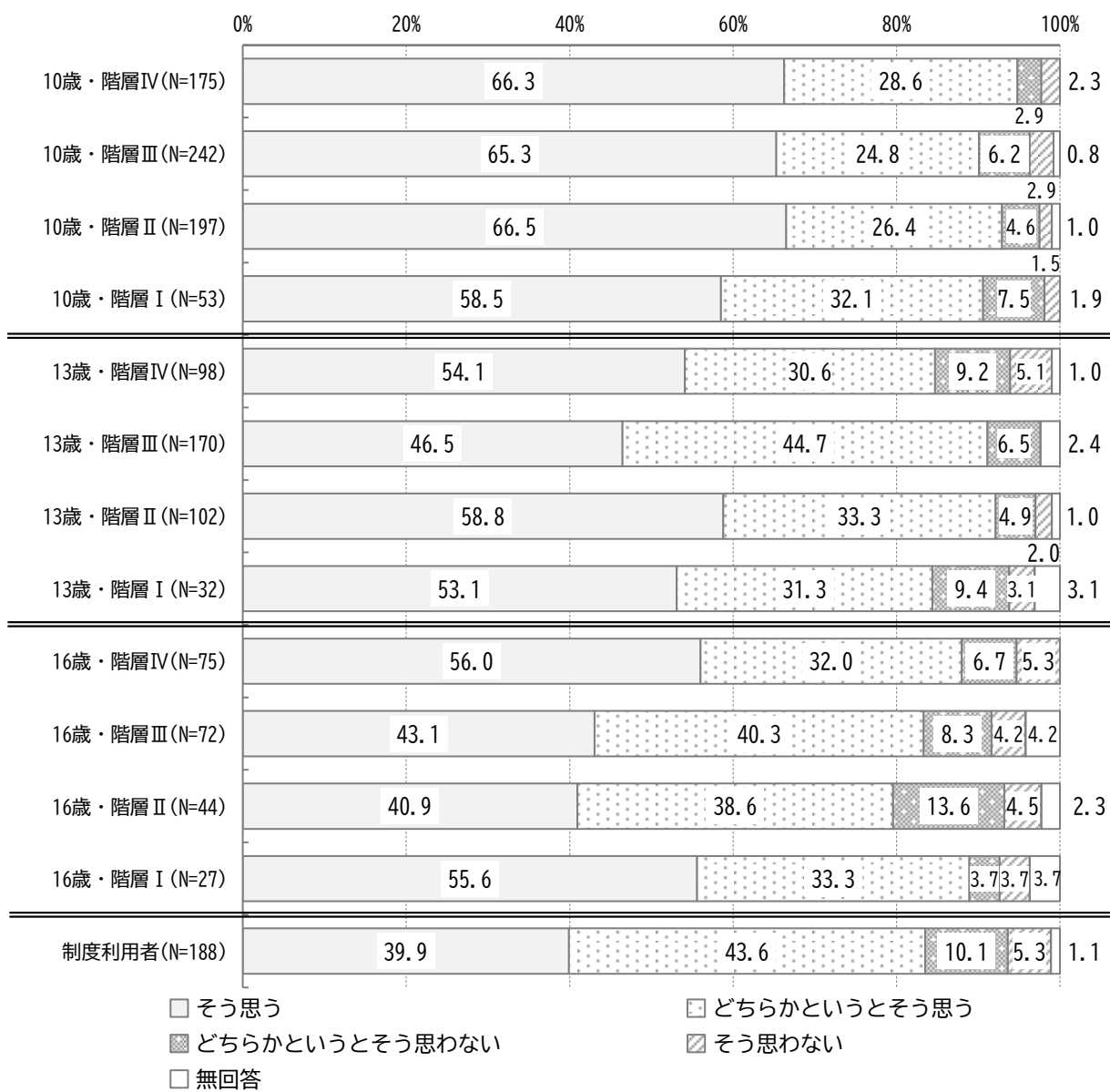
「思う」「そう思う」「どちらかというと思う」の合計)の割合について、10歳ではいずれの階層も7割以上となっており、13歳ではいずれの階層も5割以上となっています。16歳では、階層が低くなるにつれて割合が高くなっています。





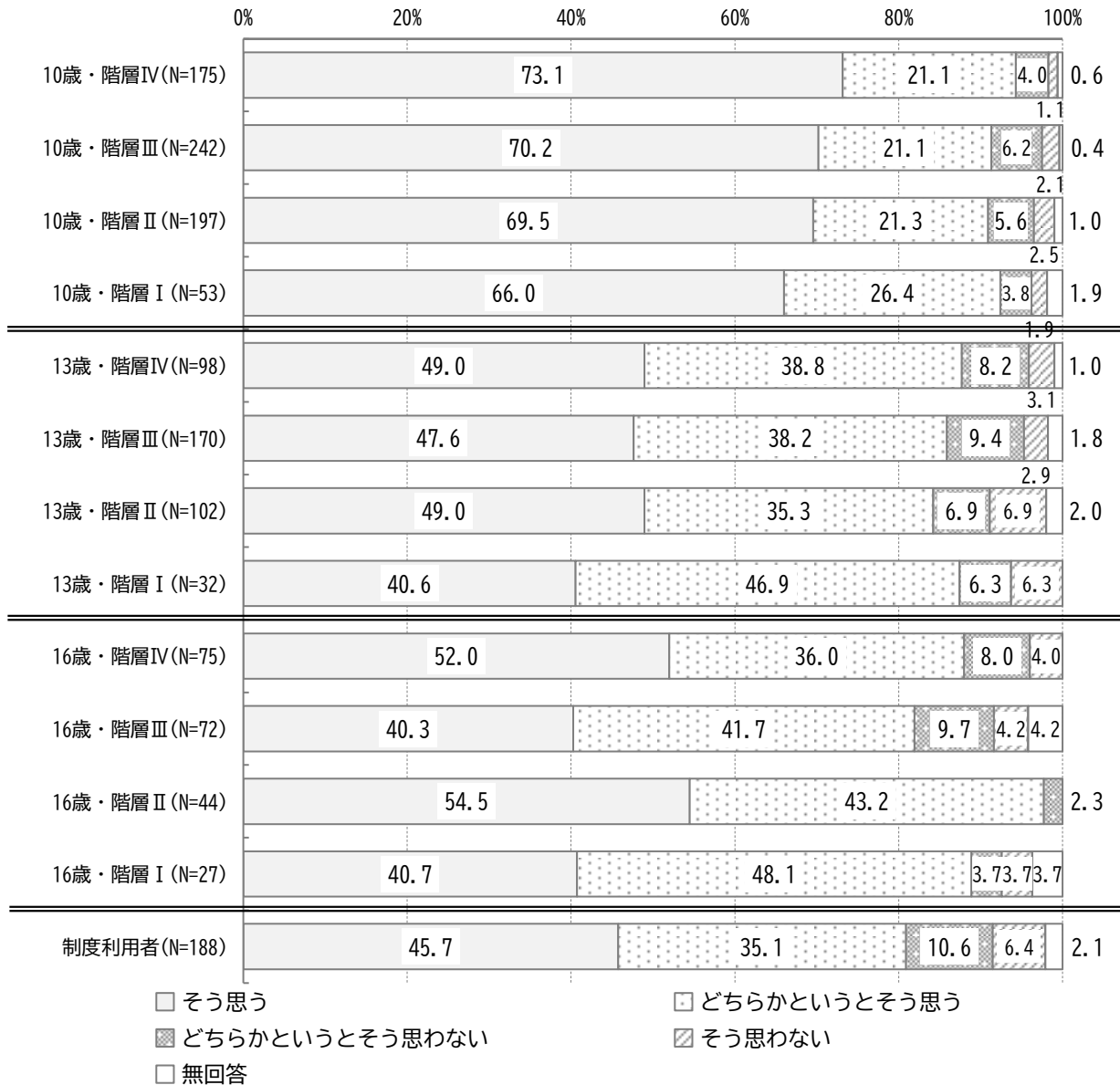
【問 28-⑥ 将来、一生懸命働きたい】

各年齢・階層、制度利用者において、「思う」（「そう思う」「どちらかというと思う」の合計）の割合は8割以上または8割程度となっています。



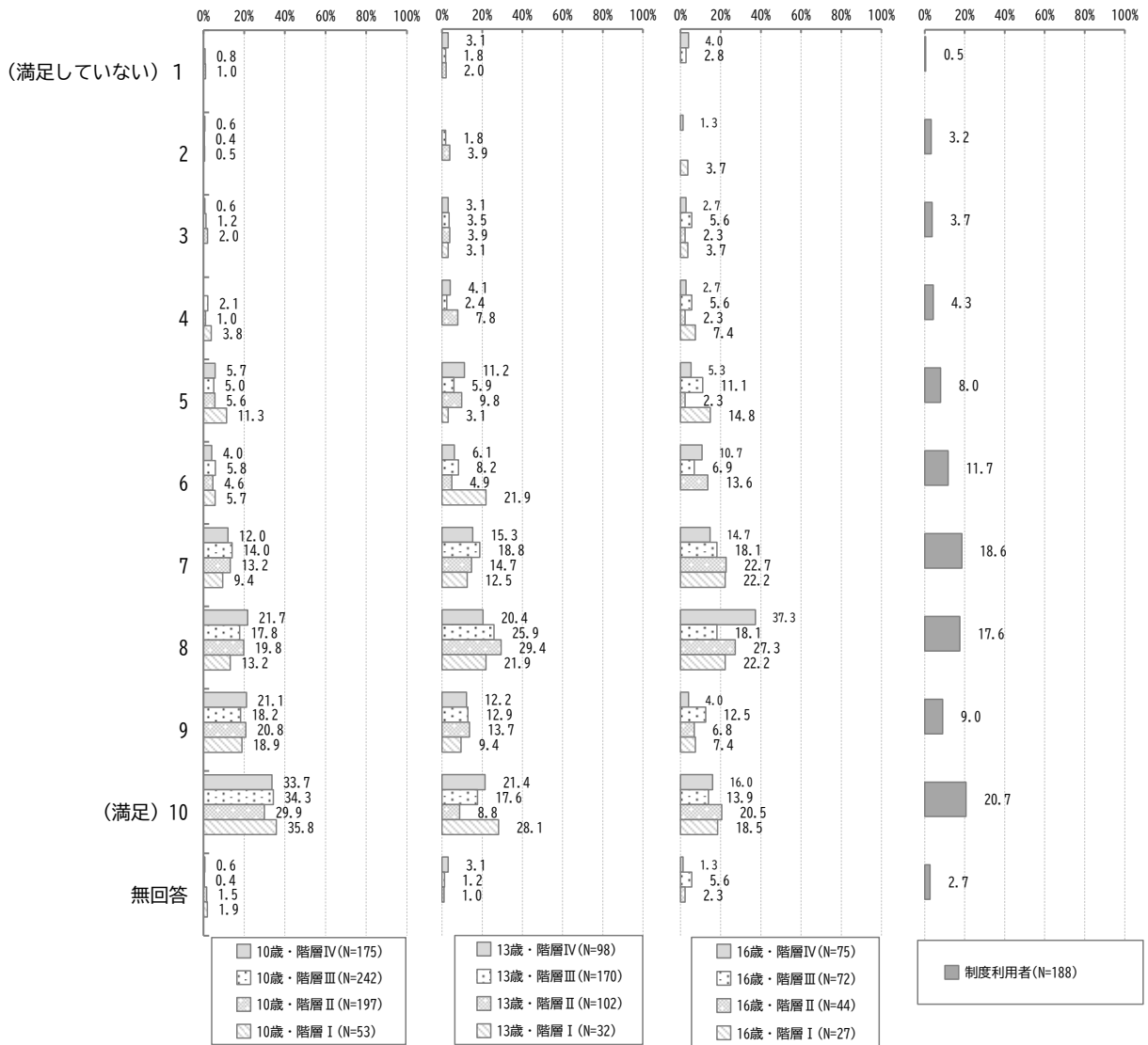
【問 28-⑦ 自分は幸せだ】

各年齢・階層、制度利用者において、「思う」（「そう思う」「どちらかというと思う」の合計）の割合は8割以上となっています。「そう思う」の割合について、10歳、13歳では、階層が低くなるにつれて割合が低くなる傾向にあります。



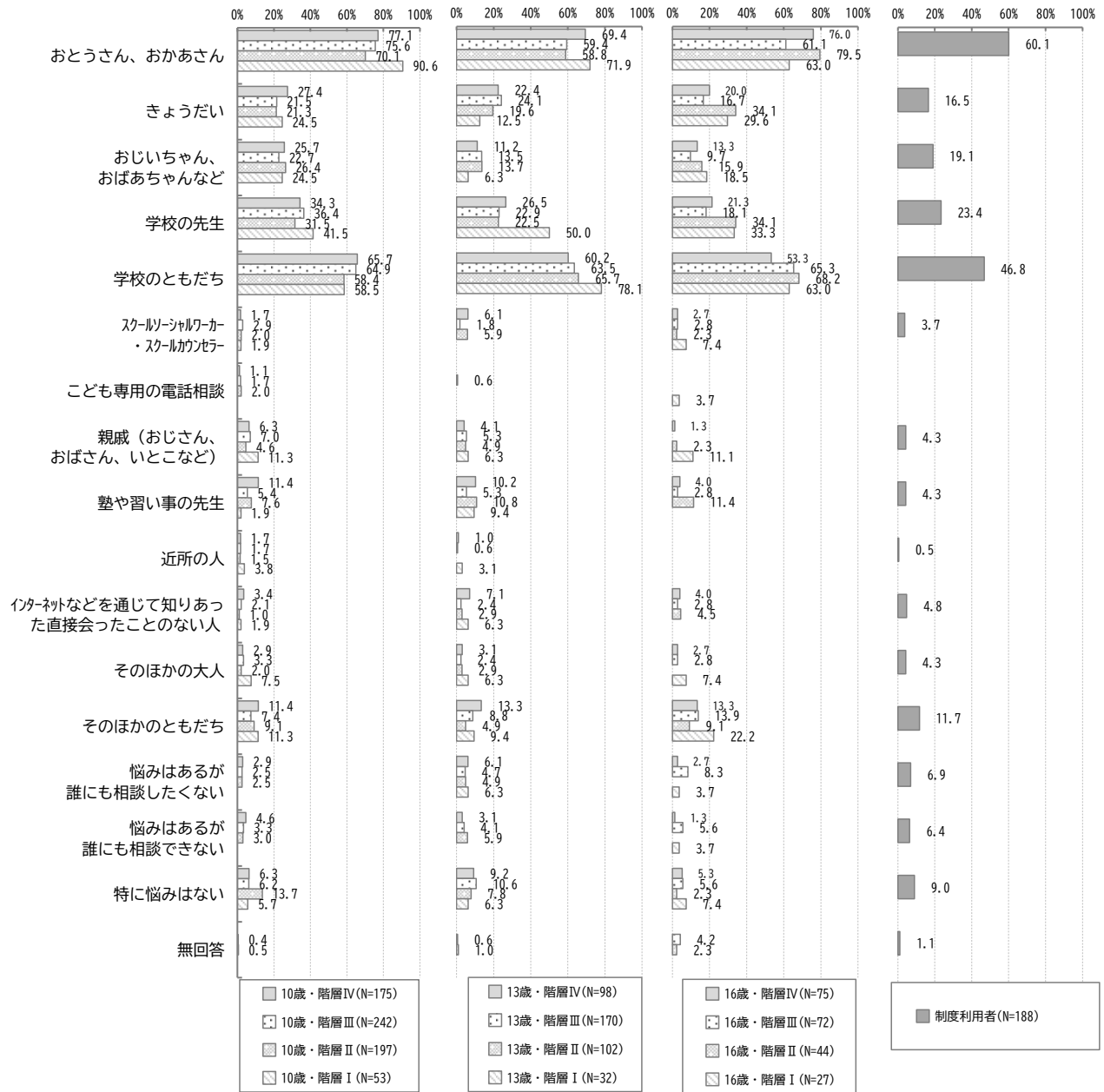
問 29 全体として、あなたは最近の生活にどのくらい満足していますか。(あてはまる数字1つ)

年齢が上がるにつれて、多く選ばれる値は「10」から「8」へと移行しています。



問 30-1 あなたが悩んでいるときに、相談にのってくれる人は誰ですか。(あてはまるものすべて)

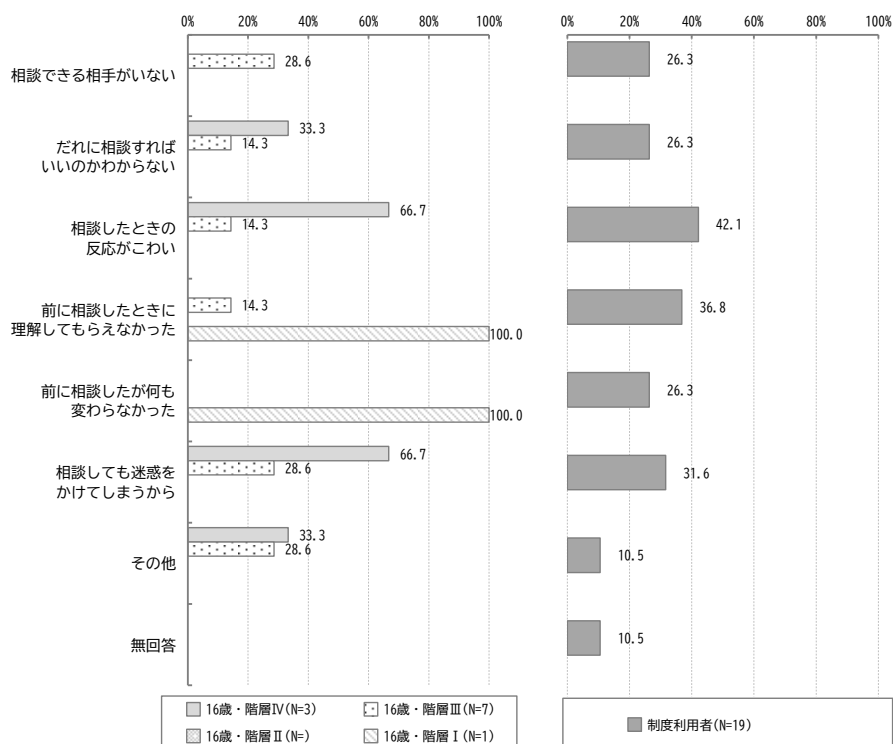
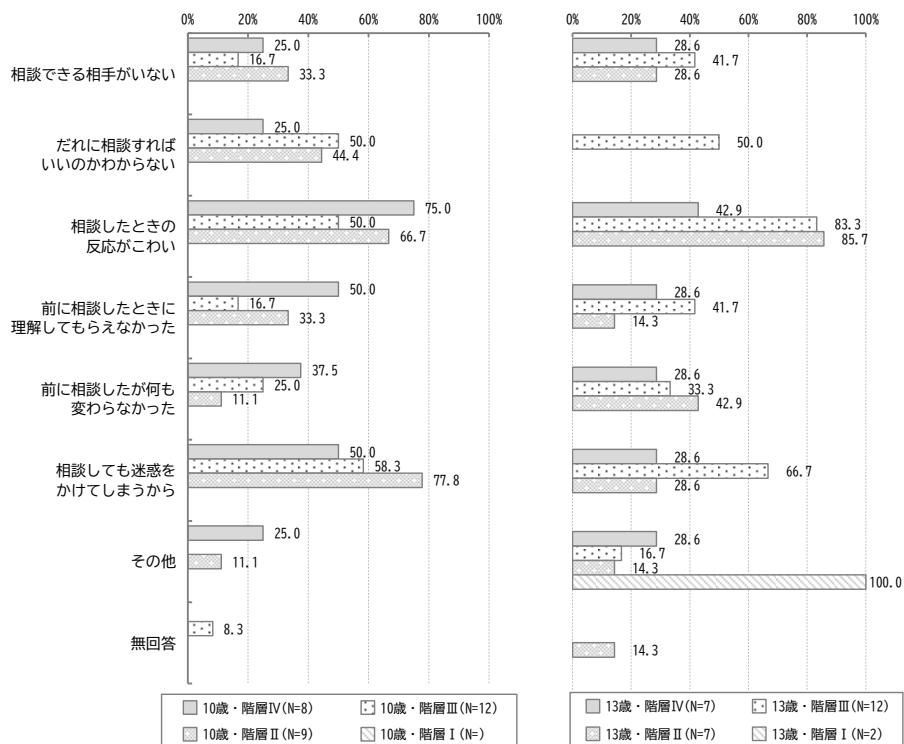
各年齢・階層、制度利用者において「おとうさん、おかあさん」と「学校のともだち」が高くなっています。



問 30-1 で「14. 悩みはあるが誰にも相談したくない」「15. 悩みはあるが誰にも相談できない」と回答した方にききます。

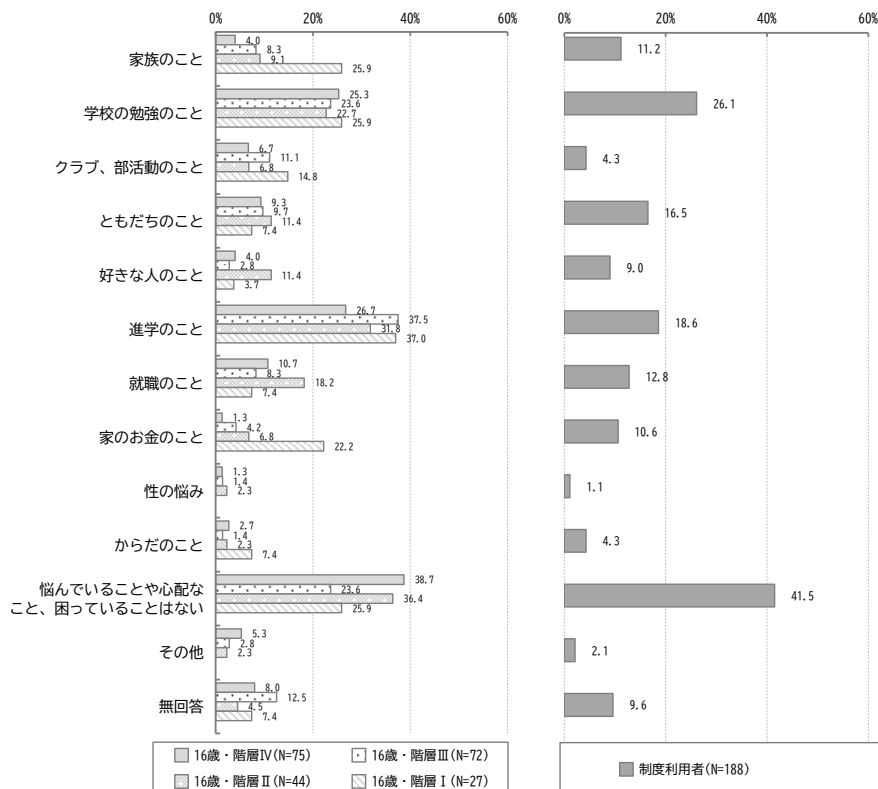
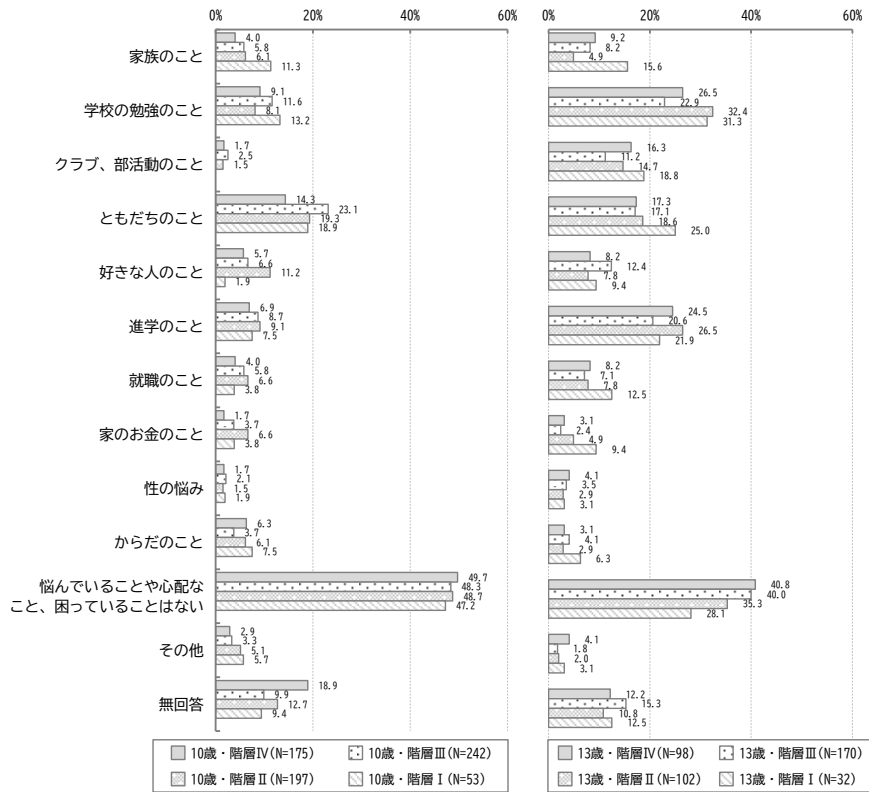
問 30-2 その理由を教えてください。(あてはまるものすべて)

(回答者数が少ないため参考値)。



問 31 あなたがいま悩んでいることや心配なこと、困っていることや、誰かに相談したいと思っ  
ていることがあれば、教えてください。(あてはまるものすべて)

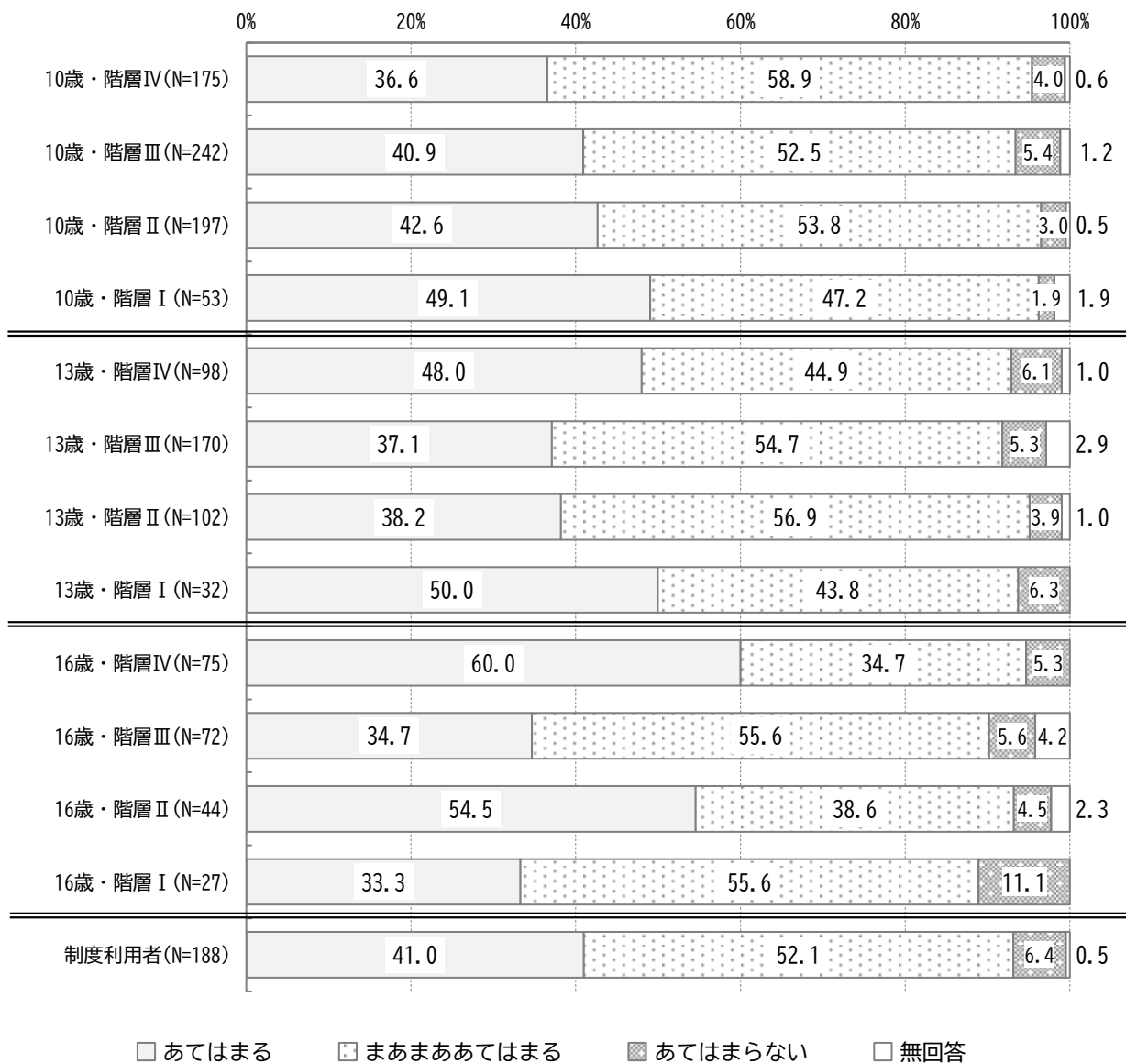
各年齢・階層、制度利用者とも「悩んでいることや心配なこと、困っていることはない」が高くな  
っています。13歳、16歳、制度利用者では「学校の勉強のこと」、「進学のこと」が高くなっていま  
す。階層が上がるにつれて「悩んでいることや心配なこと、困っていることはない」が減少する傾向  
がみられます。



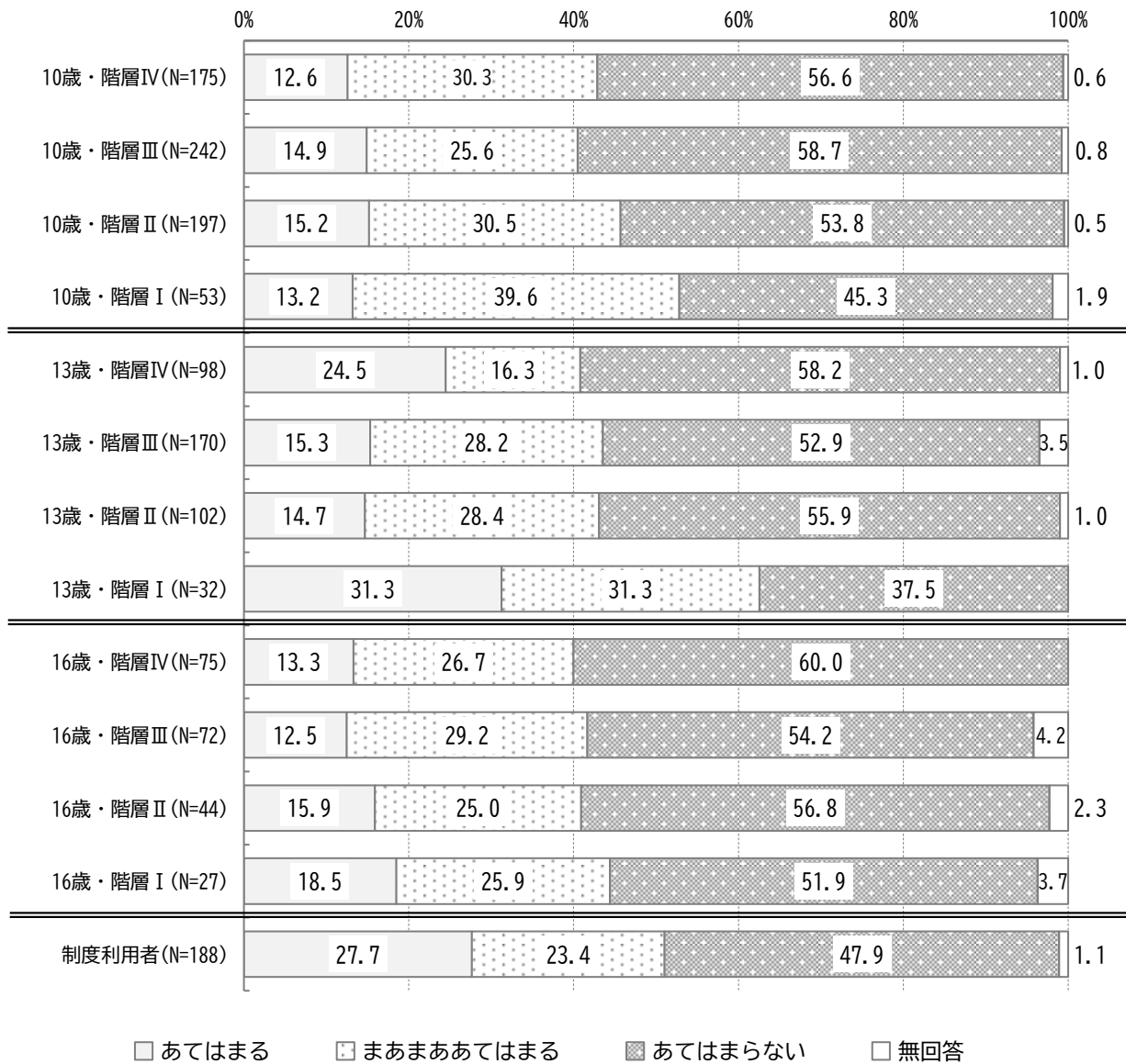
問 32 ①～⑮についてそれぞれ回答してください。正しい答えはありません。あなたが思ったとおりに回答してください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えて下さい。  
(それぞれあてはまるもの1つ)

【問 32-① わたしは、他の人にやさしくしている。わたしは、人の気持ちをよく考える。】

各年齢・階層、制度利用者において、「あてはまる」「あてはまる」「まあまああてはまる」の合計)の割合は9割以上または9割程度となっています。「あてはまる」の割合について、10歳では階層が低くなるにつれて割合が高くなっています。

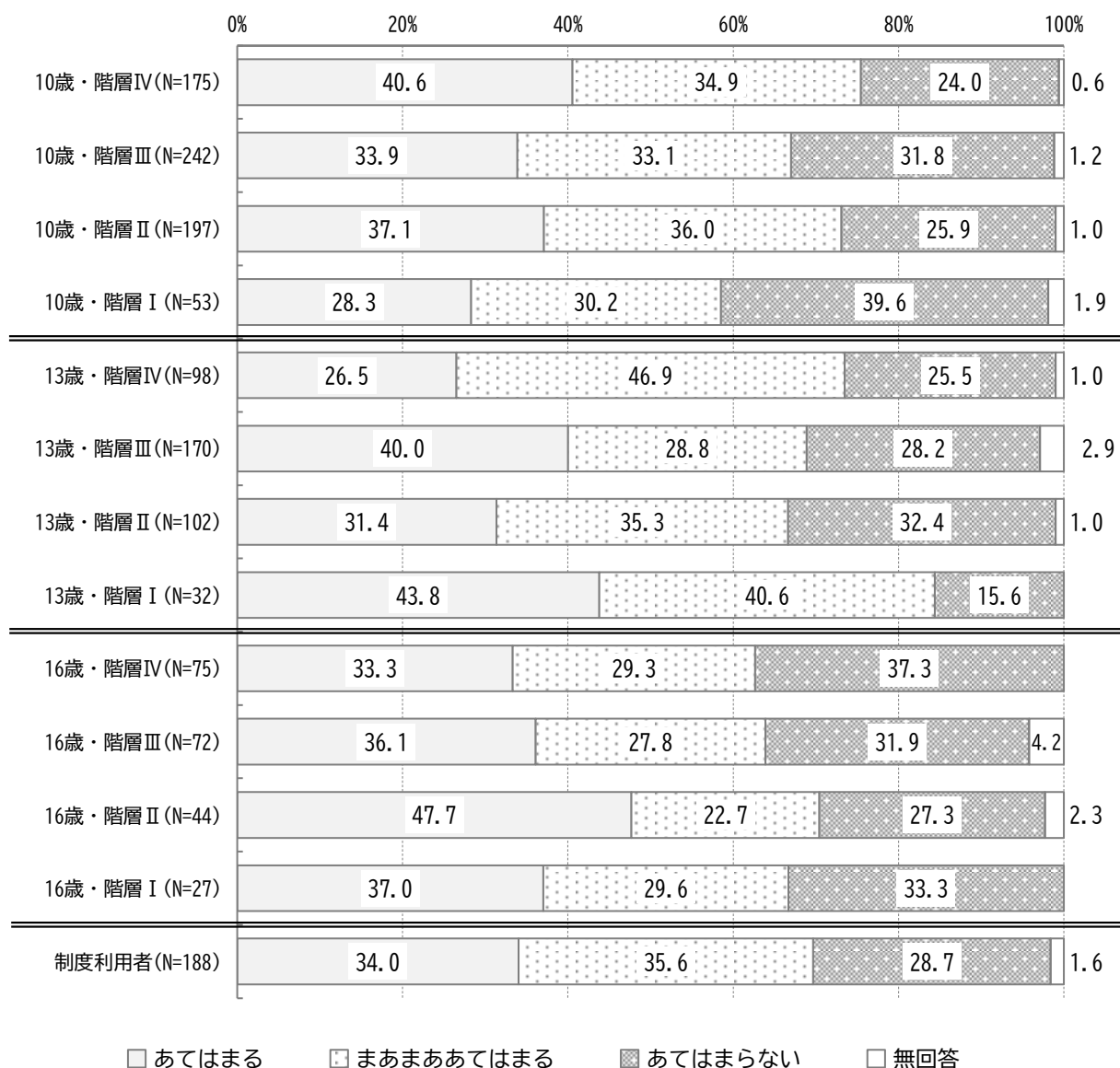


【問 32-② わたしは、よく頭やおなかがいなくなったり、気持ちがわるくなったりする。】  
 各年齢・階層、制度利用者において、「あてはまらない」の割合が最も高くなっています。  
 階層が低くなるにつれて、「あてはまる」の割合が高くなる傾向にあります。



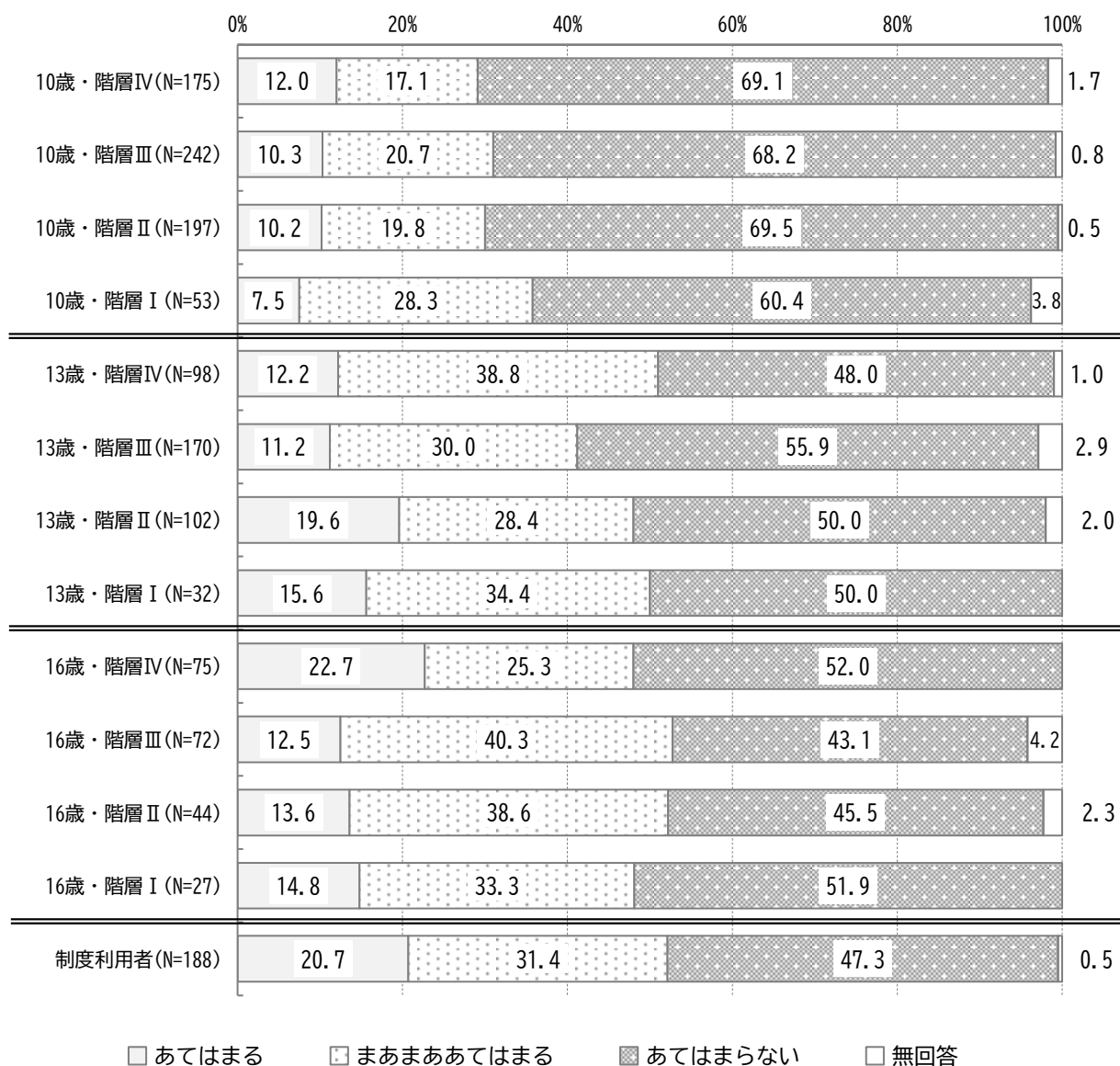
【問 32-③ わたしは、他の子どもたちと食べ物を分けたり、ゲーム、ペンなどを一緒に使ったりする。】

各年齢・階層、制度利用者において、「あてはまる」（「あてはまる」「まあまああてはまる」の合計）の割合は6割以上または6割程度となっています。



【問 32-④ わたしは、だいたい一人でいる。ひとりで遊ぶことが多い。みんなといるより、ひとりでいるほうがいい。】

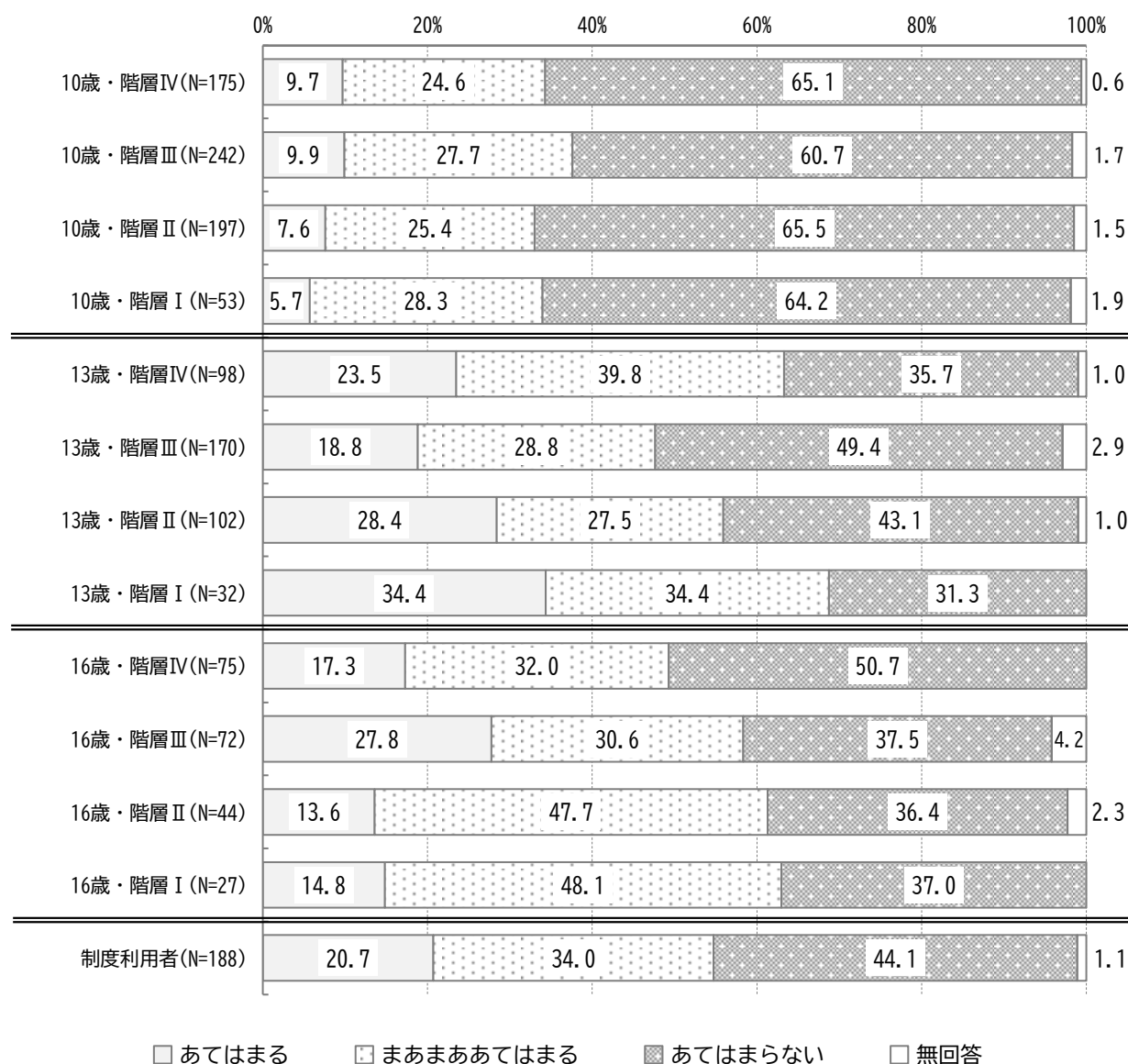
各年齢・階層、制度利用者において、「あてはまらない」の割合が最も高くなっています。「あてはまらない」の割合は、年齢が高くなるにつれて割合が低くなる傾向にあります。「あてはまる」の割合について、10歳では、階層が低くなるにつれて割合が低くなる傾向がみられます。



【問 32-⑤ わたしは、心配事が多く、いつも不安だ。】

10歳では、いずれの階層も「あてはまる」（「あてはまる」「まあまああてはまる」の合計）の割合は4割未満となっています。

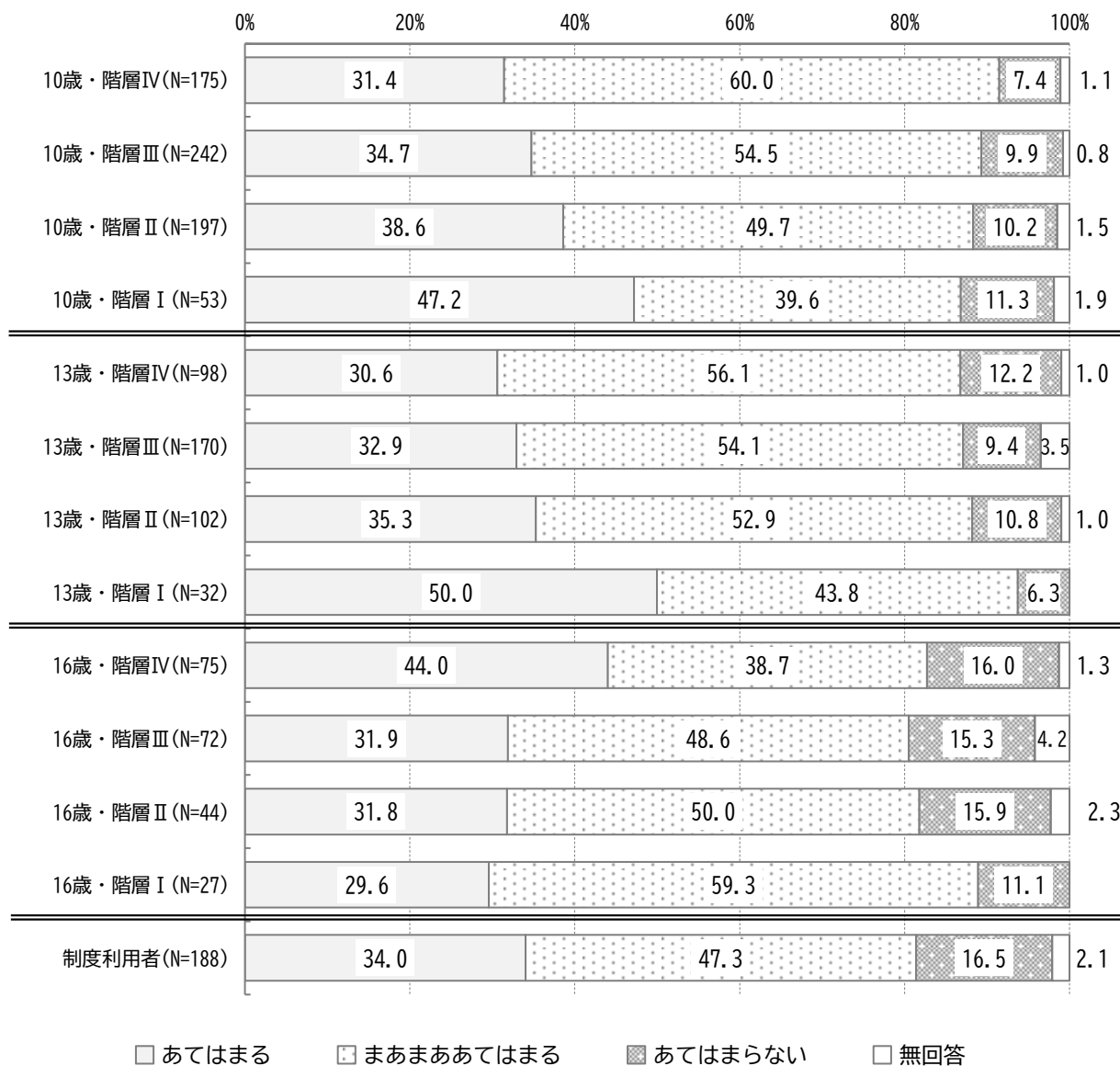
13歳、16歳の各階層、制度利用者では、「あてはまる」（「あてはまる」「まあまああてはまる」の合計）の割合が5割程度または5割以上となっています。16歳では、階層が低くなるにつれて割合が高くなっています。



【問 32-⑥ わたしは、だれかが落ちこんでいたり、いやな思いをしている時は、すすんで助ける。】

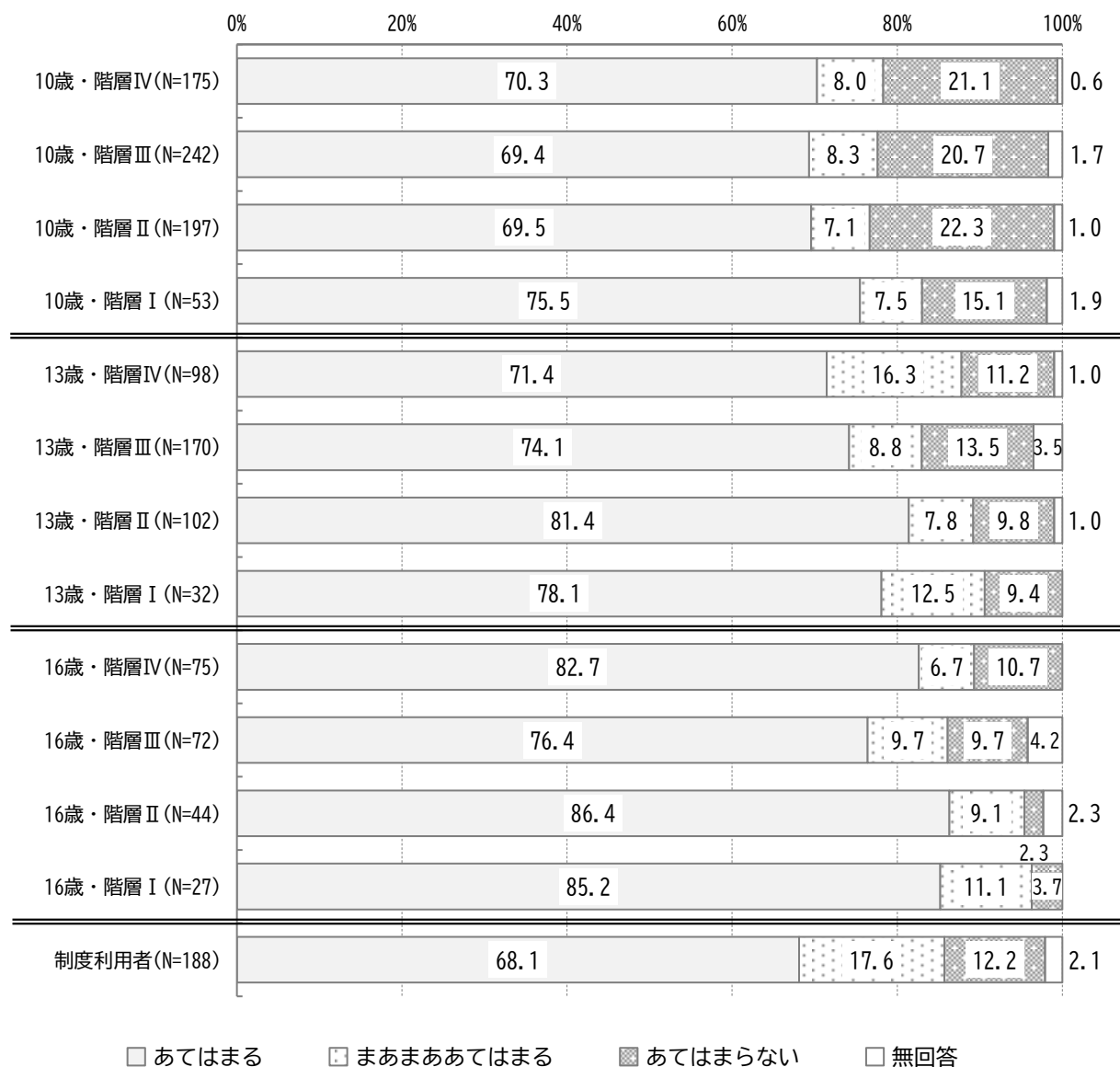
各年齢・階層、制度利用者において、「あてはまる」（「あてはまる」「まあまああてはまる」の合計）の割合が8割以上となっています。

13歳および16歳では、階層が低くなるにつれて「あてはまる」の割合が高くなる傾向がみられます。



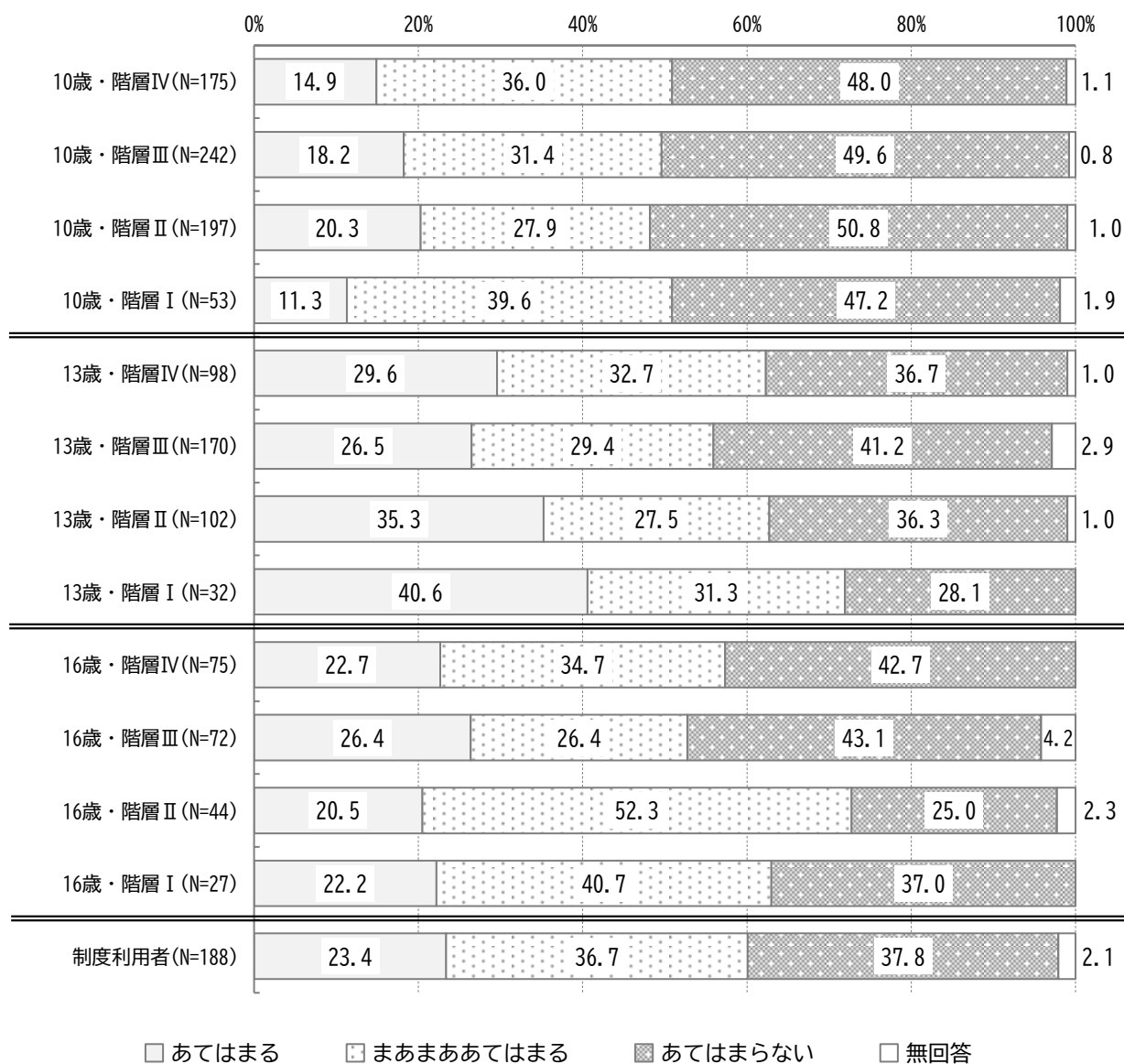
【問 32-⑦ わたしは、仲の良いともだちが少なくとも一人はいる。】

各年齢・階層、制度利用者において、「あてはまる」の割合が7割以上または7割程度となっています。



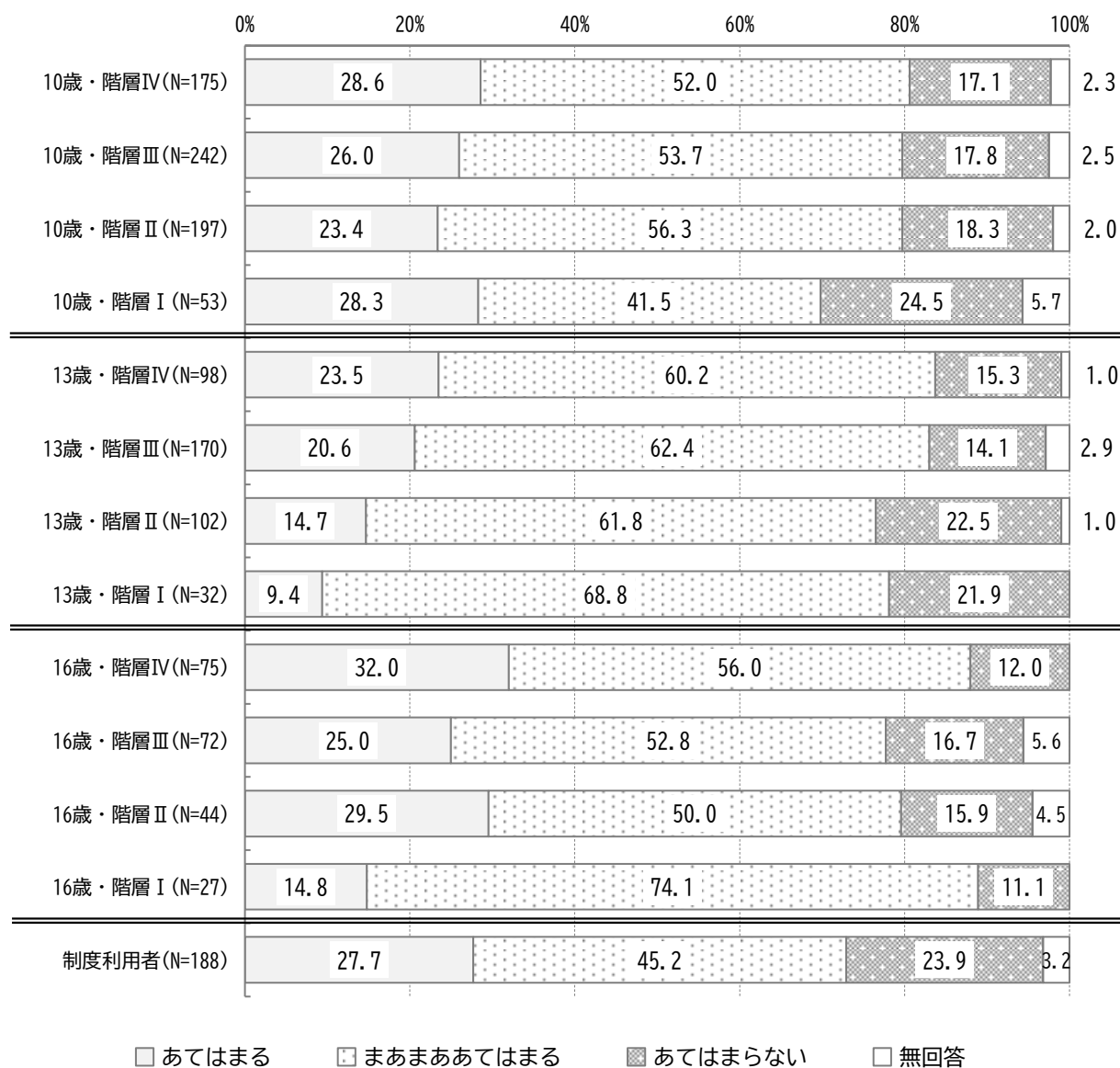
【問 32-⑧ わたしは、落ちこんだり、なみだぐんだりすることがよくある。】

各年齢・階層、制度利用者において、「あてはまる」（「あてはまる」「まあまああてはまる」の合計）の割合が5割以上または5割程度となっています。



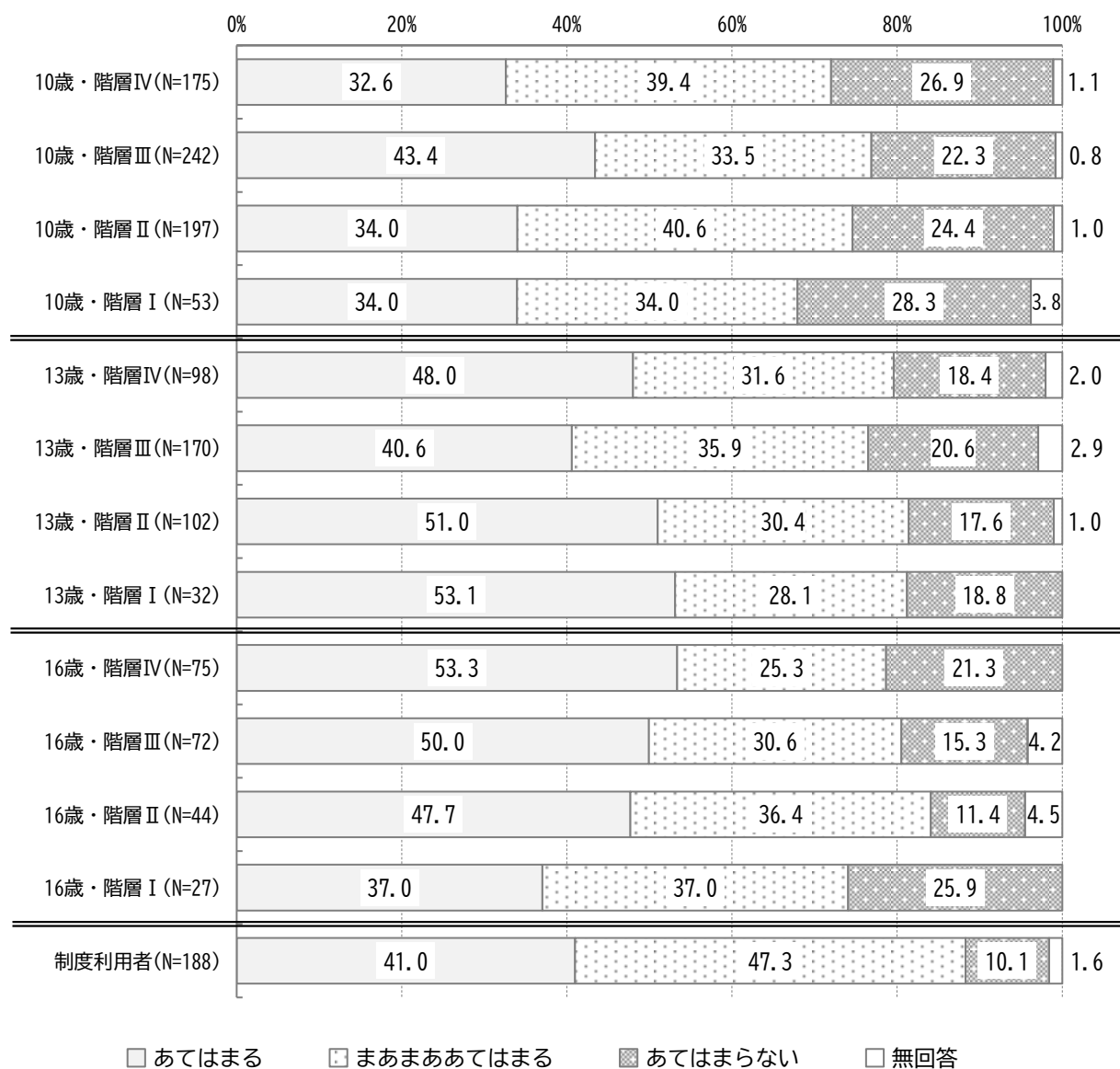
【問 32-⑨ わたしは、同じくらいの年の子どもからは、だいたい好かれている。】

各年齢・階層、制度利用者において、「あてはまる」（「あてはまる」「まあまああてはまる」の合計）の割合が7割以上または7割程度となっています。10歳、13歳では、階層が低くなるにつれて割合が低い傾向にあります。



【問 32-⑩ わたしは、初めてのことをするとき、不安になり、自信をなくしやすい。】

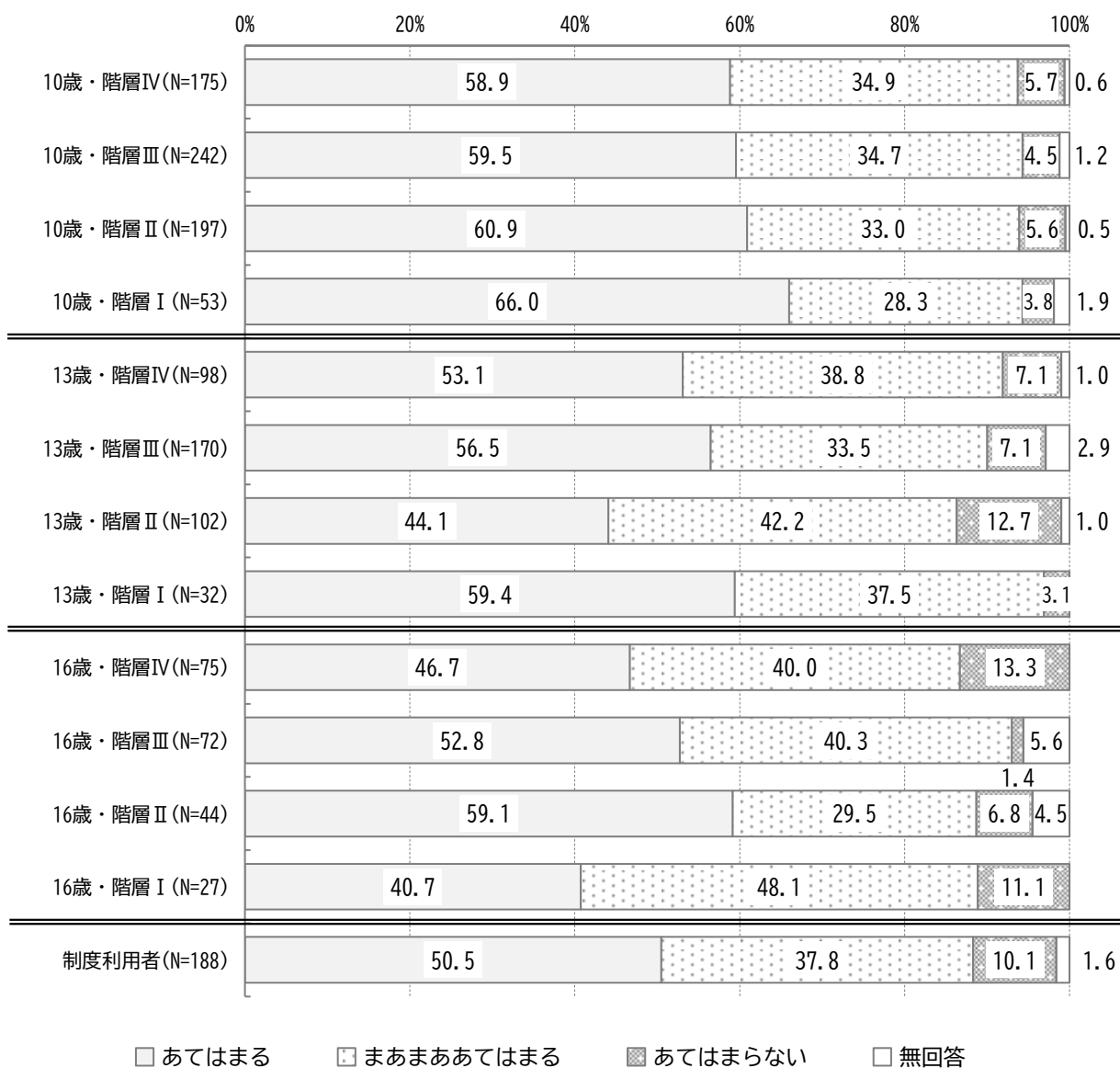
各年齢・階層、制度利用者において、「あてはまる」（「あてはまる」「まあまああてはまる」の合計）の割合が7割以上または7割程度となっています。「あてはまる」の割合でみると、16歳では、階層が低くなるにつれて割合が低くなっています。



【問 32-① わたしは、年下の子どもたちにやさしくしている。】

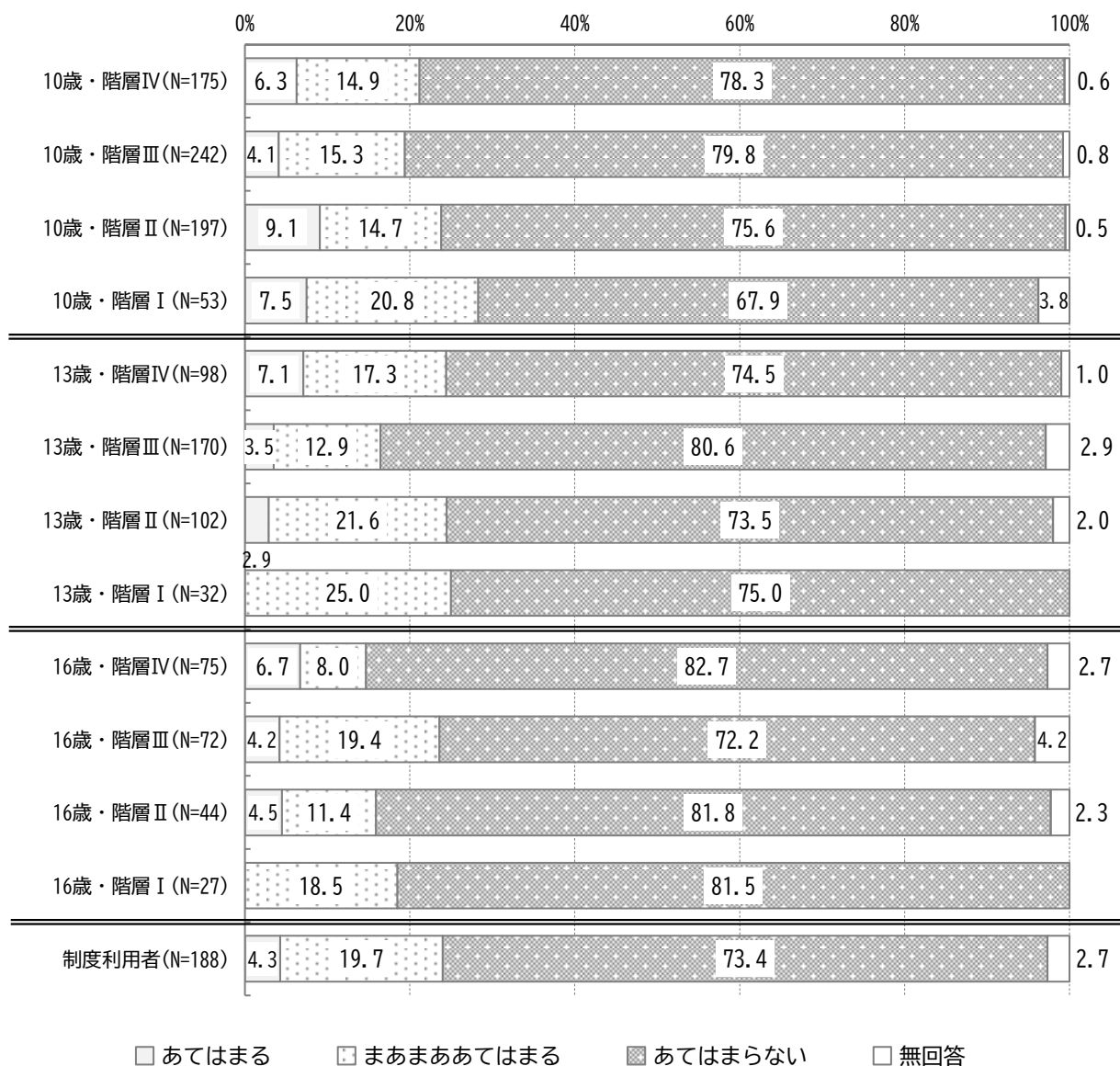
「あてはまる」（「あてはまる」「まあまああてはまる」の合計）の割合について、10歳ではいずれの階層も9割以上となっており、13歳、16歳の各階層、制度利用者では8割以上となっています。

「あてはまる」の割合でみると、10歳では階層が低くなるにつれて割合が高くなっています。



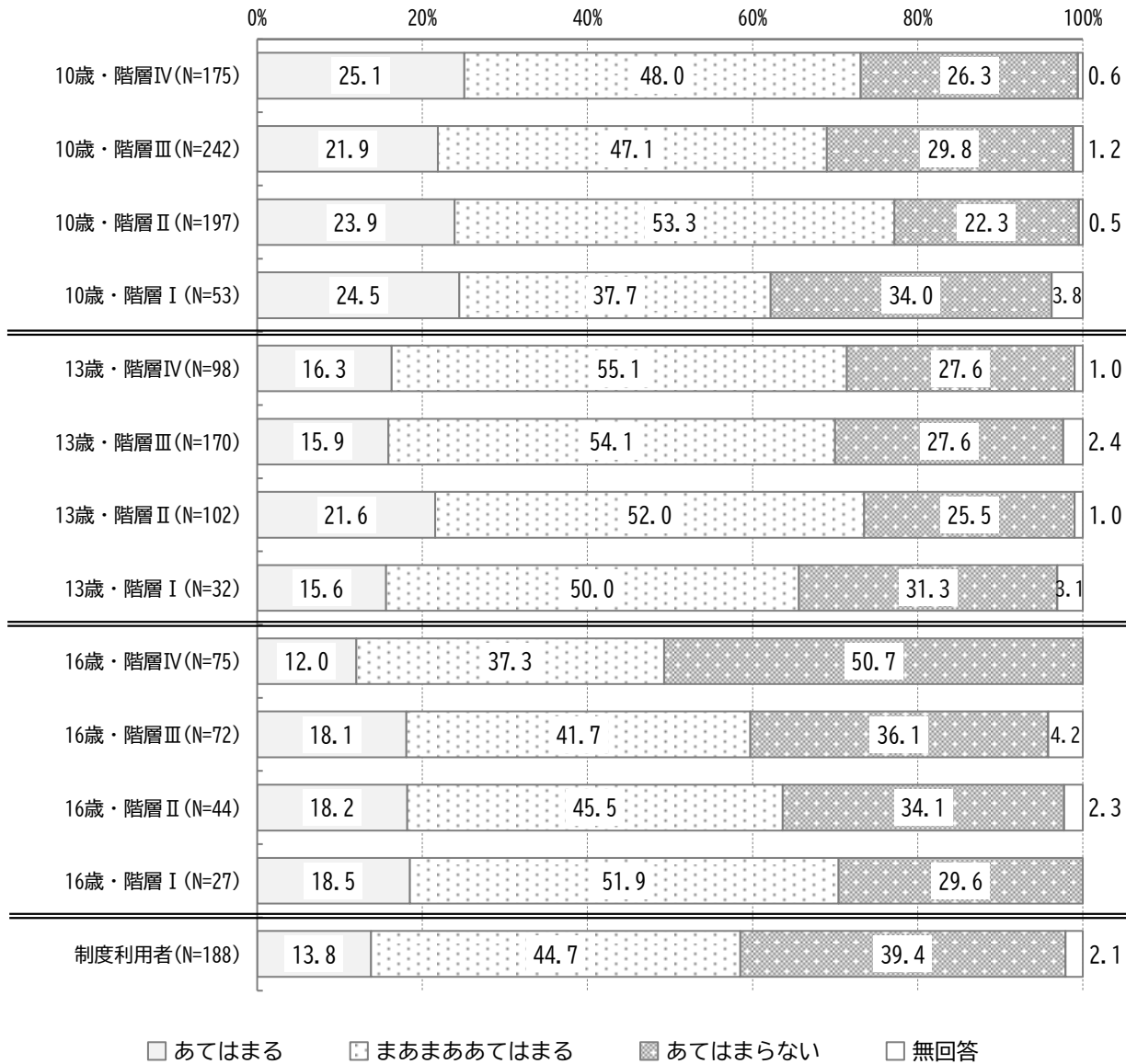
【問 32-⑫ わたしは、他の子どもからいじめられたりからかわれたりする。】

各年齢・階層、制度利用者において、「あてはまらない」が最も高くなっています。



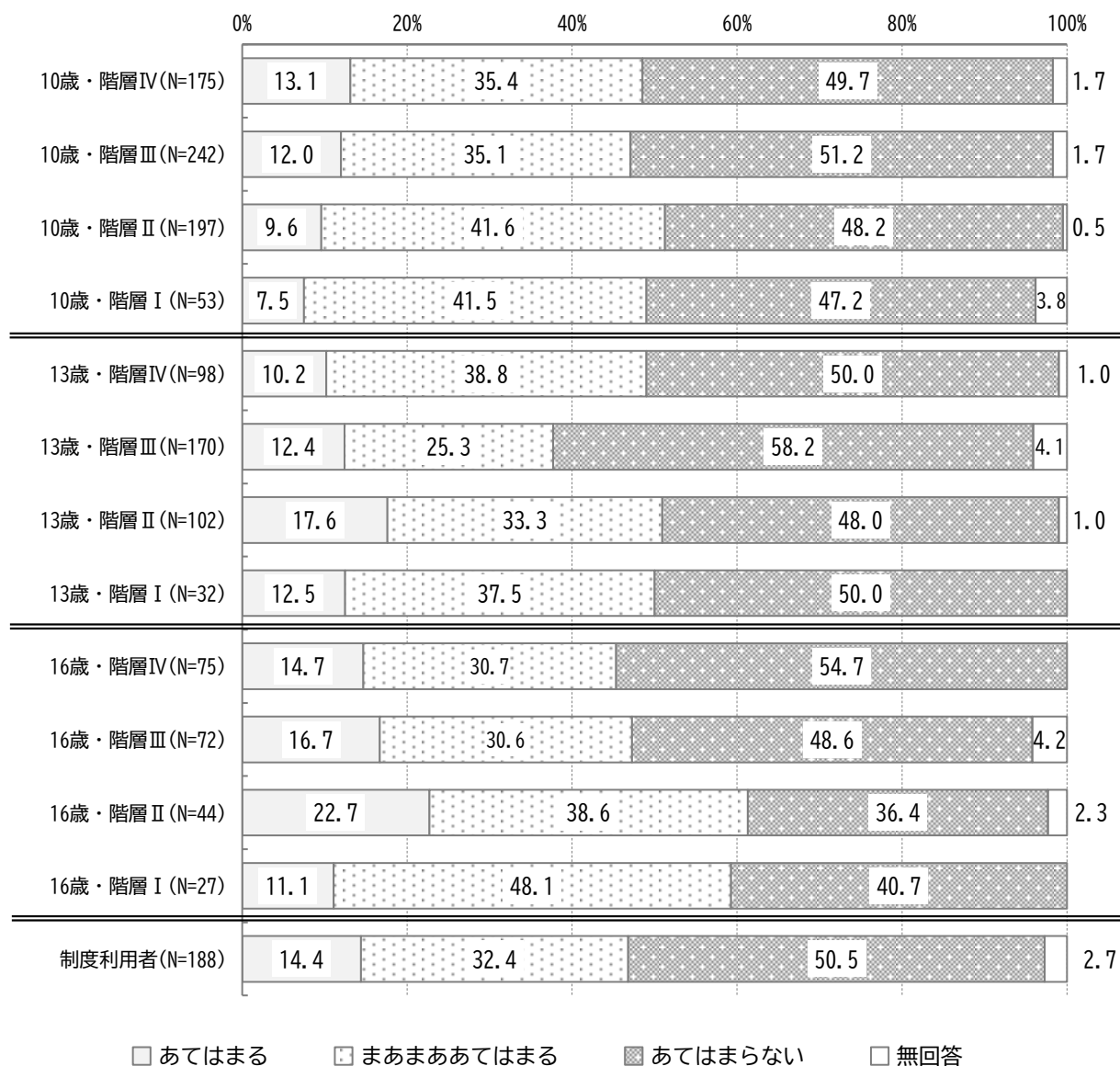
【問 32-⑬ わたしは、自分からすすんでよくお手伝いをする。】

10 歳、13 歳では、いずれの階層においても「あてはまる」「あてはまる」「まあまああてはまる」の合計)の割合が6割以上となっています。16 歳では、階層が低くなるにつれて割合が高くなっています。



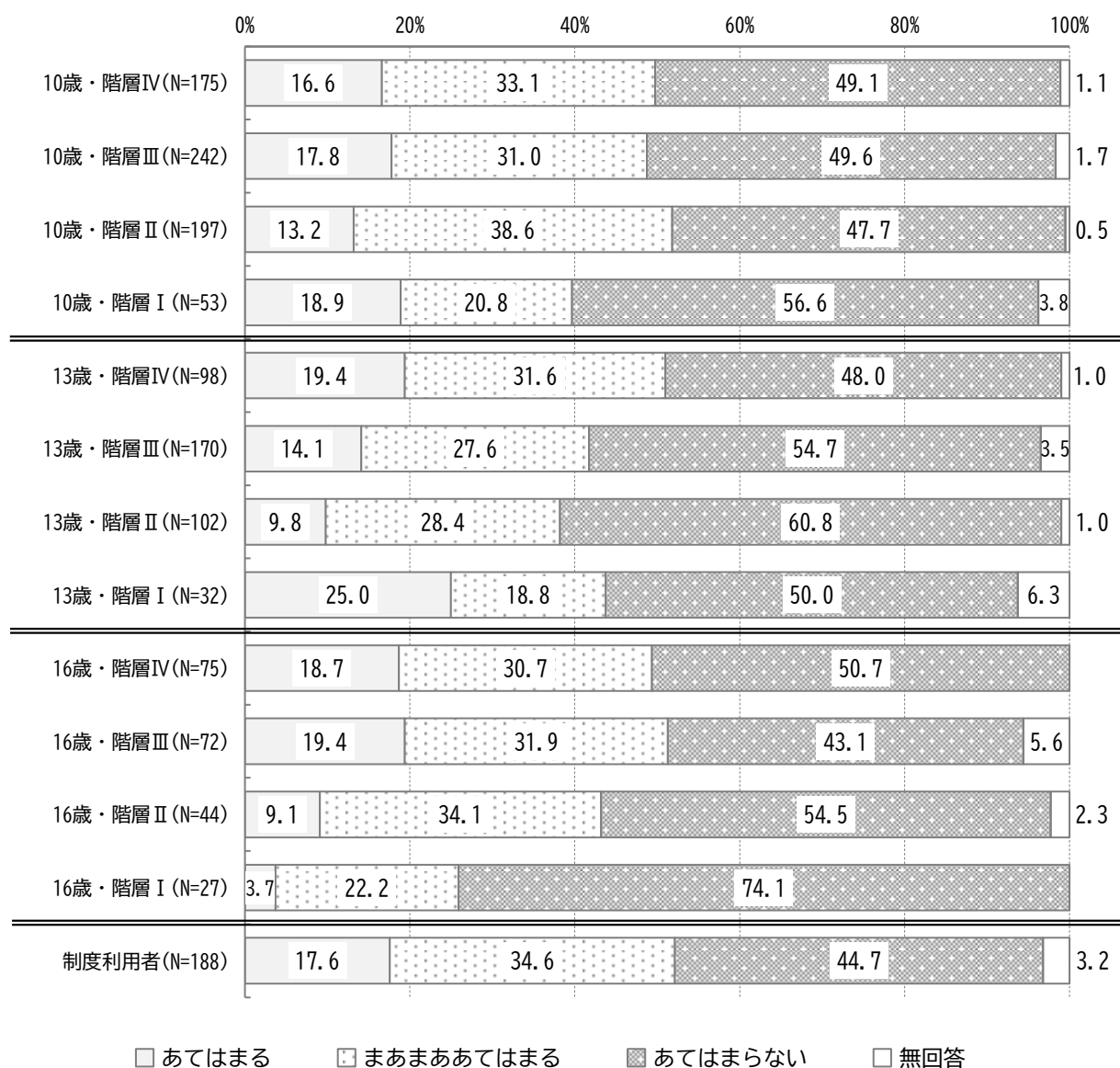
【問 32-⑭ わたしは、他の子どもたちよりも大人という方がうまくいく。】

10 歳、13 歳の各階層、制度利用者では、「あてはまらない」の割合が最も高くなっています。



【問 32-⑮ わたしは、こわがりですぐにおびえたりする。】

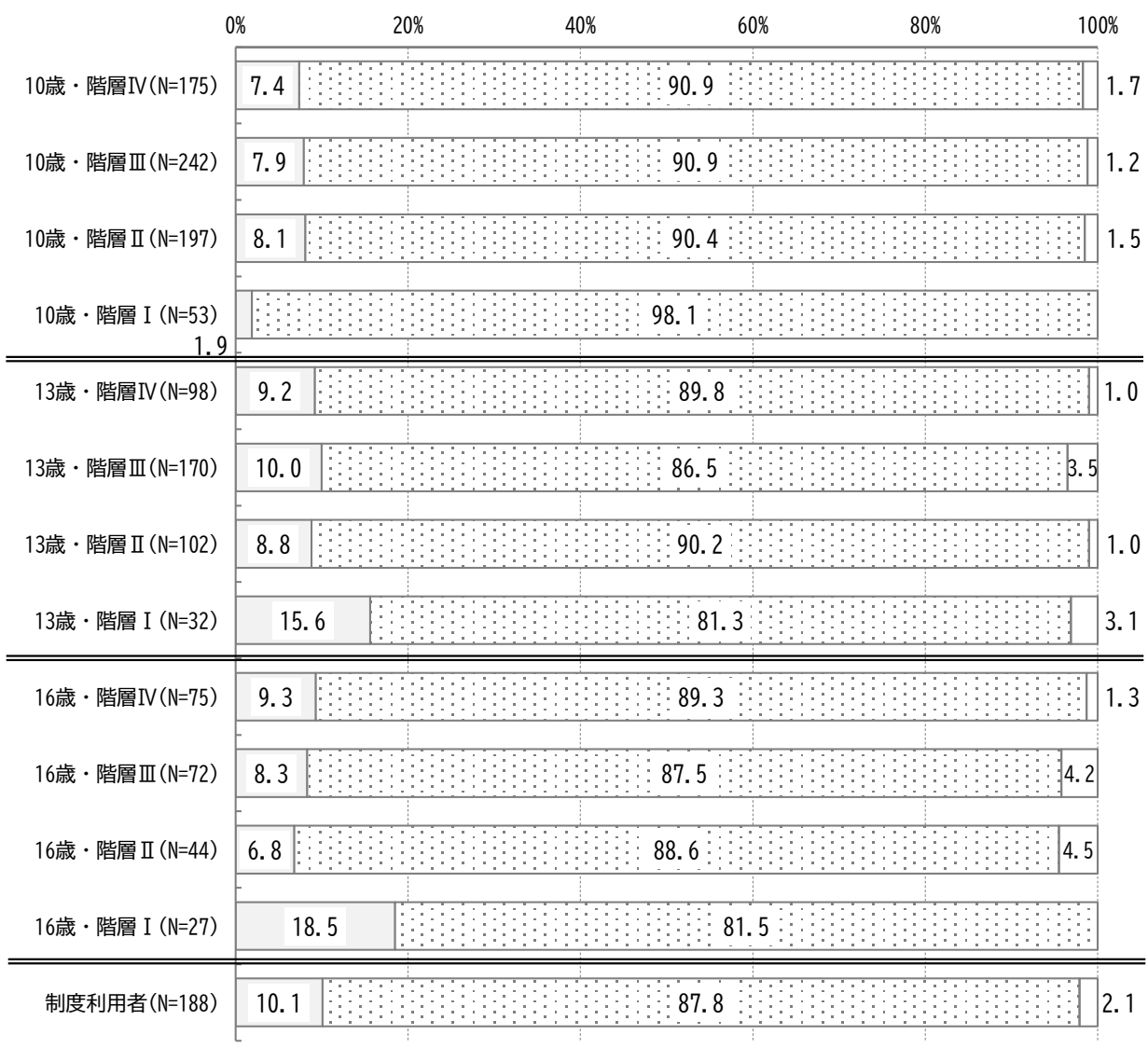
各年齢・階層、制度利用者において、「あてはまらない」が最も高くなっています。



問 33 あなたは今まで、以下の①～⑧のようなことがあります（ありました）か。  
（それぞれあてはまるもの1つ）

【問 33-① 一緒に住んでいる大人から、悪口を言われたり、けなされたり、恥をかかされたり、身体を傷つけられるなど危険を感じることもある。】

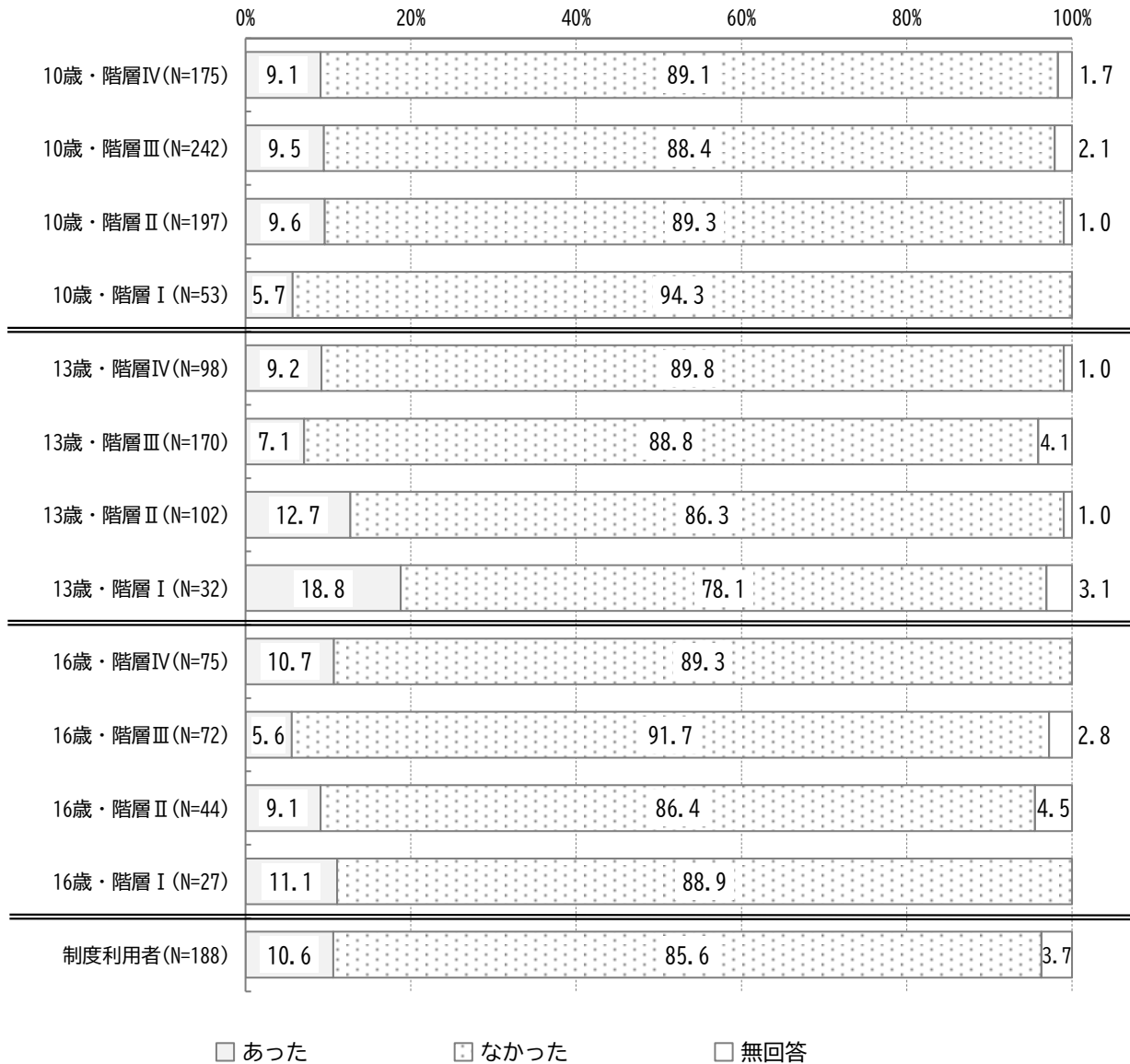
各年齢・階層、制度利用者において、「なかった」が最も高くなっています。「あった」の割合で見ると、10歳では、階層Iにおいて割合が最も低い一方で、13歳、16歳では、階層Iにおいて割合が最も高くなっています。



あった       なかった       無回答

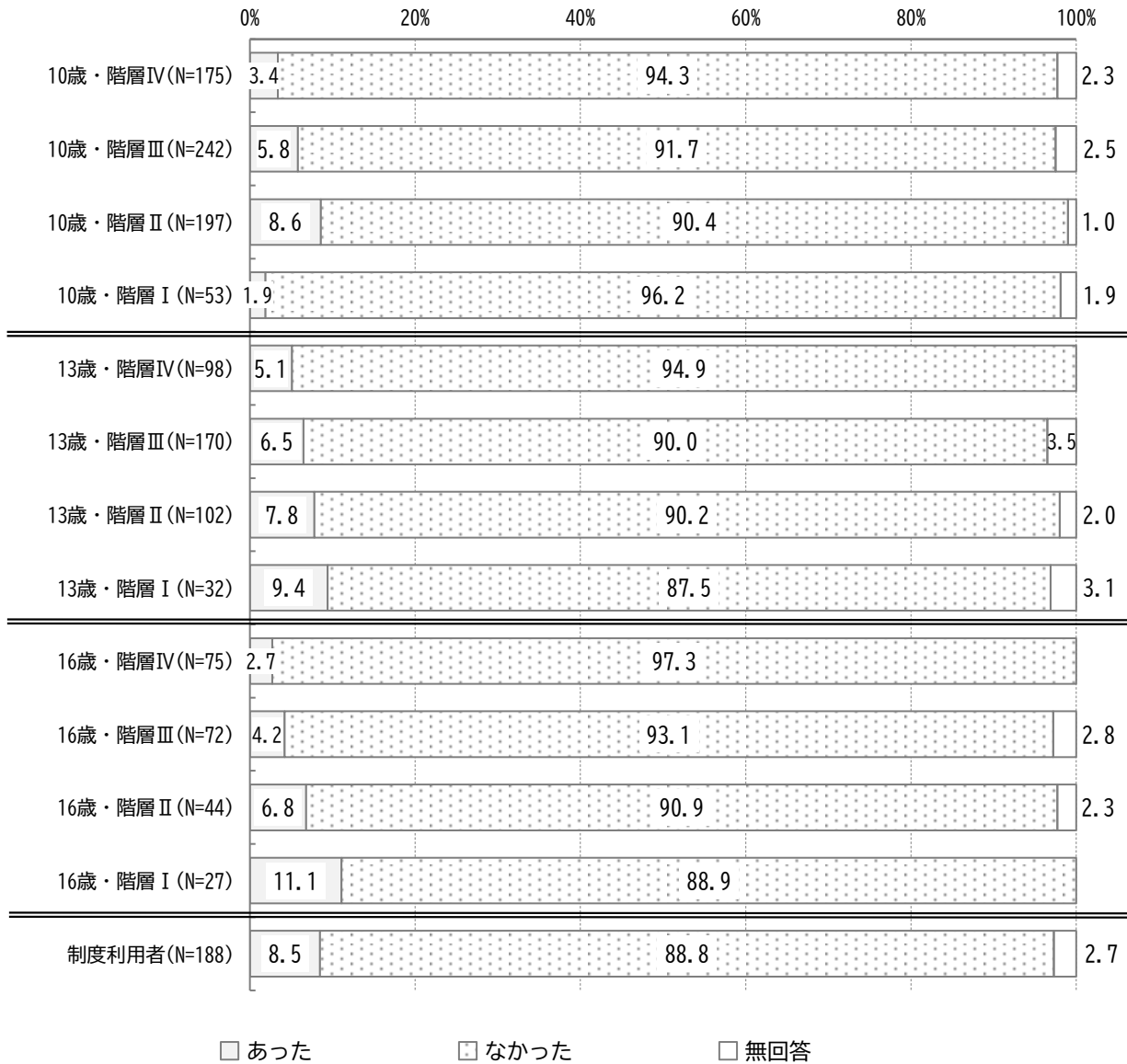
【問 33-② 一緒に住んでいる大人から、おされる、つかまれる、たたかれる、ものを投げつけられるといったことがよくある。または、けがをするほど強くなぐられたことが一度でもある。】

各年齢・階層、制度利用者において、「なかった」が最も高くなっています。「あった」の割合で見ると、10歳では、階層Ⅰにおいて割合が最も低い一方で、13歳、16歳では、階層Ⅰにおいて割合が最も高くなっています。



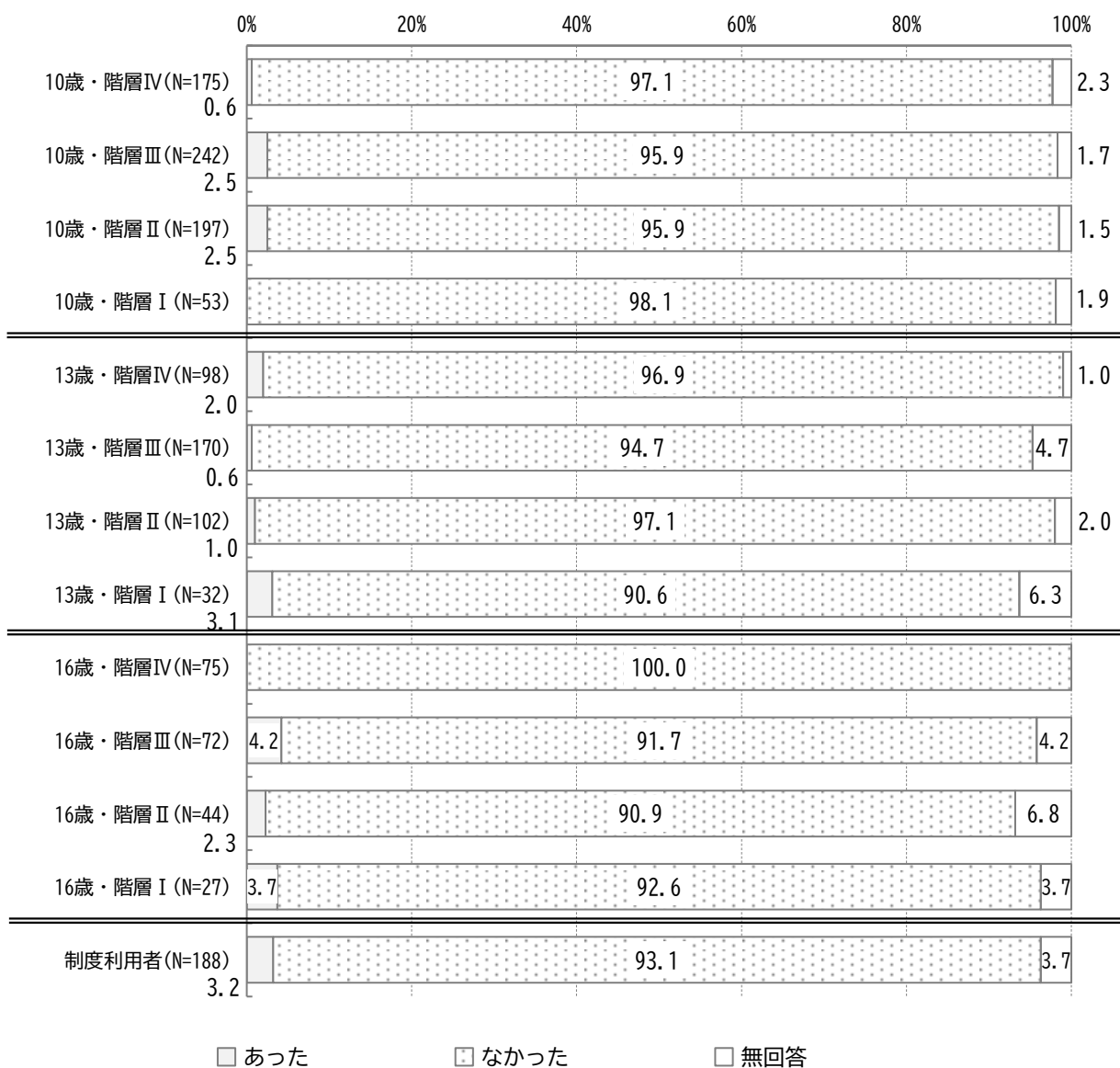
【問 33-③ 家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある。】

各年齢・階層、制度利用者において、「なかった」が最も高くなっています。「あった」の割合で見ると、13歳、16歳では、階層が低くなるにつれて割合が高くなっています。



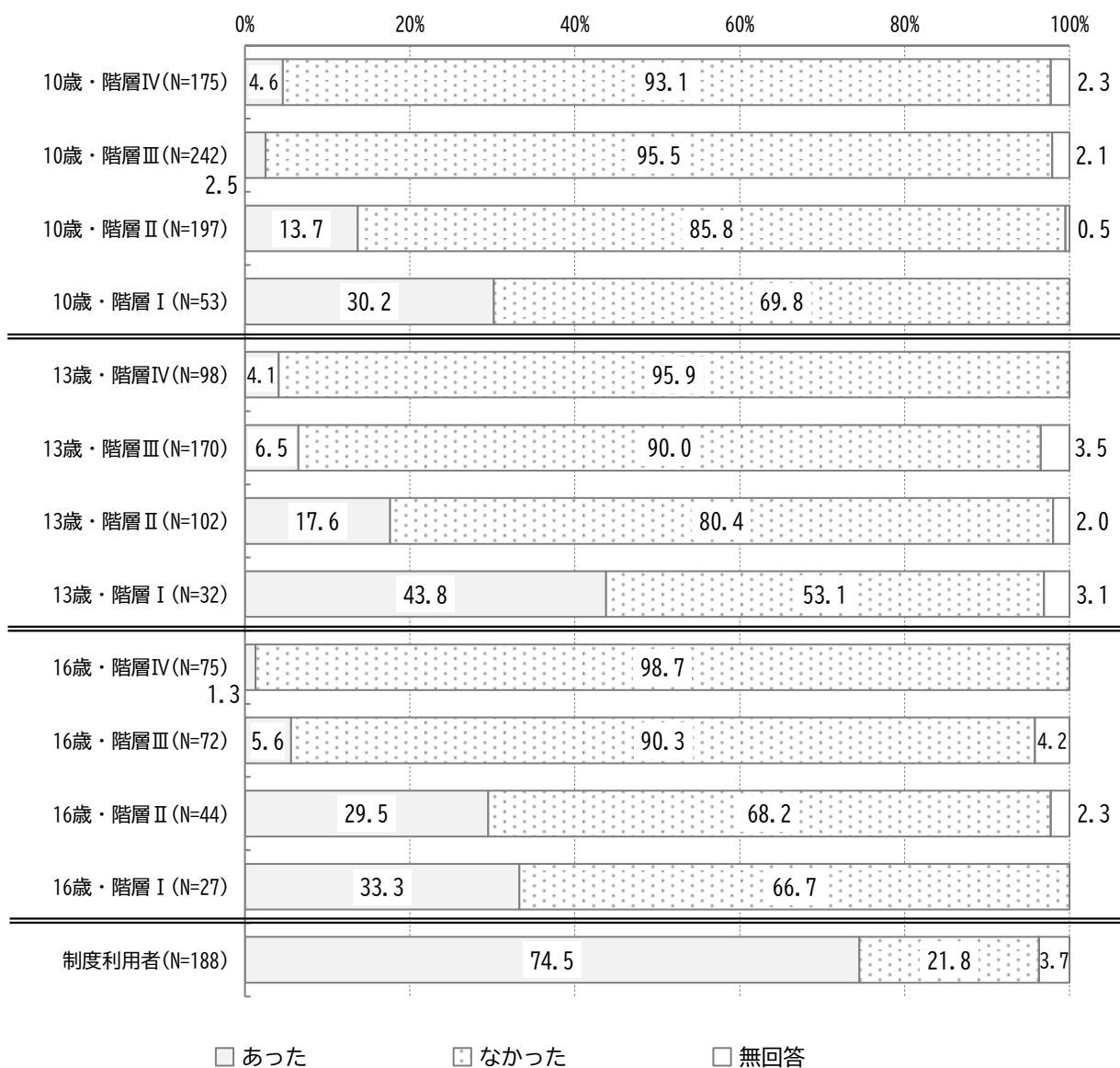
【問 33-④ 必要な食事や衣服をもらえなかったり、自分を守ってくれる人はだれもいないと感じたりすることがある。】

各年齢・階層、制度利用者において、「なかった」が最も高くなっています。



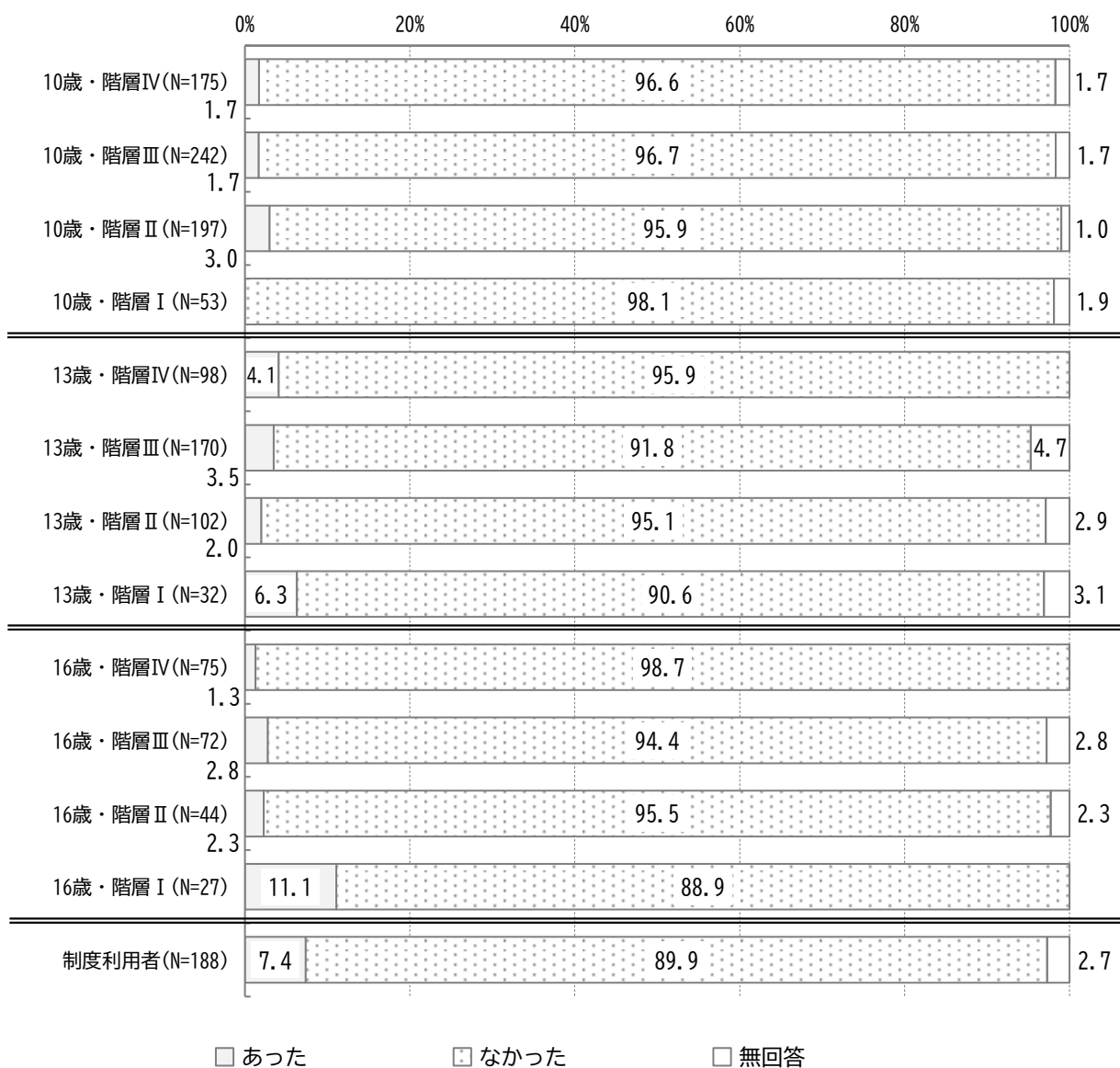
【問 33-⑤ 両親が、別居または離婚したことがある。】

各年齢・階層において、「なかった」が最も高い一方で、制度利用者では、「あった」が最も高くなっています。「あった」の割合で見ると、各年齢において、階層が低くなるにつれて割合が高くなる傾向にあります。



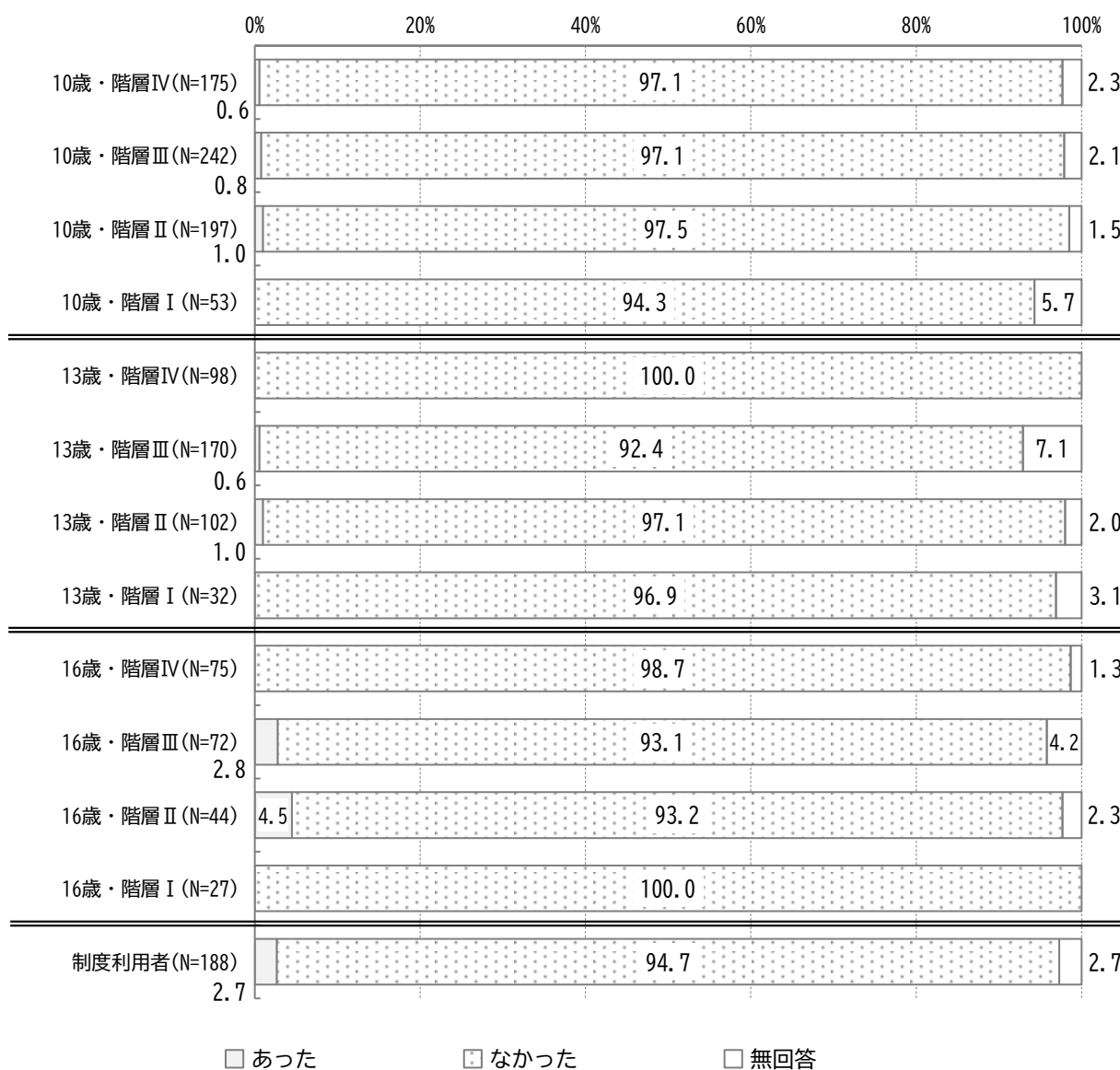
【問 33-⑥ 一緒に住んでいる家族が、だれかにおされたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある。また、くりかえしなぐられたり、刃物でおどかされたことが一度でもある。】

各年齢・階層、制度利用者において、「なかった」が最も高くなっています。



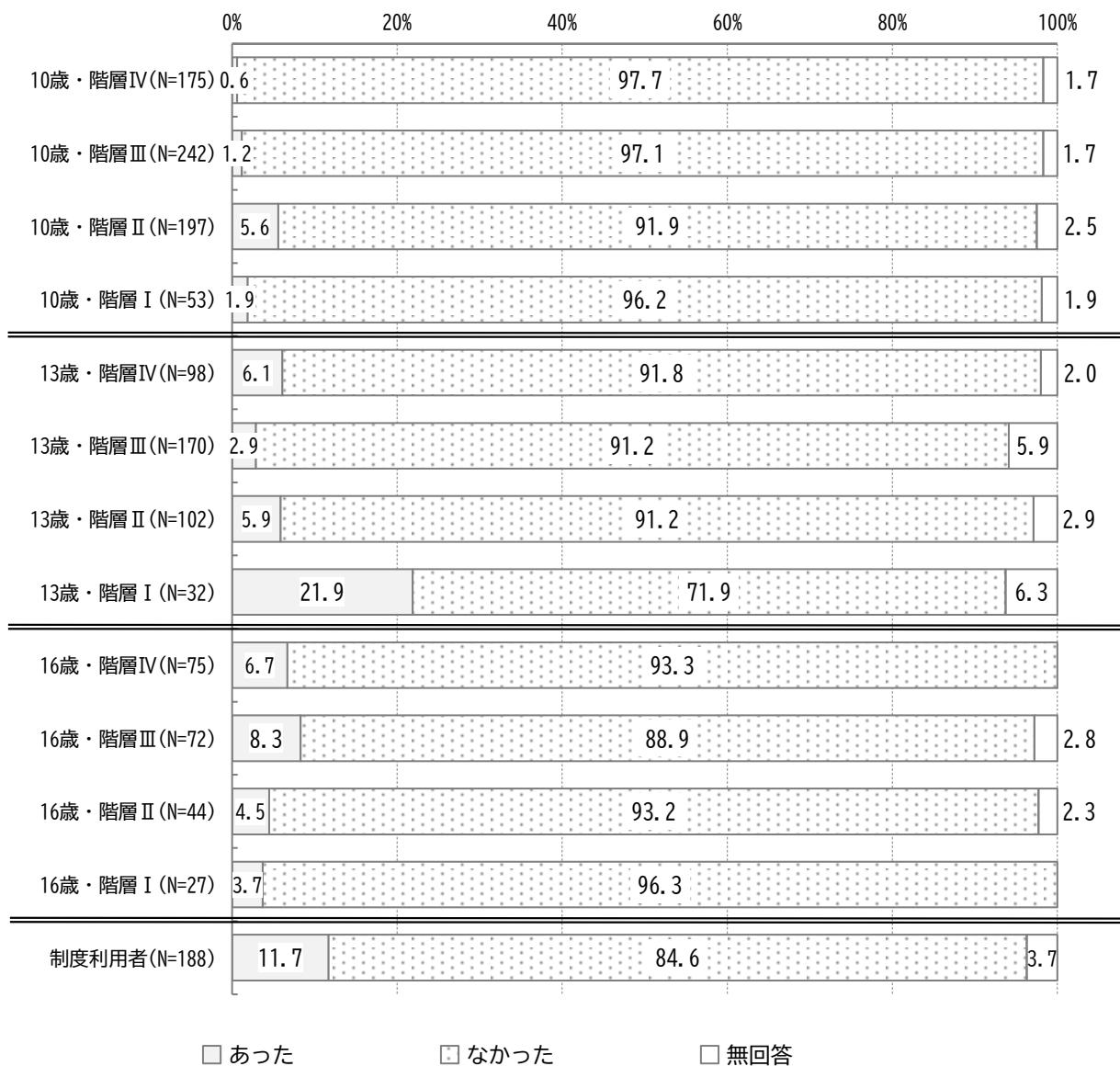
【問 33-⑦ 一緒に住んでいる人に、お酒や麻薬などで自分の生活や人間関係をこわすような行動をした人がいる。】

各年齢・階層、制度利用者において、「なかった」が最も高くなっています。



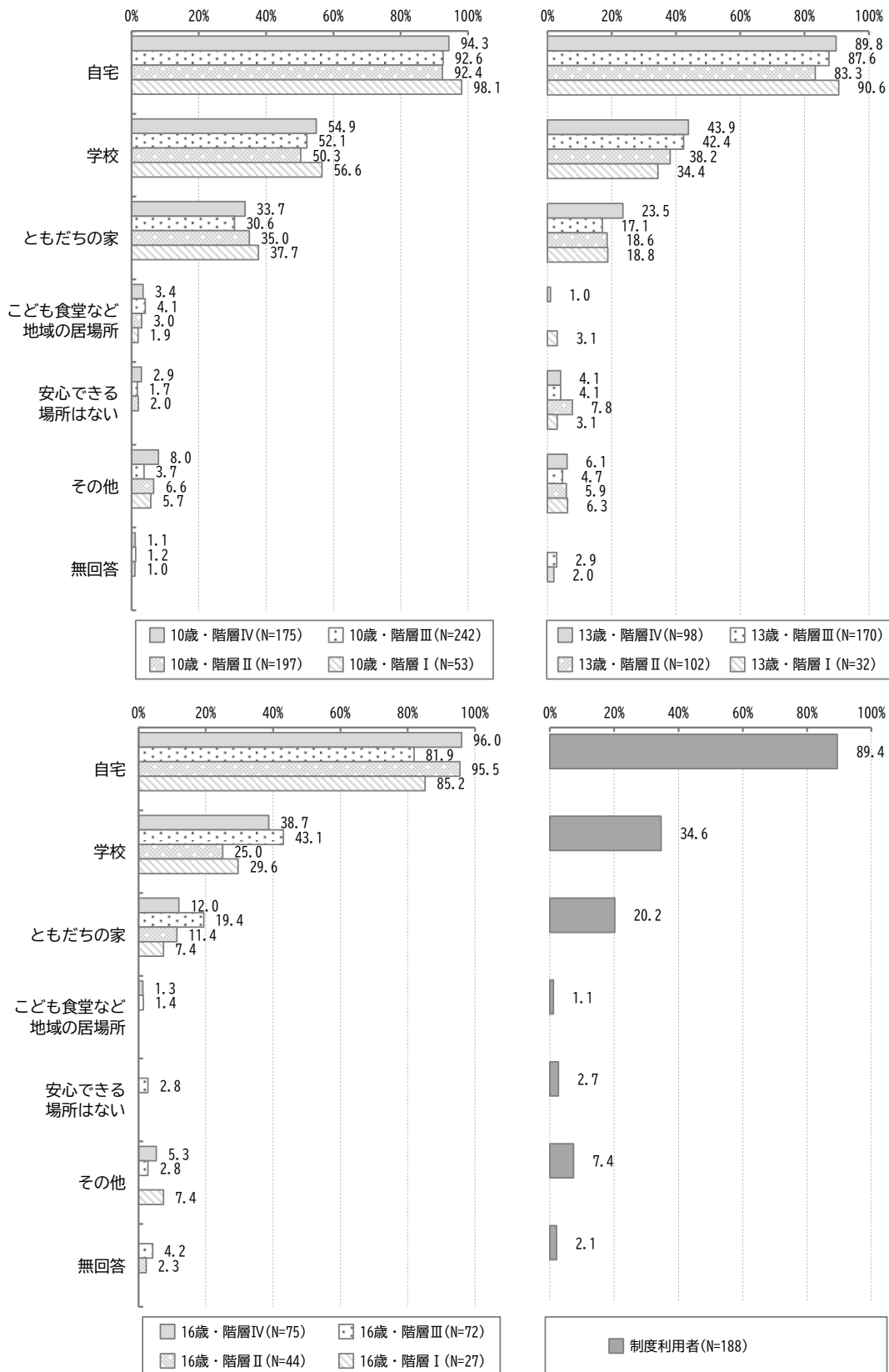
【問 33-⑧ 一緒に住んでいる人に、うつ病やそのほかの心の病気、または自殺しようとした人がいる。】

各年齢・階層、制度利用者において、「なかった」が最も高くなっています。「あった」の割合で見ると、13歳・階層Ⅰ、制度利用者では、他の年齢・階層よりも割合が高く、13歳・階層Ⅰは2割以上となっています。



問 34 あなたの安心できる場所はどこですか。(あてはまるものすべて)

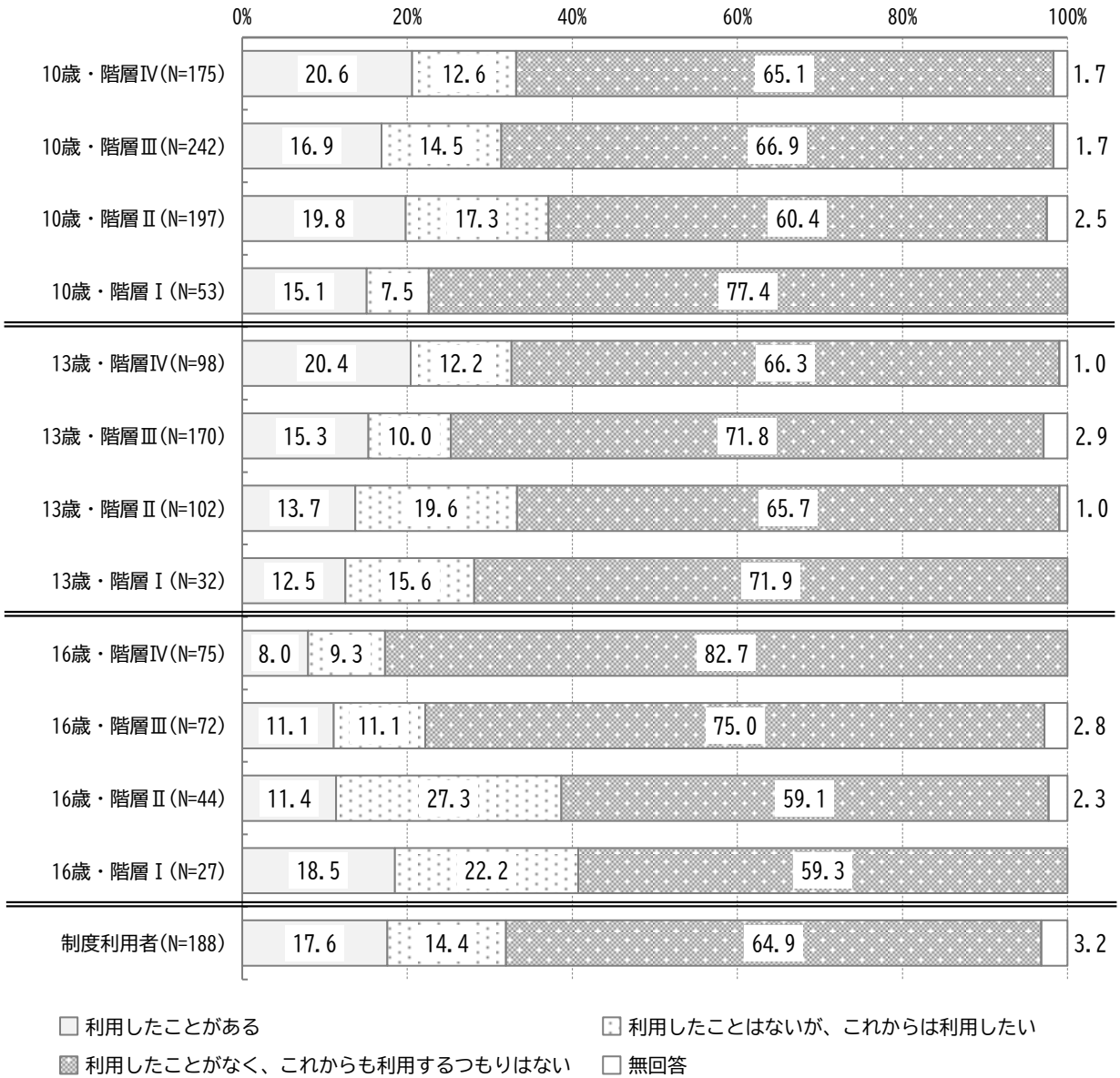
各年齢・階層、制度利用者において、「自宅」が最も高く、次いで「学校」「ともだちの家」となっています。



問 35-1 あなたは次のような場所を利用したことがありますか。また、「これから」利用したいかどうかについて教えてください。(それぞれあてはまるもの1つ)

【問 35-1-① 自分やともだちの家以外で、平日の夜や休日を過ごすことができる場所】

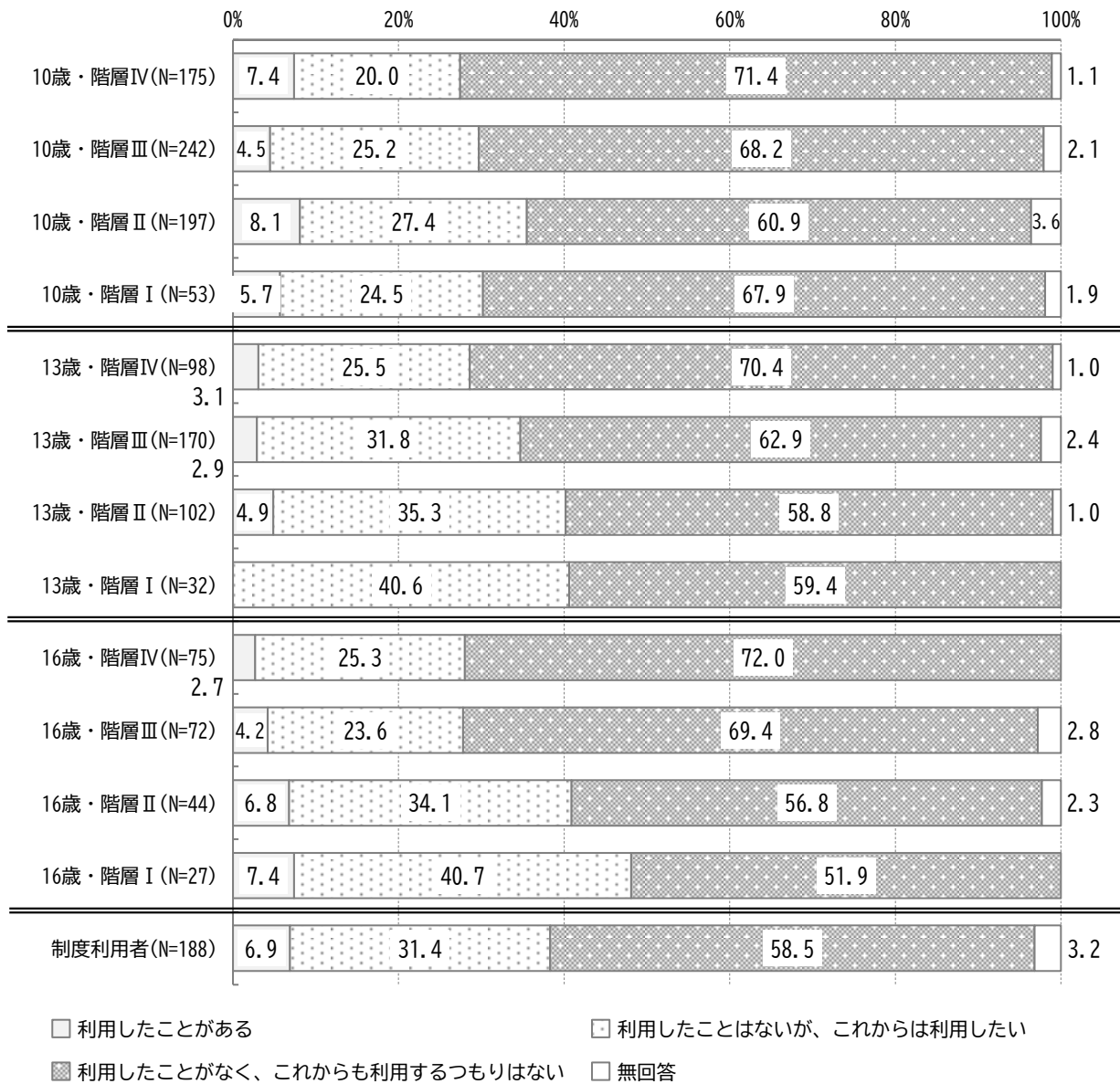
各年齢・階層、制度利用者において、「利用したことがなく、これからも利用するつもりはない」が最も高くなっています。「利用したことがある」の割合でみると、13歳では、階層が低くなるにつれて割合が低くなっている一方で、16歳では、階層が低くなるにつれて割合が高くなっています。





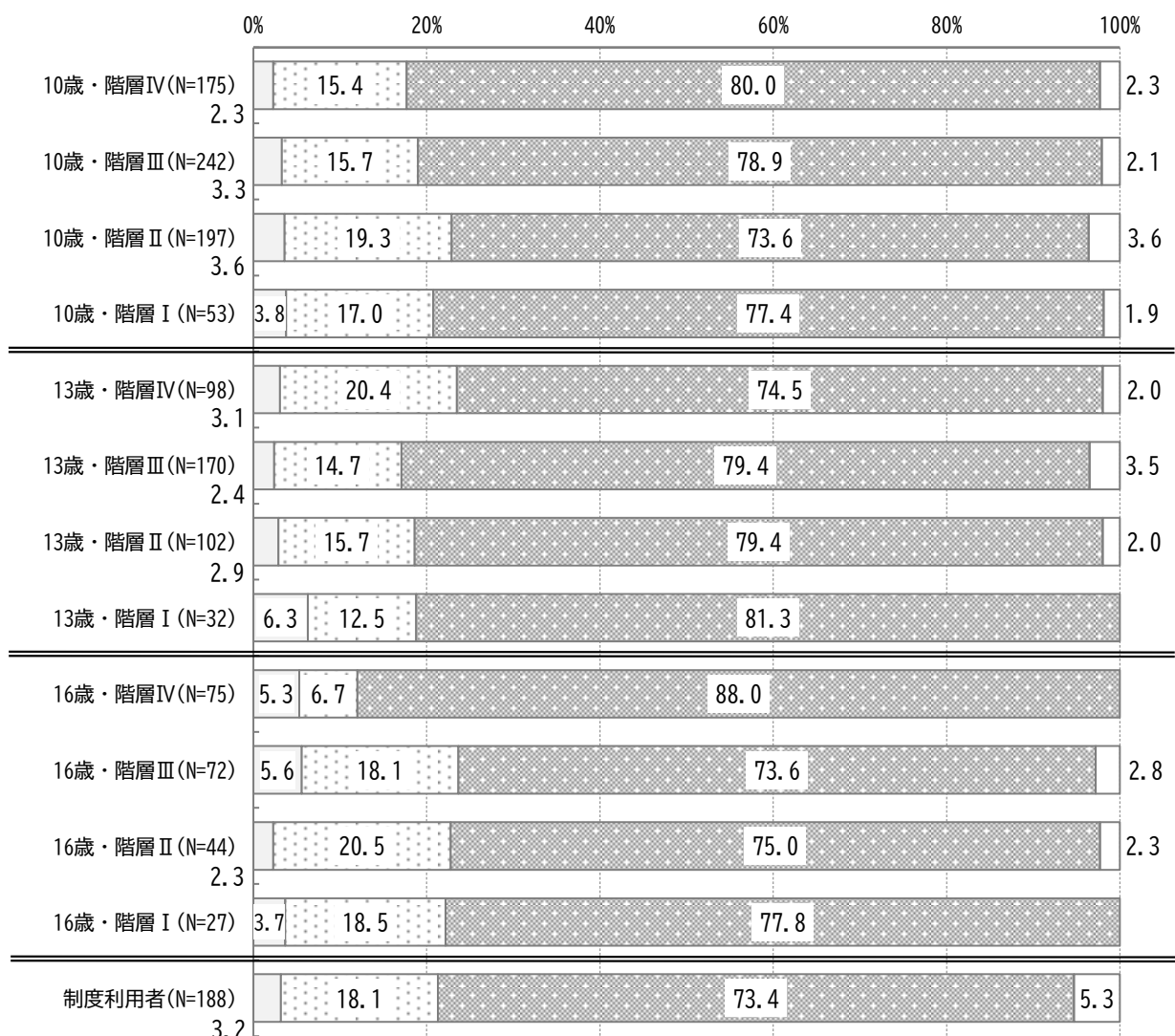
【問 35-1-③ 勉強を無料で見てくれる場所】

各年齢・階層、制度利用者において、「利用したことがなく、これからも利用するつもりはない」が最も高くなっています。「利用したことがある」の割合でみると、16歳では、階層が低くなるにつれて割合が高くなっています。「利用したことはないが、これからは利用したい」の割合でみると、13歳では階層が低くなるにつれて割合が高くなっています。



【問 35-1-④ (家や学校以外で) 何でも相談できる場所 (電話やネットの相談を含む)】

各年齢・階層、制度利用者において、「利用したことがなく、これからも利用するつもりはない」が最も高くなっています。

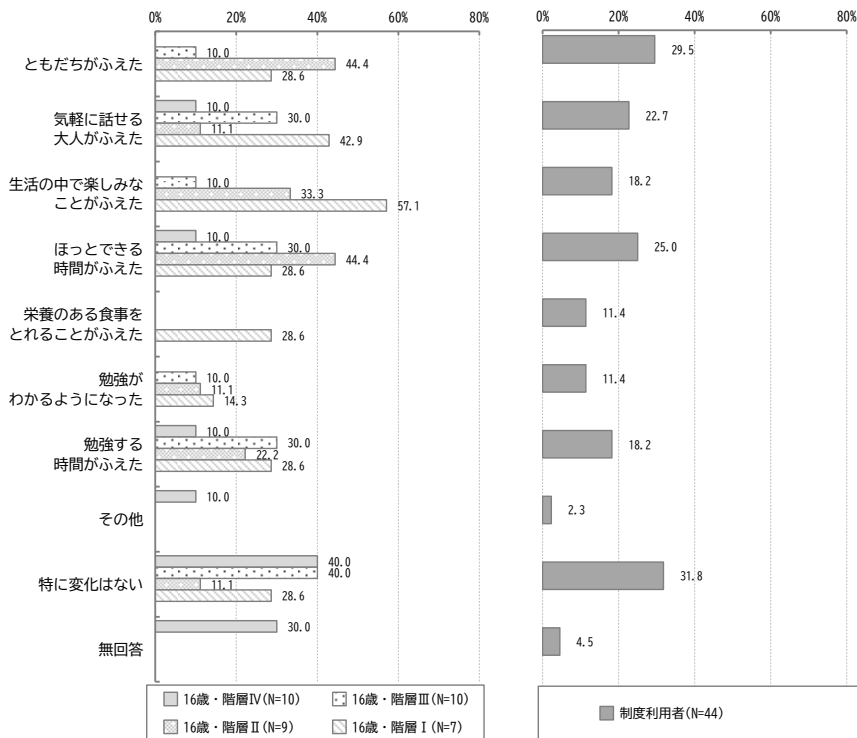
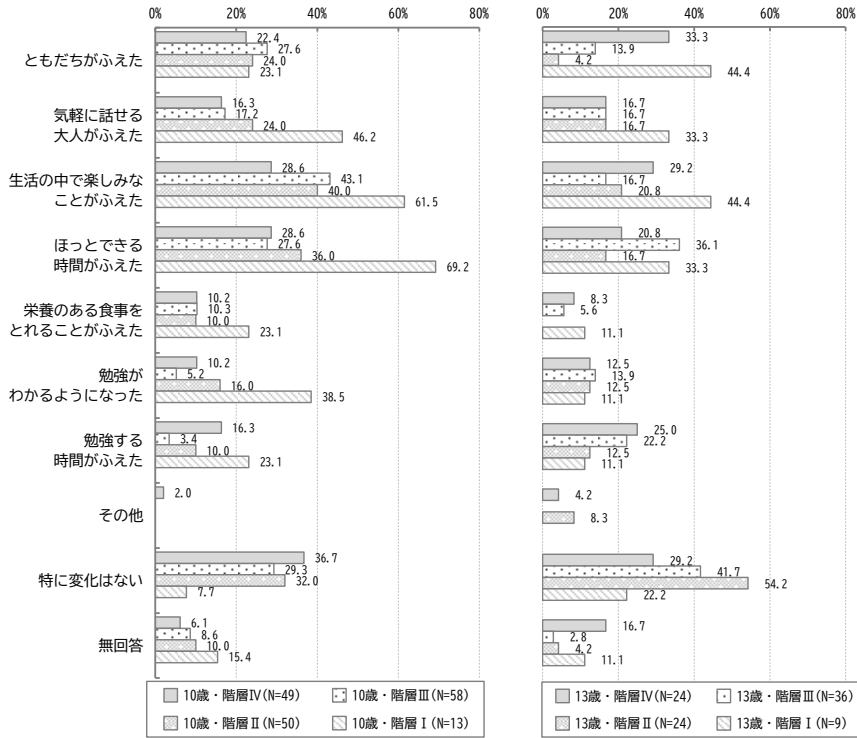


- 利用したことがある
- ▨ 利用したことはないが、これからは利用したい
- 利用したことがなく、これからも利用するつもりはない
- 無回答

問 35-1 で「利用したことがある」と答えた方にききます。

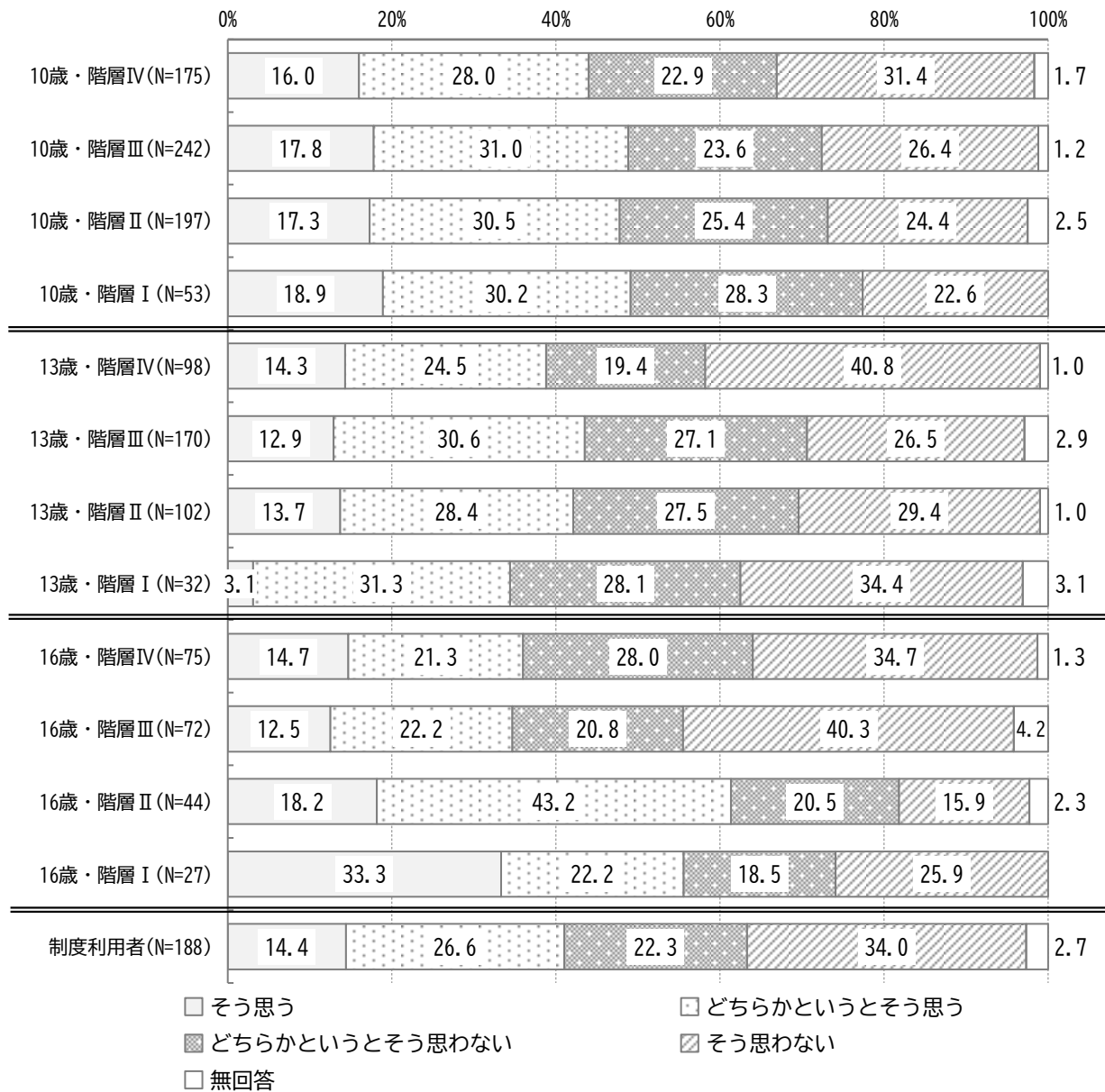
問 35-2 そこを利用したことで、次のような変化はありましたか。(あてはまるものすべて)

(回答者数が少ないため参考値) 各年齢、各階層、回答にはばらつきがみられます。



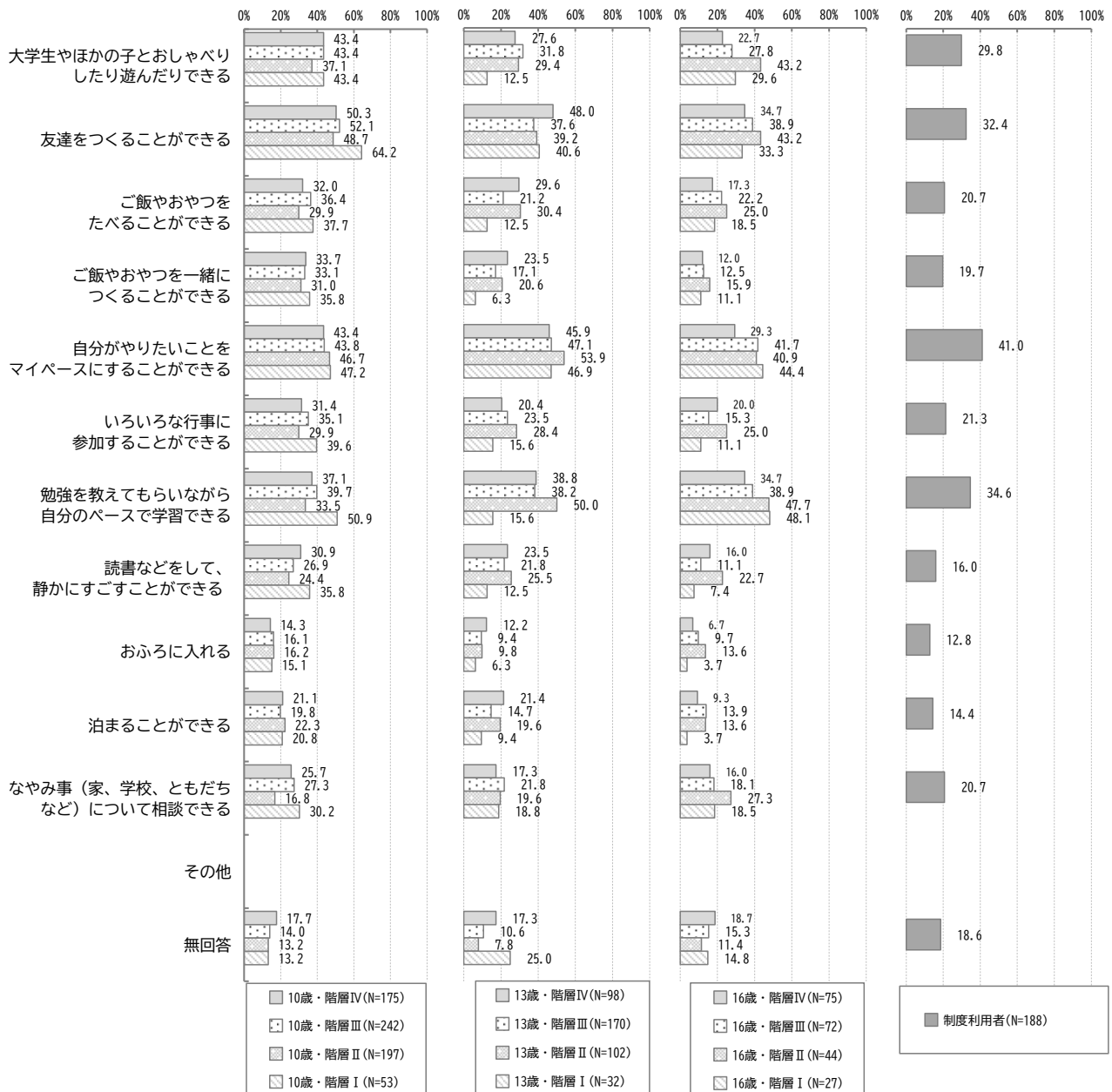
問 36-1 お家や学校以外の場所で、無料で大学生のボランティアなどと活動をしたり、落ち着いて過ごしたりできる居場所があれば、利用したいと思いますか。(あてはまるもの1つ)

「思う」「そう思う」「どちらかというと思う」の合計)の割合について、10歳ではいずれの階層も4割以上となっていますが、13歳では、10歳と比べて割合が低くなっています。16歳では、階層IV、Ⅲにおいて4割未満となっている一方で、階層Ⅱ、Ⅰにおいては5割以上となっています。



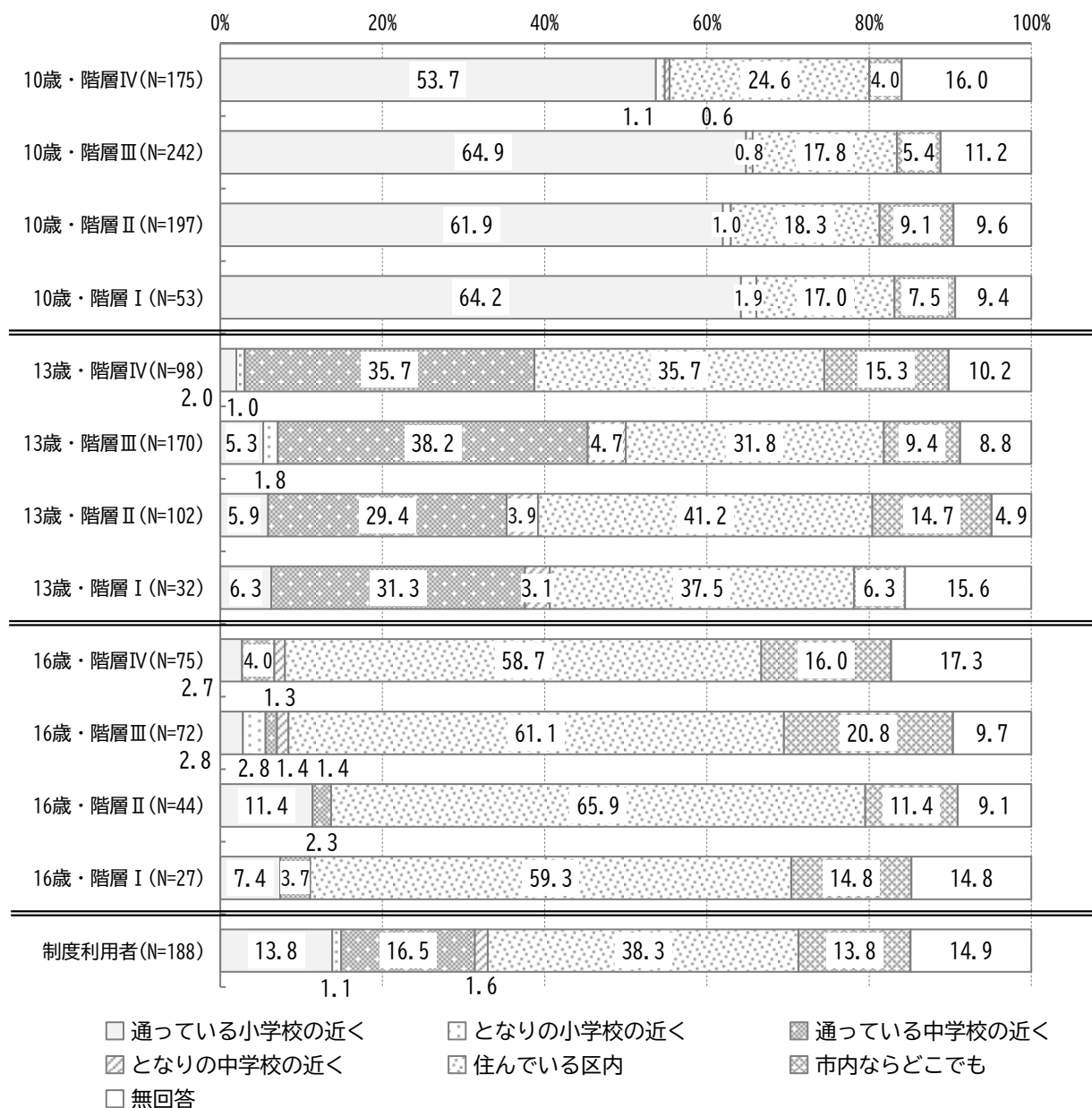
問36-2 前の質問の居場所では、どのようなことができればよいと思いますか。(あてはまるものすべて)

10歳では、いずれの階層も「友達をつくることできる」「自分がやりたいことをマイペースにすることができる」において4割以上となっています。13歳では、いずれの階層も「自分がやりたいことをマイペースにすることができる」において4割以上となっています。16歳では、いずれの階層も「友達をつくることできる」「勉強を教えてもらいながら自分のペースで学習できる」において3割以上となっています。制度利用者では、「自分がやりたいことをマイペースにすることができる」が最も高くなっています。



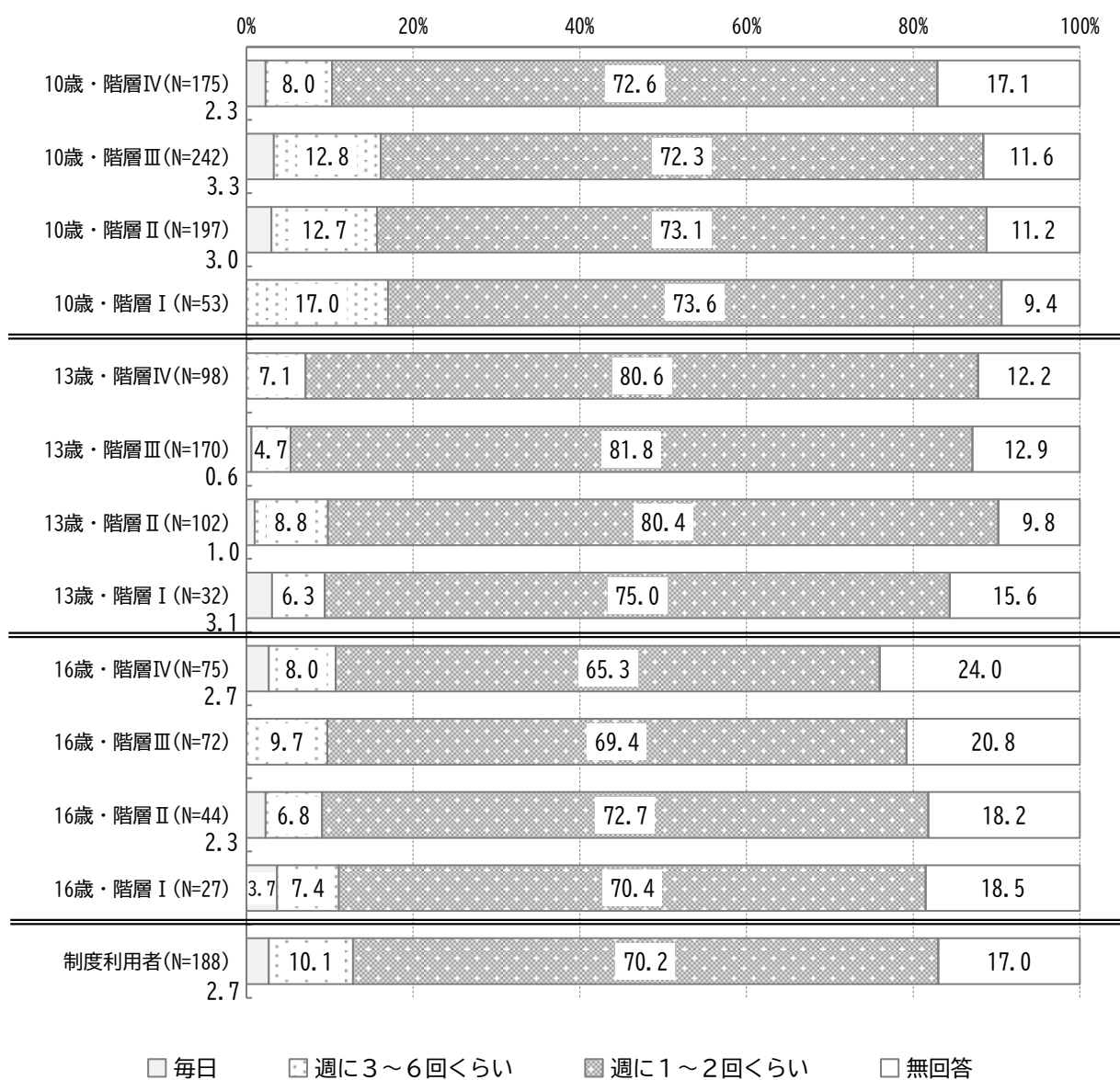
問 36-3 その場所は、どこにあれば利用したいと思いますか。(あてはまるもの1つ)

10歳では、いずれの階層も「通っている小学校の近く」が最も高くなっています。13歳ではいずれの階層も「通っている中学校の近く」「住んでいる区内」の割合が高く、3～4割ほどになっています。16歳の各層、制度利用者では、「住んでいる区内」が最も高くなっています。



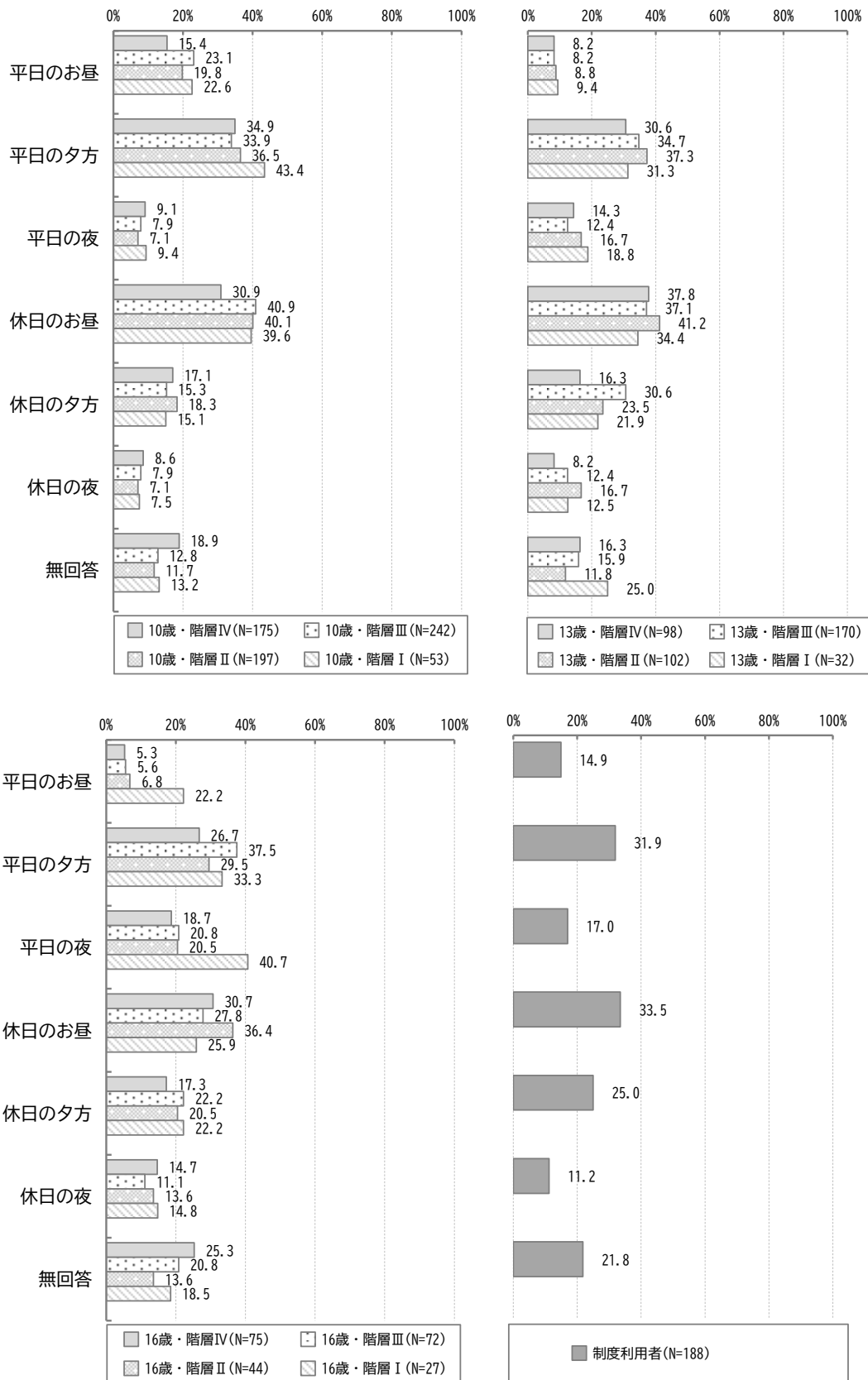
問 36-4 その場所は、どのくらい利用したいと思いますか。(あてはまるもの1つ)

各年齢・階層、制度利用者において、「週に1～2回くらい」が最も高くなっています。



問 36-5 その場所は、どんな時間に利用したいと思いますか。(あてはまるものすべて)

10歳、13歳では、いずれの層も「平日の夕方」「休日のお昼」が高く、3～4割ほどとなっています。



## 5. 静岡市の取組について

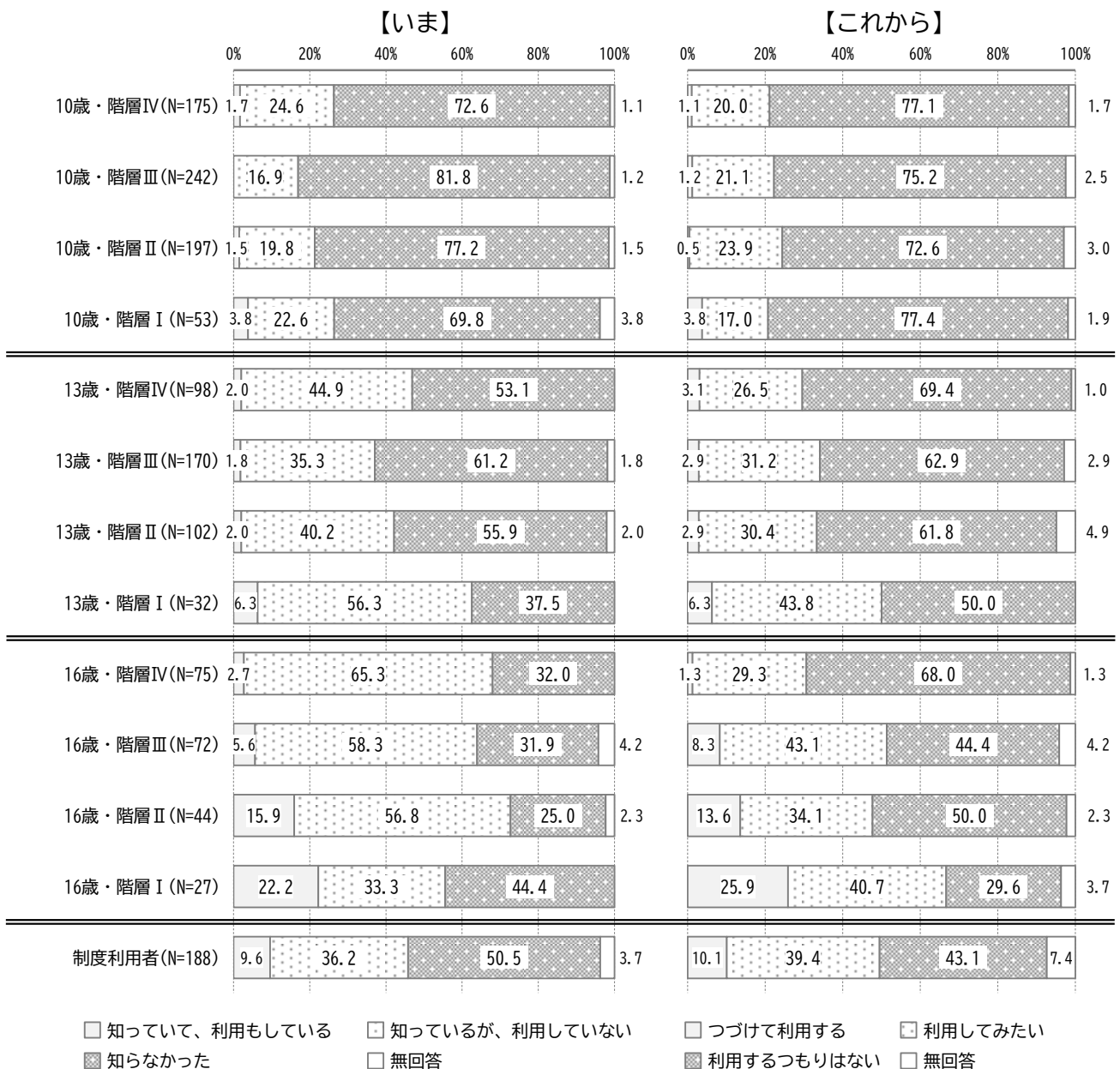
問 37 次の①～⑦の静岡市の取組や事業について、「いま」知っていたり利用したりしていますか。また「これから」利用したいかどうかについて教えてください。  
 (「いま」と「これから」、それぞれあてはまるもの1つ)

### 【問 37-① 静岡市の奨学金 いま】

10歳では、いずれの階層も「知らなかった」の割合が最も高くなっています。13歳では、階層Ⅳ～Ⅱにおいて「知らなかった」が最も高く半数以上となっている一方で、階層Ⅰでは「知っているが、利用していない」が最も高くなっています。16歳では、階層Ⅳ～Ⅱにおいて「知っているが、利用していない」が最も高く半数以上となっている一方で、階層Ⅰでは「知らなかった」が最も高くなっています。制度利用者では、「知らなかった」が最も高くなっています。

### 【問 37-① 静岡市の奨学 これから】

各年齢・階層、制度利用者において、概ね「利用するつもりはない」が最も高くなっていますが、16歳・階層Ⅰでは、「利用してみたい」が最も高くなっています。

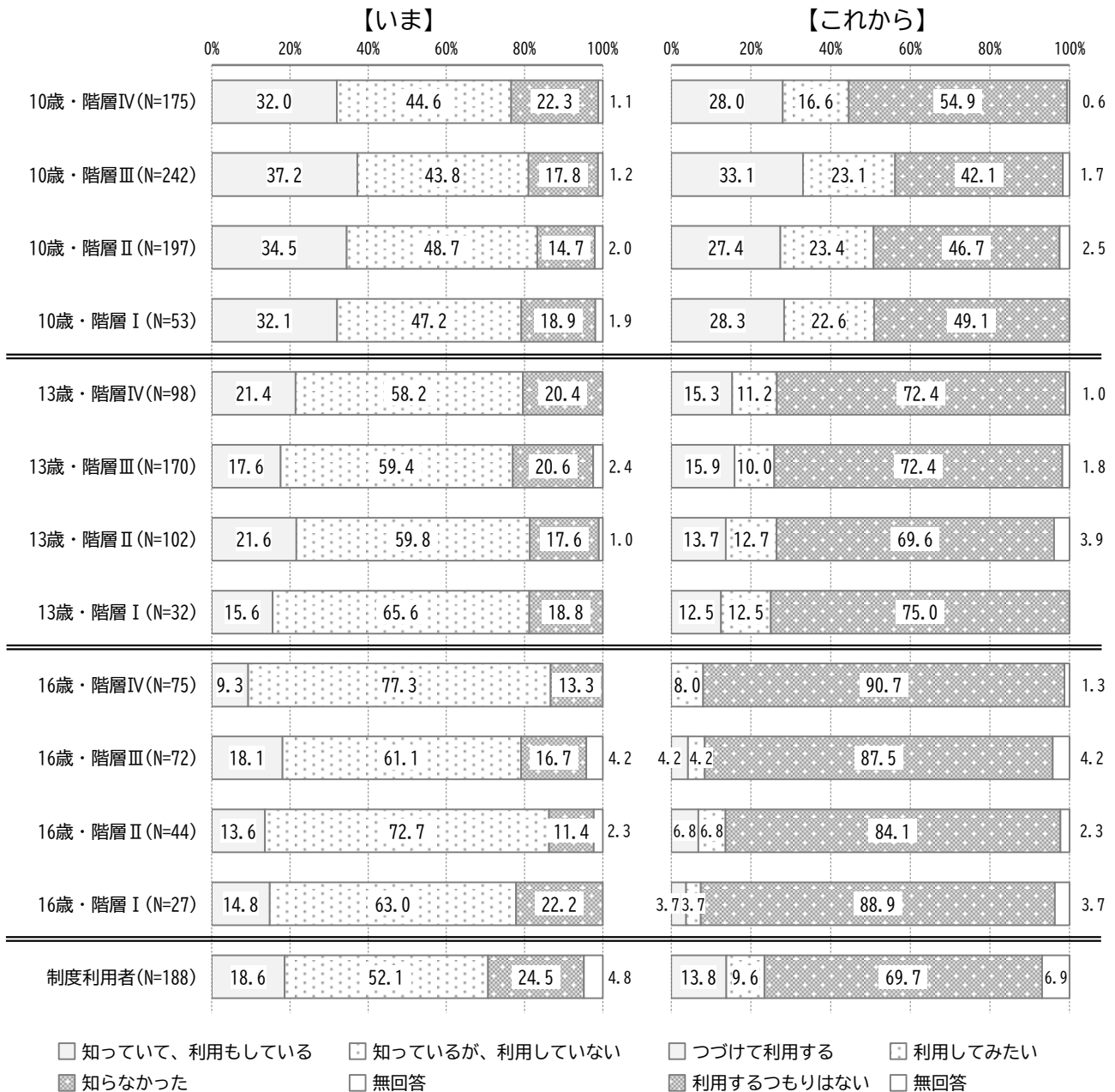


【問 37-② 児童館 いま】

各年齢・階層、制度利用者において、「知っているが、利用していない」が最も高くなっています。年齢が上がるにつれて、割合が高くなる傾向にあります。

【問 37-② 児童館 これから】

各年齢・階層、制度利用者において、「利用するつもりはない」が最も高くなっています。年齢が上がるにつれて、「利用するつもりはない」の割合が高くなっています。

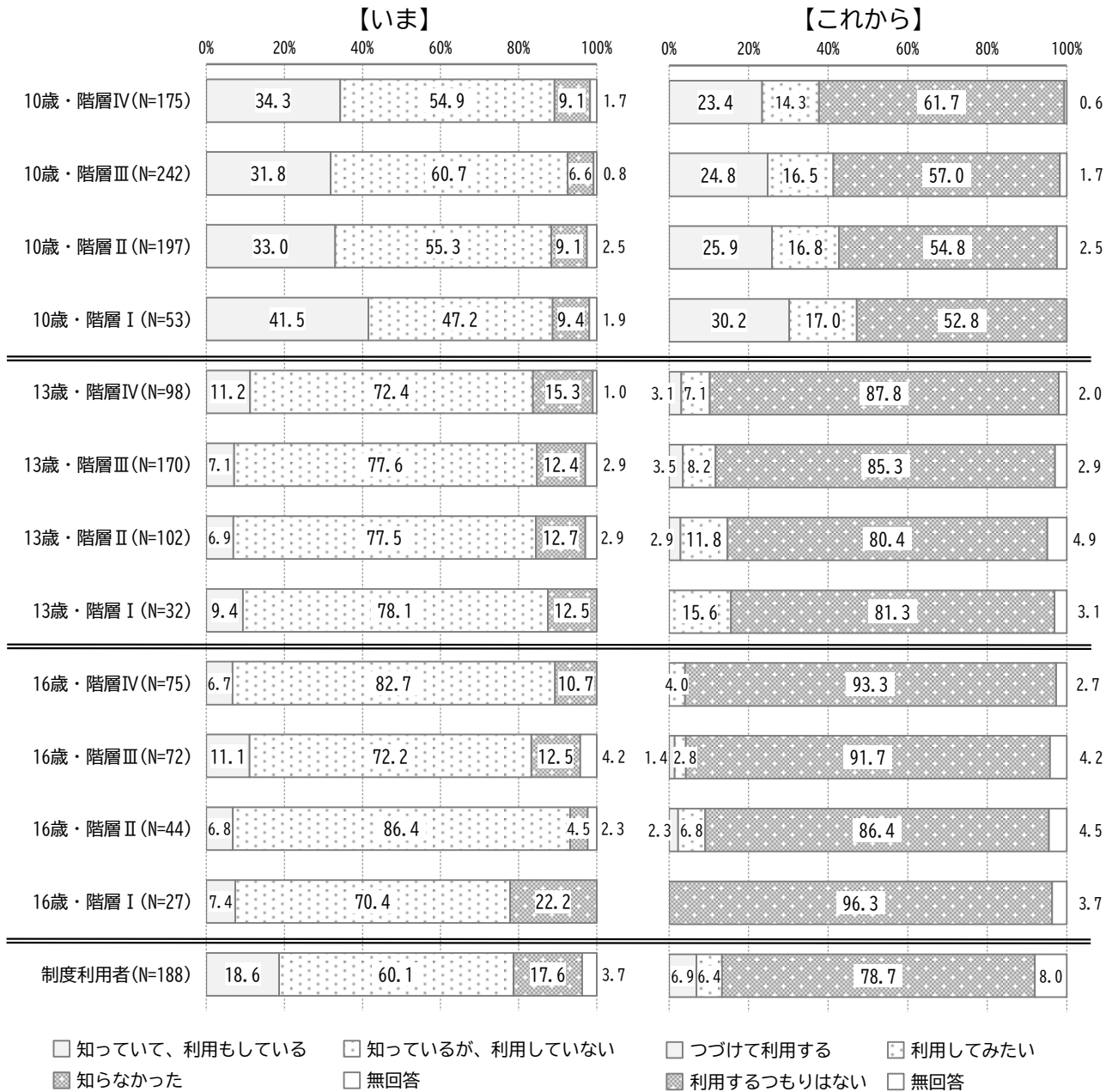


【問 37-③ 放課後子ども教室・放課後児童クラブ いま】

各年齢・階層、制度利用者において、「知っているが、利用していない」が最も高くなっています。年齢が上がるにつれて、割合が高くなる傾向にあり、10歳と比べて13歳、16歳の方が、特に割合が高くなっています。

【問 37-③ 放課後子ども教室・放課後児童クラブ これから】

各年齢・階層、制度利用者において、「利用するつもりはない」が最も高くなっています。年齢が上がるにつれて、「利用するつもりはない」の割合が高くなっています。

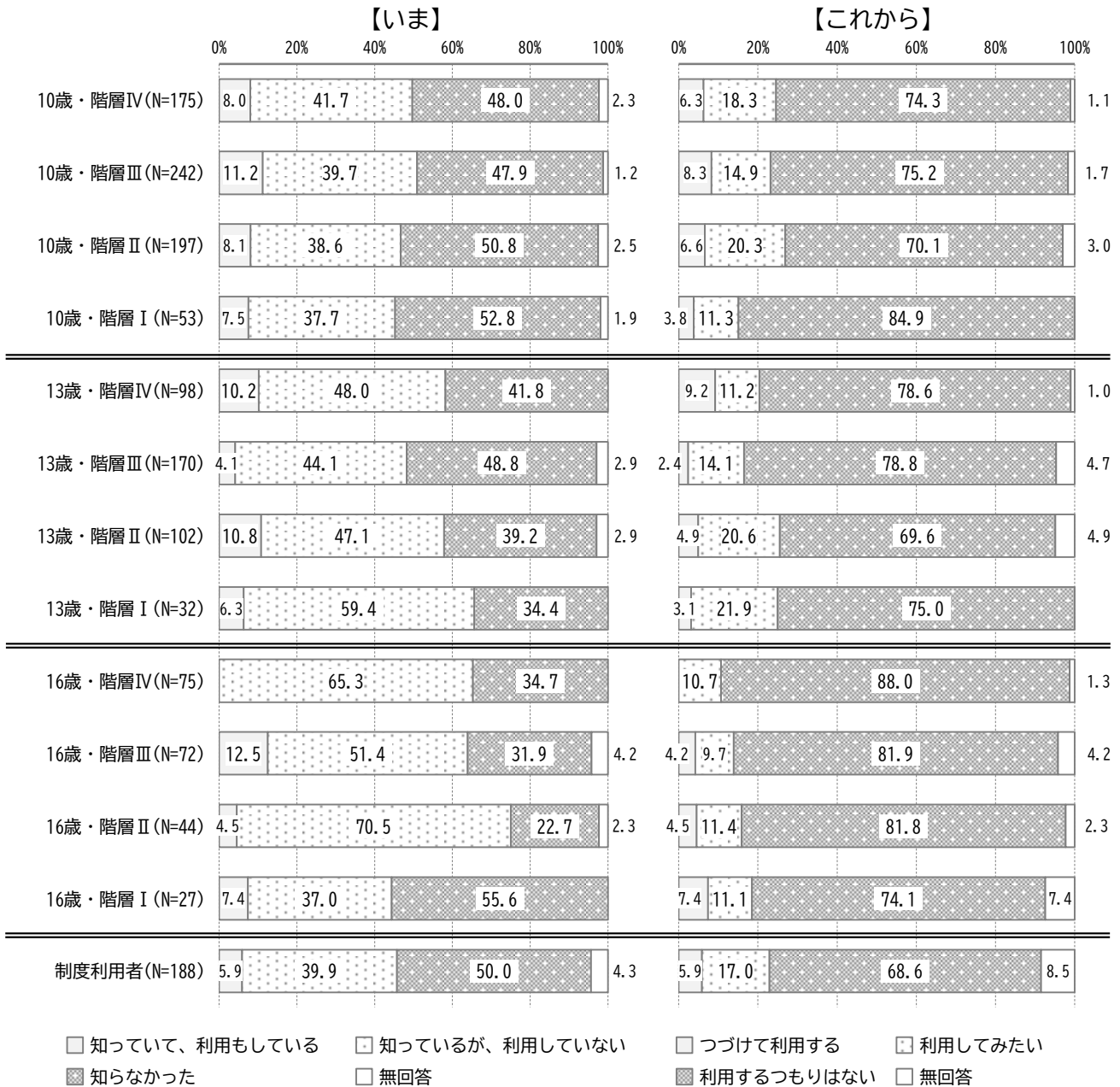


【問 37-④ 学校以外の場での学習・生活支援 いま】

10歳では、「知らなかった」が最も高く、5割前後となっています。13歳、16歳では、「知っているが、利用していない」の割合が高くなる傾向にあります。16歳・階層Iでは、「知らなかった」が半数以上となっています。

【問 37-④ 学校以外の場での学習・生活支援 これから】

各年齢・階層、制度利用者において、「利用するつもりはない」が最も高くなっています。年齢が上がるにつれて、「利用するつもりはない」の割合が高くなる傾向にあります。

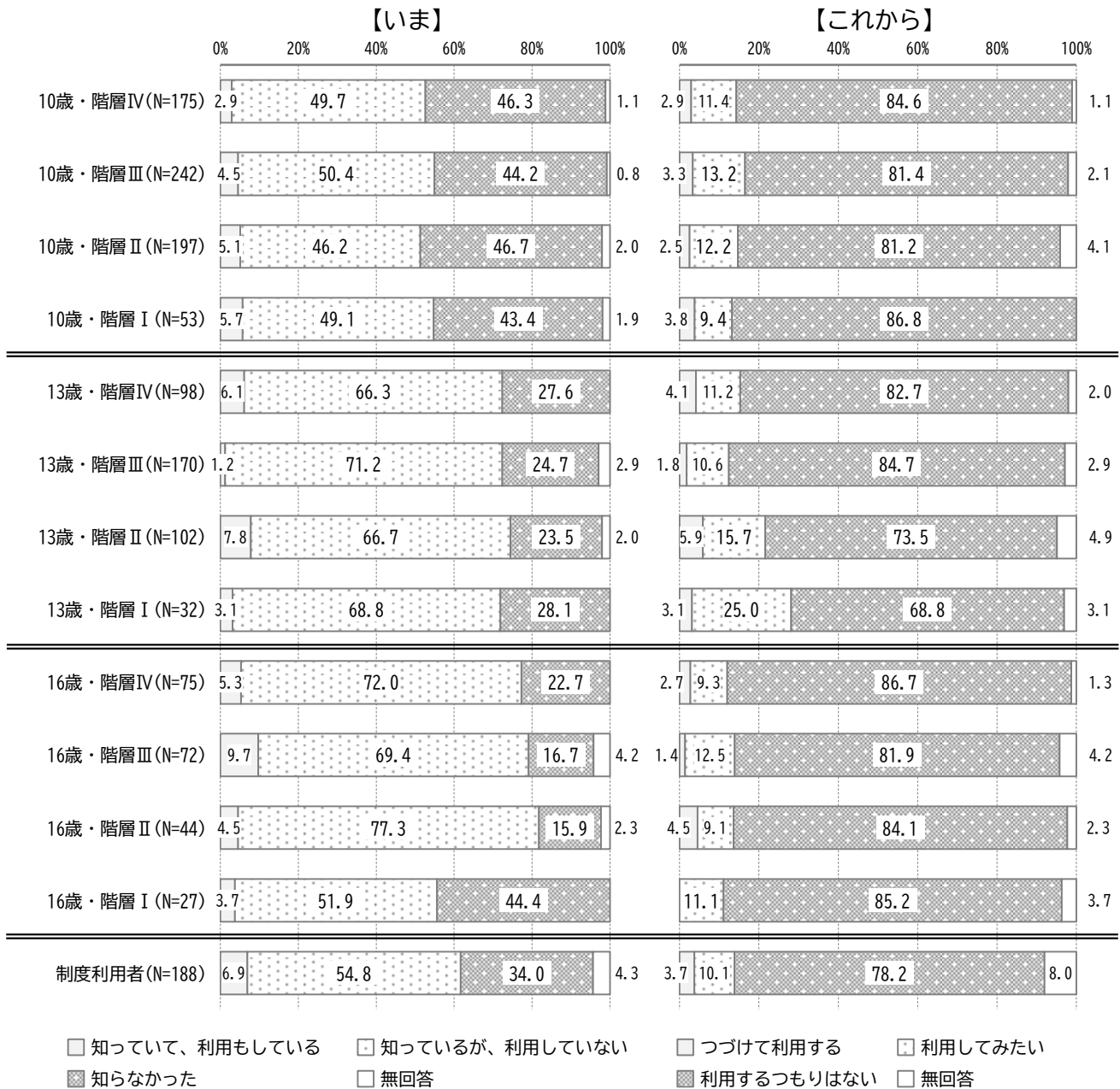


【問 37-⑤ スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーへの相談 いま】

10歳では、いずれの階層も「知っているが、利用していない」と「知らなかった」の割合が、5割前後となっています。13歳、16歳、制度利用者では、概ね「知っているが、利用していない」の割合が高くなっています。

【問 37-⑤ スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーへの相談 これから】

各年齢・階層、制度利用者において、「利用するつもりはない」が最も高くなっています。



【問 37-⑥その他 いま】

【問 37-⑥その他 これから】

統計データとして集計できないため省略

問 38 あなたの、学校や家での生活で、もっと良くしたり充実したりしてほしいことはありますか。また、子ども・若者のために静岡市役所が取り組んだ方がよいと思うことがあれば自由に書いてください。

### <主な意見>

#### ○自分の将来に関すること

- ・大人の意見が聞ける機会や、仕事について話が聞ける場所が欲しい
- ・中学生高校生向けに職業体験ができればいい
- ・いろいろな仕事を体験すれば、自分にあった自分が好きな仕事が見つかると思う
- ・自分の夢へ最大限のサポート

#### ○進学・進路に関すること

- ・お金の事を考えて大学を選んでいる
- ・学費の面で諦めないといけないこともある
- ・子どもでも将来が見据えられるようなわかりやすい進路の説明
- ・色々な職業を体験できる機会を設けていただきたい（特に進路で迷ってる中学生、高校生に向けて）

#### ○学校生活に関すること

- ・友だちと協力して行う活動や自分の気持ちを話せる時間があると、安心して過ごせる
- ・誰でも、学校で独りぼっちにされない学校
- ・学校で友達がほしい
- ・学校のことでもう少し教師と生徒で1対1で話す機会を増やしてほしい
- ・先生たちといっしょに考えてイベントとかをやる時間がふえたらいい

#### ○勉強に関すること

- ・授業がわからない
- ・勉強が無料でできる場所
- ・勉強を教えてくれる個別自習スペース

#### ○部活やスポーツに関すること

- ・部活の時間を長くして欲しい
- ・部活がなくなったら何をして過ごしたらいいかわからないし不安
- ・もっとスポーツの取り組みを増やして、多くの人と運動を通じた関わりを持つ

#### ○家庭に関すること

- ・家族との仲をより良くしたい
- ・愛されている人みんなが幸せと思っている訳では無いということ。愛されすぎる(過保護、ヒステリック)のも虐待と同じくらい辛いということ
- ・家族で参加できるイベント（家族での時間を増やすために）

#### ○こどもの居場所・相談できるところに関すること

- ・子どもたちが放課後安心して遊べる場所、静かに勉強できる場所
- ・悩みを相談できて寄り添ってくれるところ
- ・不登校の人が楽しく安全に過ごせる場所を作ってほしい
- ・電話で相談するよりも、ネットなどの相談を増やした方がいい

#### ○その他

- ・ゴミ拾いのボランティアや、遊ぶイベントや行事を増やしたらもっといい
- ・道路の舗装・修繕、道路を広くするなどして自転車や車が通行しやすいようにしてほしい
- ・勉強や、家の事などで自分のやりたい事が出来ない人を減らす取り組み

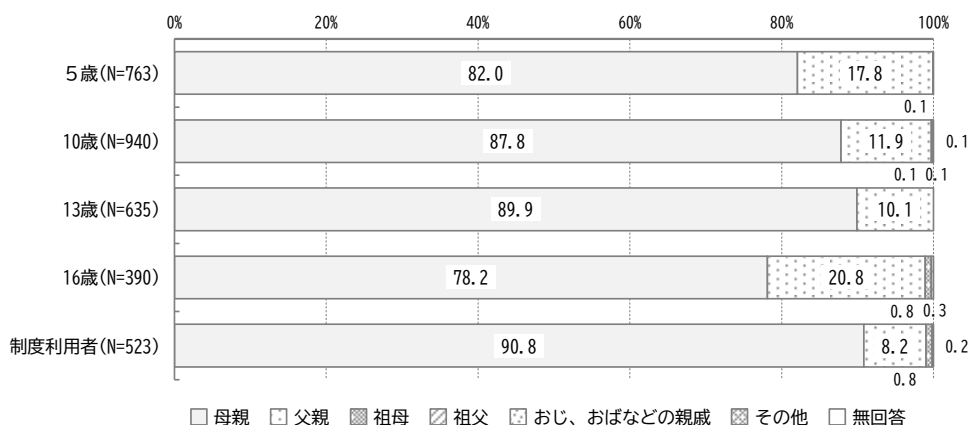


## 集計結果 保護者

### 1. 回答者のこと

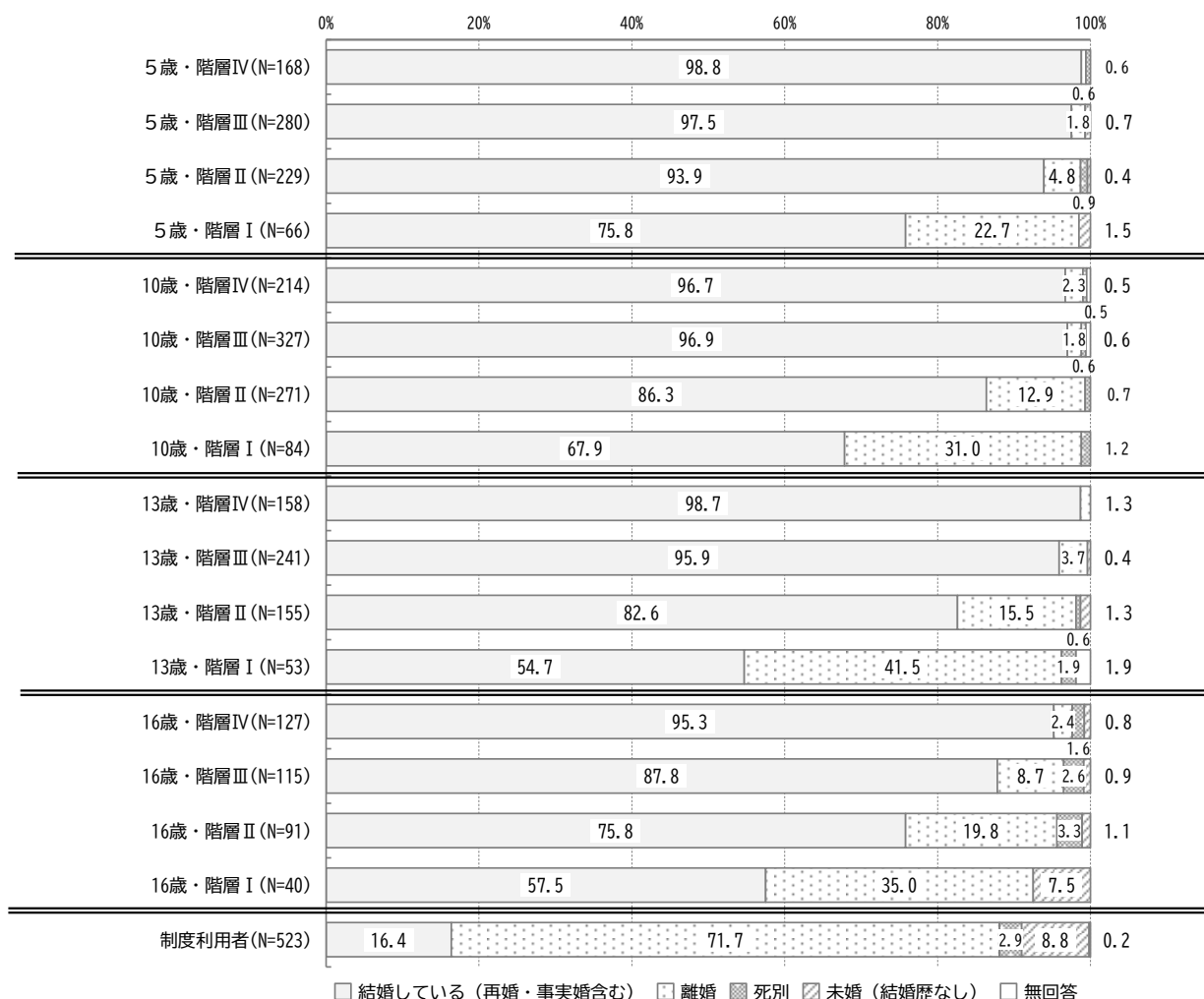
問1 お子さんからみたあなたの続柄について教えてください。(あてはまるもの1つ)

各年齢、制度利用者とも「母親」が8～9割程度で最も高く、次いで「父親」の1～2割程度となっています。



問2-1 あなたの現在の婚姻状況を教えてください。(あてはまるもの1つ)

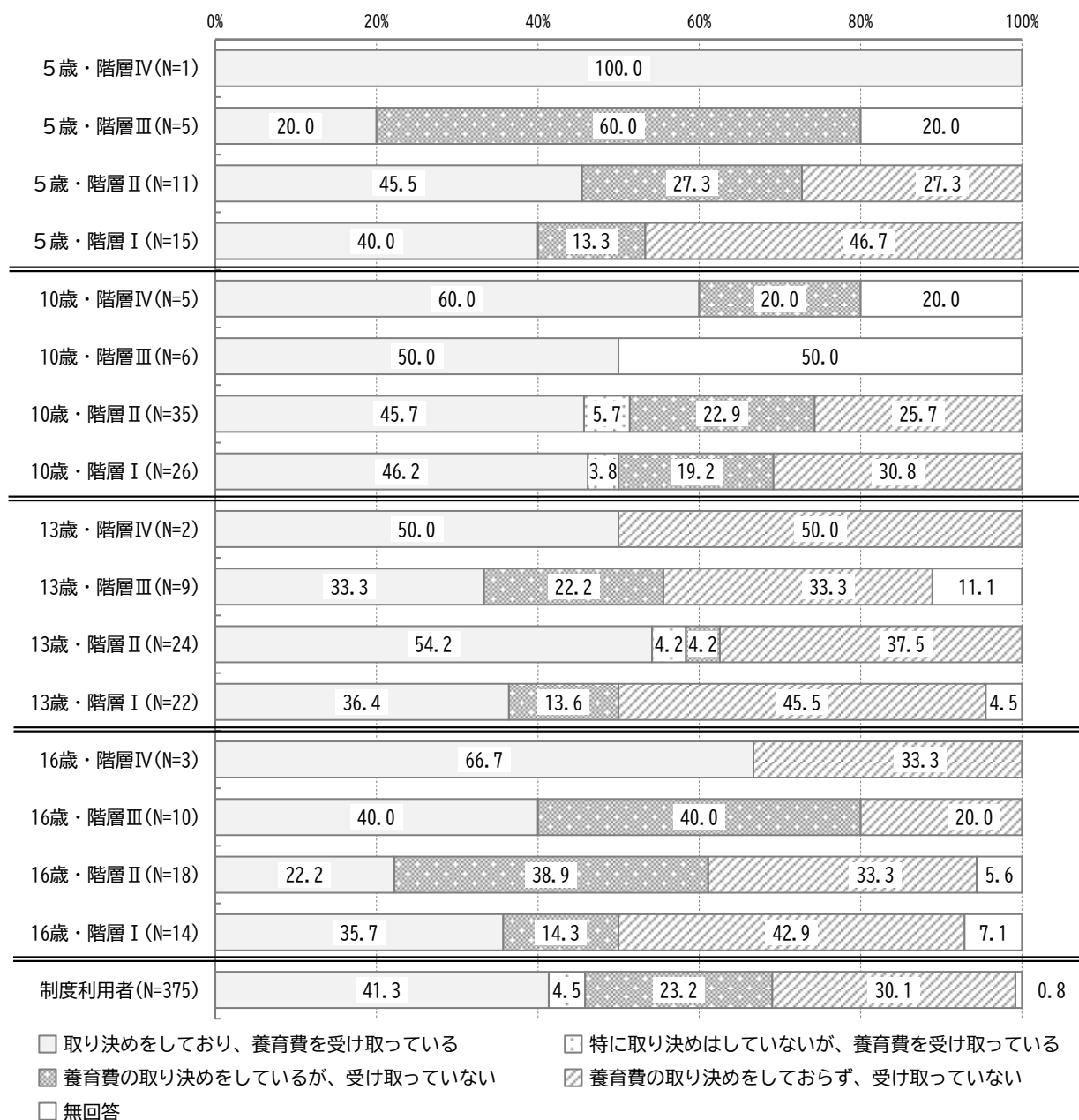
各年齢とも、概ね、「結婚している(再婚・事実婚含む)」の割合が最も高く、次いで「離婚」、「未婚(結婚歴なし)」の順となっています。制度利用者では、「離婚」の割合が最も高くなっています。



問2-1で「2. 離婚」と答えた方にうかがいます。

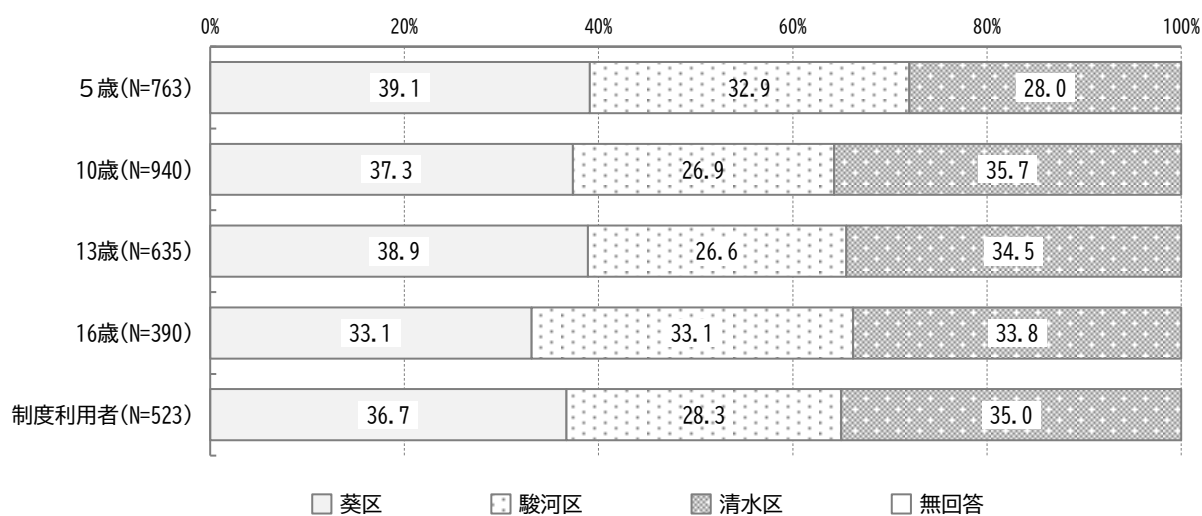
問2-2 離婚相手とこどもの養育費の取り決めをしていますか。また、養育費を現在受け取っていますか。

(回答者数が少ないため参考値) 階層が上がるにつれて「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が高くなり、「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」が低くなる傾向がみられます。制度利用者では、各年齢の階層Iと同様の傾向となっています。



問3 現在、住んでいる区を教えてください。(あてはまるもの1つ)

各年齢、制度利用者ともに、各区、概ね、3割前後となっています。

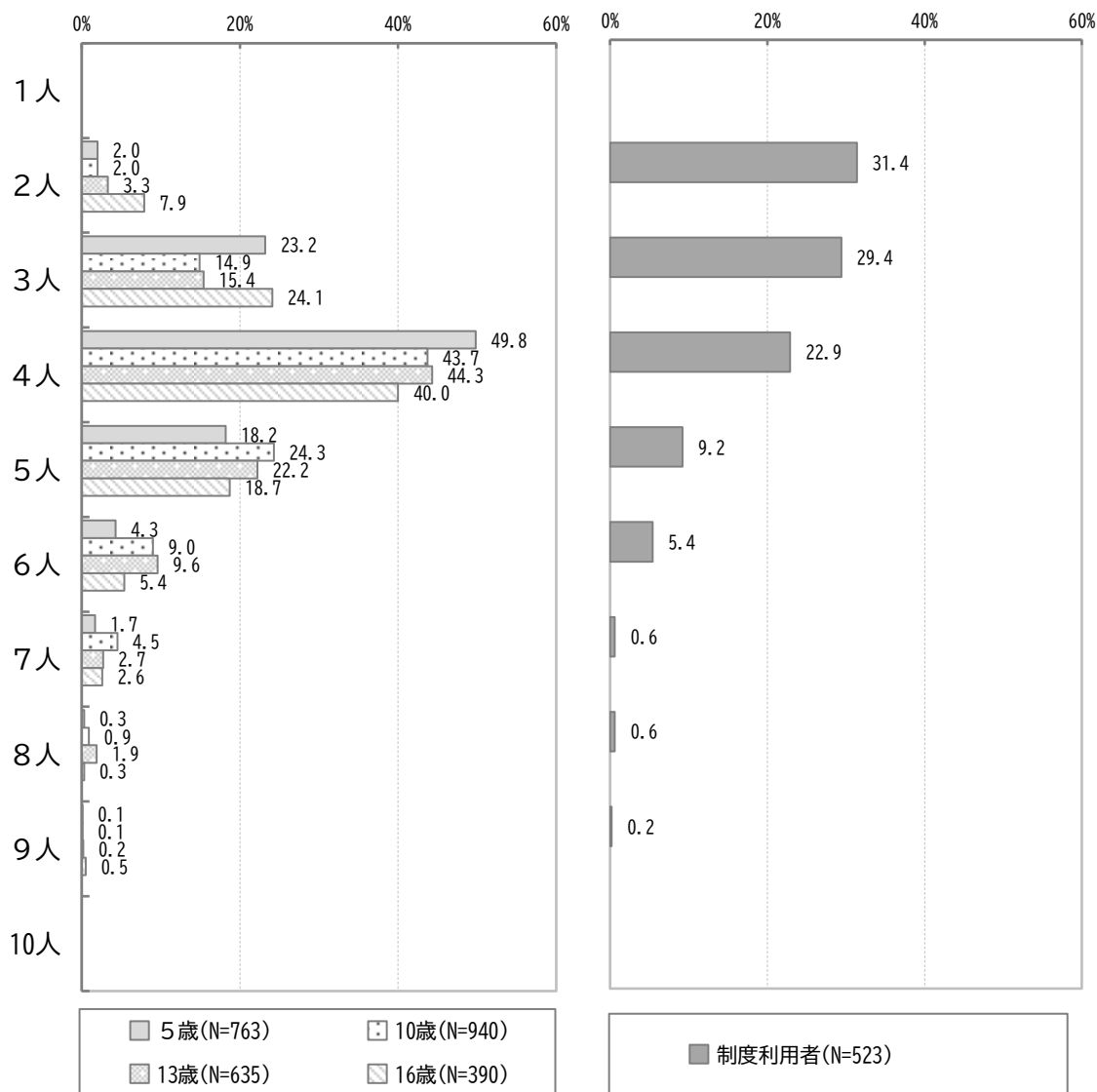


## 2. 世帯員のこと

問4-1 あなたの世帯（世帯員）について教えてください。お子さんからみた関係でお答えください。

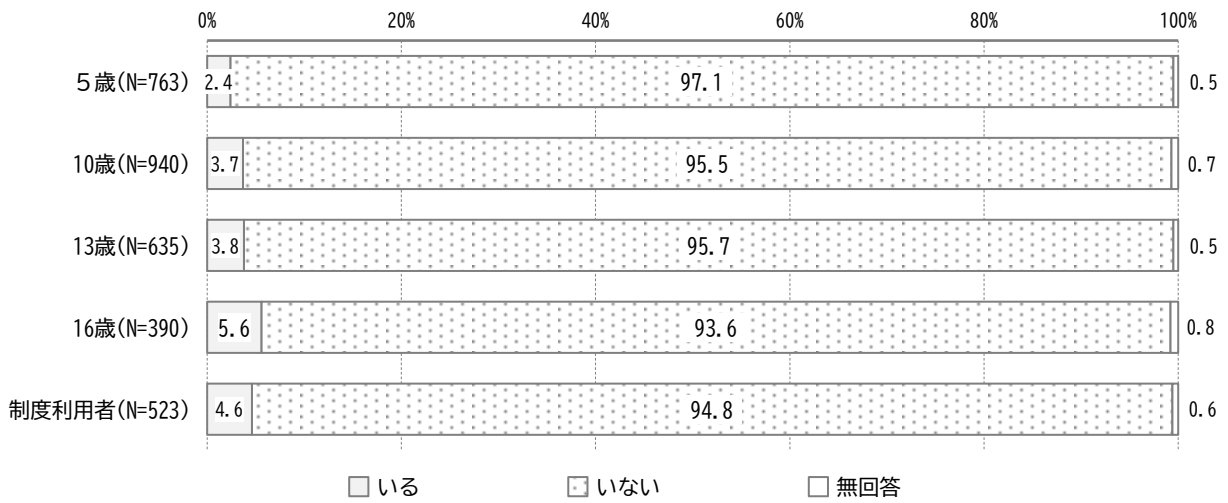
【問4-1-① 世帯員の人数を記入してください。（あなたやお子さんを含む）】

各年齢とも「4人」が最も多くなっています。制度利用者では「2人」が最も多く、次いで「3人」、「4人」となっています。



【問4-1-② 世帯員のうち、介護または介助の必要な方はいますか。(あてはまるもの1つ)】

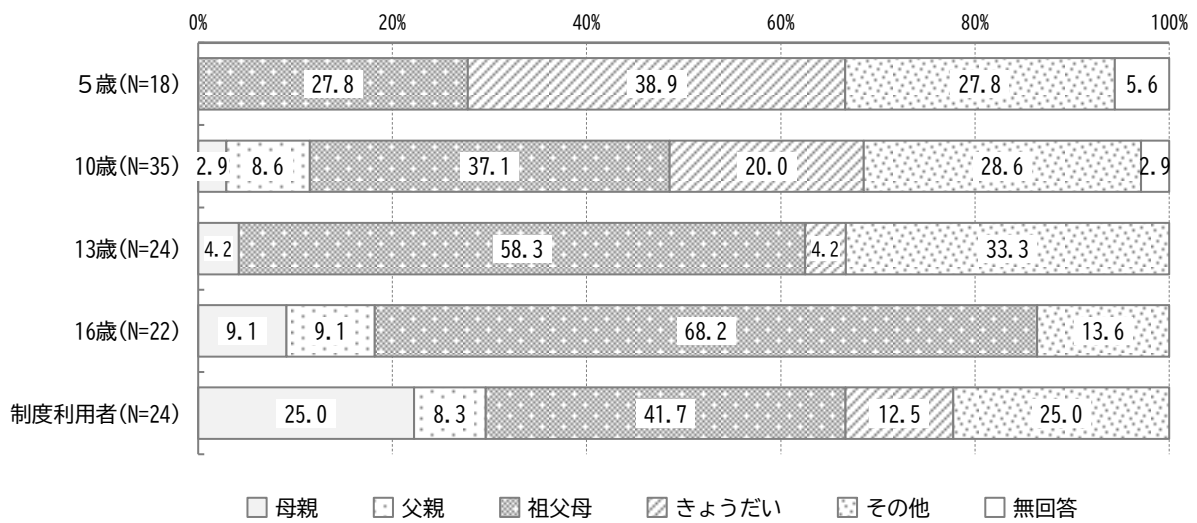
各年齢、制度利用者とも「いない」が9割以上となっています。



問4-1-②で「1. いる」と答えた方にうかがいます。

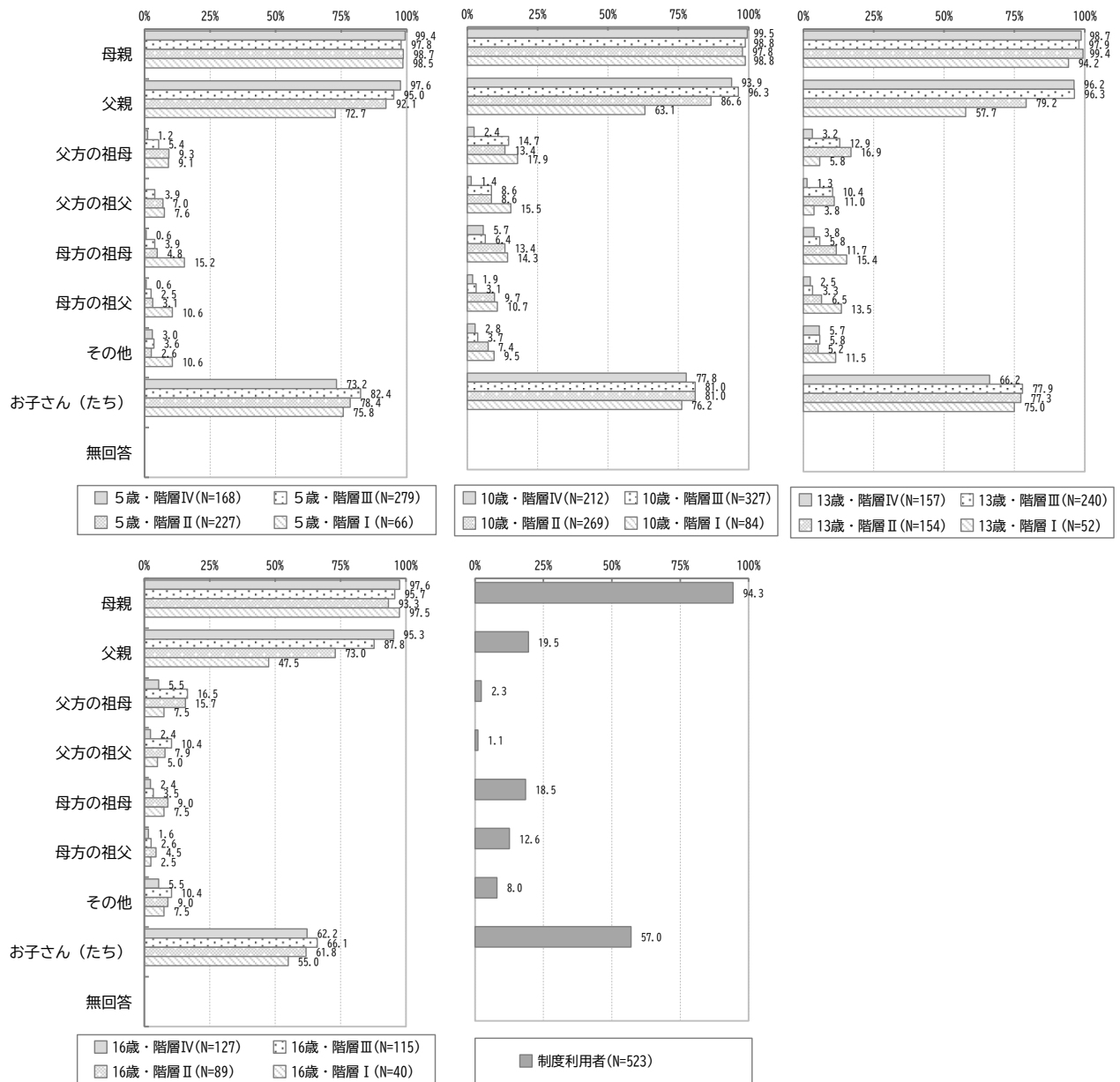
【問4-1-③ 介護または介助の必要な方はどなたですか。】

各年齢、制度利用者とも「祖父母」が最も多くなっています。制度利用者では「母親」が特に多くなっています。



問4-2 家族構成を教えてください。お子さんから見た関係でお答えください。  
 (あてはまる方の番号をすべて選択してください。)

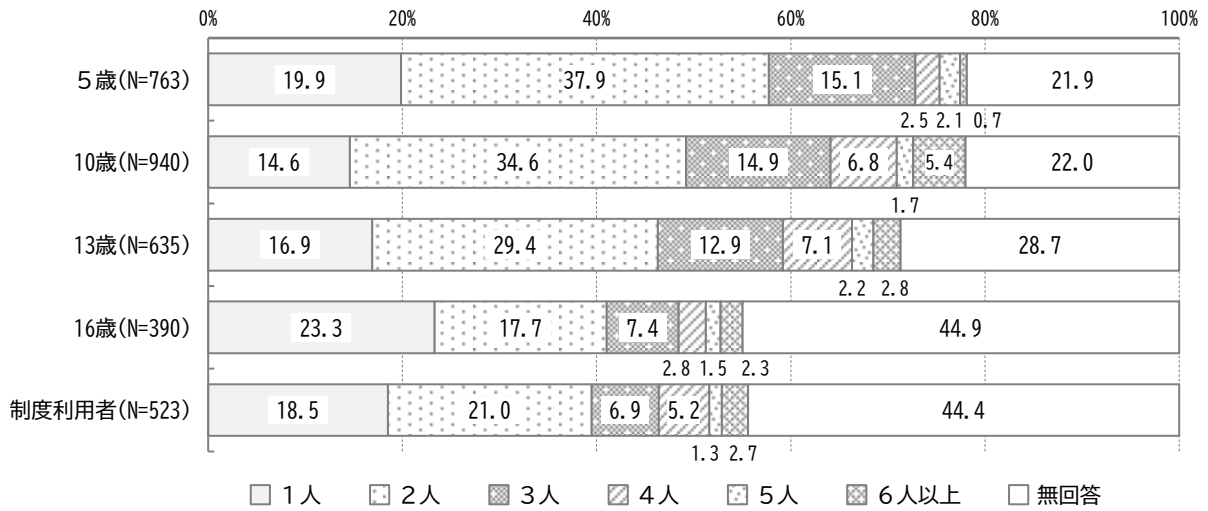
各年齢・階層、制度利用者において「母親」が最も多くなっています。階層Ⅰや制度利用者では「父親」が「お子さん(たち)」より低くなっています。



問4-2 家族構成を教えてください。お子さんからみた関係でお答えください。

【問4-2 18歳未満のお子さんの人数】

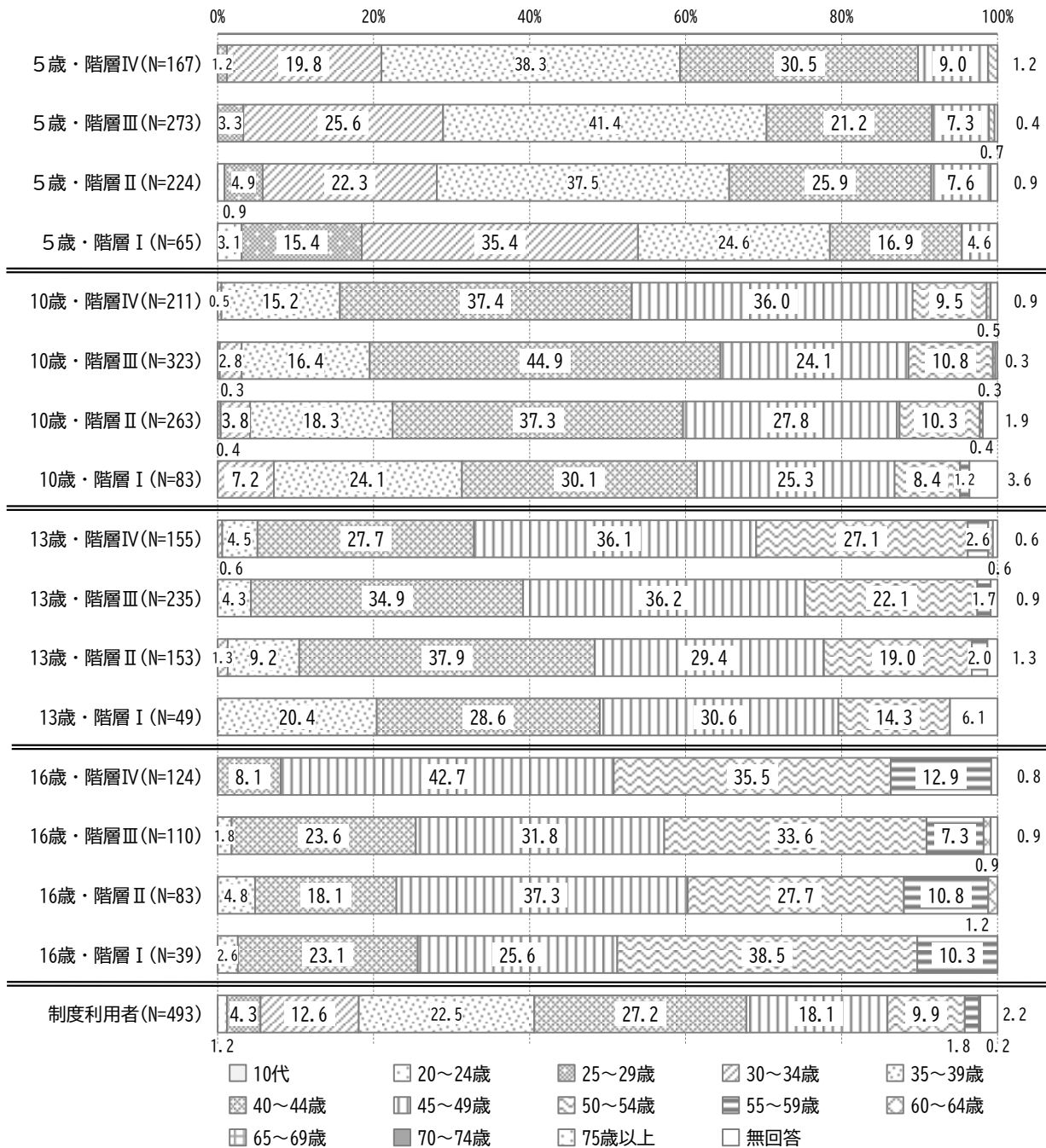
年齢が上がるにつれて、こどもの人数が低くなる傾向がみられます。



問5 お子さんの両親の年齢を教えてください。父親・母親にかわる保護者がいる場合には、その方のことについてもお答えください。

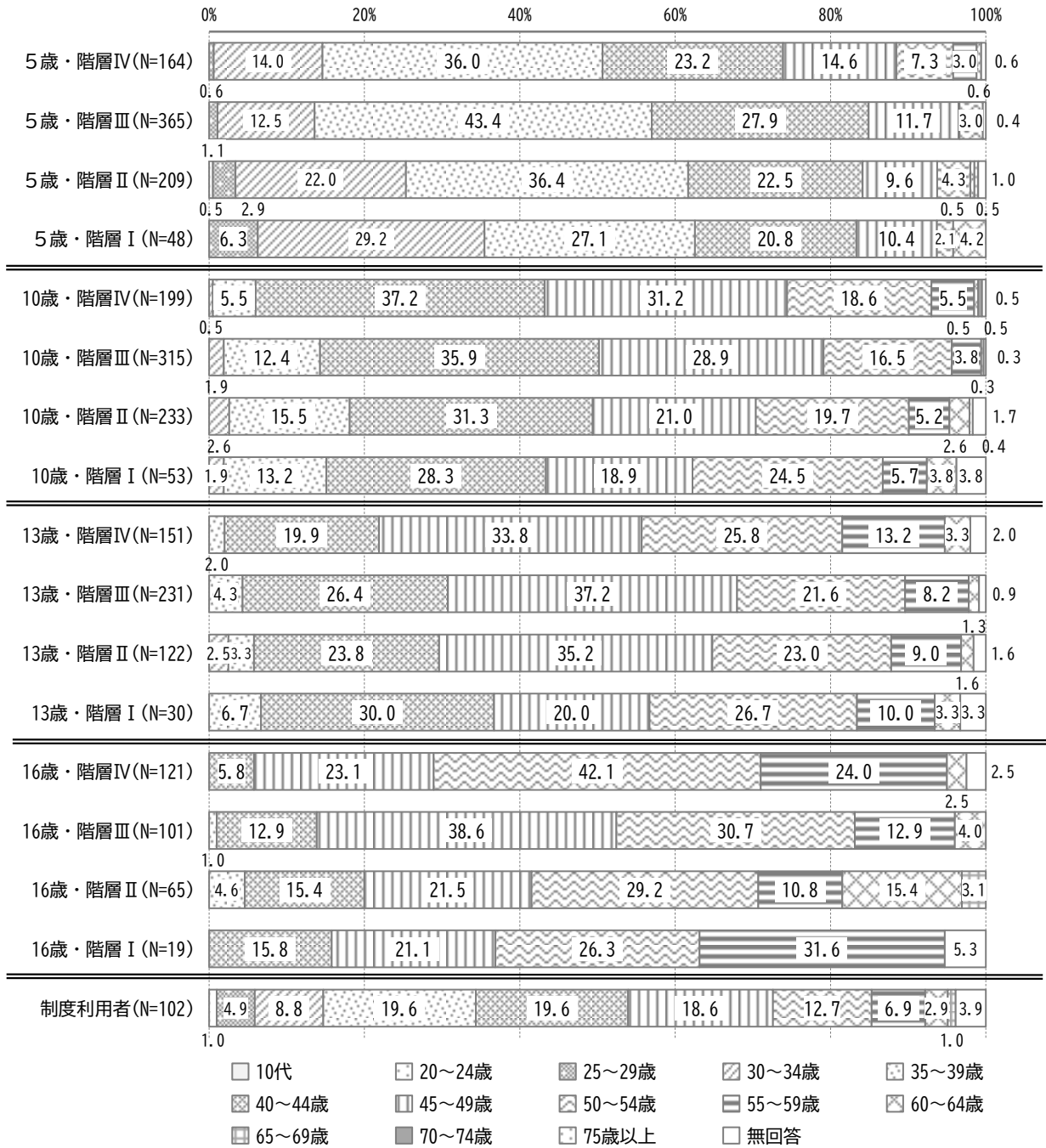
【問5-① 母親】

各年齢においては、階層が下がるにつれて母親の年齢が低くなる傾向がみられます。制度利用者では各年齢の平均的な分布になっています。



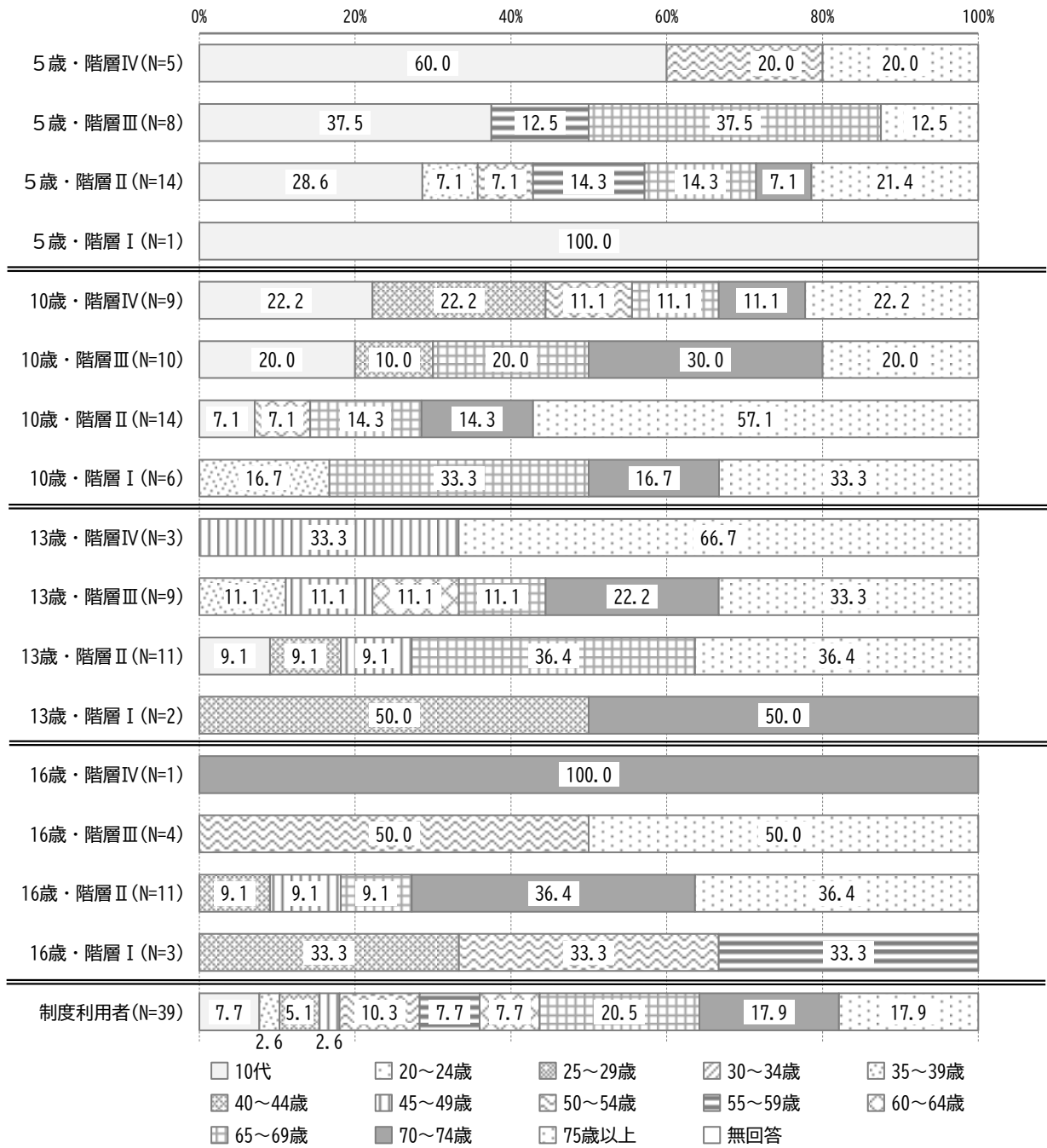
【問5-② 父親】

各年齢においては、階層が下がるにつれて父親の年齢が低くなる傾向がみられます。制度利用者では各年齢の平均的な分布になっています。



【問5-③ 母親・父親に代わる保護者】

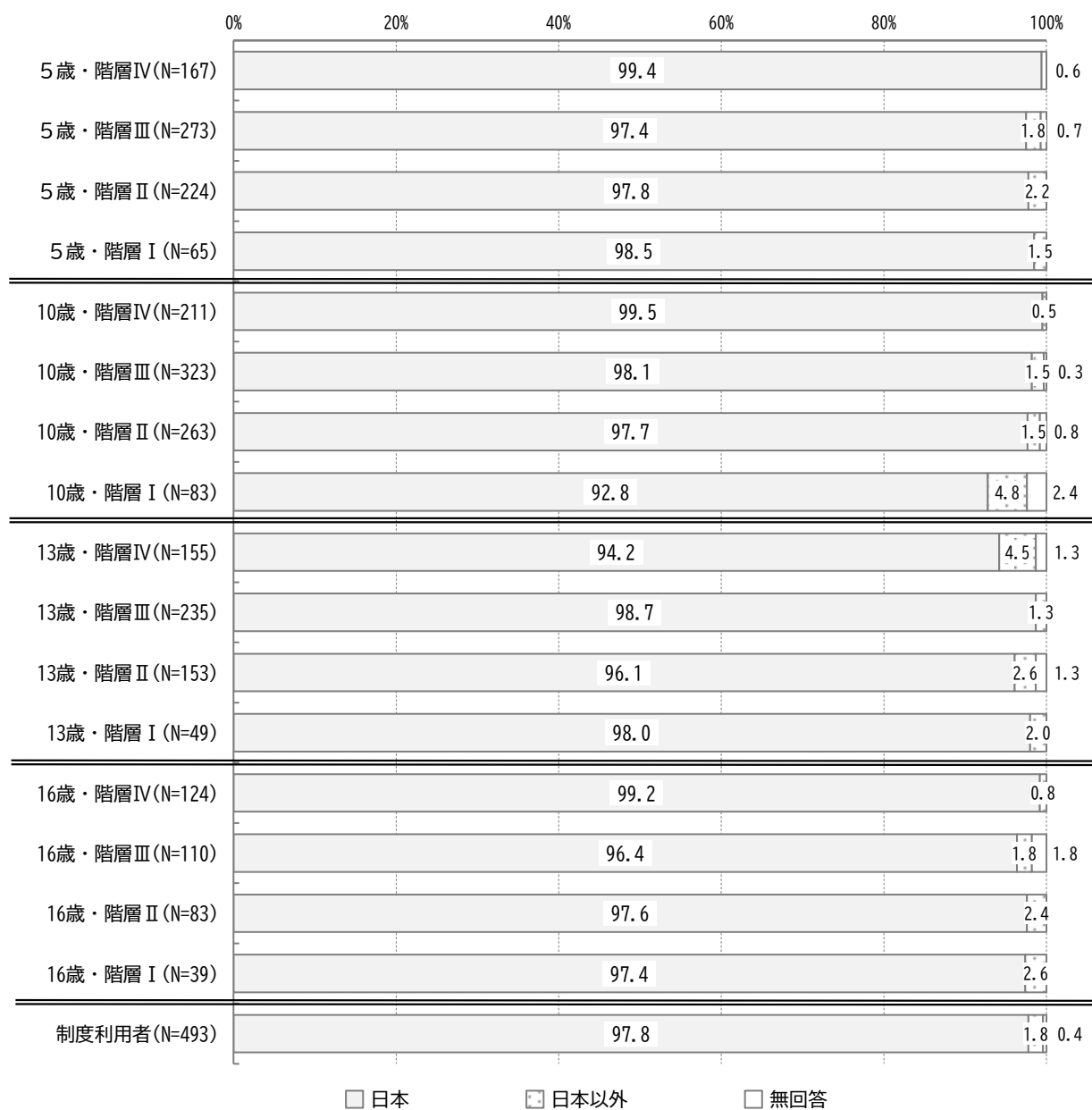
(回答者数が少ないため参考値)



問6-1 お子さんの両親の国籍を教えてください。

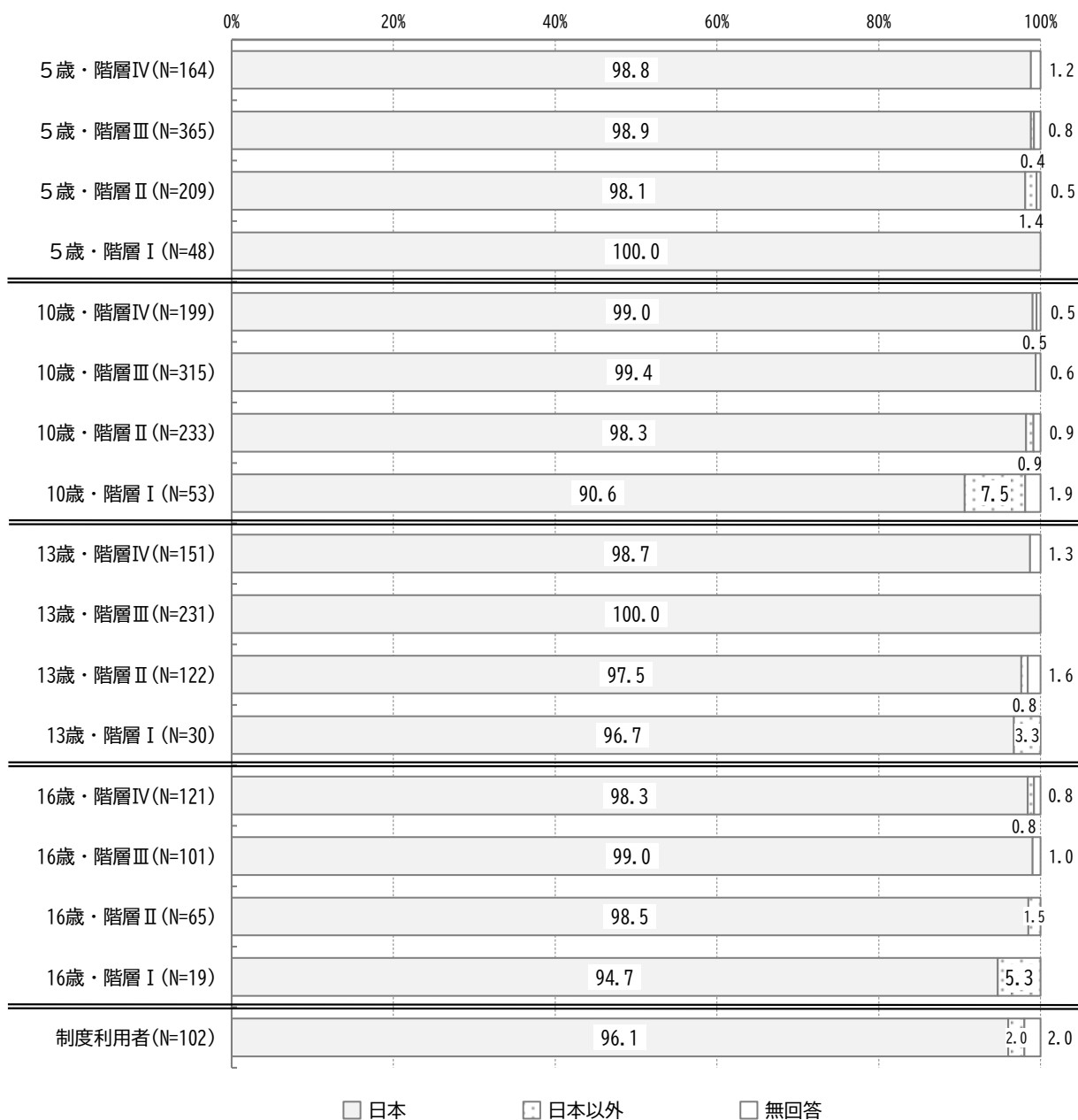
【問6-1-① 母親】

各年齢・階層、制度利用者において、「日本」が9割以上となっています。



【問6-1-② 父親】

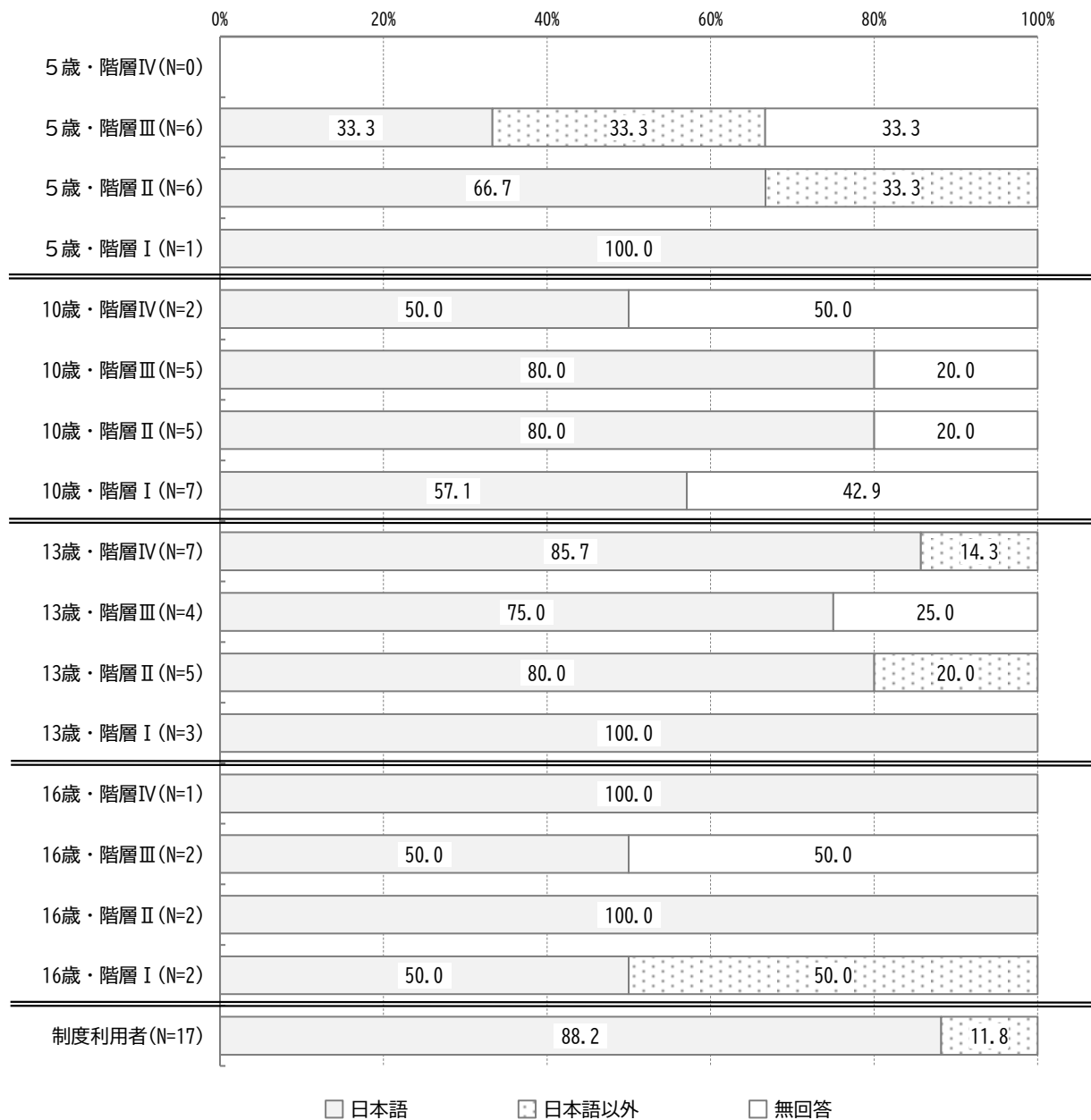
各年齢・階層、制度利用者において、「日本」が9割以上となっています。



問6-1で「2. 日本以外」と答えた方にうかがいます。

問6-2 家の中で話している主な言語を教えてください。日本語以外を選んだ人は主な言語を教えてください。

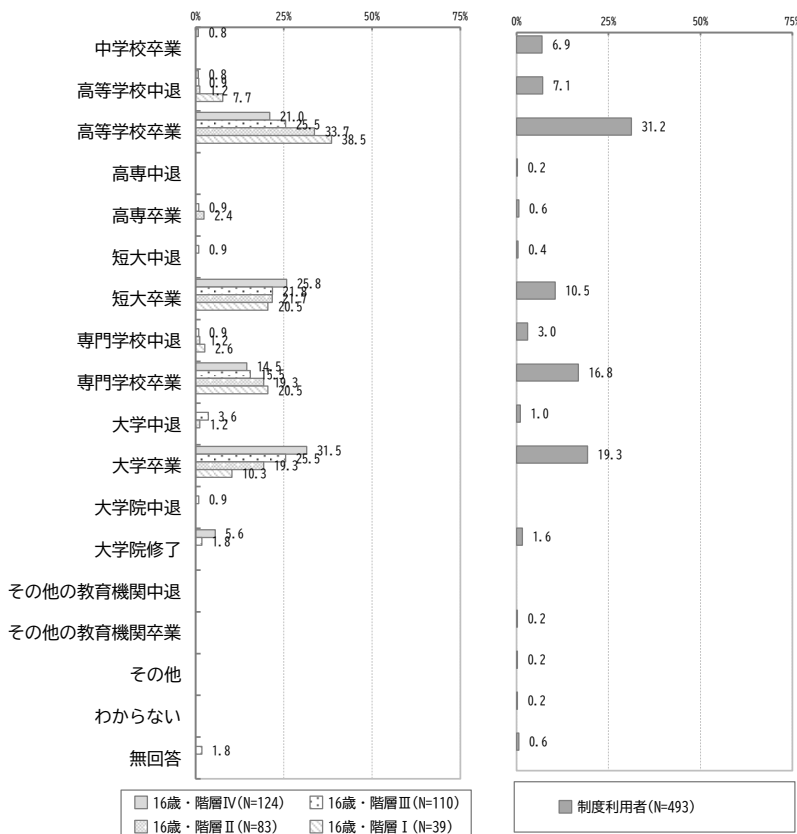
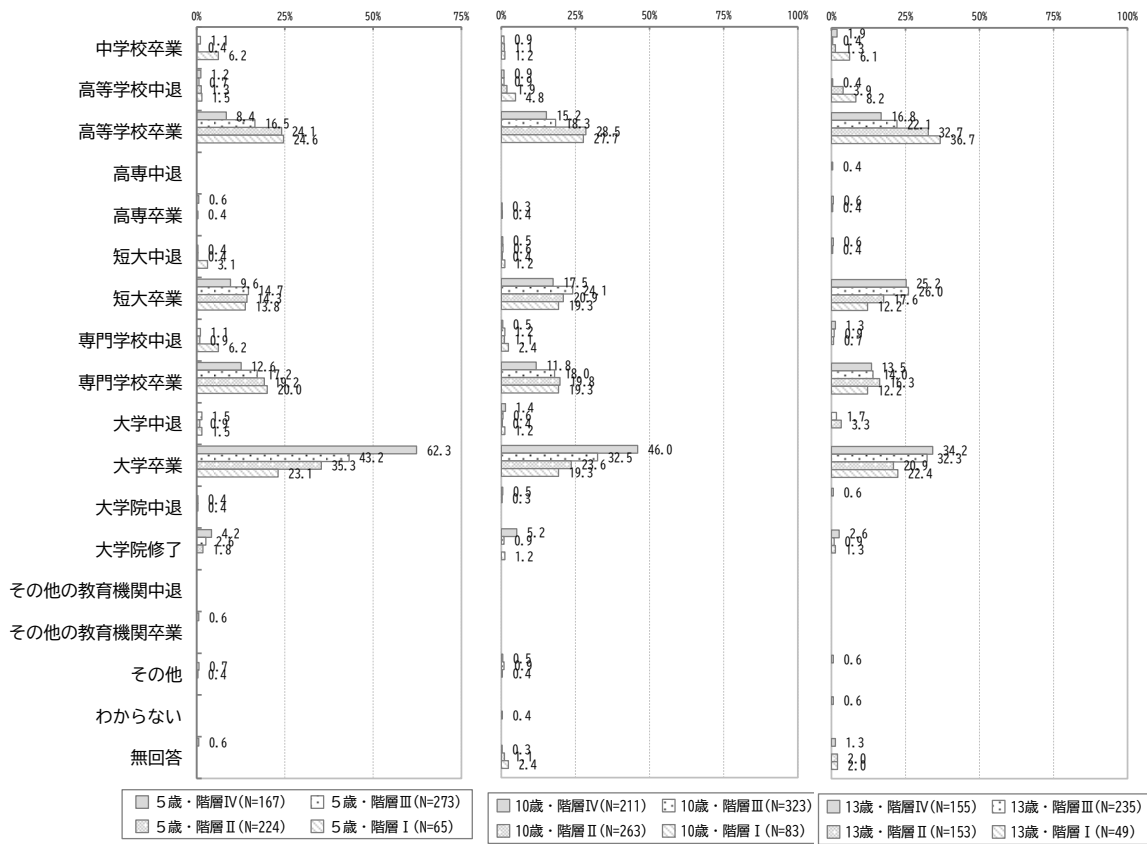
(回答者数が少ないため参考値)



問7 お子さんの両親の最終学歴は以下のどれですか。

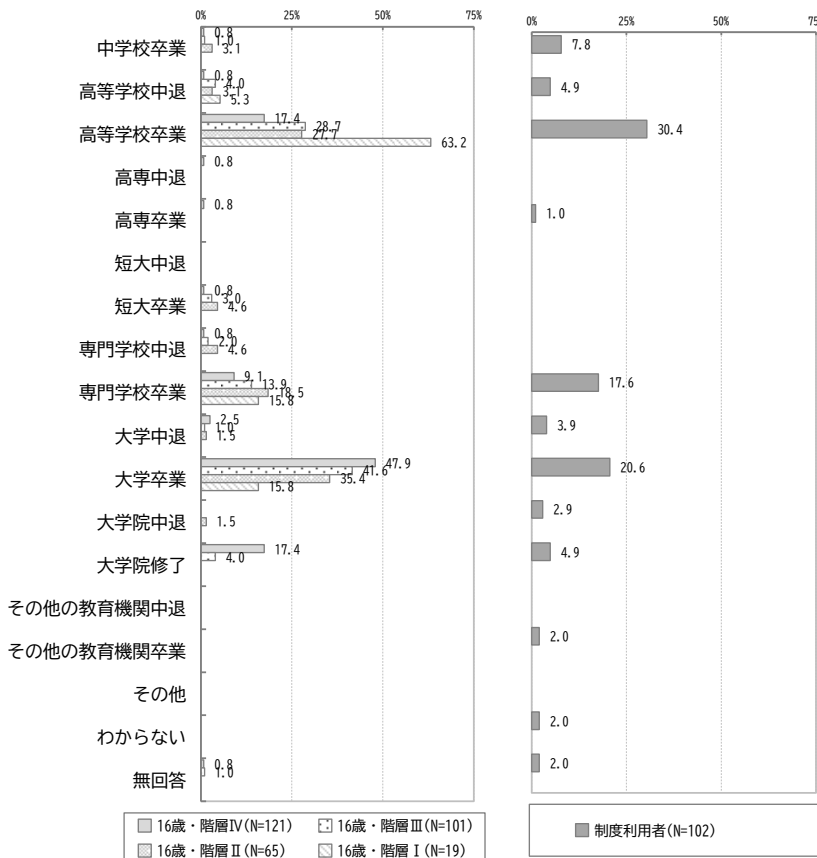
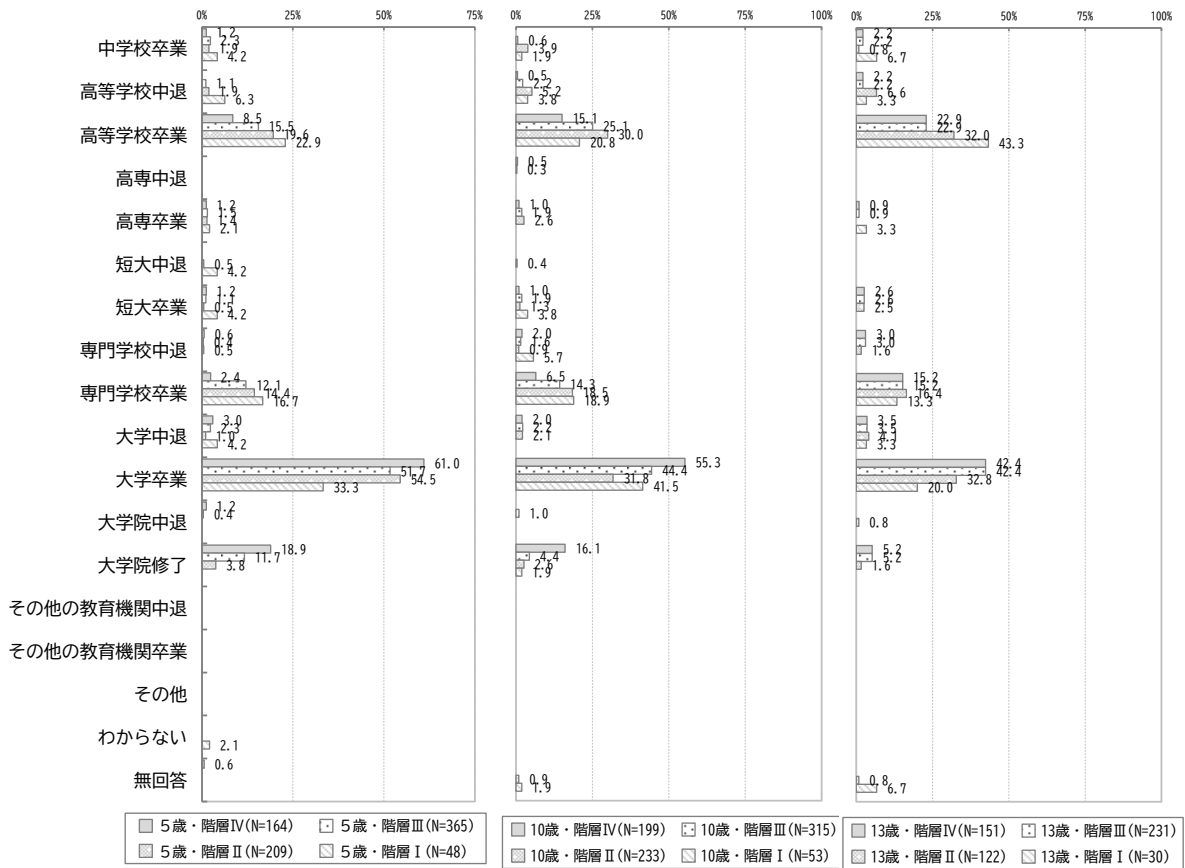
【問7-① 母親】

各年齢において、階層が上がるにつれて「大学卒業」が高く、「高等学校卒業」が低くなる傾向がみられます。制度利用者では「高等学校卒業」が最も高くなっています。



【問7-② 父親】

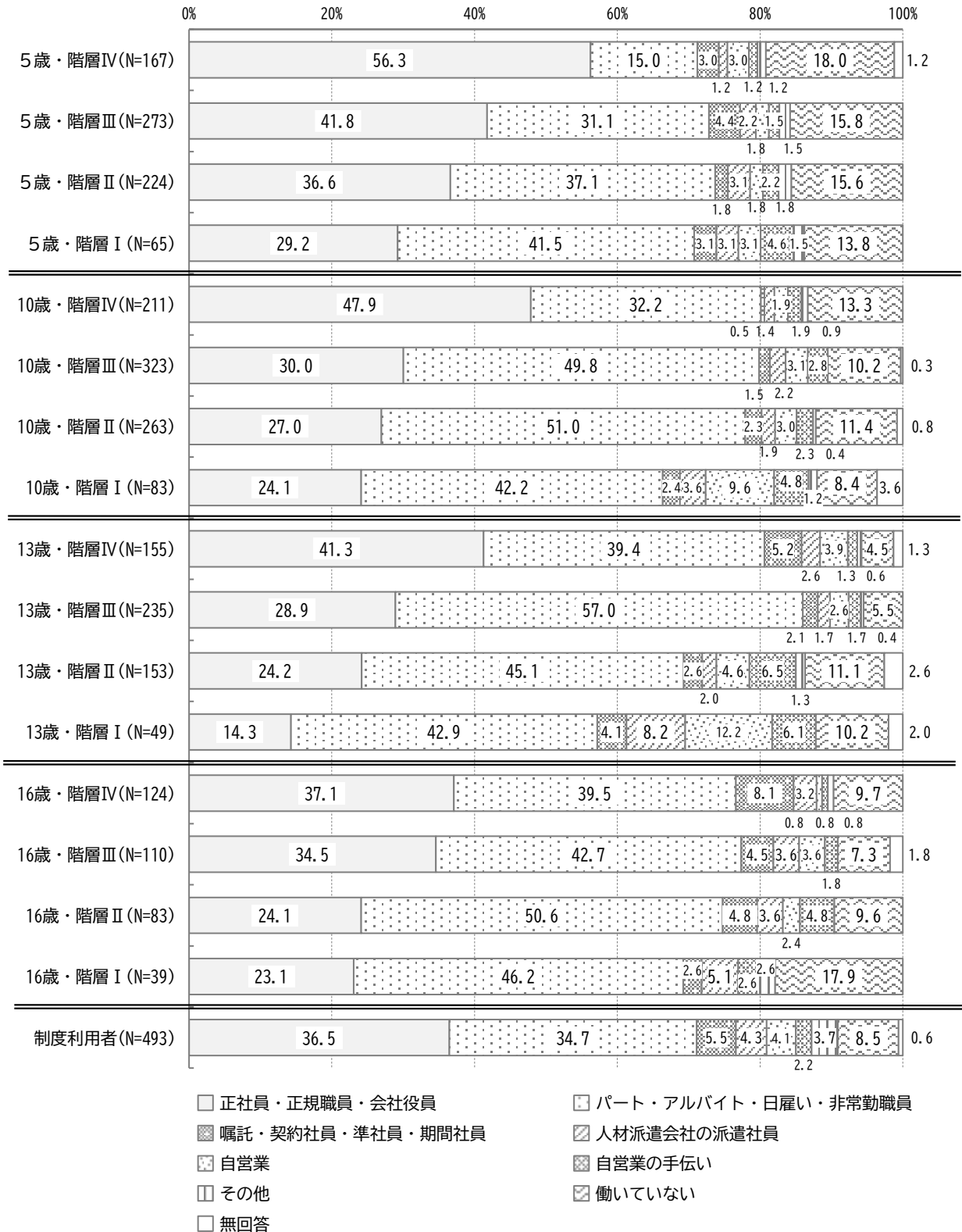
各年齢において、階層が上がるにつれて「大学卒業」が高く、「高等学校卒業」が低くなる傾向がみられます。制度利用者では「高等学校卒業」が最も高くなっています。



問8-1 お子さんの両親の現在の就業形態は次のどれにあたりますか。

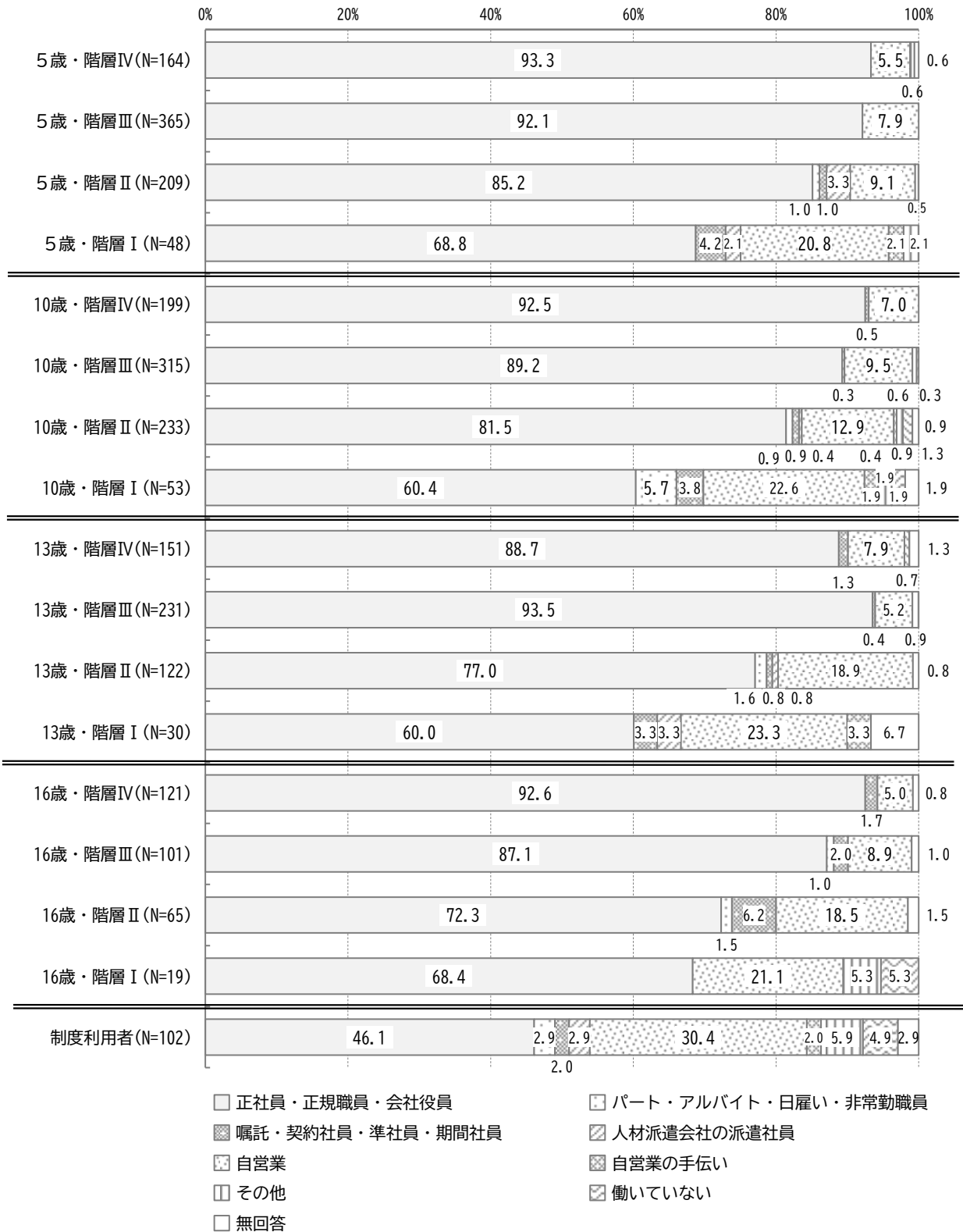
【問8-1-① 母親】

各年齢において、階層が上がるにつれて「正社員・正規職員・会社役員」が高く、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が低くなる傾向がみられます。制度利用者では、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」に比べて、「正社員・正規職員・会社役員」がやや高くなっています。



【問8-1-② 父親】

各年齢・階層、制度利用者において「正社員・正規職員・会社役員」が高くなっています。  
制度利用者では、次いで「自営業」が高くなっています。

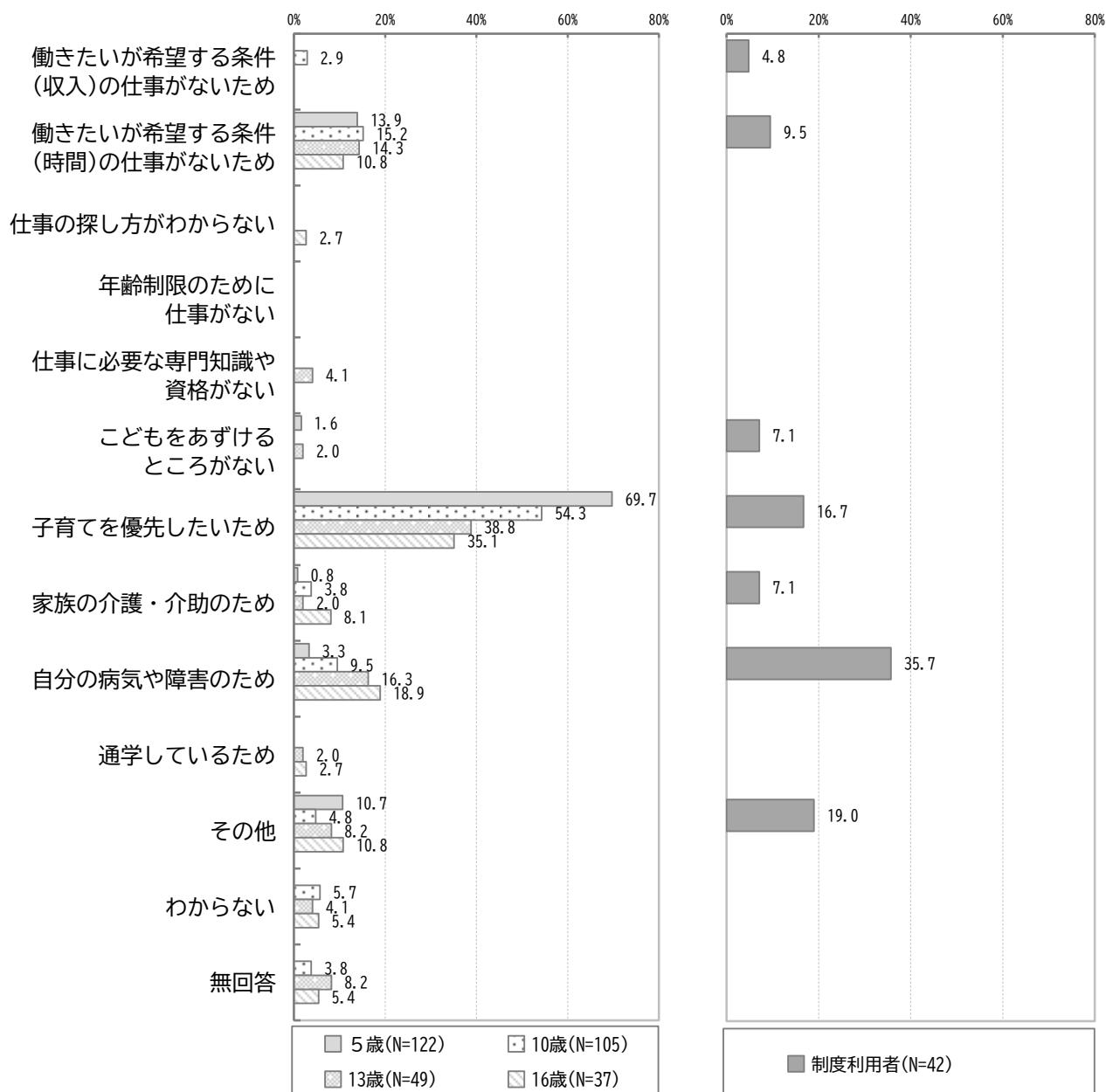


問8-1で「8. 働いていない」と答えた方にうかがいます。

問8-2 働いていない最も主な理由を教えてください。

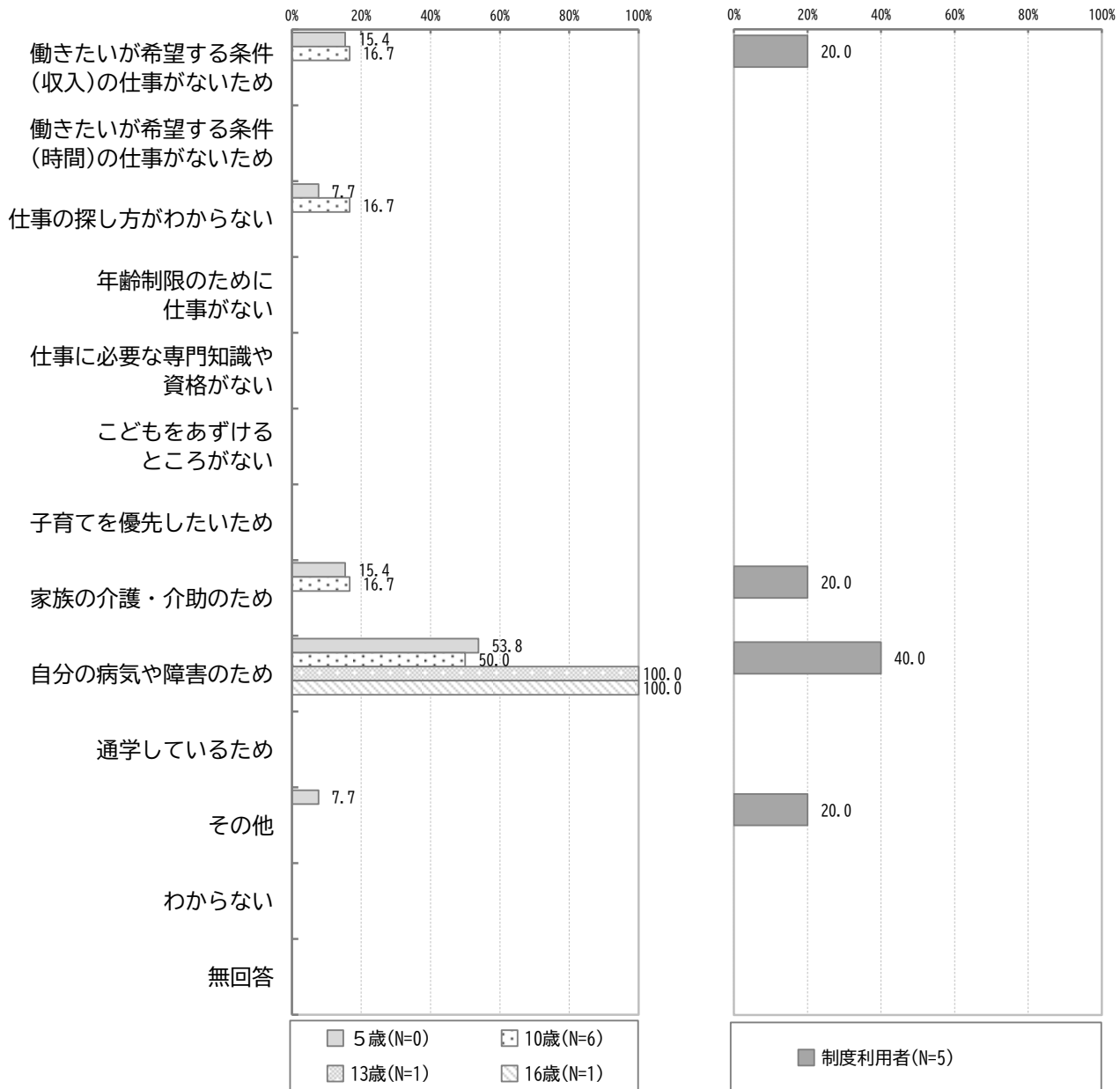
【問8-2-① 母親】

各年齢において、「子育てを優先したいため」が最も高くなっています。制度利用者では「自分の病気や障害のため」が最も高くなっています。



【問8-2-② 父親】

(回答者数が少ないため参考値)

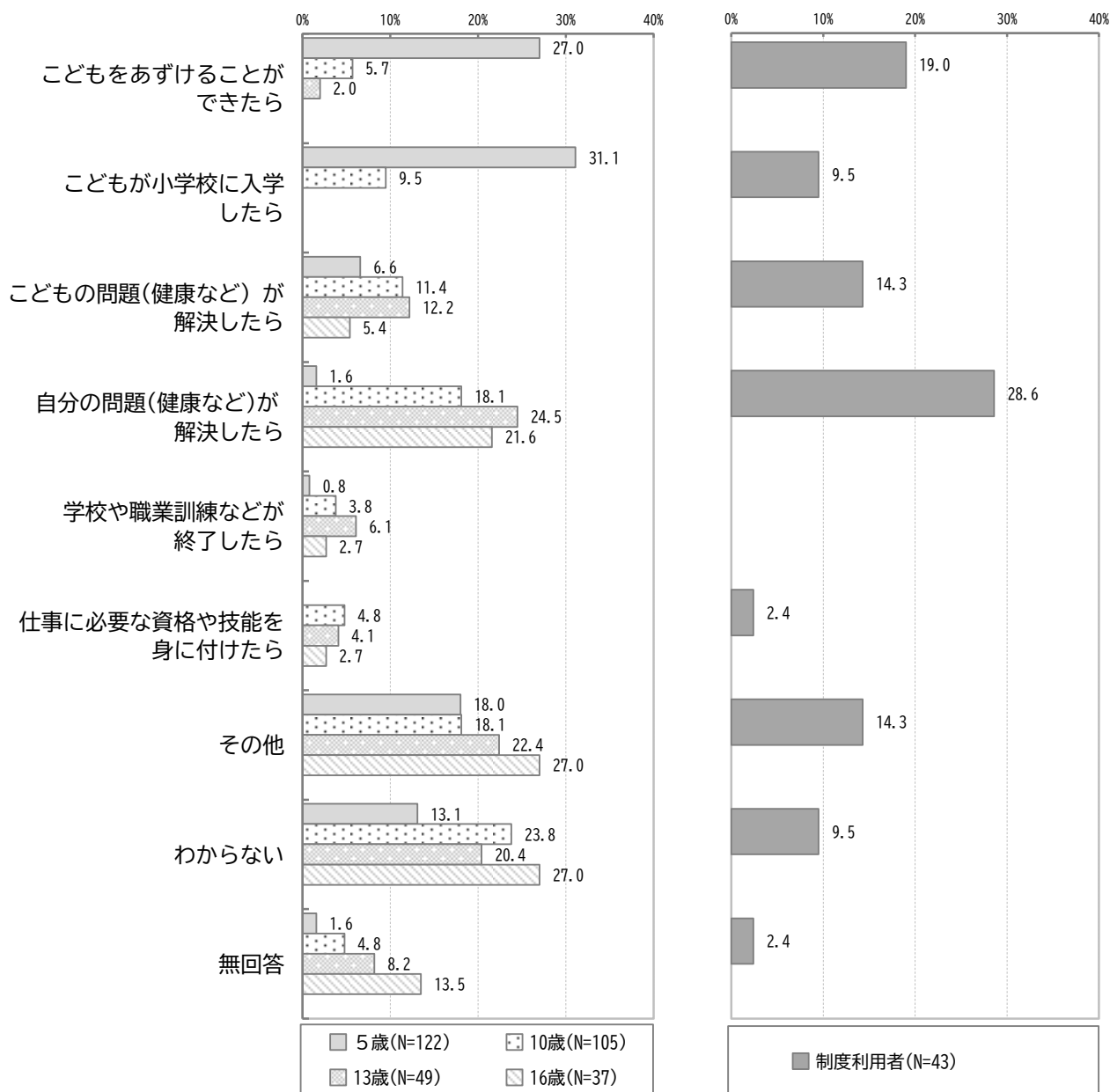


問8-1で「8. 働いていない」と答えた方にうかがいます。

問8-3 どのような状況になれば働きたいと思いますか。

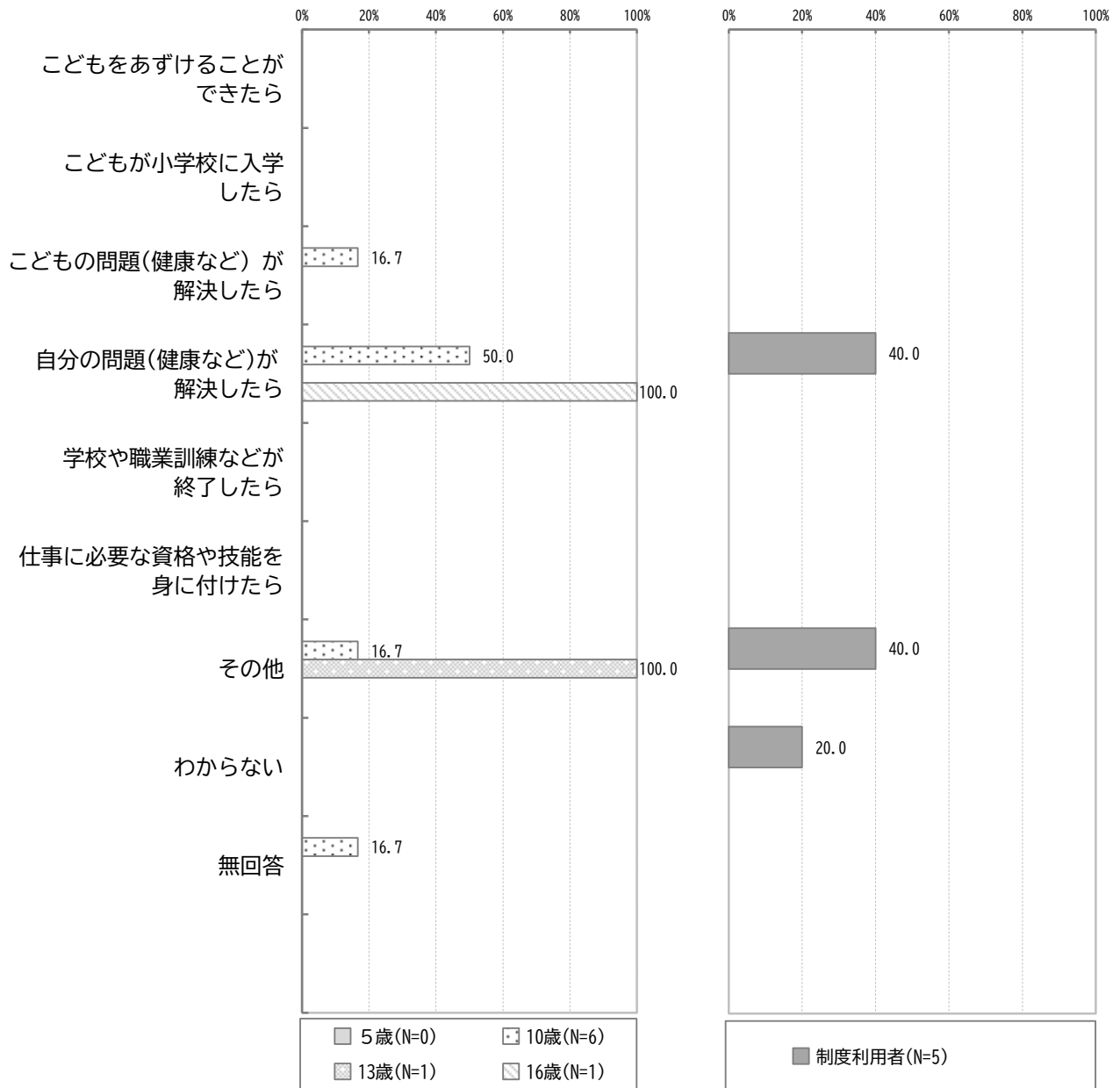
【問8-3-① 母親】

5歳は、「こどもが小学校に入学したら」が最も多く、10歳、13歳、16歳、制度利用者は、「自分の問題（健康など）が解決したら」が最も多くなっています。



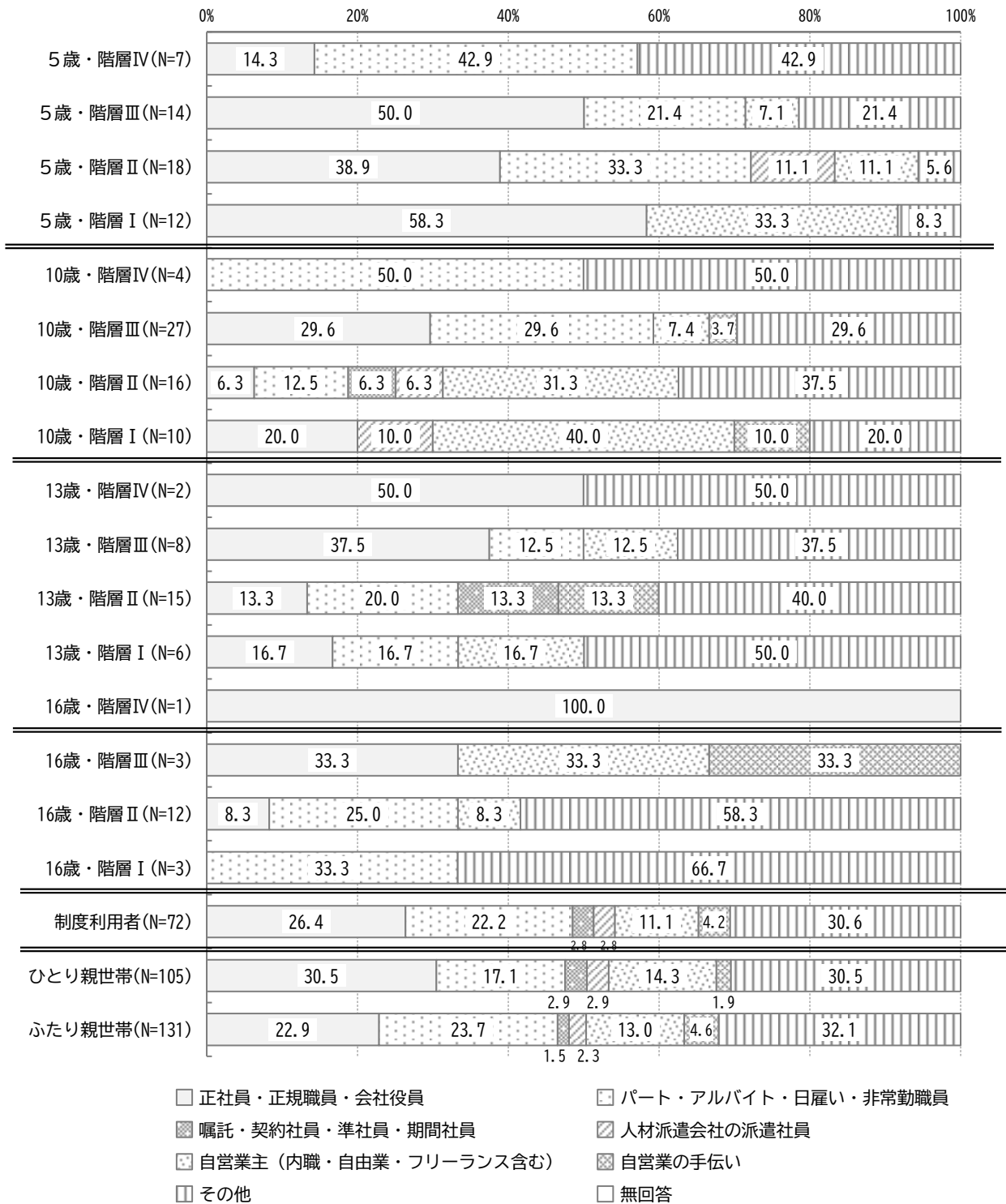
【問8-3-② 父親】

(回答者数が少ないため参考値)



問9 お子さんの両親以外（祖母、祖父、おば、おじなど）が、主として家計を支えている場合、その方の就業状況を教えてください。（あてはまるもの1つ）

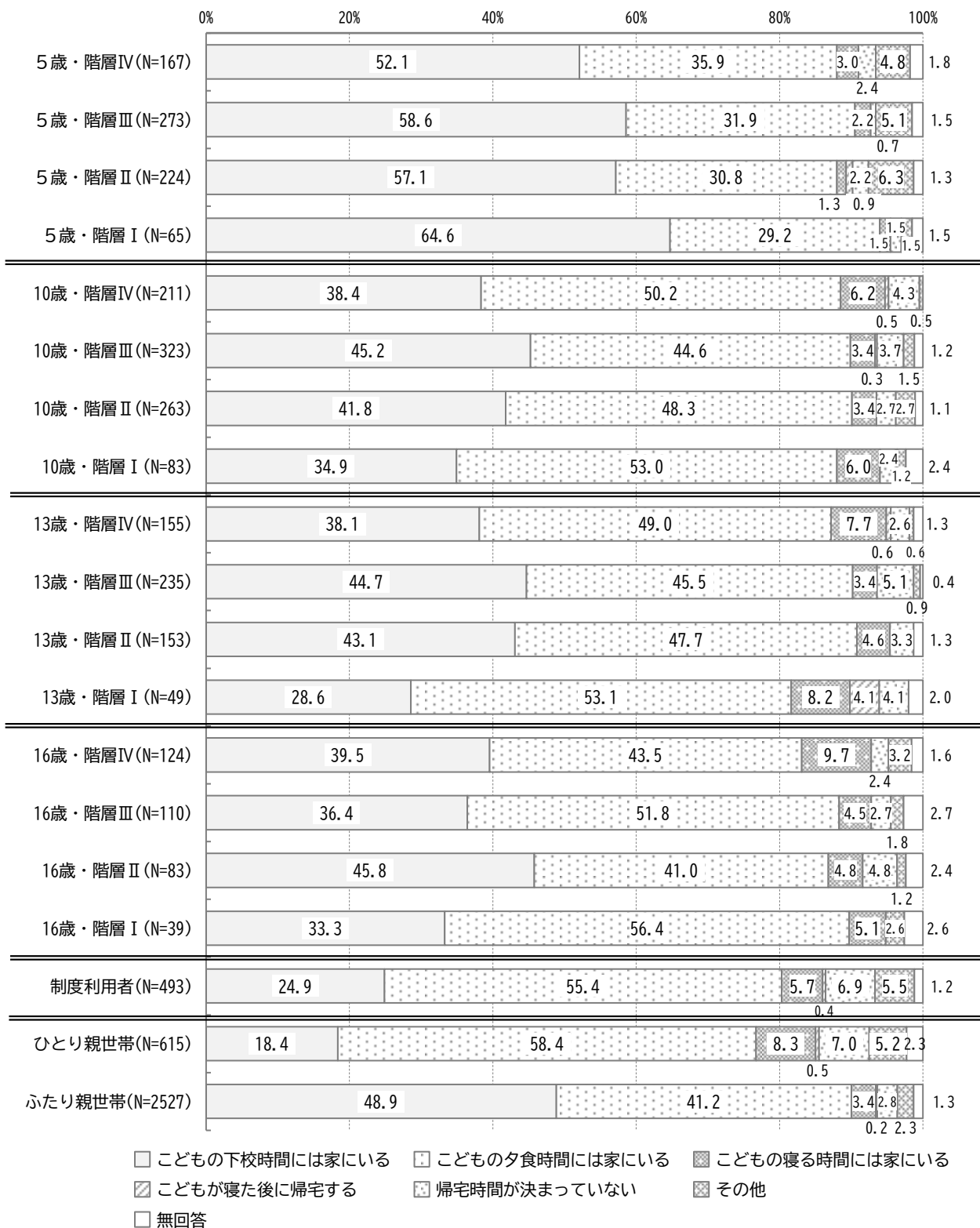
（回答者数が少ないため参考値）



問 10-1 お子さんの両親が家にいる時間帯を選んでください。母親、父親にかわる保護者がいる場合には、その方についてもお答えください。

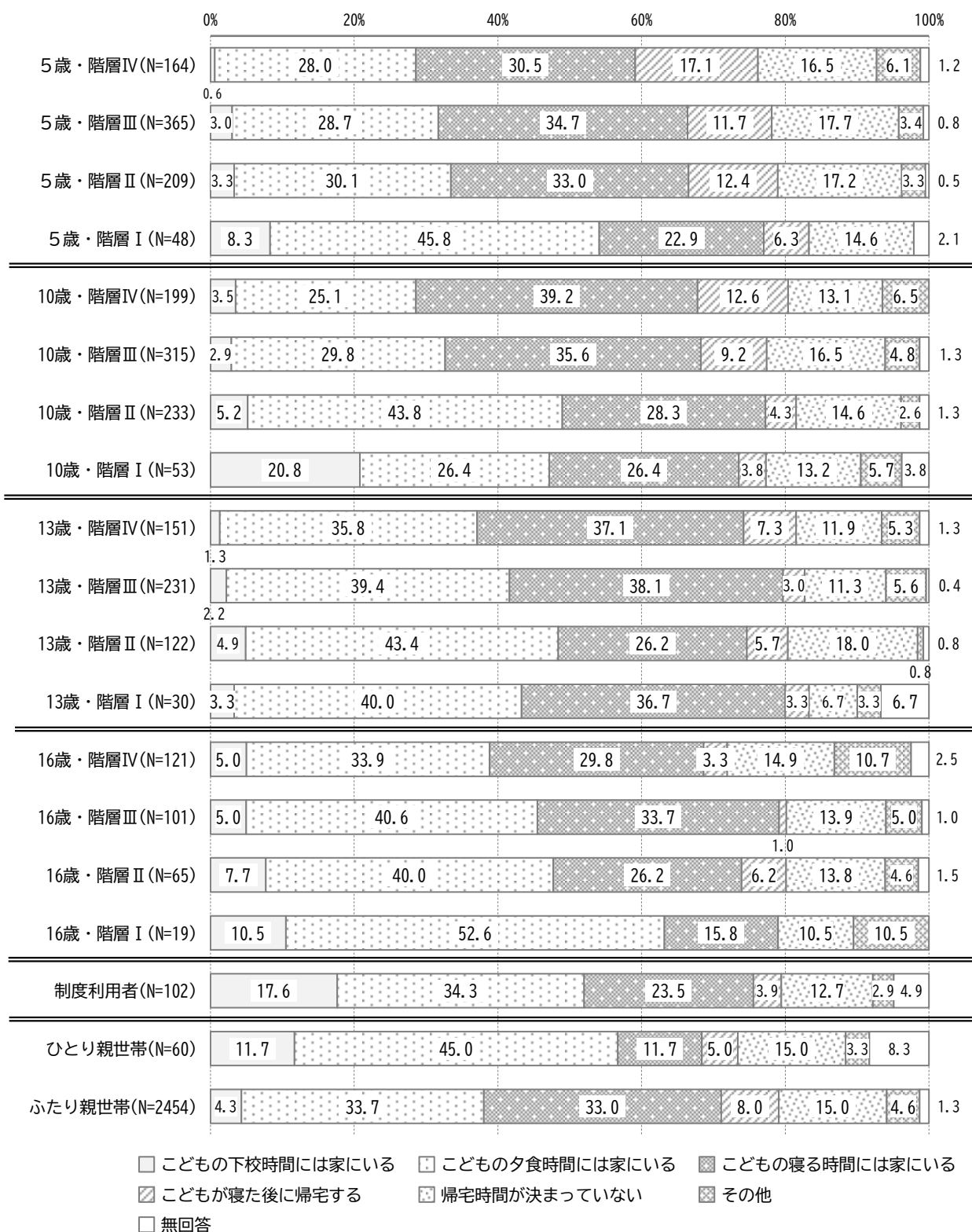
【問 10-1-① 母親】

5歳は「こどもの下校時には家にいる」が5割以上となっていますが、10歳、13歳、16歳は3～4割前後となっています。また階層が低くなるにつれて、「こどもの夕食時には家にいる」が多くなっています。ひとり親世帯は、ふたり親世帯に比べると全体的に帰宅時間が遅くなっており、「こどもの寝る時間には家にいる」「帰宅時間が決まっていない」が多い傾向にあります。



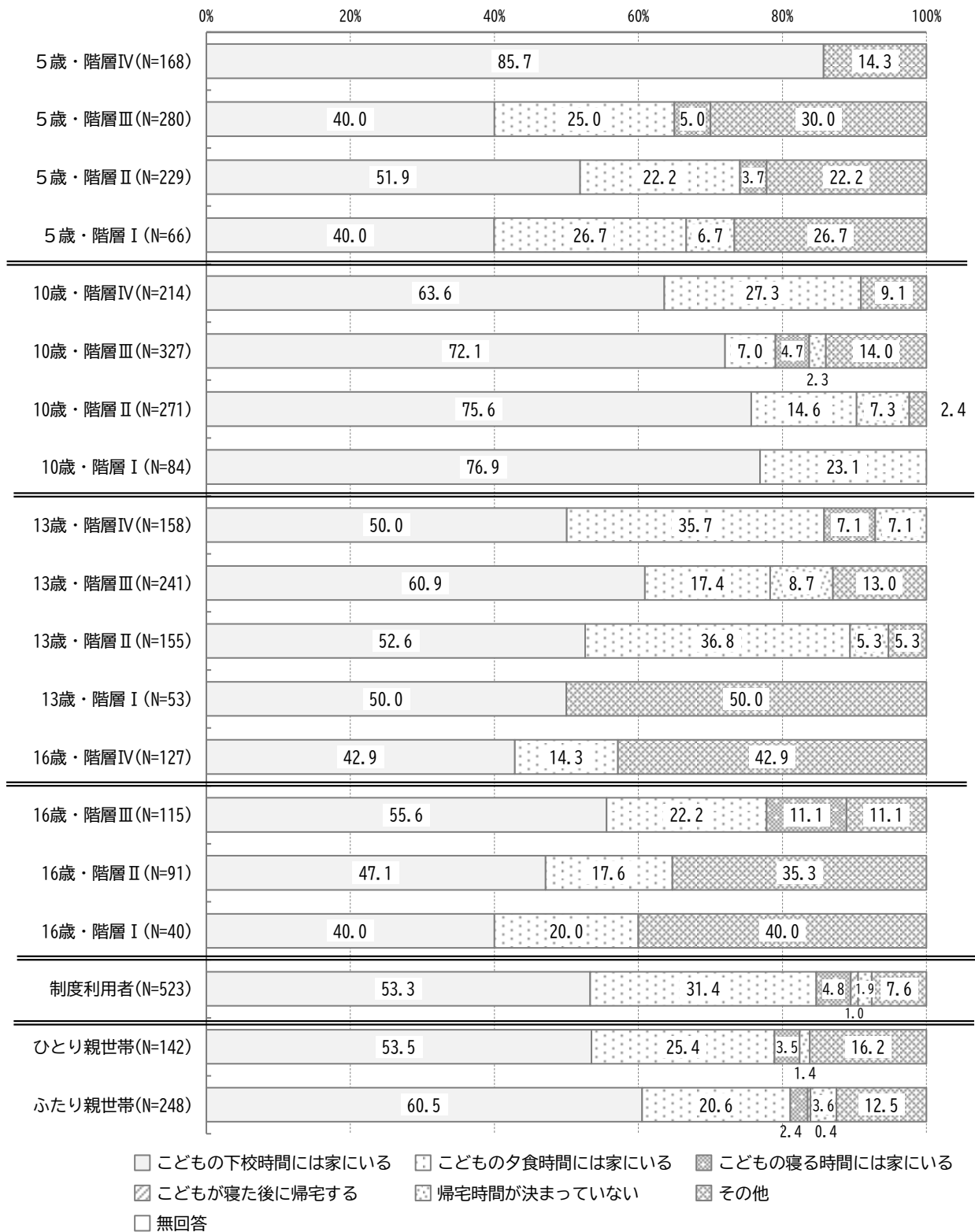
【問 10-1-② 父親】

各年齢・階層において、「こどもの夕食時には家にいる」「こどもの寝る時には家にいる」が多くなっています。5歳、16歳は、階層が低くなるにつれ「こどもの夕食時には家にいる」が多くなっています。25.7%、「無回答」が18.1%となっている。また、母親と比べて帰宅時間が遅く、「こどもの寝る時には家にいる」「帰宅時間が決まっていない」が多くなっています。



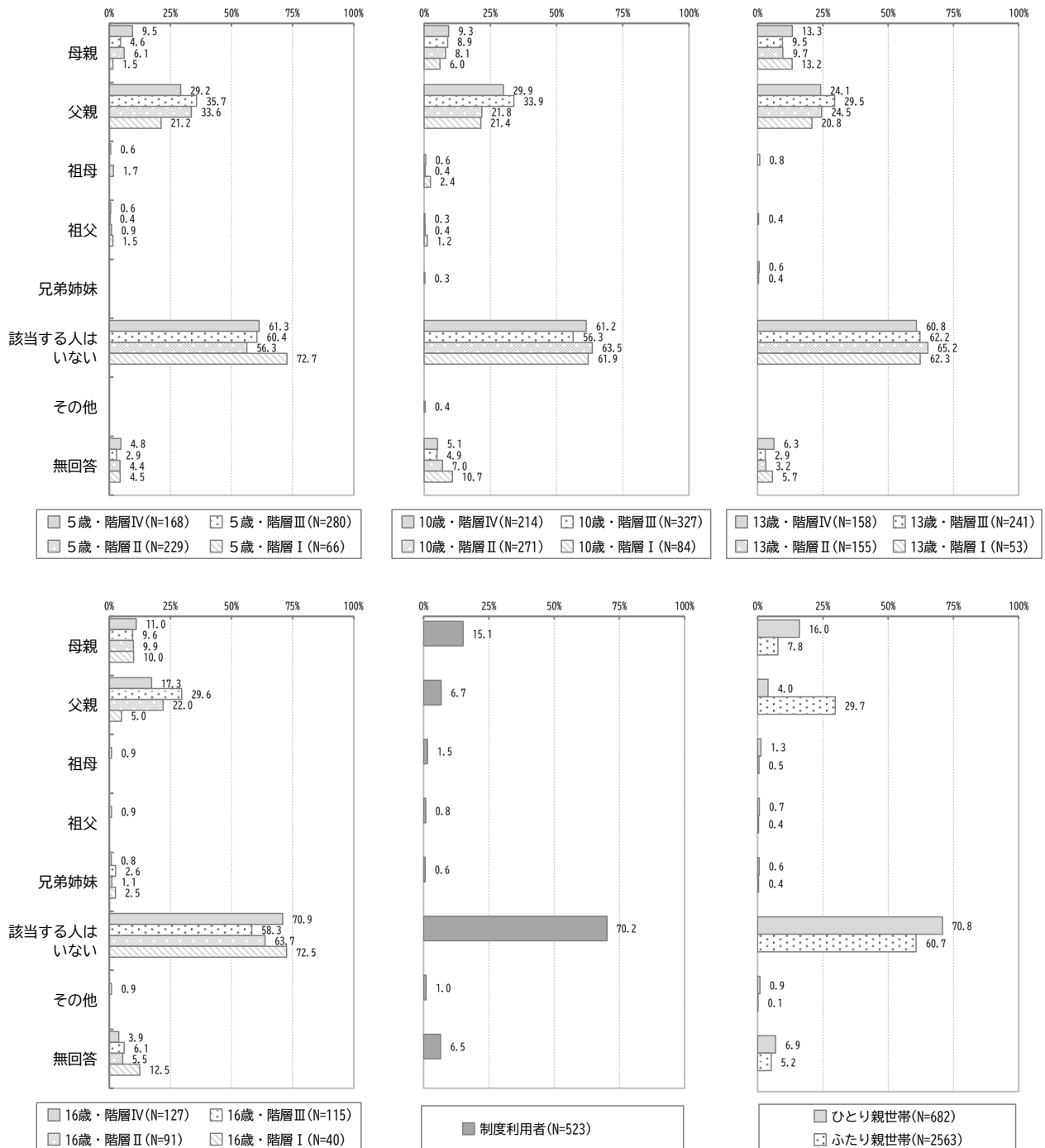
【問 10-1-③ 母親・父親にかわる保護者】

各年齢・階層において「こどもの下校時には家にいる」が最も多くなっています。



問 11 あなたの世帯に含まれる方で、昨年1年間（令和6年1月1日～12月31日の期間）に、深夜（22時～5時頃）や早朝（5時～8時）の時間を勤務時間として仕事をしていましたか。（あてはまるものすべて）※お子さんから見た続柄で回答してください。

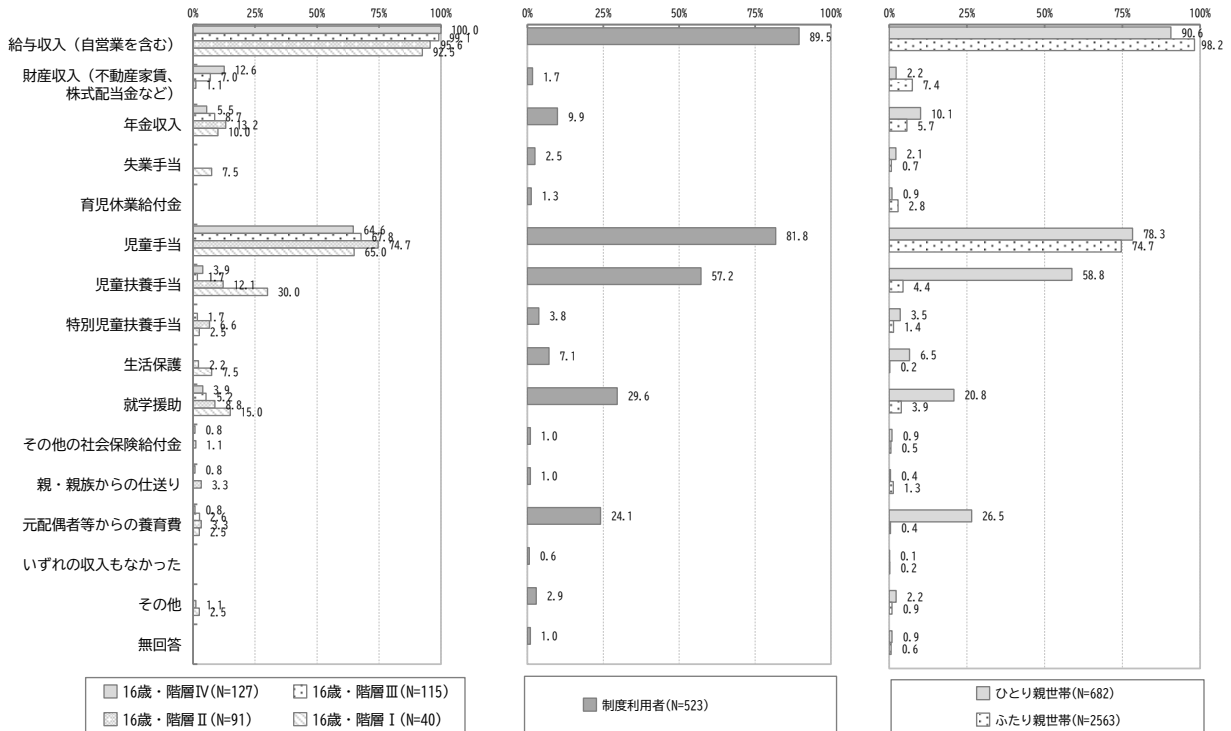
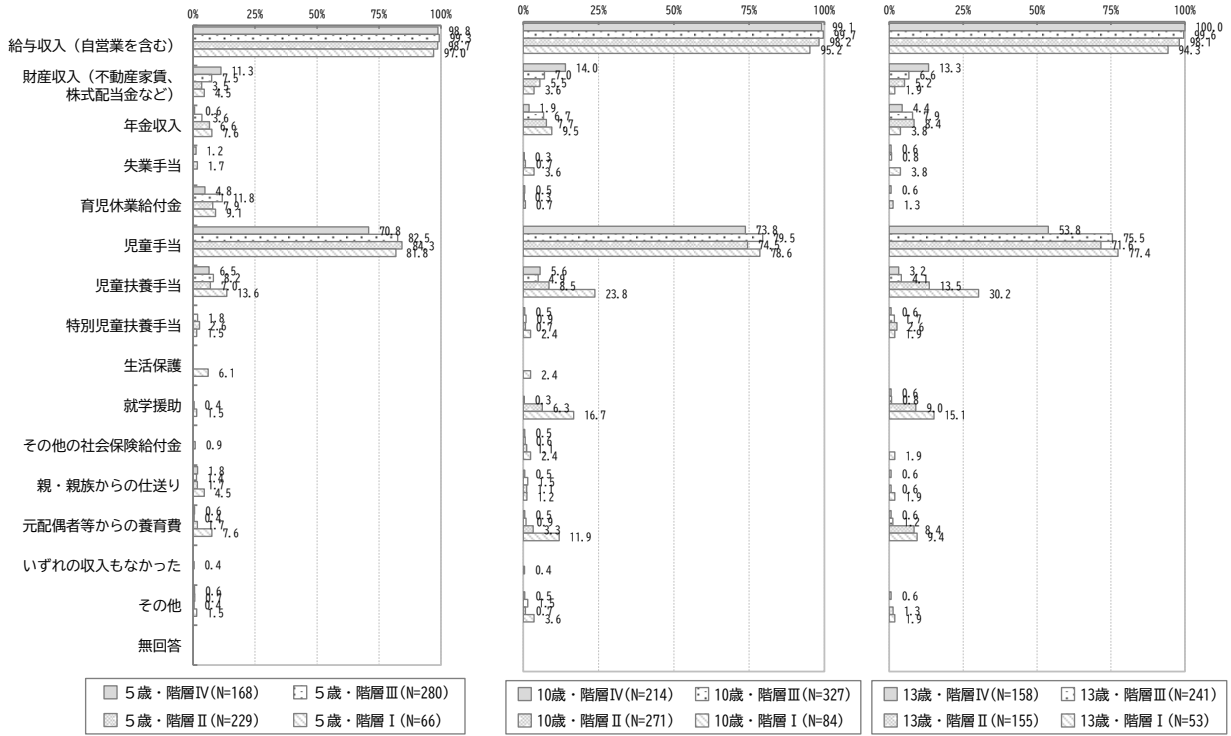
各年齢・階層において「父親」が2～3割前後となっています。またひとり親世帯では「母親」がやや多くなっています。



### 3. 世帯の家計のこと

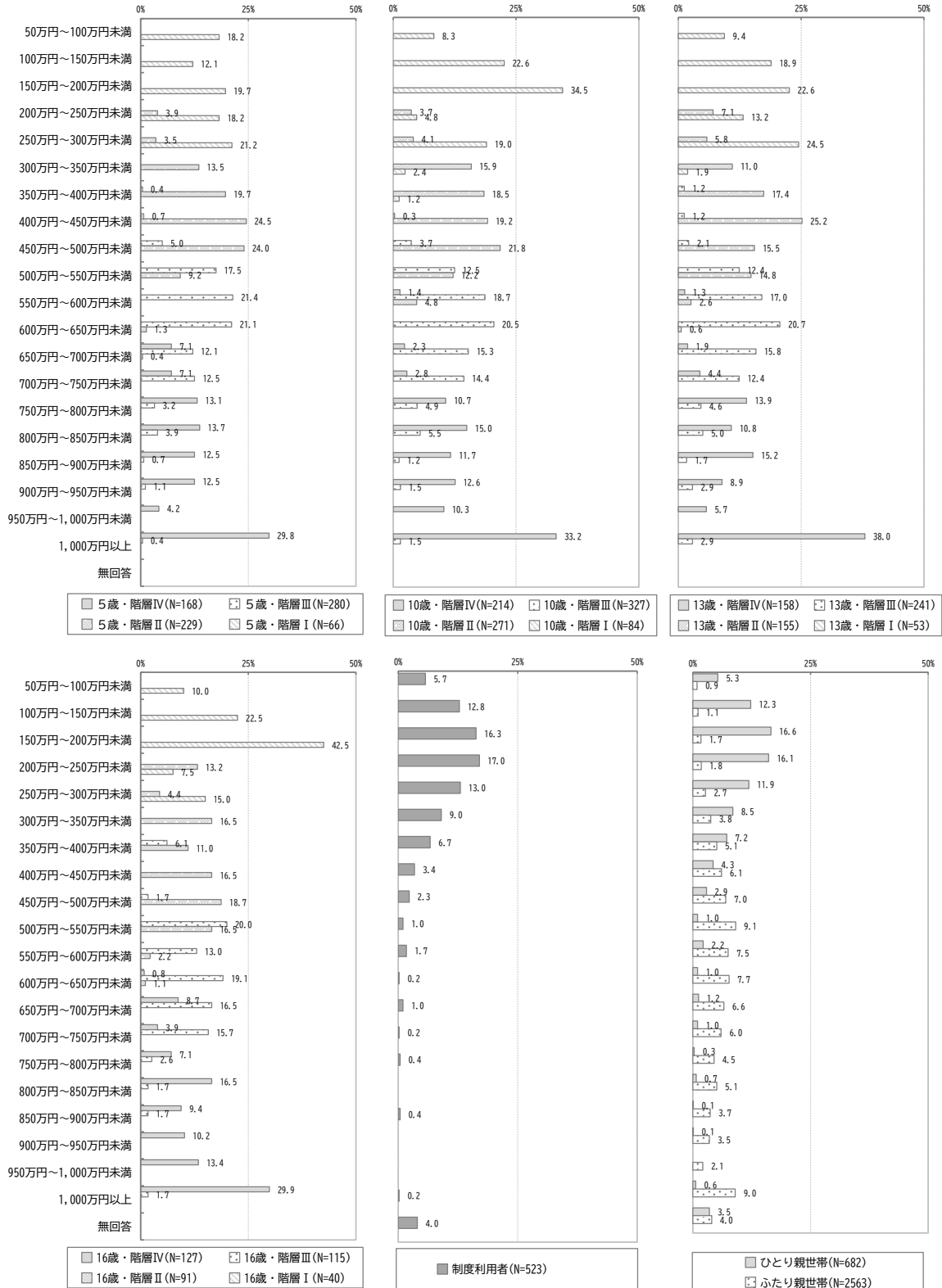
問12 あなたの世帯では、昨年1年間（令和6年1月1日～12月31日の期間）に、どのような収入がありましたか。（あてはまるものすべて）

各年齢・階層において、「給与収入（自営業を含む）」が最も多く、次いで「児童手当」となっています。



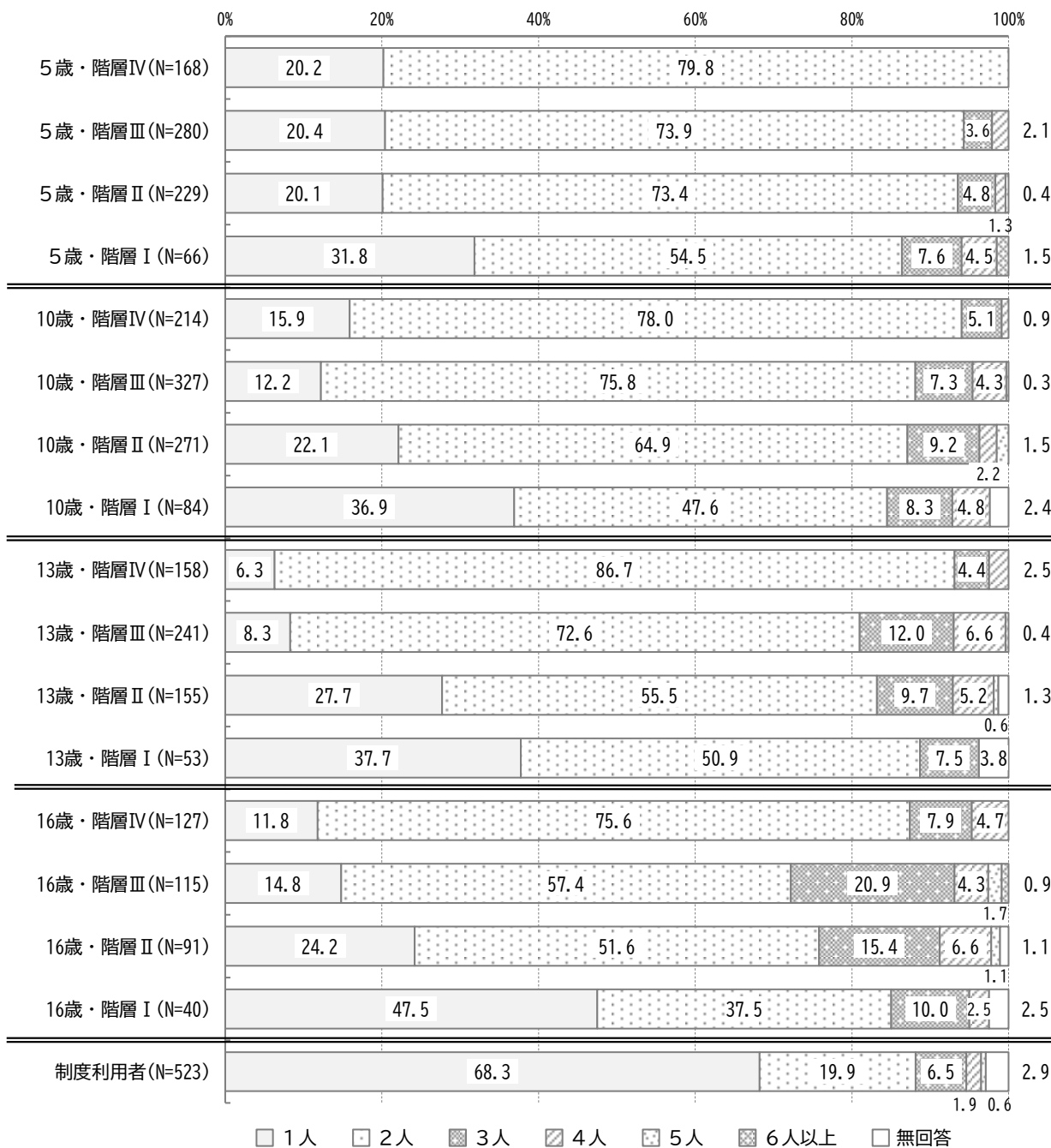
問13 あなたの世帯の昨年1年間（令和6年1月1日～12月31日の期間）の手取り収入（可処分所得）はおおよそどのくらいでしたか。（あてはまるもの1つ）

どの年齢も、階層IVでは「1,000万円以上」が最も多くなっています。制度利用者は「200～250万円」が中心となっています。



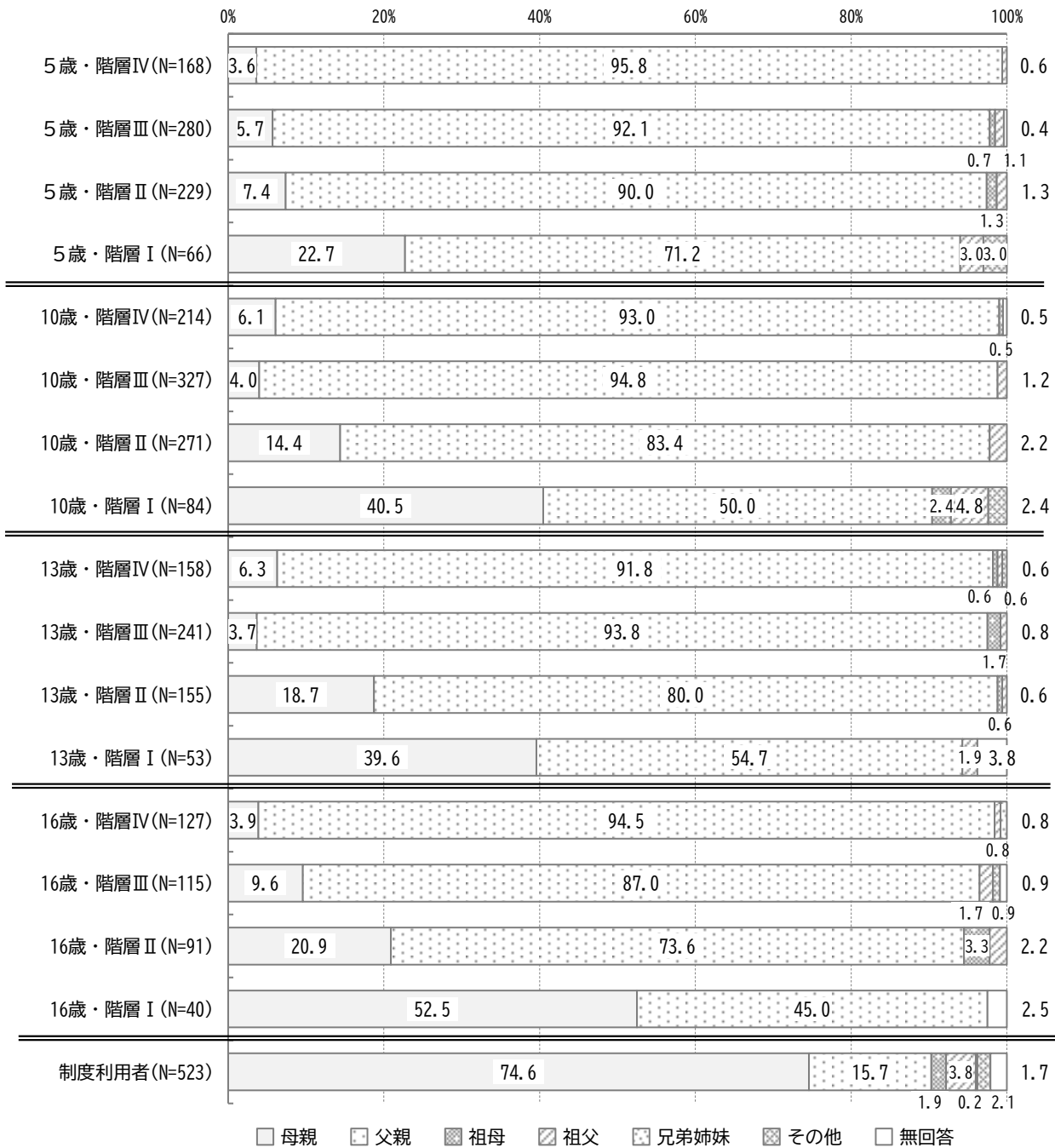
問 14-1 あなたの世帯で収入のある方的人数を教えてください。

各年齢・階層において、「2人」が多く、制度利用者は「1人」が多くなっています。



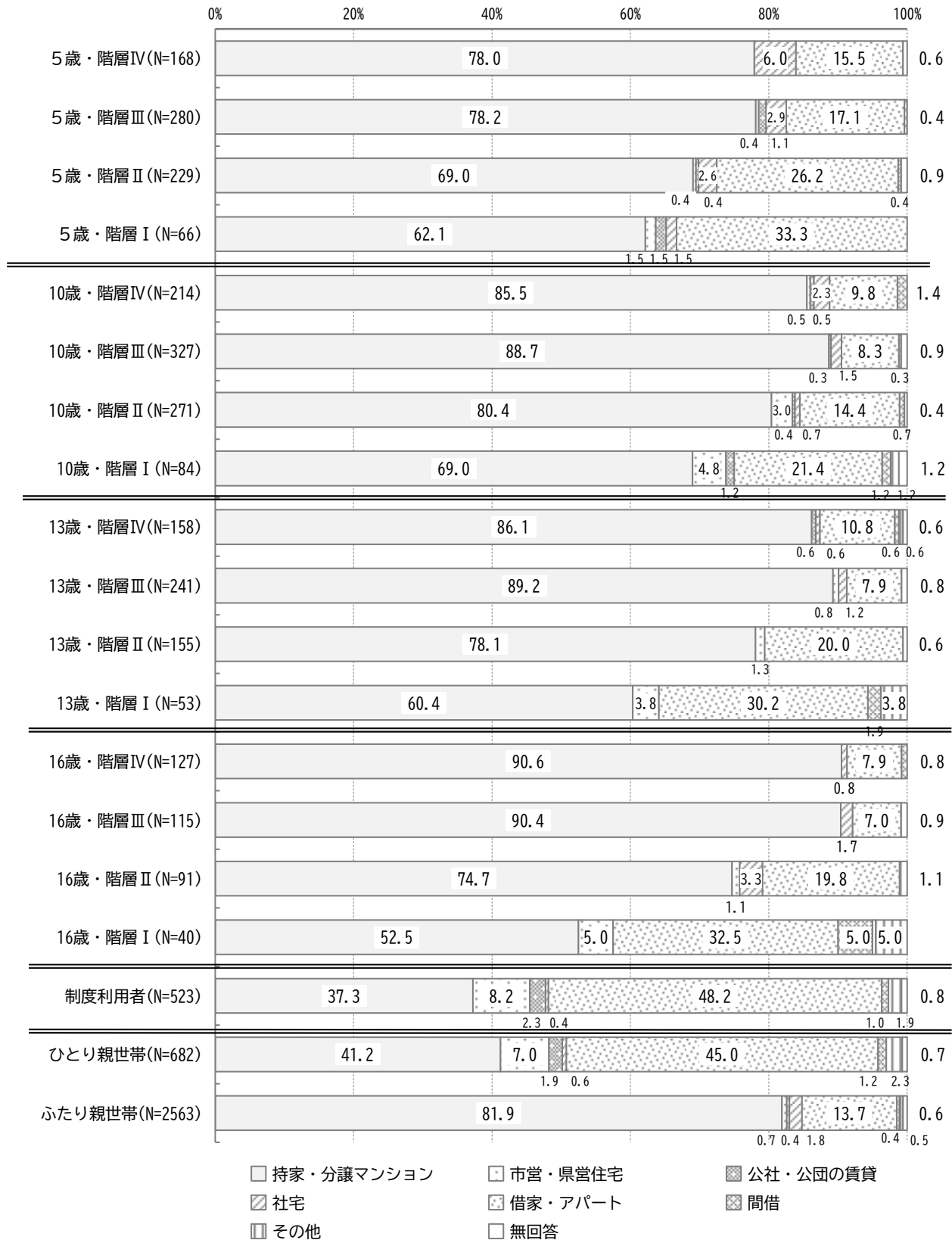
問 14-2 あなたの世帯の世帯主（家計の主たる収入を得ている人）はどなたですか。お子さんからみた続柄で教えてください。（あてはまるもの1つ）

各年齢において、階層が上がるにつれて「父親」が高く、「母親」が低くなる傾向がみられます。制度利用者では「母親」が最も高くなっています。



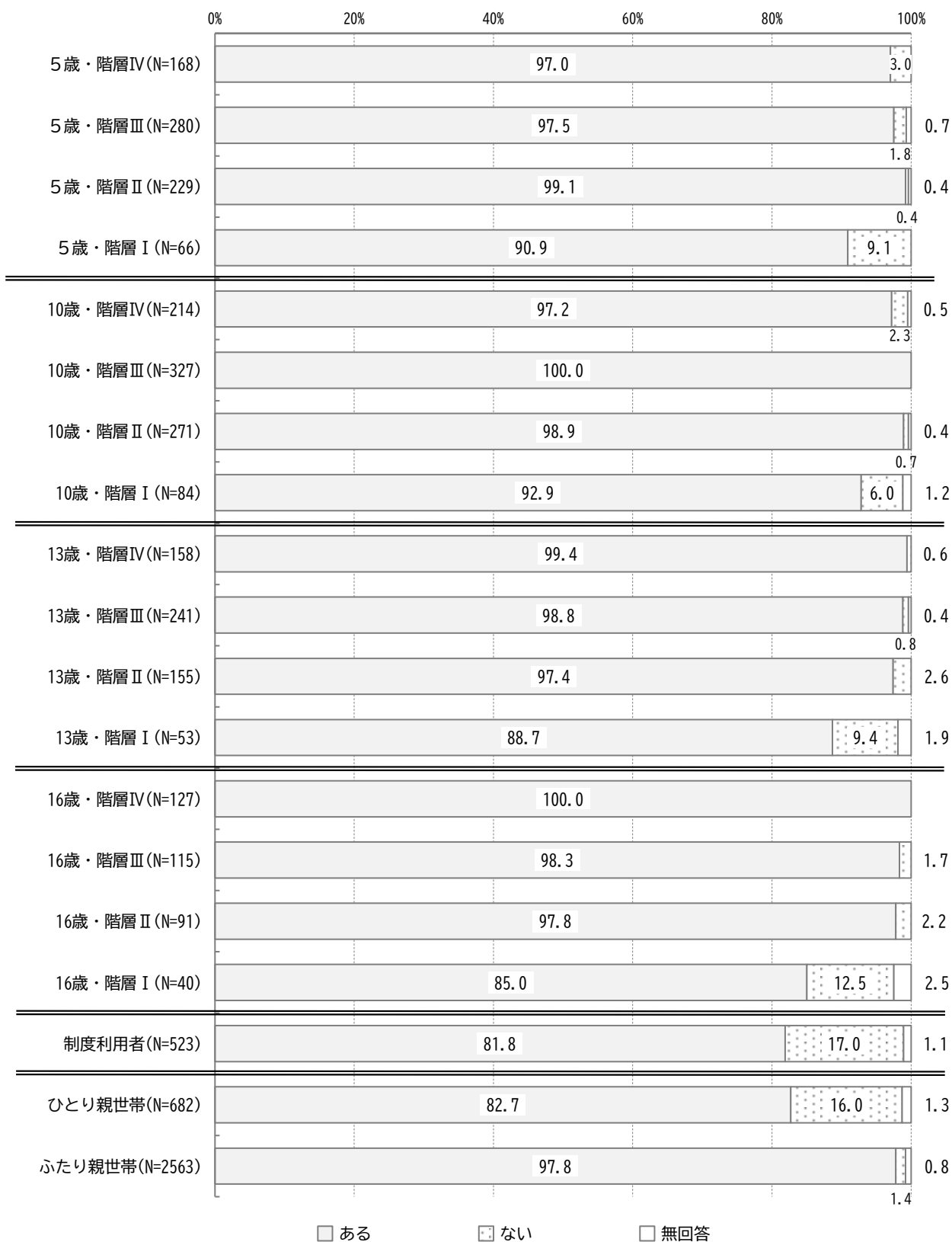
問 15 現在の住居の状況を教えてください。(あてはまるもの1つ)

各年齢・階層において「持家・分譲マンション」が最も多く、階層が低くなるにつれて「借家・アパート」が多くなっています。制度利用者、ひとり親世帯では「借家・アパート」が5割程度となっています。



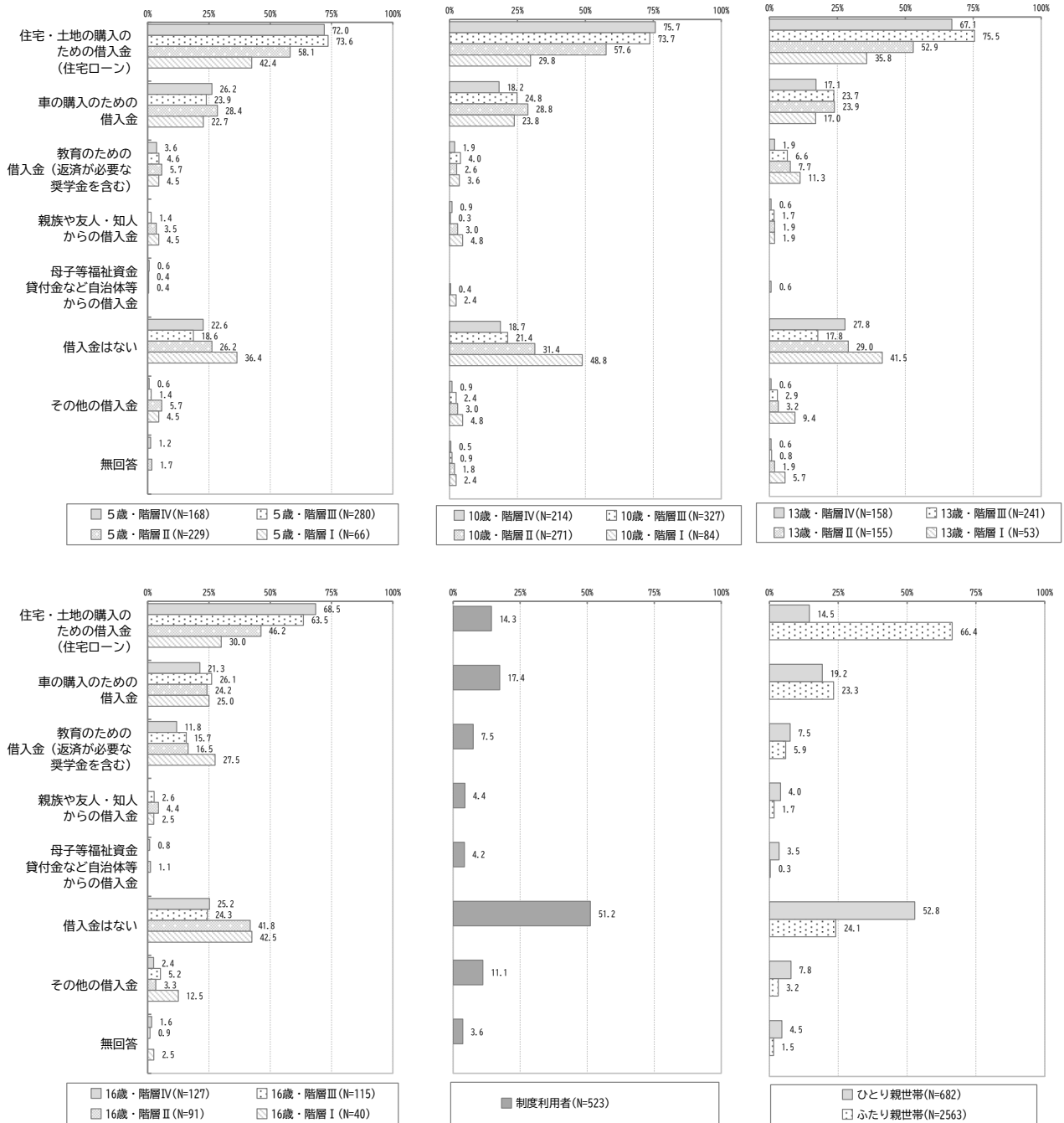
問 16 あなたの世帯には自家用車がありますか。(どちらか1つ)

各年齢・階層において9割程度の人が所有しています。制度利用者、ひとり親世帯においては、「ない」が2割弱となっています。



問 17 あなたの世帯では、次のような借入金はありますか。(あてはまるものすべて)

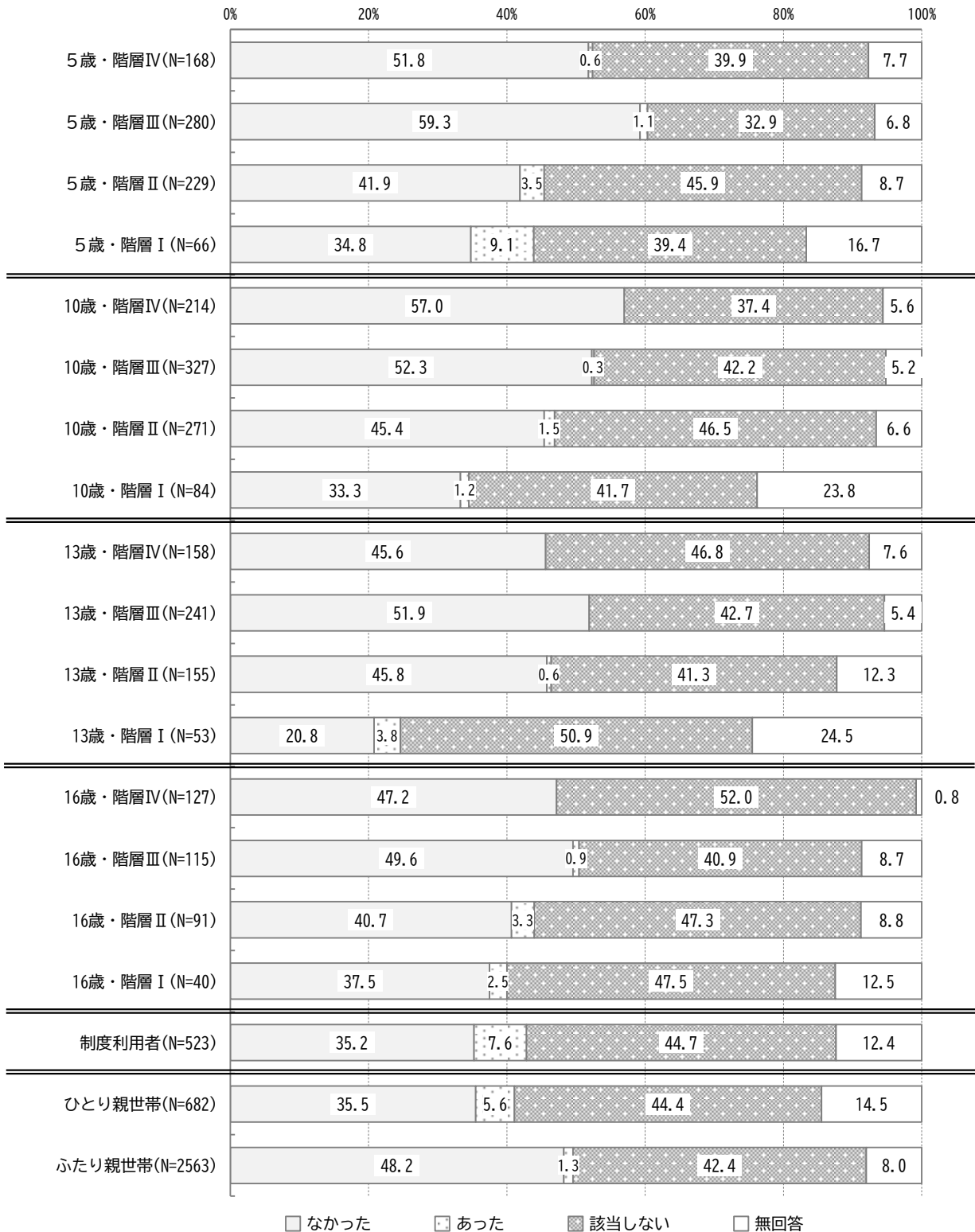
各年齢・階層において、概ね、「住宅・土地の購入のための借入金（住宅ローン）」が最も多くなっています。制度利用者は「借入金はない」が最も多くなっています。



問 18-1 あなたの世帯では、過去1年間に、経済的な理由で家賃・住宅ローンの滞納、各種料金の未払い、債務の返済ができないことがありましたか。  
 (①～④のそれぞれについて、あてはまるもの1つ)

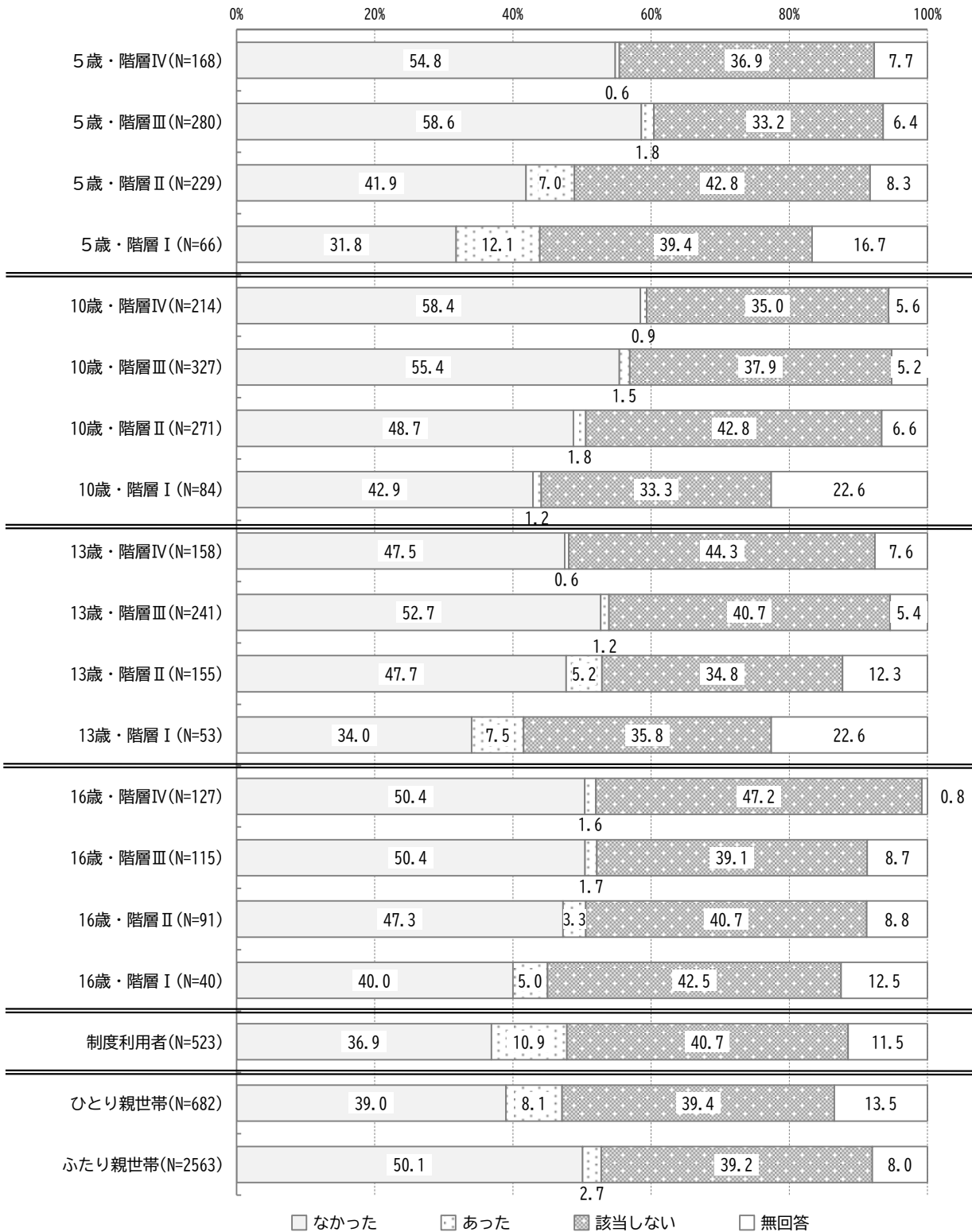
【問 18-1-① 家賃・住宅ローンの滞納】

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「あった」が多くなる傾向にあります。



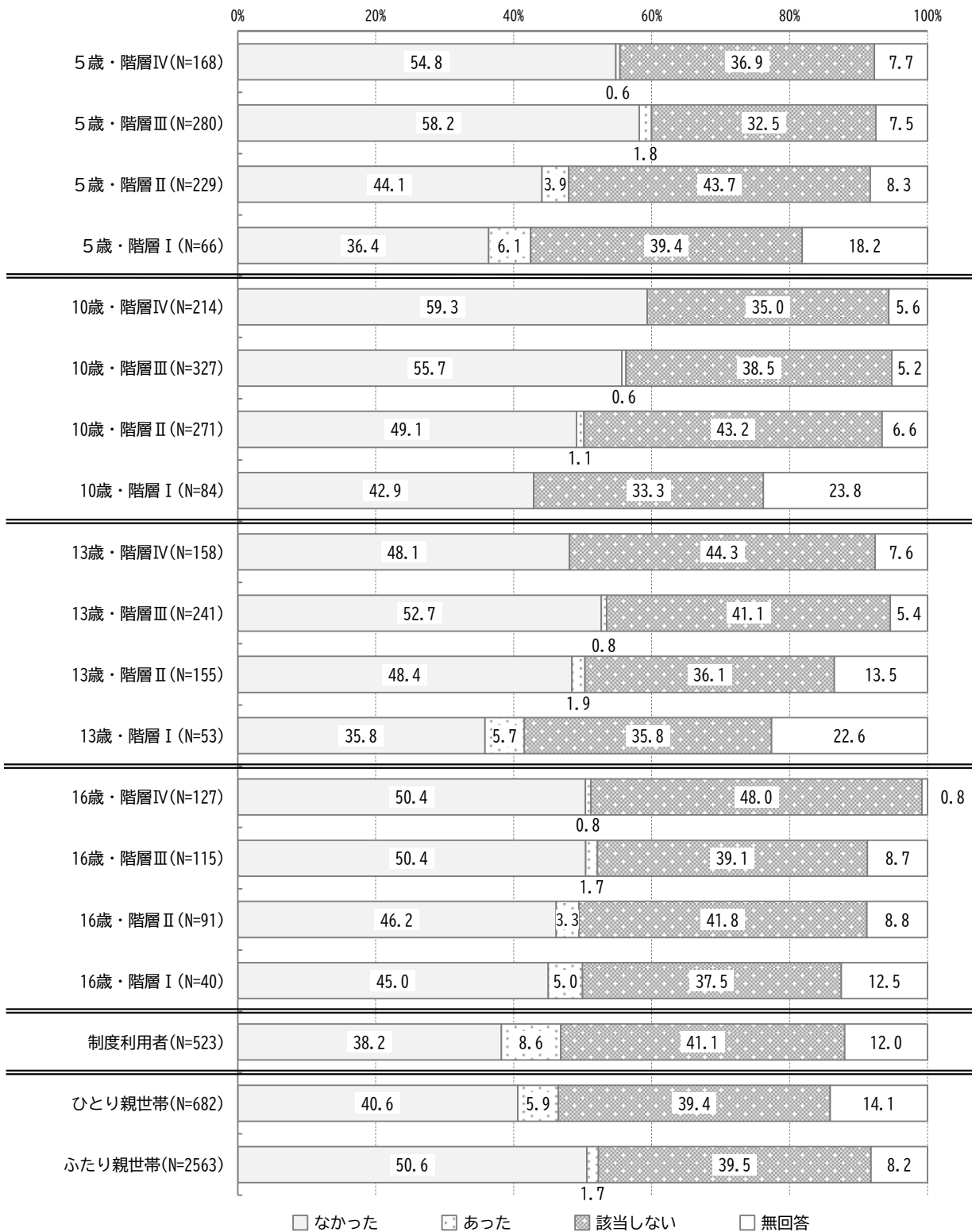
【問 18-1-② 電気料金・ガス料金・水道料金の未払い】

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「あった」が多くなる傾向にあります。



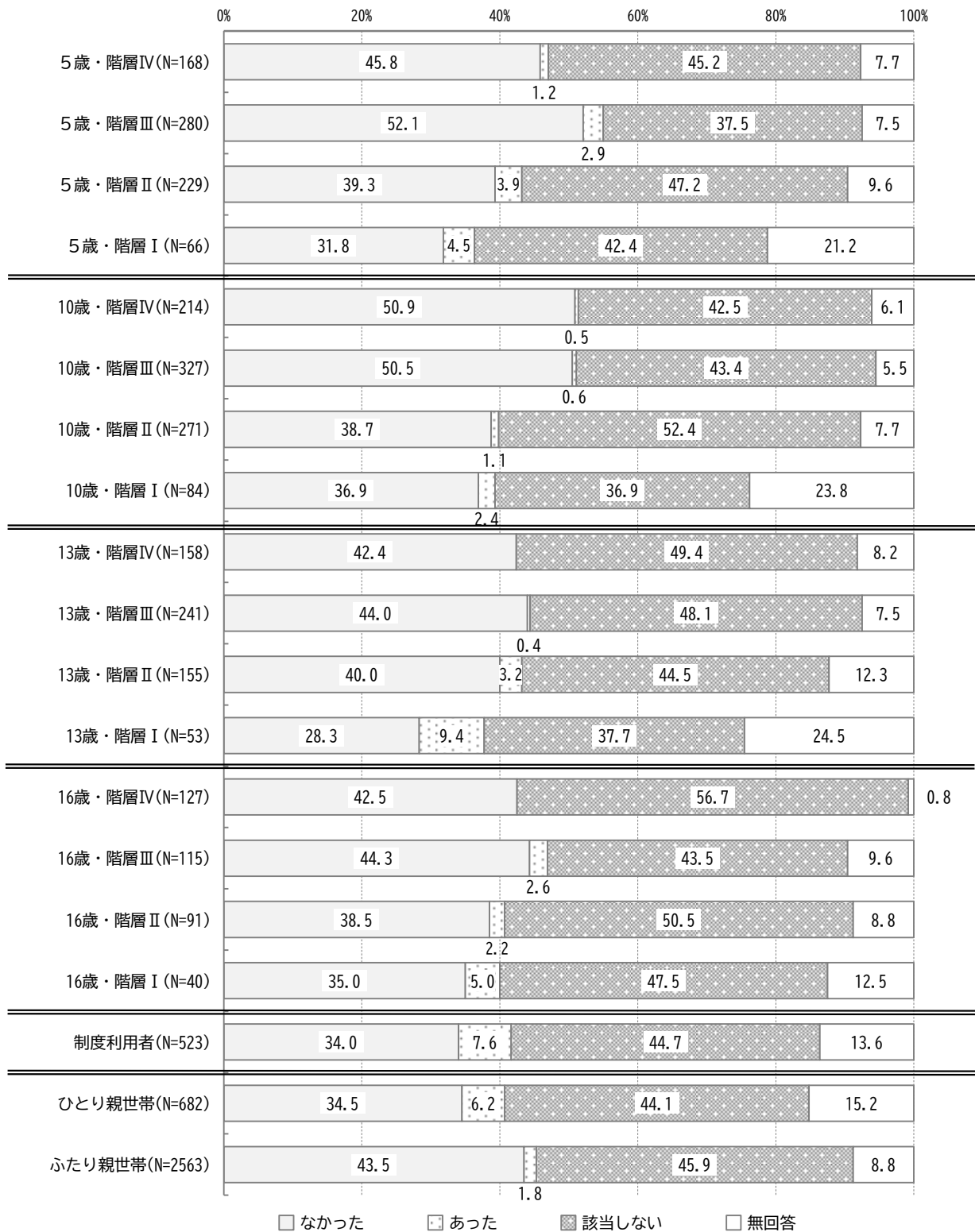
【問 18-1-③ 電話料金の未払い】

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「あった」が多くなる傾向にあります。



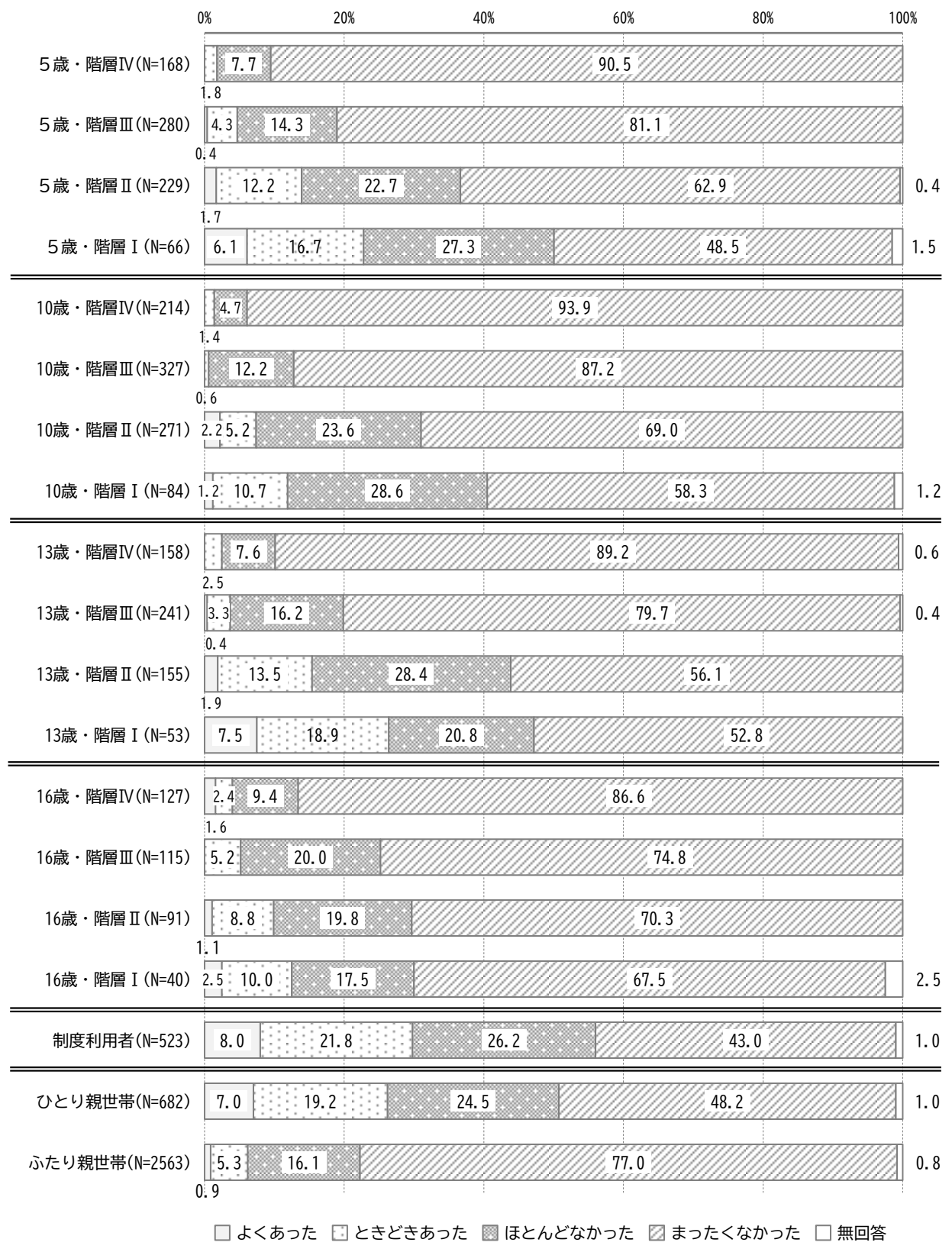
【問 18-1-④ その他の債務不履行】

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「あった」が多くなる傾向にあります。



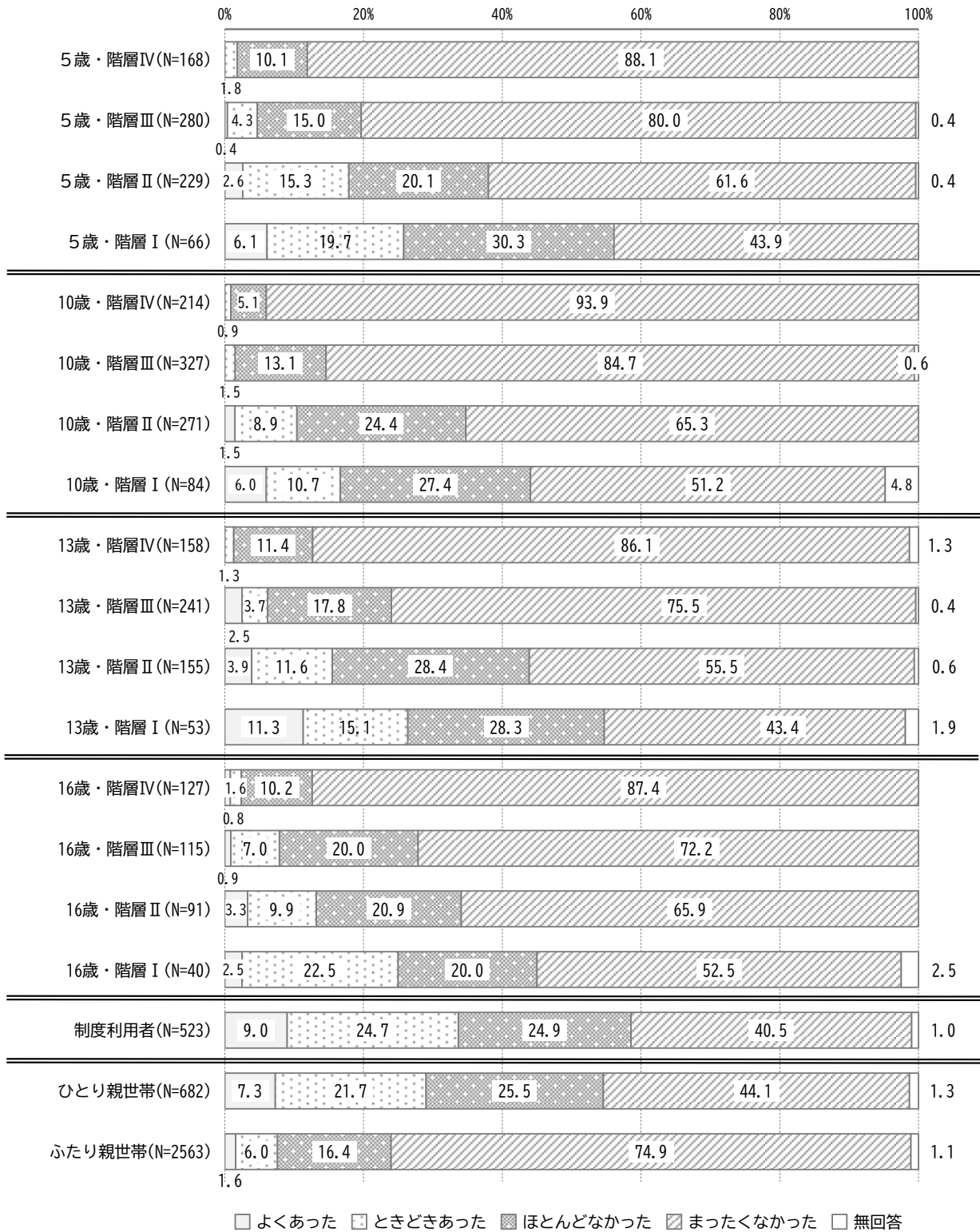
問 18-2 あなたの世帯では、過去1年間に、お金が足りなくて、必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(あてはまるもの1つ)

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「よくあった」「ときどきあった」が多くなる傾向にあります。



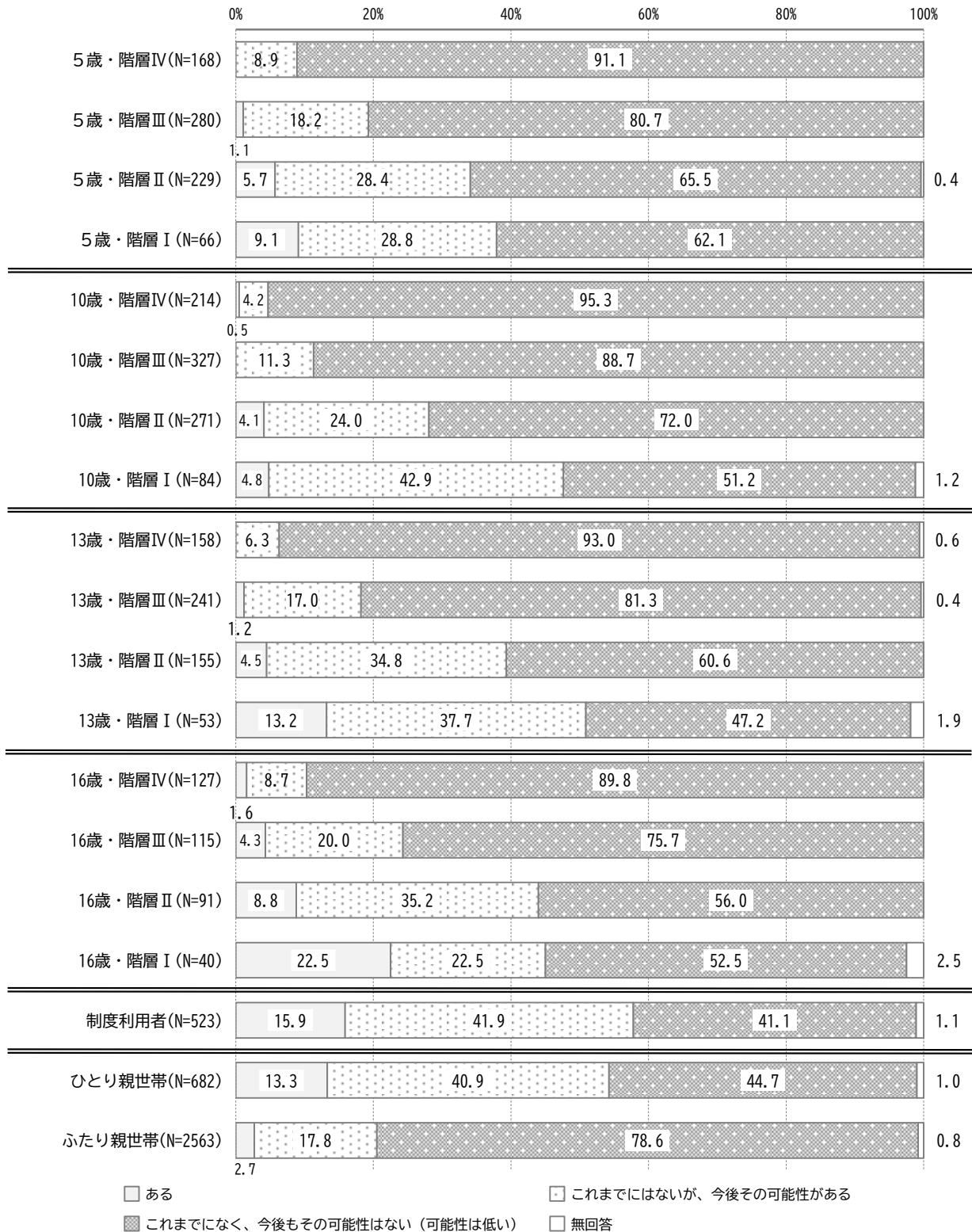
問 18-3 あなたの世帯では、過去1年間に、お金が足りなくて、必要とする衣料が買えないことがありましたか。(あてはまるもの1つ)

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「よくあった」「ときどきあった」が多くなる傾向にあります。



問 18-4 あなたの世帯では、過去1年間に、お金が足りなくて、お子さんが必要とする文具や教材が買えないこと、学校に係る経費の支払いに苦慮したことがありますか。  
(あてはまるもの1つ)

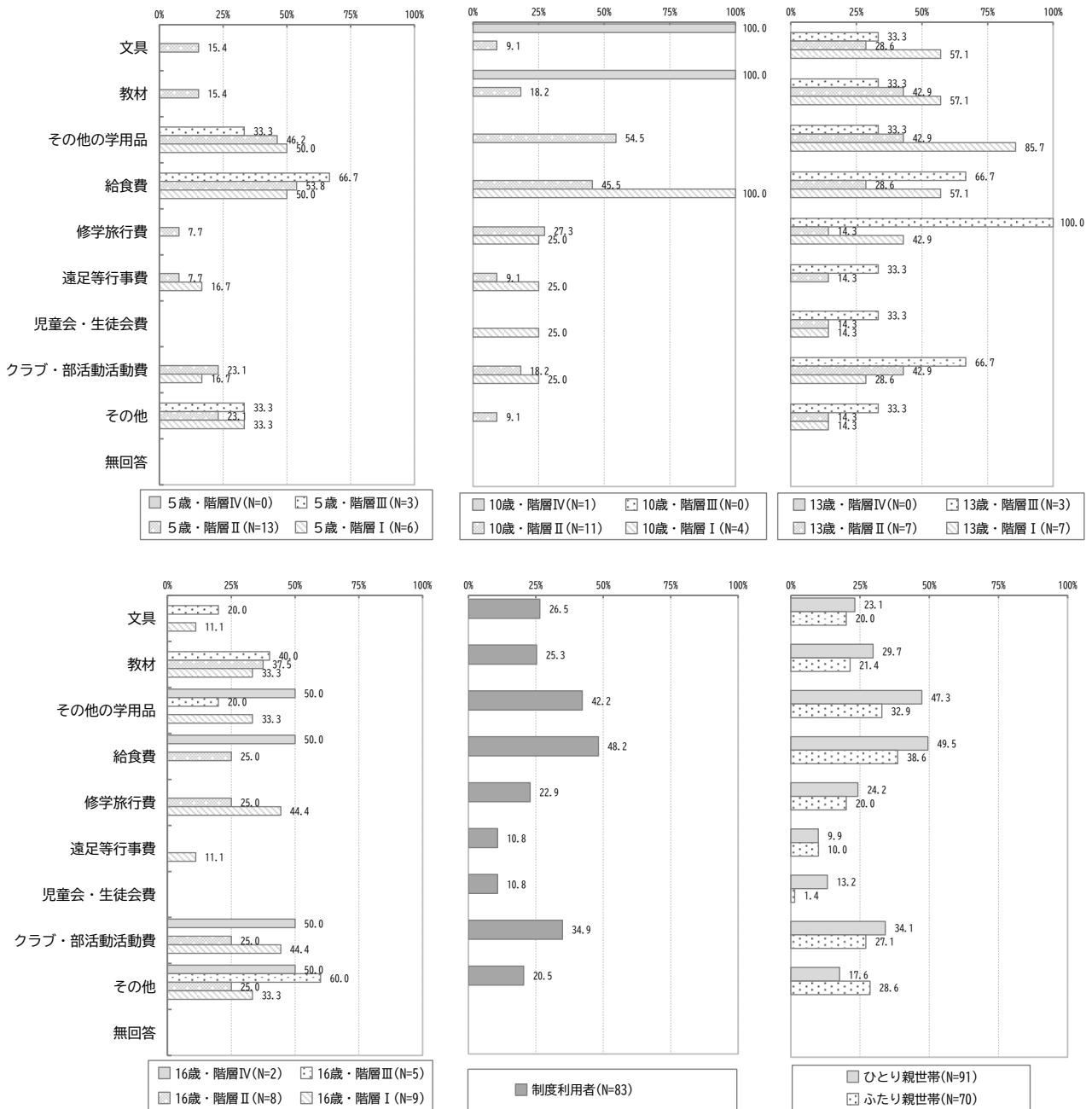
いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「ある」「これまでにはないが、今後その可能性がある」が多くなる傾向にあります。



問 18-4 で「1. ある」と回答した方にうかがいます。

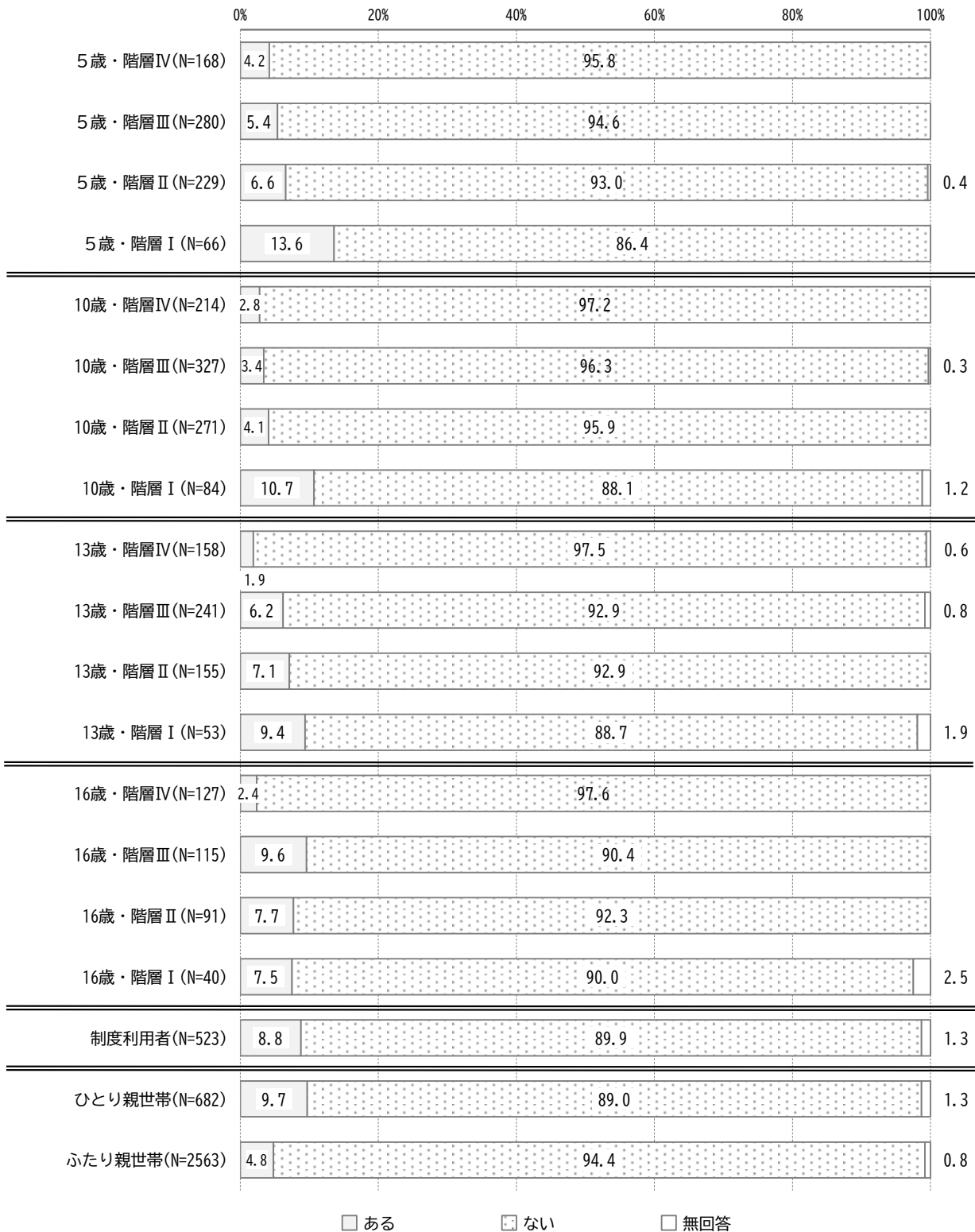
問 18-5 買えなかったもの、支払いに苦慮したものはなんですか。(あてはまるものすべて)

(回答者数が少ないため参考値)



問 18-6 あなたの世帯では、過去1年間に、お子さんについて病気やけがの治療のために病院や診療所を受診した方が良かったのに、実際には受診しなかったことがありますか。  
(どちらか1つ)

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「ある」が多くなる傾向にあります。

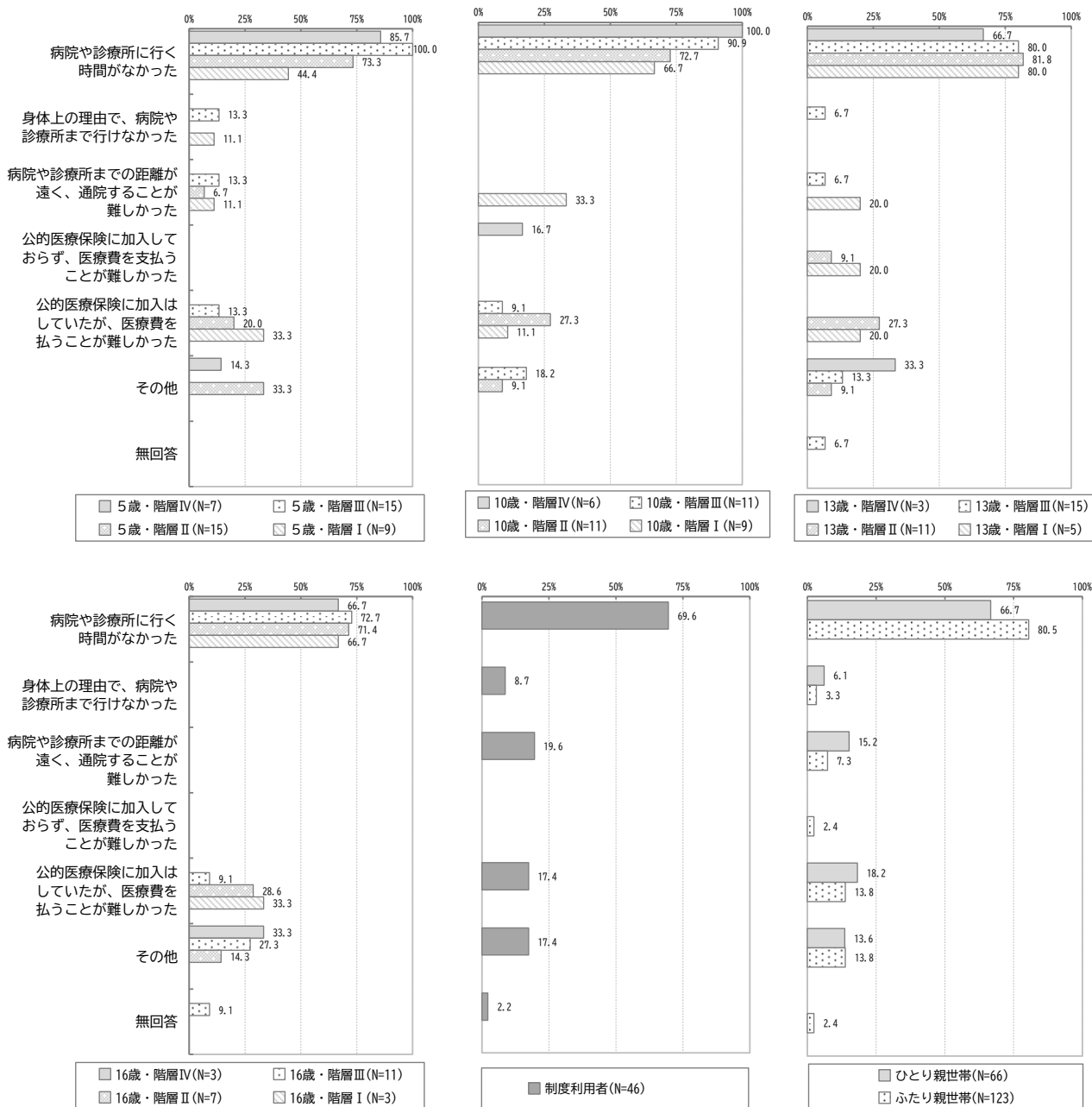


問 18-6 で「1. ある」と回答した方にうかがいます。

問 18-7 その理由はなんですか。(あてはまるものすべて)

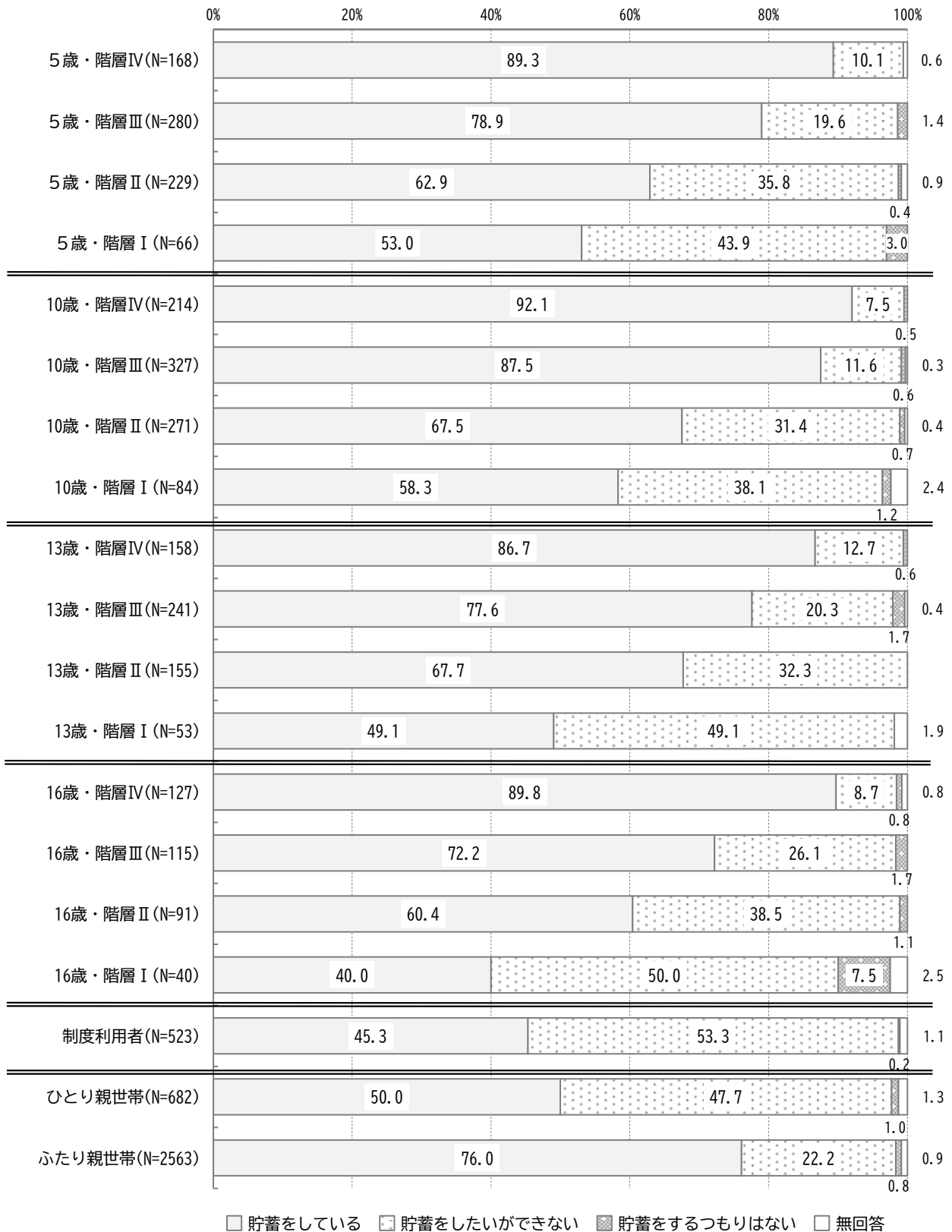
(回答者数が少ないため参考値)

各年齢・階層、制度利用者において「病院や診療所に行く時間がなかった」が多くなっています。



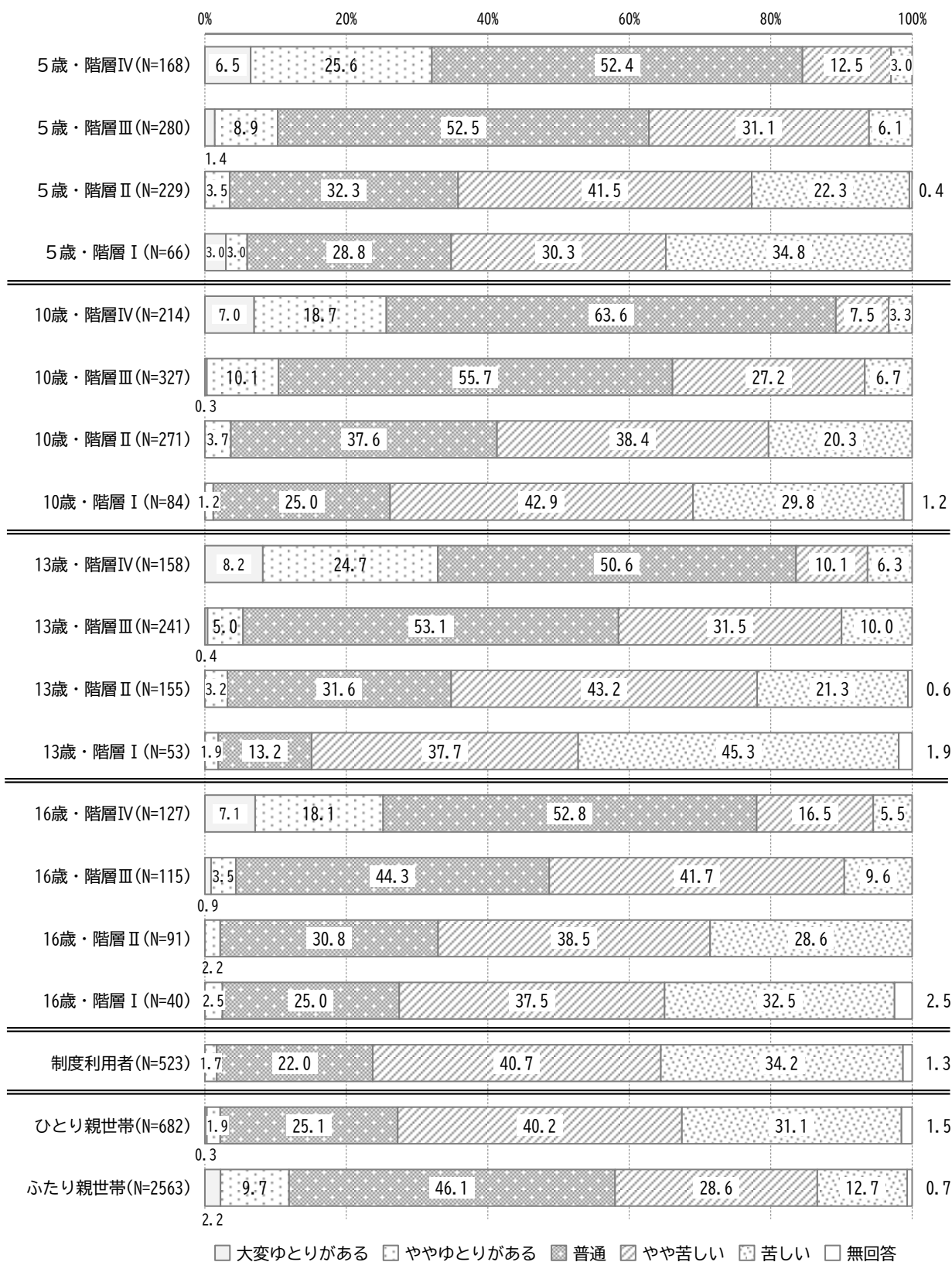
問 19 お子さんの将来のために貯蓄（学資保険等を含む）をしていますか。（あてはまるもの1つ）

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「貯蓄をしたいができない」が多くなる傾向にあります。



問 20 現在の暮らしの経済状況について、どう感じていますか。(あてはまるもの1つ)

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「やや苦しい」「苦しい」が多くなる傾向にあります。制度利用者とひとり親世帯では「やや苦しい」「苦しい」の合計が7割を超えています。

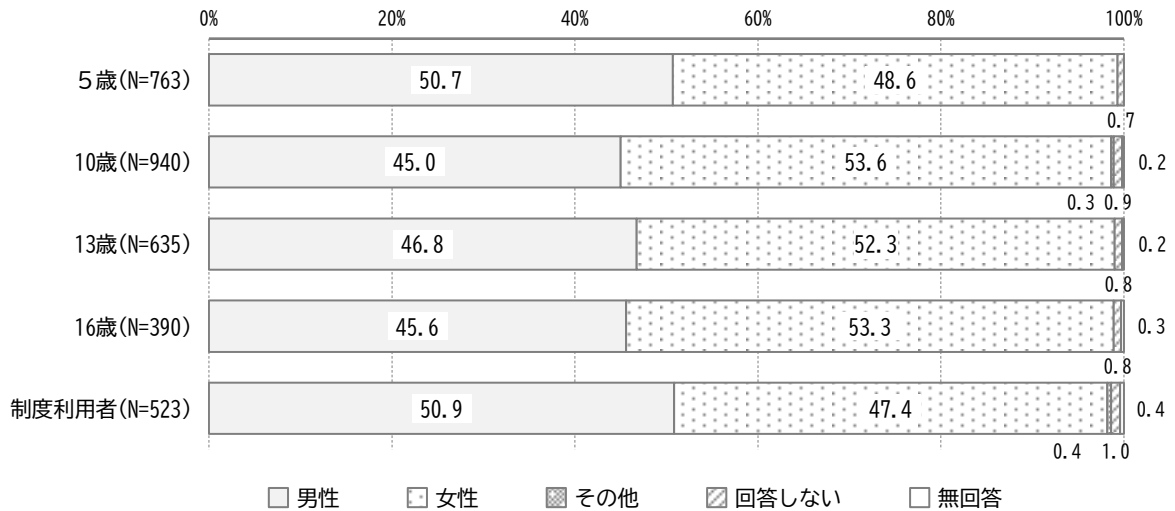


## 4. こどものこと

問 21 お子さんのことについて、以下の①～⑥の点について教えてください。  
 (①～③および⑤・⑥はあてはまるもの1つ、④はあてはまるものすべて)

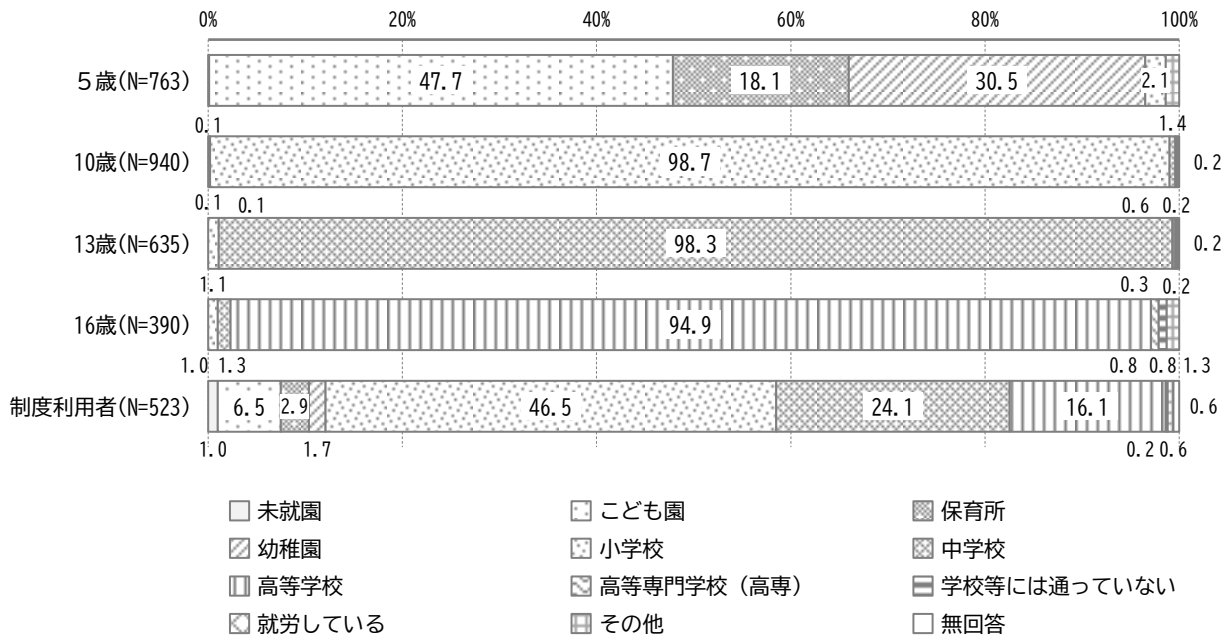
### 【問 21-① 性別】

各年齢、制度利用者とも、「男性」「女性」が半々となっています。



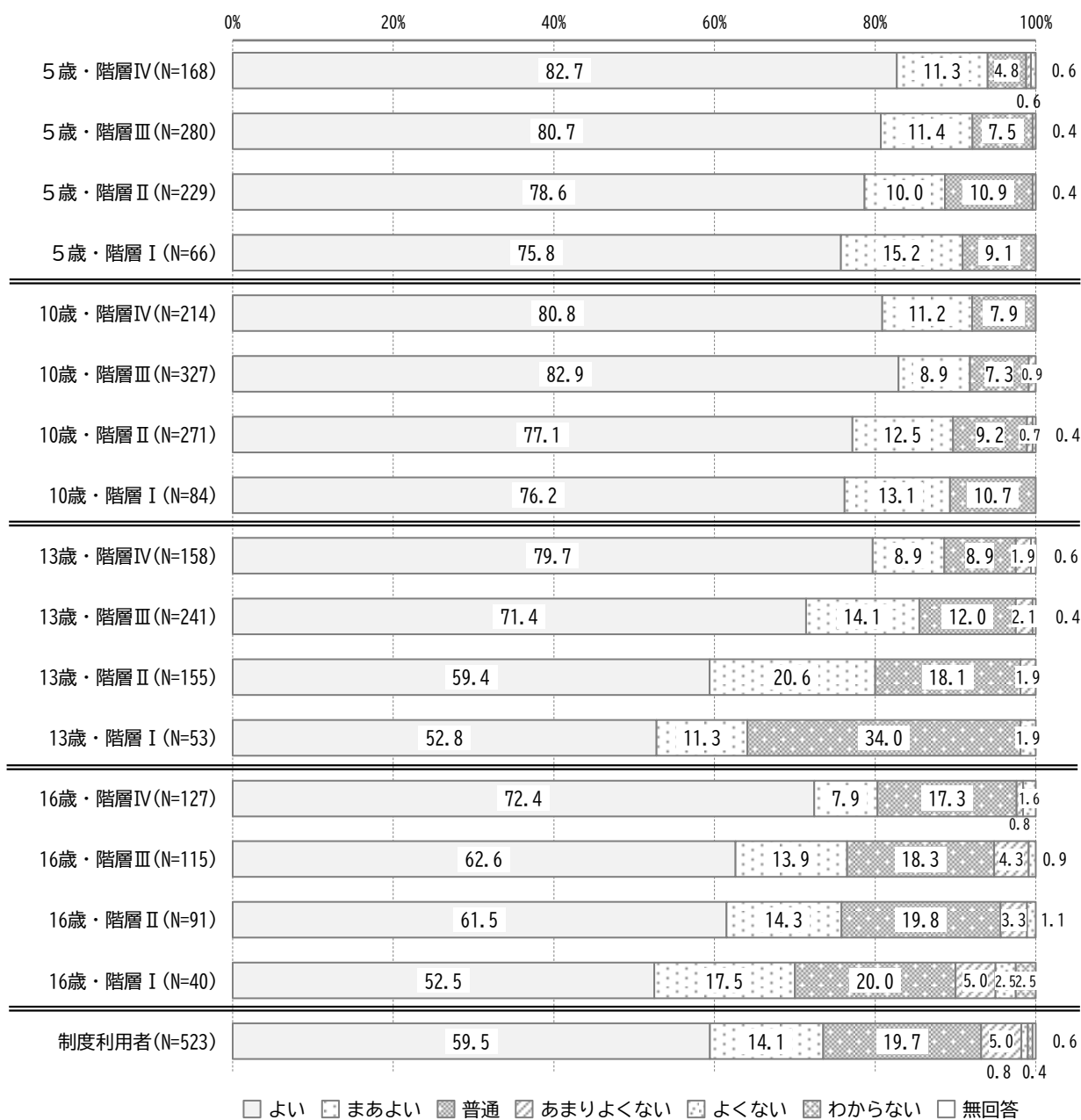
### 【問 21-② 学校等の在籍状況】

5歳は「こども園」、10歳は「小学校」、13歳は「中学校」、16歳は「高等学校」が最も多くなっている。制度利用者は「小学校が最も多く、次いで「中学校」となっています。



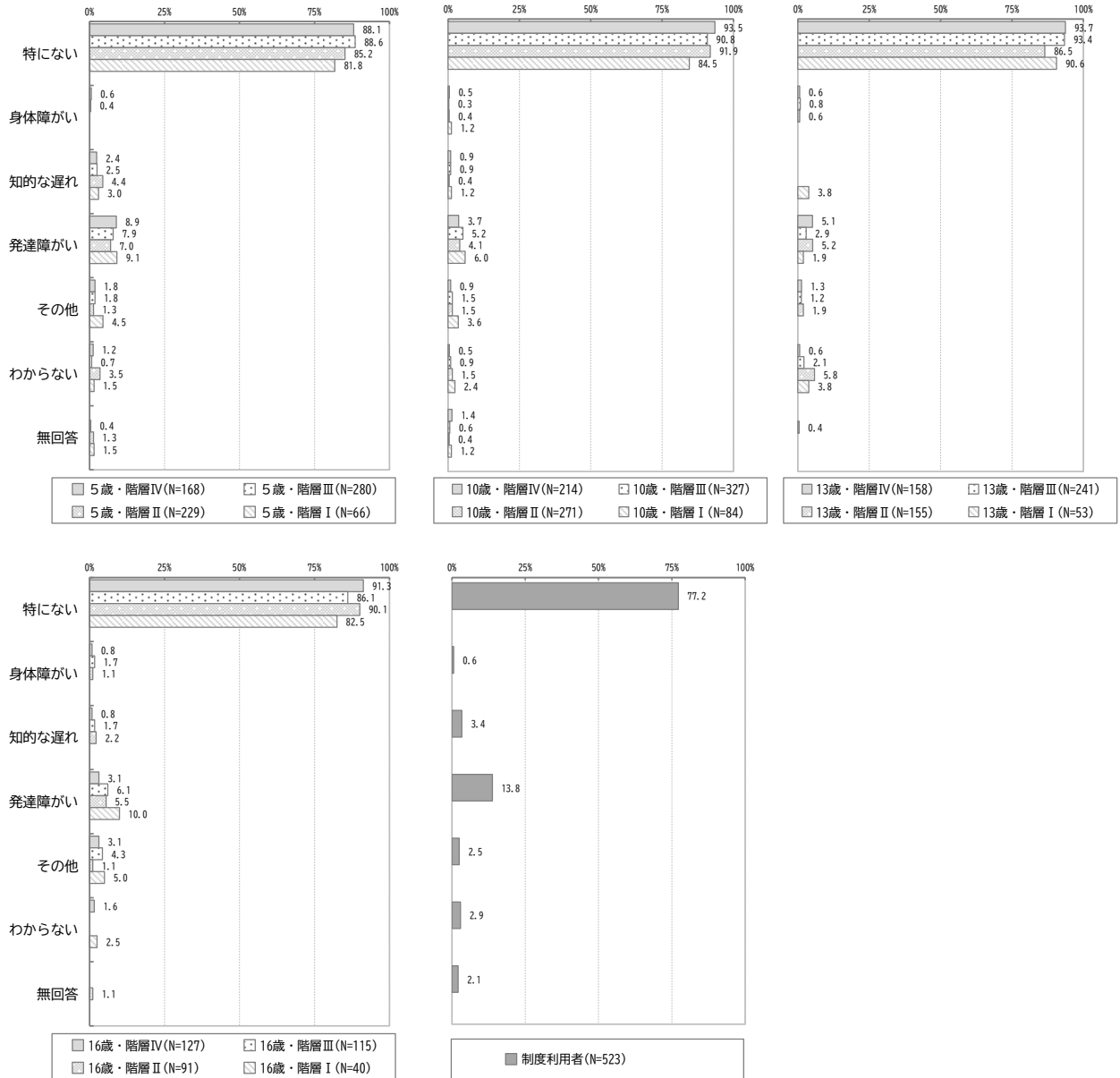
【問 21-③ 健康状態】

16歳では、「あまりよくない」「よくない」が他の年齢に比べ、多くなる傾向にあり、階層が低くなるにつれ、その割合は高くなっています。



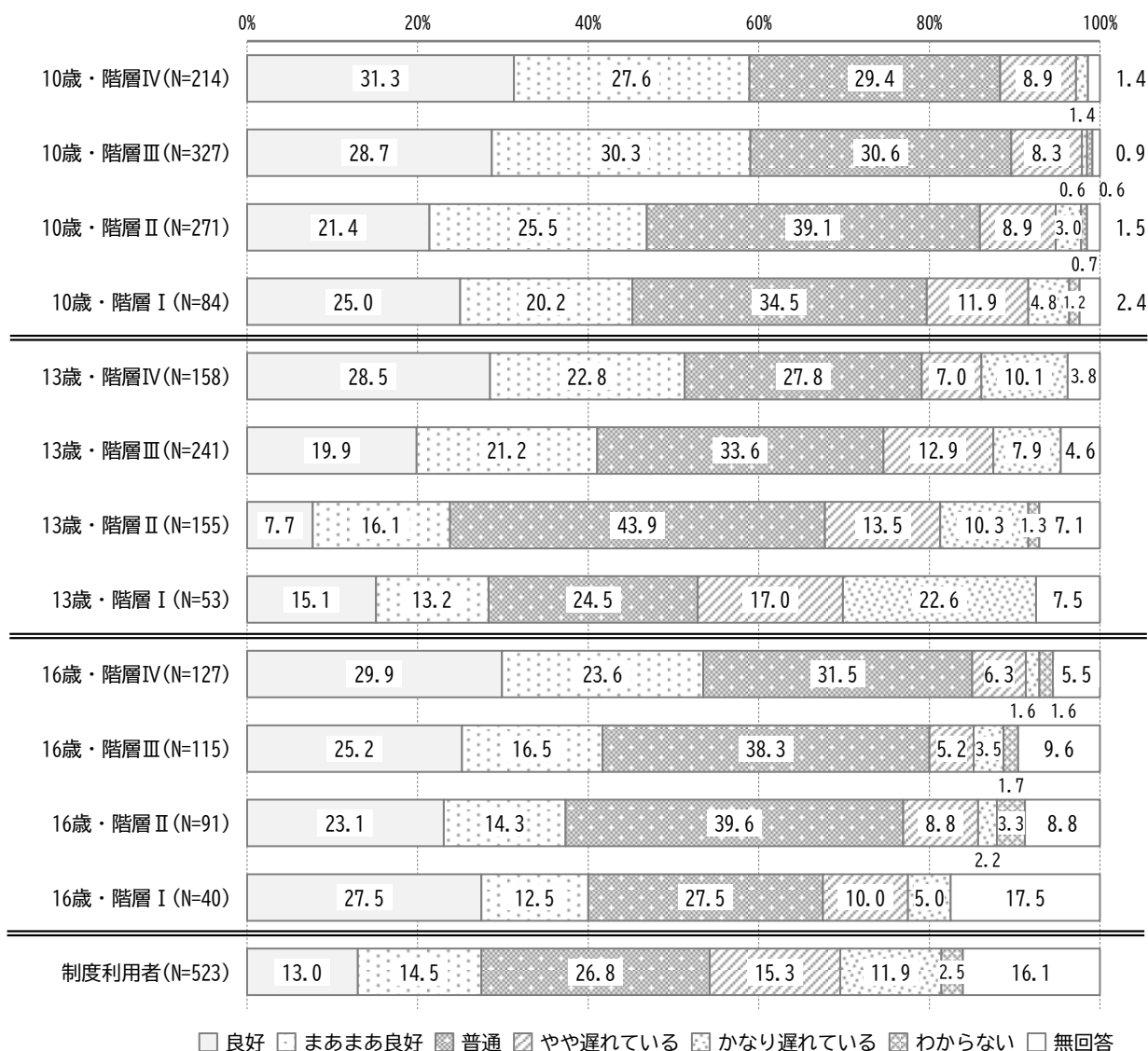
【問 21-④ 障がい等の有無】

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「特にない」が低くなる傾向にあります。

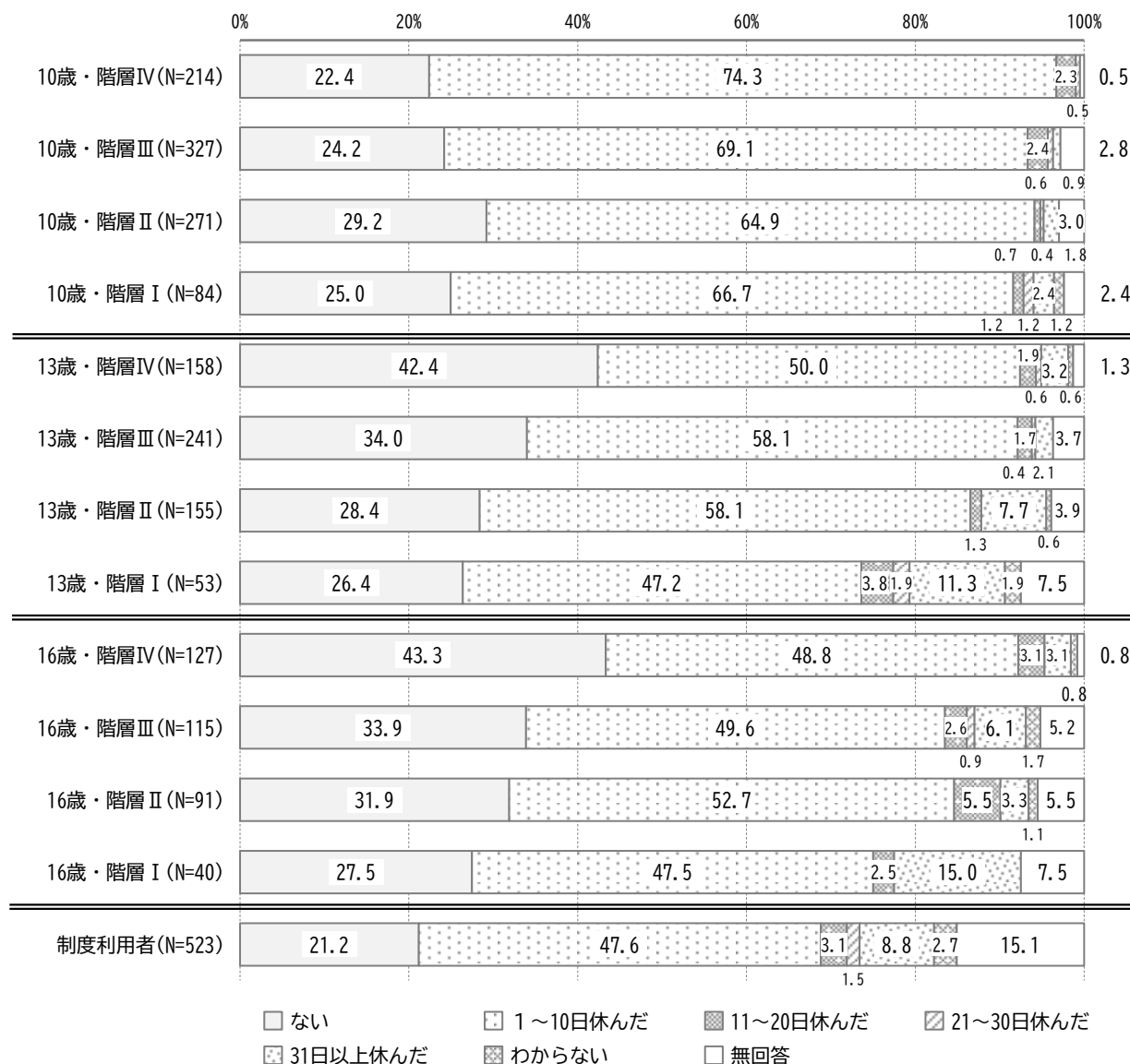


【問 21-⑤ 学校等での勉強全般（小学生以上）】

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「やや遅れている」「かなり遅れている」が多くなる傾向にあります。

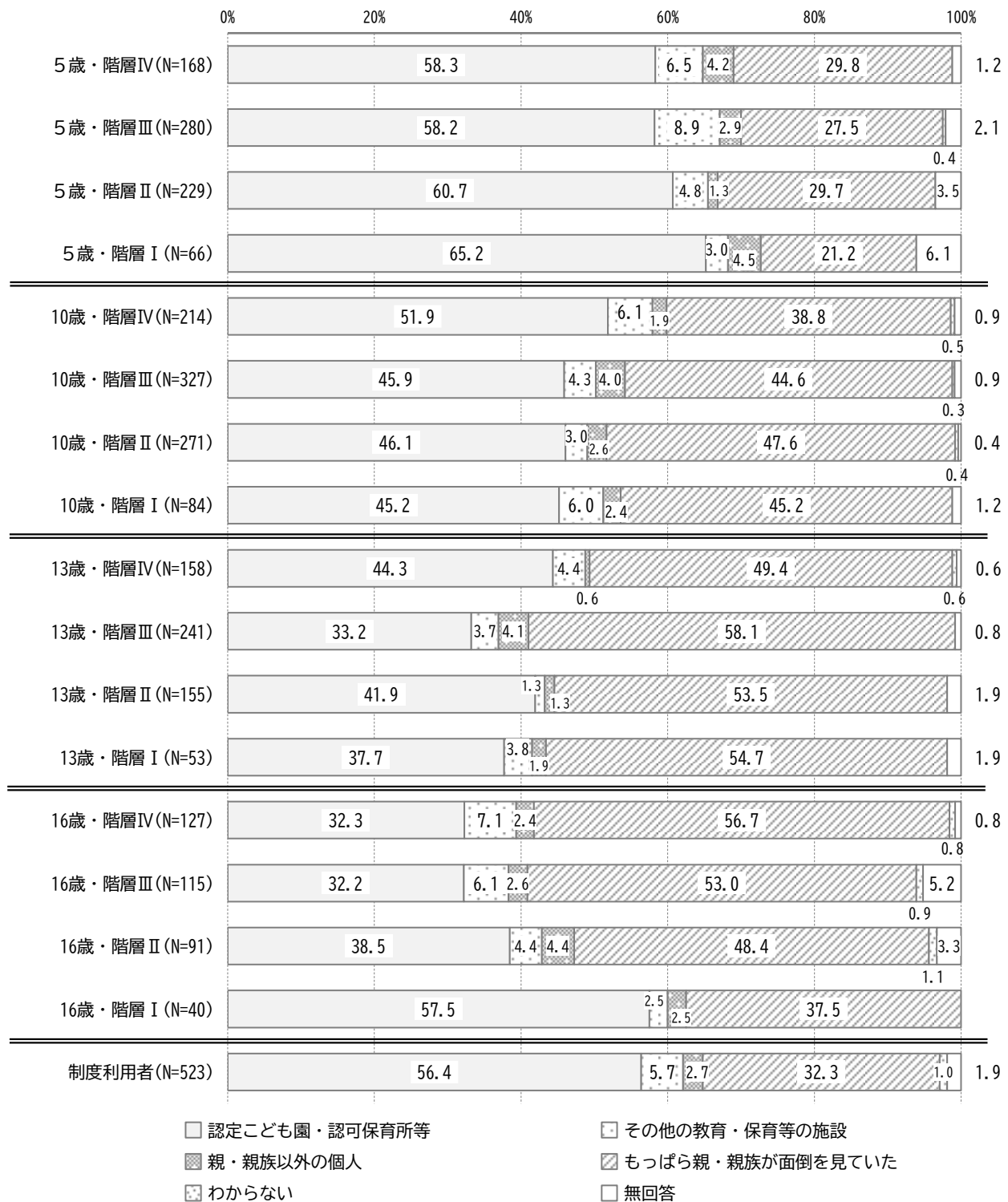


【問21-⑥ 前の学年のときに、夏休みなどの長期休み以外で、学校を休んだ経験の有無（小学生以上）】  
 いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「11～20日休んだ」「21～30日休んだ」「31日以上休んだ」が多くなる傾向にあります。



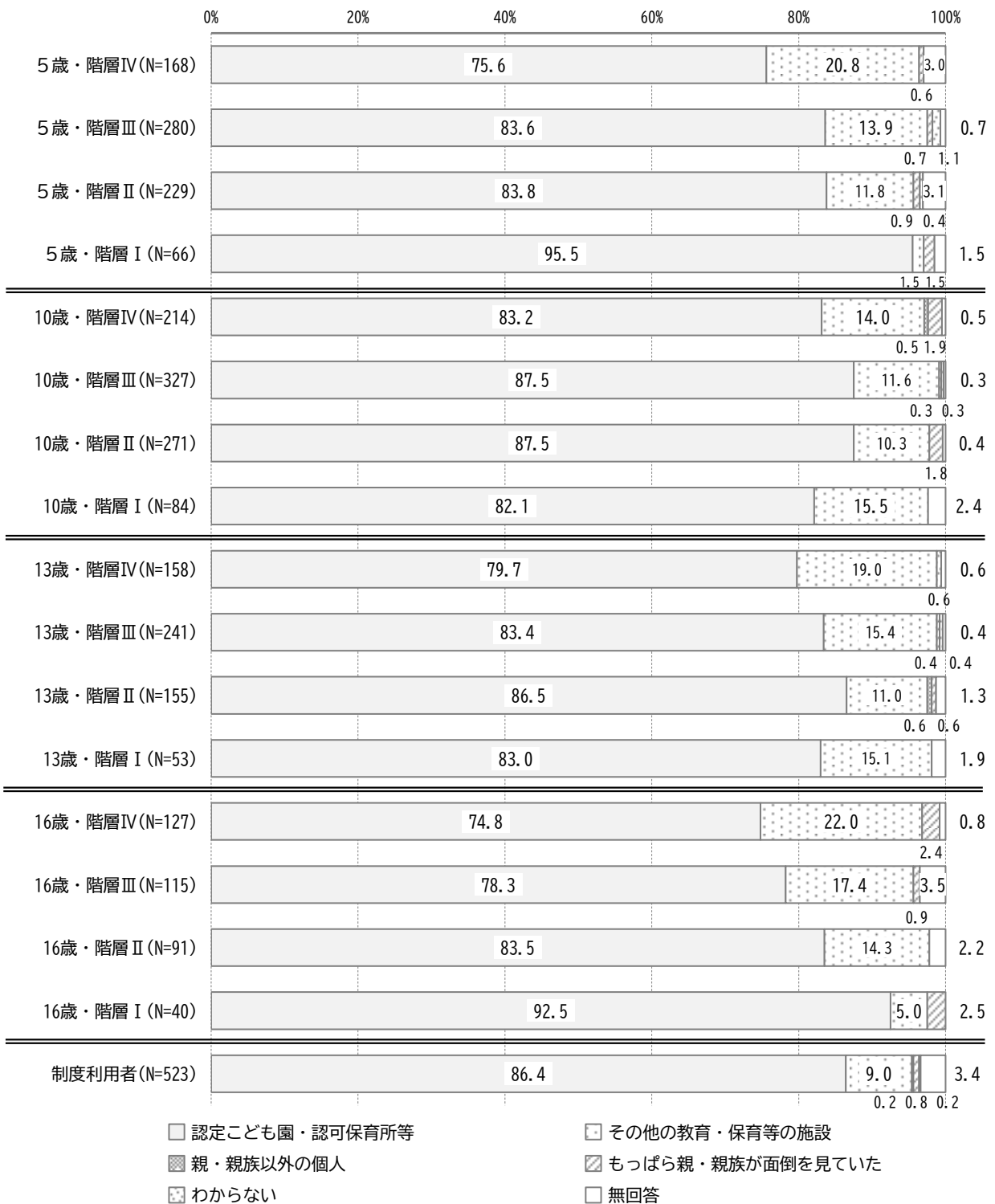
問 22-1 お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設で主なものはどれですか。  
(あてはまるもの1つ)

5歳は、各階層で、「認定子ども園・認可保育所等」が5割を超え、他の年齢に比べて、高くなっています。



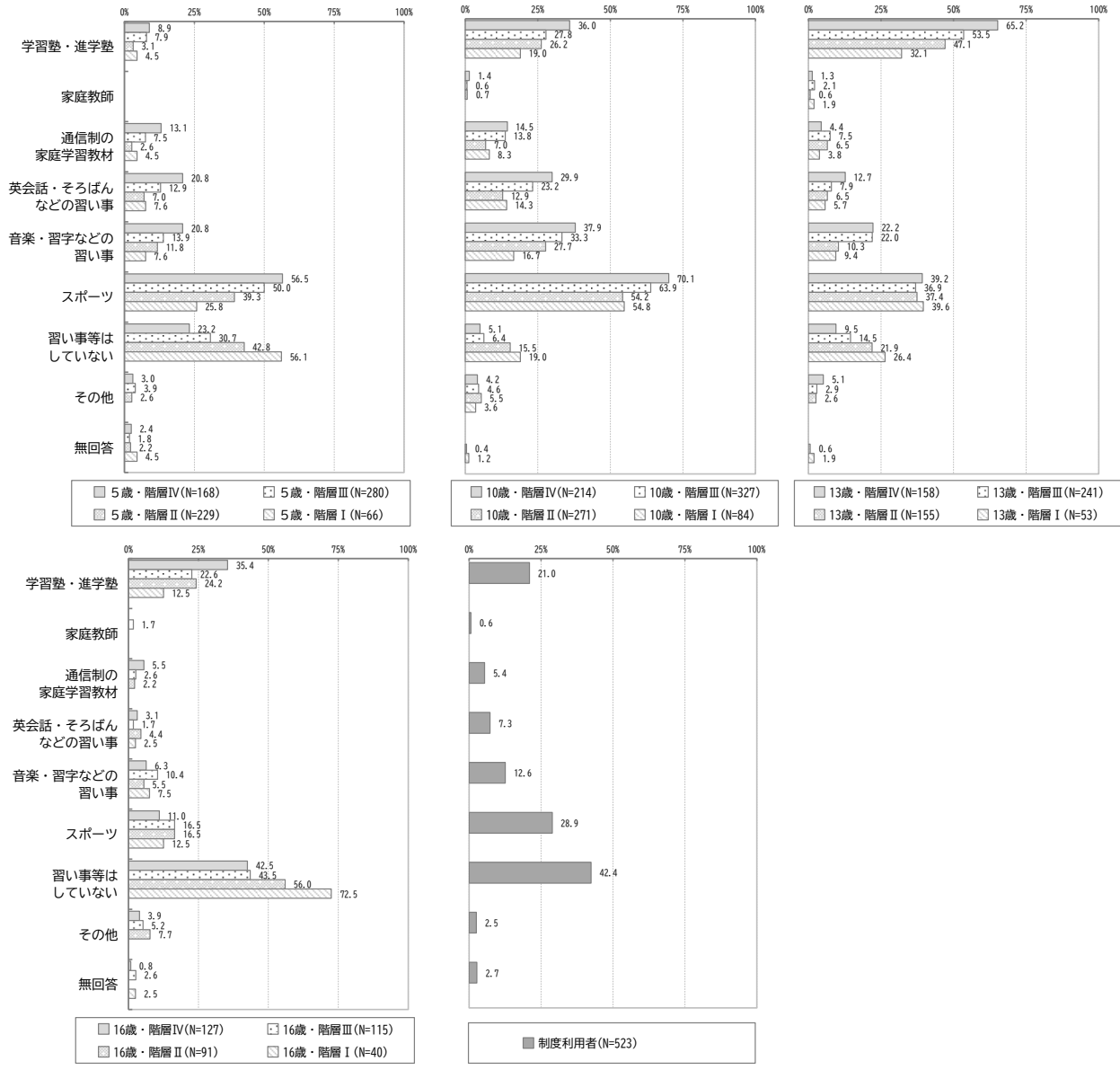
問 22-2 お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設で主なものはどれですか。  
(あてはまるもの1つ)

各年齢・階層による大きな差はみられません。



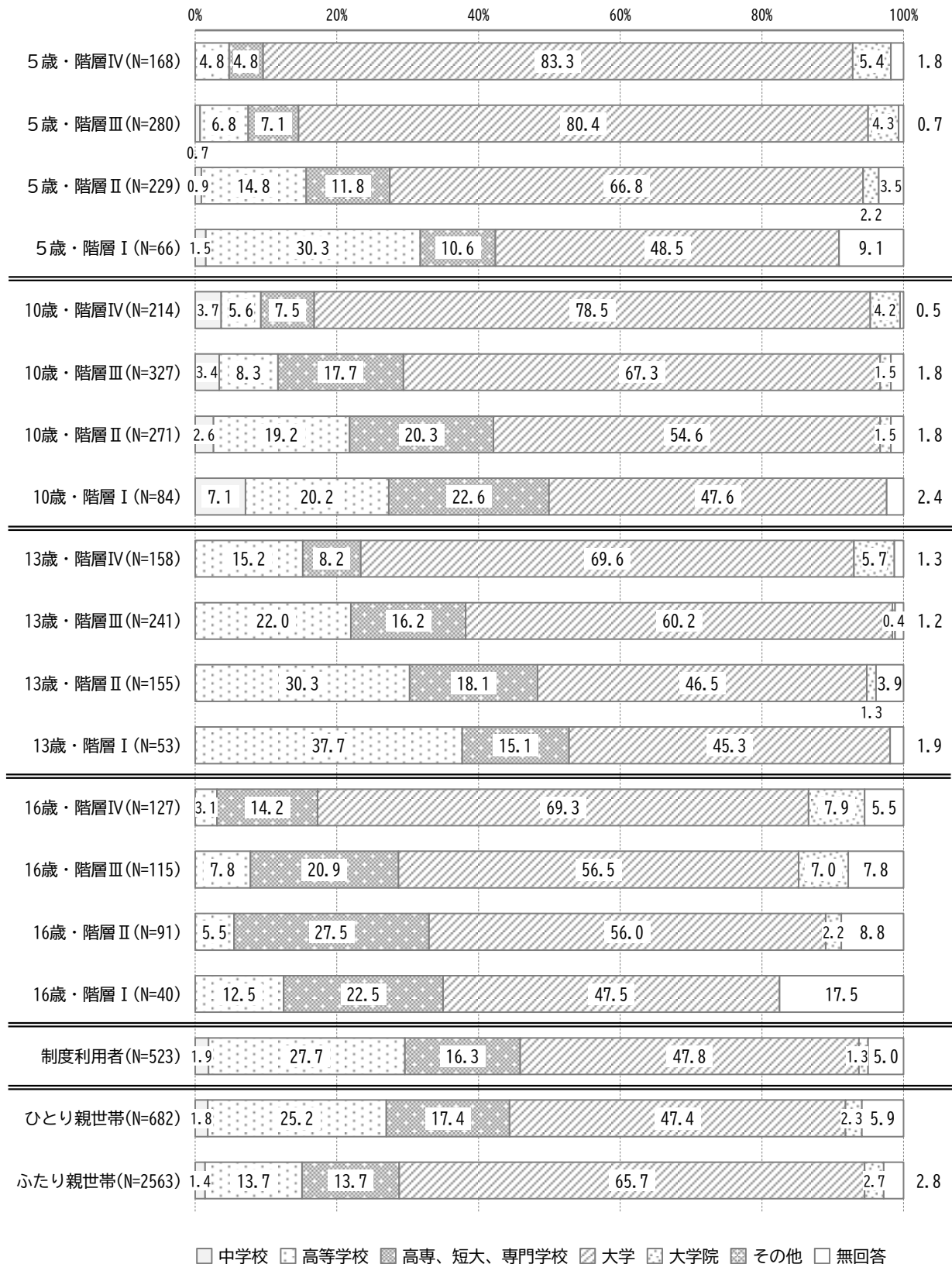
問 23 お子さんは、現在習い事等をしていますか。(あてはまるものすべて)

5歳、10歳は「スポーツ」、13歳は「学習塾・進学塾」、16歳と制度利用者は「習い事等はない」が最も多くなっています。また各年齢ともに階層が低くなるにつれて、「習い事等はない」が多くなっています。



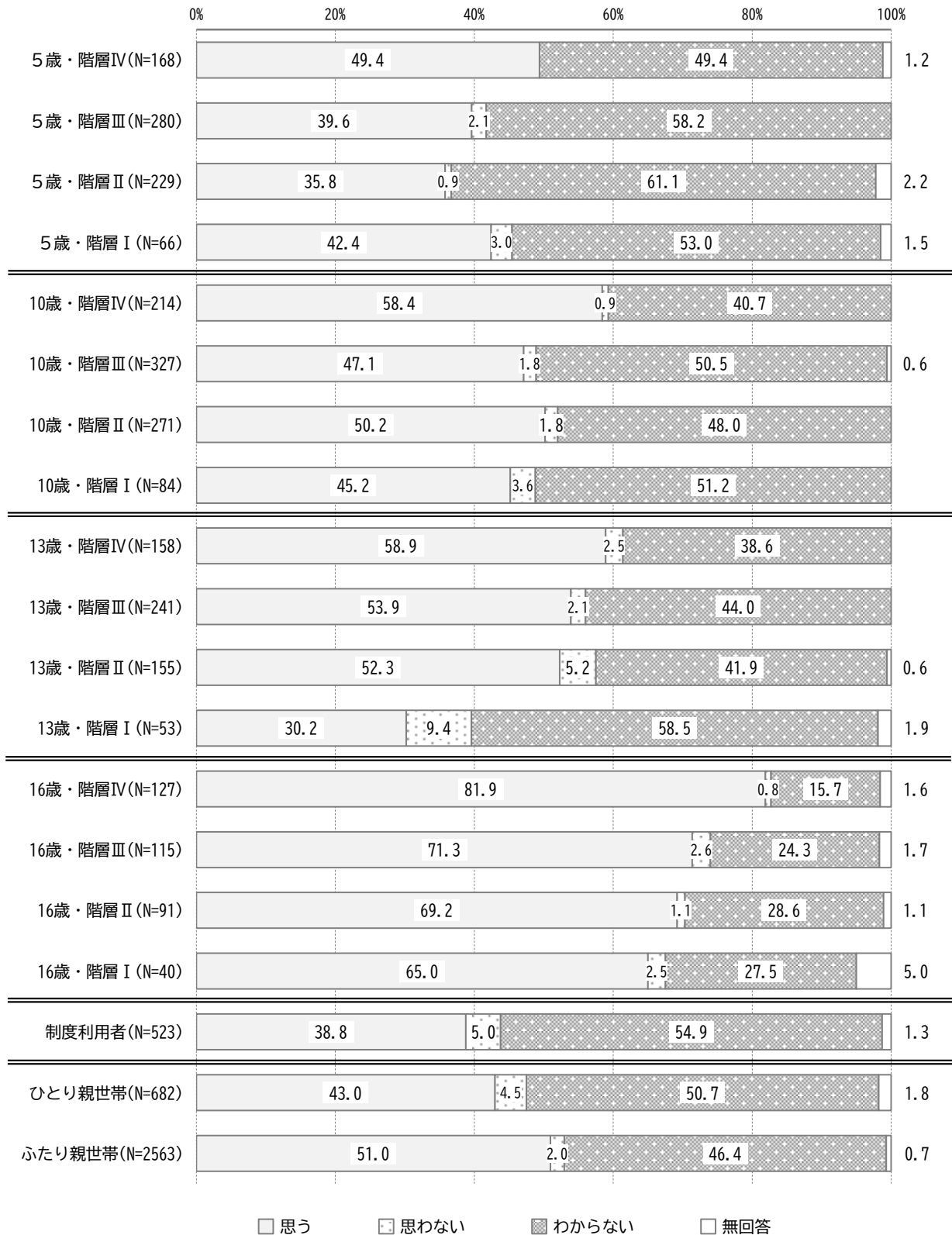
問 24-1 あなたは、お子さんの今後の進学について、どこまで希望されていますか。  
(あてはまるもの1つ)

各年齢、制度利用者ともに、「大学」が最も多くなっています。また、階層が低くなるにつれて「高等学校」「高専、短大、専門学校」が多くなる傾向がみられます。



問 24-2 あなたは、お子さんが問 24-1 で答えた希望どおりの学校まで進むことになると思いますか。  
(あてはまるもの1つ)

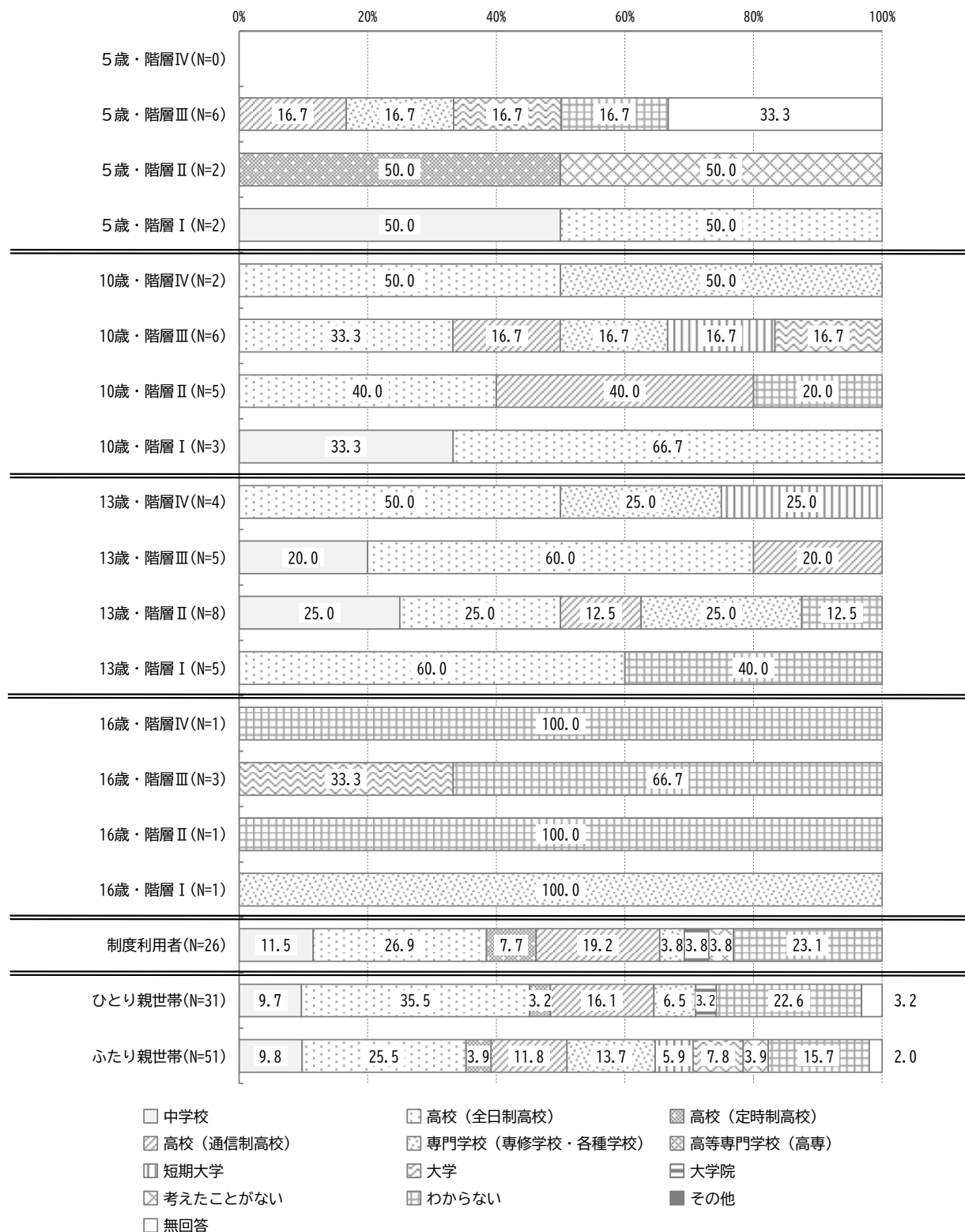
各年齢において、階層が上がるにつれて「思う」が多く、「思わない」が低くなる傾向がみられます。



問 24-2 で「2. 思わない」と答えた方にうかがいます。

問 24-3 お子さんは将来どの学校まで行くことになると思いますか。(あてはまるもの1つ)

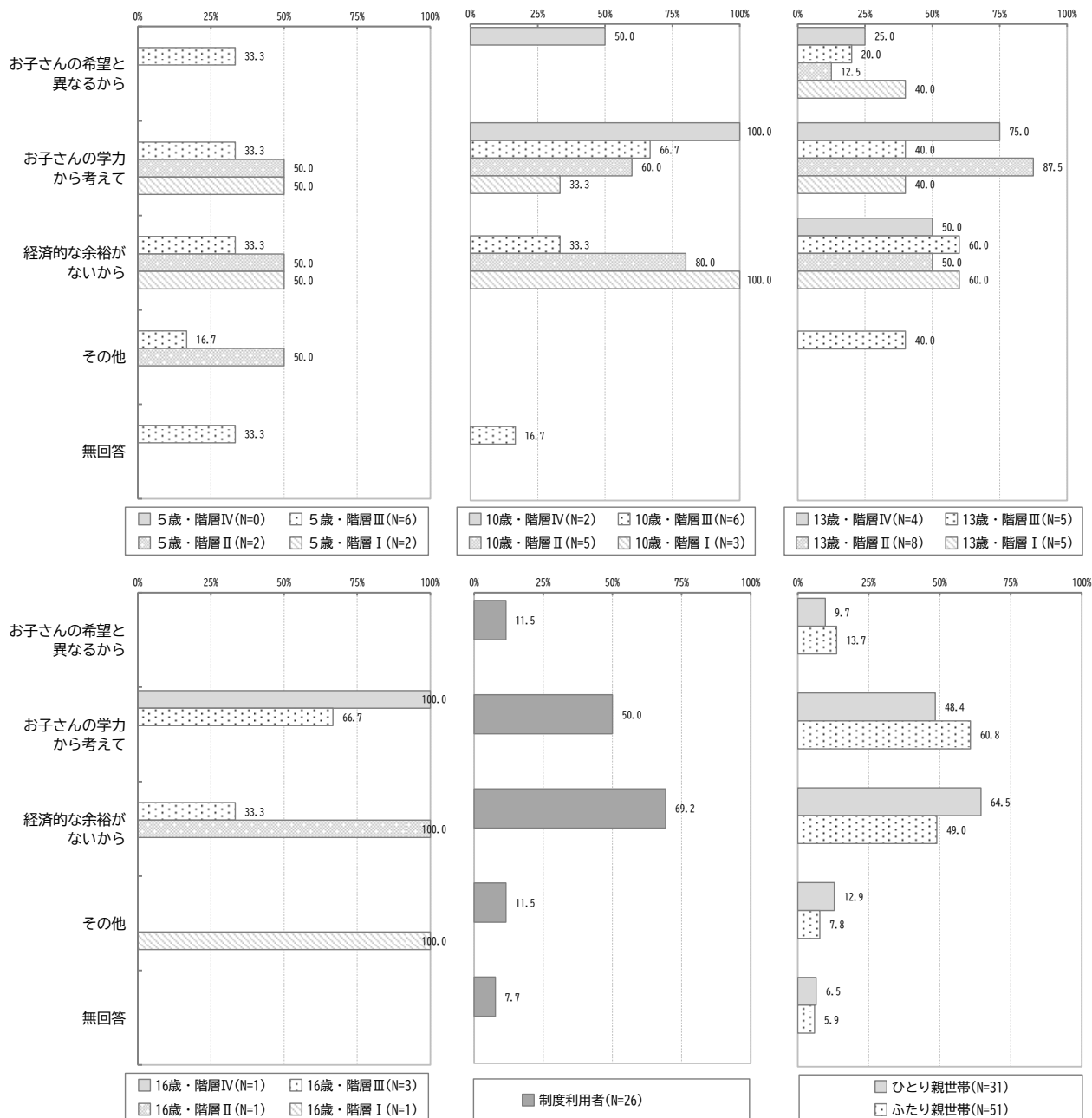
(回答者数が少ないため参考値)



問 24-2 で「2. 思わない」と答えた方にうかがいます。

問 24-4 その理由はなんですか。(あてはまるものすべて)

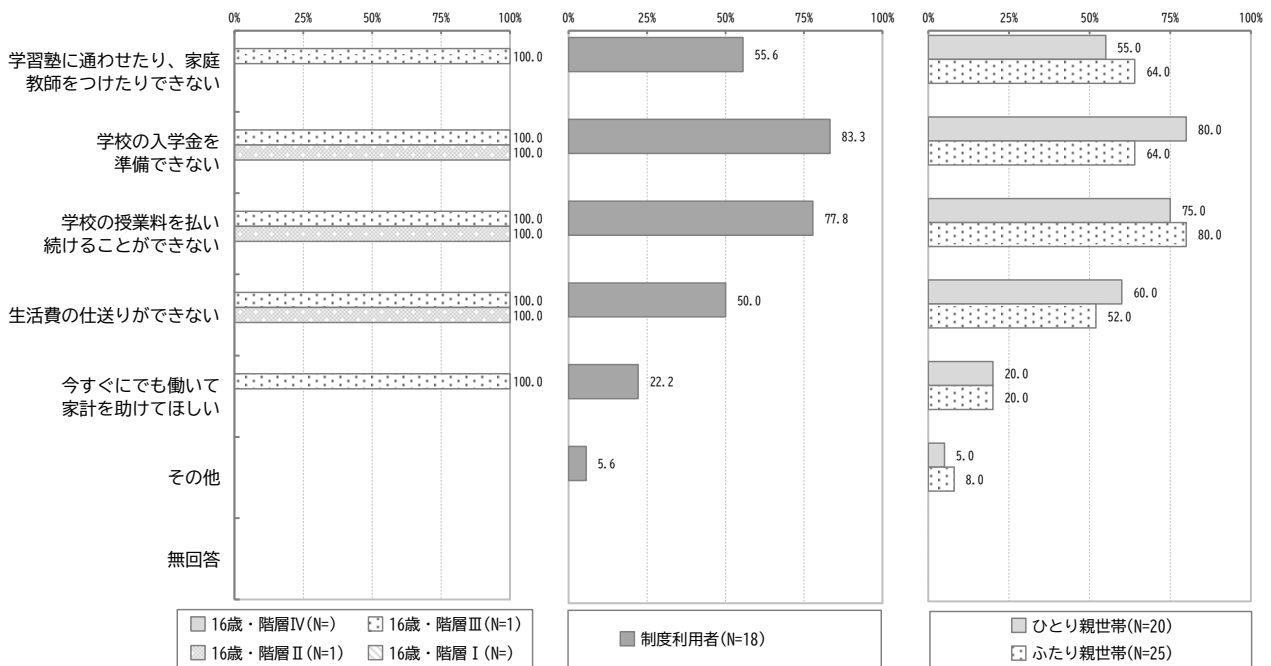
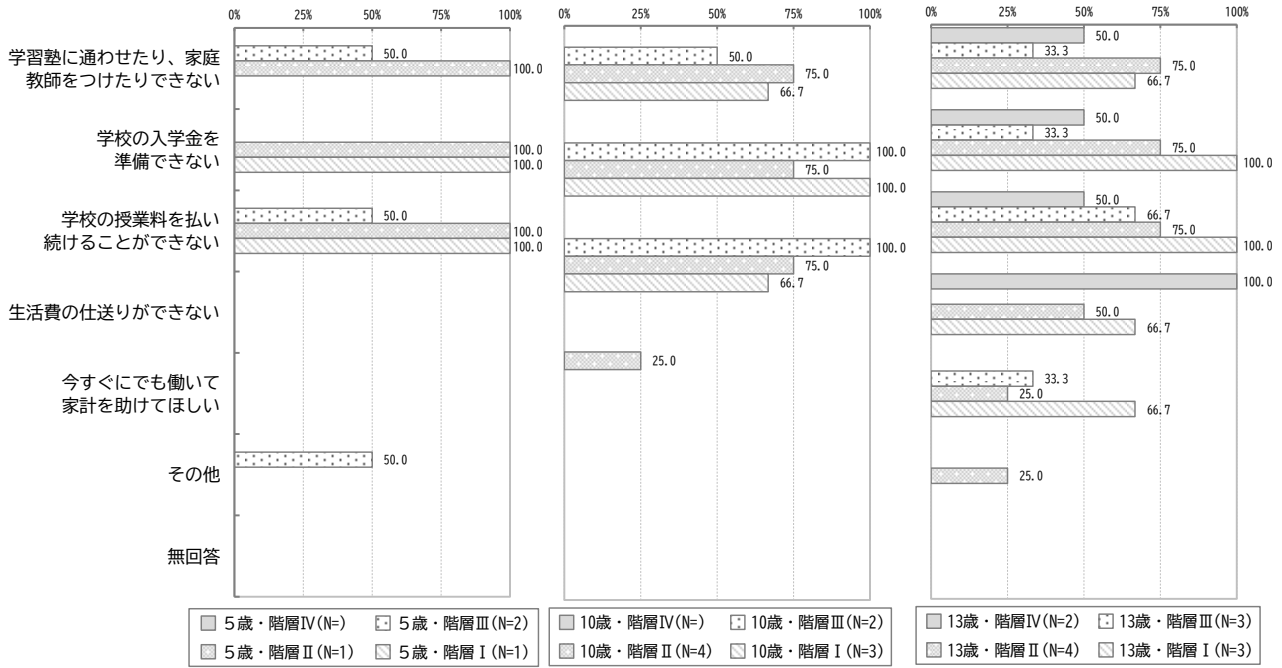
(回答者数が少ないため参考値)



問 24-4 で「3. 経済的な余裕がないから」と答えた方にうかがいます。

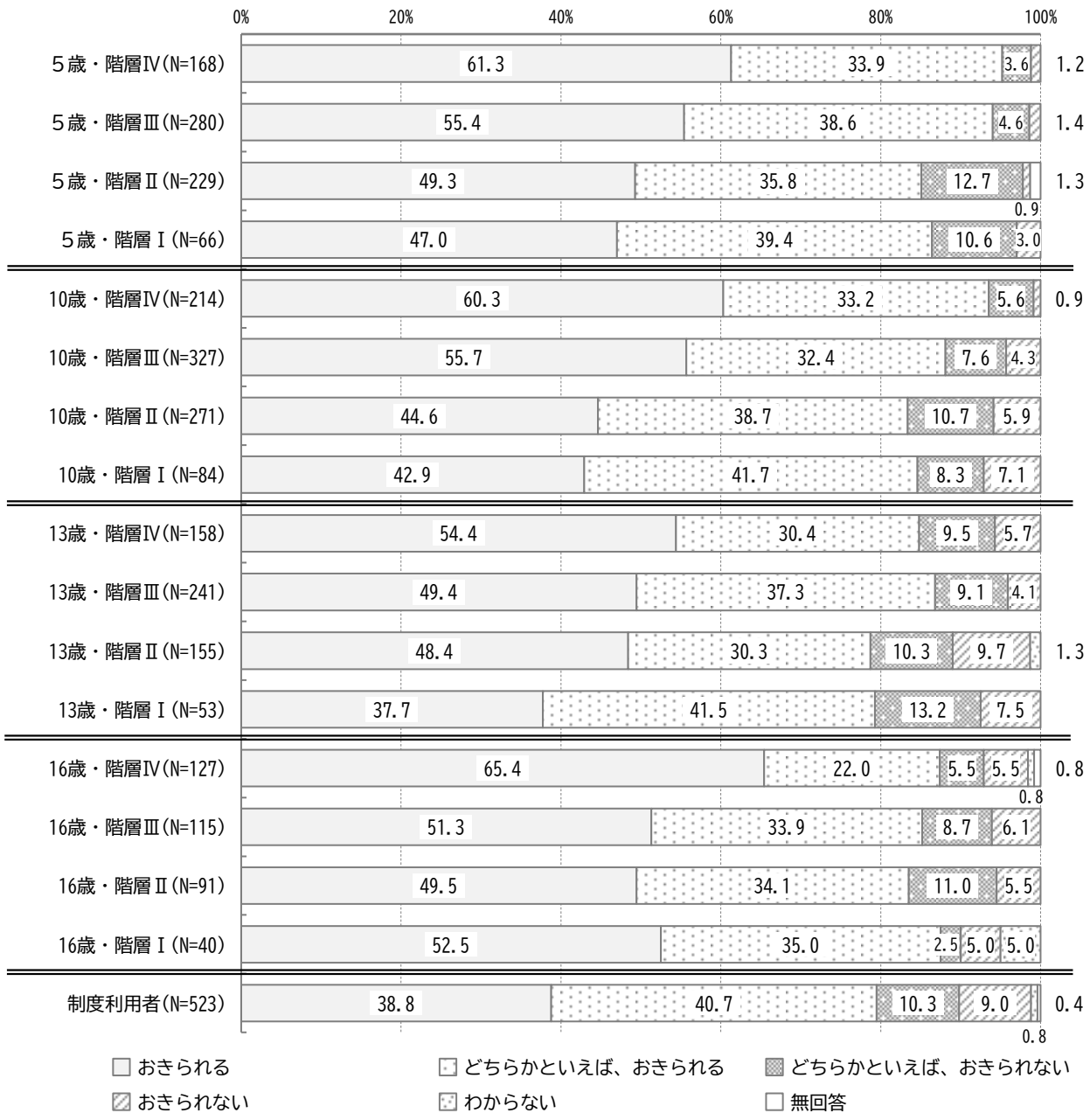
問 24-5 あてはまるものはどれですか。(あてはまるものすべて)

(回答者数が少ないため参考値)



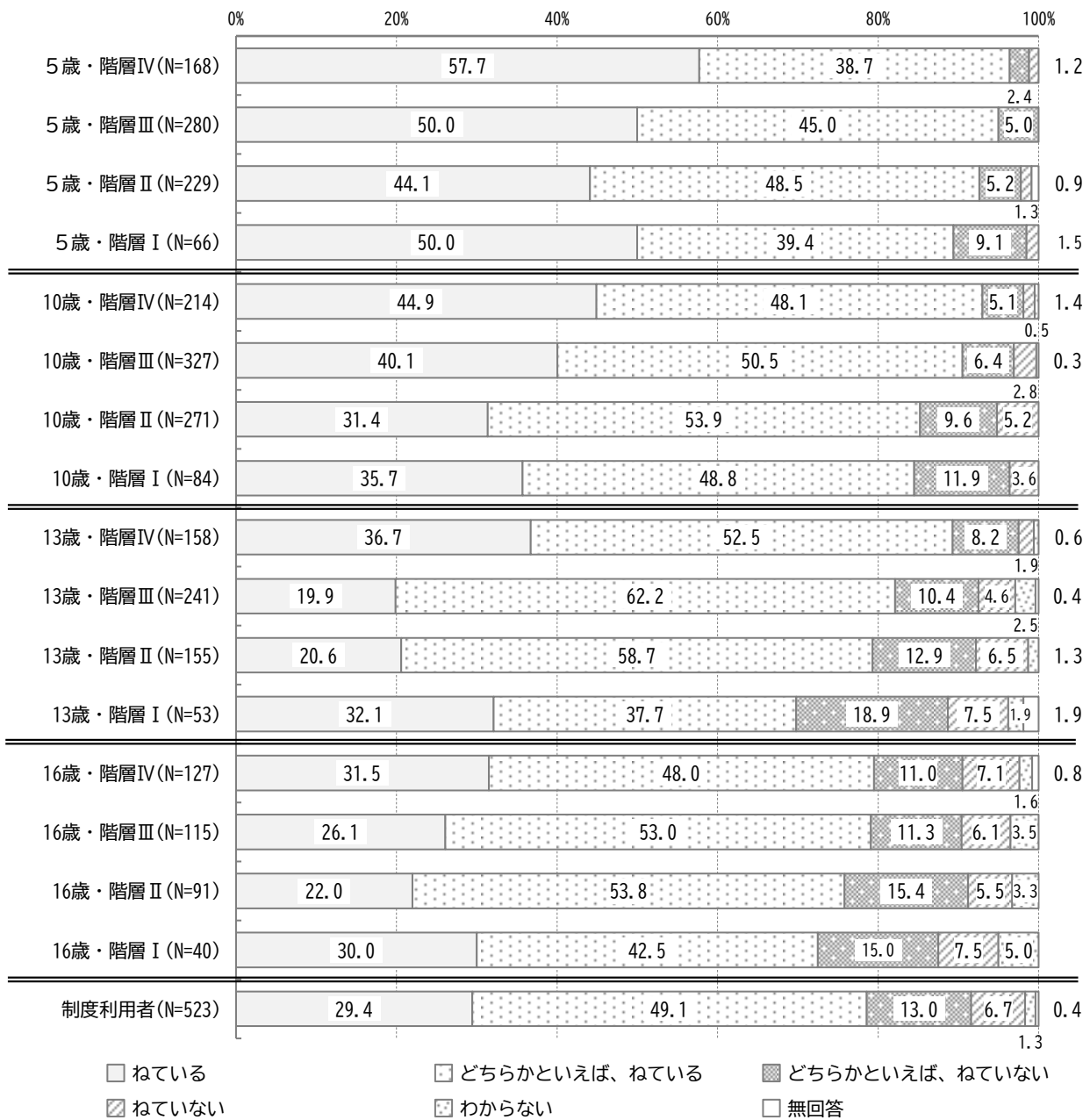
問 25-1 お子さんは、普段（月曜日～金曜日）、朝決まった時間に起きられますか。  
（あてはまるもの1つ）

各年齢、制度利用者において、「おきられる」「どちらかといえば、おきられる」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて、「どちらかといえば、おきられない」「おきられない」が多くなる傾向がみられます。



問 25-2 お子さんは、普段（月曜日～金曜日）、ほぼ同じ時間に寝ていますか。  
（あてはまるもの1つ）

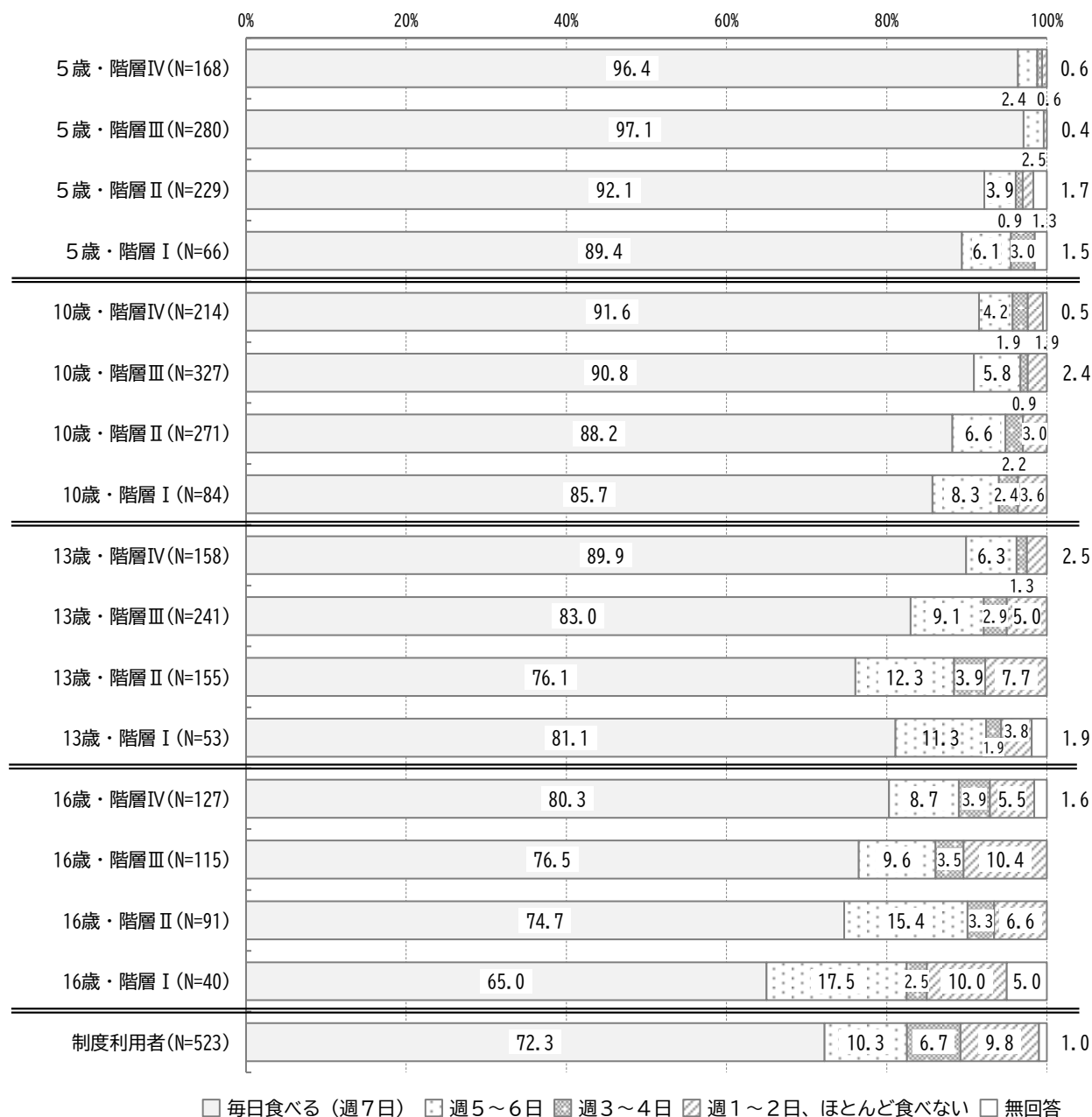
各年齢、制度利用者において、「ねている」「どちらかといえば、ねている」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて、「どちらかといえば、ねていない」「ねていない」が多くなる傾向がみられます。



問 25-3 お子さんは、週にどのくらい食事をとっていますか。

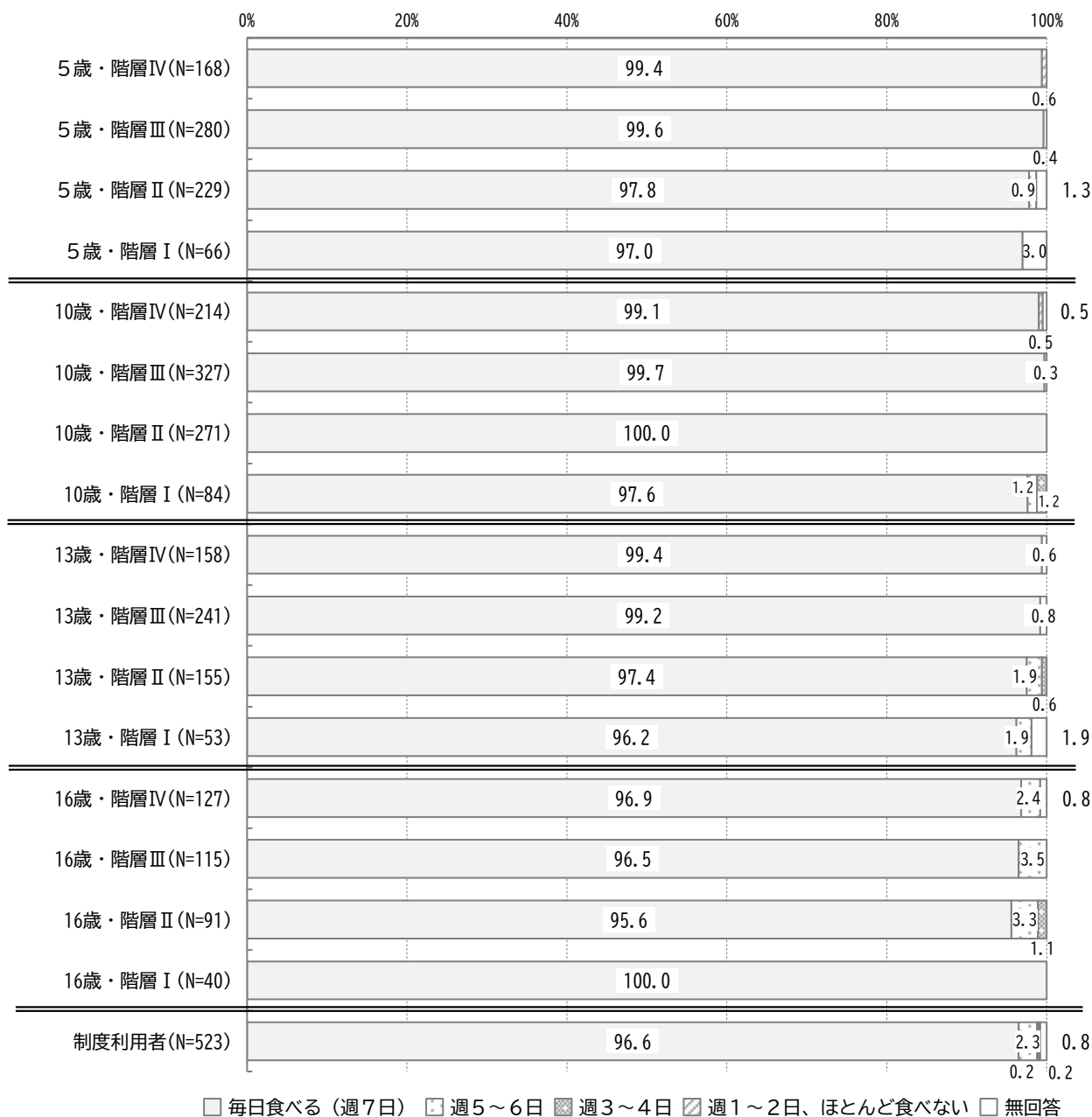
【問 25-3-a 朝食】

各年齢、制度利用者において、「毎日食べる（週7日）」が最も多くなっていますが、階層が低くなるにつれて、「毎日食べる（週7日）」がやや少なくなる傾向がみられます。



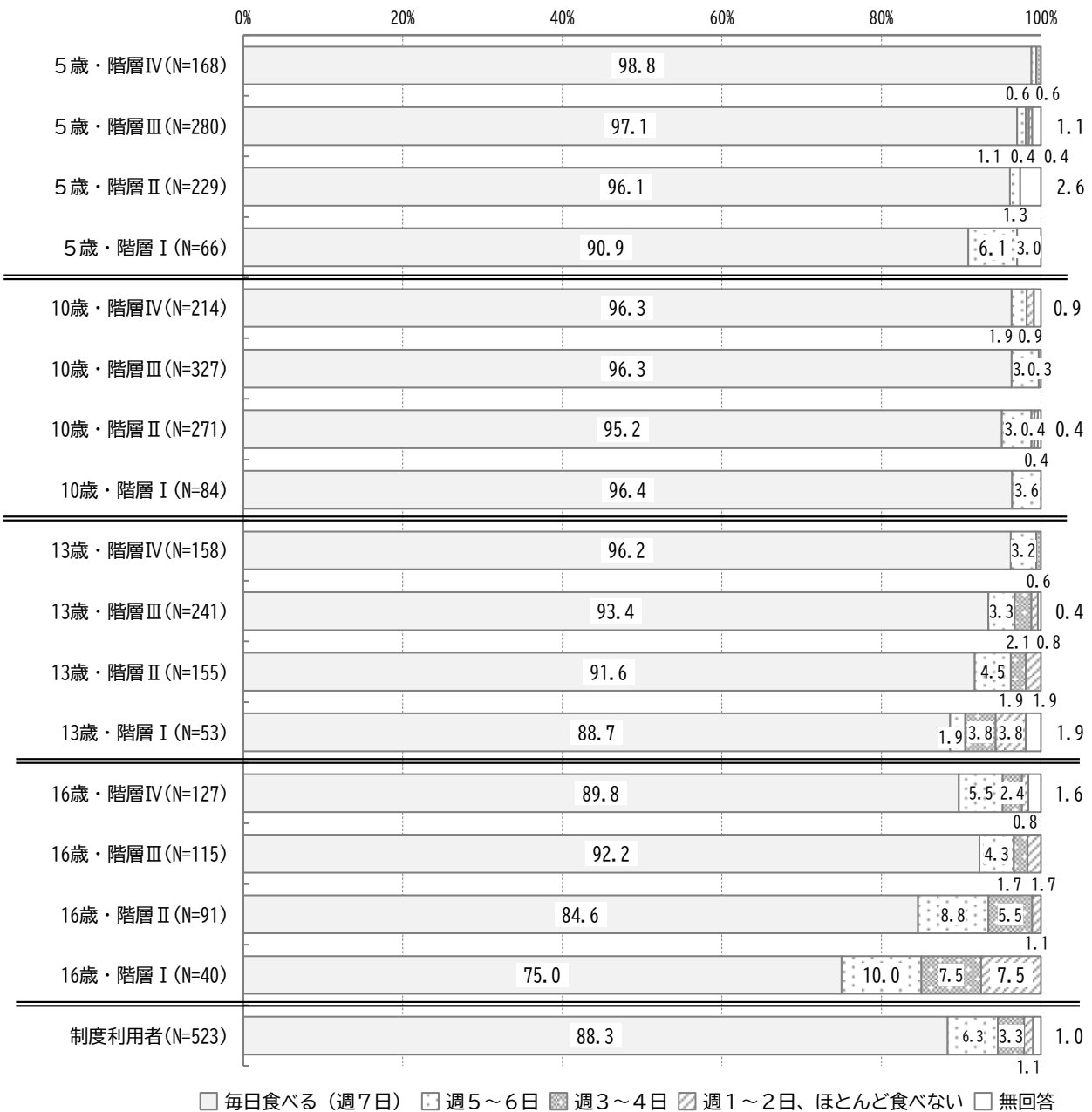
【問 25-3-b 夕食】

各年齢、制度利用者において、「毎日食べる（週7日）」が最も多くなっています。



【問 25-3-c 夏休みや冬休みなどの期間の昼食】

各年齢、制度利用者において、「毎日食べる（週7日）」が最も多くなっていますが、階層が低くなるにつれて、「毎日食べる（週7日）」がやや少なくなる傾向がみられます。



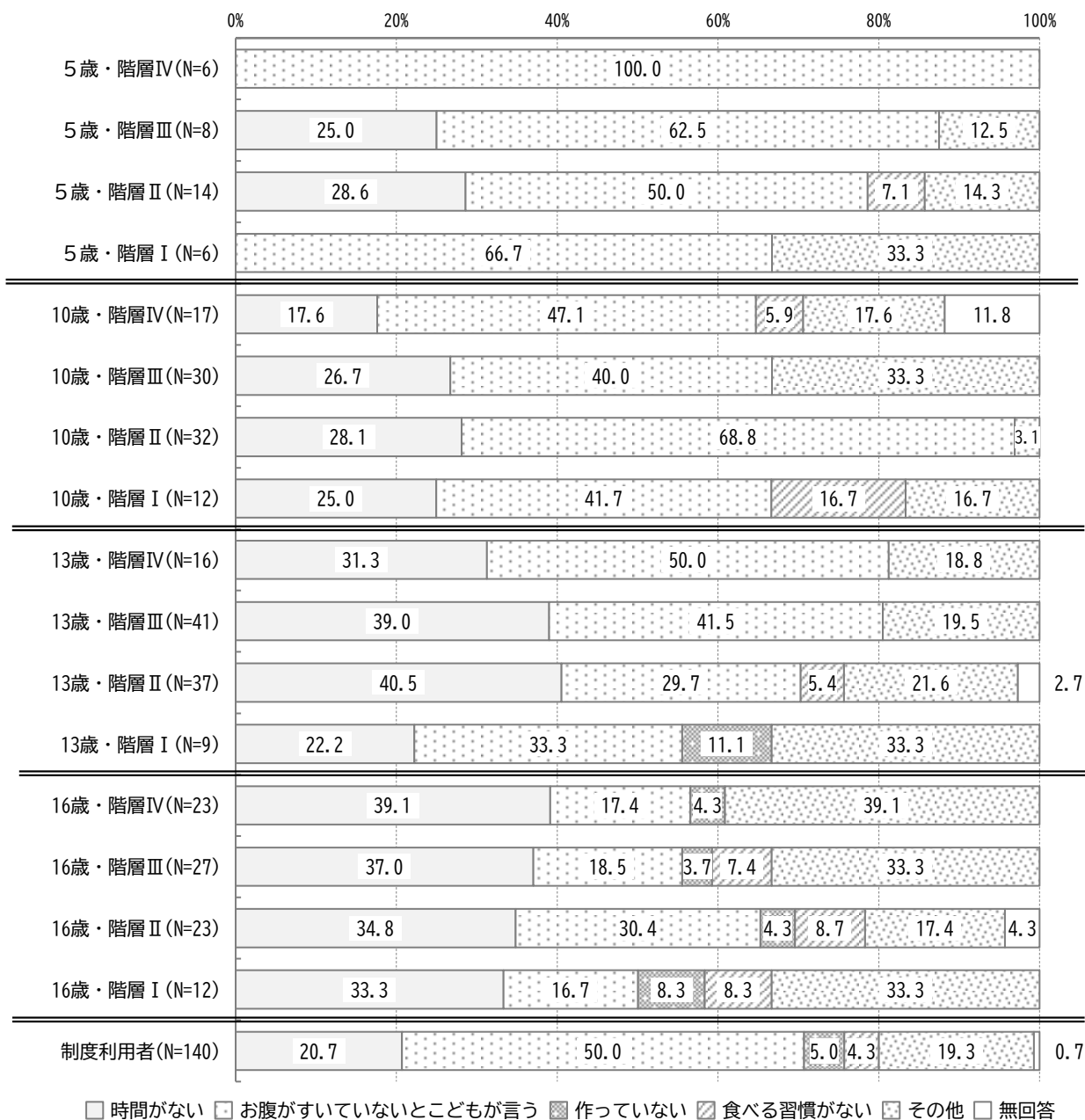
問 25-3 で「2」～「4」と答えた方にうかがいます。

問 25-4 お子さんが食べない時、その理由はなんですか。(あてはまるもの1つ)

【問 25-4-a 朝食】

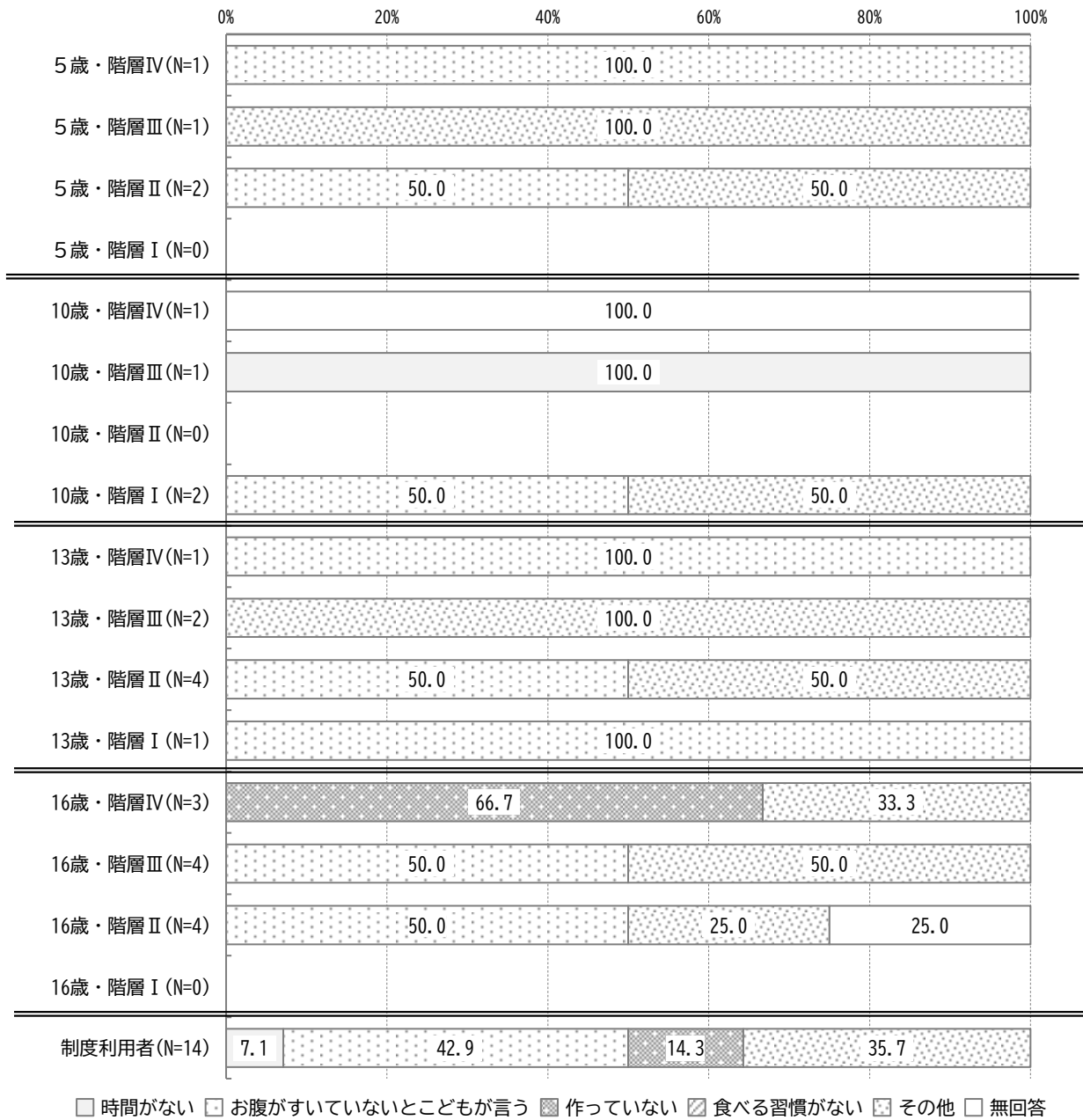
(回答者数が少ないため参考値)

各年齢、制度利用者ともに、「時間がない」「お腹がすいていないと子どもが言う」が多くなっています。



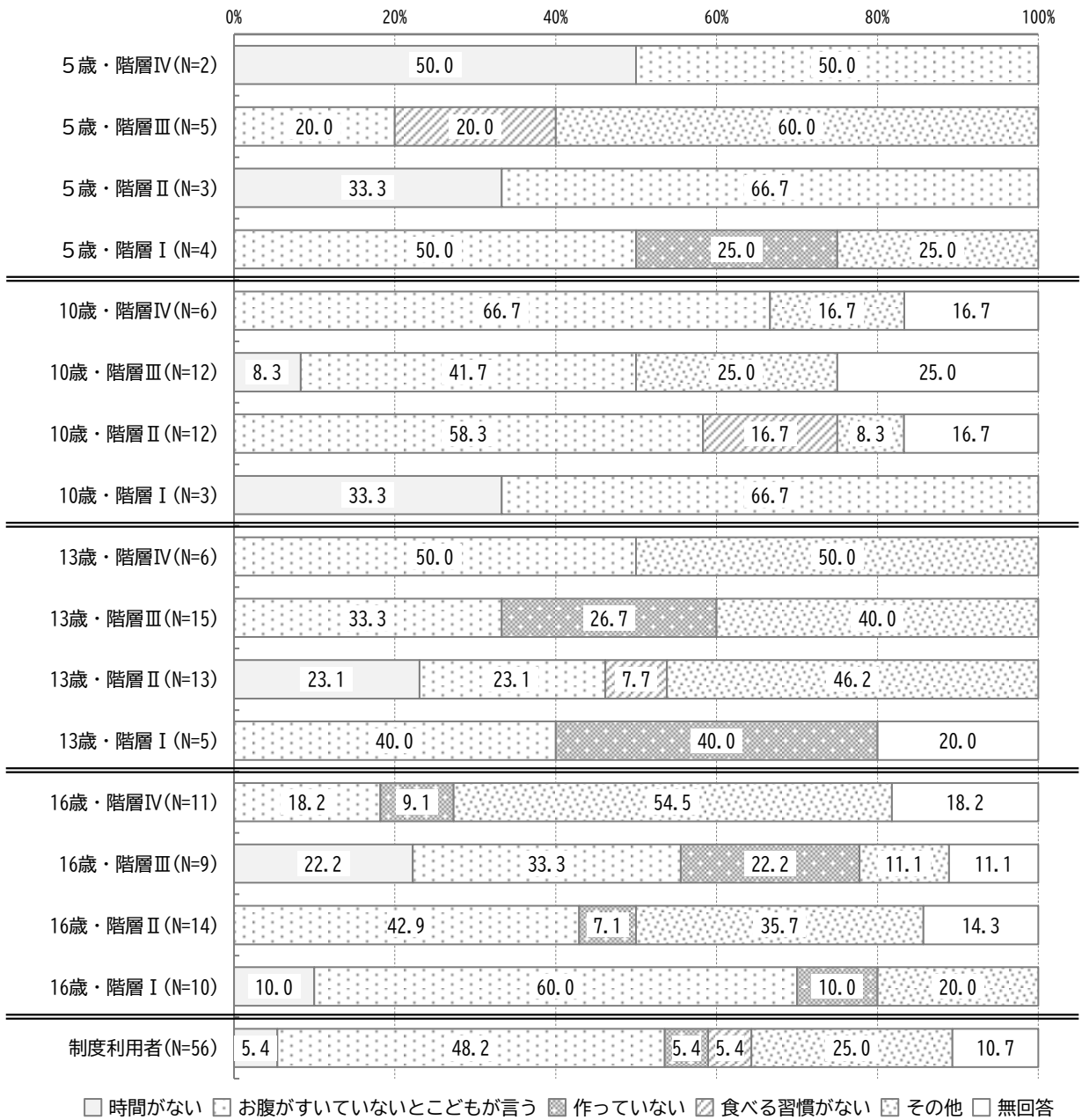
【問 25-4-b 夕食】

(回答者数が少ないため参考値)



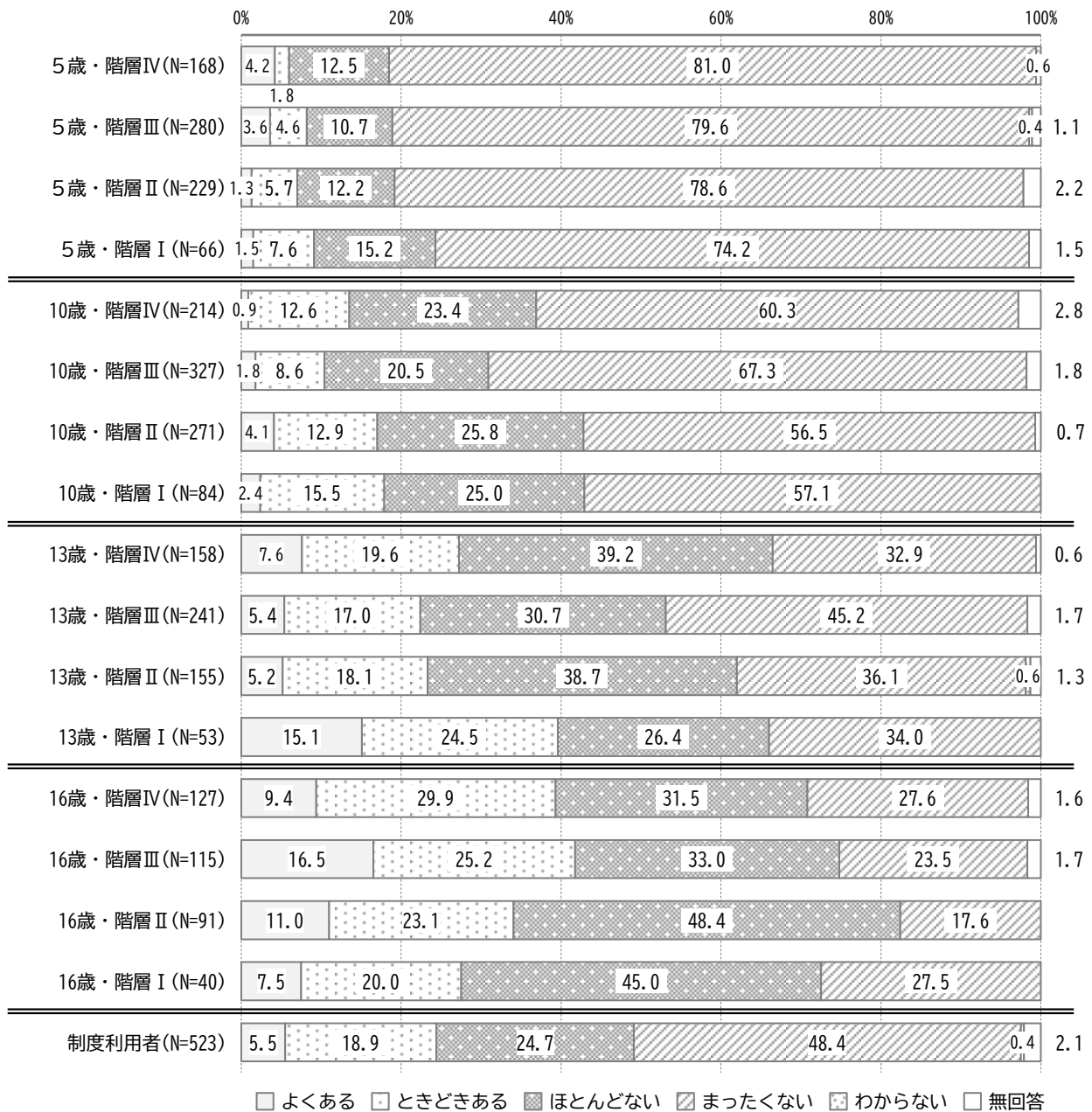
【問 25-4-c 夏休みや冬休みなどの期間の昼食】

(回答者数が少ないため参考値)



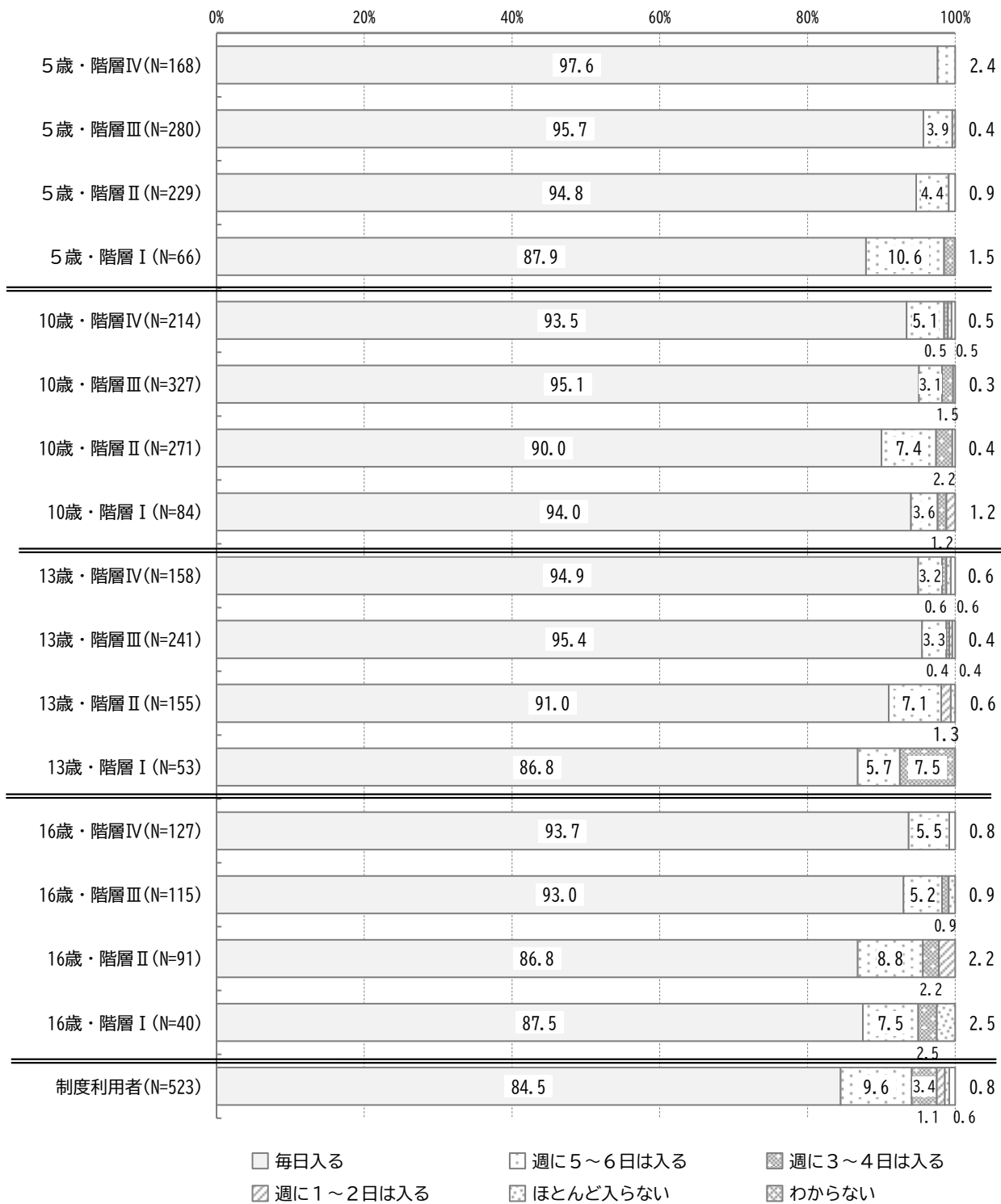
問 25-5 普段、お子さんだけで夕食を食べることがありますか。(あてはまるもの1つ)

各年齢、制度利用者において、「ほとんどない」「まったくない」が多くなっていますが、年齢が上がるにつれて、「よくある」「ときどきある」が多くなる傾向がみられます。



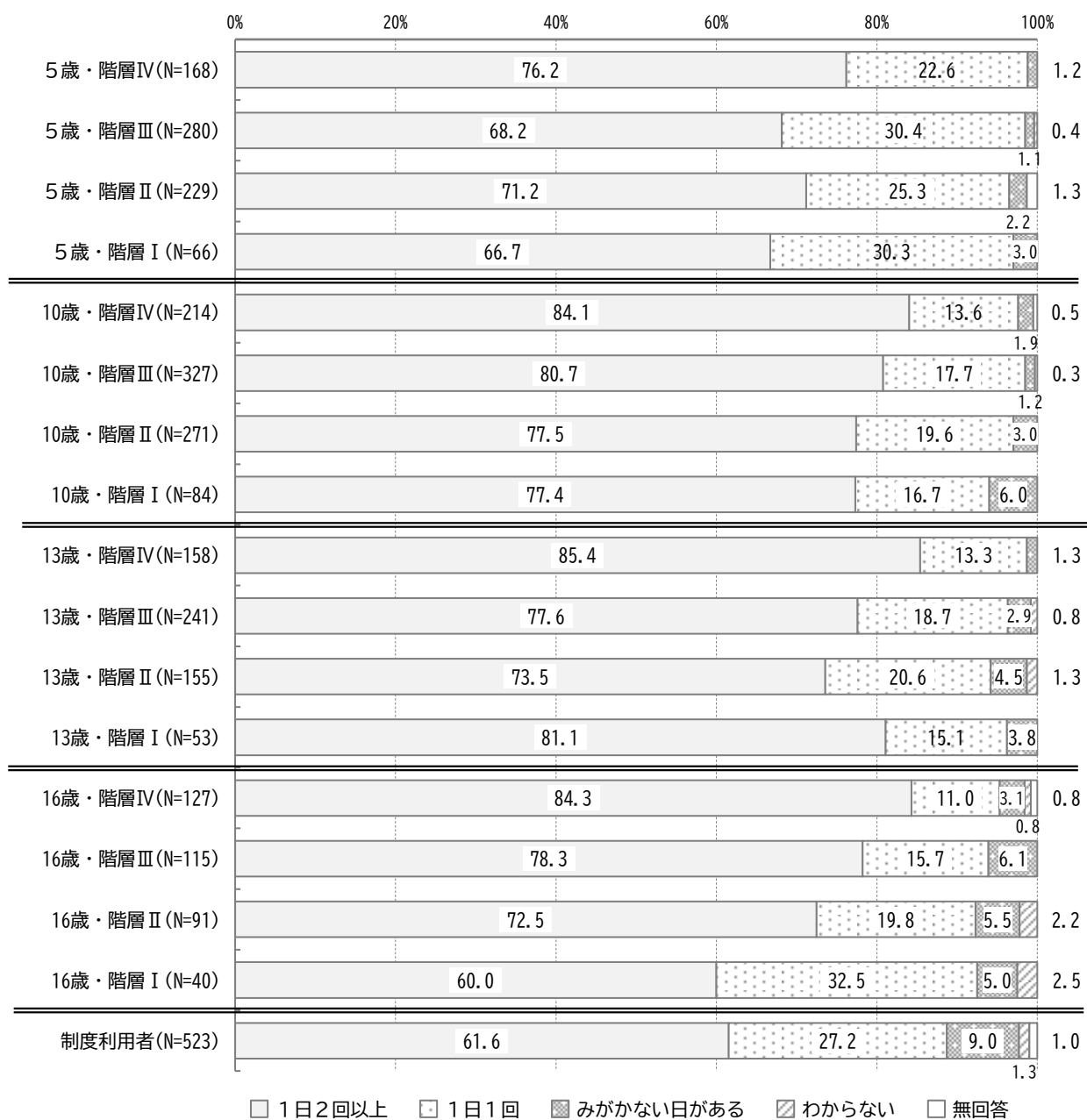
問 25-6 お子さんは、1週間にお風呂（シャワーのみの場合も含む）にどれくらい入っていますか。  
（あてはまるもの1つ）

各年齢、制度利用者において、「毎日入る」が最も多くなっていますが、階層が低くなるにつれて、「週に3～4日は入る」「週に1～2日は入る」「ほとんど入らない」等の『毎日入らない』が多くなる傾向がみられます。



問 25-7 お子さんは1日にどれくらい歯磨きをしていますか。

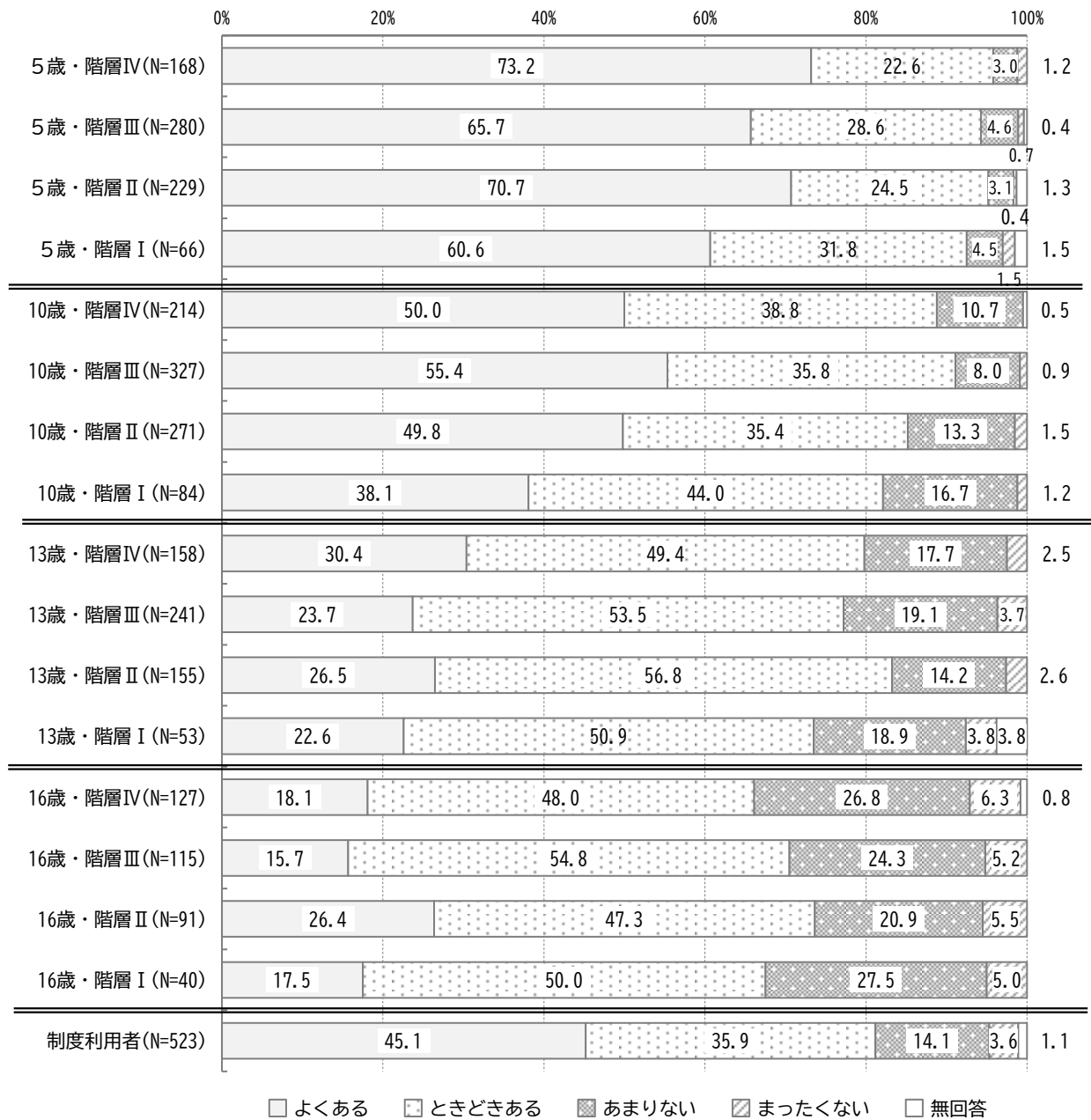
各年齢、制度利用者において、「1日2回以上」が最も多くなっていますが、階層が低くなるにつれて、「みがかない日がある」が多くなる傾向がみられます。



問 26 あなたの世帯では、次のようなことがどれくらいありますか。

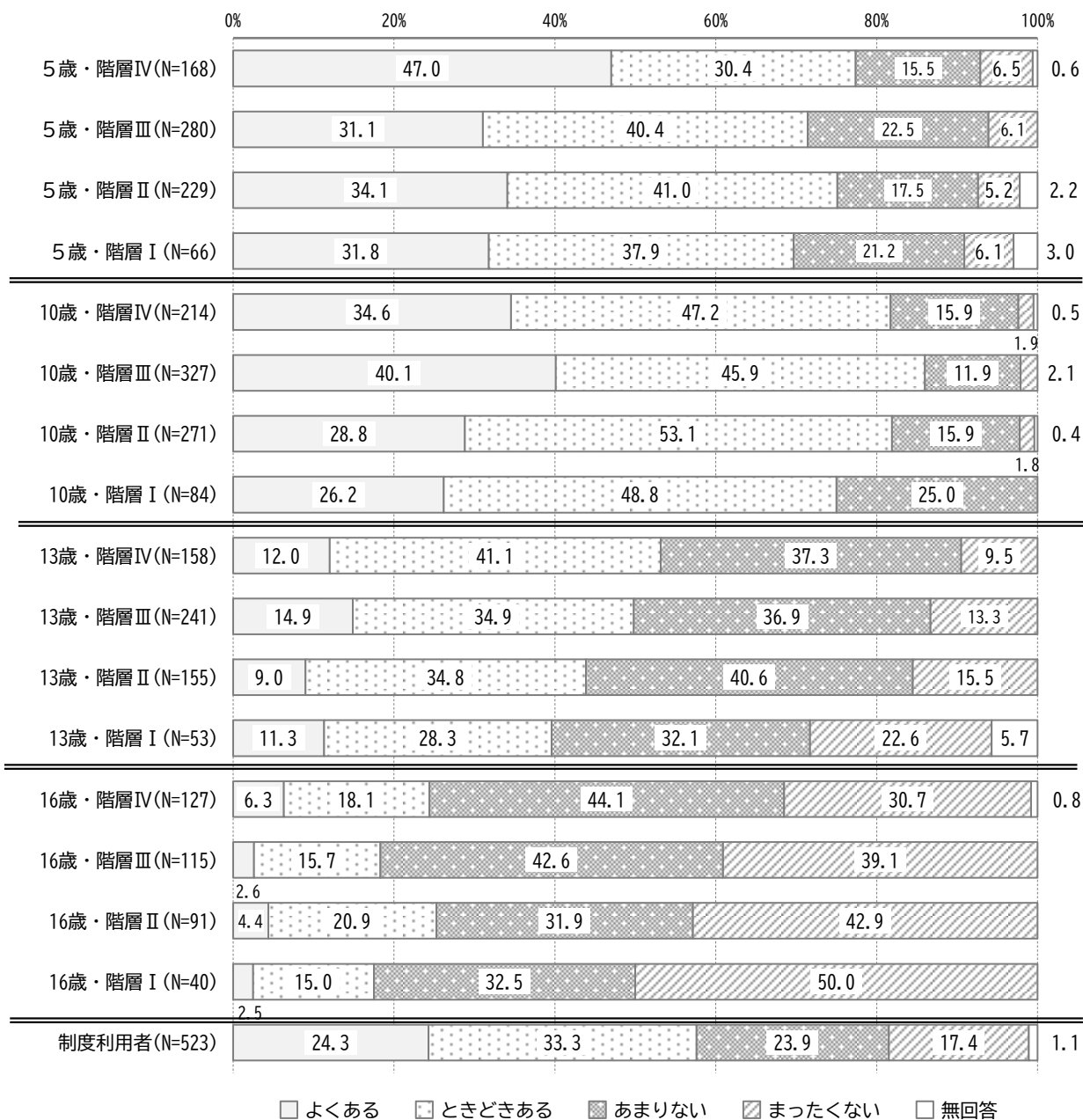
【問 26-a 家族で買い物に出かける】

すべての階層で年齢が上がるにつれて「よくある」が低くなっています。



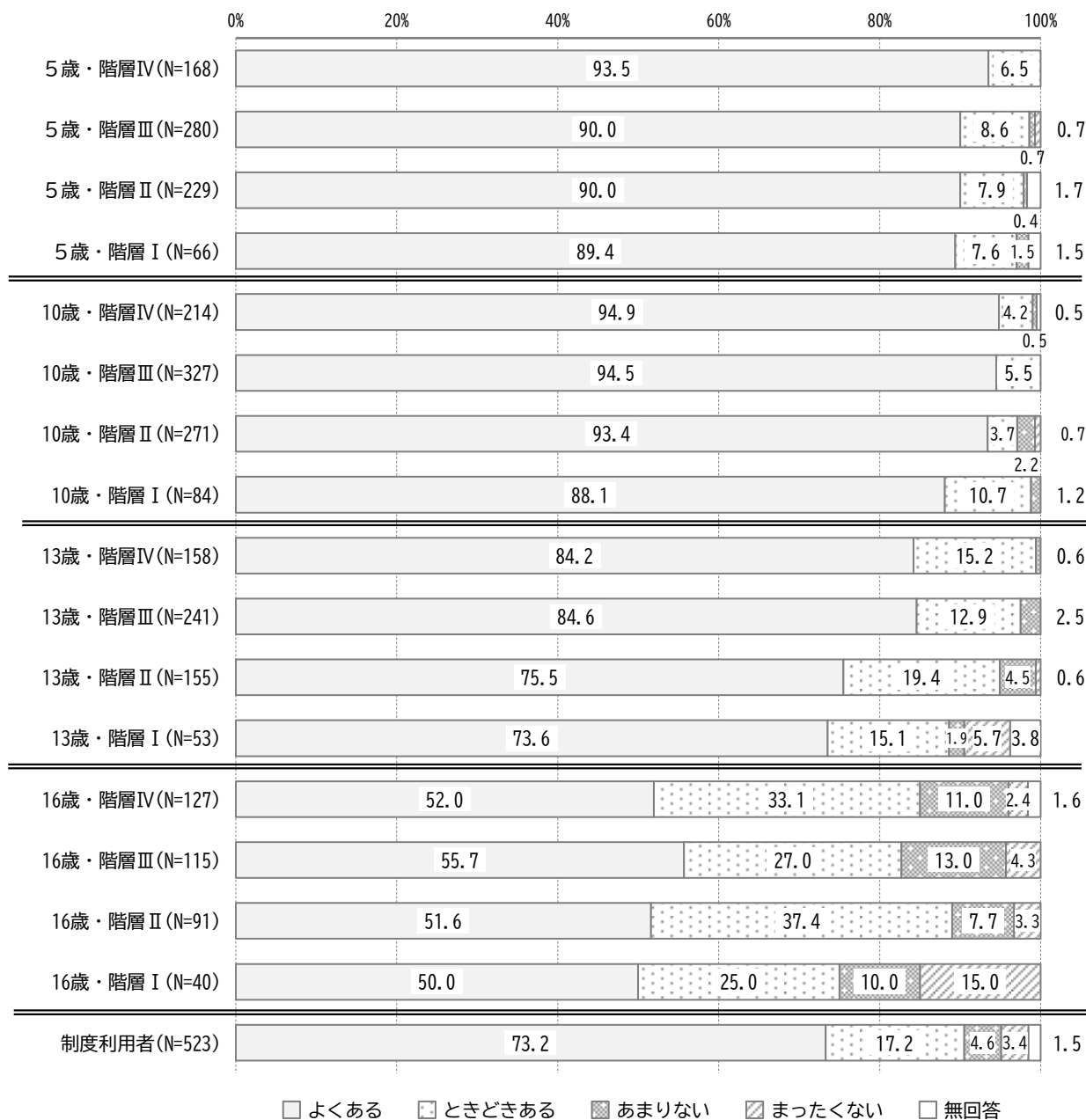
【問 26-b お子さんに勉強を教える】

年齢が上がるにつれて「よくある」が低くなる傾向がみられます。



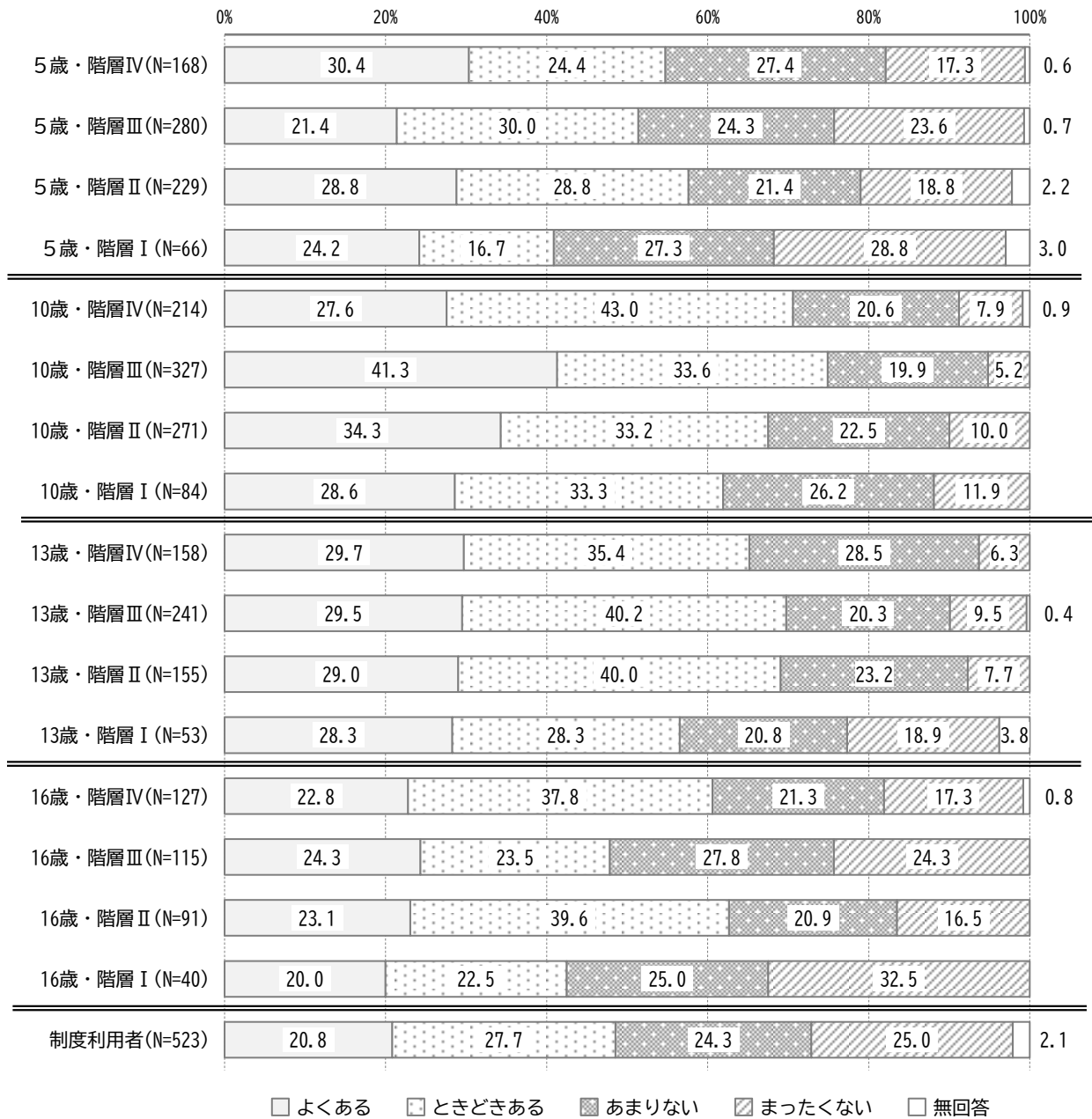
【問 26-c 授業参観や運動会などの学校行事に参加する】

すべての階層で年齢が上がるにつれて「よくある」が低くなっています。



【問 26-d PTA 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどに参加する】

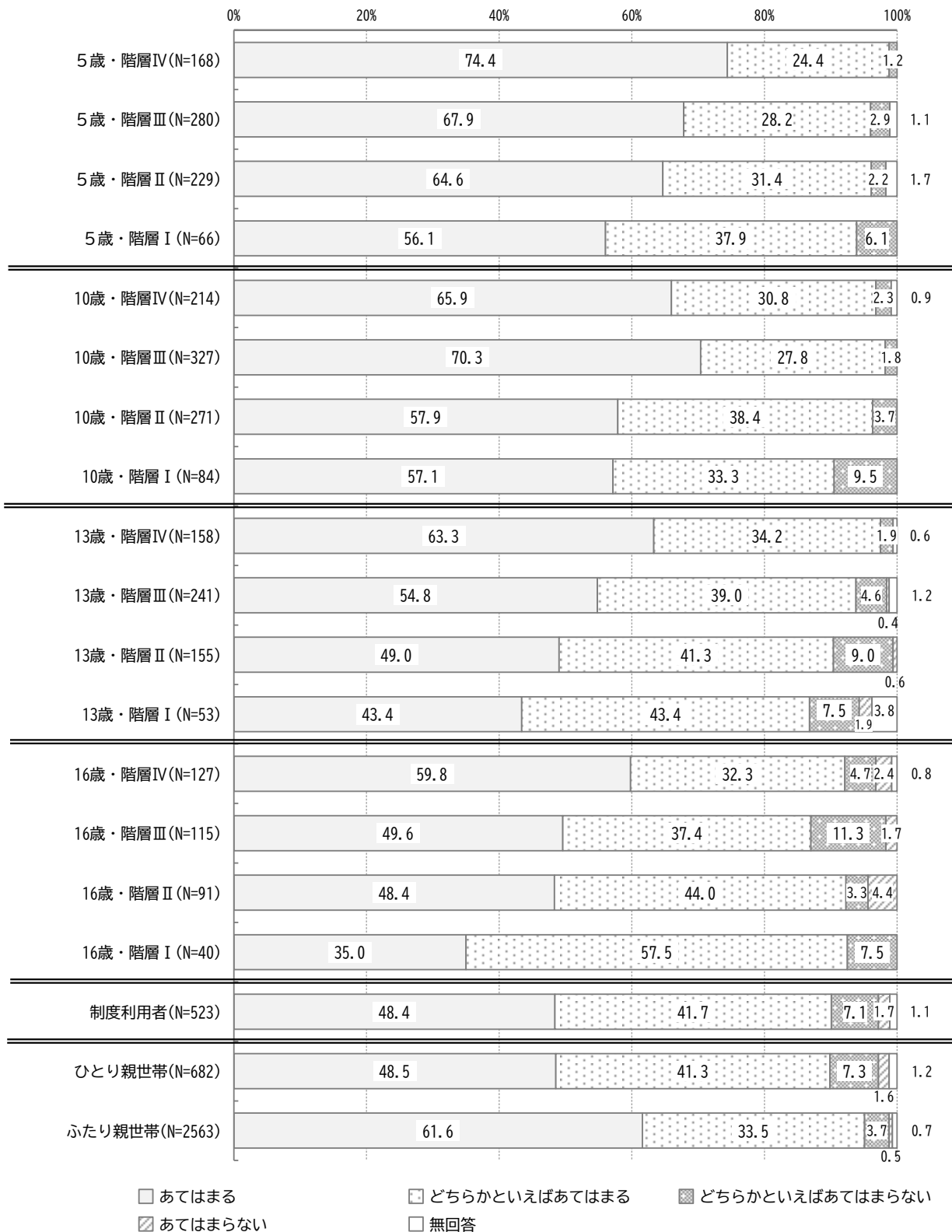
各年齢・階層による大きな差はみられません。



問 27-1 お子さんとの関わりの中で心がけていること（あてはまるもの）についてそれぞれお答えください。

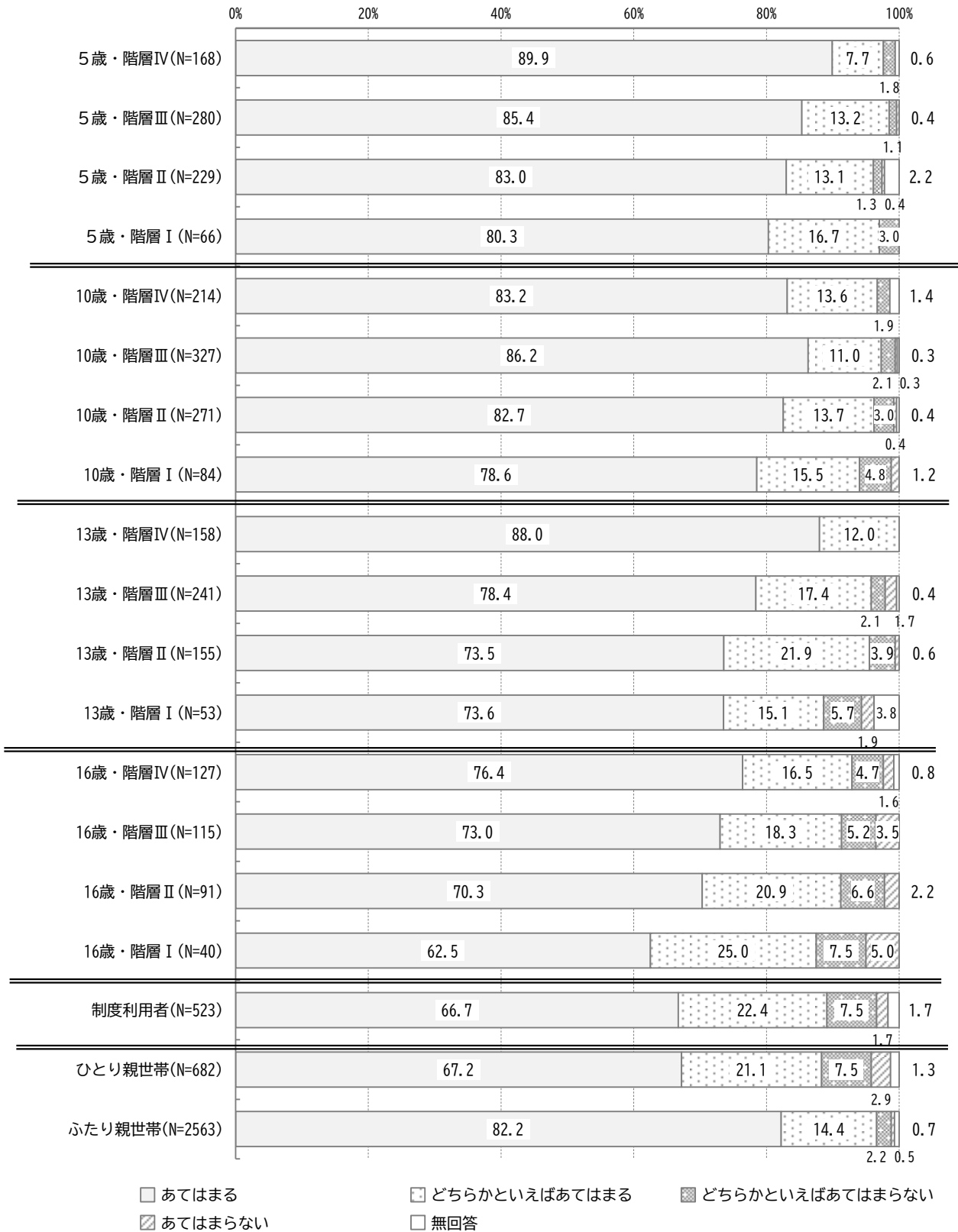
【問 27-1-① 規則正しい生活習慣を身につけさせる】

各年齢、制度利用者において、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」が多くなる傾向がみられます。



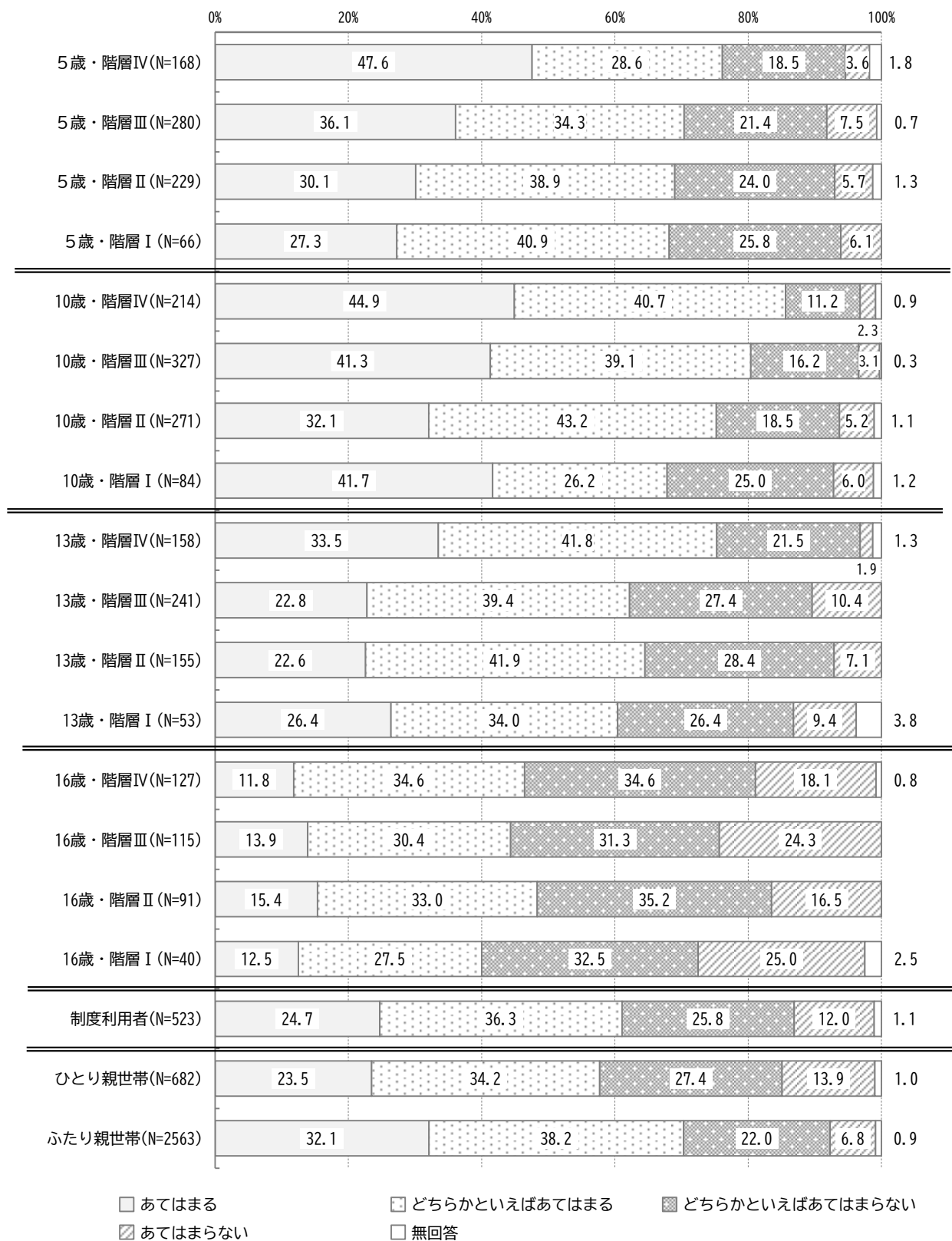
【問 27-1-② 毎日、食事（特に朝食）を食べさせる】

各年齢、制度利用者において、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」が多くなる傾向がみられます。



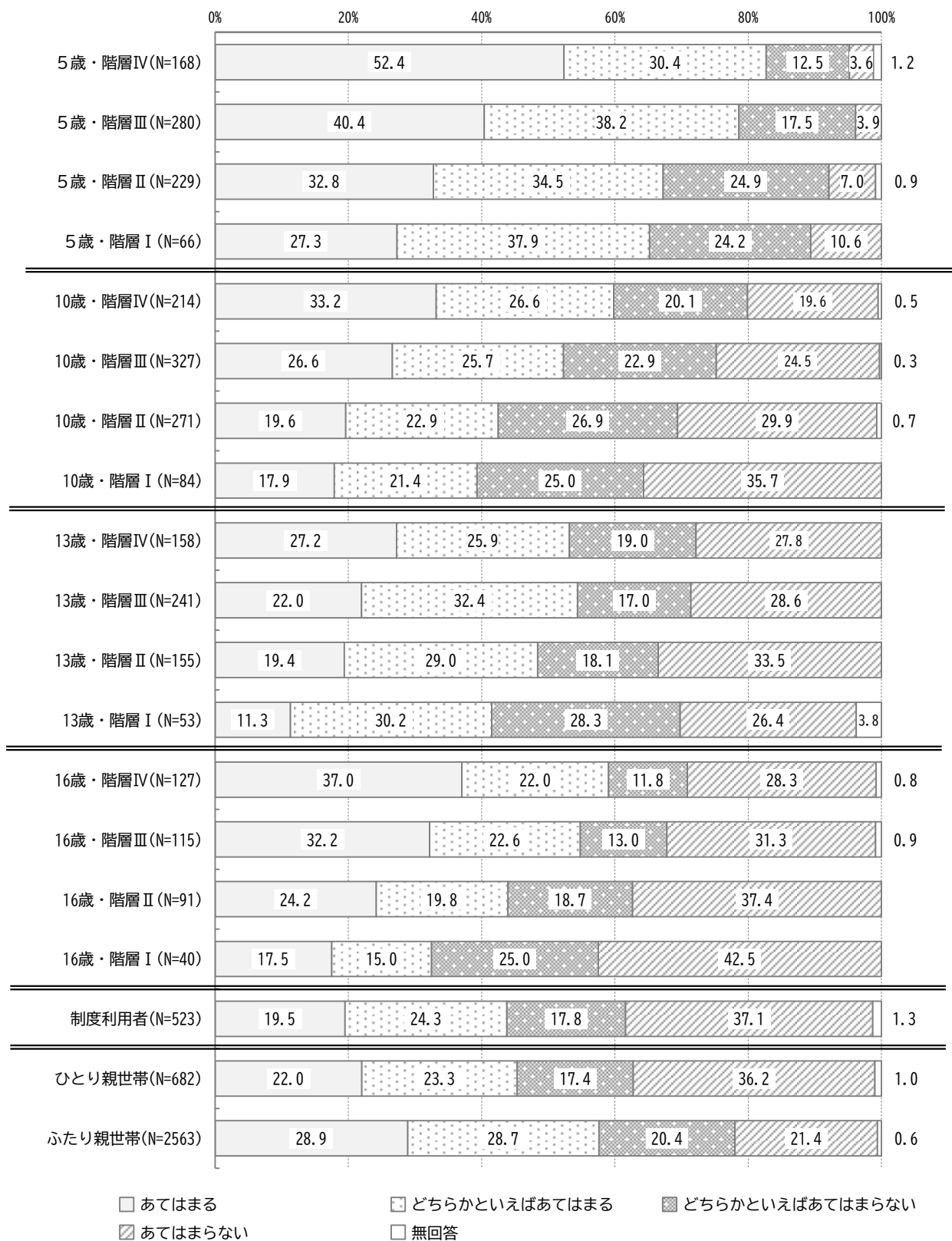
【問 27-1-③ テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている】

5歳、10歳、13歳、制度利用者は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」が多くなっていますが、16歳は「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」が多くなっています。



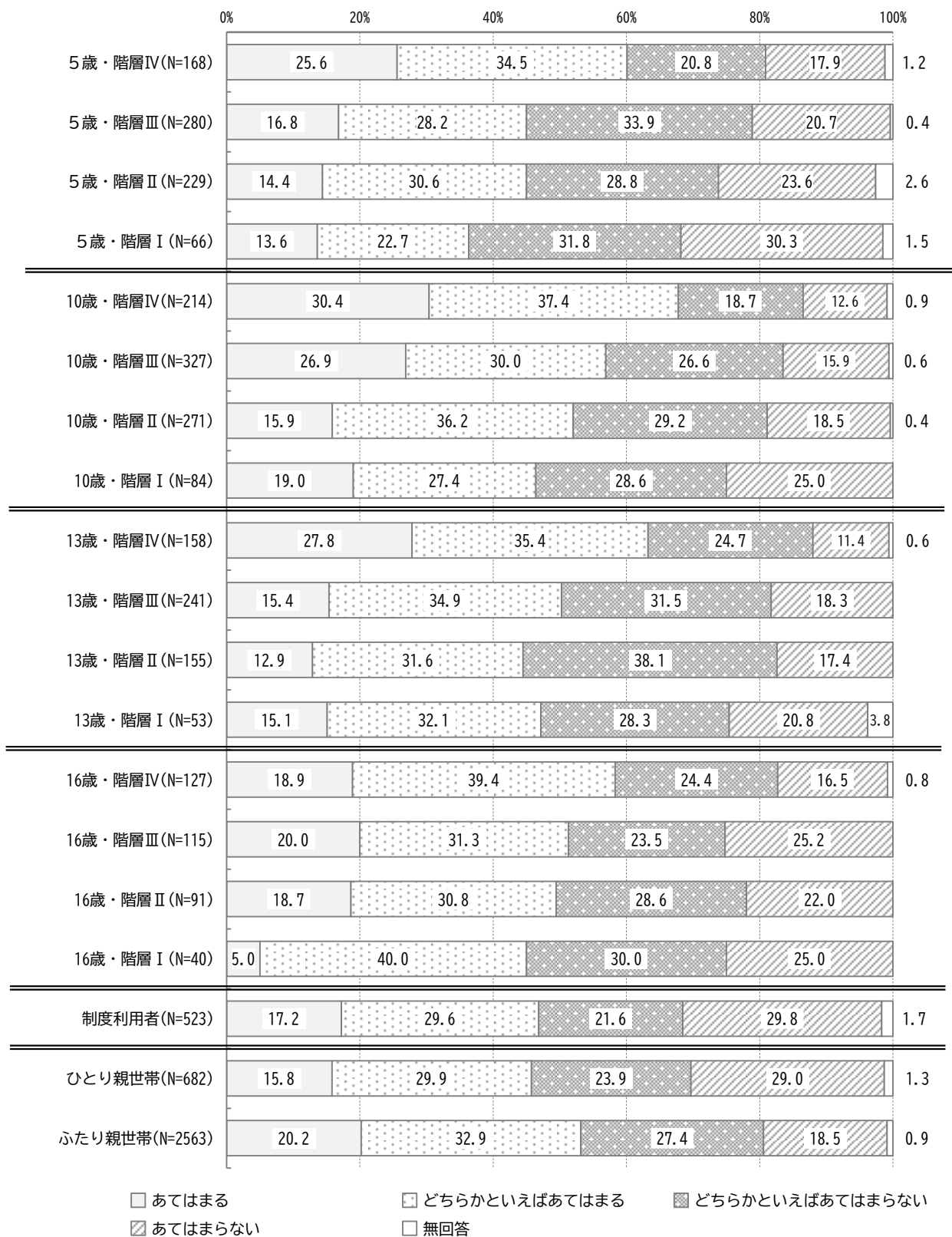
【問 27-1-④ 絵本の読み聞かせをしている（していた）】

5歳は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」が多くなっていますが、10歳、13歳、16歳は階層が低くなるにつれて「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」が多くなっています。



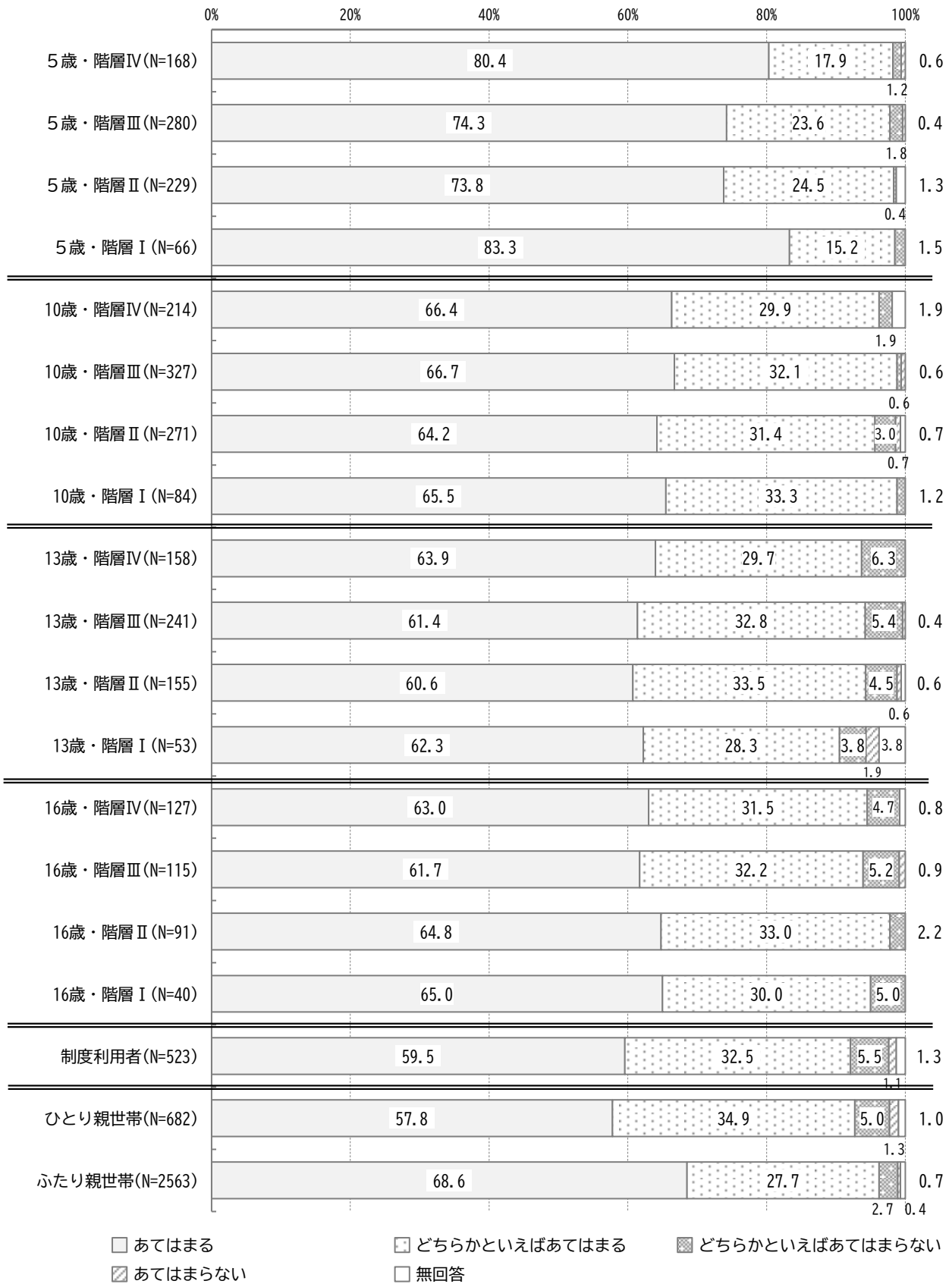
【問 27-1-⑤ 本や新聞を読むようにすすめる】

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」が多くなる傾向がみられます。



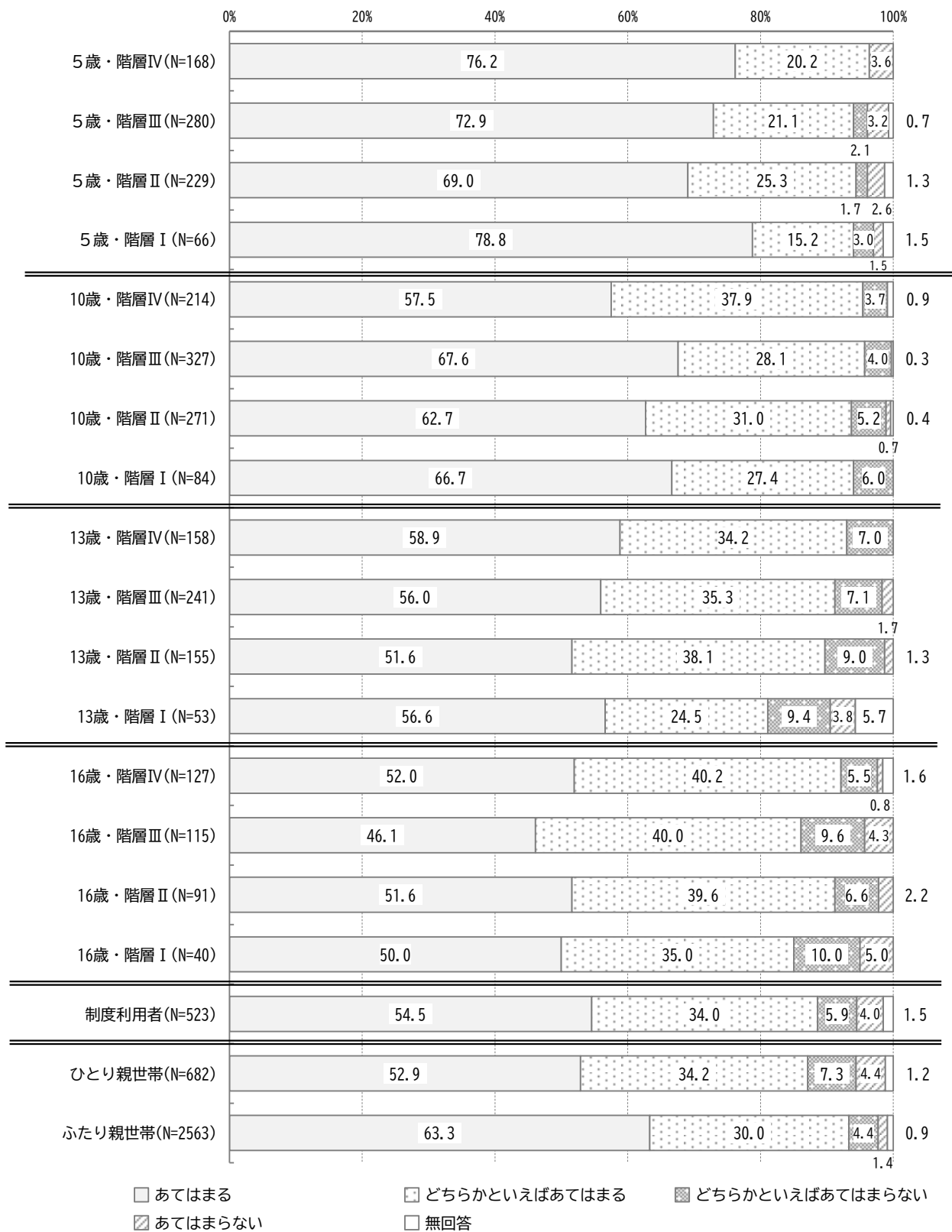
【問 27-1-⑥ お子さんとよく話をする】

各年齢・階層による大きな差はみられません。



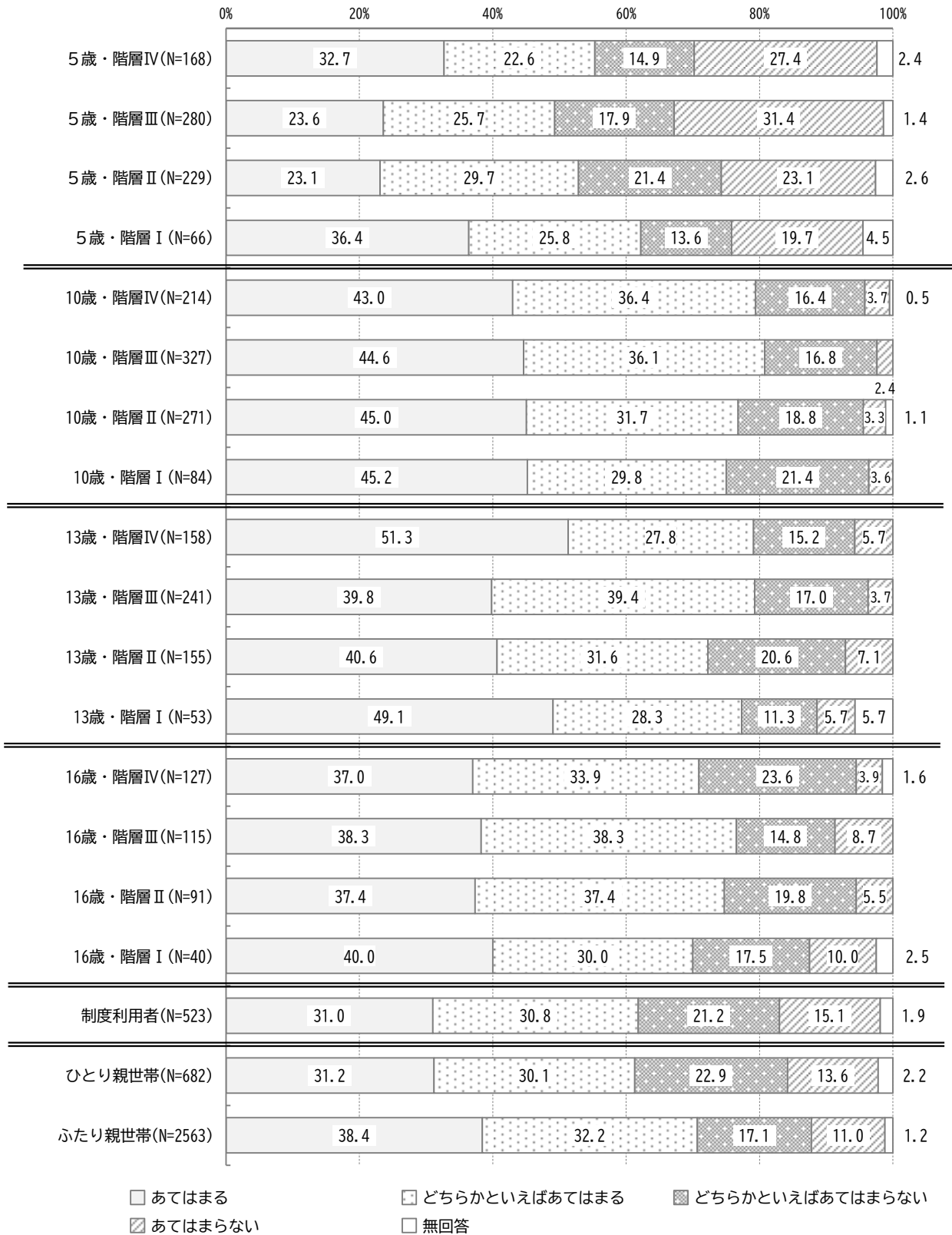
【問 27-1-⑦ 学校の出来事について聞く】

各年齢、制度利用者において、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」が多くなる傾向がみられます。



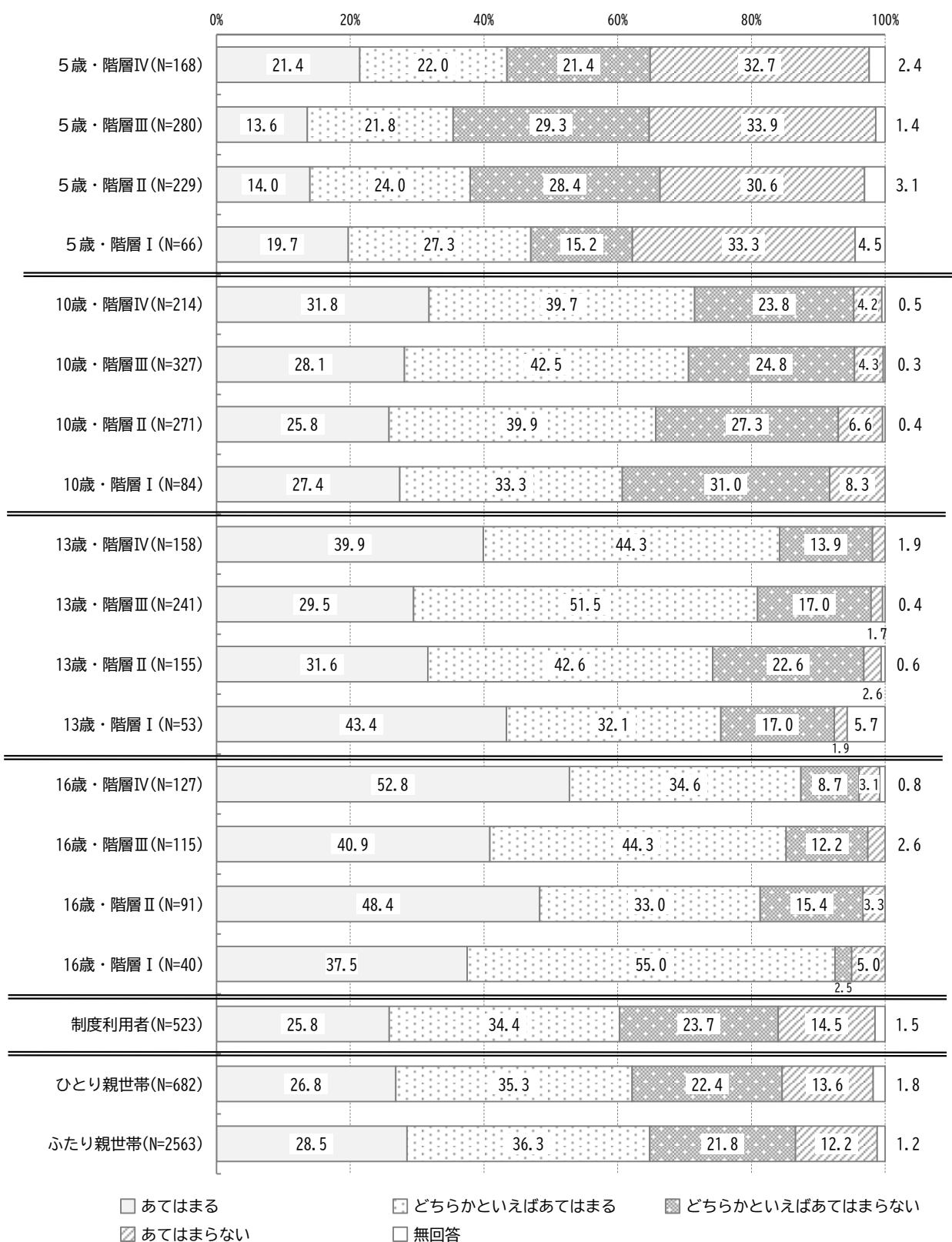
【問 27-1-⑧ お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる】

年齢が上がるにつれて、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」が多くなる傾向がみられます。



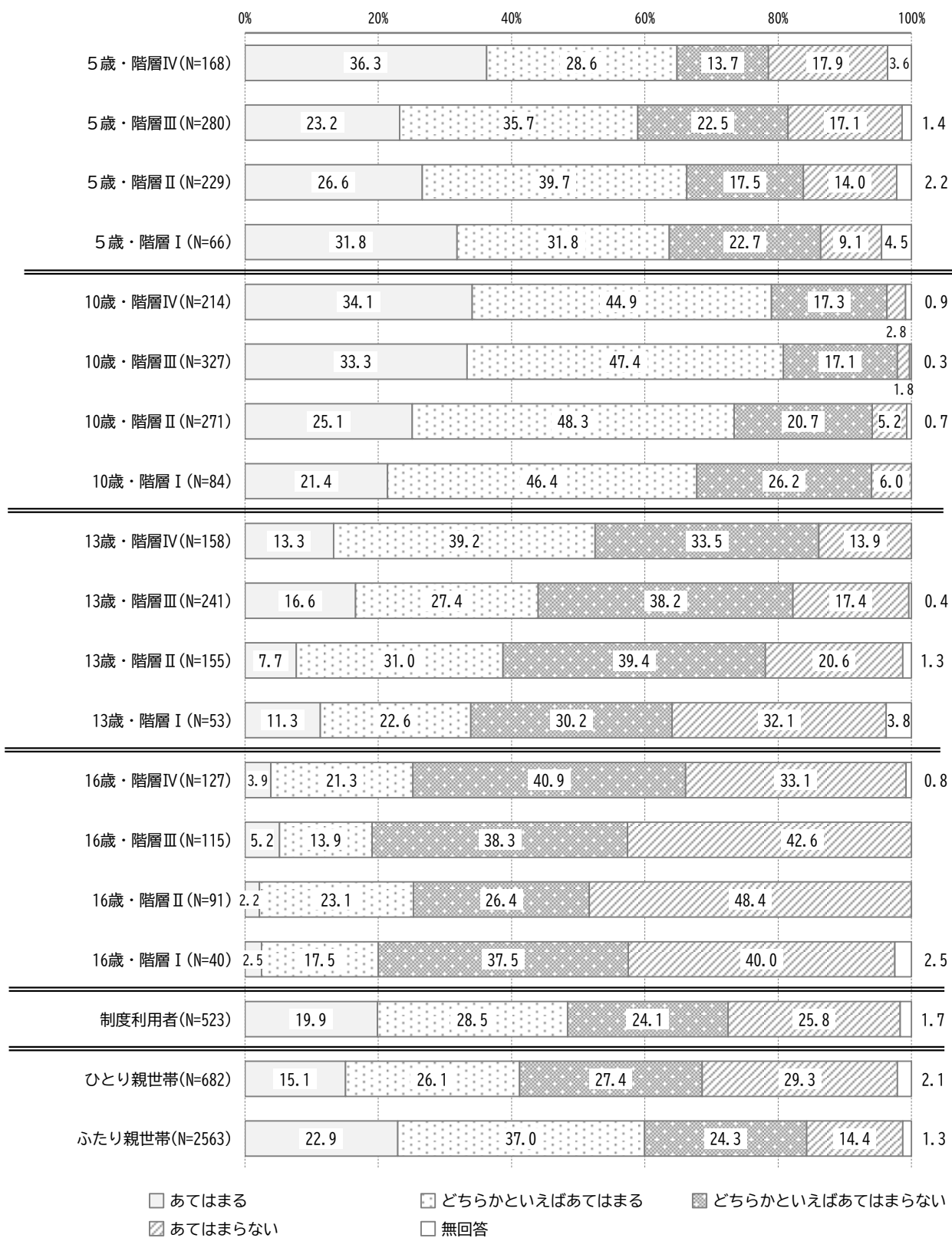
【問 27-1-⑨ 将来や進路についての話をする】

年齢が上がるにつれて、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」が多くなる傾向がみられます。



【問 27-1-⑩ 勉強を教える】

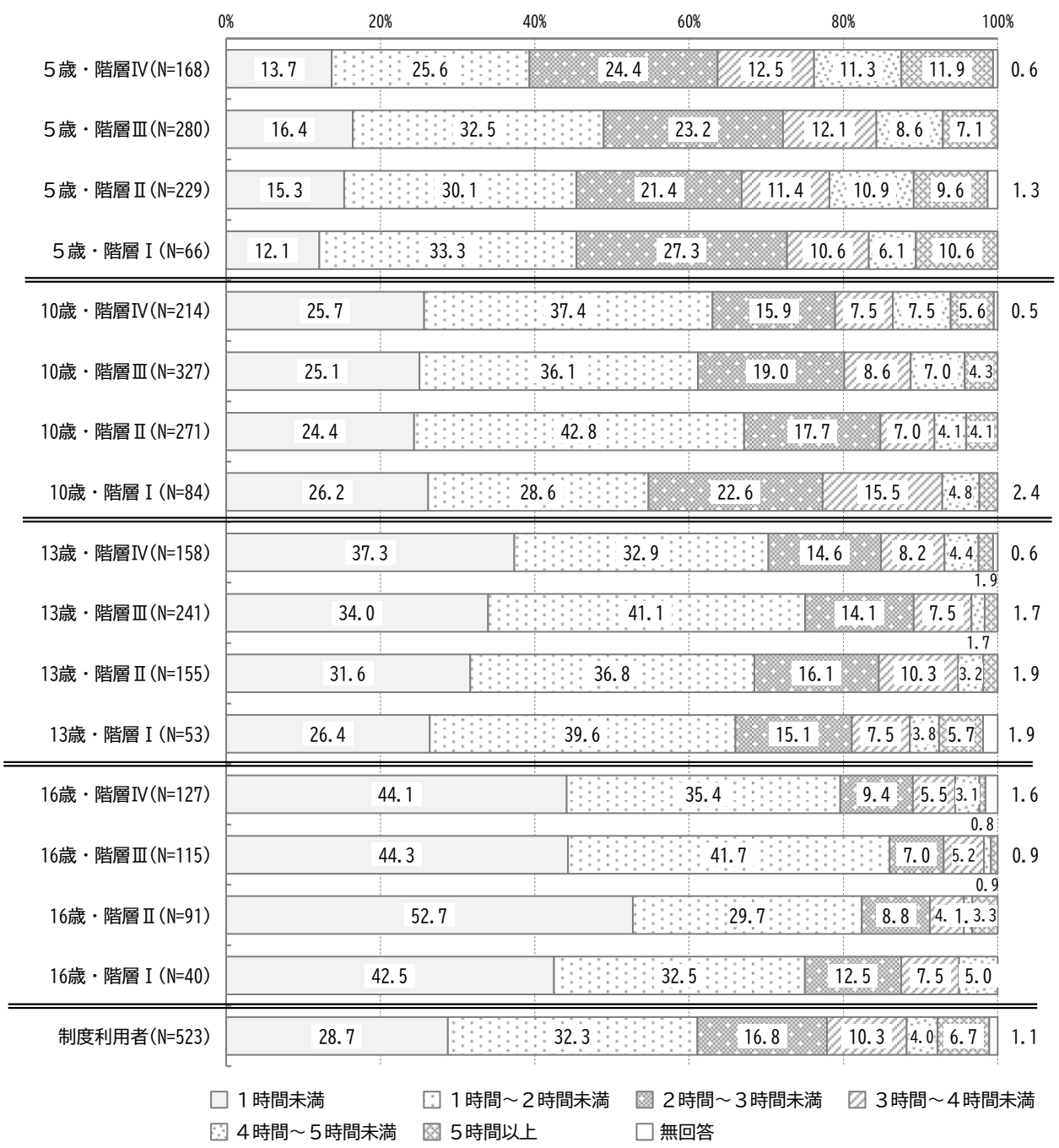
年齢が上がるにつれて、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」が多くなっています。



問 27-2 あなたがお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしたりしている時間は、平日と休日それぞれ1日あたりどれくらいですか。(それぞれ1つ)

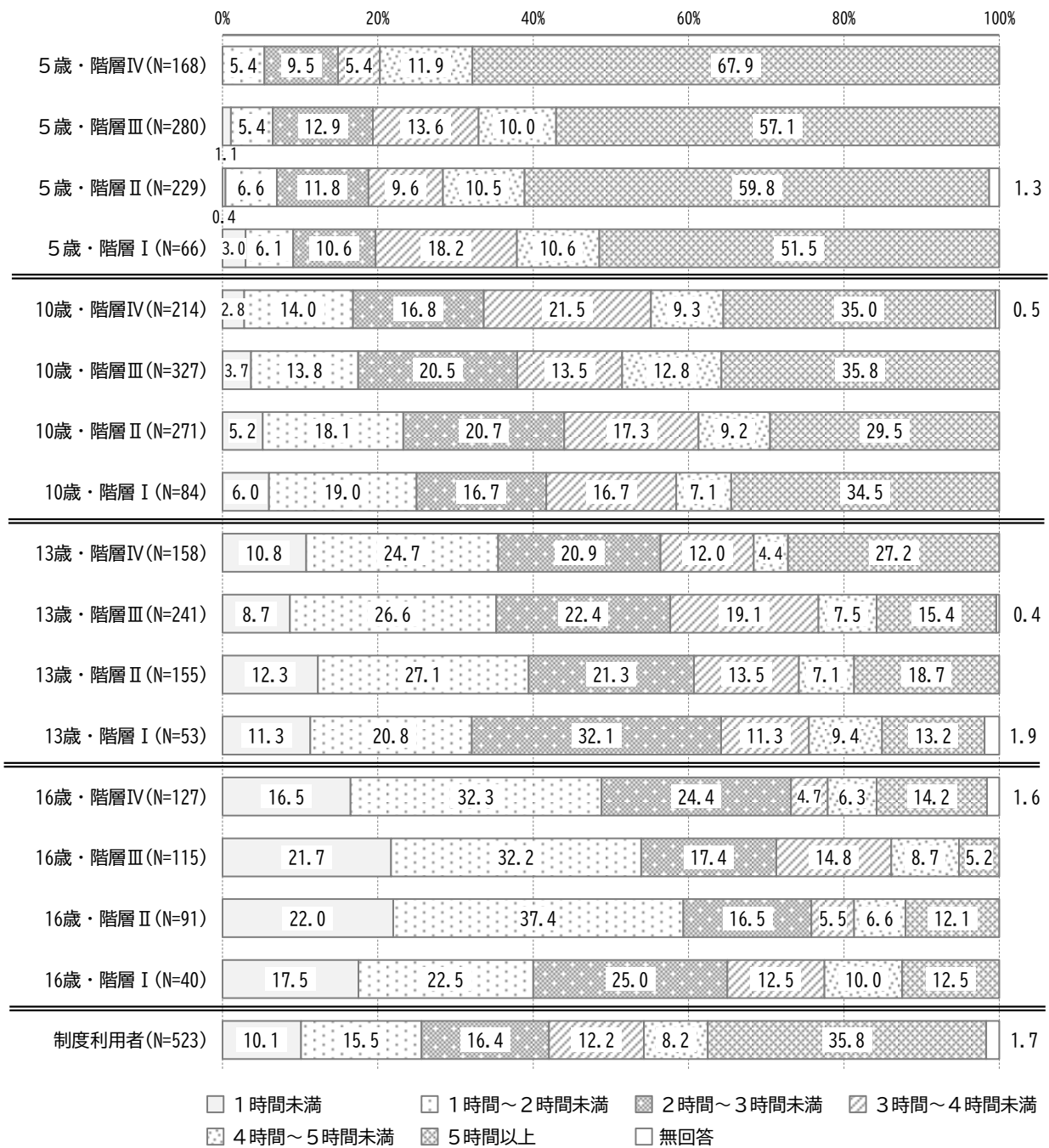
【問 27-2 平日】

年齢が上がるにつれて、「1時間未満」が多くなっています。



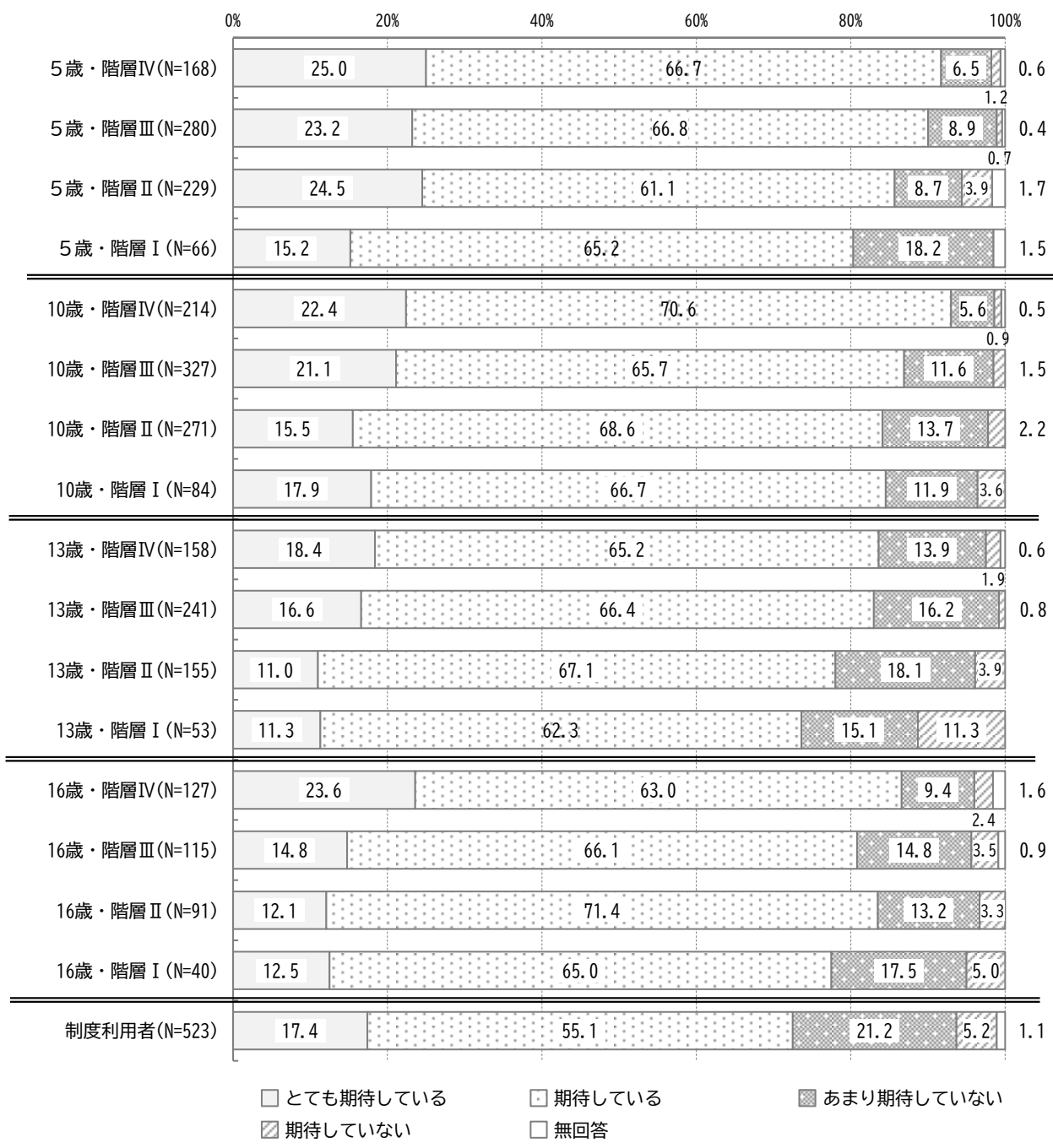
【問 27-2 休日】

年齢が上がるにつれて、「1時間未満」「1時間～2時間未満」が多くなっています。



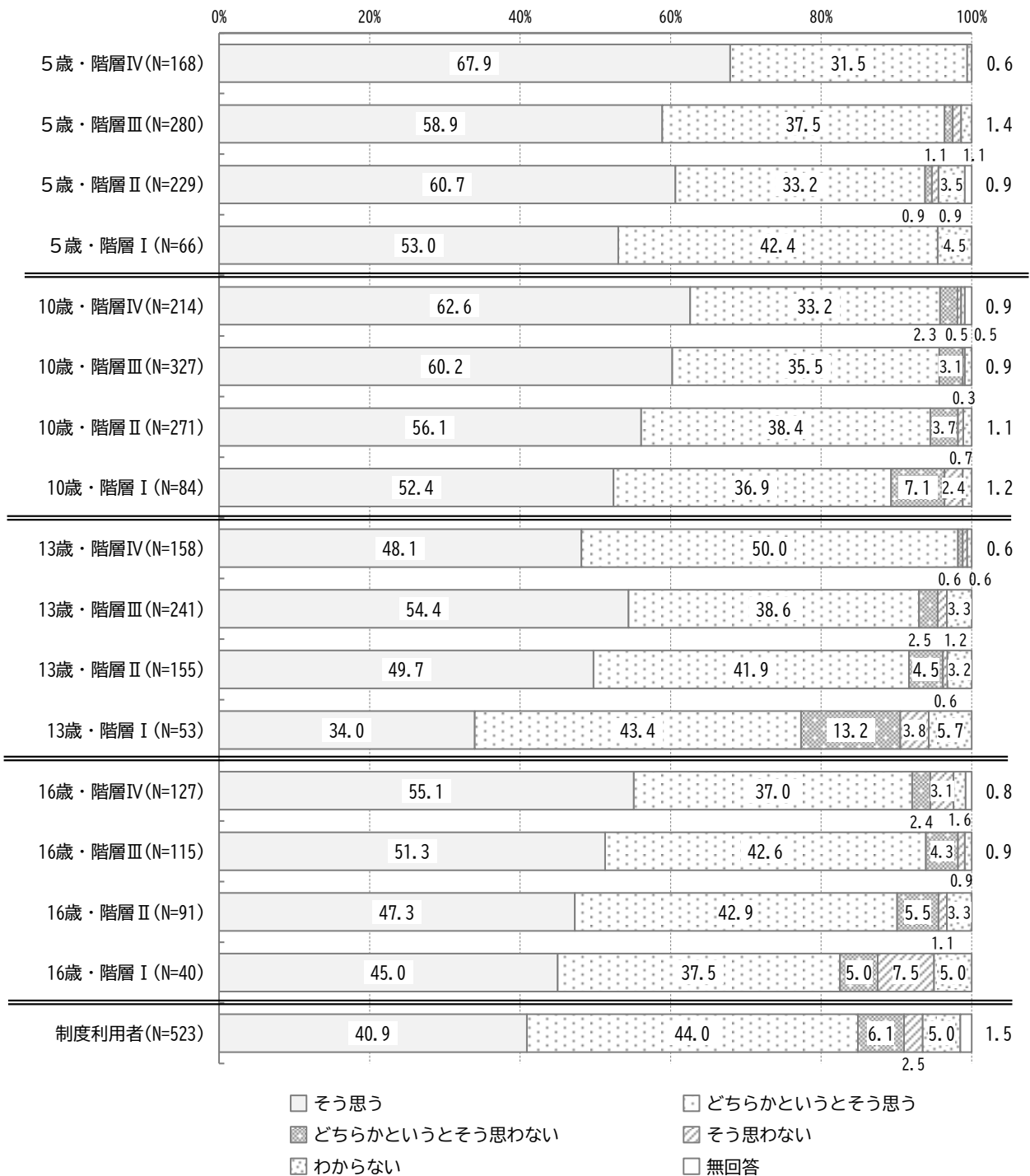
問 27-3 あなたは、お子さんの将来に期待していますか。(あてはまるもの1つ)

各年齢、制度利用者ともに「期待している」「とても期待している」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて「あまり期待していない」「期待していない」が多くなる傾向がみられます。



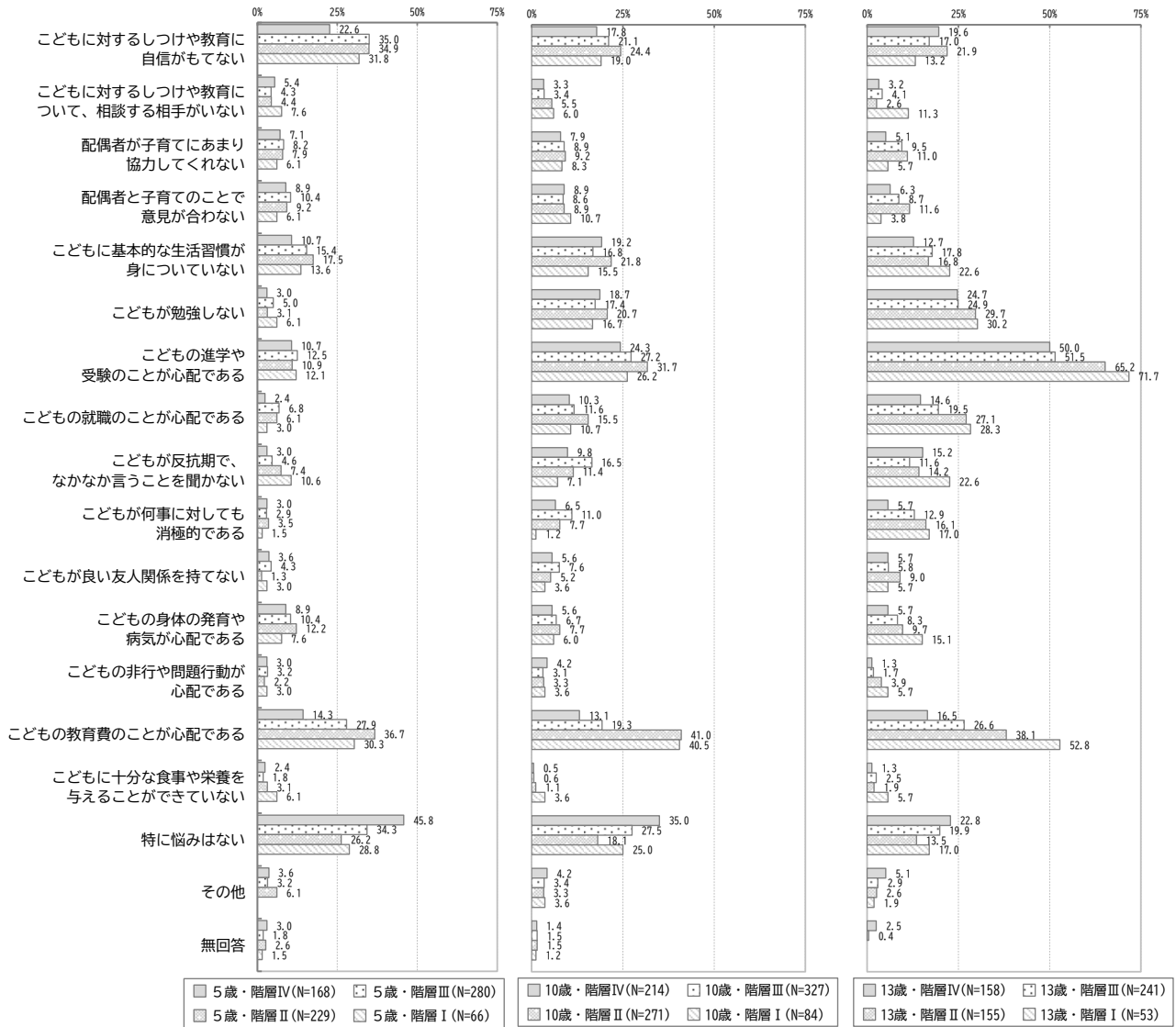
問 27-4 お子さんは自分の家を居心地がいいと感じていると思いますか。(あてはまるもの1つ)

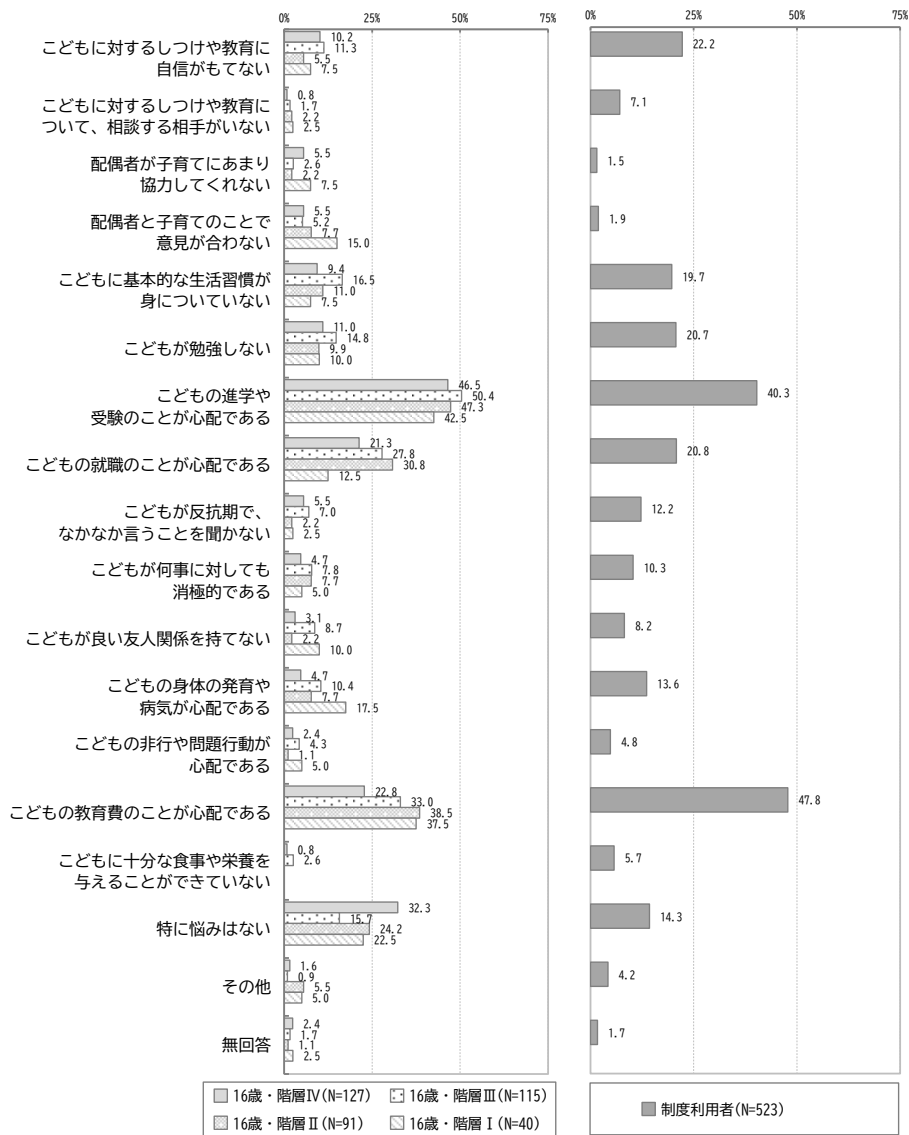
各年齢、制度利用者ともに「そう思う」「どちらかというと思う」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて「どちらかというと思わない」「そう思わない」が多くなる傾向がみられます。



問 28 お子さんについて、現在悩んでいることはありますか。(あてはまるものすべて)

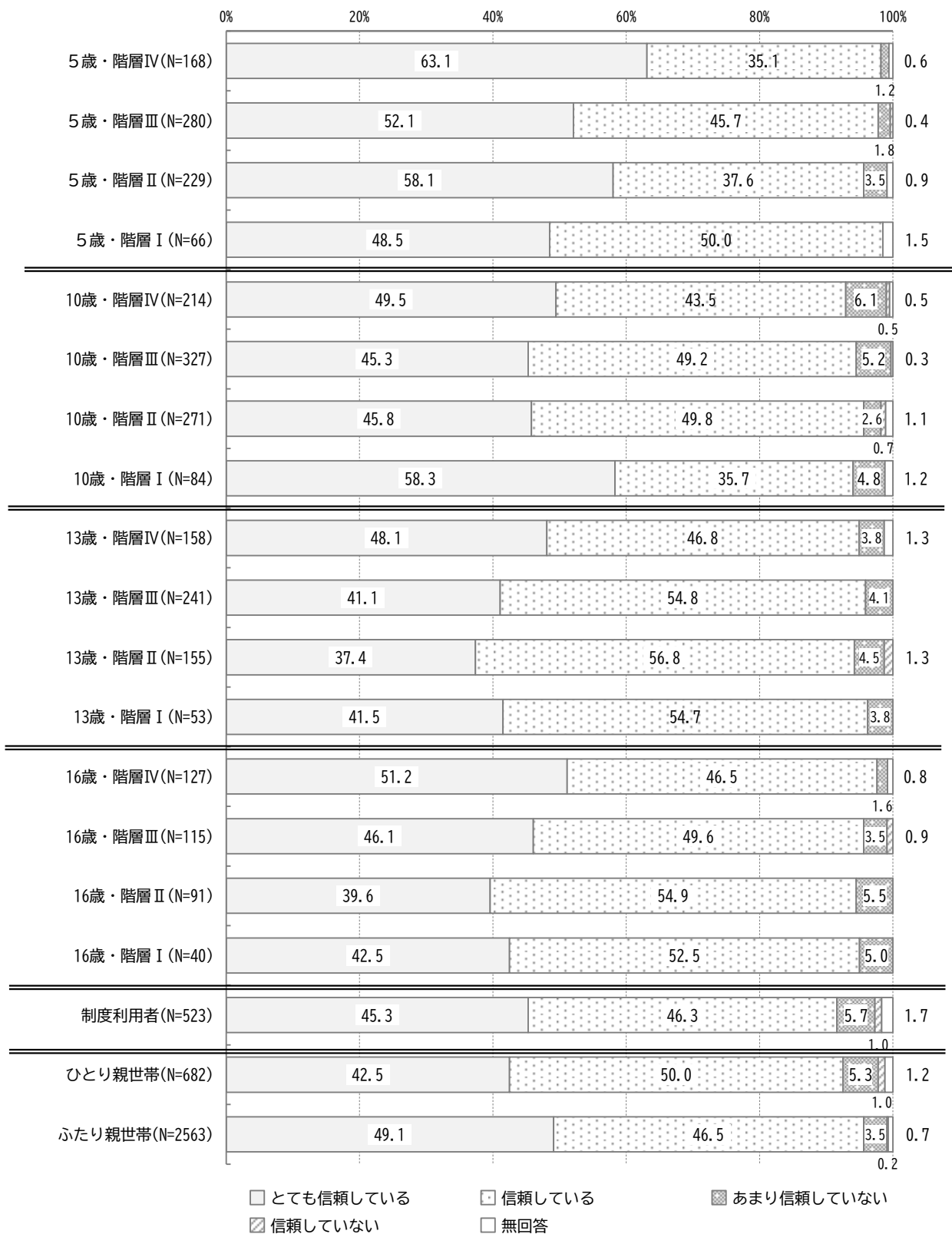
年齢が上がるにつれて、「子どもの進学や受験のことが心配である」「子どもの教育費のことが心配である」が多くなっています。





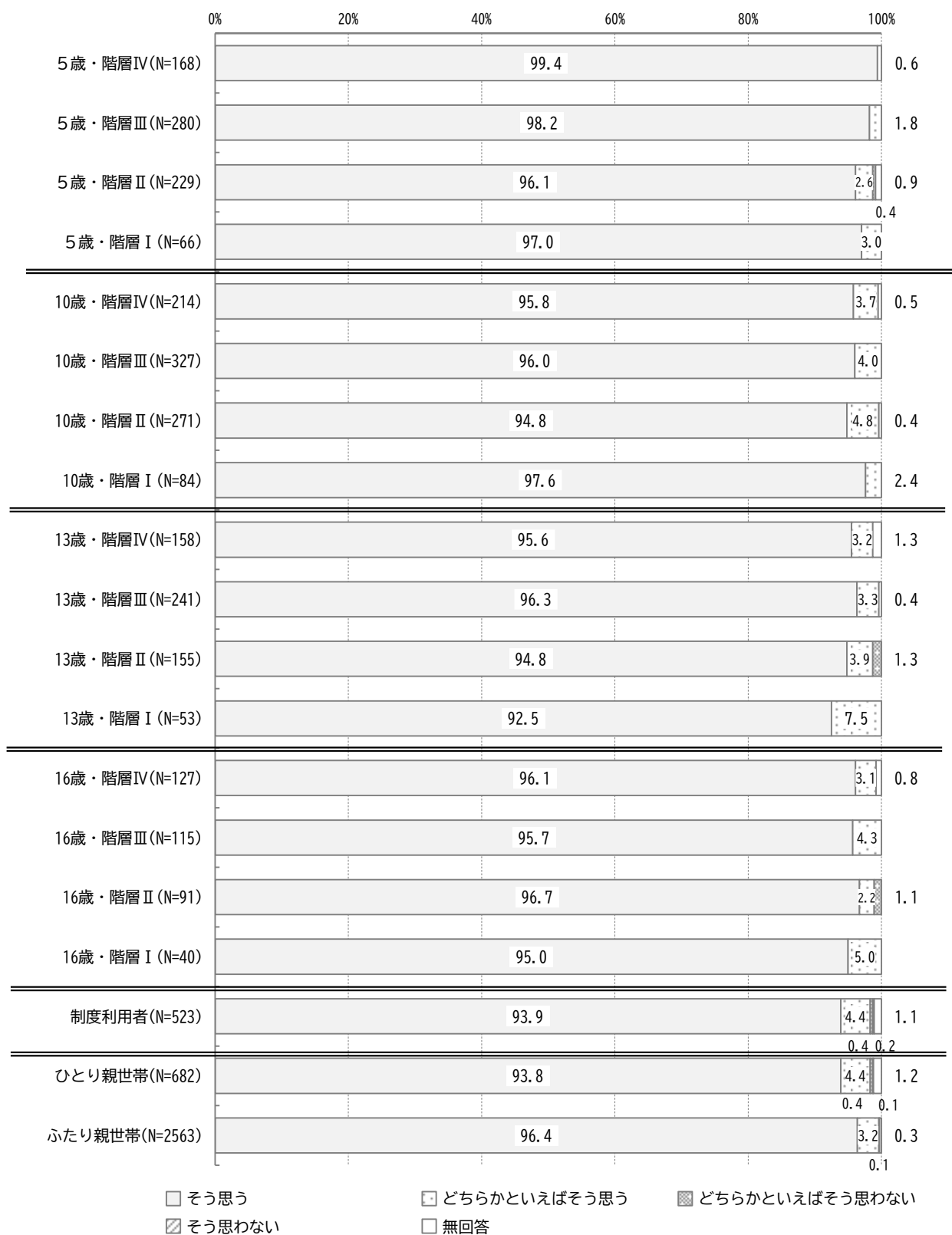
問 29-1 あなたは、お子さんを信頼していますか。(あてはまるもの1つ)

各年齢・階層による大きな差はみられません。



問 29-2 あなたにとって、お子さんは大切な存在ですか。(あてはまるもの1つ)

各年齢・階層による大きな差はみられません。

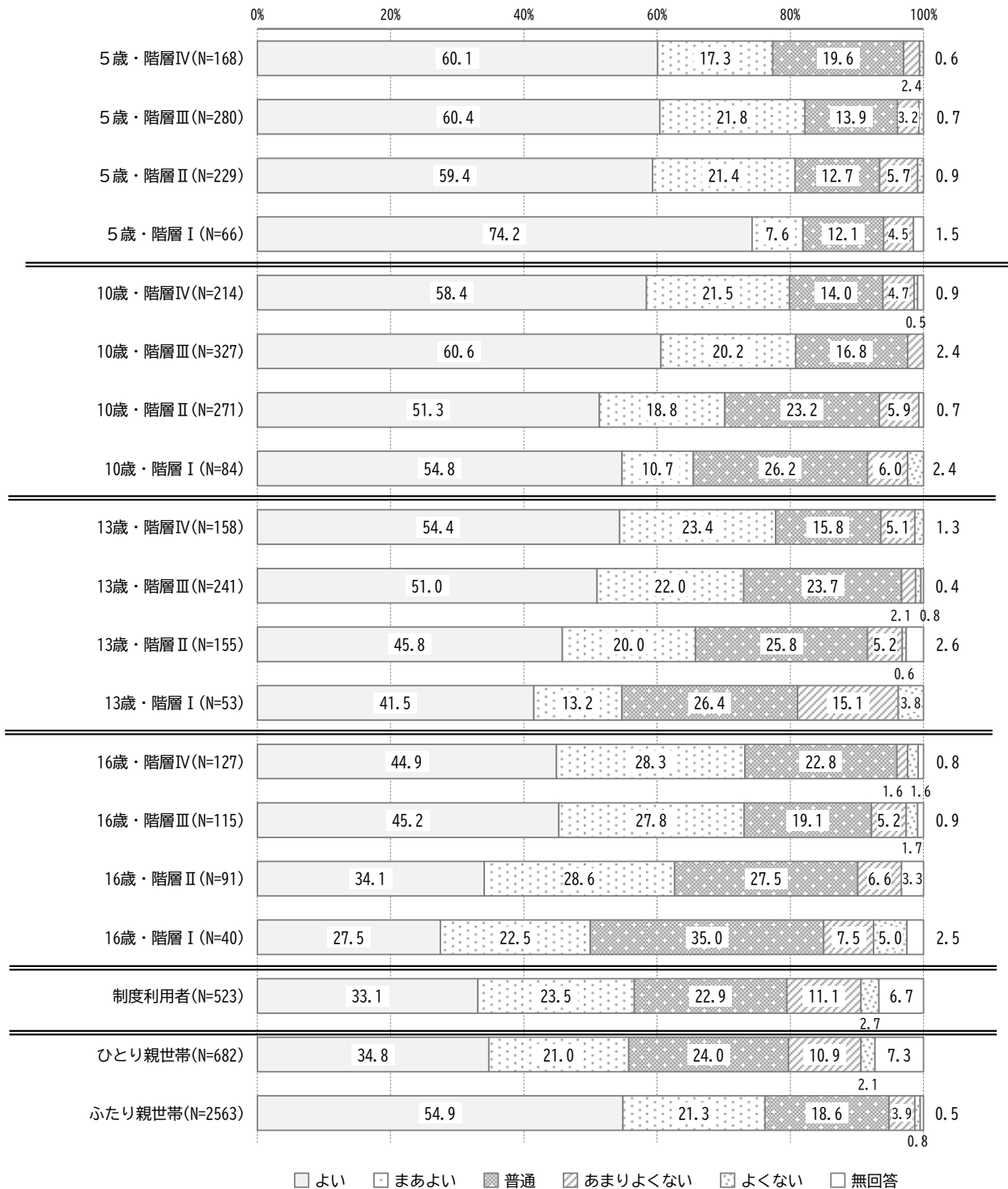


## 5. 回答者と回答者の配偶者の状況

問 30 あなたとあなたの配偶者の現在の健康状態を教えてください。(あてはまるもの1つ)

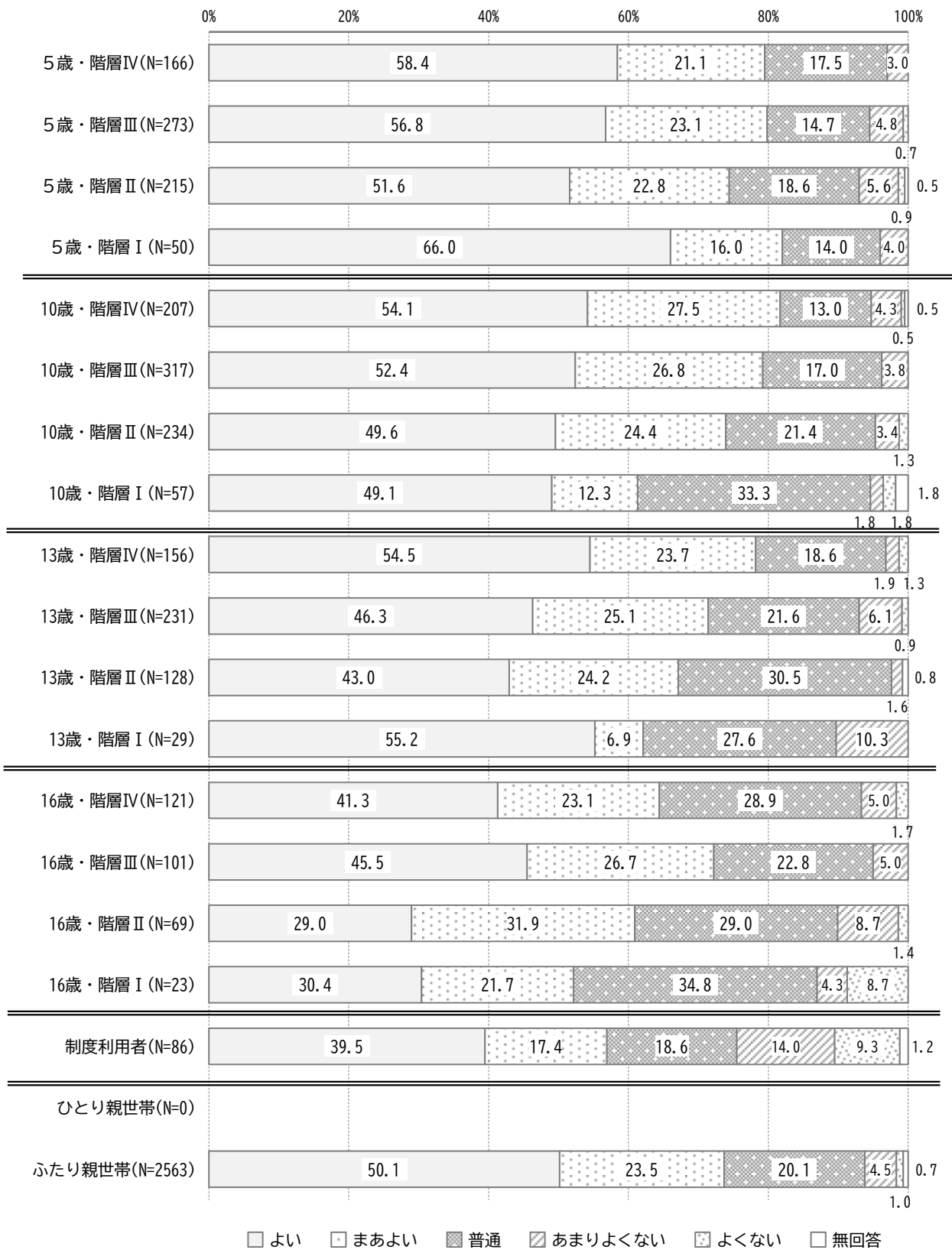
【問 30 あなた】

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「あまりよくない」「よくない」が多くなる傾向にあります。



【問 30 あなたの配偶者】

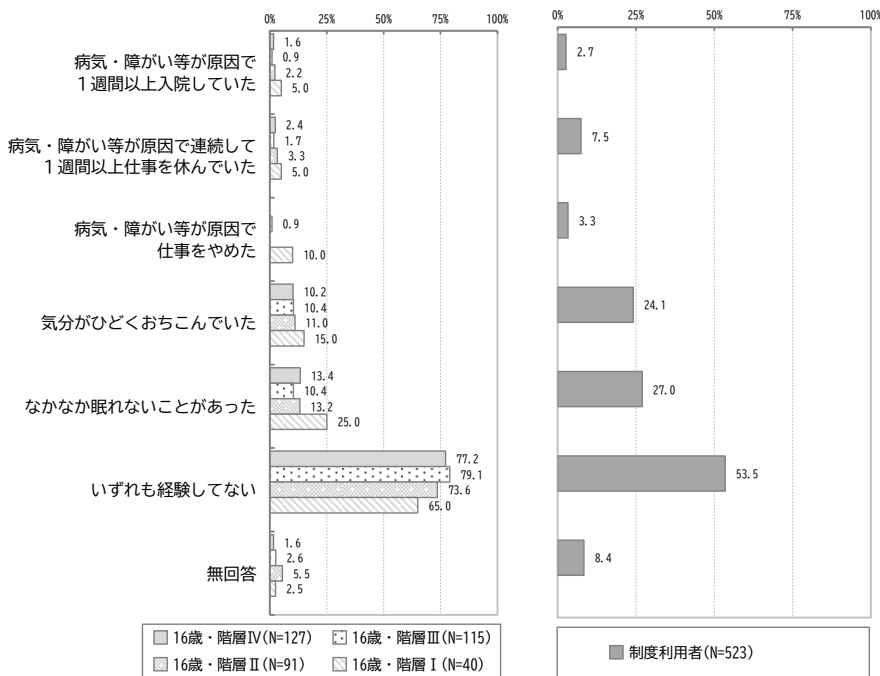
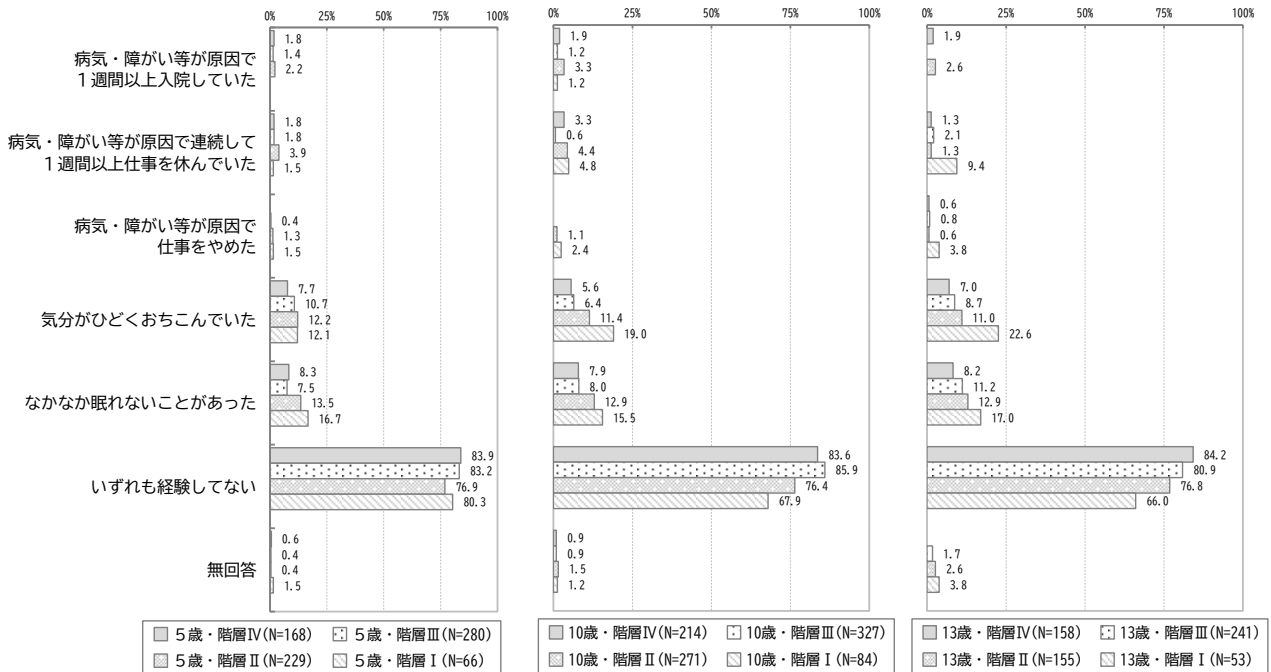
いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「あまりよくない」「よくない」が多くなる傾向にあります。



問 31-1 あなたとあなたの配偶者は、過去1年間で、病気・障がい等に関する次のような経験がありますか。(あてはまるものすべて)

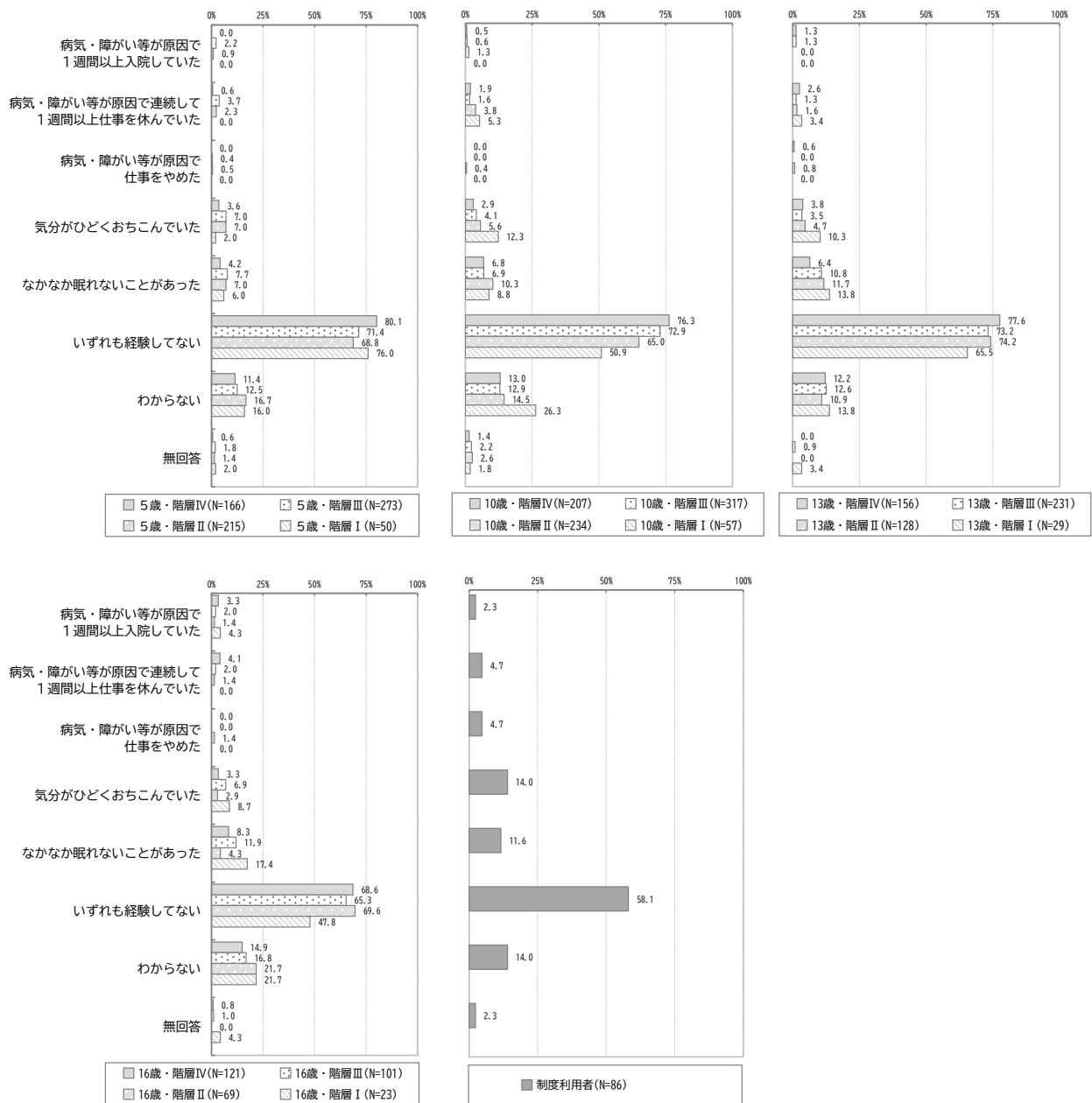
【問 31-1 あなた】

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「気分がひどくおちこんでいた」「なかなか眠れないことがあった」が多くなる傾向にあります。



【問 31-1 あなたの配偶者】

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「気分がひどくおちこんでいた」が多くなる傾向にあります。



問 31-1 で「1」～「3」のいずれかを回答した方にかがいます。

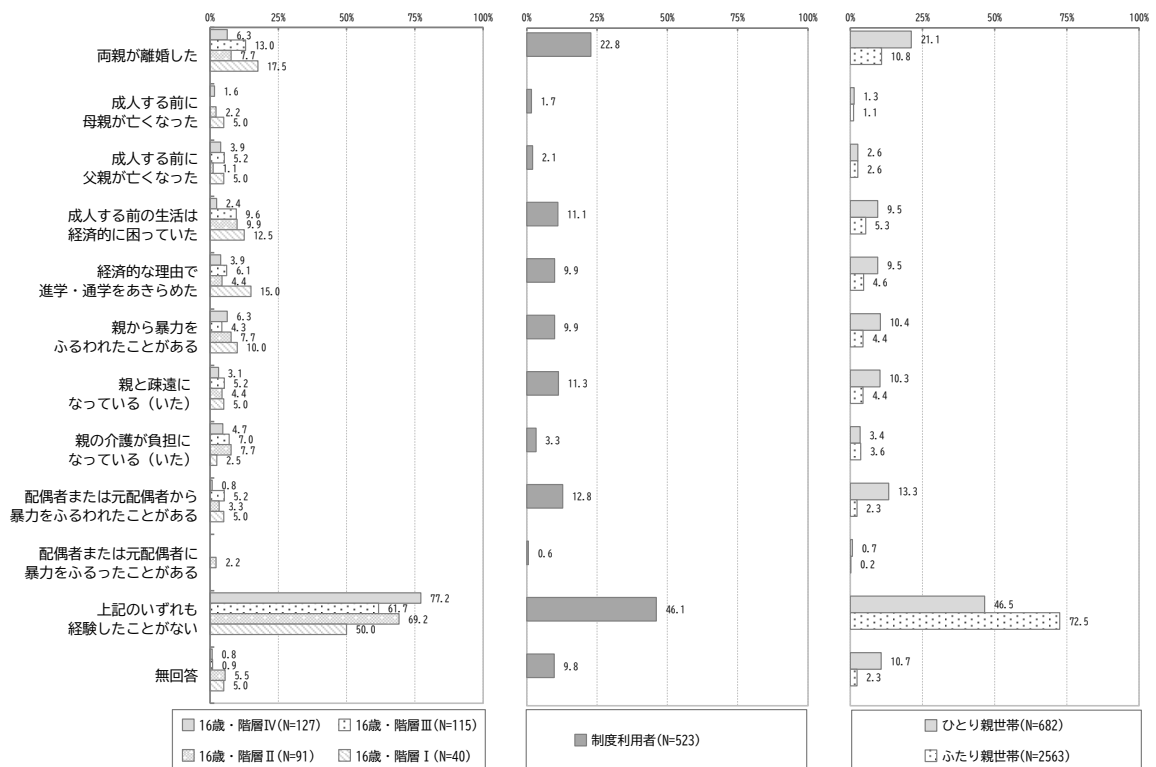
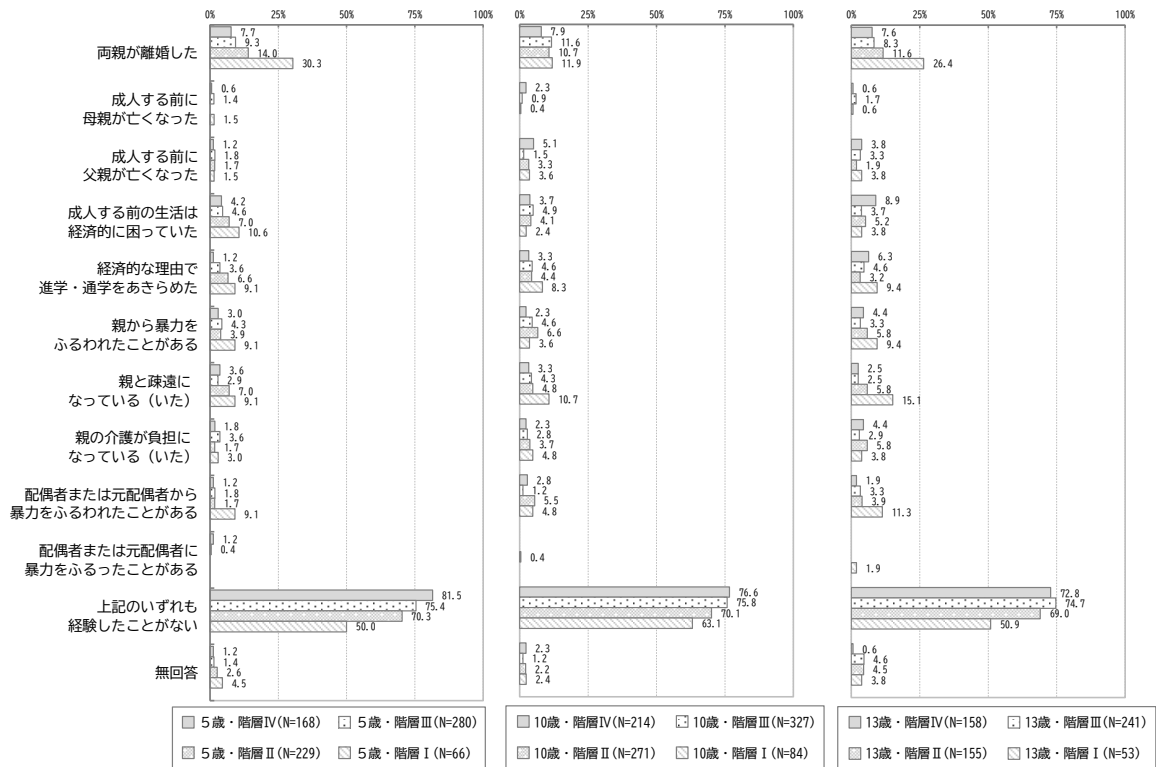
問 31-2 差し支えない範囲で、病名や障害の種類について教えてください。

個人の健康状態に関する情報を含むため、掲載を省略しています。

問 32 あなたとあなたの配偶者は、次のような経験をしたことがありますか。  
(あてはまるものすべて)

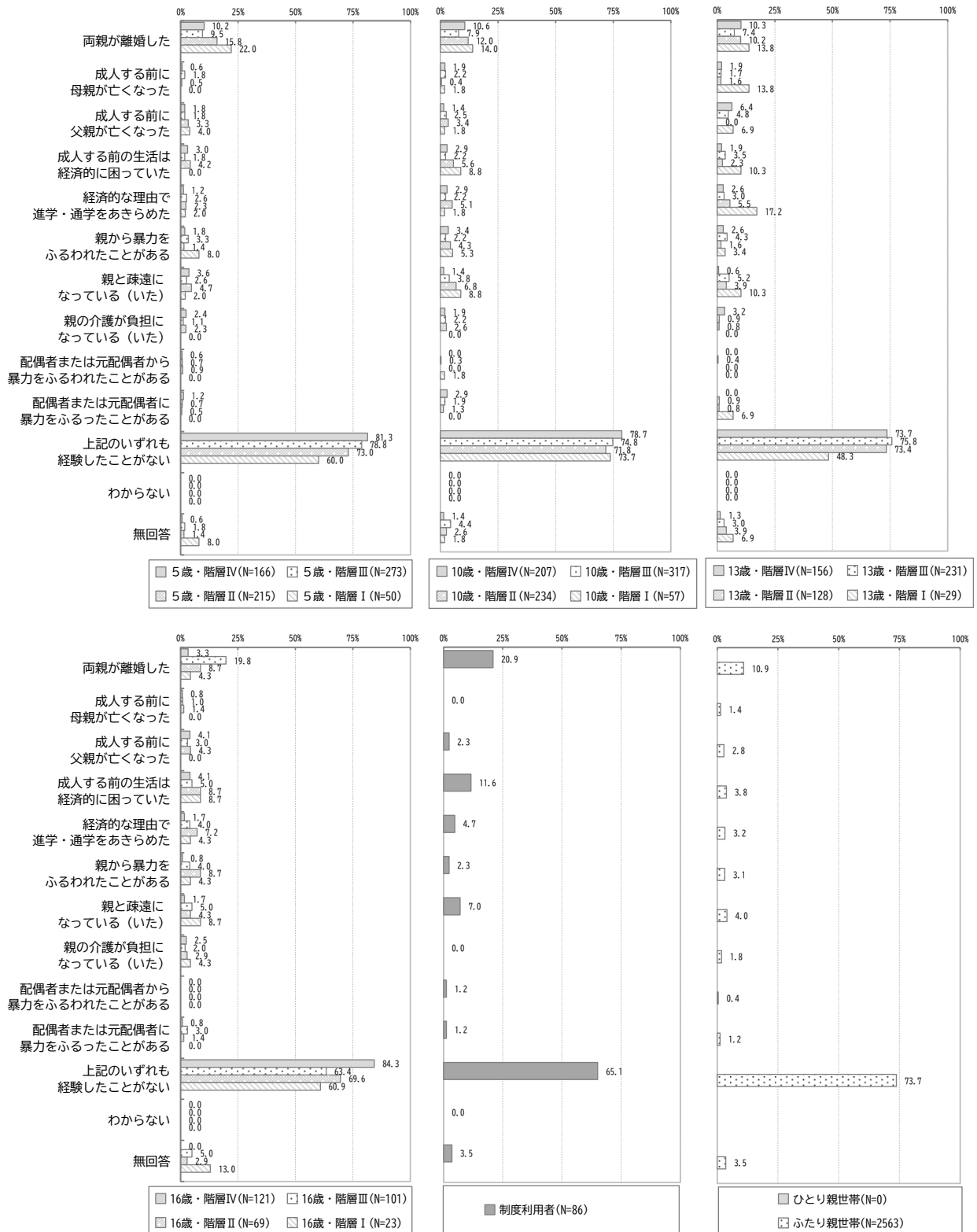
【問 32 あなた】

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「両親が離婚した」「配偶者または元配偶者に暴力をふるわれたことがある」が多くなる傾向にあります。



## 【問 32 あなたの配偶者】

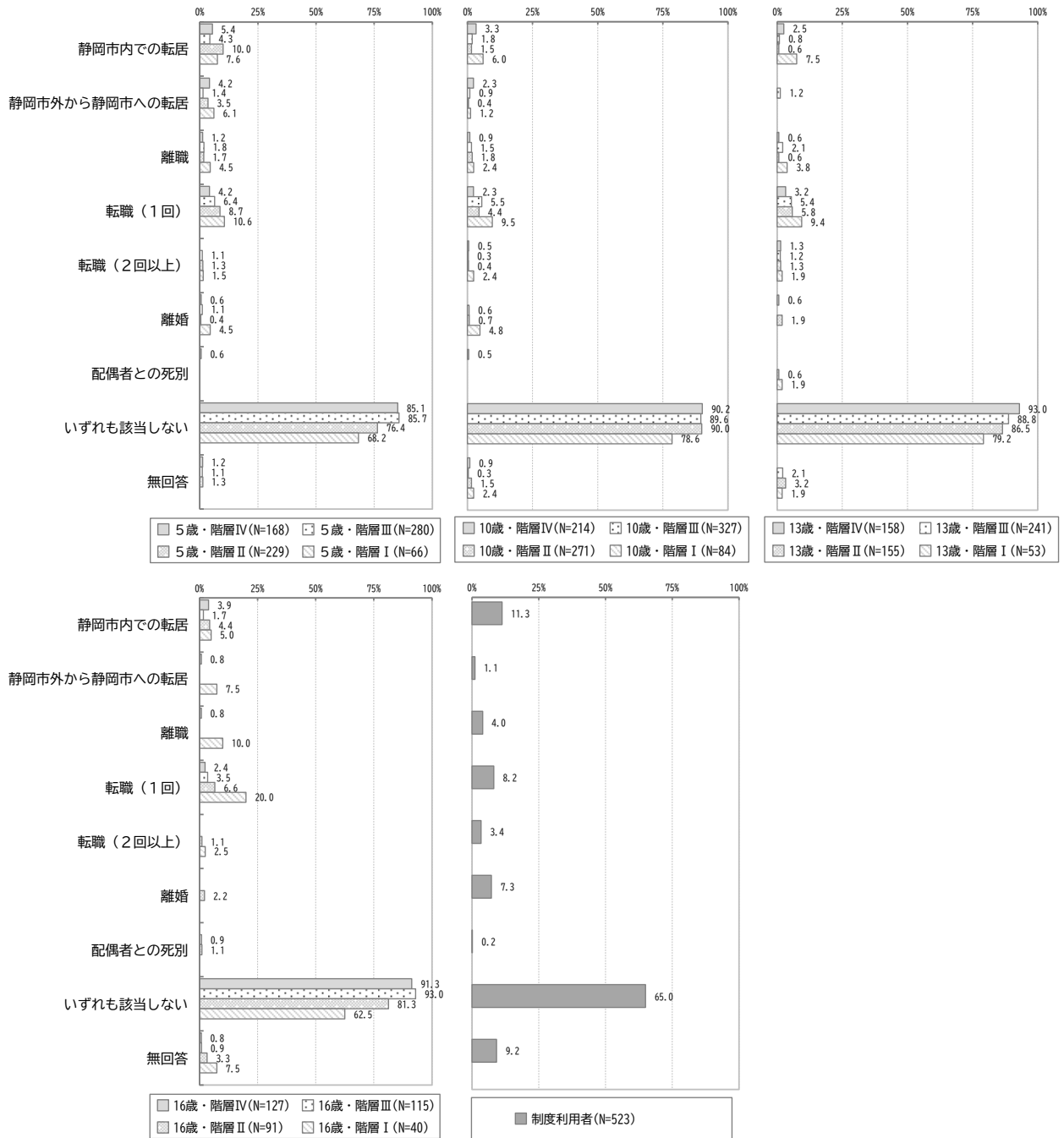
いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「両親が離婚した」が多くなる傾向にあります。



問 33 あなたとあなたの配偶者は過去1年間に次のようなことを経験しましたか。  
(あてはまるものすべて)

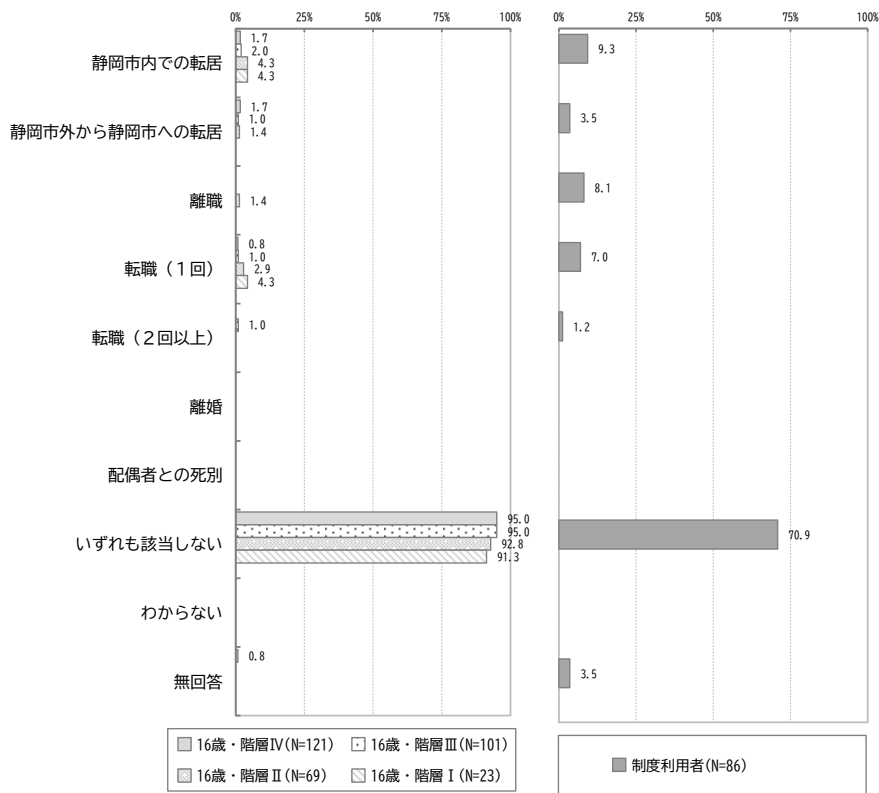
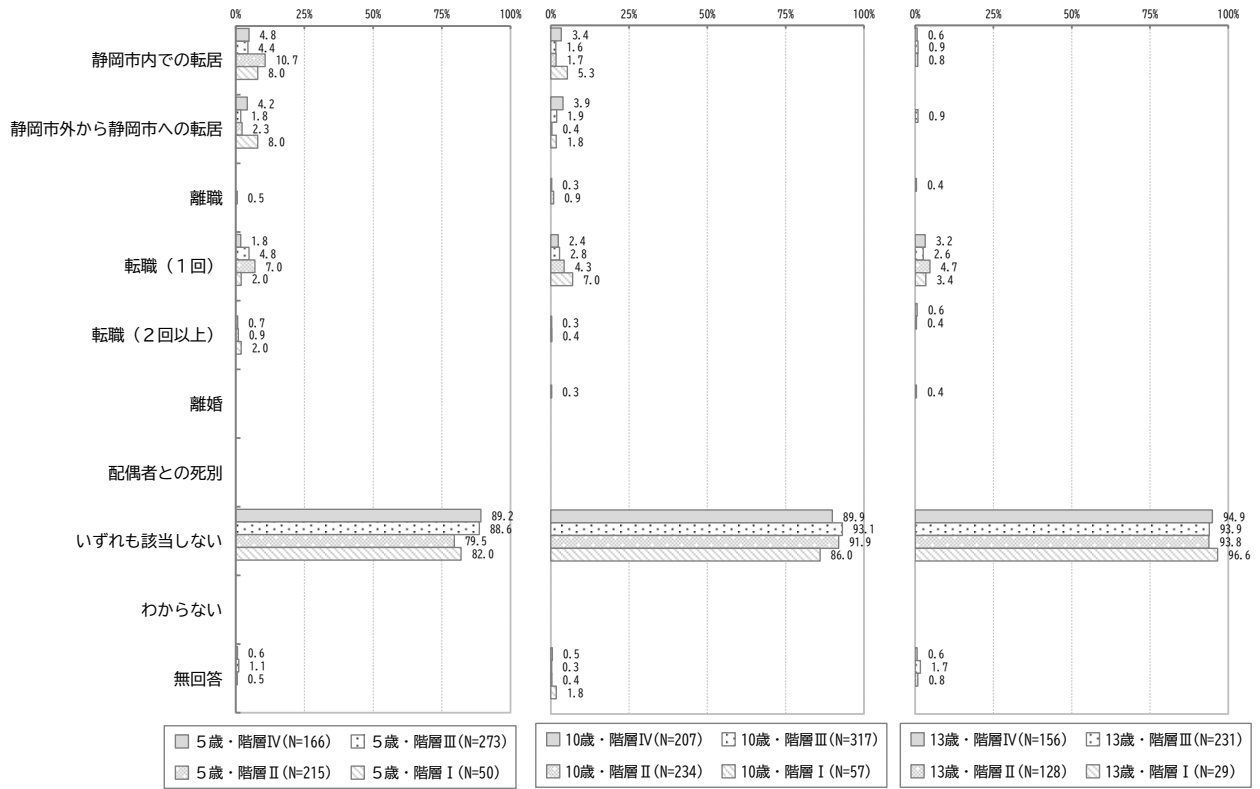
【問 33 あなた】

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「転職（1回）」が多くなる傾向にあります。



【問 33 あなたの配偶者】

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「転職（1回）」が多くなる傾向にあります。



問 34-1 あなたとあなたの配偶者の子育てについて、現在心おきなく相談できる相手がありますか。  
(あてはまるもの1つ)

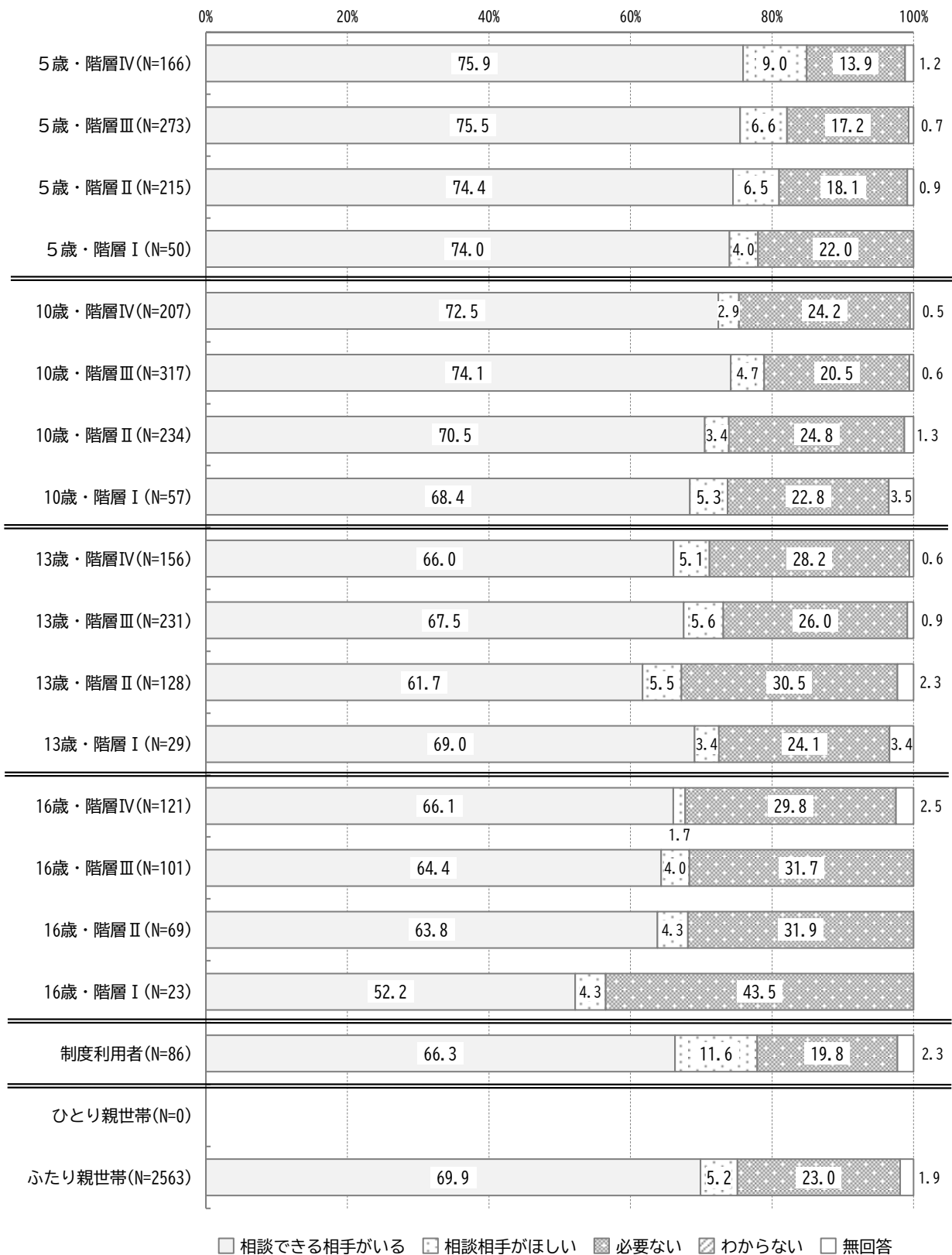
【問 34-1 あなた】

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「相談相手がほしい」が多くなる傾向にあります。



【問 34-1 あなたの配偶者】

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「必要ない」が多くなる傾向にあります。

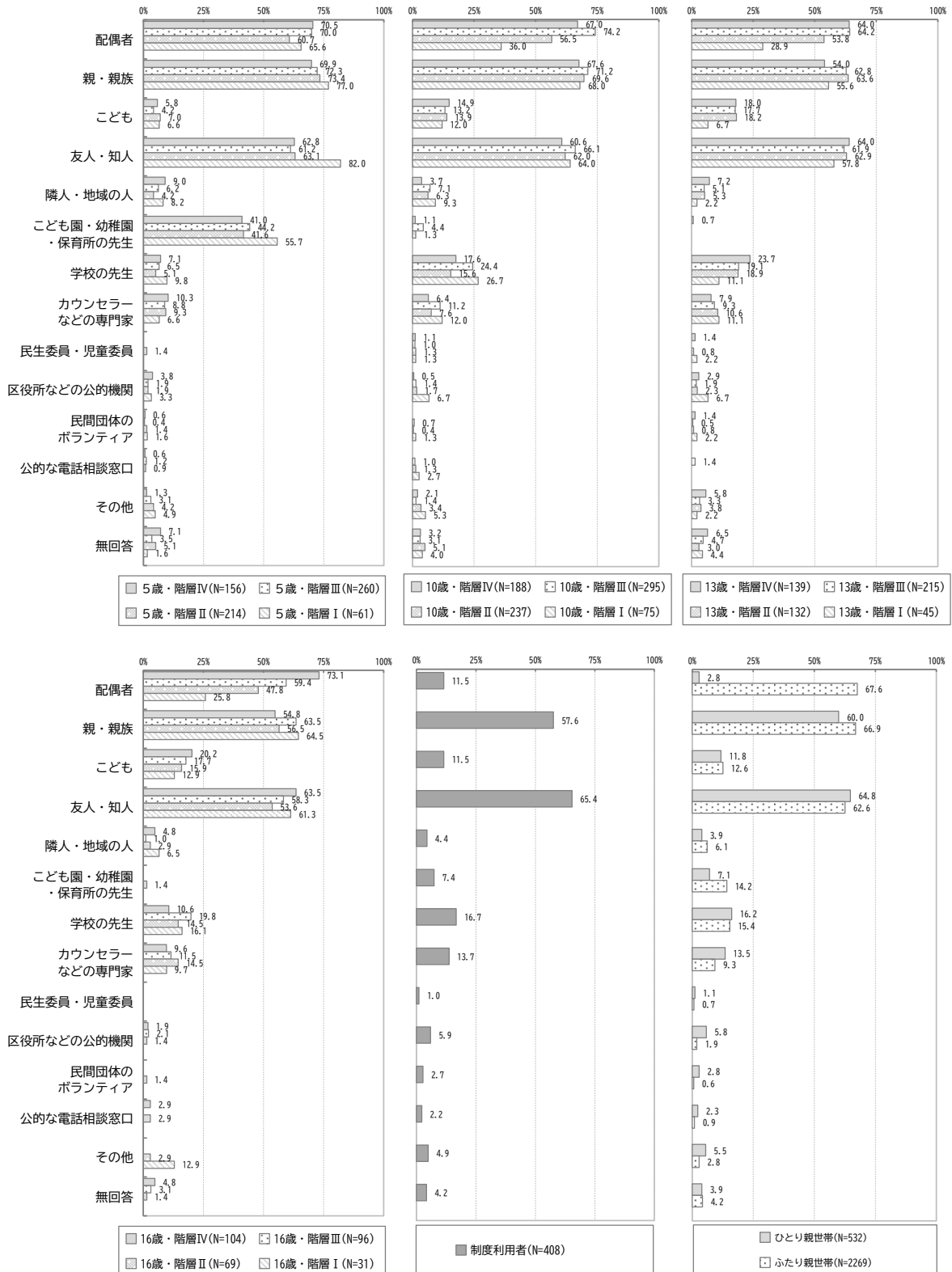


問 34-1 で「1. 相談できる相手がいる」「2. 相談相手がほしい」と回答した方にうかがいます。

問 34-2 その相談相手は誰ですか、また相談相手がほしい方はどのような相手に相談したいと思えますか。(あてはまるものすべて)

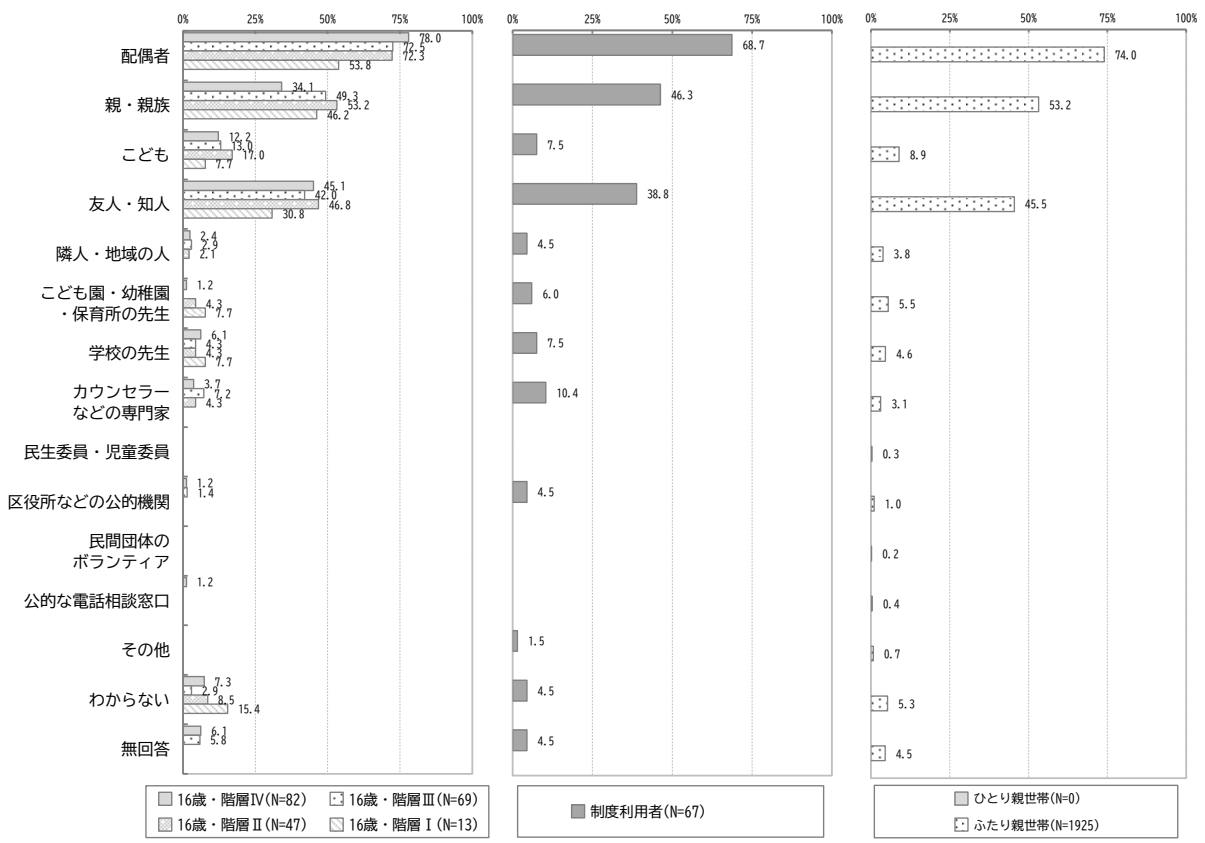
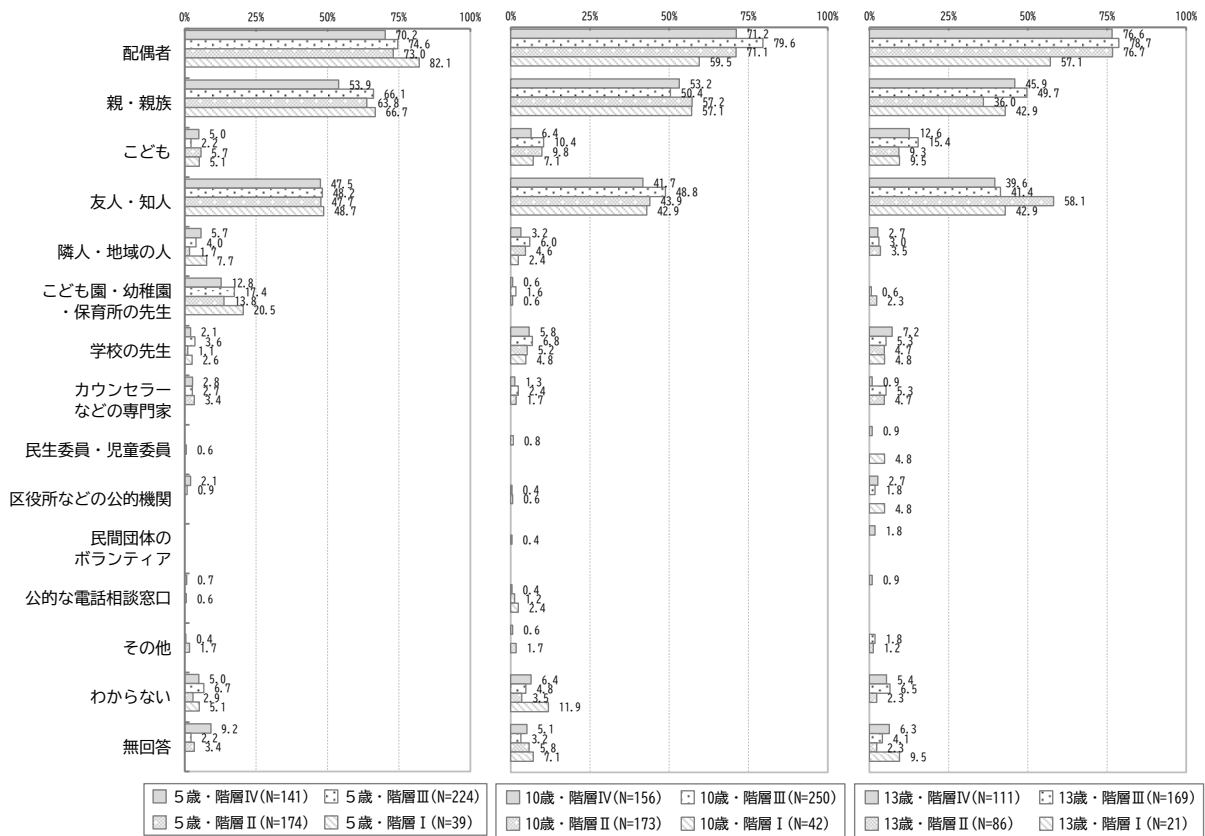
【問 34-2 あなた】

各年齢・階層で「配偶者」「親・親族」「友人・知人」が多くなっていますが、年齢が上がるとしてがって「子ども」が多くなっています。



【問 34-2 あなたの配偶者】

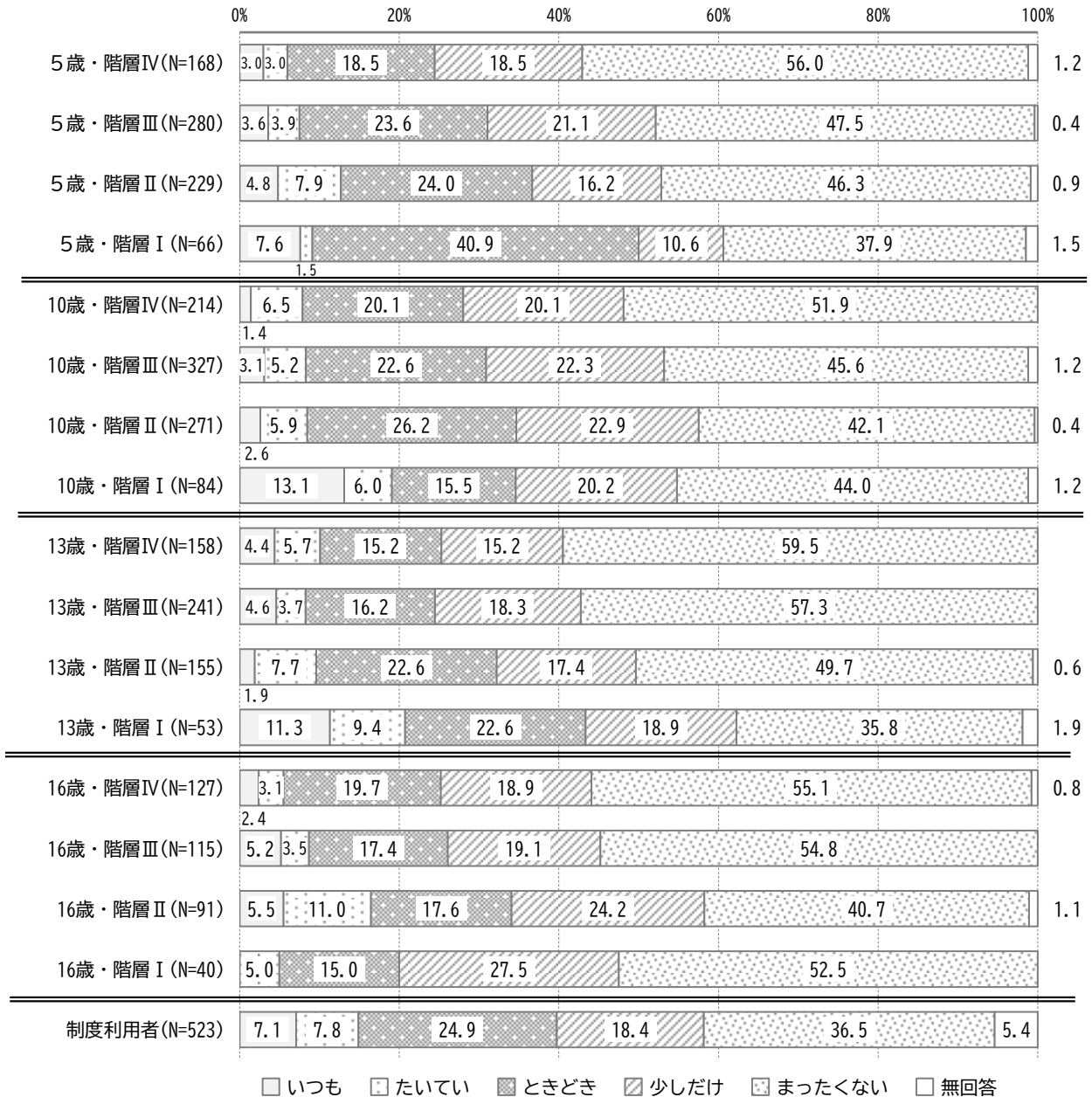
各年齢・階層で「配偶者」「親・親族」「友人・知人」が多くなっていますが、年齢が上がるにしたがって「子ども」が多くなっています。



問 35 次の①～⑥について、この1か月あなたの気持ちはどうでしたか。

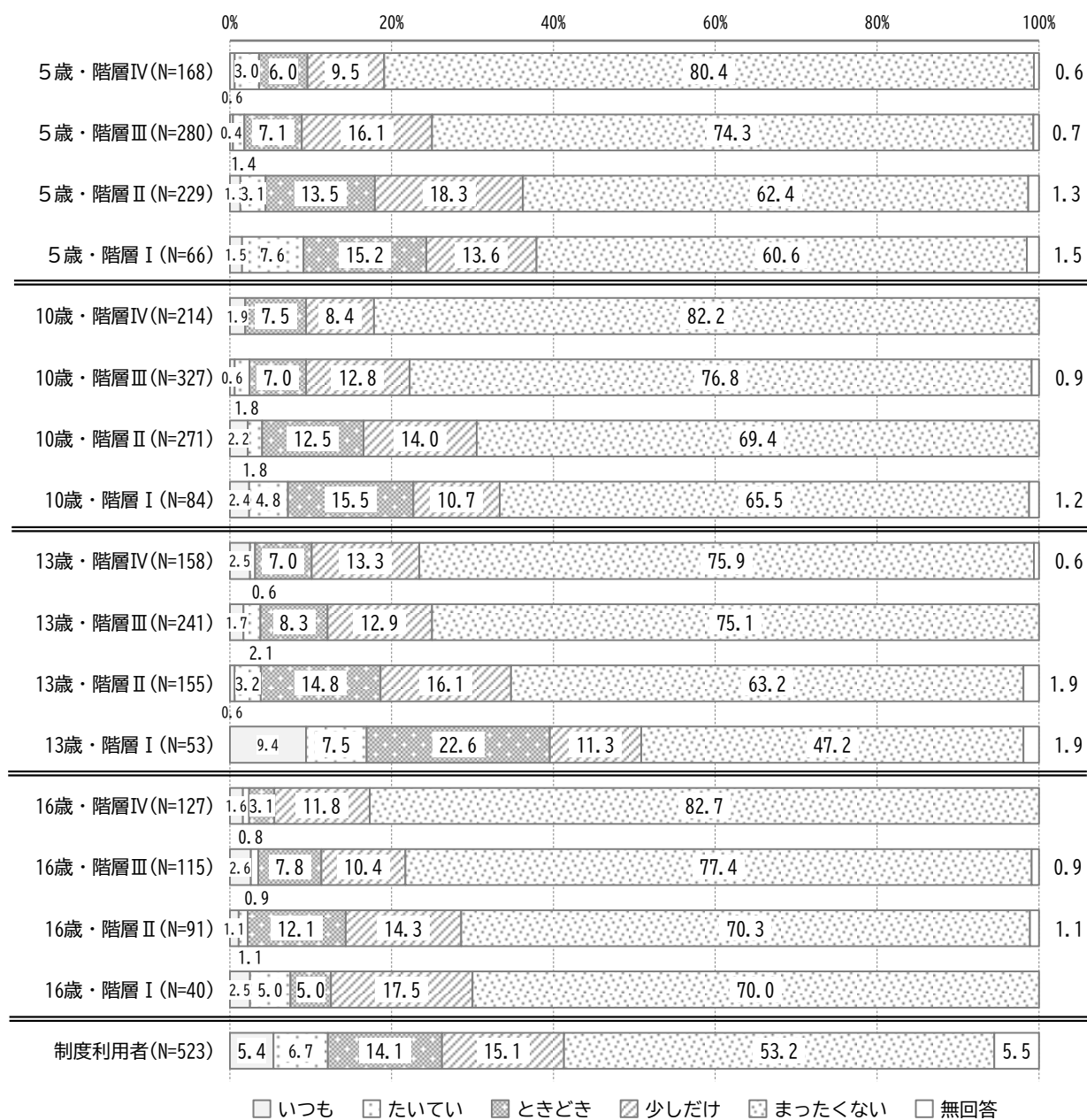
【問 35-① 神経過敏に感じた】

各年齢、制度利用者ともに、「まったくない」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて「いつも」「たいてい」「ときどき」が多くなる傾向がみられます。



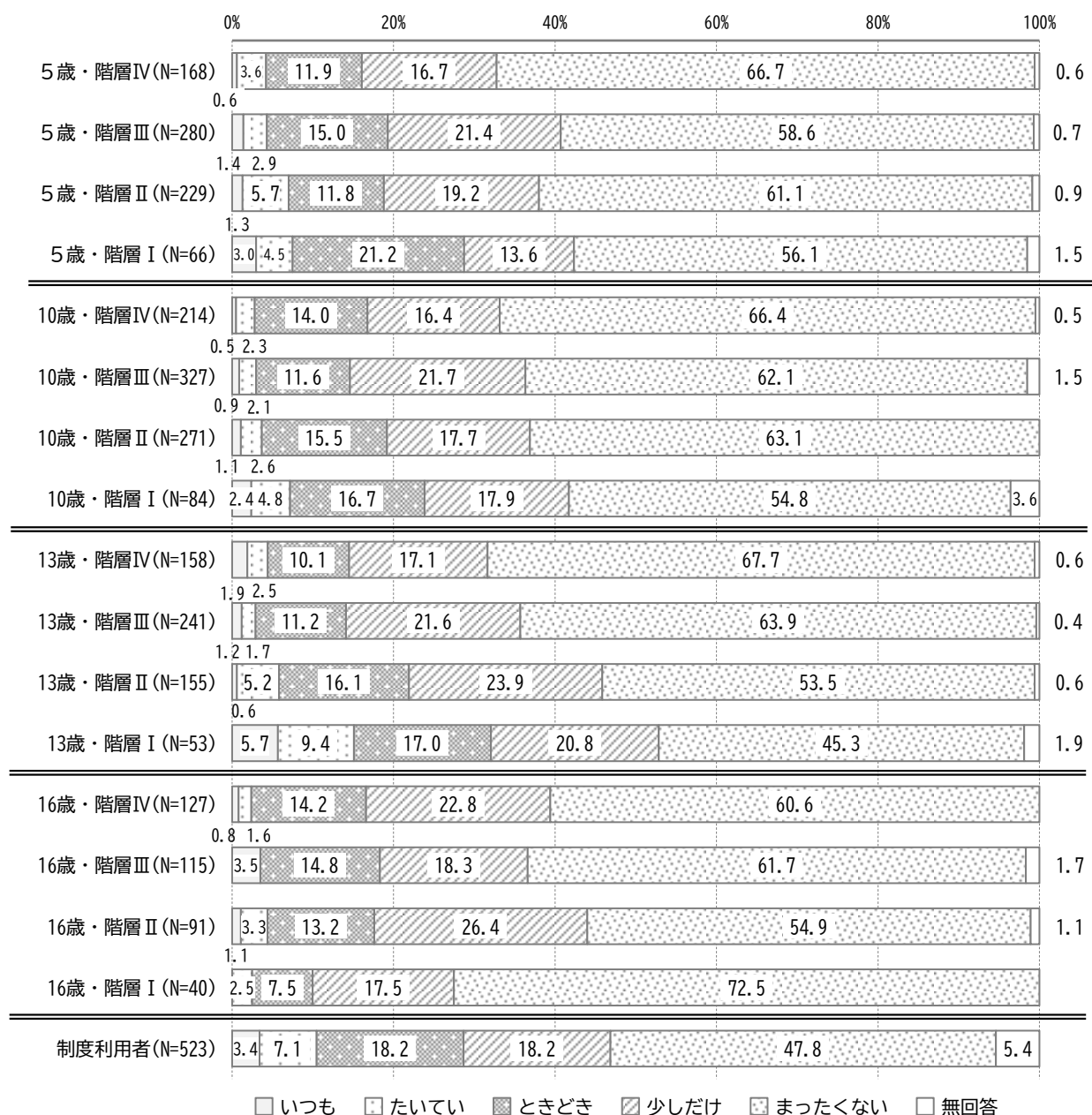
【問 35-② 絶望的だと感じた】

各年齢、制度利用者ともに、「まったくない」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて「いつも」「たいてい」「ときどき」が多くなる傾向がみられます。



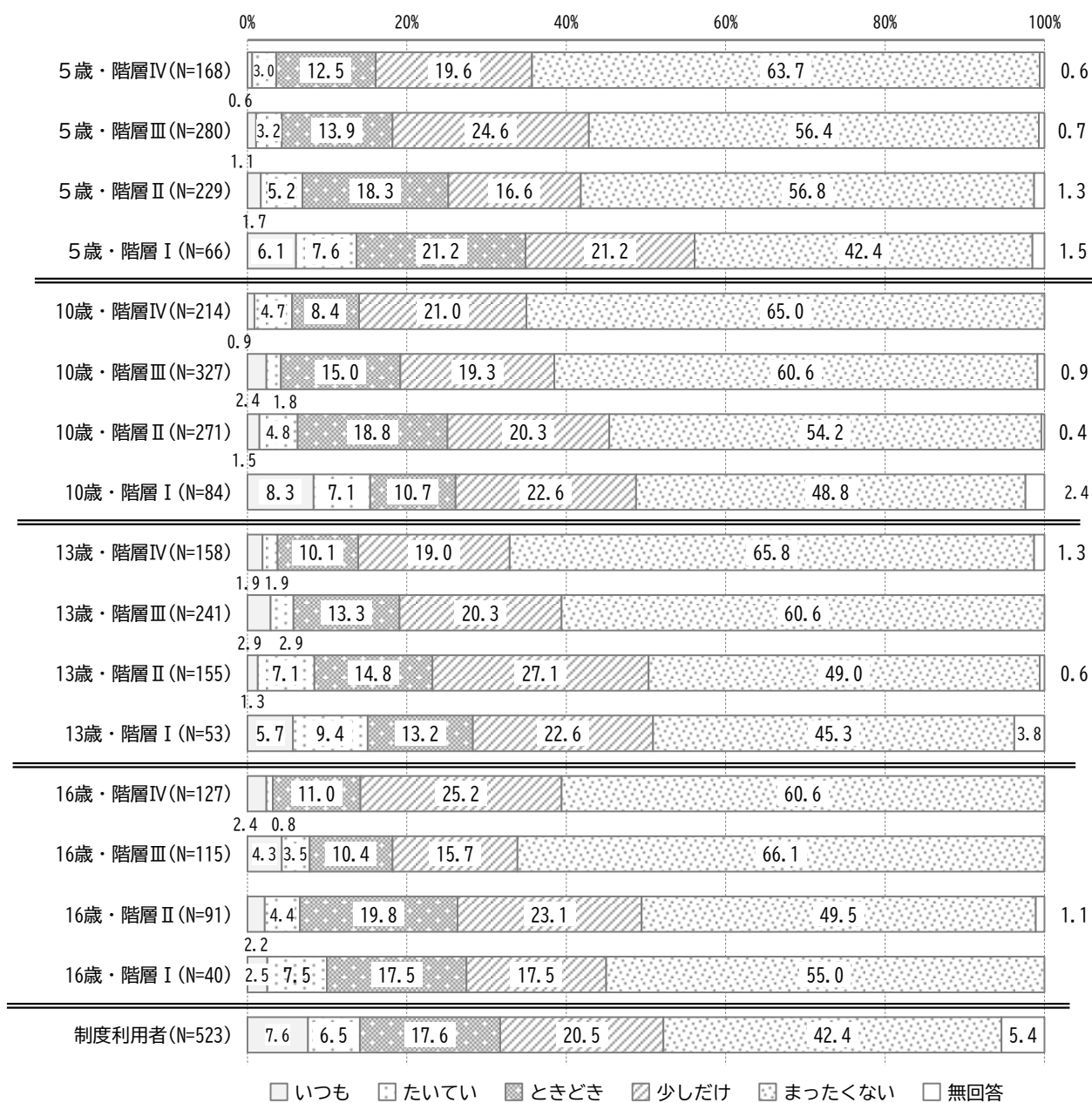
【問 35-③ そわそわ、落ち着かなく感じた】

各年齢、制度利用者ともに、「まったくない」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて「いつも」「たいてい」「ときどき」が多くなる傾向がみられます。



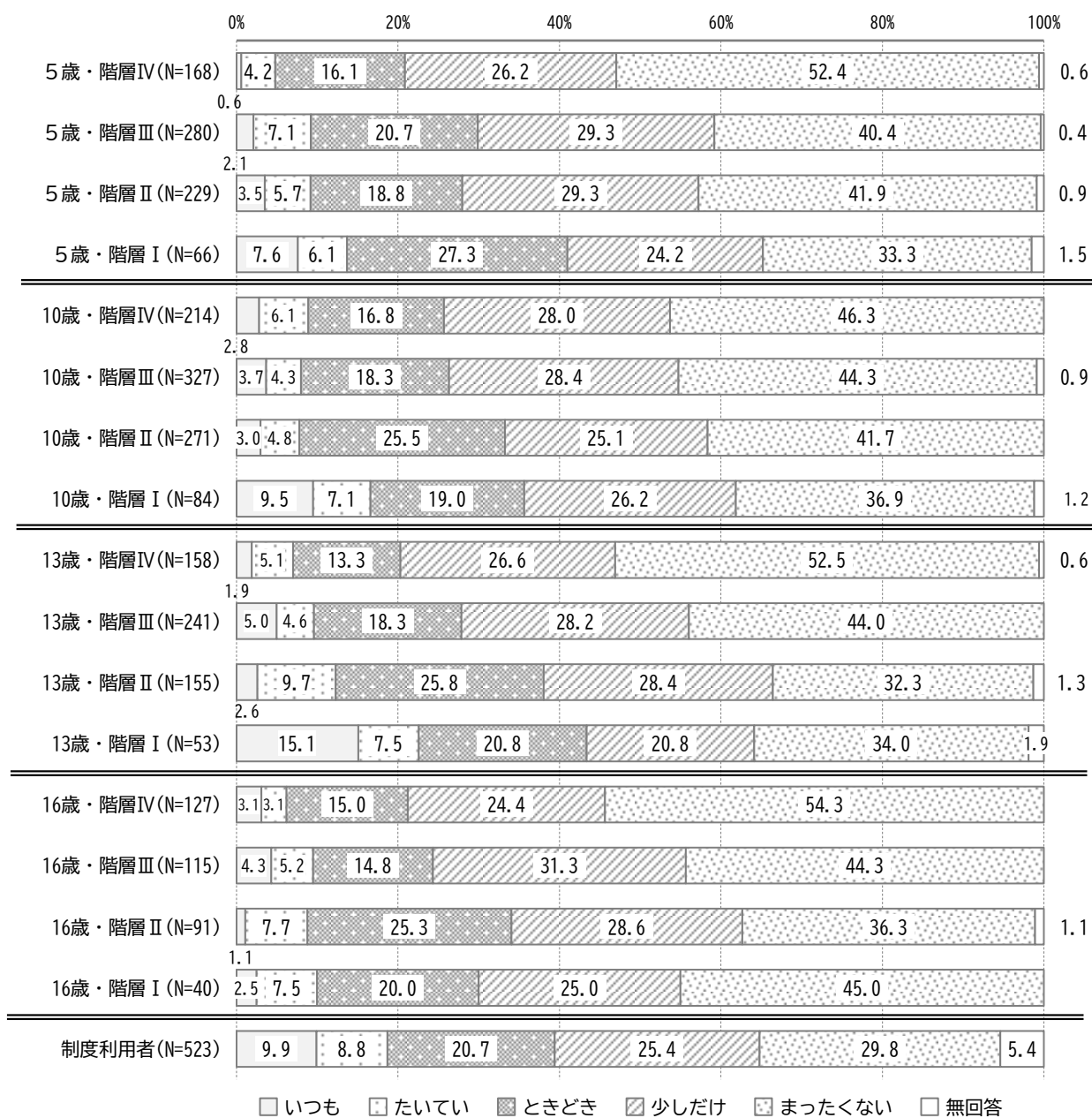
【問 35-④ 気分が沈みこんで、何が起っても気が晴れないように感じた】

各年齢、制度利用者ともに、「まったくない」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて「いつも」「たいてい」「ときどき」が多くなる傾向がみられます。



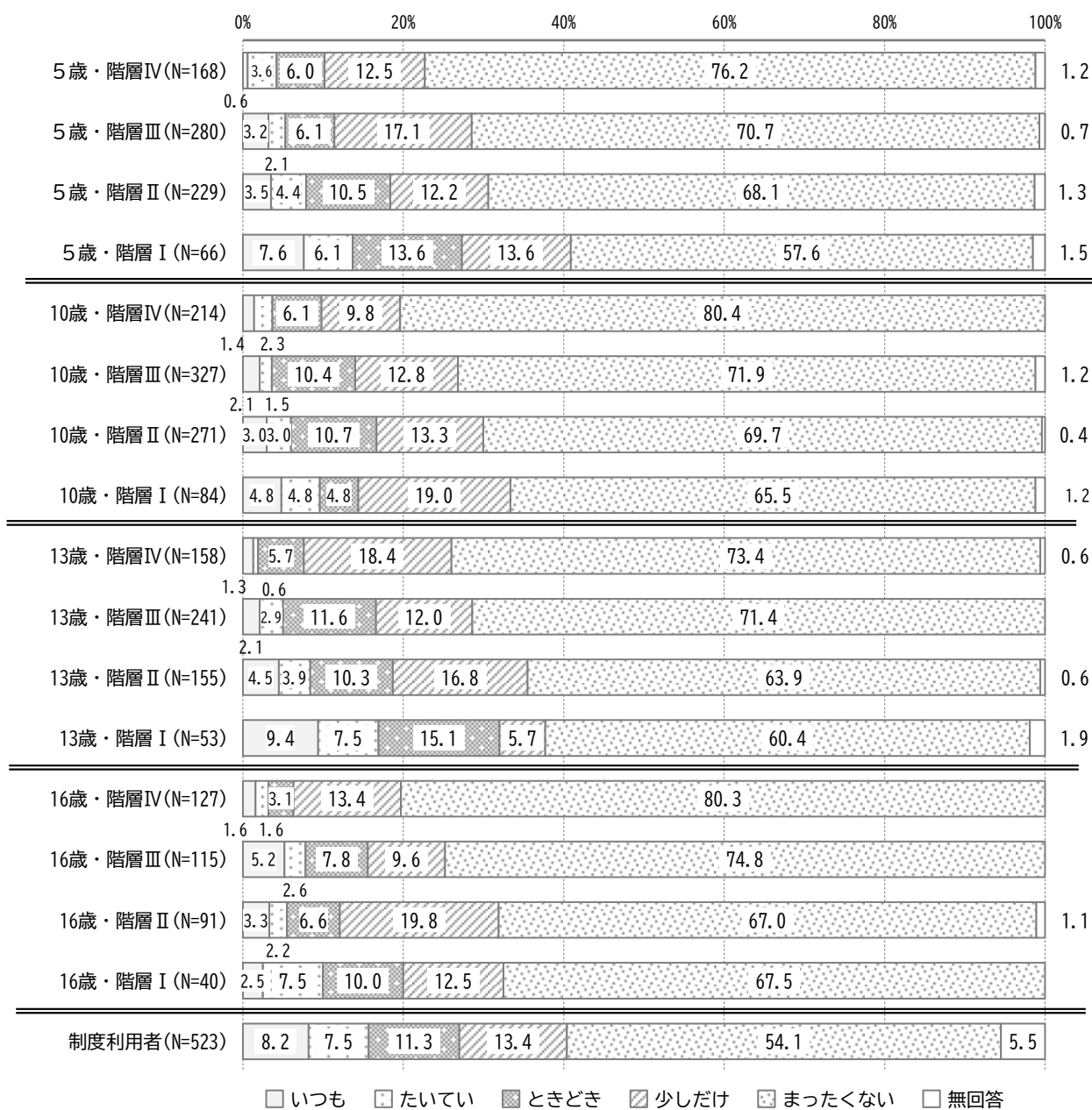
【問 35-⑤ 何をするのも面倒だと感じた】

各年齢、制度利用者ともに、「まったくない」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて「いつも」「たいてい」「ときどき」が多くなる傾向がみられます。



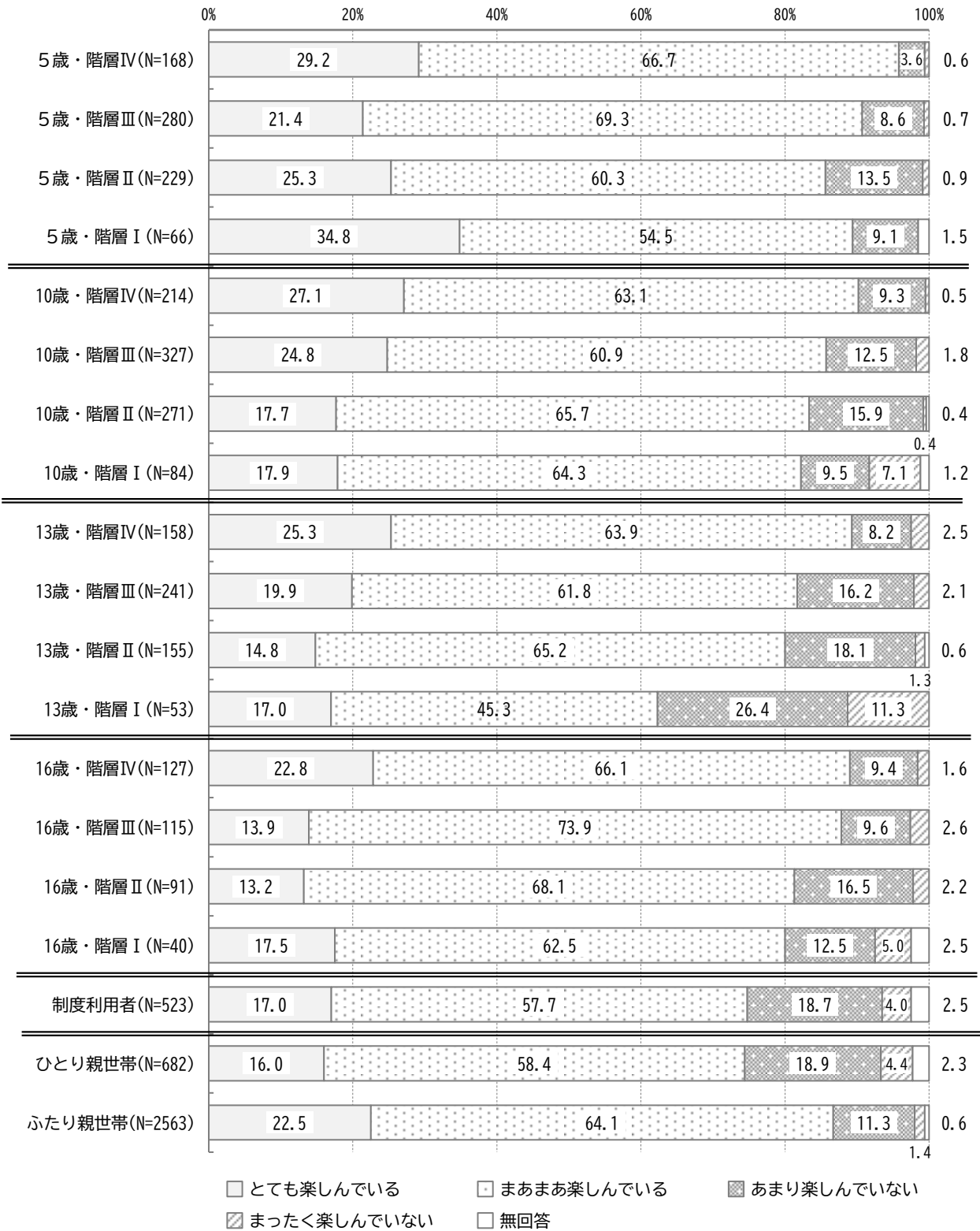
【問 35-⑥ 自分は価値のない人間だと感じた】

各年齢、制度利用者ともに、「まったくない」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて「いつも」「たいてい」「ときどき」が多くなる傾向がみられます。



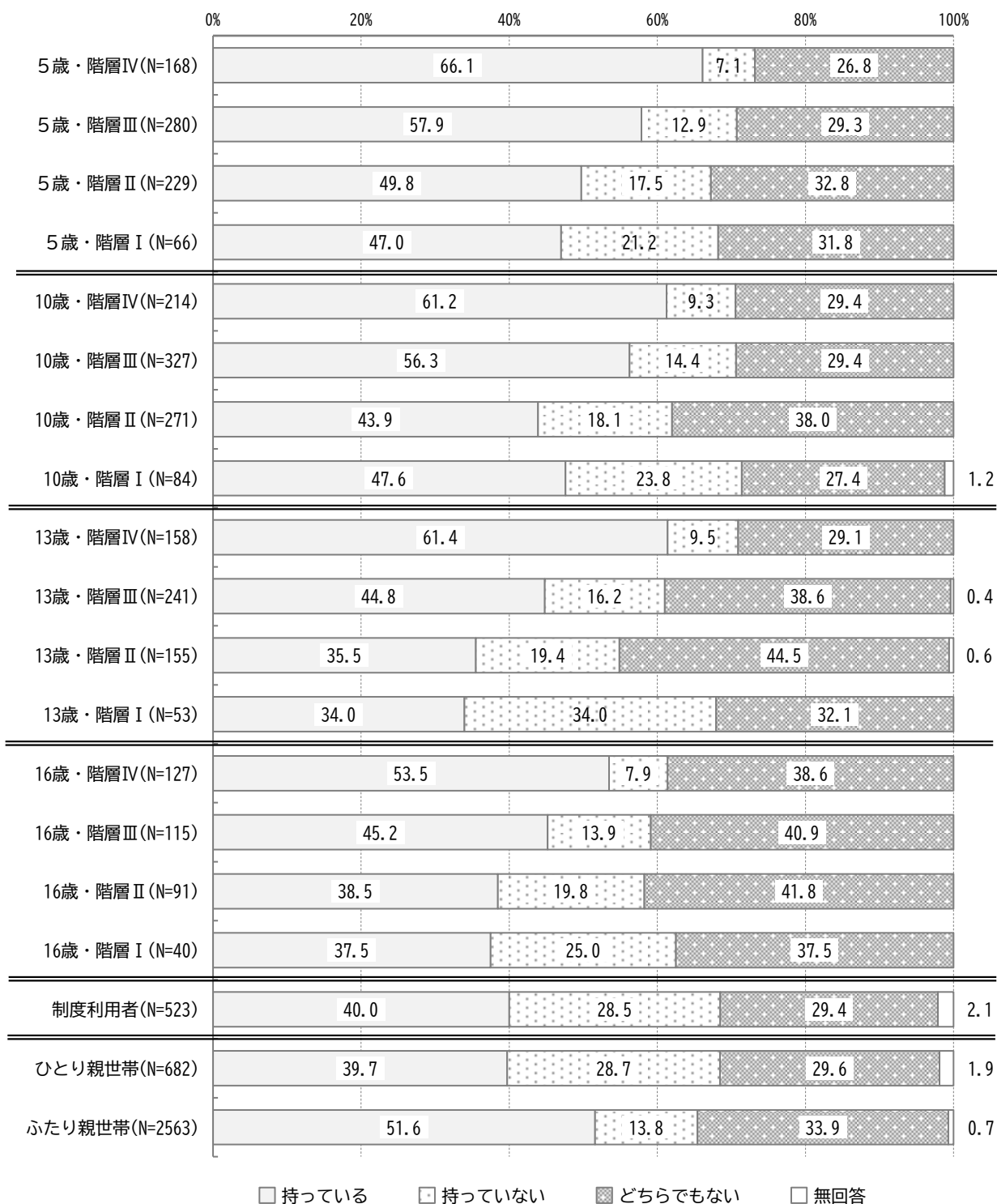
問 36-1 あなたは今の生活を楽しんでいますか。(仕事や家事、育児など)。

各年齢、制度利用者ともに、「とても楽しんでいる」「まあまあ楽しんでいる」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて「あまり楽しんでいない」「まったく楽しんでいない」が多くなる傾向がみられます。



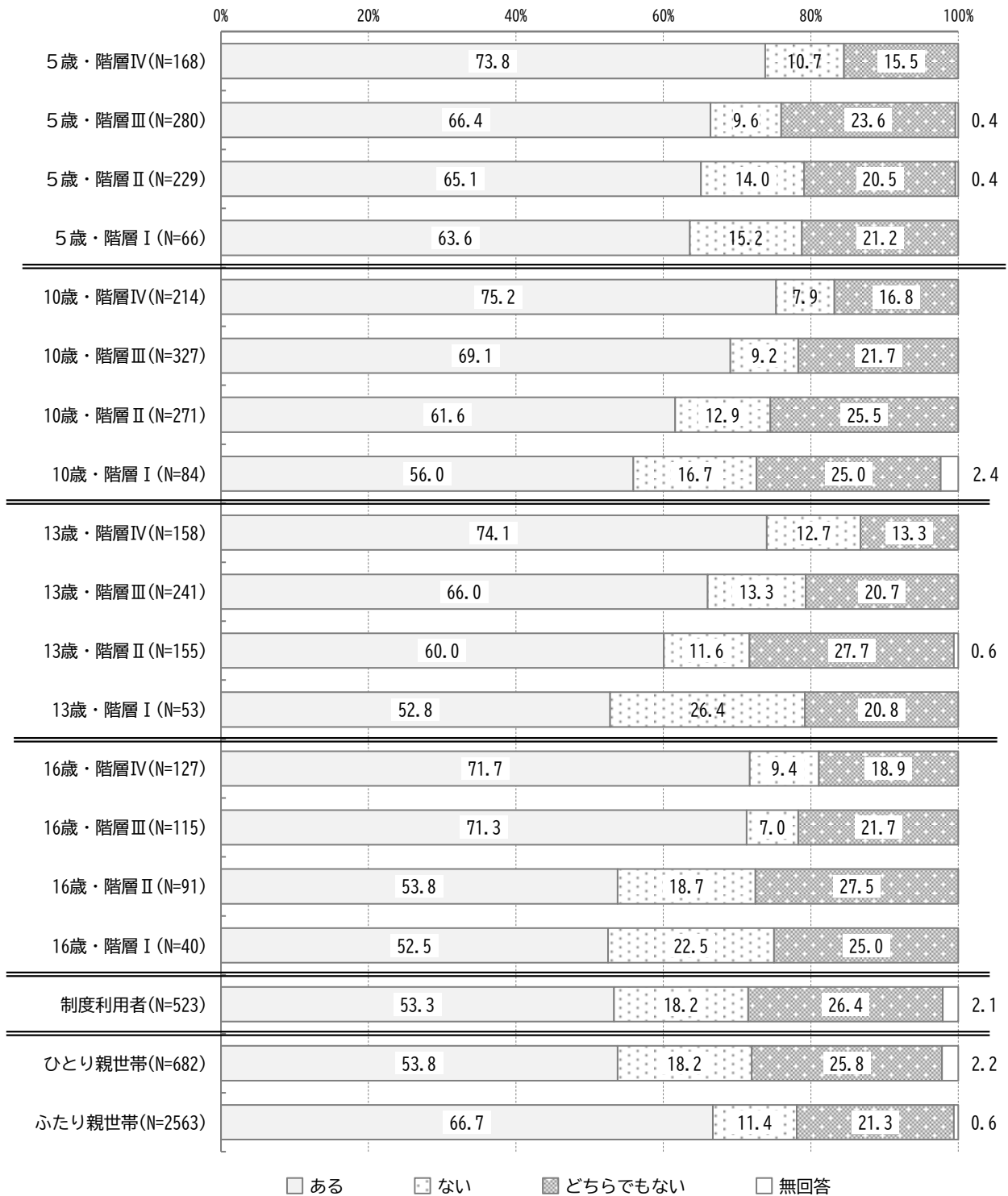
問 36-2 あなたは将来に対して希望を持っていますか。

各年齢、制度利用者ともに、「持っている」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて「持っていない」が多くなる傾向がみられます。



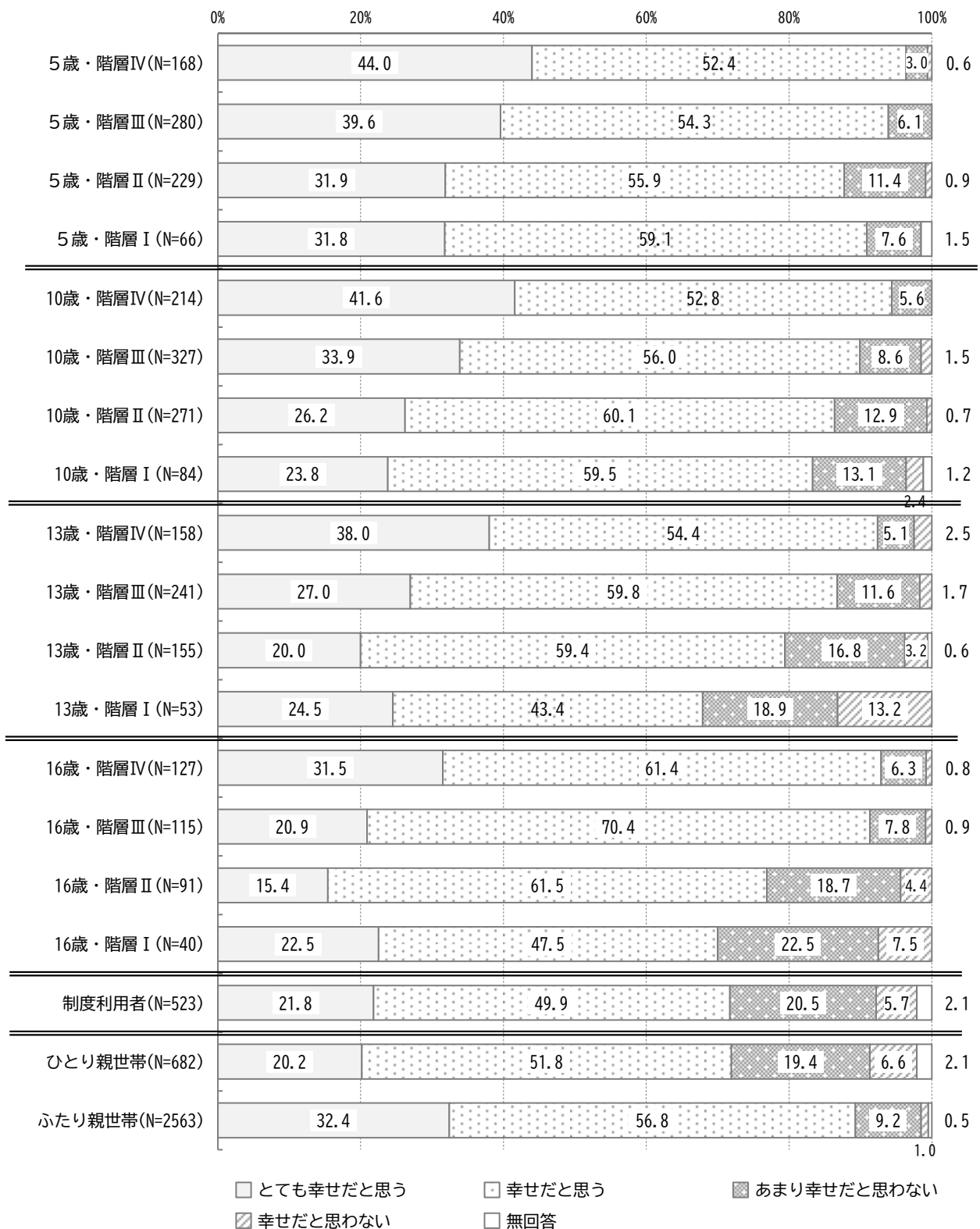
問 36-3 あなたはストレスを発散できるものがありますか。

各年齢、制度利用者ともに、「ある」が最も多くなっていますが、階層が低くなるにつれて「ない」が多くなる傾向がみられます。



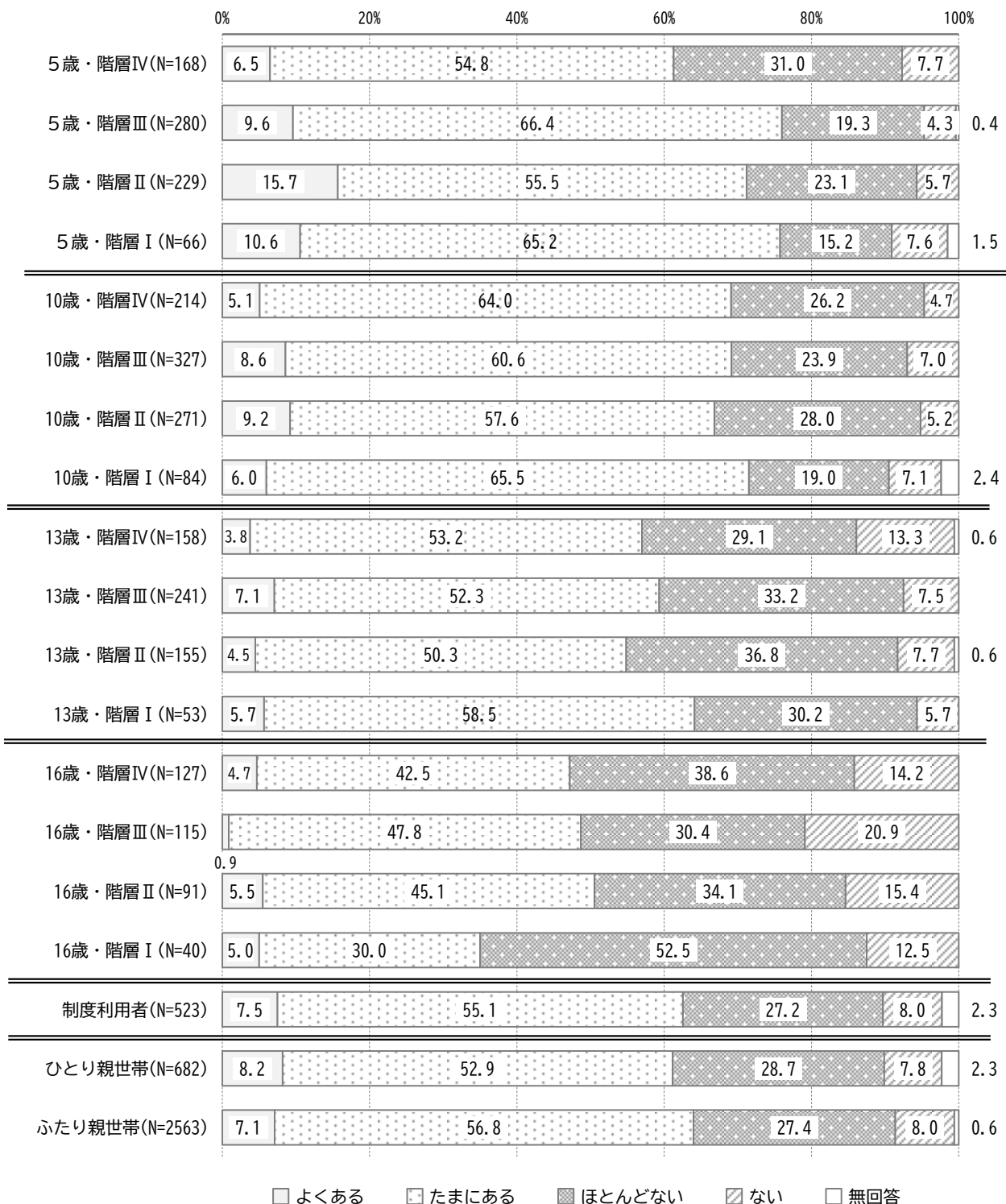
問 36-4 あなたは、自分が幸せだと思いますか。

各年齢、制度利用者ともに、「とても幸せだと思う」「幸せだと思う」が多くなっていますが、階層が低くなるにつれて「あまり幸せだと思わない」「幸せだと思わない」が多くなる傾向がみられます。



問 36-5 あなたは、不安やイライラなどの感情をお子さんに向けてしまうことがありますか。

各年齢・階層による大きな差はみられませんが、各年齢、制度利用者ともに、「たまにある」が最も多くなっています。

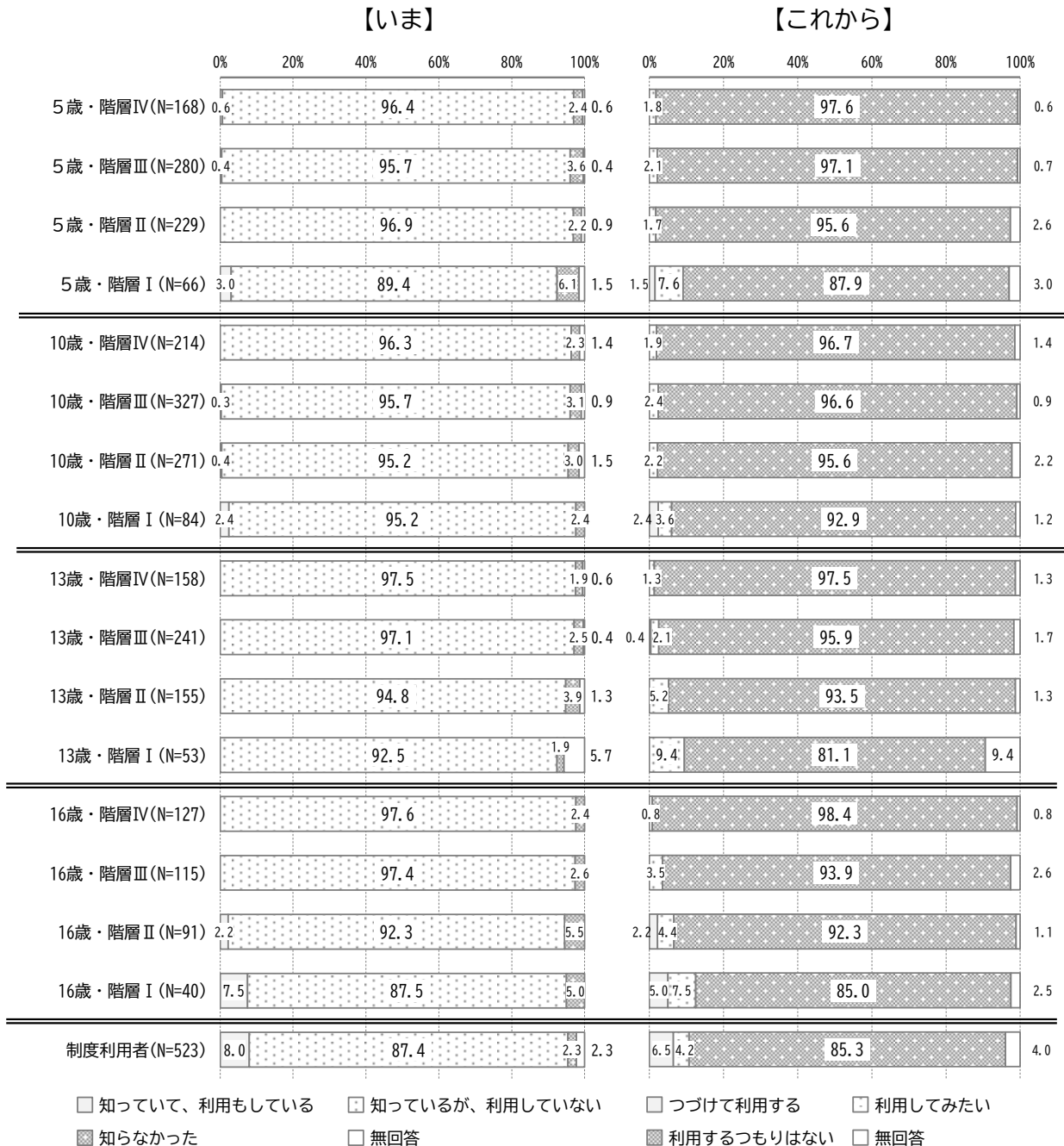


## 6. 静岡市の取組について

問 37 次の①～③の静岡市の取組や事業について、「いま」知っていたり利用したりしていますか。また、「これから」利用したいかどうかについて教えてください。

### 【問 37-① 生活保護】

制度利用者と階層Ⅰの一部が「知っていて、利用もしている」と回答しています。各年齢において、階層が低くなるにつれて、「利用してみたい」と思う人が増えています。



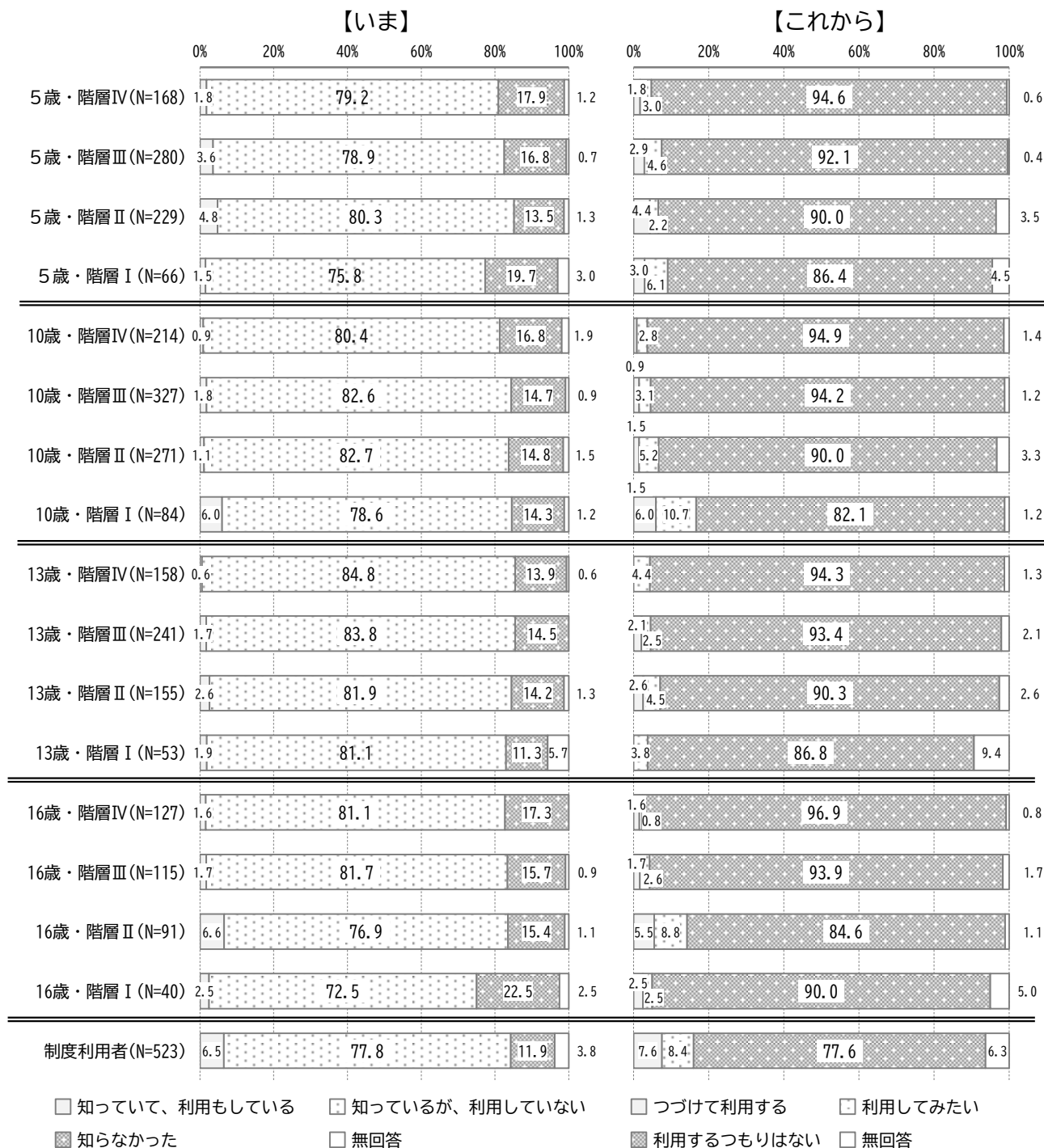
【問 37-② 児童扶養手当（ひとり親家庭等への手当）】

階層が低くなるにつれて、「知っていて、利用もしている」が多くなっています。制度利用者は7割近くを占めています。利用希望も階層が低くなるにつれて、「つづけて利用する」「利用してみたい」が多くなっています。



【問 37-③ 特別児童扶養手当（障害のある子どもへの手当）】

各年齢において、「知っていて、利用もしている」人が一定数いますが、階層が低くなるにつれて多くなる傾向がみられます。また、利用希望も、階層が低くなるにつれて、「つづけて利用する」「利用してみたい」が多くなっています。



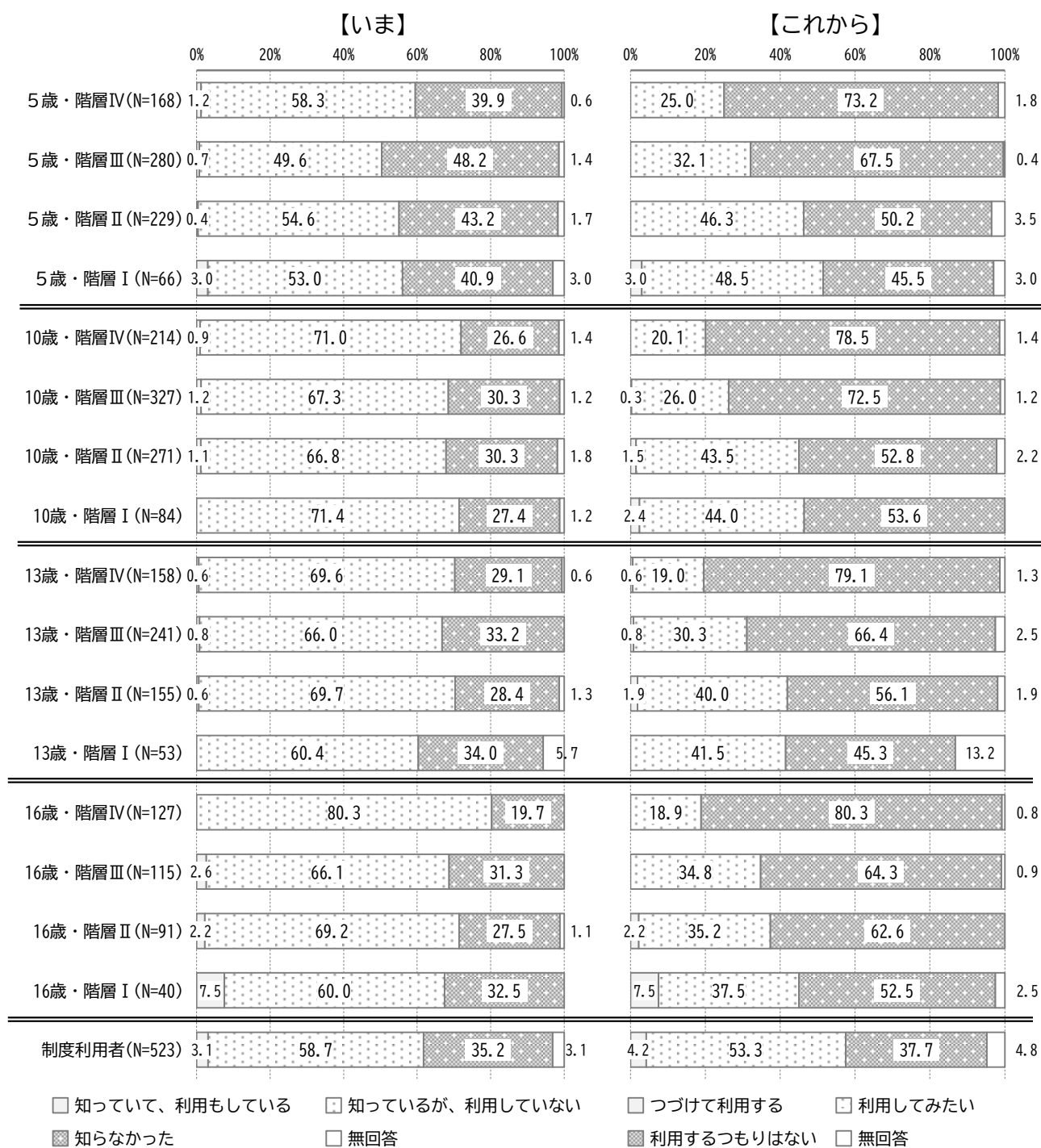
【問 37-④ 就学援助費】

いずれの年齢も階層が低くなるにつれて、「知っていて、利用もしている」人が多くなっています。特に制度利用者は5割近くになっています。利用希望についても階層が低くなるにつれて、「つづけて利用する」「利用してみたい」が多くなっています。



【問 37-⑤ 静岡市の奨学金（篤志奨学金、育英奨学金）】

「知っている、利用もしている」は、16歳の階層Ⅰが最も多くなっています。利用希望は階層が低くなるにつれて、「つづけて利用する」「利用してみたい」が多くなっています。



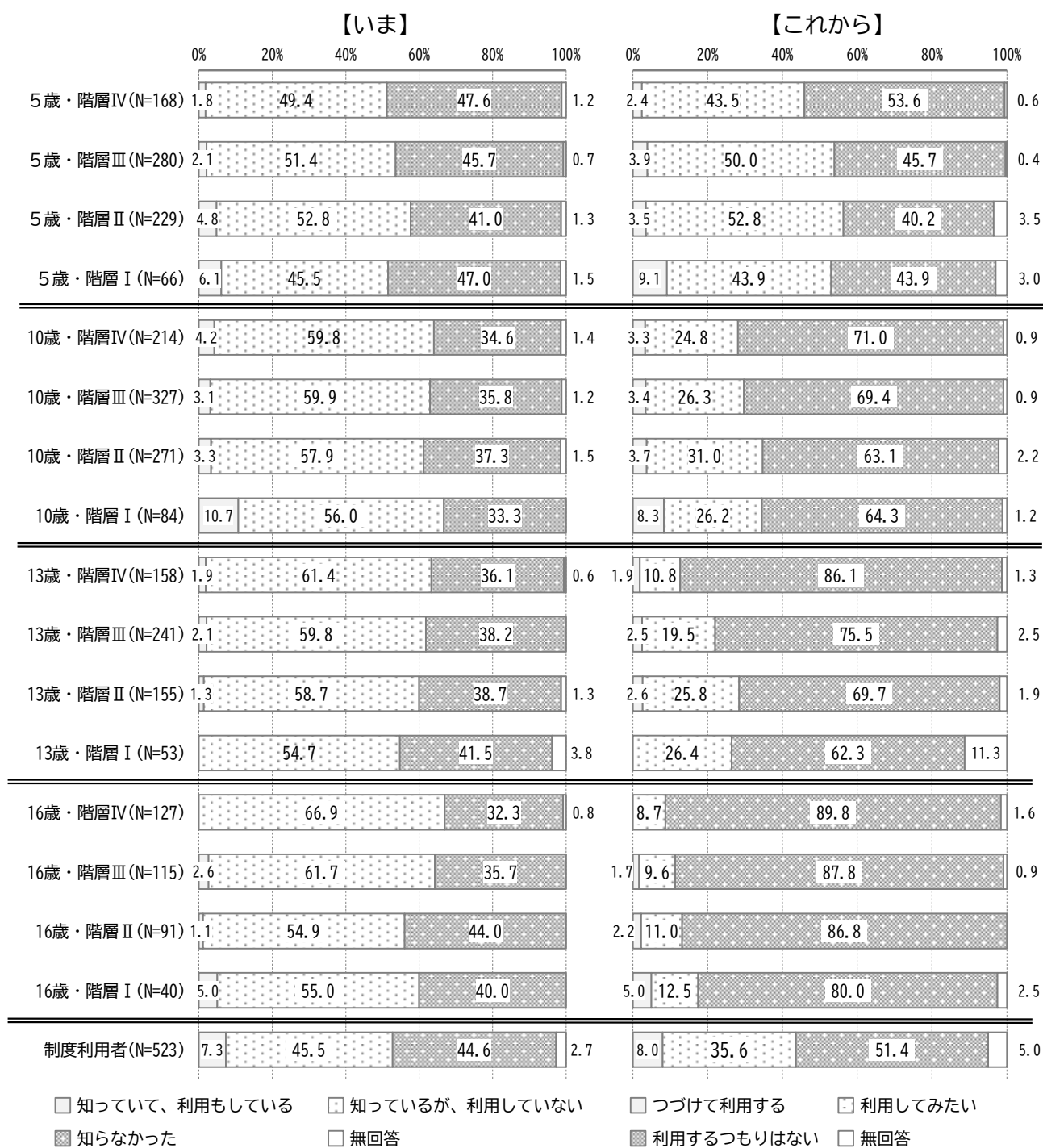
【問 37-⑥ 居場所提供事業（児童館、放課後子ども教室など）】

5歳～10歳をピークに「知っていて、利用もしている」は少なくなっています。利用者は階層に関係なく利用しており、利用希望はこれから入学をする5歳に多くなっています。



【問 37-⑦ 学校以外の場での学習・生活支援】

「知っている、利用もしている」は、ごくわずかとなっています。利用希望は5歳の半数程度が、「利用してみたい」となっています。



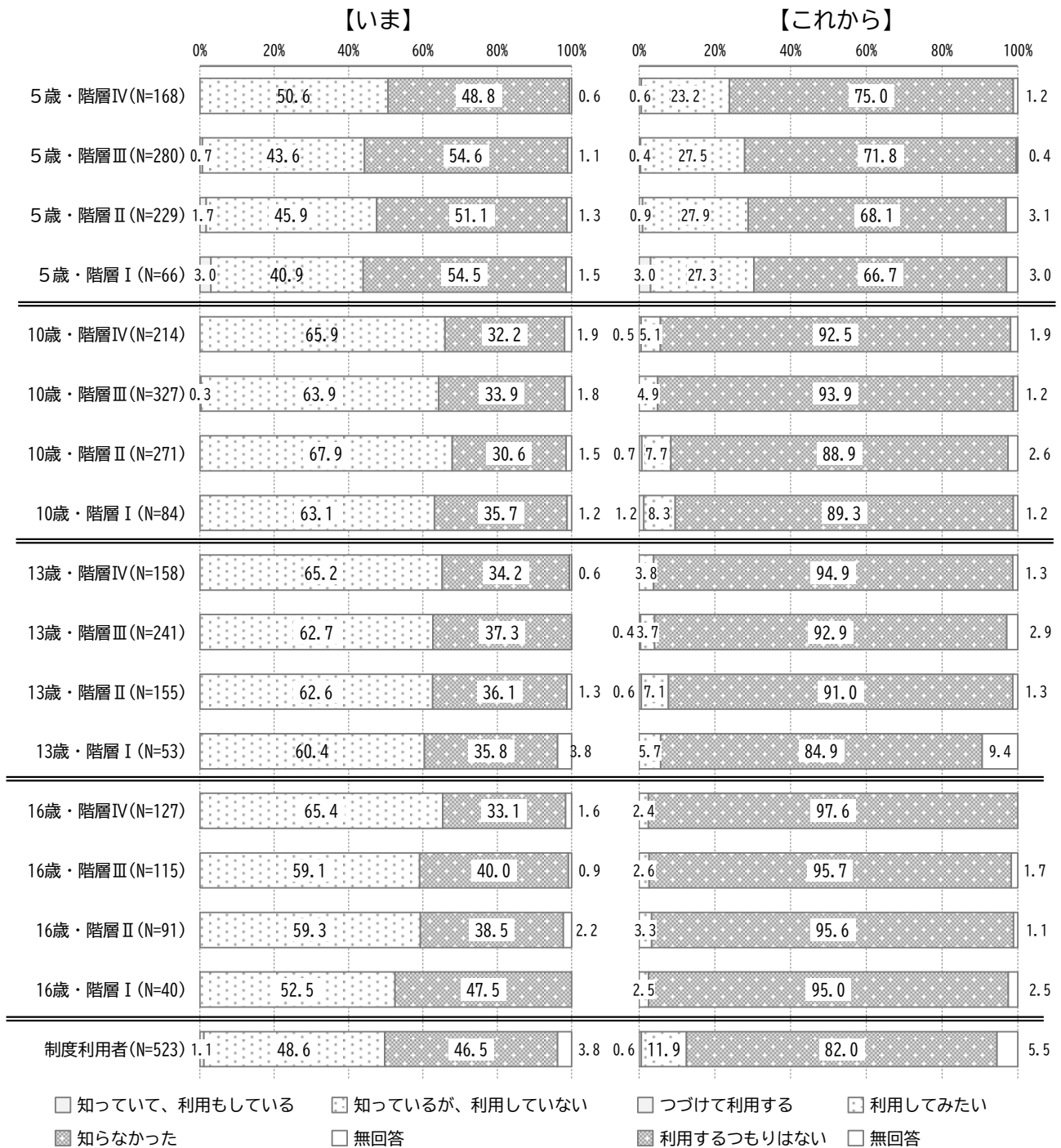
【問 37-⑧ スクールソーシャルワーカーへの相談】

階層が低いほど認識度が低くなっており、5歳での認知度は4～5割、10～16歳では7割となっています。一方で、スクールソーシャルワーカーが学校に配置されている、10歳、13歳でも、各階層の2割が知らないと答えています。



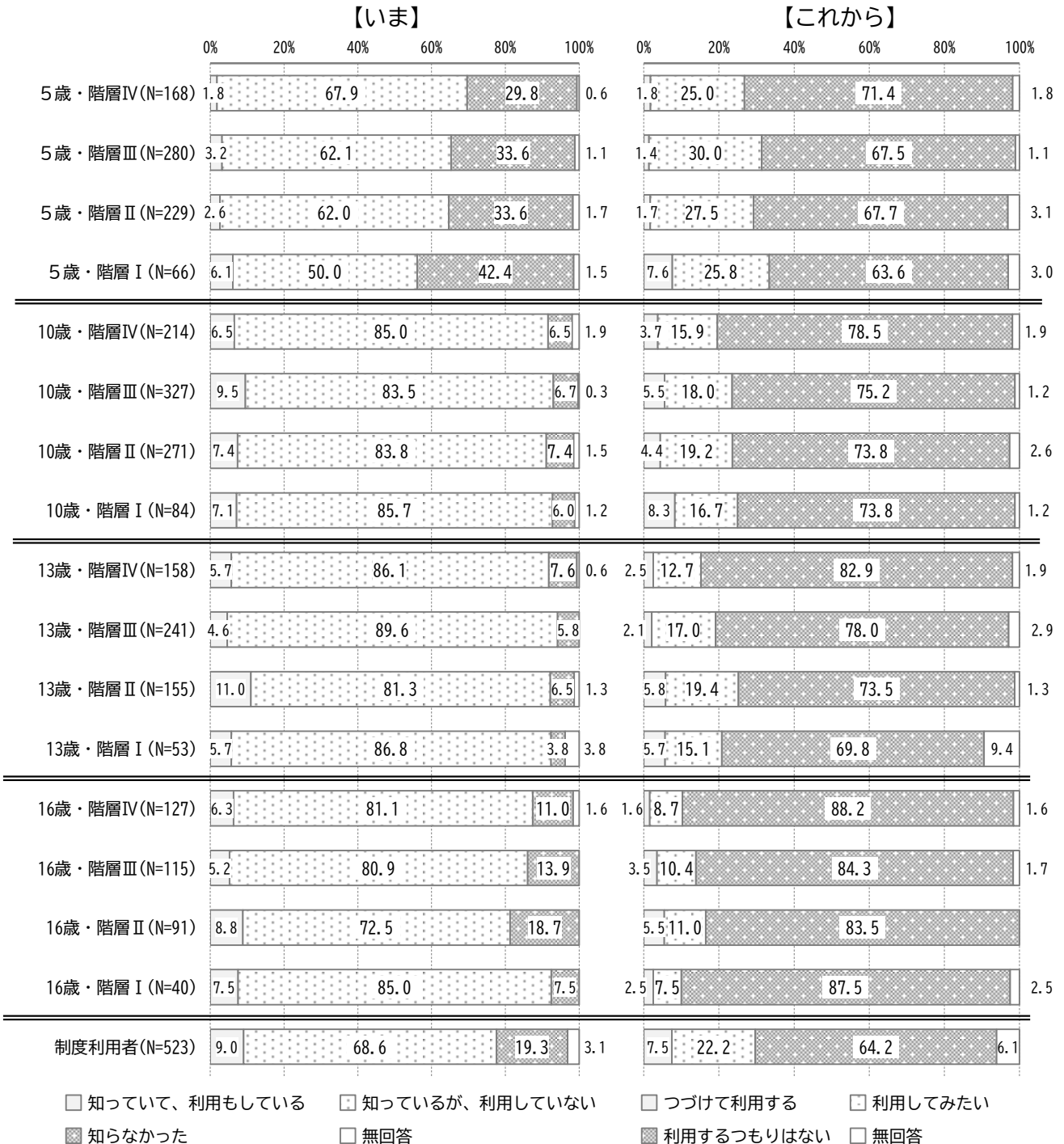
【問 37-⑨ 保育ソーシャルワーカーへの相談】

認知度は比較的高くても、利用者は多くありません。利用希望はそれほど多くなく「利用してみたい」は、5歳で2～3割程度となっています。



【問 37-⑩ スクールカウンセラーへの相談】

認知度が高くても、利用者はそれほど多くありません。また、「つづけて利用する」は、利用割合と類似の割合を示していますが、「利用してみたい」は、10歳、13歳で2割、16歳で1割程度となっています。



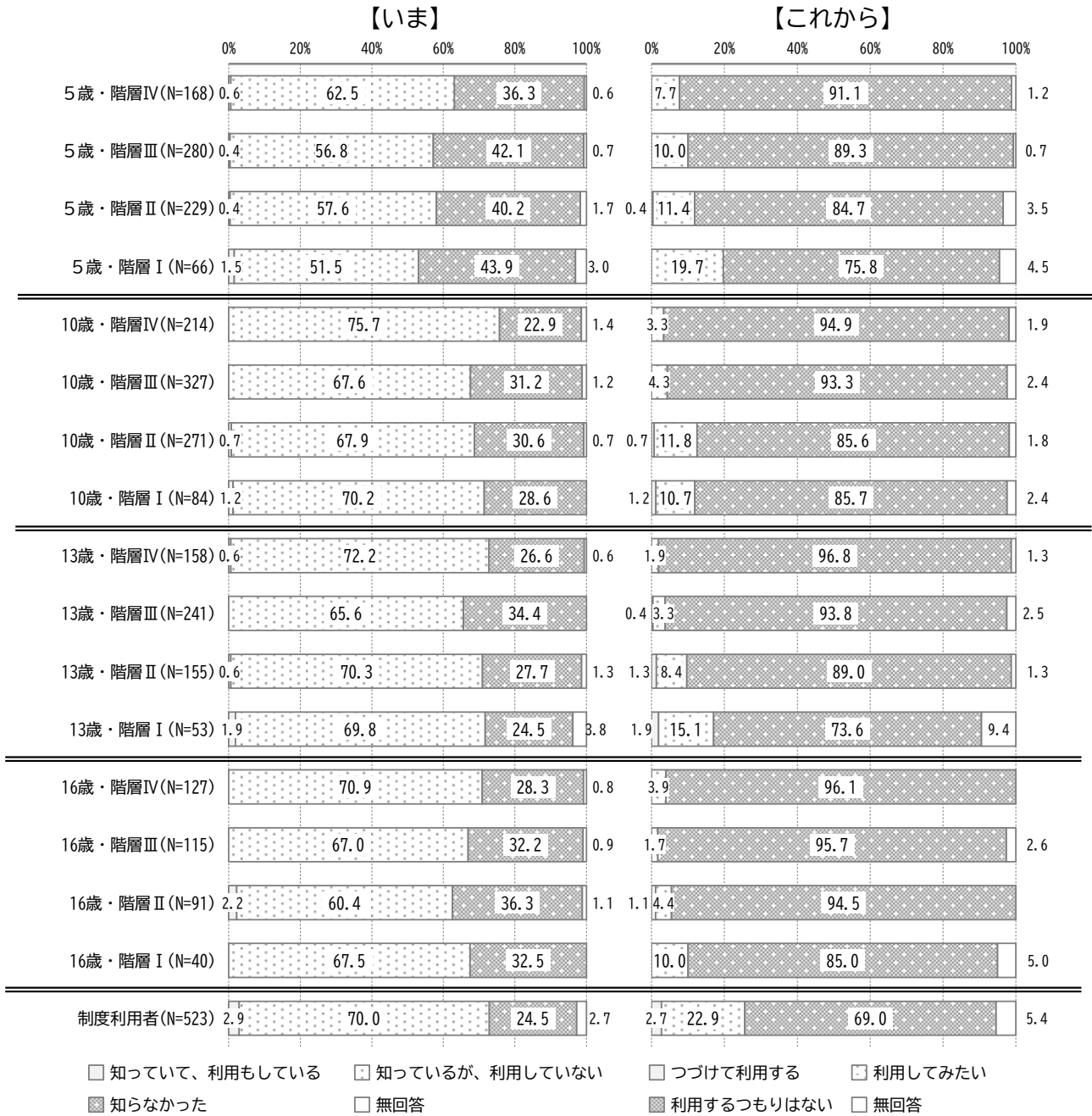
【問 37-①】 児童相談所、各区役所子育て支援課こども家庭センターなどにおける相談】

認知度が高くても、利用者はそれほど多くありません。また、「つづけて利用する」は、利用割合と類似の割合を示していますが、「利用してみたい」は、5歳で3割程度、10歳、13歳で2割程度、16歳で1割以下となっています。



【問 37-⑫ 母子家庭等就業・自立支援センター】

「知っていて、利用もしている」は、ごくわずかとなっており、「知っているが、利用していない」は6～7割を占めています。利用希望も1～2割程度となっています。



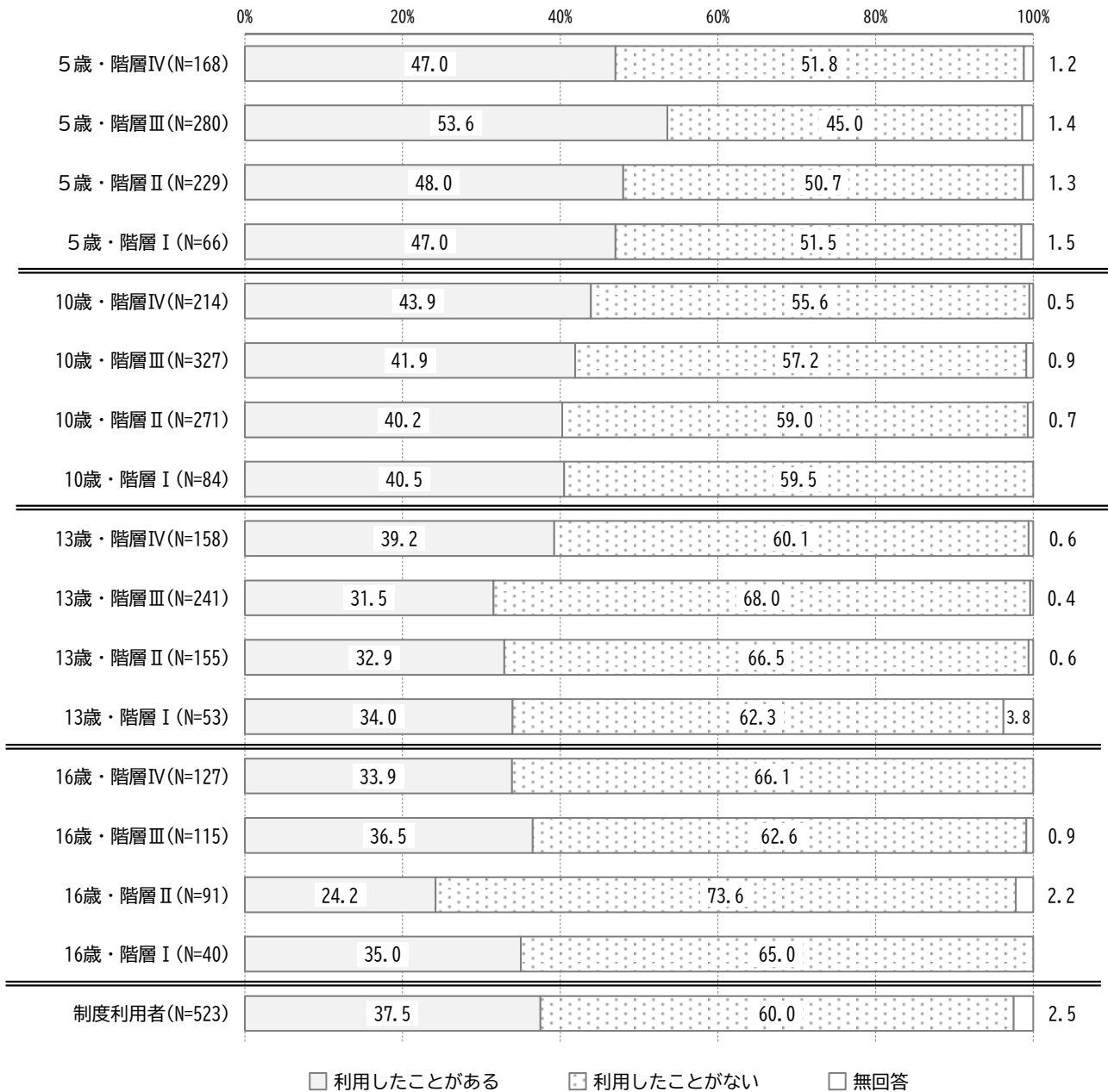
【問 37 ⑬その他】

統計データとして集計できないため省略しています。

問 38-1 あなたのお子さんは、つぎのような「こどもの居場所」を利用したことがありますか。

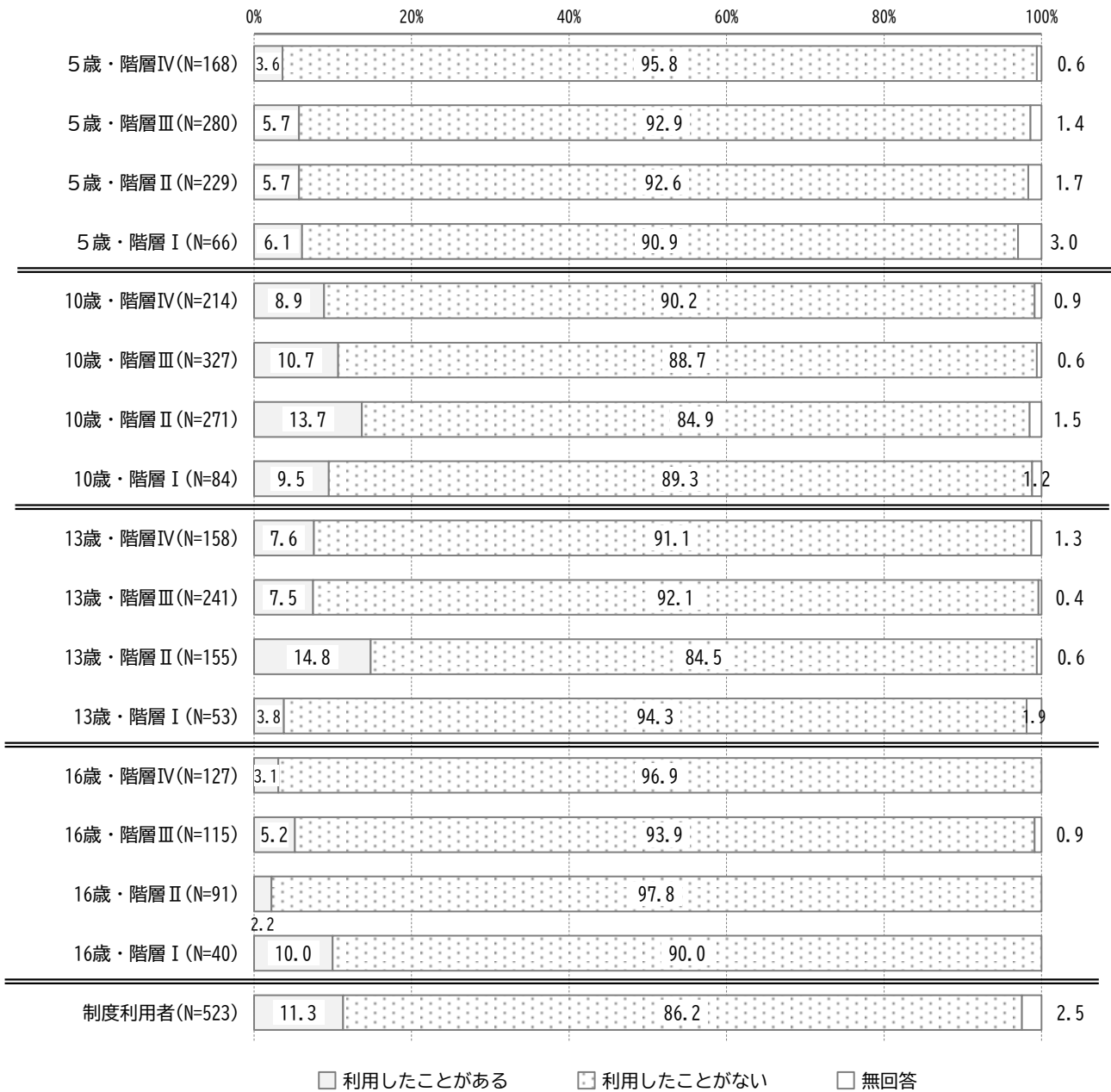
【問 38-1-① 自宅や学校以外の場所で、子どもたちが本を読んだり、みんなで遊んだりできるような場所】

5歳の階層Ⅲを除き、各年齢、制度利用者において「利用したことがない」が最も多くなっています。



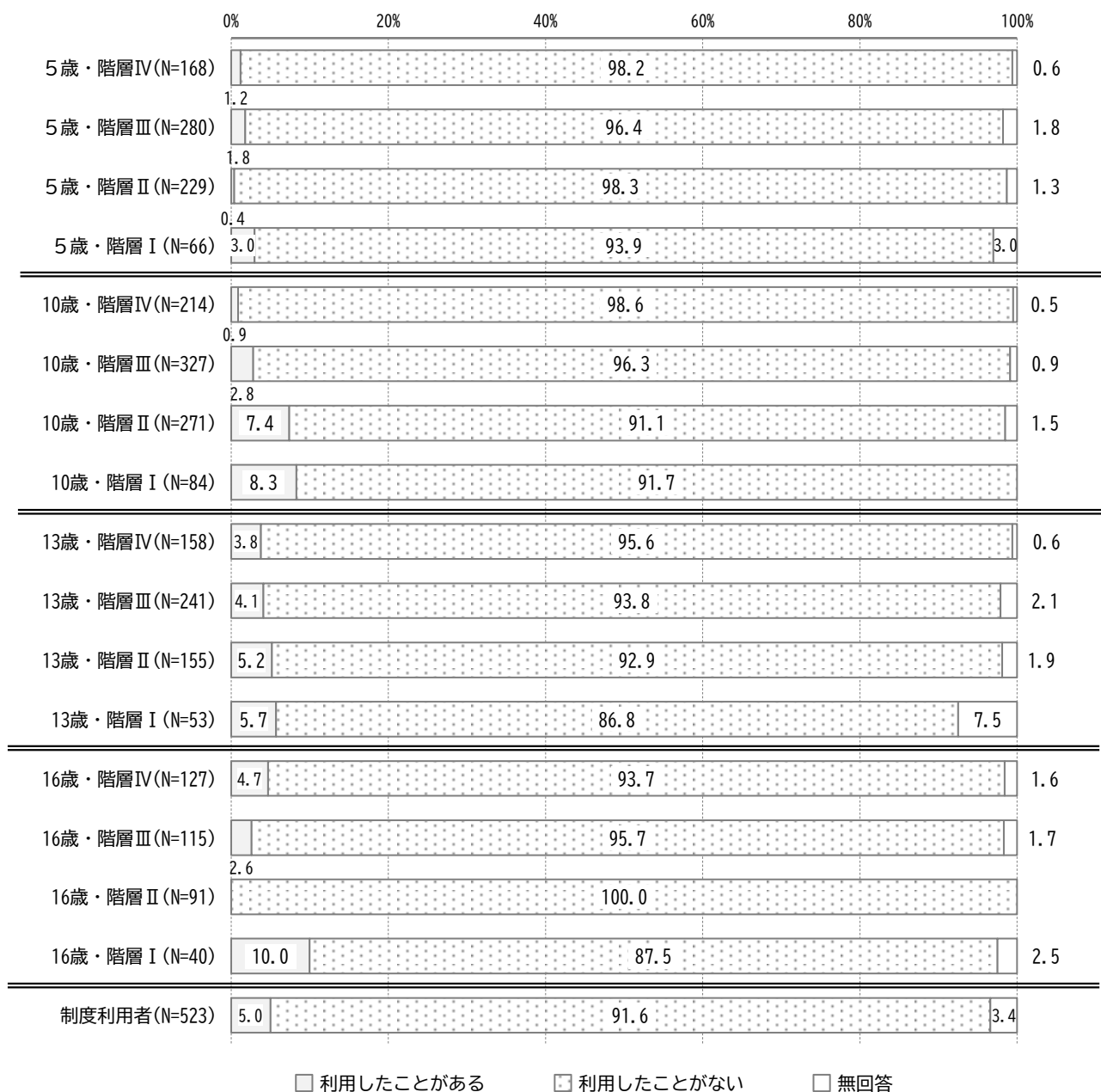
【問 38-1-② こどもが無料または低額で食事ができる場所（こども食堂）】

各年齢、制度利用者において「利用したことがない」が最も多くなっています。



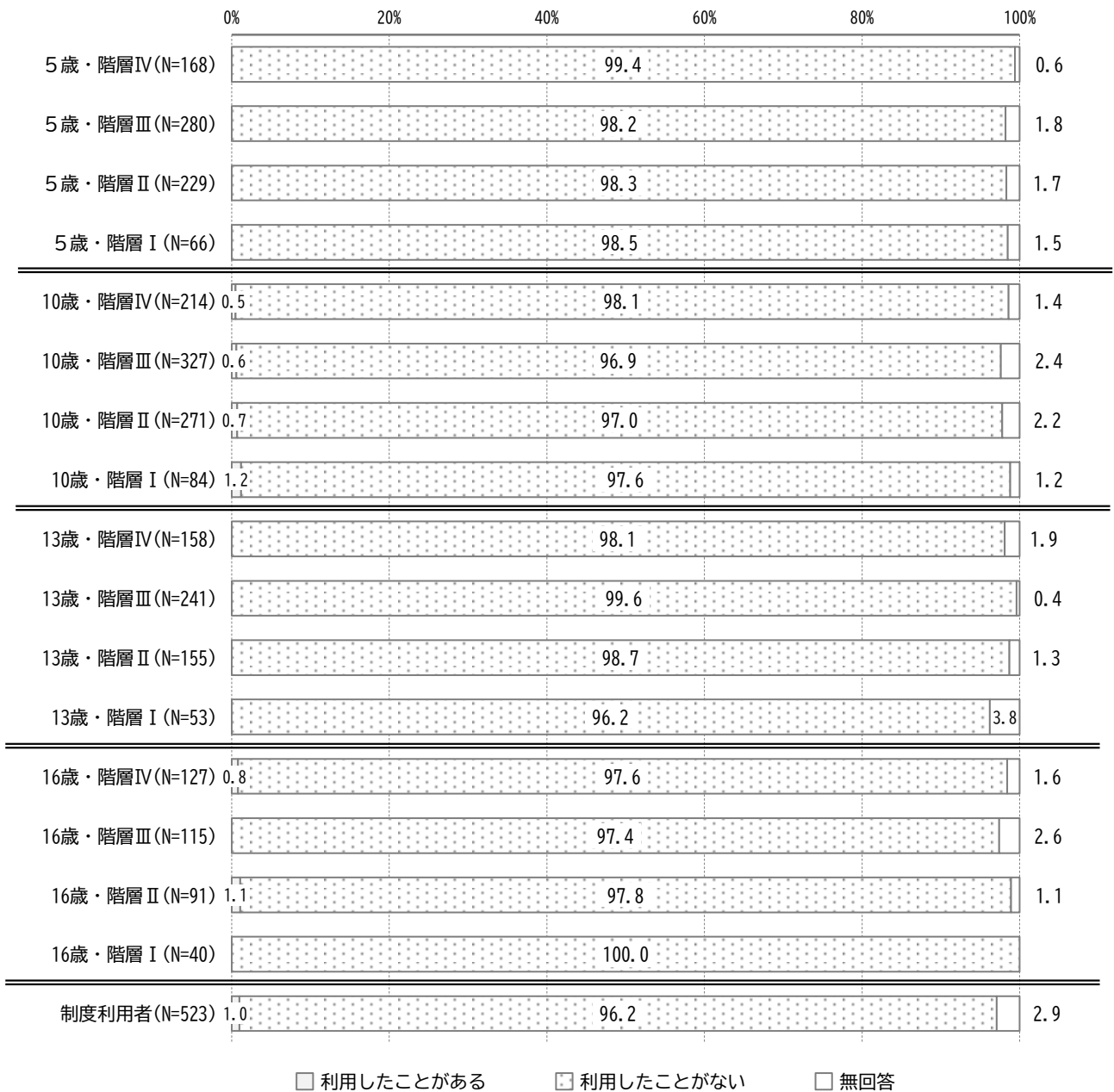
【問 38-1-③ 自宅や学校、塾以外の場所で、無料でボランティアの方などが勉強を教える学習支援の場】

各年齢、制度利用者において「利用したことがない」が最も多くなっています。



【問 38-1-④ 家庭環境に困難を抱える子どもや保護者が家庭的な雰囲気の中で、食事や遊びなどを通じて生活習慣を身に着ける場】

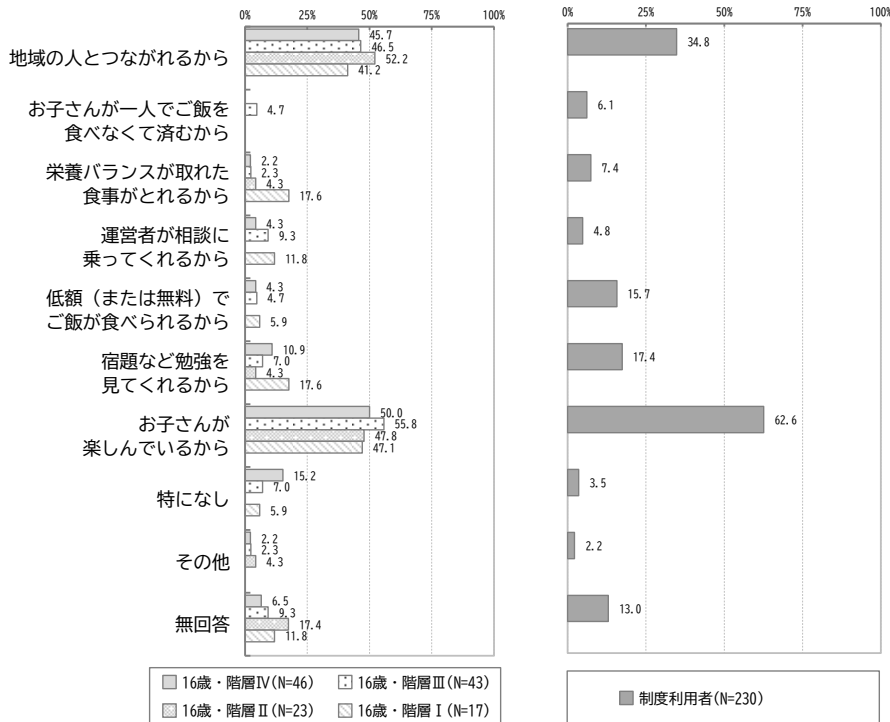
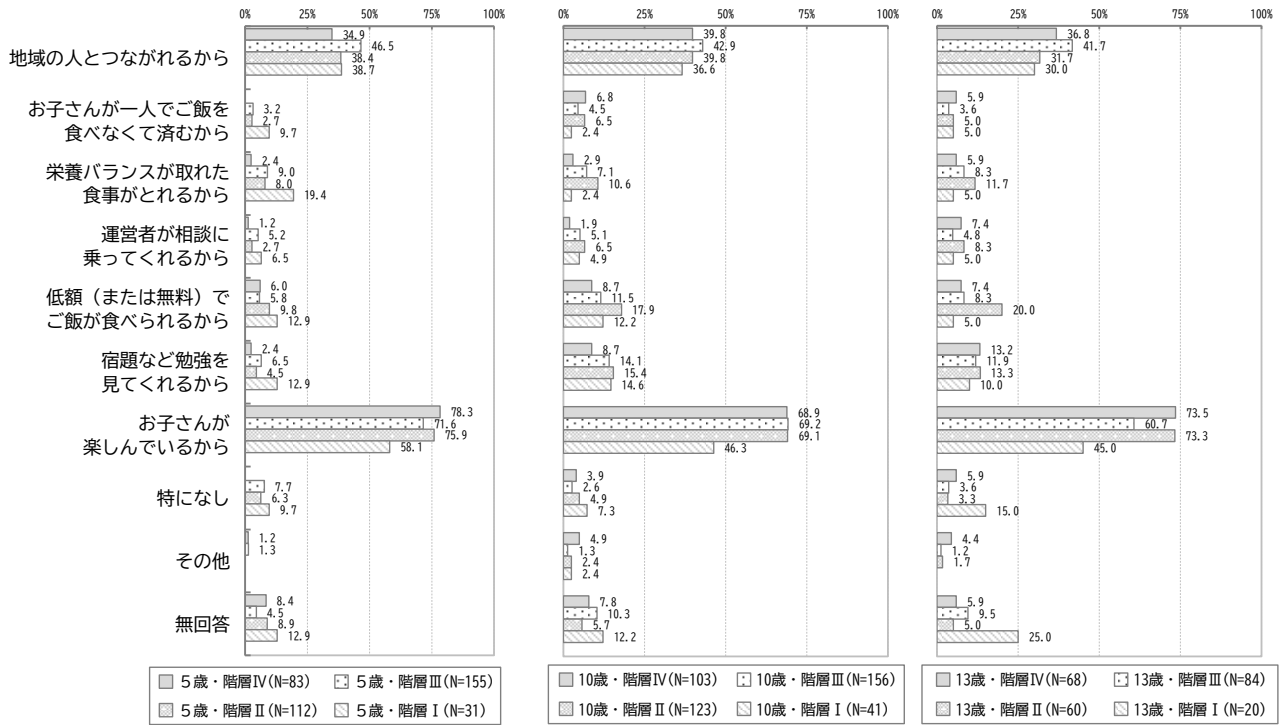
各年齢、制度利用者において「利用したことがない」が最も多くなっています。



問 38-1 で「1. 利用したことがある」と回答した方にうかがいます。

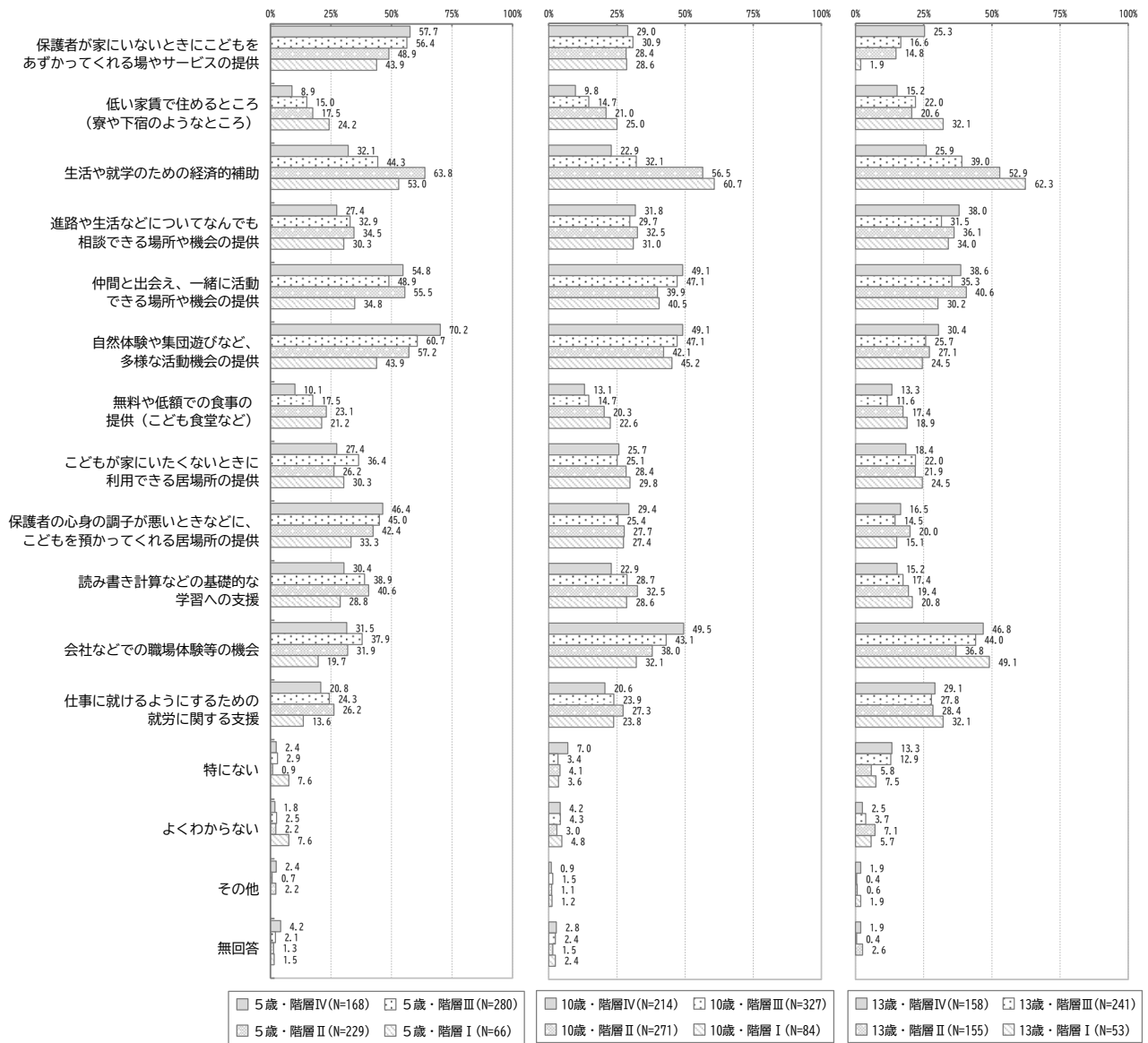
問 38-2 お子さんがこどもの居場所を利用することで良いと思うことは何ですか。  
(あてはまるものすべて)

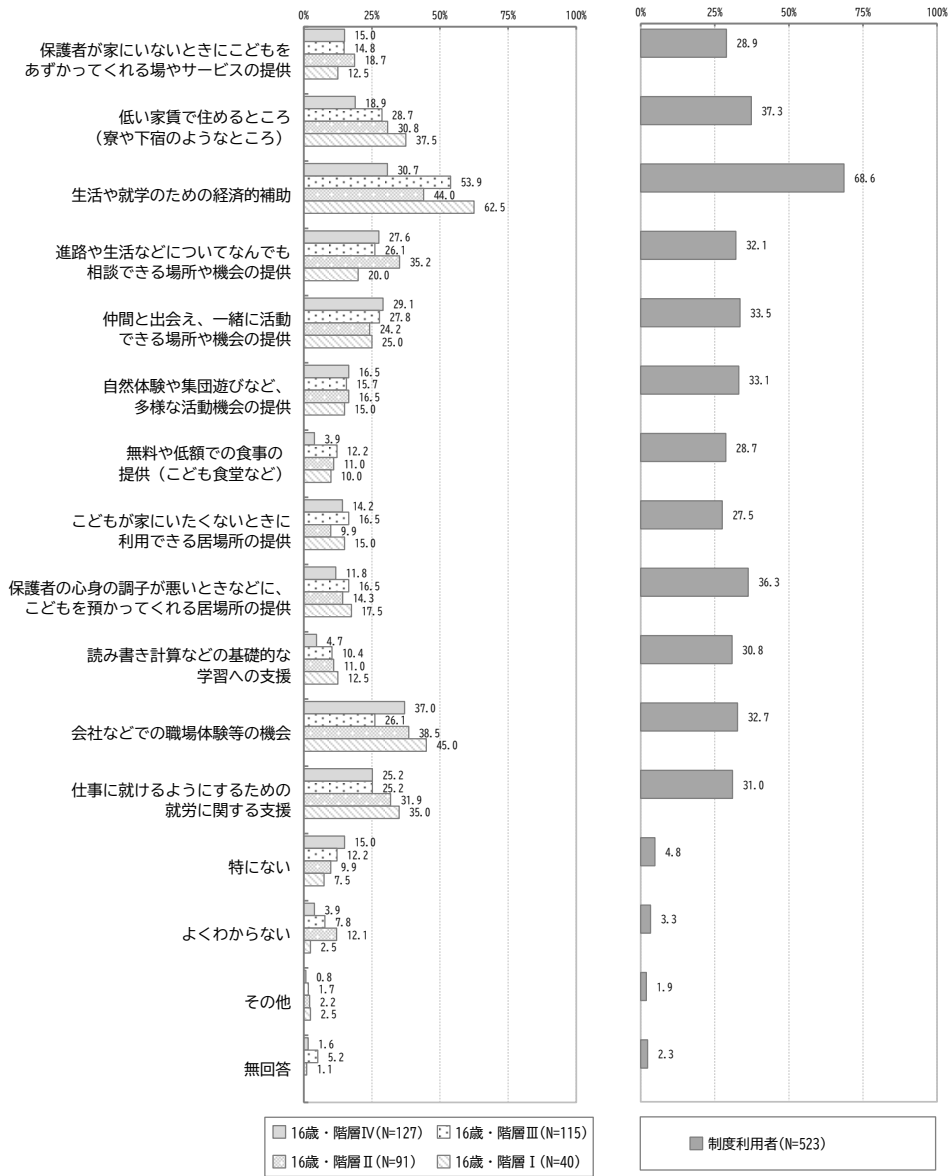
各年齢、制度利用者において、「お子さんが楽しんでいるから」「地域の人とつながれるから」が多くなっています。



問 39 お子さんにとって、現在、または将来的に、どのような支援があるとよいと思いますか。  
(あてはまるものすべて)

各年齢、制度利用者において「生活や就学のための経済的補助」「自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供」「仲間と出会え、一緒に活動できる場所や機会の提供」が多くなっています。また、年齢が上がるにつれて、「会社などでの職場体験等の機会」が多くなっています。





問 40 子育て世帯や子ども・若者のために、今後、静岡市に取り組んでほしいと思うことや、日ごろ、子育てに関して悩んでいることなどがありましたら、ご意見をお寄せください。

### <主な意見>

#### ○こどもの教育・学校に関すること

- ・学校設備の老朽化対策・トイレの洋式化やエアコン設置・防犯対策の設備も整え、安全に通学できるようにしてほしい
- ・学習塾の代わりになるもので、低額で学べる学習教室があったらいい
- ・不登校に対する対策、不登校者を減らす、進学しやすい学びの場の提供
- ・学校以外で進路（大学や専門学校の適正や具体的な話を聞ける場など）について学べる場所

#### ○こどもの居場所・遊び場に関すること

- ・こどもが安全に楽しく遊べる公園や室内遊び場をもっと充実させてほしい
- ・こどもには体を使って遊べる場所や、低価格で色々なスポーツが体験できる教室
- ・勉強以外で人との関わりが持てるような体験がもっとできるといい

#### ○経済的支援に関すること

- ・こどもの医療費無償化、インフルエンザなど各種ワクチンの無償化
- ・高校の学費免除、大学の学費支援、将来返さなくてもいい金銭的な援助があればいい
- ・所得制限なしで、こどもの数に応じた支援

#### ○就労支援に関すること

- ・将来の夢などを増やすために、職場体験や見学などを増やして欲しい
- ・主婦(夫)の社会復帰のお手伝い(保活+就活の手順を教えてもらう、こどもを預けながらできるセミナーなど)
- ・若者やこどもが働きたいと思う会社の誘致
- ・引きこもりの若者が増えているため、社会活動ができるよう支援

#### ○ひとり親家庭支援に関すること

- ・母子家庭等就業・自立支援で取得できる資格の種類や学べることの範囲が広がるといい
- ・医療費の無償化給食無償化児童扶養手当の所得制限を上げてほしい。1人親制度の所得制限低すぎる
- ・一人親の支援をもっときめ細やかにしてほしい。緊急のファミリーサポートセンターの支援
- ・ひとり親の住宅補助などがあると嬉しい

#### ○障がい児・LD・ADHD等の支援に関すること

- ・発達グレーとされる子ども達と親への支援
- ・親亡き後、障がいのあるこどもが1人で生きていけるかが心配
- ・将来の自立に向けて非常に不安

#### ○子育て支援に関すること

- ・子育て世帯への支援が、医療費や、学童保育への補助がもう少し増えると助かる
- ・共働き世帯が増えている今、シッターを安価で利用できるサービスや病児保育の拡充
- ・子育てに関する相談窓口の充実 育児の悩みや教育費、進路に関する相談を気軽にできる場所

#### ○その他

- ・取り組み状況や施策が見える化してほしい
- ・LGBTQの親やこども、また外国人などのマイノリティについて、周囲の人たちに正しい知識と理解が持てる環境づくり
- ・魅力的な町づくり
- ・歩道の拡張と、自転車専用道路の整備

### Ⅲ 支援者ヒアリング・アンケート調査結果

---

---

### Ⅲ 支援者ヒアリング・アンケート調査結果

#### 1. ヒアリング実施結果

##### (1) こどもの特徴・課題等

###### ①属性・背景等について

- ・ひとり親家庭のこども、精神障害、知的障害のこどもが多い。
- ・複合的に課題・背景を抱えているこどもが多い。逆境的小児期体験、機能不全家庭特有の状況、いじめ被害、暴力（ネグレクト、虐待、面前DV）被害、障がい（発達、知的、身体、精神）、不登校、外国にルーツを持つこどもなど、様々な課題・背景がある。
- ・塾に行きたいけど金銭的な問題で行けないこどもや、不登校、ひとり親の子が多い。保護者が就職を進めるがこどもは進学したいように意見が分かれている場合、学校でいじめに遭っている子もいる。
- ・母子家庭や生活困窮家庭、親に発達特性がある家庭のこどもが、課題を抱えていることが多い。
- ・被虐待で家庭に帰すことができないこどもで、不登校や自傷の傾向がある。性別は女の子が多い。最近は幼児が多くなっている。市内の子が多いが、県の児童相談所から送られてくる子もいる。
- ・発達障害の兆候がある子が多いが、先天的なものか、虐待によるものか両方考えられる。
- ・知的障害や情緒的な問題を抱えたこどもが多く、近くの小学校の支援級の子の多くは母子生活支援施設の子である。
- ・祖父母との関係や保護者の障害、こどもの発達障害、貧困など、多様で複合的な問題を抱えている家庭が多くなっていると感じる。
- ・服装の清潔さ、肌の保清が十分ではなく、クラスの他児からも文句を言われる、避けられる。
- ・愛着障害を抱えるこどもも多いが、生来のものなのか、親との愛着形成の過程でそうなったのか判断が困難。
- ・ネグレクト傾向（世話不足、生活リズムの欠如、食事未整備等）が見られる家庭がある。

###### ②（こどもと）保護者との関わり方について

- ・こどもにとって、保護者との関係や家庭生活が「安心・安全なもの」となっていないと、こどもの想いや要望を保護者にあるがままに伝えることが難しくなる。
- ・特に逆境的小児期体験を受けてきたこどもたちは、思春期に向けてのアイデンティティの構築ができず、保護者等に対して過激な言動をすることもある。
- ・親がこどもを育てる力が弱くなっている。夫婦仲が悪いことも多かったり、片方だけが強いような状況がある。親の様子をみて育ったこどもは、親になった時に同じような親になってしまう。
- ・親がそのような状況であるとこどもに影響が出る。親に気を遣うようになっていたり、顔色をうかがう、空気を読むようになってしまい、愛着障害にもなってしまう。
- ・親の前ではおとなしいが、他の保護者には積極的に話しかけるこどもがいるが、家でのコミュニケーションが不足しているのではと思われる。
- ・親から適切にかかわってもらえない、愛着障害を抱えるように見える世帯は多い。
- ・こどもが親を気遣う様子も見られる。

### ③こどもの性格・意識等について

- ・IQが高すぎて他の子となじめない、というケースもある。
- ・こどもは、何が嫌で学校で行けないかわからないものなので、丁寧に話を聴いて、一つひとつ対応してあげる必要がある。
- ・SNSの低年齢化が進む中で、保護者との関係が築けていないこどもが被害にあう。家庭に居場所やコミュニケーションの相手がなくて、SNSに逃げなくてはいけない、ゲームをしなくてはられない子が生まれる環境にも問題がある。こどもの問題にしてしまうのではなく、大人がこどもに向き合うようにして、こどもが大人を信じていることができるようにならないといけない。大人の姿勢として、こどもの話を何時間でも聴いてあげることが大切。
- ・生活保護世帯等では、親が働く姿を見ずに成長してしまうこどもがおり、働くべきという動機づけがされない。
- ・社会一般の「当たり前」が家庭環境で崩れ、将来像への関心や動機づけが弱い傾向がある。
- ・愛着障害からくる癩癩を起こすこどももいる。
- ・発達障害の特性との区別が難しいが、落ち着きの無さ、人との距離感の近さなどがみられる。

### ④生活習慣や日常生活の様子について

- ・家でかんしゃくを起こしていても、学校ではおとなしいということも多い。最近のこどもは、がまんするようになってきている。家でもおとなしくても、何かを抱えていることも多い。ひとり親のこどもは、特に親に対して気を使っている。
- ・児童クラブで発散していることもある。どこかで発散できる場所があることが重要。
- ・家庭生活や学校生活の中で、安心・安全な関係と居場所を見出すことができずに、学習習慣や学力、通学や進学に際してリスクを負うことがある。不登校が生じやすく、学力低下、低い高校進学率につながっている。
- ・保護者の生活リズムが安定しないため、こどもの生活リズムも乱れ朝起きられない。
- ・支度・食事を自分で賄う低学年児の事例がある。
- ・在宅中心で外出・通学が難しいケースがある。
- ・室内が散らかりがち等、生活環境に課題がある。
- ・毎日入浴や着替えをして清潔に保つ、食事を三食取るといった基本的な生活習慣が身につけていないパターンが多い。
- ・病院を受診しない。視力低下を放っておかれる。(眼鏡の購入など必要な対応がされない、出来ない。)
- ・虫歯が多い、または未治療。
- ・肥満気味(食べられる時に食べる、バランスの偏った食事など)

### ⑤学力・学習習慣、通学・進学の状況等学校生活の様子について

- ・不登校の子も多いが、基本的には学校に行くようにさせているが、状況に合わせて対応している。学校には行くがすぐに帰る子もいる。
- ・小学1年生の2学期以降に学校に行けなくなるケースが多い。友達関係、先生との関係が理由になっている。
- ・外国をルーツとしたこどもが増えている。フィリピンやブラジル、ネパールなどから父親が仕事を求めて日本に来て、基盤を作ってから、奥さんやこどもを呼び寄せる。中学校まで現地で出てから日本に来たこどもは、日本語ができないために日本で高校に入ることができなくて大変困ることになる。家族同行で来た場合だと働くこともできない。
- ・日本語を勉強してから高校に入ったとしても、日常生活の日本語ができるようになっても勉強の日本語は全然わからないため、ドロップアウトしてしまう。

- ・集中力が続かなく、落ち着かない子が多く、学力、学習面では課題が多い。小学3、4年になると学校の学習内容が難しくなるので、3年になるときに支援級に入る子もいる。
- ・生活リズムの乱れから不登校になるこどもが多い。
- ・不登校が一年生から始まるケースもあり、学校への所属意識・通学習慣・学習習慣が形成されない。
- ・保育園・こども園の頃から不登園で、小学校も不登校になる事例がある。
- ・知的な低さ、発達障害があるが十分なケアや必要な支援に繋がらずにいる。
- ・登校渋滞が継続し、授業についていけなくなる。
- ・高校進学しても中退してしまう。
- ・持ち物を用意してもらえず、授業参加が十分に出来ない、遅れを取るなどのケースがある。

## (2) 保護者の特徴・課題等

### ①属性・背景等について

- ・ひとり親が増えているが、離婚ではなくはじめからシングルで育てている母親も増えている。
- ・発達障害やダウン症の母親で、こどもも同様の症状があるケースも多い。昔は見逃されていたものが、現在では親子ともに障害がある、という状況だと大変。
- ・児童クラブに入っているのは母子家庭が多い。最近はきょうだいも少ないので、母子2人という状況になるとトラブルが起きやすい。
- ・保護者も複合的な課題を抱えている。ひとり親家庭、機能不全家庭、経済的問題、子育ての不安、虐待、ネグレクト、面前DV、保護者本人の障がいなど。保護者自身が成長過程で虐待やネグレクトに遭っていたことが影響しているケースも多い。
- ・ひとり親家庭が増えているように感じている。
- ・母子家庭が多く、母親が精神を病んでいる、貧困、父親が認知していないことが多い。
- ・ステップファミリーで次の父親から暴力を受けていることもある。
- ・親自身が幼少期に虐待を受けていたり、施設経験者が多い。
- ・貧困家庭が多く、保護者が就労を継続できない。
- ・知的障害がある傾向があり、生活保護を受けている人が多い。
- ・生活保護を受けていたり、コミュニティに属していない、お金の問題、親族との関係など、多重の困難を抱えていることが多い。それらの優先順位がつけられず身動きが取れなくなってしまう。孤立して相談できる相手がいない人は困難な状況になる。
- ・ひとり親、精神疾患、知的障害などなんらかの課題をもつ親が多い。
- ・保護者自身虐待歴（性被害・DV）、トラウマがある。
- ・若年、未婚で妊娠出産（父親に当たる人がわからない）。
- ・保険料滞納や失業し未加入のままにしている、医療機関にかかれない。妊婦健診未受診。
- ・学歴が無く、定職、正社員の就労に繋がらない。
- ・歩合制の仕事（自営業や保険営業）のため給料変動。

### ②生活習慣や日常生活の様子について

- ・忙しい人ほど生活習慣は整っているが、生活保護を受けている人は生活リズムが作れていない。障害があったり、親の生活能力が低いことも多い。
- ・困難を抱えているこどもの親に話をしても、ほとんど聞いてもらえない。本音を言わない。話してみると親の言葉が稚拙なことも多い。
- ・外国人で生活保護に頼っていた人は、日本に長く住んでいても日本語が話せないが、働いている人は日本語が話せるようになっている。外国の人は、こどもの障害などは隠す傾向があ

る。

- ・日本人の男性と外国人の女性が結婚する場合には、男性が高齢の場合など、子育てには関心がない場合も多く、シングルマザーの状況になってしまう。その場合、こどもが日本で生まれたとしても、母親が日本語が話せないのも、その母語と日本語が中途半端な状況になってしまい、思考が母語になっていることがある。思考が日本語でないと、日本語で勉強したとしても理解しにくいし、思考力が育たないということになる。
- ・生活リズムが乱れており、保護者の生活リズムや気持ちが中心の生活になっている。
- ・家の中が不衛生、ごみ屋敷状態である。
- ・支払いややるべきことの優先順位をつけられず、その場しのぎで慢性的に経済困窮に陥る。金銭管理が出来ない。
- ・就労が長続きしない（人間関係がきっかけで辞めてしまうケース多数）。
- ・自分たちの生活もままならないのに、ペットを飼ってしまう（その結果、繁殖し、予防接種が未接種、掃除が行き届かず不衛生な状態になってしまう）。

### ③（保護者と）こどもとの関わり方について

- ・ひとり親家庭は、親がすべて自分で決定する必要がある、こどもとの距離が近いことが特徴、上手くいっているときはよいが、関係がこじれると修復が難しくなりがち。
- ・核家族化が進んで祖父母との関係がなくなり、家庭が弱くなっている。家庭の中で親とのコミュニケーションがあるこどもは、こども同士の間人間関係で問題が生じていても強くいられる。家庭の中に居場所があるということがまず重要。
- ・保護者の生活に余裕がないと、勉強するスペースがない、塾に行けないなどの教育環境に問題が生じている。保護者が高校に進学していない、低学力でこどもの学習をみることができない、進学についてイメージできない、進学させる意欲がないなどの場合もある。
- ・保護者自身も、成育歴を含めたさまざまな事情や生活問題を抱えていて余裕がなく、こどもの心情を理解することができず、関係が悪化することがある。
- ・こどもとの基本的な生活ができない人が多く、こどもに薬を飲ませたり、薬をつけてあげることもできないなど、家事援助が必要な人もいる。
- ・こどもとの接し方がわからない人、こどもにダメと言えない、こどもが暴れると手が付けられない人が多い。
- ・親としての自覚が乏しい保護者が増えている傾向がある。自覚を促すようなことができるとうい。
- ・親がこどもを育てる力が弱くなっている。夫婦仲が悪いことも多かったり、片方だけが強いような状況がある。親の様子をみて育ったこどもは、親になった時に同じような親になってしまう。
- ・親がそのような状況であるとこどもに影響が出る。親に気を遣うようになり、顔をうかがう、空気を読むようになってしまい、愛着障害にもなってしまう。
- ・保護者が、経済的に塾に行かせられないがこどもには勉強をさせたいという場合が多く、保護者とこどもの関係は悪くないことが多い。
- ・母親がこどもを産んでからの復職が早く、こどもと接している時間が短くなっている。
- ・ひとり親、精神疾患、知的障害などなんらかの課題のため、こどもへのケアが不足してしまいがち。
- ・過干渉よりも無関心が目立ち、問題意識を持ちにくい。
- ・「こどもをどうにかしてほしい」という外部依存が強く、自己の関わりの改善意識が乏しい。
- ・愛されてきた経験がないため、こどもを愛することができない。
- ・虐待の要因として、交際相手を優先するためにこどもを邪魔に感じてしまうということがあ

る。

- ・こどもが静かなので保護者が困らず、放置（ネグレクト）につながることもある。
- ・こどもに家事をやらせて、保護者はごろごろしているケースもある（ヤングケアラー化）。
- ・保護者が自身のことで手一杯で、こどもと楽しい時間を過ごす、適切な指導をすることが難しい。（生活、体調不良、精神疾患）
- ・そもそも保護者が学校に通っていた生活習慣が無く、登校（登園）を必要と考えていない。
- ・時給の高さから夜間就労をし、こどもを置き去り。
- ・保護者の生活リズムが安定しないため、こどもの生活もままならない。（睡眠リズム、食事、朝の送り出しや送迎が出来ず、不登校（園））

#### ④支援制度、支援者との関係について

- ・こちらから親への働きかけはできていない。声をかけられれば話をしている。
- ・生活保護を受けている負い目などから学校への相談なども行わない、知人が少ない、貧困が原因で親族と絶縁しているなど、社会的孤立を抱えていることも多く、情報量が少なくなっている。
- ・精神疾患のある保護者は定期的に連絡が途絶えるが、完全に断絶するケースは多くない。必要時は他機関経由で把握している。
- ・逆境経験を乗り越えてきていることもあり、支援者の言うことを聞かない傾向にある。
- ・必要な連絡が十分に取れない場合がある。
- ・生活保護受給拒否（世間体、車の所持が出来無い点などから）
- ・親族と疎遠、協力を得られる親族がおらず、他に頼れる支援者が居ない。
- ・解決に向けた金銭管理や支援介入には拒否。
- ・SOSを適切な時期に適切に出すことができず、緊急で今日明日にでも解決しないといけないタイミングになる。（そもそも、SOSを出す経験が無い、頼るということを知らない）

### （3）支援にあたっての課題等

#### ①他部署・他機関との連携について

- ・学校によって情報提供のレベルが異なる。ある小学校は民生委員の会合で2か月に1回、教頭先生も入っているのので、情報がもらえる。別の小学校は、情報を出してくれない。
- ・学校との連携は、もっと強くできるとよいと考えている。
- ・民生委員には、困難を抱えているこどもや保護者の情報が入ってこない。
- ・新生児訪問の同行でもっと情報が把握できると良い。歳末援護金の配布でも、支援を視野に入れてみていくことで、新たな気づきにつながる可能性がある。
- ・コミュニティスクールが進められているが、学校の課題が地域にオープンにされていない。
- ・中学校が、こどもに関する課題を認識すること。地域の課題としては、社会福祉協議会、民生委員と連携して対応する考えがあるとよい。
- ・学校が、地域との関わり方がわかっていないのでは。問題に発見、解決について、地域とつながることが必要。
- ・こども園や保育園とどのようにつながるかが課題である。乳児から小学校に入るまでの間の情報のつながりが途切れてしまっている。
- ・こどもが成長する環境をどのように作るか、支援機関がバラバラで動くのではなく、連携していかないと、それぞれが上手くいかなくなる。
- ・保健センター・こども家庭センター間の役割分担が曖昧なため、どの部署が対応するかでもめることがある。
- ・虐待対応のノウハウはこども家庭センターの方が有しているため、保健センターとも一緒に

やっていきたい。

- ・個人情報共有の線引きが難しく、虐待未満のグレーケースで連携が滞る。
- ・計画相談の担当固定がなく、コーディネーターが支援側に過度に依存。
- ・児童相談所は地域資源との接続の弱さがある。また、こどもを家に帰しても安全かのラインについて、こども家庭センターと児童相談所で認識差があり、調整に苦慮する。

## ②継続的な支援のあり方について

- ・支援員が3年で替わることが課題にならないよう育成が重要である。なんでもやってあげるのではなく、助けてと言える状況にしたり、自分でやってみる経験を持たせるなど、本人が生きる力を見定めながら自立できるようにしてあげる福祉のセンスが重要である。現場で異動しない専門職が増えてくれるとよい。
- ・福祉の現場は、新卒では難しく、民間の人材が入ってきているが、ありがたいと言われるのがやりがいになるのではなく、感謝を言えない人にも対応する意識が必要である。
- ・人材不足、人材育成が課題である。保育士だけでなく継続的に募集をかけているが、なかなか適切な人材を確保できない。
- ・人材の確保が大きな課題。母子の問題の本質を理解して考えることができる人が必要。寮長補佐に適切な人材が就くことが重要。
- ・母親がいるので、こどもだけをみるよりは人手は必要ないが、施設の運営を考える中核的な人材が必要。母親の困っていることを聴いた上で、厳しくもできるような人材をいかに確保するかが難しい。
- ・心理職・現場人員が不足している。
- ・電話中心のやりとりのため、柔軟なコミュニケーション手段が不足している。
- ・キャッチしたところが適切に必要な支援の提案、繋ぎが出来ることが理想。
- ・その子やその保護者、世帯にとって、継続して利用が出来る支援に繋げるための猶予、準備期間があることで、支援を実際に体験でき、使い続けるために、医療への相談や手帳申請などの検討に繋がるきっかけになる。

## ③その他

- ・こどもに対しては、ある程度支援の仕組みがあるが、親を助ける人がいない。親が自分のことで手一杯でも、保護者がこどもを守る意識を持てるようにしてあげることが必要。
- ・保護者も、SOSを出せない人が多くなっている。人に迷惑をかけないことだけを意識して育ててきた大人は、相談できるまでのハードルがいくつもあつた。先生でもそのような人が増えている。社会がやさしくならないといけない。責められないと思える社会になること。
- ・SOSを出してもらえれば対応することができる。小学1年生から人権教育を始めるべきで、こどもに暴力がだめであることを知ってもらう。親にも知ってもらう必要がある。いじめ防止を先生に担わせるのも無理であり、外部の人が継続的に入って当事者の意見を聞いていくことが必要である。
- ・生活保護を受けることができないケースに対応してあげることができるとよい。
- ・不登校が増えており、小中学校の教育も変えていく必要がある。昔は学校で行われていたお祭りや図工大会、運動会、特別活動などが行われなくなり、非認知的能力を獲得することができる生活の場ではなくなり、塾と同じような勉強を中心とした場になってしまっている。
- ・一度つながることができれば、いろいろと話してくれるようになるが、民生委員の一期3年では、そこまでの関係を作ることが難しい。
- ・障害福祉サービスへのアクセスについて、計画相談・医療機関のキャパが不足しており、支給決定までの待機期間が長期化（2～3ヶ月以上）しており、支援の切れ目が生じやすい。

- ・医療的ケア児の短期受け入れ先（ショートステイ等）が極端に不足している。
- ・受給者証・各種更新の失念・紛失が多く、紙ベース運用が負担となっている。
- ・窓口・制度（ショートステイや一時保育）の空きが不足している。
- ・支援を入れることで、こどもの生活が改善する、安定した生活に繋がることを目指しているが、こどもにとっては、保護者や家族と良い関係で安心して暮らせることが一番大切なことなのでは、と感じる場面がある。そのため、支援をどこまで入れるか、保護者とこどもそれぞれの様子を見極めて行かないとならない難しさを感じている。

#### （４）困難を抱えているこどもやその保護者の状況が改善に向かった好事例

##### ①背景・要因について

- ・相談相手としては、ママやこどもからみると女性の方が話をしやすいと思う。
- ・とにかく相手の話を聴いてあげることが大切で、その中からどのような支援が効果的かを考えていくこと。
- ・アルコール中毒の夫と別れたネグレクトであった母親が3人のこどもを育てながら、しっかり働くことができ、キャリアアップも考えられるようになった例もある。
- ・どんなことで、本人が自信を持つことができるようになると、解決することが多い。
- ・思春期のこどもと母親のトラブルのケースが多い。こどもの態度が悪い時に母親は放っておくことができず、干渉することでこじれてしまう。あえて放っておくことを勧めることもある。親は悩んでいても、こどもの方はイベントに出てきたりボランティアに参加してくれていることもある。
- ・不登校気味だったこどもが学校に行けるようになったり、受験を頑張ろうとしてくれた例や、将来に対して考える機会、進路について相談に乗ってあげる中で、前向きになったこともある。
- ・保健センターとの連携の事例で、家庭に資源が乏しい中、障害福祉サービス・ヘルパー・訪問看護等を複合的につないだところ、家の状況が改善した。
- ・定期的に第三者の目が入るようになり、モニタリングしやすくなった。
- ・精神疾患を持つ保護者がサービス申請をしたが、山間部のためすぐに障害福祉サービスの導入が困難なケースがあった。ヤングケアラー支援を取り入れ、定期的に支援者が自宅の状況の把握が出来たこと、食事作りを手伝ってもらえたことで母のモチベーションの回復にも繋がった。
- ・今までこどもが保護者の病院受診に同行をしていた（その日こどもは学校を欠席）が、支援員が移動支援に入ったことをきっかけに、保護者ひとりで受診が出来るきっかけを持つことが出来た。

##### ②支援における工夫等について

- ・その時は親身に考えてしたことが失敗と思っても、後々では上手くいっている、という話もあるので、長期的にみてあげることも必要と感じる。
- ・主任児童委員でも、人によって関わり方の幅もあり、交替することもあるため、ノウハウや具体的な事例をまとめた小冊子を今年度作成している。
- ・オンラインやデジタル化が進んでいるが、人と人が顔を見せてコミュニケーションを取ること、アナログの経験が大切に思う。直筆の手紙の良さも見直したい。
- ・孤立している親に、一人でも味方がいると思ってもらえるようつながりを作ることが重要。
- ・関係機関と連携する中で、より複合的かつ重篤な生活問題を抱えた生活困窮家庭を掘り起こし（出逢い）、その家庭のライフステージのなかで様々な出来事が起きたとしても「つなが

り」続け、そして「支え続ける」ことを大切なスタンスであるとしている。そのような生活困窮家庭を包括的に「丸ごと」支援していくための取り組みをしていくことが、生活困窮家庭への支援や「こどもの貧困」対策に必要な理念（実践）であり、また「家族の機能不全化や貧困の世代間連鎖」を予防していくことにつながっていくと考えている。

- ・この地区は地域福祉に力を入れており、地域の祭りや行事、運動会などで地区社協など、各種団体との連携が図られている。自治会、社協、民生委員で連携が取れるようになった。
- ・この地区では、自治会館で小学生の居場所を設けている。主催は自治会連合会で、本やお菓子をおいたりして、いつでも気軽に来てもらえるような場所を作っている。
- ・学校から情報をもらえて、親とつながることができるがよい。
- ・要保護児童対策地域協議会の参加機関や行政の教育委員会、福祉部局、SSW、社会福祉協議会など、様々な組織と連携し、ネットワークを作っている。
- ・スクールカウンセラー、民生委員、法テラス、児童相談所、生活支援施設、母子会などと連携している。
- ・県のひとり親サポートセンターと連携し、情報をもらったり、市の母子会が評議員に入ってもらって運営に参画してもらっている。
- ・小中学校との情報交換会を10年ぐらい続けているが、実現するのは大変であった。こちらから言わないと学校は情報を出さないで、積極的に働きかけ、当時の校長、教頭が理解があったので実現してから続けている。
- ・障害福祉サービスの利用にあたって、支援側が主導となって計画相談・事業所選定まで伴走し、保護者が動けない部分を補完した。
- ・民生委員・児童委員等が集まる会議での情報共有を図っている。
- ・関係機関との連携を図っている。（保健センター・障害の計画相談・訪問看護、放課後等デイサービス、児童発達支援事業所、民生委員等）
- ・その場しのぎの対応が必要な場面もあるが、継続して何が使えるかを常に考えて対応をする。
- ・どう組み合わせる支援体制を構築するかを、他機関も含め相談をしていく。

#### (5) 今後必要となる支援（市に望む支援・施策）

- ・手当なども増えており、全体的には子育てしやすくなっていると思う。
- ・主任児童委員や、保健師が替わっても引継ぎがされている。
- ・こどもが相談しやすくなり、こどもが、自分の状況がヤングケアラーやネグレクトである、ということを感じることができるようにしてあげることが重要。
- ・子育てサポーターは良い仕組みで、サポーターの側も、世話をすることを楽しみにしているが、知っている人でないと使えないので、主任児童委員の集まりに来てもらったり、地域の中で、サポーターを知ってもらったり、子育てサロンに来てもらうことで、使いやすくなると思う。
- ・学校では、スクールソーシャルワーカーが入っているが、地域とのつながりという面では、心配なことについて、主任児童委員に相談してほしい。準要保護世帯の情報などをもらえるとよい。
- ・今までは会報などを紙で作っていたが、ホームページの利用や動画で活動の紹介やレクチャーを見ることができると、民生委員のことなども広めやすくなる。
- ・いろいろなことを市や学校がしてくれるようになったが、手厚くされるのが当たり前になってしまい、自分達で何とかしようとしなくなっている。
- ・保護者と交流すること、こどもが集まることができることが重要。昔あった駄菓子屋のよう

なところ。週一回ではなく、常設の居場所を作ってあげたい。川崎市には、児童館と高齢者施設が一緒に入っていて多世代の交流が生まれる施設がある。こういった施設が静岡市にもできるとよい。

- ・地域の中でいろいろな人と関わりが持てるようになること。
- ・主任児童委員が地域と学校とのつなぎ役になる。地域によって担っていることが異なっており、子育てトークしかしていないところも多い。主任児童委員のためのハンドブックを今年度作ったので、地域のニーズに合わせてながら活用してってもらいたい。
- ・ひとり親であることが原因のように捉えられる中でも、実際は障害を持っていることが原因であることが多くなっており、障害者の方の公的な支援につないでほしいケースがある。
- ・様々な困難ケースに対応するためのメニューが少ないと感じている。
- ・放課後デイサービスなどの支援は充実してきたが、家庭内に対する支援がないと思う。
- ・行政の予算が少なくなっていく中で、地域の課題を解決するために地域の人が活躍できるようにしていく必要がある。沖縄では、地域のNPOが指定管理をしていて、学校に通っていない高校生も活動に参加するようになっている事例もある。
- ・ラップアラウンド方式という、地域住民が自ら自分たちの地域のことを考えて行動する仕組みを作っていく必要がある。これからは防災、教育、福祉などで地域の活動が重要である。
- ・行政職員の対応で悪い印象を持つことが多くなっている気がする。市職員で相談を受ける人のケアをする仕組みも作る必要がある。若手を育てる意識を持って、働きやすい職場にしないといけない。児童相談所やこども家庭センターにも人を増やし、質を向上させる必要がある。
- ・こどもの問題を学校や親のせいにするのではなく、支援機関も組織の運営中心ではなく当事者中心の視点を共有することが重要。
- ・団体同士がつながることができるネットワークを作してほしい。
- ・活動においては、交通費が不足しているので、上げてほしい。支援側が困らないようにしてほしい。
- ・乳児期から成長するまで継続的な支援ができるとよい。
- ・悩みを抱えている親への支援が重要。気軽に相談したり、つぶやくことができる相手がいること。
- ・学校との情報交換会は、いつも秋に開催されているが、本当は夏休み前がよいと考えている。
- ・職員の配置基準を見直してもらってもっと増やせるとよい。人材を育成するためには、ある程度多くを雇っていく必要がある。
- ・学習支援は小学5年生ぐらいになると落ち着いてくるが、低学年は難しいのでスムーズに学習に入ることができるようにしていくこと。幼稚園・保育園から小学校に入学する時が課題である。
- ・措置延長でアフターケアができるようになって22歳までみることができるようになった。大学までしっかり出ることができた子は、その後も大丈夫だが、大学を途中でやめてしまうと、アルバイトしか収入がなくなり、措置援助も切れてしまう。そういった子をどこまで支援できるかが課題である。
- ・世帯全体の見通しを立てながら、こどもが成長できるような視点で、支援者間のサービス調整が重要。
- ・支援者間の連携を密にしてほしい。情報共有がどこまでできるか。重層的支援体制整備事業の対象になれば情報共有がされるが、そこまでではないと、日常的な情報共有ができない。こどもの支援という視点で情報共有できるようにすること。

- ・こどもの健全育成にあたっては、家族、隣近所、地域が、それぞれどのような責任を持つかを考え直す必要がある。行政の支援にも限界はあり、自治会や組でできることも、もっとあるはず。前述の例でも、地域でつながりがあれば、防げたかもしれない。つながりができれば、家の周りの草刈りや家の片付けも手伝ってあげることもできる。
- ・学校や社協なども含めて相談できるネットワークや会合があるとよいと考えている。
- ・登校支援・受診支援など同行支援を拡充してほしい（人員確保）。
- ・障害分野の計画相談や、障害の判定をする医療機関のキャパ拡充、障害福祉サービス支給決定の迅速化が必要。
- ・計画相談を個人で探すのが難しいので、申し込み希望者のマッチング等、うまく見つけれられるようになるといい。
- ・保健センターとこども家庭センターの役割分担が明確になってほしい。
- ・子ども医療費の受給者証等、更新を忘れてしまったり、通知を捨ててしまったりする場合があるため、アプリ等で一元化できると良い。
- ・利用要件を問わず利用可能な、土日のこどもの預かり先が不足している。
- ・既存公共施設（茶木魚等）を自習室のように開放してくれると良い。
- ・交通手段がない家庭では、こどもを遊び場等に連れて行くことができないことが課題。
- ・避妊・中絶費用に関するセーフティ（貸付・公費支援等）で望まぬ妊娠による養育困難を予防できると良い。
- ・子育て支援ヘルパーは年齢の決まりがあるので使えない人がいて困るため、利用可能対象世帯が拡充されると良い。
- ・医療的ケア児のショートステイ先があると、保護者の精神的負担の軽減になる。
- ・支援対象の保護者と、LINE 等でやりとりができるよう、公式運用の検討とルール整備が必要。
- ・母子のショートステイの予約が取りづく、利用しづらい。また、一時保護の際以外のレスパイト目的にも使えるような運用になると良い。
- ・保育園の一時預かりが利用できる園が増えると良い（職員数が増えないといけない）
- ・母子家庭などで、母が体調不良の際にこどもが宿泊できるようなこどもの居場所があると良い。
- ・登校・登園支援の公的サービスが充実するといい。ファミリーサポートセンターもあるが使いづらい。
- ・産後ケアの費用負担軽減と利用しやすさが向上すると良い。
- ・養育支援訪問員や子育て支援ヘルパーのような地域の支援者のスキルを向上させるための研修があると良い。
- ・こども家庭センター内に、児童相談所の「心理判定係」のような担当があり、こどものアセスメントをこども家庭センターで行えるのが理想。
- ・母子会ヘルパーやヤングケアラーヘルパーは年 10 回の利用ではあるが、月 1 回は利用できるように 12 回等回数を増やせないか。
- ・母子会ヘルパーを母子会のピアで対応するのではなく、きちんと居宅介護・家事援助事業所に依頼できないか。母子会ヘルパーを母子世帯以外の利用条件なく使えないか。（ヤングケアラー支援を実際に導入した実感として、居宅介護事業所が入ってくれることで、支援が細切れにならず、尚且つ依頼した側の意図も汲み支援をしてもらえている。）
- ・年齢の制限無く、子育て世帯であれば使えるヘルパーが必要（現在の制度は原則 1 歳または 3 歳まで）。幼児または小学生の世帯にもニーズがある。
- ・フォーマルな支援（行政の支援や福祉サービス）とインフォーマルな支援（地域の居場所支援や民間での支援）の情報が、どうしてもすべてが把握できていない。一覧や冊子などのま

とめられたものがあると良い。

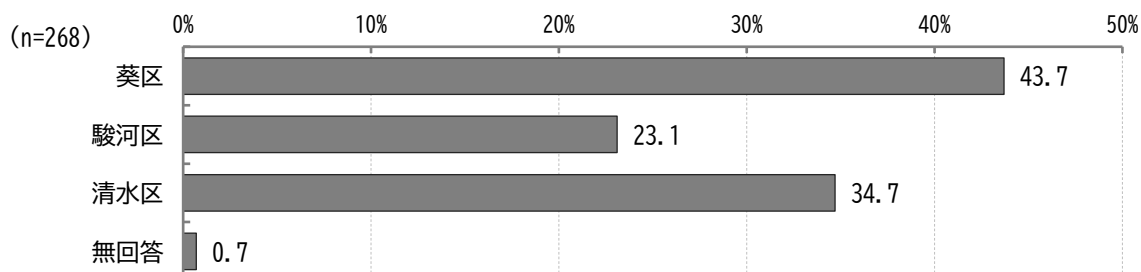
- ・学習支援の拠点に行けない子、保護者が送迎出来ないケースもある。頻回でなくとも、各区それぞれのこどもに学習を補える機会や時間が持てる工夫があると良い。(既にひとり親向けや、てのひらの学習支援があった上で)
- ・性教育(避妊、性被害の予防など)が男女共に必要。

## 2. アンケート実施結果

### (1) 回答者（部署・機関）のこと

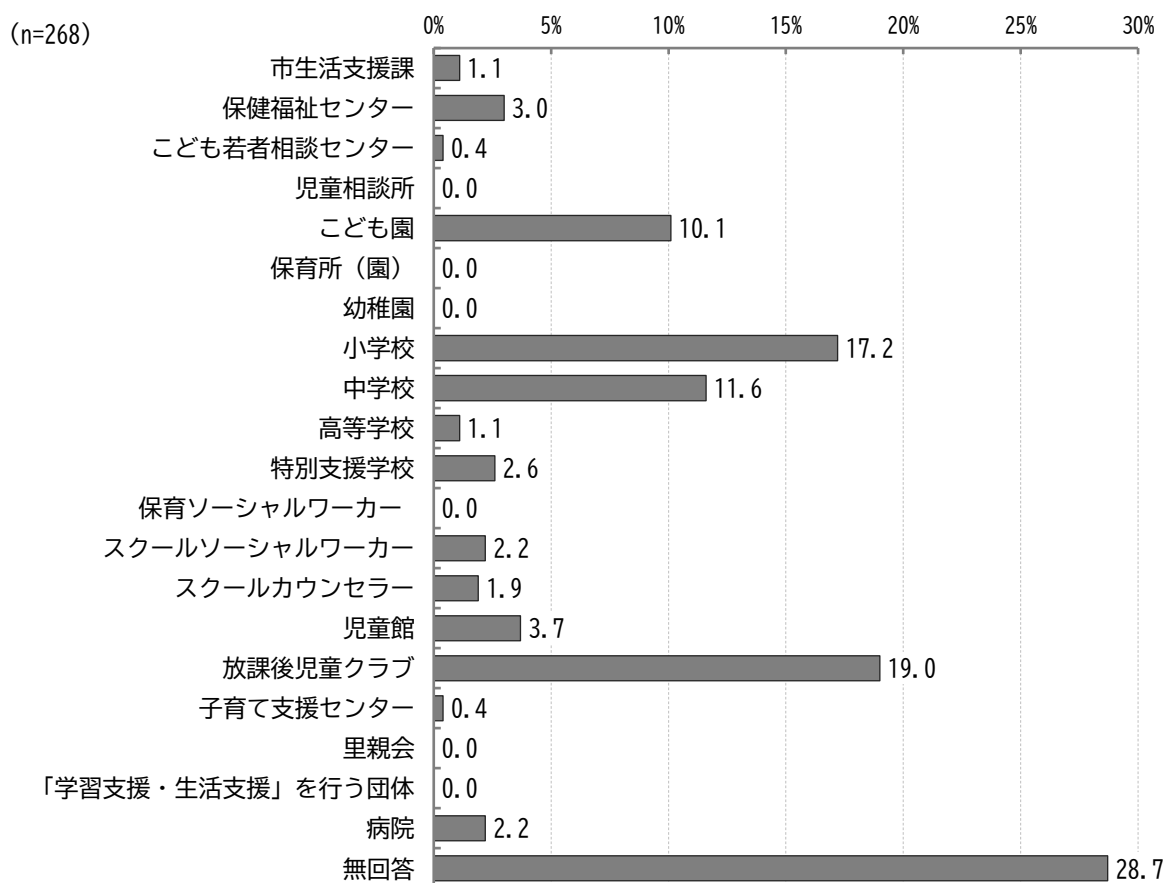
問1 回答いただく部署・機関は、何区にありますか。  
(複数事業所がある場合は、あてはまるものすべて選んでください。)

「葵区」が43.7%と最も多く、次いで「清水区」が34.7%、「駿河区」が23.1%となっています。



問2 回答いただく部署・機関は、次のうちどれですか。(あてはまるもの1つ選択)

「無回答」が28.7%と最も多く、次いで「放課後児童クラブ」が19.0%、「小学校」が17.2%となっています。



問3 回答いただく部署・機関の名称をお答えください。

団体名のため内容は省略しています。

(2) こどもや保護者の様子

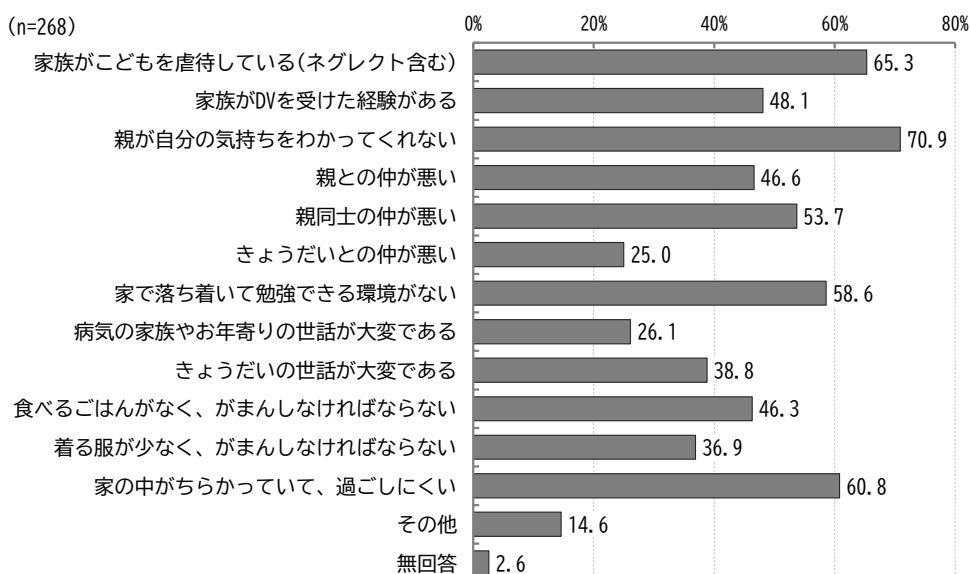
問4 生活や健康、学習面等で困難（以下、「困難」といいます）を抱えやすい、あるいは、抱えているこどもには、どのような特徴・課題等があるとお考えですか。（自由記載）

<主な意見>

- 食事に偏りがある
- 睡眠が十分取れていない
- 忘れ物（宿題、持ち物等）が多い
- 情緒が不安定になりやすい、自信がない
- ゲームや動画を見ている時間が長い
- じっくり集中して取り組むことや我慢することが苦手
- 物への執着や好きな物への依存が強い
- 医療機関への受診が適切になされていない
- 愛着に関わる課題が見られ、教師や友達など人との関わりに困難を抱えることが多い。

問5 生活や健康、学習面等で困難（以下、「困難」といいます）を抱えやすい、あるいは、抱えているこどもの背景には、どのような特徴・課題等があるとお考えですか。（あてはまるものすべて選択）

「親が自分の気持ちをわかってくれない」が70.9%と最も多く、次いで「家族がこどもを虐待している（ネグレクト含む）」が65.3%、「家の中がちらかっている、過ごしにくい」が60.8%となっています。



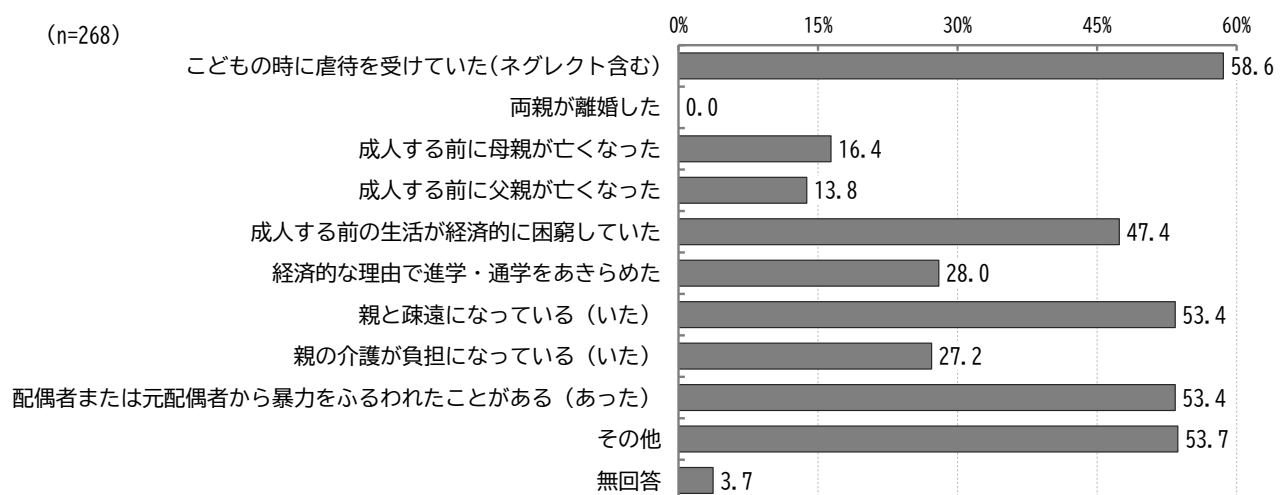
問6 困難を抱えやすい、あるいは、抱えている保護者（家庭）には、どのような特徴・課題があるとお考えですか。（自由記載）

<主な意見>

- 保護者が子どもの言葉を鵜呑みにして事実を受け止められない
- 夫婦での連携がはかれていない（どちらか一方に負担がある）、夫婦仲が悪い
- 家庭の経済力に余裕がない
- 気持ちに余裕がない、保護者自身に生きづらさを抱えている
- 学校の教育活動に非協力的または関心が薄い。
- 保護者自身の生活や心の安定がとれていない
- 周りに頼る人がいない、保護者間の関わりが少ない、すぐに相談できる場所が少ない
- 援助のための申請も保護者単独ではなかなかできない
- 子どもに無関心だったり、過干渉だったりする
- 親の養育能力の低さがまたその子どもに連鎖する
- 過去に逆境的小児期体験をもつ方、トラウマ症状から人と繋がれない、人を信頼するのが難しい、周りにサポート体制がなく孤立しているなど
- 他者に対して不信感を持っていることが多い
- 困っていることを他の人に伝えないことが多い

問7 生活や健康面等で困難（以下、「困難」といいます）を抱えやすい、あるいは、抱えている保護者の背景には、どのような特徴・課題等があるとお考えですか。（あてはまるものすべて選択）

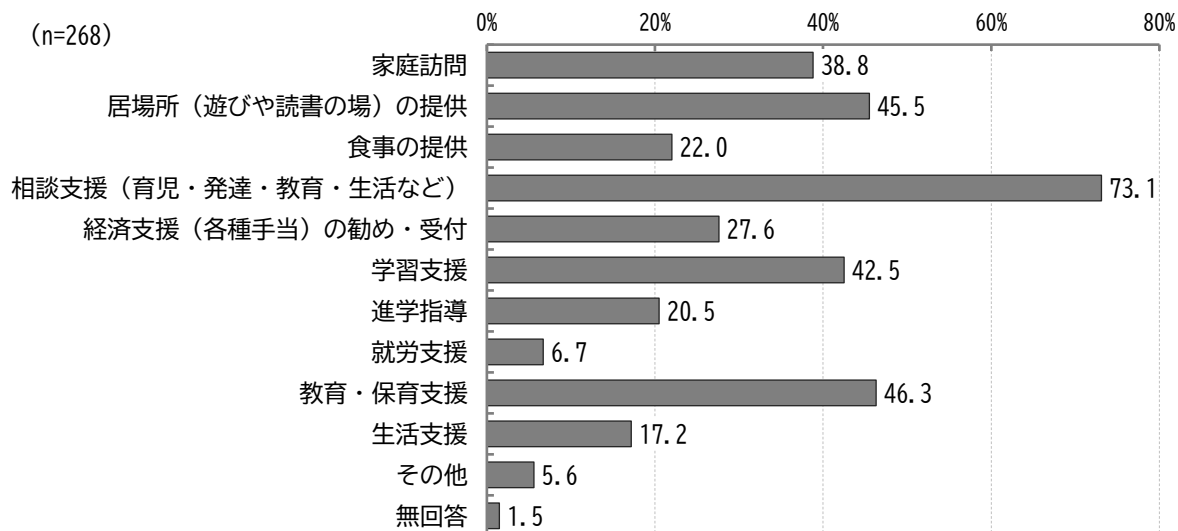
「子どもの時に虐待を受けていた（ネグレクト含む）」が58.6%と最も多く、次いで「その他」が53.7%、「配偶者または元配偶者から暴力をふるわれたことがある（あった）」が53.4%となっています。



### (3) 実施している支援

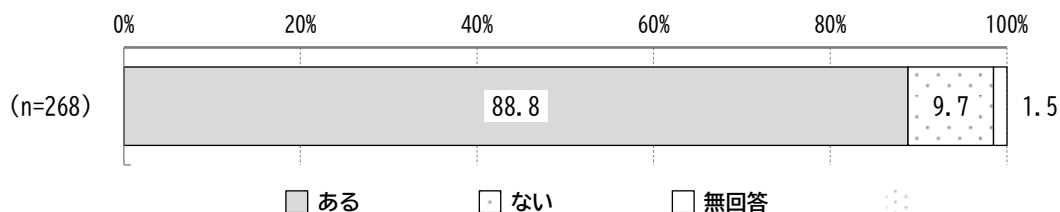
問8 貴部署・機関では、問4～問7のような子どもやその保護者に対し、どのような支援を行っていますか。(あてはまるものすべて選択)

「相談支援（育児・発達・教育・生活など）」が73.1%と最も多く、次いで「教育・保育支援」が46.3%、「居場所（遊びや読書の場合）の提供」が45.5%となっています。



問9 支援にあたり、他の部署・機関と連携（情報のやりとり、他部署・機関が実施するサービスの紹介など）する機会がありますか。（どちらか1つ選択）

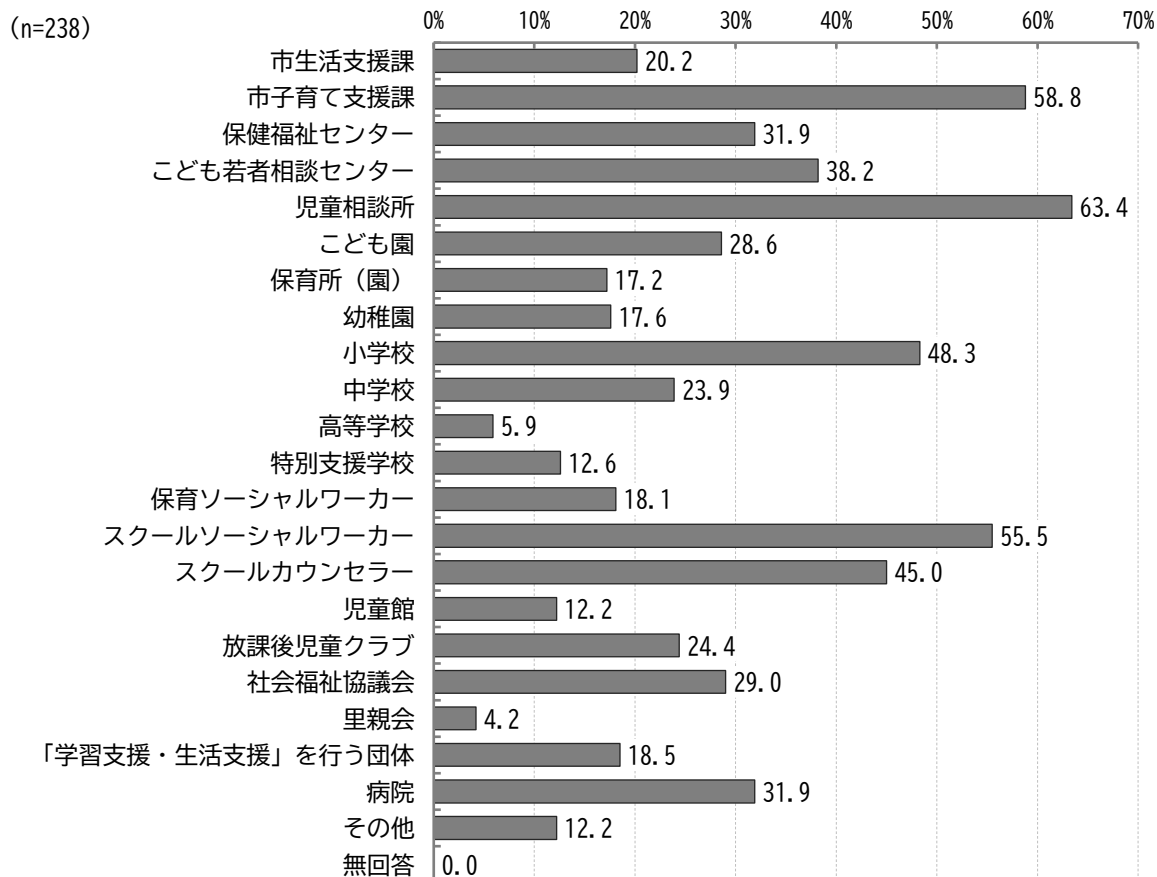
「ある」が88.8%と最も多く、次いで「ない」が9.7%、「無回答」が1.5%となっています。



問9で「ある」と回答した方にうかがいます。

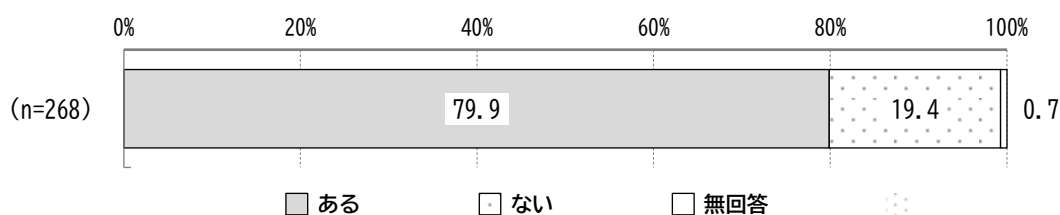
問10 どの部署・機関と連携したことがありますか。(あてはまるものすべて選択)

「児童相談所」が63.4%と最も多く、次いで「市子育て支援課」が58.8%、「スクールソーシャルワーカー」が55.5%となっています。



問11 支援にあたり、課題に思うこと、困難を感じることはありますか。(どちらか1つ選択)

「ある」が79.9%と最も多く、次いで「ない」が19.4%、「無回答」が0.7%となっています。



問 11 で「ある」と回答した方にうかがいます。

問 12 困難を感じている内容について、具体的に教えてください。(自由記載)

<主な意見>

- 保護者が支援を拒否する場合がある
- 様々な事の保護者への伝え方が難しい
- 保護者の応用が効かないことが多く、次回相談日には新しい問題や悩みが生じており、なかなか状況が安定していかないこと
- ライフステージが変わってからも継続的な支援が必要であるが、支援者間でなかなか連携がとれないこと
- 家庭への介入には限度あるため、他機関との連携が必要
- 保護者と連絡が取れない
- 一時保護解除時に児童相談所と連携が取りづらい。担当者によって言っていることや動きが変わる。DV や暴力の捉え方の違いから個人の責任にされることがある。女性相談の役割が見えにくい。
- 受診が途絶えると継続した支援が難しい、病院に過度の役割を求められることがある
- 支援学級に入った方が良いと思うが、親が受入れる事ができない
- 困難さを認めなかったり、隠したりしてしまう。その困難さは本人にしかわからないため、触れて良い部分と触れてはいけない部分の見極めが難しい。また、自分の言葉でマイナスな言動に向かってしまうことがないとは言い切れない

問 13 これまでの支援の中で、困難を抱えている子どもやその保護者の状況が改善に向かった事例があれば、その背景や要因、支援における工夫等についてお教えてください。(自由記載)

<主な意見>

- 困り感をききとり、サポート（子どもへの）の仕方を詳しく提案する
- 学校から情報を得られるようになり居場所を作って繋げることが出来た
- 保護者の困りや悩みの種類が多いため、話や対応の優先順位を整理し、具体的な対処法を示す。必要に応じて専門の相談先を情報提供し、見通しが持てるようにする。出来事の捉え方や考え方のリフレーミングを促す。これらにより保護者の混乱や不安、イライラが軽減し、子どもに当たることが減る
- 相談支援事業所と情報を共有し、サポートの計画を実施することで改善
- 生徒の登校支援として奨学金を勧めたことで登校意識が改善
- ソーシャルワーカーと連携したことで、家庭内の問題が軽減し、児童の登校渋りが減った
- 行政や福祉とのつながりを作ったことで、保護者と担当者との定期的な面談が行われるようになり、学校が家庭の状況を把握しやすくなった。そのため、学校側の支援も充実させることができた
- 福祉サービス等の支援が必要な家庭に対し、情報提供や申請等、手続きにおける支援ができた

#### (4) 今後必要な支援・施策等

問 14 困難を抱えやすい、あるいは、抱えている子どもやその保護者に対して、今後、静岡市はどのような支援を行う必要があると考えますか。(自由記載)

<主な意見>

- スクールソーシャルワーカー等の増員
- スクールソーシャルワーカーの勤務時間を確保してほしい(国の補助制度における標準配置時間である「810時間」にとらわれない配置を求める)
- 学習支援等の居場所支援がない地域への支援
- 学校以外に助けを求められる場所が増えるとよい
- 支援者の支援。支援者が安心して働ける職場や雇用形態があること
- 居場所作り。多人数より少人数の中で落ち着ける傾向にある子どもが増えている。少人数制のクラスでの生活の方が安定していると思う
- 学校は支援クラスをもっと積極的に増やしていけたら良いと思う。支援クラスというと保護者には抵抗があるでしょうが、そちらで明るく伸び伸び生活できている子どもを見るとこちらもほっとする。もっと学校側がはっきり保護者に伝えられる環境になるように働きかけをしてほしい(児童クラブでは伝えることができない)
- 家庭支援に取り組む基幹相談や市の支援体制の充実・移動支援などのサービスの充実(支援者の確保)
- 困ってから(事が起きてから)の対応ではなく、相談に気軽にのってもらえる場所が必要
- 支援が必要な家庭を把握すること、市がもっている情報を学校にも共有してもらい、役割を明確にして本人・保護者へのアプローチができるようにしたい
- ショートステイ等の利用を促進、経済的に支援する
- なかなか本人から支援機関に足を運ばない方も多いので、家庭に入れる方の育成。敷居の低い窓口。事情を知ってからのスピード感ある対応。
- 特別支援教育支援員の増員(各学年に1人ずついると支援が行き届く)
- 一時保護の後、入所できる施設を増やしてほしい
- 保護者の相談をワンストップで聞いてくれる、対応してくれるところ
- 経済的なことだけでなく、生活支援の充実をその家庭を継続的に見ていくこと、つなげる機関の充実
- 軸としたケース会議が容易に実施できるようにしていただき、効果的な支援につなげられたらよい。行政福祉サービス、民間福祉サービス、医療、警察、教育委員会、学校等が効果的に連携できるような会議体が容易に実現できると学校現場としてはありがたく感じる



## IV 參考資料

---

---

## IV 参考資料

※制度利用者を対象とした調査依頼文及び調査票の内容は一般調査と同一のものとなっているため、掲載を省略します。

### 1. 一般調査依頼票（こども）

しょうちゅうがくせい・こうこうせいよう  
小中学生・高校生用

しずおかし  
静岡市 こどもの生活実態調査  
アンケート調査へのご協力をお願い  
なす

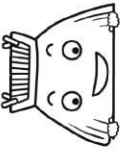
このアンケートは、小中学生・高校生の年代（平成20年4月2日～平成27年4月1日生まれ）のみならず、お父や学校での生活、連絡などの将来について、どのような考えを持っているかなどを聞くために、静岡市役所が調査をするものです。  
このアンケートの結果は、これからの交際や計画を考へるときに役立ちます。  
ぜひ、調査にご協力をお願いいたします。  
令和7年12月12日（金）までに回答をお願いします。

【ID（半角英数字）： パスワード（半角数字）：  
回答は下記どちらからかの方法で上記のID、パスワードを入力し、回答フォームから回答してください。  
①インターネットでURL  
<https://www16.weboas.net/form/pub/survey-2311/shizuoka02> を直接入力  
②スマートフォン・タブレット端末で二次元コードをよみとり

【回答にあたって注意してほしいこと】  
1 回答は、だいたい15分くらいで終わります。  
一時保存ができますので、回答できるときに回答してください。  
2 このアンケートには、あなたの今の生活や考えをそのまま回答してください。  
3 アンケートの回答は、「数字」を記入するものと「あてはまるものを1つ、または、複数」をえらぶものがあります。  
4 まちがった答えや、正しい答えはありません。自分の思ったことをそのまま回答してください。  
5 答えが悪いかわからない場合や答えにくい質問はそのままとばして次に進んでください。  
6 回答の自身は、家族の方も学校の先生も見てもありません。  
7 調査について、わからないことなどがあれば、電話かメールで連絡してください。

◆調査実施主体  
静岡市こども未来局こども未来課  
連絡先：054-221-1169  
E-mail: kodomomirai@city.shizuoka.lg.jp


◆調査受託機関  
株式会社 創建  
〒410-0808 静岡市清水区新井  
連絡先：052-253-7169



静岡市こども未来局  
しずおかこども未来局


困ったことや相談したいことがあるときは、下の相談先へ気軽に相談してください。

- ・静岡市24時間こども若者電話相談（054-254-6811）  
いじめや子どもたち関係、勉強、進路、家族のことなどについて電話相談を24時間受けつけています。
- ・静岡県うちあげダイヤルLINE相談  
LINEアプリの「友だち追加」から「二次元コード」で友だちを追加して相談メッセージを送信してください。相談員がメッセージを返信します。



二次元コード

- ・24時間子供SOSダイヤル（文部科学省）（0120-0-78310）  
いじめで困ったり、自分や子どもたちの安全に不安があったりしたら、一人で悩まず、いつでもすぐ電話で相談してください。



集団DRキャラクター  
あおいぐん

- ・こどもの人権110番（法務省）（0120-007-110）  
平日 8時30分～17時15分  
こどもの人権問題に関する専門相談ダイヤルです。通話は無料です。  
いじめや虐待などで悩んでいたら、気軽に相談してください。  
学校のスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーにも相談できます。  
困ったときは1人で悩まず、相談してください。

## 2. 一般調査票（こども）

しょうちゅうがくせい こうこうせいよう  
小中学生・高校生用

【アンケート調査へのご協力をお願いします】  
このアンケートは、小中学生・高校生の年代（平成20年4月2日～平成27年4月1日生まれ）のみ  
なさんに、お家や学校での生活、連絡などの将来について、どのように考えているかなどを聞くために、  
静岡市役所が調査をするものです。

このアンケートの結果は、これからの支援や計画を考えると役に役立っています。

ぜひ、調査にご協力ををお願いします。

令和7年12月12日（金）までに回答をお願いします。

【回答にあたって注意してほしいこと】

- 1 回答は、だいたい15分くらいで終わります。  
一時保存ができますので、回答できるときに回答してください。
- 2 このアンケートには、あなたの学業や考えを聞いたまま回答してください。
- 3 アンケートの回答は、「数字をえらぶもの」と「あてはまるものを1つ、または、複数えらぶもの」  
があります。
- 4 まちがった答えや、正しい答えはありません。自分の思ったことをそのまま回答してください。  
答えが聞けなかったり答えにくい質問はそのままとして次に進んでください。
- 5 回答の中心は、家族の方も学校の先生も負うことはありません。
- 6 調査について、わからないことなどがあれば、下記まで連絡してください。

◆調査実施主体 静岡市子ども未来局こども未来課

連絡先：054-221-1169

◆調査受託機関 株式会社 創建

連絡先：052-253-7169

1. あなたについて、教えてください。

問1 あなたの性別を教えてください。(あてはまるもの1つ)

1. 男(おとこ) 2. 女(おんな) 3. その他(そのた) 4. 回答(かいとう)しない

問2 あなたの住んでいる区を教えてください。(あてはまるもの1つ)

1. 葵区(あおいく) 2. 駿河区(するがく) 3. 清水区(しみずく)

問3 あなたと一緒に住んでいる人を教えてください。(あてはまるものすべて)

1. おかあさん 2. おとうさん 3. おばあちゃん 4. おじいちゃん 5. おにいさん  
6. おねえさん 7. おとうと 8. いもうと 9. そのほかのひと( )

問4 あなたが通っている学校や仕事の状況を教えてください。(あてはまるもの1つ)

※学校に行きながらアルバイトをしている場合は、通っている学校をえらんでください。

1. 小学校 2. 中学校 3. 高校 4. 高等専門学校・高等専修学校  
5. 学校には行っていない 6. はたらいている 7. その他( )

問5 令和7年4月1日のおよぼす年齢を教えてください。(あてはまるもの1つ)

1. 10才 2. 11才 3. 12才 4. 13才  
5. 14才 6. 15才 7. 16才 8. 17才

2. あなたの普段の生活について、教えてください。

問6 あなたは、( ) (月曜日～金曜日)、朝決まった時間に起きられますか。(あてはまるもの1つ)

1. おきられる 2. どちらかといえば、おきられる  
3. どちらかといえば、おきられない 4. おきられない

問7 あなたは、( ) (月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間に寝ていきますか。(あてはまるもの1つ)

1. ねている 2. どちらかといえば、ねている  
3. どちらかといえば、ねていない 4. ねていない

問8 あなたは週にどのくらい、食事をとっていますか。(それぞれあてはまるもの1つ)

	まいごと (週7日) 食べる	週5 と6日	週3 と4日	週1 と2日	まったく 食べない
a) 朝食	1	2	3	4	5
b) 夕食	1	2	3	4	5
c) 昼休みや登校前などの期間の 昼食	1	2	3	4	5

問9-1 あなたは家でひとりで食事をとることがありますか。(それぞれあてはまるもの1つ)

	よくある	ときどきある	ほとんどない	まったくない
a) 朝食	1	2	3	4
b) 夕食	1	2	3	4
c) 昼休みや夕休みなどの期間の食事	1	2	3	4

【問9-1で「よくある」、「ときどきある」と答えた方にききます。】

問9-2 ひとりでご飯を食ふとき、特によく食べているものを教えてください。(あてはまるもの1つ)

1. スーパー・コンビニなどで買った、お弁当、おかず、おにぎり、パンなど
2. 親やきょうだいが作ったもの
3. 自分で作ったもの
4. 外食
5. あまり決まっていない
6. その他 ( )

問10-1 あなたは、週にどのくらい、お風呂(シャワーのみも含む)に入りますか。

- (あてはまるもの1つ)
1. 毎日、はい
  2. 週に5~6日は、はい
  3. 週に3~4日は、はい
  4. 週に1~2日は、はい
  5. はいらない

問10-2 あなたは、1日にどのくらい読みがきをしていますか。(あてはまるもの1つ)

- (あてはまるもの1つ)
1. 1日2回以上
  2. 1日1回
  3. みがかない日がある
- 問11-1 あなたは、学、むし歯がありますか。(あてはまるもの1つ)
1. ある
  2. ない

【問11-1で「ある」と答えた方にききます。】

問11-2 むし歯を治すために歯医者に行っていますか。

1. はい
2. いいえ

問12 あなたは、固りことなく学校生活や日常生活を送ることができていると認めますか。

- (あてはまるもの1つ)
1. できている
  2. どちらかといえはできていない
  3. どちらかといえはできていない
  4. できていない

問13 あなたは普段の生活の中で、お盆が足りなくて、必要な文房や教材が買えないことはありますか。(あてはまるもの1つ)

1. よくある
2. ときどきある
3. ほとんどない
4. まったくない

問14 あなたは、次の①~⑦のようなことをどのくらいしていますか。(それぞれあてはまるもの1つ)

	よくある	ときどきある	あまりない	ない
① 家族の大人の人に朝、起こしてもらう	1	2	3	4
② 家族のお手伝いをする	1	2	3	4
③ 家族の大人の人に勉強を教してもらう	1	2	3	4
④ 家族の大人の人と学校などでのできごとについて話をする	1	2	3	4
⑤ 家族の大人の人とニュースなど社会のできごとについて話をする	1	2	3	4
⑥ 家族の大人の人と図書館や美術館、音楽が聞ける場所やイベントに行く	1	2	3	4
⑦ 家族の大人の人と買い物や外食などで外出をする	1	2	3	4

問15 あなたは、家族のことなどで、何か困っていることや嫌なことはありますか。(あてはまるものすべて)

1. 家族と過ごす時間や会話が少ない
2. 親がきびしすぎる
3. 親が自分の気持ちをわかってくれない
4. 親との仲がわるい
5. 親の仲がわるい
6. きょうだいとの仲がわるい
7. 家でおちついて勉強できない
8. 病気の家族やお年寄りの世話がいへん
9. きょうだいの世話がいへん
10. たべることがはげしくなく、がまんしなければならぬ
11. 着る服がすくなく、がまんしなければならぬ
12. 家の中がちらかっている、すごにくい
13. 特にこまっていることや、いやなことはない
14. その他 ( )

問16 あなたはのまわりには、親以外で、次のような大人はいませんか。(あてはまるものすべて)

1. 頼りになる人
2. 気軽に相談できる人
3. すごいと思う人
4. 自分のことを大切にしてくれる人
5. 道で会ったあたりさつとしてくれる人
6. 勉強をわかりやすく教えてくれる人
7. 特にない

【令和7年4月1日時点で15才以上の方にききます。】

問17-1 学、アルバイトをしていますか。

1. している
2. していない

【問17-1で「1. している」に○をつけた方は、次の①、②について教えてください。】

問17-2 ※複数のアルバイトをかねてしている場合は合計を書いてください。

- ① 勤務時間  
週 日 1日あたり約 時間

② アルバイトの使いみち(あてはまるもの1つ)

1. すべて自分のおづかいとして使える
2. 一部を家の生活費にしている
3. 全部を家の生活費にしている
4. その他 ( )

3. 学校や勉強のことで、教えてください。

問18-1 あなたは、学校の授業がわかりますか。(あてはまるもの1つ)

- 1. いつもわかる
- 2. だいたいわかる
- 3. あまりわからない
- 4. わからないことが多い
- 5. ほとんどわからない

【問18-1で「あまりわからない」「わからないことが多い」と答えた方にききます。】

問18-2 いつごろから、授業がわからなくなりましたか。(あてはまるもの1つ)

- 1. 小学1、2年生のころ
- 2. 小学3年生のころ
- 3. 小学4年生のころ
- 4. 小学5年生のころ
- 5. 小学6年生のころ
- 6. 中学1年生のころ
- 7. 中学2年生のころ
- 8. それ以降

問19 あなたの周りに、次のような先生がいますか。(あてはまるものすべて)

- 1. 頼りになる先生
- 2. 気軽に相談できる先生
- 3. すていと想う先生
- 4. 自分のことを大切にしてくれる先生
- 5. 勉強の相談ができる先生
- 6. そのような先生はいない

問20 あなたの周りに、次のような友だちがいますか。(あてはまるものすべて)

- 1. 頼りになるともだち
- 2. 気軽に相談できるともだち
- 3. すていと想うともだち
- 4. 自分のことを大切にしてくれるともだち
- 5. 勉強の相談ができるともだち
- 6. そのような人はいない

問21 あなたは、前の学年のときに、夏休みなどの長い休み以外で、学校を休んだことがありますか。(あてはまるもの1つ) ※入浴による休みは、いれなくてください。

- 1. ない
- 2. 1~10日休んだ
- 3. 11~20日休んだ
- 4. 21~30日休んだ
- 5. 31日以上休んだ

問22-1 あなたは、放課後、だれと過ごすことが多いですか。(あてはまるものすべて)

- 1. 家族の人 (おあさん・おとうさん・おばあちゃん・おじいちゃんなど)
- 2. きょうだい
- 3. 近所の人、児童クラブや塾、習い事の先生など(家族以外の人)
- 4. 学校のともだち
- 5. 地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど(学校以外のともだち)
- 6. ひとりている
- 7. その他 ( )

問22-2 あなたは、放課後、どこで過ごすことが多いですか。(あてはまるものすべて)

- 1. 自分の家
- 2. おばあちゃん・おじいちゃんの家
- 3. ともだちの家
- 4. 塾・習い事
- 5. 学校・クラブ活動など
- 6. 公園・広場
- 7. スーパー・ショッピングモール・コンビニ
- 8. ゲームセンター
- 9. 図書館や公民館などの公共の場所
- 10. こども食堂などの地域の居場所
- 11. 児童クラブなど
- 12. その他 ( )

問23-1 あなたは、授業以外でどのように勉強することが多いですか。(あてはまるものすべて)

- 1. 自分で勉強する
- 2. 塾で勉強する
- 3. 学校の補習を受ける
- 4. 家庭教師に教えてもらう
- 5. 地域の人が行う無料の勉強会に参加する
- 6. 家の人に教えてもらう
- 7. 友達と勉強する
- 8. 学校の授業以外で勉強しない
- 9. その他 ( )

問23-2 あなたは、自分の授業時間以外に、休日(月曜日～金曜日、1日あたりどれくらい勉強をしますか。塾などの時間も含まれます。(あてはまるもの1つ) また、どこで勉強していますか。(あてはまるものすべて)

- 1. まったくしない
- 2. 15分より少ない
- 3. 15分以上30分未満
- 4. 30分以上1時間未満
- 5. 1時間以上2時間未満
- 6. 2時間以上

【勉強する場所に○をつけてください】

- 1. 自分だけの部屋
- 2. きょうだいと一緒に使う部屋
- 3. 家族みんなで使う居間など
- 4. きまった場所はない
- 5. 塾など家以外の場所

問24-1 あなたは、放課後に学習塾や家庭教師、文化・スポーツ教室などに通っていますか。(あてはまるものすべて)

- 1. 学習塾・通学塾
- 2. 家庭教師
- 3. 通信制の家庭学習教材
- 4. 英会話・そろばん
- 5. 音楽・習字
- 6. スポーツ
- 7. 習い事はしていない
- 8. その他 ( )

【問24-1で「1. 学習塾・通学塾」～「3. 通信制の家庭学習教材」を選択しなかつた方ききます。】

問24-2 学習塾などに通っていない理由はなんですか。(あてはまるものすべて)

- 1. 家の近くにない学習塾がない
- 2. 通いたいが、お金がかかる
- 3. 自由な時間がなくなる
- 4. 学校のペースなどでいい
- 5. 学習塾などへ通う必要がない
- 6. 行きたくない
- 7. 特に理由はない
- 8. その他 ( )

問25-1 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思えますか。(あてはまるもの1つ)

- 1. 中学校
- 2. 全日制高校
- 3. 定時制高校
- 4. 通信制高校
- 5. 専門学校・専修学校
- 6. 高等専門学校
- 7. 短期大学
- 8. 大学
- 9. 大学院
- 10. 考えたことがない
- 11. わからない
- 12. その他 ( )

【問25-1で「1. 中学校」～「9. 大学院」と回答した場合は、その理由を教えてください。】

問25-2 (あてはまるものすべて)

- 1. 行きたい学校ややりたい職業があるから
- 2. 自分の学力から考えて
- 3. 親がそう言うから
- 4. きょうだいがそうしているから
- 5. 周りの先輩や友達にそうしているから
- 6. 家にお金がないと思うから
- 7. できるだけ早く働く必要があるから
- 8. どうすれば進学できるのかよくわからない
- 9. 特に理由はない
- 10. その他 ( )

問26 あなたは、将来どの学校まで行くことになるかと思えますか。(あてはまるもの1つ)

- 1. 中学校
- 2. 全日制高校
- 3. 定時制高校
- 4. 通信制高校
- 5. 専門学校・専修学校
- 6. 高等専門学校
- 7. 短期大学
- 8. 大学
- 9. 大学院
- 10. 考えたことがない
- 11. わからない
- 12. その他 ( )

【問25-1と問26の答えが同じではない方にききます。】

問27 答えが同じではない理由を教えてください。(あてはまるものすべて)

1. 自分の学方から考えて
2. 親がそう言っているから
3. きょうだいがいるから
4. 周りの先輩や友達がそうしているから
5. 家にお金がないと思うから
6. できるだけ早く働く必要があるから
7. どうすれば進学できるのかよくわからないから
8. 特に理由はない
9. その他 ( )

4. あなたが普段考えていることについて、教えてください。

問28 あなたは、次の①～⑦についてどのように考えますか。(それぞれあてはまるもの1つ)

	そう思う	どちらかとい うとそう思う ない	どちらかとい うとそう思わ ない	そう思わない
① 自分に自信がある	1	2	3	4
② 自分の考えをはっきり相手に伝えられる	1	2	3	4
③ 人は信用できると思う	1	2	3	4
④ 自分の将来に明るい希望を持っている	1	2	3	4
⑤ 将来のために、努力したいと思う	1	2	3	4
⑥ 将来、一生懸命働きたい	1	2	3	4
⑦ 自分は幸せだ	1	2	3	4

問29 全体として、あなたは最近の生活にどのくらい満足していますか。(あてはまる数字1つ)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
 (満足していない) |-----|-----|-----|-----|-----| (満足)

問30-1 あなたが悩んでいるときに、相談のつてくれる人は誰ですか。(あてはまるものすべて)

1. おとうさん、おかあさん
2. きょうだい
3. おじいちゃん、おばあちゃんなど
4. 学校の先生
5. 学校のともだち
6. スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー
7. ことも専用の電話相談
8. 姉妹(おじさん、おばさん、いとこなど)
9. 塾や習い事の先生
10. 近所の人
11. インターネットなどを通じて知りあった直接会ったことのない人
12. そのほかの人
13. そのほかのともだち
14. 悩みはあるが誰にも相談したくない
15. 悩みはあるが誰にも相談できない
16. 特に悩みはない

スクールソーシャルワーカーとは、学校で、いじめや不登校、虐待など、子どもがかかえる問題をいっしょに考えて助けてくれる専門家です。  
 スクールカウンセラーとは、学校で、こどもの心のケア(気持ちのサポート)をしてくれる専門家です。

【問30-1で「14.悩みはあるが誰にも相談したくない」「15.悩みはあるが誰にも相談できない」と回答した場合その理由を教えてください。(あてはまるものすべて)

問30-2

1. 相談できる相手がいらない	2. だれに相談すればいいかわからない	3. 相談したときの反応がこわい
4. 前に相談したときに理解してもらえなかった	5. 前に相談したが何も変わらなかった	
6. 相談しても迷惑をかけたままから	7. その他 ( )	

問31 あなたがいま悩んでいることや心配なこと、困っていることや、誰かに相談したいと願っていることがあれば、教えてください。(あてはまるものすべて)

1. 家族のこと
2. 学校の勉強のこと
3. クラブ、部活動のこと
4. ともだちのこと
5. 好きな人のこと
6. 進学のこと
7. 就職のこと
8. 家のお金のこと
9. 性の悩み
10. からだのこと
11. 悩んでいることや心配なこと、困っていることはない
12. その他 ( )

問32 ①～⑤についてそれぞれ回答してください。正しい答えはありません。あなたが思ったとおりに回答してください。あなたのこころ半くらいのことを考えて書いて下さい。(それぞれあてはまるもの1つ)

	あてはまる	まあまああてはまる	あてはまらない
① わたしは、他の人にやさしくしている。 わたしは、心の気持ちをよく考える。	1	2	3
② わたしは、よく頭やおなかがいなくなったり、 気持ちがわるくなったりする。	1	2	3
③ わたしは、他のこどもたちと食べ物を分けたり、 ゲーム、ペンなどを一緒に使ったりする。	1	2	3
④ わたしは、だいたい一人でいる。ひとりで遊ぶこ とが多い。みんなといるより、ひとりでいるほう がいい。	1	2	3
⑤ わたしは、心配事が多く、いつも不安だ。	1	2	3
⑥ わたしは、だれかが落ちこんでいたり、いやな思 いをしていては、すすんで助ける。	1	2	3
⑦ わたしは、神の良いともだちが少なくとも一人は いる。	1	2	3
⑧ わたしは、落ちこんだり、なみだぐんだりするこ とがよくある。	1	2	3
⑨ わたしは、同じくらの年のこどもからは、だいい たい好かれている。	1	2	3
⑩ わたしは、初めてのことをするとき、不安にな	1	2	3

① わたしは、年下の子どもたちとやさしくしている。	1	2	3
② わたしは、他の子どもからいじめられたりかわれられたりする。	1	2	3
③ わたしは、自分からすすんでよくお手伝いをする。	1	2	3
④ わたしは、他の子どもたちより大人という方がうまいく。	1	2	3
⑤ わたしは、こわがりですぐにおびえたりする。	1	2	3

問33 あなたは今まで、以下の①～⑧のようなことがあります(ありました)か。(それぞれあてはまるもの1つ)

	あった	なかった
① 一緒に住んでいる人から、悪口を言われたり、けなされたり、恥をかかれたり、身体を傷つけられるなど危険を感じることがある。	1	2
② 一緒に住んでいる人から、おされる、つかまれる、たたかれる、ものを投げつけられるといったことがよくある。または、けがをすするほど強くなぐられたことが一度でもある。	1	2
③ 家族のだからでも愛されていない、大切にされていない、変えられていないと感じることがある。	1	2
④ 必要な食事や衣服をもらえなかったり、自分を守ってくれる人はだれもいないと感じたりすることがある。	1	2
⑤ 両親が、別居または離婚したことがある。	1	2
⑥ 一緒に住んでいる家族が、だれかにおされたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある。また、くりかえしなぐられたり、刃物でおどかされたことが一度でもある。	1	2
⑦ 一緒に住んでいる人にお酒や麻薬などで自分の生活や人間関係をこわすような行動をした人がいる。	1	2
⑧ 一緒に住んでいる人に、うつ病やそのほかの心の病気、または自殺しようとした人がいる。	1	2

※つらい気持ちのときや相談したいことがあるときは、「アンケート調査へのご協力のおかげでいる相談先へ連絡してください。

また、支援マップも参考にしてみてください。

静岡子ども・若者支援マップ

<https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/2311/kowakamab.pdf>

問34 あなたの安心できる場所はどこですか。(あてはまるものすべて)

1. 自宅
2. 学校
3. ともだちの家
4. 子ども食堂など地域の居場所
5. 安心できる場所はない
6. その他( )

問35-1 あなたは次のような場所を利用したことがありますか。

また、「これから」利用したいかどうかについて教えてください。(それぞれあてはまるもの1つ)

	利用したことがある	利用したい	利用したことはないが、これからは利用するつもりはない	利用したことがなく、これからは利用するつもりはない
① 自分やともだちの家以外で、平日の夜や休日を過ごすことができる場所	1	2	3	3
② 自分やともだちの家以外で、夕ごはんを無料で安く食べることができる場所	1	2	3	3
③ 勉強を無料で真てくれる場所	1	2	3	3
④ (家や学校以外で)向でも相談できる場所(電話やネットの相談を含む)	1	2	3	3

【問35-1で「利用したことがある」と答えた方にききます。】

問35-2 そのを利用したことで、次のような変化はありましたか。(あてはまるものすべて)

1. ともだちがふえた
2. 気軽に話せる大人がふえた
3. 生活の中で楽しみることがふえた
4. ほっとできる瞬間がふえた
5. 卒業のある先輩をとれることがふえた
6. 勉強がわかるようになった
7. 勉強する時間がふえた
8. その他( )
9. 特に変化はない

問36-1 お家や学校以外の場所で、無料で小学生のボランティアなどと活動をしたり、落ち着いて過ごしたりできる居場所があれば、利用したいと思いませんか。(あてはまるもの1つ)

1. そう思う
2. どちらかというそう思う
3. どちらかというそう思わない
4. そう思わない

問36-2 前の質問の居場所では、どのようなことができればよいと思いませんか。(あてはまるものすべて)

1. 大学生やほかの子とおしゃべりしたり遊んだりできる
2. 友達をつくることできる
3. ご飯やおやつを食べることができる
4. ご飯やおやつを一緒につくることができる
5. 自分がやりたいことをマイペースにすることができる
6. いろいろな行事に参加することができる
7. 勉強を覚えてもらいながら自分のペースで学習できる
8. 読書などをして、静かに過ごすことができる
9. おふろに入れる
10. 泊まることできる
11. 家、学校、ともだちなどのなやみ事について相談できる
12. その他( )

問36-3 その場所は、どこにあれば利用したいと思いませんか。(あてはまるもの1つ)

1. 通っている小学校の近く
2. となりの小学校の近く
3. 通っている中学校の近く
4. となりの中学校の近く
5. 住んでいる区内
6. 市内ならどこでも

問36-4 その場所は、どのくらい利用したいと願いますか。(あてはまるもの1つ)

1. 毎日 2. 週に3～6回くらい 3. 週に1～2回くらい

問36-5 その場所は、どんな時間を利用したいと願いますか。(あてはまるものすべて)

1. 平日のお昼 2. 平日の夕方 3. 平日の夜  
4. 休日のお昼 5. 休日の夕方 6. 休日の夜

### 5. 静岡市の取組について

問37 茨の①～⑦の静岡市の取組や事業について、「いま」知っていたり利用したりしていますか。

また、「これから」利用したいかどうかについて教えてください。

(「いま」と「これから」、それぞれあてはまるもの1つ)

※ 答え方の例：

→ 「いま」知っているかどうかに○を1つ、  
「これから」利用したいかどうかに○を1つ  
つけてください。

	いま		これから	
	利用している	利用しているが、知らない	知っているが、知らない	利用してみたい
① 静岡市の奨学金	1	2	3	1
② 児童館	1	2	3	1
③ 放課後子ども教室・放課後児童クラブ	1	2	3	1
④ 学校以外の場での学習・生活支援	1	2	3	1
⑤ スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーへの相談	1	2	3	1
⑥ (その他)	1	2	3	1

※・静岡市の奨学金とは、お登のことで学校に通うのがむずかしい静岡市の学生を助けるためのお登や授業料を減らすことができるお登、お登を育てるためのお登で、静岡市から借りることができます。

- ・児童館とは、静岡市の中に13か所ある、子どもが安心して遊べる場所です。
- ・スクールソーシャルワーカーとは、学校で、いじめや不登校、虐待など、子どもがかかえる問題をいっしょに考えて助けてくれる専門家です。
- ・スクールカウンセラーとは、学校で、子どもの心のケア(気持ちのサポート)をしてくれる専門家です。

問38 あなたの、学校や家での生活で、もっと良くなりたかったり、充実したりしてほしいことはありますか。また、子ども・若者のために静岡市役所が取り組んだ方がよいと思うことがあれば自由に書いてください。

これで調査は終了です。ご協力いただきありがとうございます。

※つらい気持ちのときや相談したいことがあるときは、調査依頼文にある相談先へ連絡してください。また、支援マップも参考にしてみてください。

静岡市子ども・若者支援マップ  
<https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/2311/kowakamap.pdf>



# 4. 一般調査票 (保護者)

保護者用

【アンケート調査へのご協力、ありがとうございます】  
 みなさまには、ご自身から静岡市へのご協力、力いただきありがとうございます。  
 静岡市では、「すべての子どもたちが将来に夢や希望をもって健やかに成長できるまち、子どもを産み育てやすいまち」の実現に向け、子どもの視点を大切に、子ども・子育て支援を推進しています。  
 この調査は、お子さんのいるご家庭の様子、保護者の方のお仕事の状況、お子さんの様子などを聞き、子ども・子育て支援のさらなる充実や改善につなげるために、実施するものです。  
 お忙しい中お手数ではありますが、調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

\*\*\* 回答にあたってのお願い \*\*\*

- 1 回答時間はおよそ20分です。  
※一時保存ができますので、回答できるときに回答をお願いします。
- 2 回答は無許可的に処理しますので、個人が特定されることはありません。また、回答いただいた内容は、上記の目的以外に使用することはありません。
- 3 回答は、「数字を記入するもの」と「あてはまるもの1つ、または、複数を選ぶもの」があります。それぞれの問いの説明に沿って回答してください。
- 4 まちがった答えや、正しい答えはありません。自分の思うままに回答してください。答えが悪いわけではない場合や答えにくい質問はそのまま飛ばして次に進んでください。
- 5 お子さんには保護者の回答を見せないでください。また、お子さんの回答は見ないようになっています。
- 6 回答欄には、フリガナがありません。  
 フリガナ付きの調査票が必要な方は、下記回答フォームのURLから市ホームページをご確認ください。  
 URL:  
[フリガナ付きの調査票が必要な方は、下記回答フォームのURLから市ホームページをご確認ください。](#)
- 7 令和7年12月12日(金)までに回答をお願いします。  
 ごきょうだいで2週以上届いた場合は、お子さんの回答は、それぞれお願ひします。保護者の回答は、1つは全て回答いただき、2週目以上は「1. 調査に回答いただく方について」の「4. お子さんのことについて」のみ回答してください。

1. 調査に回答いただく方(あなた)のことについて、うかがいます。  
 問1 お子さんからみたらあなたの親柄について教えてください。(あてはまるもの1つに○)  
 1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父  
 5. おば、おじなどの親戚 6. その他 ( )

問2-1 あなたの現在の婚姻状況をお教えてください。(あてはまるもの1つに○)  
 1. 結婚している 2. 離婚 3. 死別 4. 未婚  
 (再婚・事実婚含む) (結婚歴なし)

【問2-1で「2. 離婚」と答えた方にかかいます。】  
 問2-2 離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしていますか、また、養育費を徴収受け取っていますか。  
 1. 取り決めをしており、養育費を受け取って 2. 特に取り決めをしていないが、養育費を受け取る。 3. 養育費の取り決めをしているが、受け取っていない。 4. 養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない。

問3 病状、住んでいる区を教えてください。(あてはまるもの1つに○)  
 1. 葵区 2. 駿河区 3. 清水区

2. 世帯員のことについて、うかがいます。  
 ※ あなたの世帯について、令和7年10月1日現在の状況を教えてください。  
 ※ 世帯とは、世帯主(世帯長)と生計を共にしている方(世帯員)の集まりをいいます。  
 <世帯員に含まれる方>  
 ・同居の人(血縁関係でない人も含む)  
 ・旅行や出張等で一時的に自宅を離れている人  
 ・病状・修繕所に入院している人  
 ・単身赴任の人

問4-1 あなたの世帯(世帯員)について教えてください。お子さんからみた関係でお答えください。  
 ① 世帯員の人数を記入してください。(あなたやお子さんを含む)  
 ② 世帯員のうち、介護または介護の必要な方はいますか。(○は1つ)  
 【②で「1. いる」と答えた方にかかいます。】  
 ③ 介護または介護の必要な方はどなたですか。

問4-2 家族構成を教えてください。お子さんから見た関係でお答えください。  
 (あてはまる方の番号をすべて選択してください。人数はカッコ内に数字を記入してください。)

1. 母親	2. 父親	3. 父方の祖母	4. 父方の祖父
5. 母方の祖母	6. 母方の祖父	7. その他 ( )	
8. お子さん(たち) → カッコ内に入数を記入(宛名のお子さんも人数に含める)			
① 3歳未満 ( ) 人	② 3歳以上 ( ) 人	③ 小学生 ( ) 人	④ 中学生 ( ) 人
⑤ 高校生 ( ) 人	⑥ 専門学校生・大学生 ( ) 人	⑦ 社会人 ( ) 人	⑧ その他 ( ) 人

問5 お子さんの年齢を教えてください。父親・母親にかけられる保護者がいる場合には、その方のことについてもお答えください。(わからない場合は「-」を記入)

1. 母親：( ) 歳    2. 父親：( ) 歳    3. 母親・父親に変わる保護者：( ) 歳

問6-1 お子さんの両親の国籍を教えてください。

母親：	1. 日本	2. 日本以外
父親：	1. 日本	2. 日本以外

【問6-1で「2. 日本以外」と答えた方にかかります。】

問6-2 家の中で話している主な言語を教えてください。

1. 日本語    2. 日本語以外 ( )

問7 お子さんの両親の最終学歴は以下のどれですか。

①母親

1. 中学校卒業	2. 高等学校中退	3. 高等学校卒業	4. 高専中退	5. 高専卒業
6. 短大中退	7. 短大卒業	8. 専門学校中退	9. 専門学校卒業	10. 大学中退
11. 大学卒業	12. 大学院中退	13. 大学院修了	14. その他の教育機関中退	
15. その他の教育機関卒業	16. その他 ( )	17. わからない		

②父親

1. 中学校卒業	2. 高等学校中退	3. 高等学校卒業	4. 高専中退	5. 高専卒業
6. 短大中退	7. 短大卒業	8. 専門学校中退	9. 専門学校卒業	10. 大学中退
11. 大学卒業	12. 大学院中退	13. 大学院修了	14. その他の教育機関中退	
15. その他の教育機関卒業	16. その他 ( )	17. わからない		

問8-1 お子さんの両親の現在の就業形態は次のどれにあたりますか。

①母親

1. 正社員・正規職員・会社役員	2. パート・アルバイト・自雇い・非常勤職員
3. 嘱託・契約社員・準社員・期間社員	4. 人材派遣会社の派遣社員
5. 自営業	6. 自営業の手伝い
7. その他 ( )	8. 働いていない

②父親

1. 正社員・正規職員・会社役員	2. パート・アルバイト・自雇い・非常勤職員
3. 嘱託・契約社員・準社員・期間社員	4. 人材派遣会社の派遣社員
5. 自営業	6. 自営業の手伝い
7. その他 ( )	8. 働いていない

【問8-1で「8. 働いていない」と答えた方にかかります。】

問8-2 働いていない最も主な理由を教えてください。

①母親

1. 働きたいが希望する条件(取入)の仕事がないため	2. 働きたいが希望する条件(時間)の仕事がないため
3. 仕事の探し方がわからない	4. 年齢制限のために仕事がない
5. 仕事に必要な専門知識や資格がない	6. ことをあずけるところがない
7. 子育てを優先したいため	8. 家族の介護・介助のため
9. 自分の病状や障害のため	10. 通学しているため
11. その他 ( )	12. わからない

②父親

1. 働きたいが希望する条件(取入)の仕事がないため	2. 働きたいが希望する条件(時間)の仕事がないため
3. 仕事の探し方がわからない	4. 年齢制限のために仕事がない
5. 仕事に必要な専門知識や資格がない	6. ことをあずけるところがない
7. 子育てを優先したいため	8. 家族の介護・介助のため
9. 自分の病状や障害のため	10. 通学しているため
11. その他 ( )	12. わからない

【問8-1で「8. 働いていない」と答えた方にかかります。】

問8-3 どのような状況になれば働きたいと思えますか。

①母親

1. ことをあずけることができたら	2. ことが小学校に入学したら
3. 子どもの問題(健康など)が解決したら	4. 自分自身の問題(健康など)が解決したら
5. 学校や職業訓練などが終了したら	6. 仕事に必要な資格や技能を身に付けたら
7. その他 ( )	8. わからない

②父親

1. ことをあずけることができたら	2. ことが小学校に入学したら
3. 子どもの問題(健康など)が解決したら	4. 自分自身の問題(健康など)が解決したら
5. 学校や職業訓練などが終了したら	6. 仕事に必要な資格や技能を身に付けたら
7. その他 ( )	8. わからない

問9 お子さんの両親以外(祖母、祖父、おば、おじなど)が、主として養育を受けている場合は、その方の就業状況を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 正社員・正規職員・会社役員	2. パート・アルバイト・自雇い・非常勤職員
3. 嘱託・契約社員・準社員・期間社員	4. 人材派遣会社の派遣社員
5. 自営業主(内職・自由業・フリーランス含む)	6. 自営業の手伝い
7. その他 ( )	

問10-1 お子さんの両親が家にいる時間帯を選んでください。母親、父親にかわる保護者がいる場合には、その方についてもお答えください。  
 ※ 自宅が仕事場の場合は、仕事が終わる時間帯を選んでください。

- ①母親
1. こどもの下校時間には家にいる
  2. こどもの夕食時間には家にいる
  3. こどもの寝る時間には家にいる
  4. こどもが寝た後に帰宅する
  5. 帰宅時間が決まっていない
  6. その他 ( )
- ②父親
1. こどもの下校時間には家にいる
  2. こどもの夕食時間には家にいる
  3. こどもの寝る時間には家にいる
  4. こどもが寝た後に帰宅する
  5. 帰宅時間が決まっていない
  6. その他 ( )
- ③母親・父親にかわる保護者
1. こどもの下校時間には家にいる
  2. こどもの夕食時間には家にいる
  3. こどもの寝る時間には家にいる
  4. こどもが寝た後に帰宅する
  5. 帰宅時間が決まっていない
  6. その他 ( )

問11 あなたの世帯に答まれる方で、昨年1年間（令和6年1月1日～12月31日の期間）に、深夜（22時～5時頃）や早朝（5時～8時）の時間を勤務時間として仕事をしていない人はいますか。（あてはまるものすべてに○） ※ お子さんからみた経路で回答してください。

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. 兄弟姉妹
6. 該当する人はいない
7. その他 ( )

**3. 世帯の家計のことについて、うかがいます。**

問12 あなたの世帯では、昨年1年間（令和6年1月1日～12月31日の期間）に、どのような収入がありましたか。（あてはまるものすべてに○）

1. 給与収入（自営業を含む）
2. 財産収入（不動産家賃、株式配当金など）
3. 年金収入
4. 失業手当
5. 育児休業給付金
6. 児童手当
7. 児童扶養手当
8. 特別児童扶養手当
9. 生活保護
10. 就学援助
11. その他の社会保険給付金
12. 親・親族からの仕送り
13. 元配属者からの養育費
14. いずれの収入もなかった
15. その他 ( )

問13 あなたの世帯の昨年1年間（令和6年1月1日～12月31日の期間）の手取り収入（可処分所得）はおおよそどのくらいでしたか。（下の「1～21」の中からあてはまるもの1つに○）

$$\text{手取り収入 (可処分所得)} = \text{収入 (※1)} - \text{支払った税金や社会保険料等の額 (※2)}$$

※1 収入は、働いて得た収入のほか、株式配当などの副収入、公的手当（児童手当、児童扶養手当など）、養育費、仕送りなどを含めた額です。

※2 所得税、住民税、固定資産税、社会保険料、年金保険、介護保険などで支払った額です。

1. 50万円未満
2. 50万円～100万円未満
3. 100万円～150万円未満
4. 150万円～200万円未満
5. 200万円～250万円未満
6. 250万円～300万円未満
7. 300万円～350万円未満
8. 350万円～400万円未満
9. 400万円～450万円未満
10. 450万円～500万円未満
11. 500万円～550万円未満
12. 550万円～600万円未満
13. 600万円～650万円未満
14. 650万円～700万円未満
15. 700万円～750万円未満
16. 750万円～800万円未満
17. 800万円～850万円未満
18. 850万円～900万円未満
19. 900万円～950万円未満
20. 950万円～1,000万円未満
21. 1,000万円以上

問14-1 あなたの世帯で収入のある方の人数を教えてください。

人

問14-2 あなたの世帯の世帯主（家計の主たる収入を得ている人）はどなたですか。お子さんからみた経路で教えてください。（あてはまるもの1つに○）

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. 兄弟姉妹
6. その他 ( )

問15 現在の住居の状況を教えてください。（あてはまるもの1つに○）

1. 持家・分譲マンション
2. 市営・営繕住宅
3. 公社・公団の賃貸
4. 社宅
5. 借家・アパート
6. 間借
7. その他 ( )

問16 あなたの世帯には自家用車がありますか。（どちらか1つに○）

1. ある
2. ない

問17 あなたの世帯では、次のような借入金がありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 住宅・土地の購入のための借入金（住宅ローン）
2. 車の購入のための借入金
3. 教育のための借入金（返済が必要な奨学金を含む）
4. 親族や友人・知人からの借入金
5. 母子等福祉資金貸付金など自治体等からの借入金
6. 借入金はない
7. その他の借入金 ( )

問18-1 あなたの世帯では、過去1年間に、経済的な理由で参費・住宅ローンの滞納、各種料金の未払い、債務の返済ができないことがありましたか。(①～④のそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

※ 各種の支払いや借入金がない場合は、「該当しない」を選択してください。

	なかった	あった	該当しない
① 家賃・住宅ローンの滞納	1	2	3
② 電気料金・ガス料金・水道料金の未払い	1	2	3
③ 電話料金の未払い	1	2	3
④ その他の債務未履行	1	2	3

問18-2 あなたの世帯では、過去1年間に、お金が足りなくて、必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(あてはまるもの1つに○)

※ 必要とする食料とは、米(ごはん)、パン、調味料、野菜などです。スーパーやコンビニエンスストアで購入できるおかず類を含みます。

1. よくあった	2. とまどきあった	3. ほとんどなかった	4. まったくなかった
----------	------------	-------------	-------------

問18-3 あなたの世帯では、過去1年間に、お金が足りなくて、必要とする衣料が買えないことがありましたか。(あてはまるもの1つに○) ※ ただし、高価な服などは含みません。

1. よくあった	2. とまどきあった	3. ほとんどなかった	4. まったくなかった
----------	------------	-------------	-------------

問18-4 あなたの世帯では、過去1年間に、お金が足りなくて、お子さんが必要とする文具や教材が買えないこと、学校に係る経費の支払いに苦慮したことがありましたか。(あてはまるもの1つに○)

1. ある	2. これまでにはないが、今後の可能性はある
3. これまでになく、今後もその可能性はない(可能性は低い)	

【問18-4で「1. ある」と回答した方にうかがいます。】

問18-5 買えなかったもの、支払いに苦慮したものはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 文具	2. 教材	3. その他学用品	4. 給食費	5. 修学旅行費	6. 遠足等行事費
7. 児童会・生徒会費	8. クラブ・部活動活動費	9. その他( )			

問18-6 あなたの世帯では、過去1年間に、お子さんについて、病气やけがの治療のために病院や診療所を受診した方が良いと認めたのに、実際には受診しなかったことがありますか。(どちらか1つに○)

1. ある	2. ない
-------	-------

【問18-6で「1. ある」と答えた方にうかがいます。】

問18-7 その理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 病院や診療所に行く時間がなかった	2. 貯蓄をしたがいかができていない	3. 貯蓄をするつもりはない
2. 身体上の理由で、病院や診療所まで行けなかった	4. ややゆとりがある	5. 苦しい
3. 病院や診療所までの距離が遠く、通院することが難しかった	6. 貯蓄をしている	
4. 公的医療保険に加入しておらず、医療費を支払うことが難しかった		
5. 公的医療保険に加入はしているが、医療費を払うことが難しかった		
6. その他( )		

問19 お子さんの将来のために貯蓄(学費用貯蓄を含む)をしていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 貯蓄をしている	2. 貯蓄をしたがいかができていない	3. 貯蓄をするつもりはない
------------	--------------------	----------------

問20 現在の暮らしの経済状況について、どう感じていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 大変ゆとりがある	2. ややゆとりがある	3. 普通	4. やや苦しい	5. 苦しい
-------------	-------------	-------	----------	--------

4. お子さんのことについて、うかがいます。  
(お子さんとは、このアンケートをお持ち帰ったお子さん、または郵便でお送りした宛名のお子さんを意味します。)

問21 お子さんのことについて、以下の①～⑥の点について教えてください。

(①～③および⑤・⑥はあてはまるもの1つに○、④はあてはまるものすべてに○)

① 性別	1. 男性	2. 女性	3. その他	4. 回答しない
② 学校等の在籍状況	1. 未就学	2. 子ども園	3. 保育所	4. 幼稚園
	5. 小学校	6. 中学校	7. 高等学校	
	8. 高等専門学校(高専)	9. 学校等には通っていない		
	10. 就労している	11. その他( )		
③ 健康状態	1. よい	2. まあよい	3. 普通	
	4. あまりよくない	5. よくない	6. わからない	
④ 障がい等の有無 ※ 経路調整を含む(小学生以上の場合は) 前学年のときに、習体みなどの長前休み以外で、学校を休んだ経歴の有無	1. 特にない	2. 身体障がい	3. 知的な遅れ	
	4. 発達障がい	5. その他	6. わからない	
	1. 良好	2. まあまあ良好	3. 普通	
	4. やや遅れている	5. かなり遅れている	6. わからない	
	1. ない	2. 1～10日休んだ	3. 11～20日休んだ	
	4. 21～30日休んだ	5. 31日以上休んだ	6. わからない	

問22-1 お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設で主なものとはどれですか。(あてはまるもの1つに○)

1. 認定子ども園・認可保育所等	2. その他の教育・保育等の施設
3. 親・親族以外の個人	4. もっぱら親・親族が箇所を充てていた
	5. わからない

問24-2 お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設で主なものはどれですか。(あてはまるもの1つに○)

1. 認定こども園・認可保育所等  
2. その他の教育・保育等の施設  
3. 親・親族以外の個人  
4. もっぱら親・親族が面倒をみていた  
5. わからない

問23 お子さんは、現在習い事等をしていませんか。(あてはまるものすべてに○)

1. 学習塾・進学塾  
2. 家庭教師  
3. 通信制の家庭学習教材  
4. 英会話・そろばんなどの習い事  
5. 音楽・習字などの習い事  
6. スポーツ  
7. 習い事はしていない  
8. その他( )

問24-1 あなたは、お子さんの今後の進学について、どこまで希望されていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 中学校  
2. 高等学校  
3. 高専・短大・専門学校  
4. 大学  
5. 大学院  
6. その他( )

問24-2 あなたは、お子さんが問24-1で選んだ希望とおりの学校まで進むことになると思いますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 思う  
2. 思わない  
3. わからない

【問24-2で「2. 思わない」と答えた方にかがいます。】

問24-3 お子さんは将来どの学校まで行くことになると思いますか。

(あてはまるもの1つに○)

1. 中学校  
2. 高校(全日制高校)  
3. 高校(定時制高校)  
4. 高校(通信制高校)  
5. 専門学校(各種学校)  
6. 高等専門学校(高専)  
7. 短期大学  
8. 大学  
9. 大学院  
10. 考えたことがない  
11. わからない  
12. その他( )

【問24-2で「2. 思わない」と答えた方にかがいます。】

問24-4 その理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

1. お子さんの希望と異なるから  
2. お子さんの学力から考えて  
3. 経済的な余裕がないから  
4. その他( )

【問24-4で「3. 経済的な余裕がないから」と答えた方にかがいます。】

問24-5 あてはまるものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 学習塾に通わせたり、家庭教師をつけたりできない  
2. 学校の授業料を払い続けることができない  
3. 学校の授業料を払い続けることができない  
4. 生活量の仕送りができない  
5. すぐにも働いて家計を助けてほしい  
6. その他( )

問25-1 お子さんは、普段(月曜日～金曜日、朝決まった時間に起きられますか。(あてはまるもの1つに○)

1. おきられる  
2. どちらかといえば、おきられる  
3. どちらかといえば、おきられない  
4. おきられない  
5. わからない

問25-2 お子さんは、普段(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間に寝ていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. ねている  
2. どちらかといえば、ねている  
3. どちらかといえば、ねていない  
4. ねていない  
5. わからない

問25-3 お子さんは、週にどのくらい食事をとっていますか。

	(週7日) 毎日食卓へ 食べる	週5 6日	週3 4日	ほとんど 食べない
a) 朝食	1	2	3	4
b) 夕食	1	2	3	4
c) 夏休みや冬休みなどの期間の昼食	1	2	3	4

【問25-3で「2」～「4」に○をつけた方にかがいます。】

問25-4 お子さんが食べない時、その理由はなんですか。(あてはまるもの1つに○)

a) 朝食

1. 時間が合わない  
2. お腹がすいていないとことが言う  
3. 作っていない  
4. 食べる習慣がない  
5. その他( )

b) 夕食

1. 時間が合わない  
2. お腹がすいていないとことが言う  
3. 作っていない  
4. 食べる習慣がない  
5. その他( )

c) 夏休みや冬休みなどの期間の昼食

1. 時間が合わない  
2. お腹がすいていないとことが言う  
3. 作っていない  
4. 食べる習慣がない  
5. その他( )

問25-5 普段、お子さんだけで夕食を食べることがありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. よくある  
2. とときどきある  
3. ほとんどない  
4. まったくない  
5. わからない

問25-6 お子さんは、1週間に1回(シャワーのみの場合も含む)にどれくらい入っていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 毎日入る  
2. 週に5～6日は入る  
3. 週に3～4日は入る  
4. 週に1～2日は入る  
5. ほとんど入らない  
6. わからない

問25-7 お子さんは1日にどれくらい歯磨きをしていますか。

1. 1日2回以上  
2. 1日1回  
3. みがかない日がある  
4. わからない

問26 あなたの世帯では、次のようなことがどれくらいありますか。  
a～dについてそれぞれお答えください。

	とてもある	ある	あまりない	まったくない
a) 家族で買い物に出かける				
b) お子さんに勉強を教える				
c) 授業参観や運動会などの学校行事に参加する				
d) PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどに参加する				

問27-1 お子さんの関わりの中で心がけていること(あてはまるもの)についてそれぞれお答えください。  
(それぞれ1つに○)

	あてはまる	どちらかとい えはあてはま る	どちらかとい えはあてはま らない	あてはまらない
① 規則正しい生活習慣を身につけさせる	1	2	3	4
② 毎日、食事(特に朝食)を食べさせる	1	2	3	4
③ テレビ・ゲーム・インターネット等の娯楽時間等のルールを決めている	1	2	3	4
④ 絵本の読み聞かせをしている(していた)	1	2	3	4
⑤ 本や新聞を読むようにすすめる	1	2	3	4
⑥ お子さんとよく話をする	1	2	3	4
⑦ 学校の出来事について聞く	1	2	3	4
⑧ お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる	1	2	3	4
⑨ 将来や進路についての話をする	1	2	3	4
⑩ 勉強を教える	1	2	3	4

問27-2 あなたがお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしだりしている時間は、平日と休日それぞれ1日あたりどれくらいですか。(それぞれ1つに○)

	平日	休日
1. 1時間未満	2. 1時間～2時間未満	1. 2時間未満
2. 2時間～3時間未満	3. 2時間～4時間未満	2. 2時間～4時間未満
3. 3時間～4時間未満	4. 3時間～5時間未満	3. 4時間～6時間未満
4. 4時間～5時間未満	5. 4時間～6時間未満	4. 6時間～8時間未満
5. 5時間以上	6. 5時間以上	5. 8時間～10時間未満
		6. 10時間以上

問27-3 あなたは、お子さんの将来に期待していますか。(あてはまるもの1つに○)

1. とても期待している 2. 期待している 3. あまり期待していない 4. 期待していない

問27-4 お子さんは自分の夢を熱心地向いて感じていると思えますか。(あてはまるもの1つに○)

1. そう思う 2. どちらかというところそう思う  
3. どちらかというところ思わない 4. そう思わない 5. わからない

問28 お子さんについて、現在悩んでいることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. こどもに対するしつけや教育に自信がもてない
2. こどもに対するしつけや教育について、相談する相手がいない
3. 配属者が子育てにあまり協力してくれない
4. 配属者と子育てのことで意見が合わない
5. こどもに基本的な生活習慣(あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など)が身についていない
6. こどもが勉強しない
7. こどもの進学や受験のことが心配である
8. こどもの就職のことが心配である
9. こどもが反抗的で、なかなか言うことを聞かない
10. こどもが何事に対しても消極的である
11. こどもが良い友人関係を持っていない
12. こどもの身体の発育や病気が心配である
13. こどもの非行や問題行動が心配である
14. こどもの教育費のことが心配である
15. こどもに十分な食事や栄養を与えることができていない
16. 特に関心はない
17. その他( )

問29-1 あなたは、お子さんを信頼していますか。(あてはまるもの1つに○)

1. とても信頼している 2. 信頼している 3. あまり信頼していない 4. 信頼していない

問29-2 あなたにとって、お子さんは大切な存在ですか。(あてはまるもの1つに○)

1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらかといえばそう思わない 4. そう思わない

**5. あなたとあなたの配属者のことについて、うかがいます。**

※ この「配属者」には、法律上の婚姻はしていないが、事実上の婚姻関係にある人も含みます。  
※ 未婚の方やひとり親の方など、該当しない方は、「あなた」の部分だけお答えください。

問30 あなたとあなたの配属者の現在の職種状態を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

あなた	あなたの配属者
1. よい	1. よい
2. まあよい	2. まあよい
3. 普通	3. 普通
4. あまりよくない	4. あまりよくない
5. よくない	5. よくない
	6. わからない

問31-1 あなたとあなたの配属者は、過去1年間で、病欠・障がい等に関する次のような経験がありますか。(あてはまるものすべてに○)

あなた	あなたの配属者
1. 病欠・障がい等が原因で1週間以上欠席していた	1. 病欠・障がい等が原因で1週間以上欠席していた

- 病氣・障がい等が原因で連続して1週間以上仕事を休んでいた
- 病氣・障がい等が原因で仕事をやめた
- 病氣・障がい等が原因で仕事をやめた
- 病氣・障がい等が原因で仕事をやめた
- 病氣・障がい等が原因で仕事をやめた
- 病氣・障がい等が原因で仕事をやめた
- 病氣・障がい等が原因で仕事をやめた

【問31-1で「1」～「3」のいずれかに○をつけた方にうかがいます。】

問31-2 差し支えない範囲で、病名や障がいの種類について教えてください。

あなた		あなたの配偶者	
病名		病名	
障がい		障がい	

問32 あなたとあなたの配偶者は、次のような経験をすることがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

あなた	あなたの配偶者
1. 両親が離婚した	1. 両親が離婚した
2. 成人する前に母親が亡くなった	2. 成人する前に母親が亡くなった
3. 成人する前に父親が亡くなった	3. 成人する前に父親が亡くなった
4. 成人する前の生活は経済的に困っていた	4. 成人する前の生活は経済的に困っていた
5. 経済的な理由で進学・通学をあきらめた	5. 経済的な理由で進学・通学をあきらめた
6. 親から暴力をふるわれたことがある	6. 親から暴力をふるわれたことがある
7. 親と疎遠になっている (いた)	7. 親と疎遠になっている (いた)
8. 親の介護が負担になっている (いた)	8. 親の介護が負担になっている (いた)
9. 配偶者または元配偶者から暴力をふるわれたことがある	9. 配偶者または元配偶者から暴力をふるわれたことがある
10. 配偶者または元配偶者に暴力をふるったことがある	10. 配偶者または元配偶者に暴力をふるったことがある
11. 上記のいずれも経験したことがない	11. 上記のいずれも経験したことがない

問33 あなたとあなたの配偶者は過去1年間に次のようなことを経験しましたか。  
(あてはまるものすべてに○)

あなた	あなたの配偶者
1. 静岡市内での転居	1. 静岡市内での転居
2. 静岡市外から静岡市への転居	2. 静岡市外から静岡市への転居
3. 離婚	3. 離婚
4. 転職 (1回)	4. 転職 (1回)
5. 転職 (2回以上)	5. 転職 (2回以上)
6. 離婚	6. 離婚
7. 配偶者との死別	7. 配偶者との死別
8. いずれも該当しない	8. いずれも該当しない
9. わからない	9. わからない

問34-1 あなたとあなたの配偶者の手替について、現在心おきなく相談できる相手がいるか。

(あてはまるものすべてに○)

あなた	あなたの配偶者
1. 相談できる相手がいる	1. 相談できる相手がいる
2. 相談相手がほしい	2. 相談相手がほしい
3. 必要ない	3. 必要ない
	4. わからない

【問34-1で「1. 相談できる相手がいる」と回答した方にうかがいます。】  
問34-2 その相談相手がほしい方はどのような相手に相談したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

あなた	あなたの配偶者
1. 配偶者	1. 配偶者
2. 親・親族	2. 親・親族
3. 子ども	3. 子ども
4. 友人・知人	4. 友人・知人
5. 隣人・地域のり	5. 隣人・地域のり
6. 子ども園・幼稚園・保育所の先生	6. 子ども園・幼稚園・保育所の先生
7. 学校の先生	7. 学校の先生
8. カウンセラーなどの専門家	8. カウンセラーなどの専門家
9. 民生委員・児童委員	9. 民生委員・児童委員
10. 区役所などの公的機関	10. 区役所などの公的機関
11. 民間団体のボランティア	11. 民間団体のボランティア
12. 公的な電話相談窓口	12. 公的な電話相談窓口
13. その他 ( )	13. その他 ( )
	14. わからない

【ここからは、回答いただくあなたのことについてうかがいます。】

問35 次の①～⑥について、この1か月あなたの気持ちはどうでしたか。

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったくない
① 神経過敏に感じた	1	2	3	4	5
② 絶望的だと感じた	1	2	3	4	5
③ そわそわ、落ち着かなく感じた	1	2	3	4	5
④ 気分が沈みこんで、荷が重くても気が晴れないように感じた	1	2	3	4	5
⑤ 何をしても面倒だと感じた	1	2	3	4	5
⑥ 自分は価値のない人間だと感じた	1	2	3	4	5

問36-1 あなたは今の生活を楽しんでいますか。(仕事や家事、育児など)。

1. とても楽しんでいる
2. まあまあ楽しんでいる
3. あまり楽しんでいる
4. まったく楽しんでいる

問36-2 あなたは将来に対して希望を持っていますか。

1. 持っている
2. 持っていない
3. どちらでもない

問36-3 あなたはストレスを軽減できるものがありますか。

1. ある
2. ない
3. どちらでもない

問36-4 あなたは、自分が幸せだと思いますか。

1. とても幸せだと思う
2. 幸せだと思う
3. あまり幸せだと思わない
4. 幸せだと思わない

問36-5 あなたは、不登やイライラなどの感情をお子さんに向けてしまうことがありますか。

1. よくある
2. たまにある
3. ほとんどない
4. ない

## 6. 静岡市の取組について、うかがいます。

問37 次の①～③の静岡市の取組や事業について、「いま」知っていたり利用したりしていますか。また、「これから」利用したいかどうかについて教えてください。  
(「いま」と「これから」それぞれにあげるもの1つに○)

※ 答え方の例:

→「いま」知っているかどうかに○を1つ、「これから」利用したいかどうかに○を1つつけてください。

	いま		これから	
	利用もしている	知り知っていないが、知っている	利用してみたい	利用するつもりはない
① 生活保護	1	2	3	1
② 児童扶養手当(ひとり親家庭等への手当)	1	2	3	1
③ 特別児童扶養手当(障害のある子どもへの手当)	1	2	3	1
④ 就学援助費	1	2	3	1
⑤ 静岡市の奨学金(無償奨学金、育英奨学金)	1	2	3	1
⑥ 居場所提供事業(児童館、児童館子ども教室など)	1	2	3	1
⑦ 学校以外の場での学習・生活支援	1	2	3	1
⑧ スクールソーシャルワーカーへの相談	1	2	3	1
⑨ 保育ソーシャルワーカーへの相談	1	2	3	1
⑩ スクールカウンセラーへの相談	1	2	3	1
⑪ 児童相談所、各区役所子育て支援課・こども家庭センターなどにおける相談	1	2	3	1
⑫ 母子家庭等就業・自立支援センター	1	2	3	1
⑬ その他( )	1	2	3	1

- ※ 無償奨学金とは、お金のことで学校に通うのがむずかしい静岡市の学生を助けるためのお金です。  
育英奨学金とは、将来、社会で活躍できる人育てるためのお金で、静岡市から借りることができます。  
スクールソーシャルワーカーとは、学校で、いじめや不登校、虐待など、子どもがかかえる問題をいっしょに考えて助けてくれる専門家です。  
保育ソーシャルワーカーとは、市立こども園で保護者の相談対応や園内研修を実施する福祉の専門家です。  
スクールカウンセラーとは、学校で、子どもの心のケア(気持ちのサポート)をしてくれる専門家です。

問38-1 あなたのお子さんは、つぎのような「こどもの居場所」を利用したことがありますか。

	利用したことがある	利用したことがない
1. 自宅や学校以外の場所で、こどもたちが本を読んだり、みんなで遊んだりできるような場所	1	2
2. こどもが無料または低額で食事ができる場所（こども食堂）	1	2
3. 自宅や学校、塾以外の場所で、無料でボランティアの方などが勉強を教える学習支援の場	1	2
4. 家庭環境に困難を抱えるこどもや保護者が家庭的な雰囲気の中で、食事や遊びなどを通じて生活習慣を身に着ける場	1	2

【問38-1で「1. 利用したことがある」と回答した方にかがいます。】

問38-2 お子さんがこどもの居場所を利用することで良いと思うことは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 地域の人とつながれるから
2. お子さんが一人でご飯を食べなくても済むから
3. 栄養バランスが取れた食事がとれるから
4. 運営者が相談に乗ってくれるから
5. 低額（または無料）でご飯が食べられるから
6. 宿題など勉強を見られるから
7. お子さんが楽しんでいるから
8. 特になし
9. その他（ ）

問39 お子さんにとって、現在、または将来的に、どのような支援があるとよいと思うですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 保護者が家にいないときにこどもをあずかってくれる場やサービスの提供
2. 低い家賃で住めるところ（寮や下宿のようなどころ）
3. 生活や就学のための経済的補助
4. 通学や生活などについてなんでも相談できる場所や機会の提供
5. 仲間と出逢え、一緒に活動できる場所や機会の提供
6. 自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供
7. 無料や低額での食事の提供（こども食堂など）
8. こどもが家にいたくないときに利用できる居場所の提供
9. 保護者の心身の調子が悪いときなどに、こどもを預かってくれる居場所の提供
10. 読み書き計算などの基礎的な学習への支援
11. 会社などでの職場体験等の機会
12. 仕事に就けるようにするための就労に関する支援
13. 特になし
14. よくわからない
15. その他（ ）

問40 子育て世帯や子ども・若者のために、今後、静岡市に取組んでほしいと思うことや、白ごろ、子育てに関して悩んでいることなどがありましたら、ご意見をお寄せください。

以上でアンケートは終わります。ご協力ありがとうございます。

※子育てに関する困りごとの相談は、「アンケート調査へのご協力」について書かれている相談先へお気軽にご相談ください。

また、支援マップも参考にしてみてください。

静岡市子ども・若者支援マップ

<https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/2311/kowakamap.pdf>

令和7年度  
静岡市「こどもの生活実態調査」  
調査結果報告書

令和8年3月

静岡市 こども未来局こども未来課

静岡市葵区追手町5番1号  
TEL 054-221-1169 FAX 054-221-5026